

# 鶴光路榎橋遺跡

北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域

埋蔵文化財発掘調査報告書第13集

2002

日 本 道 路 公 団

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



鶴光路榎橋遺跡 正誤表

頁	訂正箇所	誤		正
23	A12号溝 重複	同時期A10-B11、A11-B10号溝	→	新旧不明A10-B11、A11-B10号溝
34	B8号土坑 位置	958～960-352～356 Gr	→	958～960-353～356 Gr
36	B11号土坑 位置	955～956-354～355 Gr	→	955～956-353～355 Gr
41	B60号土坑 位置	985-327～378 Gr	→	985-327～328 Gr
53	第39図 グリッド	976-378	→	976-318
54	第40図 EPE-E'	B40溝	→	B38溝
67	18号柵列 所見	…主軸方向などは重複する…	→	…主軸方向などは平行する…
117	B40a号溝 位置	962～982-275～319 Gr	→	962～982-285～319 Gr
122	B54号溝 位置	944～985-319～344 Gr	→	934～985-319～344 Gr
125	B60号溝 規模	幅3.0～7.0m	→	幅0.3～0.7m
128	A5号土坑 位置	942～943-342～343 Gr	→	941～942-365 Gr
129	A14号土坑 位置	950～951-373～375 Gr	→	949-373～374 Gr
129	A14号土坑 深さ	20cm	→	40cm
129	B19号土坑 位置	968～970-295～296 Gr	→	968～969-295～296 Gr
132	B35号土坑 深さ	25cm	→	50cm
134	B40号土坑 深さ	10cm	→	28cm
134	第116図 B40号土坑	B40a土坑	→	B40a溝
135	B48号土坑 深さ	19cm	→	38cm
136	B52号土坑 深さ	10cm	→	20cm
136	B53号土坑 深さ	32cm	→	56cm
136	B54号土坑 深さ	95cm	→	75cm
136	B86号土坑 深さ	1.09cm	→	109cm
140	第124図 グリッド	950-291	→	954-291
151	第138図 グリッド	983-292	→	983-296
166	第145図 グリッド	940-322	→	940-332



# 鶴光路榎橋遺跡

北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域

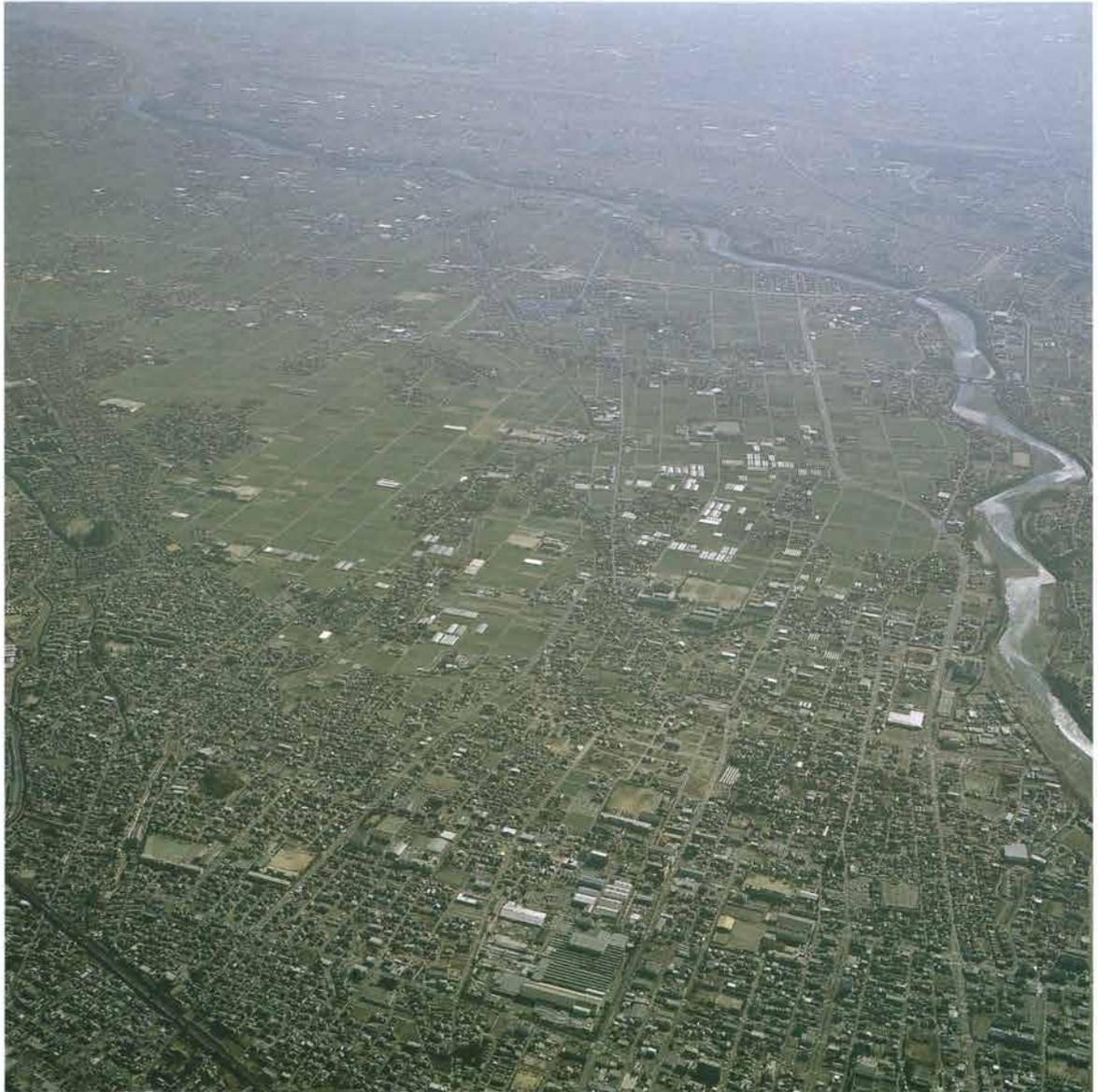
埋蔵文化財発掘調査報告書第13集

2 0 0 2

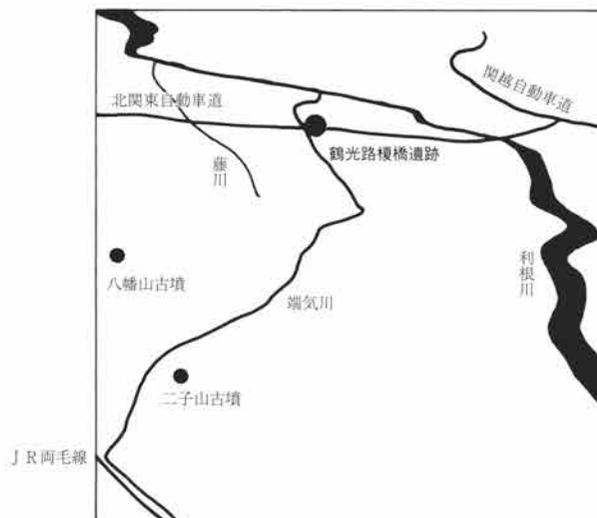
日 本 道 路 公 団

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団





JR前橋駅上空から南方にある鶴光路榎橋遺跡を望む





南からのB区全景 右は端気川



出土した陶磁器類

# 序

北関東自動車道は、本県高崎市において関越自動車道から分岐して、茨城県那珂湊にいたる延長約150kmの高速自動車国道です。その間、群馬・栃木・茨城各県の主要都市及び東北自動車道・常磐自動車道を結び、地域社会の連携と発展に大きな役割を果たすものと期待されています。

この北関東自動車道の高崎～伊勢崎間約15kmの建設に先立って、県内では平成7年6月から36の遺跡で発掘調査が行われました。当事業団ではそのうちの31遺跡の発掘調査を担当いたしました。本書はそのうちの前橋南インターチェンジの東で、利根川の支流、端気川の右岸にあたる鶴光路榎橋遺跡の発掘調査報告書です。

前橋南部から伊勢崎市の西南部、玉村町にかけての一带では、堀で四方を囲われた環濠遺構が多く見つかっています。本遺跡のある前橋市鶴光路町周辺では、現在でも旧家などの地割りにこれらの堀の一部を見ることが出来ます。

本遺跡からはこの環濠遺構が連結している環濠遺構群が確認されました。これは前橋市南部の中世から近世にわたる、屋敷の構成や変遷を検討していく上で貴重な資料となります。さらに東に延びる北関東自動車道地域の遺跡からも環濠遺構が確認されています。これらを含めてこの地域の集落の構成や変遷までも明らかにする一助になると確信しております。そして本書ならびに保管している調査資料が、国民共有の財産として、教育の場や地域史の研究で活用されることを期待いたします。

最後になりますが、日本道路公団東京建設局、同高崎工事事務所、群馬県教育委員会文化財保護課、前橋市教育委員会、地元関係者の皆様には、発掘調査から本報告書刊行まで終始ご協力を賜りました。ここに心から感謝の意を表すとともに、発掘調査に携わった作業員の方々の労をねぎらい序といたします。

平成14年3月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 小野宇三郎



# 例 言

1. 本書は、北関東自動車道建設工事に伴い事前調査された鶴光路榎橋遺跡（遺跡略号KT-080）の発掘調査報告書である。
2. 本遺跡は、群馬県前橋市鶴光路町に所在する。発掘調査区は、鶴光路町292-1・2、292-3・4・5、293、294、295-1・2・3、296-1・2、297-1・2・3、298-1・2・3、300-1、301、302、303-3、304-1・2、305-1、306-1・2、307-1、311-3・4・5、425-1に所在する。
3. 調査面積は8,150m<sup>2</sup>である。
4. 本遺跡の発掘調査は、平成9年度が日本道路公団の委託を受けた群馬県教育委員会が、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に委託して実施されたもので、平成10年度は日本道路公団から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が委託を受け実施されたものである。整理事業は、日本道路公団から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が委託を受け実施したものである。

5. 発掘調査期間、整理期間は次のとおりである。

調査期間 平成9年度 平成9年10月1日～平成9年11月30日

平成10年度 平成10年9月1日～平成11年3月31日

平成11年度 平成11年4月1日～平成11年7月31日

整理期間 平成13年4月1日～平成14年3月31日

6. 発掘調査及び整理事業の体制は次のとおりである。

事務担当 菅野 清、小野宇三郎、原田恒弘、赤山容造、吉田 豊、渡辺 健、住谷 進、神保佑史、水田 稔、能登 健、津金澤吉茂、小淵 淳、坂本敏夫、大島信夫、西田健彦、国定 均、井上 剛、小山建夫、笠原秀樹、須田朋子、吉田有光、柳岡良宏、宮崎忠司、岡島伸昌、森下弘美、片岡徳雄、田中賢一、大澤友治、吉田恵子、並木綾子、今井もと子、内山佳子、佐藤美佐子、本間久美子、星野美智子、本地友美、北原かおり、狩野真子、若田 誠、松下次男、浅見宣記、吉田 茂、蘇原正義

調査担当 飯塚卓二、麻生敏隆、金井 武、新井 仁、蜂須賀里佳、斎藤英敏、長沼孝則、長岡将之、瀧野暁美、西原和久、佐藤理重、小宮山達雄

整理担当 長沼孝則

整理囑託員 浅井良子

整理補助員 小淵トモ子、茂木範子、飯田文字、船津博子、南雲繁子

7. 本書作成の担当は次のとおりである。

編集 長沼孝則

本文執筆 第I章第1節 西田健彦、第3節 麻生敏隆、西原和久

第IV章第1節 檜崎修一郎、第2節 土橋まり子、前記以外 長沼孝則

遺構写真撮影 発掘調査担当者

空中写真撮影 (株)測研、(株)技研測量

地上測量 (株)測研

遺物写真撮影 佐藤元彦

木製品保存処理 関 邦一、小材浩一、土橋まり子、高橋初美

木器実測 横倉知子、藤井文江

遺物機械実測 佐藤美代子、田中富子、富沢スミ江、矢島三枝子

8. 本遺跡の石材の鑑定は飯島静男氏（群馬地質研究会）、人骨、馬歯鑑定は榑崎修一郎氏（当事業団）、樹種同定は土橋まり子氏（当事業団）に依頼した。
9. 陶磁器などについては当事業団の大西雅広氏、石器については岩崎泰一氏、土師器、須恵器などについては新井仁氏に指導を受けた。
10. 発掘調査資料、出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。
11. 発掘調査にあたっては、多くの方々に発掘作業に従事していただいた。心から感謝の意を表す。
12. 発掘調査及び本書の作成にあたっては、次の方々にご教示、ご指導をいただいた。記して深甚なる感謝の意を表す。

前橋市教育委員会、前橋土木事務所、地元関係者各位、当事業団職員

# 凡 例

1. 挿図中に使用した方位は、座標北を表している。座標系は、国家座標第Ⅸ系である。
2. 遺構断面実測図、等高線に記した数値は標高を表し、単位はmを用いた。
3. 遺構名称は整理中に発掘調査時の調査区を廃したため、各遺構名称の前に旧調査区名を付けた。そして遺構種類ごとに通し番号をつけ、番号・遺構種類名で呼称した。なお、水田は調査面を付して呼称した。また本文中（第Ⅲ章）では、各節ごとに調査面の時代順に記載し、遺構・遺物に分けて報告している。
4. 遺物番号は各遺構ごとにその遺構名称に続いて通し番号を付した。番号は遺構図、遺物実測図、遺物観察表、遺物写真図版とも一致している。
5. 遺構・遺物実測図の縮尺率は原則として以下のとおりとしたが、統一できないものも多いため、それぞれの図中に記載した縮尺を参照されたい。

遺構 竪穴住居、掘立柱建物、土坑・ピット（一部を除く）－平面図・断面図 1 : 80

土坑の一部（遺物の多いもの）、土坑墓－平面図・断面図 1 : 40

溝－平面図 1 : 200 断面図 1 : 80

水田－平面図 1 : 200、1 : 400 断面図 1 : 80

遺物 大形土器－1 : 4、1 : 6

小形土器－1 : 3

土製品－1 : 1、1 : 2、1 : 3、1 : 4

石器－1 : 1、1 : 3、1 : 4

金属製品－1 : 2

銭貨－1 : 1 木製品－1 : 4

6. 本書では、テフラの呼称として下記の略語を用いる。

テフラ等の名称	略 語	降下年代
浅間A軽石	As-A	1783（天明3）年
浅間Bテフラ	As-B	1108（天仁元）年
榛名二ツ岳伊香保テフラ	Hr-FP	6世紀中葉
榛名二ツ岳渋川テフラ	Hr-FA	6世紀初頭
浅間C軽石	As-C	4世紀初頭

7. 本書の図版に使用したスクリーントーンは、次のことを示す。ここに示せないものは図中にて示した。

遺物 灰釉陶器釉部分  煤・油煙  石器使用面 

古式土師器甕  古式土師器壺  古式土師器高坏・埴  土師器甕・壺 

土師器坏・高坏  須恵器甕・壺  須恵器坏・碗・蓋 

陶磁器碗・皿・香炉  陶磁器甕・壺・鉢  土師質土器  軟質陶器 

石製品・金属製品・土製品  遺構の時期より古い遺物 

8. 遺構の主軸方位・走向は、カマドを持つ住居の場合、カマドのある辺に直角の方向を主軸とし、それ以外の遺構は、長軸方向で北から東西90°以内を主軸とした。表記は北を基準とし、主軸が東に傾いた場合、N-○°-Eとした。遺構の面積は、竪穴住居は「面積」に上端を計測した値を記載し、「床面積」にカ

マドを除いた下端を計測した値を記載した。他の遺構は上端を計測した。計測はプランニメーターで3回行い、その平均値を採用した。水田の計測は畦畔の下端でおこなった。

9. 遺構・遺物の計測値で、全体を計測できないものについては、現存の値を記載し〈 〉で表した。推定で全体がわかるものについては( )で表した。
10. 土器実測図中、残存量が1/2以下のものについては180°回転して図上復元した。この場合、実測線を中心線から離している。また土器断面図割れ口は、実線のものゝ輪積痕を、点線がそれ以外の欠損を表す。
11. 遺物観察表の記載方法は以下のとおりである。
  - ・計測値の( )は推定値を、〈 〉は現存値を示す。
  - ・土器の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖 1999年版』に基づいている。
  - ・胎土表記中の細砂・粗砂・礫は、径2mm以上を礫、2~0.2mmを粗砂、0.2mm以下を細砂とした。
12. 本書で掲載した地図は、下記のものを使用した。
  - 国土地理院 地形図 1:25,000「高崎」「前橋」「大胡」「伊勢崎」
  - 国土地理院 地勢図 1:200,000「長野」「宇都宮」
  - 前橋市現形図 1:2,500
13. 掘立柱建物のピットで推定復元したものの深さは、その掘立柱建物を構成している他のピットの平均値を用いた。
14. 本文中で書かれている「出土遺物数」は、器種ごとの破片総数を記載した。
15. 遺構の重複において、そこで報告する遺構と比べて、同じ時期の遺構は「同時期」、古いものは「古い」、新しいものは「新しい」、新旧不明なものは「新旧不明」と記した。また、明らかに時代が異なる遺構(別節で取り上げるもの)についての重複は記さない。

# 目次

口絵	
序	
例言	
凡例	
目次	
挿図目次	
写真図版目次	

第Ⅰ章 発掘調査の実施と経過	1
第1節 発掘調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査の方法	1
(1) 遺跡名の選定	1
(2) 調査区の設定	1
(3) グリッド設定	3
(4) 遺構の調査	3
(5) 遺構測量	4
(6) 遺構写真撮影	4
(7) 遺物の整理	4
第3節 調査の経過	5
(1) 発掘調査の経過	5
(2) 整理作業の経過	5
第4節 基本土層	6
第Ⅱ章 遺跡の環境	7
第1節 遺跡の地理的環境	7
(1) 前橋台地	7
(2) 端気川	9
(3) 水田の広がり	9
第2節 遺跡の歴史的環境	10
(1) 旧石器時代～弥生時代	10
(2) 古墳時代	10
(3) 奈良・平安時代	11
(4) 中世	11
(5) 近世以降	11
第Ⅲ章 遺構と遺物	17
第1節 平安時代以前	17
(1) 遺構・遺物の概要	17
(2) 竪穴住居跡	18
(3) 溝	21
(4) 土坑	34
(5) 井戸跡	41
(6) 水田跡	42

第2節 中近世	49
(1) 遺構・遺物の概要	49
(2) 掘立柱建物跡・柵列跡	49
(3) 溝	72
(4) 土坑	128
(5) 井戸跡	140
(6) 土坑墓	145
(7) ピット群	147
第3節 近世以降	163
(1) 遺構・遺物の概要	163
(2) 溝	163
(3) 畠状遺構	168
第4節 遺構外遺物出土状況	171
第5節 遺構番号の置き換え	182
第Ⅳ章 調査の成果と課題	187
第1節 鶴光路榎橋遺跡出土人骨	187
はじめに	187
(1) B1号土坑墓出土人骨	187
(2) B40a号溝出土人骨	190
まとめ	191
第2節 鶴光路榎橋遺跡出土獣骨	192
はじめに	192
(1) 獣骨の出土状況及び時代	192
(2) 獣骨の残存状態	192
(3) 個体数	193
(4) 性別	193
(5) 死亡年齢	193
(6) 馬歯・牛歯の病変	194
(7) 馬・牛の体高	194
(8) 馬・牛の殉殺	194
まとめ	194
第3節 出土木製品の樹種について	198
第4節 鶴光路榎橋遺跡の土地利用	199
(1) 平安時代以前の土地利用	199
(2) 中近世の地形的要因	199
(3) 環濠屋敷	199
(4) 絵図に見る鶴光路榎橋遺跡	200
まとめ	200

写真図版

発掘調査報告書抄録

# 挿 図 目 次

第1図	鶴光路榎橋遺跡位置図(1:200,000) .....	2	第60図	A7、A8、A13、A14、A15、A16号溝(1) .....	75
第2図	鶴光路榎橋遺跡調査範囲図(1:2,500) .....	3	第61図	A7、A8、A13、A14、A15、A16号溝(2) .....	76
第3図	鶴光路榎橋遺跡グリッド設定図(1:1,000) .....	4	第62図	B3号溝および出土遺物 .....	77
第4図	周辺遺跡の基本土層作成位置図、模式図 .....	6	第63図	B4、B12、B13、B14、B15、B16号溝 および出土遺物 .....	79
第5図	鶴光路榎橋遺跡周辺地形分類図(1:50,000) .....	8	第64図	B5号溝および出土遺物 .....	80
第6図	鶴光路榎橋遺跡周辺遺跡図(1:30,000) .....	13	第65図	B6号溝および出土遺物 .....	81
第7図	A1号住居跡および出土遺物(1) .....	18	第66図	B17号溝 .....	82
第8図	A1号住居跡出土遺物(2) .....	19	第67図	B17号溝出土遺物(1) .....	83
第9図	B1号住居跡および出土遺物 .....	20	第68図	B17号溝出土遺物(2) .....	84
第10図	B1、B2号溝 .....	21	第69図	B20号溝 .....	87
第11図	B7、B8、B9号溝および出土遺物 .....	22	第70図	B21号溝 .....	88
第12図	A10-B11、A11-B10、A12号溝 .....	24	第71図	B21号溝出土遺物(1) .....	89
第13図	A10-B11号溝出土遺物 .....	25	第72図	B21号溝出土遺物(2) .....	90
第14図	A11-B10号溝出土遺物 .....	26	第73図	B21号溝出土遺物(3) .....	91
第15図	B41号溝出土遺物(1) .....	28	第74図	B21号溝出土遺物(4) .....	92
第16図	B41号溝 .....	29	第75図	B22号溝 .....	95
第17図	B41号溝出土遺物(2) .....	30	第76図	B22号溝出土遺物 .....	96
第18図	B41号溝出土遺物(3) .....	31	第77図	B23号溝 .....	97
第19図	B41号溝出土遺物(4) .....	32	第78図	B24号溝 .....	97
第20図	B2、B6号土坑および出土遺物 .....	34	第79図	B25、B33、B40b号溝 .....	98
第21図	B8号土坑および出土遺物 .....	35	第80図	B25、B33号溝出土遺物 .....	99
第22図	B9号土坑および出土遺物 .....	36	第81図	B26、B29、B30、B31、B68号溝 .....	101
第23図	B11号土坑および出土遺物(1) .....	37	第82図	B26、B29、B31号溝出土遺物(1) .....	102
第24図	B11号土坑出土遺物(2) .....	38	第83図	B29、B31号溝出土遺物(2) .....	103
第25図	B13号土坑 .....	39	第84図	B27-B45-B72号溝出土遺物(1) .....	104
第26図	B16、B18、B22号土坑 .....	40	第85図	B27-B45-B72号溝 .....	105
第27図	B55、B60号土坑 .....	41	第86図	B27-B45-B72号溝出土遺物(2) .....	106
第28図	B1号井戸 .....	41	第87図	B28号溝 .....	108
第29図	B1号井戸出土遺物 .....	42	第88図	B32号溝 .....	108
第30図	As-B下水田 全体図 .....	43	第89図	B35号溝出土遺物 .....	109
第31図	As-B下水田(1) .....	44	第90図	B35号溝 .....	110
第32図	As-B下水田(2) .....	45	第91図	B36号溝 .....	111
第33図	As-B下水田 断面図 .....	46	第92図	B37号溝および出土遺物 .....	112
第34図	平安時代以前 全体図 .....	47	第93図	B38号溝 .....	113
第35図	1号掘立柱建物出土遺物 .....	49	第94図	B39、B42-B50、B43、B48、B51号溝 .....	115
第36図	1号掘立柱建物 .....	50	第95図	B39、B42-B50、B43、B48号溝出土遺物 .....	116
第37図	11号掘立柱建物 .....	51	第96図	B40a、B47、B49号溝 .....	118
第38図	12号掘立柱建物 .....	52	第97図	B40a、B49号溝出土遺物 .....	119
第39図	13号掘立柱建物 .....	53	第98図	B44号溝 .....	120
第40図	14号掘立柱建物 .....	54	第99図	B53号溝および出土遺物 .....	121
第41図	14号掘立柱建物出土遺物 .....	55	第100図	B54号溝出土遺物(1) .....	122
第42図	15号掘立柱建物および出土遺物 .....	56	第101図	B54号溝 .....	123
第43図	16号掘立柱建物 .....	57	第102図	B54号溝出土遺物(2) .....	124
第44図	17号掘立柱建物および出土遺物 .....	58	第103図	B55号溝 .....	125
第45図	18号掘立柱建物 .....	59	第104図	B60号溝 .....	125
第46図	1号柵列 .....	60	第105図	B61号溝 .....	126
第47図	2号柵列 .....	61	第106図	B62、B63号溝および出土遺物 .....	127
第48図	3号柵列 .....	61	第107図	B73号溝 .....	128
第49図	4、17号柵列 .....	62	第108図	A5、A12号土坑 .....	128
第50図	11号柵列 .....	63	第109図	A13、A14、B12号土坑 .....	129
第51図	12号柵列 .....	63	第110図	B19号土坑および出土遺物 .....	130
第52図	12号柵列出土遺物 .....	64	第111図	B20号土坑および出土遺物(1) .....	130
第53図	13号柵列 .....	64	第112図	B20号土坑出土遺物(2) .....	131
第54図	14号柵列および出土遺物 .....	65	第113図	B24号土坑 .....	131
第55図	15号柵列 .....	66	第114図	B29、B33、B35号土坑 .....	132
第56図	16号柵列 .....	67	第115図	B36、B37、B39号土坑および出土遺物 .....	133
第57図	18号柵列 .....	67	第116図	B40、B41、B42号土坑 .....	134
第58図	19号柵列 .....	68	第117図	B46、B48、B50、B51号土坑 .....	135
第59図	A2、A3、A4、A5号溝および出土遺物 .....	73			

第118図	B52、B53、B54号土坑	136
第119図	B76、B85、B86号土坑	137
第120図	B86号土坑出土遺物	138
第121図	B87号土坑	138
第122図	B87号土坑出土遺物	139
第123図	B88号土坑	139
第124図	B90号土坑	140
第125図	A1号井戸および出土遺物	140
第126図	A2、B2号井戸	141
第127図	B2号井戸出土遺物	142
第128図	B3号井戸	142
第129図	B3号井戸出土遺物	143
第130図	B4号井戸	143
第131図	B5、B6号井戸および出土遺物	144
第132図	B7、B11号井戸	145
第133図	B1号土坑墓および出土遺物	146
第134図	ビット群 全体図	147
第135図	1号ビット群	148
第136図	2号ビット群	149
第137図	3号ビット群	150
第138図	4号ビット群	151
第139図	5号ビット群および出土遺物	152
第140図	6号ビット群	153
第141図	7号ビット群および出土遺物	154
第142図	8号ビット群	155
第143図	中近世 全体図	161
第144図	A6号溝および出土遺物	164
第145図	B56、B57、B58、B64、B69号、 B70、B71号溝	166
第146図	B57号溝出土遺物	167
第147図	B67号溝	167
第148図	畠状遺構	168
第149図	近世以降 全体図	169
第150図	遺構外出土遺物 分布図	171
第151図	グリッド出土遺物(1)	172
第152図	グリッド出土遺物(2)	173
第153図	遺構外遺物(1)	174
第154図	遺構外遺物(2)	175
第155図	遺構外遺物(3)	176
第156図	遺構外遺物(4)	177

# 写真図版目次

- 図版1 遺跡 遠景(東上空から)  
調査区 遠景(南上空から)
- 図版2 A13号溝周辺 調査風景(北から)  
B54号溝周辺 調査風景(南から)
- 図版3 A1号住居 全景(北から)  
B1号住居 全景(東から)
- 図版4 A1号住居 カマド掘り方(北から)  
B1号住居 遺物出土状況(南から)  
1号掘立柱建物 全景(西から)  
14号掘立柱建物8号ピット 木片出土状況(北から)  
2号柵列 全景(北東から)
- 図版5 A1号溝 全景(西から)  
A2、A3、A4、A5号溝 全景(南から)  
A4号溝耕具痕 全景(南から)  
A6号溝 全景(西から)  
A9号溝 全景(西から)  
A7号溝 全景(西から)
- 図版6 A8号溝南半部 全景(北から)  
A13号溝 全景(南から)  
A10-B11、A11-B10、A12号溝 全景(西上空から)
- 図版7 A10-B11号溝東半部 全景(西から)  
A10-B11号溝 遺物出土状況(東から)  
A11-B10号溝 遺物出土状況(北から)  
A13、A14、A15、A16号溝 全景(南から)
- 図版8 A14、A16号溝 全景(南から)  
A15号溝 全景(南から)  
B2号溝 全景(北から)  
B3号溝 遺物出土状況(西から)
- 図版9 B4、B12、B13、B14、B15、B16号溝 全景(東から)  
B5号溝 全景(北から)  
B6号溝 全景(北西から)  
B7号溝 遺物出土状況(南から)
- 図版10 B8号溝 全景(南から)  
B9号溝 全景(南から)  
B12号溝 全景(南から)  
B17号溝 全景(南から)
- 図版11 B20号溝 全景(西から)  
B21号溝 全景(北から)  
B21号溝 遺物出土状況(南から)  
B24号溝 全景(北から)  
B22号溝 全景(西から)  
B25号溝 全景(西から)
- 図版12 B26号溝 全景(東から)  
B29、B30号溝 全景(西から)  
B28号溝 全景(北から)  
B27-B45-B72号溝 全景(西から)  
B27-B45-B72号溝 全景(東から)
- 図版13 B31号溝 全景(西から)  
B32号溝 全景(南から)  
B35号溝 全景(北から)  
B37号溝 全景(南から)  
B36号溝 全景(北から)
- 図版14 B38号溝 全景(東から)  
B40a号溝 全景(西から)  
B39号溝 全景(西から)  
B41号溝 全景(東から)  
B40b号溝 全景(西から)  
B42-B50、B51号溝 全景(西から)
- 図版15 B43号溝 全景(北から)  
B44号溝 全景(南から)  
B48号溝 全景(北から)  
B49号溝 全景(西から)  
B53号溝 全景(北から)
- 図版16 B54号溝 全景(南から)  
B54号溝 橋脚ピット(南から)  
B56号溝 全景(東から)  
B57号溝 全景(東から)  
B57号溝 石組(南から)
- 図版17 B58号溝 全景(東から)  
B61号溝 全景(南から)  
B60号溝 全景(南から)  
B62号溝 全景(西から)  
B63号溝 全景(西から)
- 図版18 B64号溝 全景(北から)  
B68号溝 全景(南から)  
B70号溝 全景(北から)  
B69号溝 全景(東から)  
B73号溝 全景(北から)
- 図版19 A5号土坑 全景(南から)  
A12号土坑 全景(南から)  
A13号土坑 木片出土状況(南から)  
A14号土坑 全景(南から)  
B2号土坑 全景(南から)  
B6号土坑 全景(南から)  
B8号土坑 遺物出土状況(南西から)  
B9号土坑 全景(南から)
- 図版20 B11号土坑 遺物出土状況(南西から)  
B12号土坑 全景(東から)  
B13号土坑 セクション(東から)  
B16号土坑 全景(北西から)  
B18号土坑 全景(西から)  
B19号土坑 全景(南から)  
B20号土坑 礫出土状況(北から)  
B22号土坑 礫出土状況(北から)
- 図版21 B24号土坑 全景(南から)  
B29号土坑 全景(北から)  
B35号土坑 全景(南から)  
B37号土坑 全景(南から)  
B39号土坑 全景(北から)  
B41号土坑 全景(北から)  
B42号土坑 全景(西から)
- 図版22 B46号土坑 全景(東から)  
B48号土坑 全景(南から)  
B50号土坑 全景(西から)  
B51号土坑 全景(東から)  
B52号土坑 全景(南から)  
B53号土坑 全景(南から)  
B54号土坑 セクション(南から)  
B55号土坑 全景(南から)
- 図版23 B60号土坑 全景(北から)  
B76号土坑 全景(南から)  
B85号土坑 全景(東から)  
B86号土坑 遺物出土状況(北から)  
B87号土坑 全景(西から)  
B88号土坑 全景(西から)  
A2号井戸 全景(南から)

- 図版24 A 1号井戸 全景(南から)  
B 1号井戸 全景(西から)  
B 2号井戸 全景(西から)  
B 3号井戸 セクション(北から)  
B 4号井戸 全景(北から)
- 図版25 B 5号井戸 全景(南から)  
B 6号井戸 全景(南から)  
B 7号井戸 全景(東から)  
B 6号井戸 馬歯出土状況(南から)  
B 11号井戸 全景(南から)  
B 1号土坑墓 全景(東から)  
畠状遺構(西から)  
B 1号土坑墓 遺物出土状況(東から)
- 図版26 畠状遺構(東から)  
As-B下水田 全景(西上空から)
- 図版27 A 1、B 1号住居、B 7、B 9、A 10-B 11号溝  
出土遺物
- 図版28 A 10-B 11、A 11-B 10、B 41号溝出土遺物
- 図版29 B 41号溝出土遺物
- 図版30 B 41号溝、B 6、B 8、B 9、B 11号土坑出土遺物
- 図版31 B 11号土坑、B 1号井戸、1、14、15、17号  
掘立柱建物、12、14号柵列出土遺物
- 図版32 A 2、B 3、B 4、B 5、B 6、B 17号溝出土遺物
- 図版33 B 17、B 21号溝出土遺物
- 図版34 B 21号溝出土遺物
- 図版35 B 22、B 25、B 26、B 27-B 45-B 72号溝出土遺物
- 図版36 B 29、B 31、B 33、B 35、B 37、B 39、B 40 a号溝  
出土遺物
- 図版37 B 40 a、B 42-B 50、B 43、B 48、B 49、B 53、B 54、  
B 63号溝、B 19、B 20、B 39号土坑出土遺物
- 図版38 B 86、B 87号土坑、A 1、B 2、B 3、B 6号井戸、  
B 1号土坑墓、551、714号ピット出土遺物
- 図版39 A 6、B 57号溝、グリッド出土遺物
- 図版40 遺構外出土遺物(1)
- 図版41 遺構外出土遺物(2)



# 第I章 発掘調査の実施と経過

## 第1節 発掘調査に至る経緯

鶴光路榎遺跡は北関東自動車道前橋南インターチェンジの東にあり、地区境で遺跡名称を区別してはいるものの、本遺跡の西にある西田遺跡とは連続する遺跡である。

本遺跡の発掘調査範囲の大部分は住宅地で、用地買収及び家屋の撤去に時間を要する区域であった。また、遺跡の西端を通る都市計画道路と、遺跡の東を南流する端気川に、高速道路本線がかかる区域で施行される二つの橋梁工事は工程上からも早期に着手する必要に迫られていた。

発掘調査は平成9年度から開始することとなり、日本道路公団高崎工事事務所の上記条件と、当事業団の調査体制との調整協議を行った結果、以下の順位で発掘調査を実施することにした。

- ① 用地買収が比較的広範囲に完了している西側部分は、都市計画道路を跨ぐ橋梁工事区でもあ

る。そのため、年度当初から開始しているインターチェンジ区域の西田遺跡発掘調査班の一部を適時充当して発掘調査を実施する。

- ② その外の区域の発掘調査は平成10年度に実施するが、特に端気川橋梁の工事が急がれるので、東端部の橋梁工事施行に必要な部分から発掘調査を完了させ、順次引き渡しを行う。

ところが、平成10年度発掘調査予定地で用地買収が難航した区画があったために、発掘調査平成11年度までの3カ年度にわたることになった。

なお、発掘調査区の中央部にあった宅地内には高さ2mほどの土塁が残っていたが、家屋の解体・土塁上の樹木伐採工事の際に削平されてしまった。後述のように、ここでは中近世の館跡が検出されており、それらと土塁の関連を検証できなかったことは極めて残念であった。

## 第2節 発掘調査の方法

### (1) 遺跡名の選定

北関東自動車道地域の遺跡名は、

- ・ 周知の遺跡については、従来の呼称を使用する。
- ・ 新規の遺跡については、小字名を基本とし大字名を冠する。

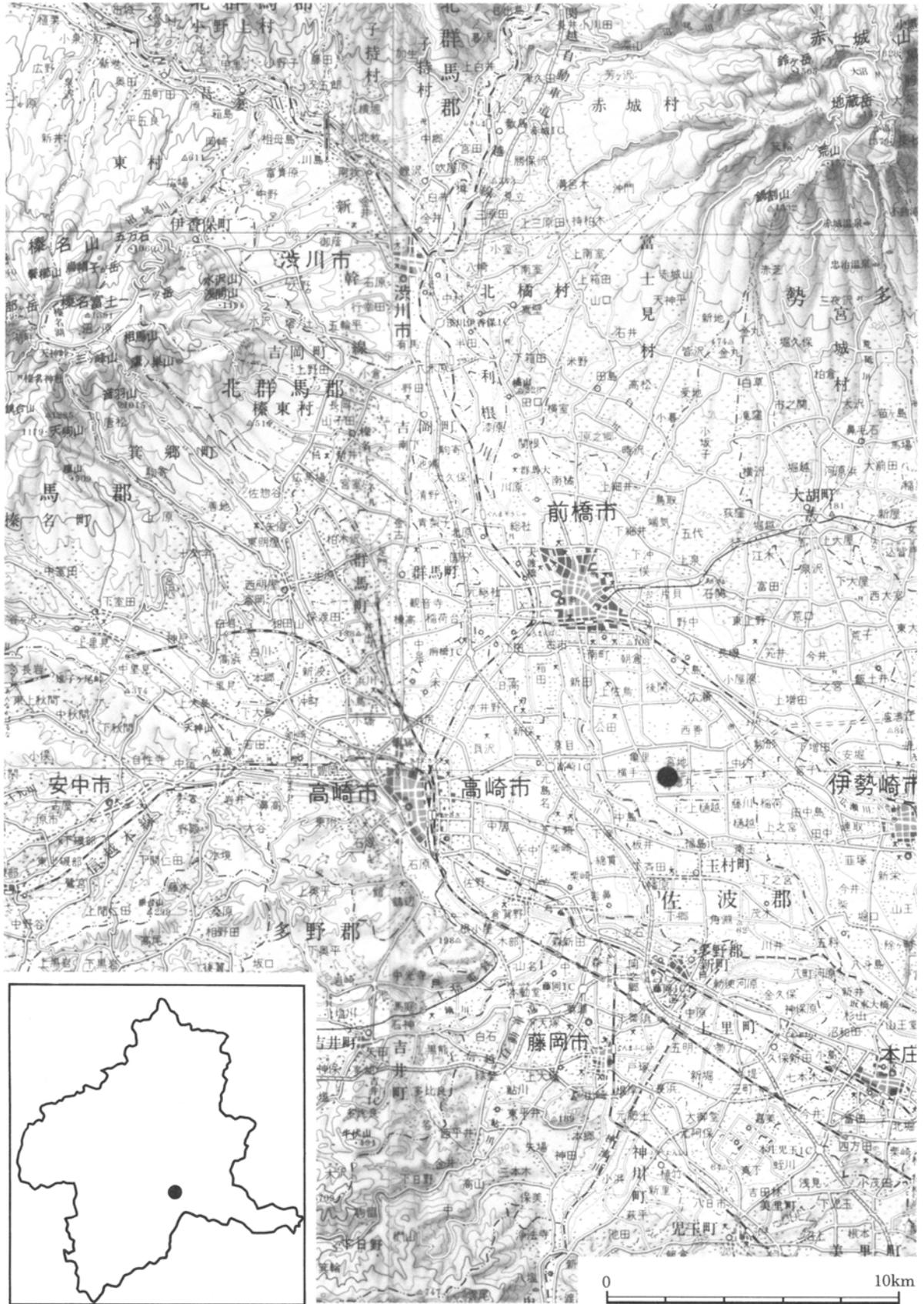
の原則に基づいてつけられるため、本遺跡「鶴光路榎橋遺跡」もこれに則っている。

また、北関東自動車道地域の(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査遺跡については、KT-〇〇〇の略号を使用している。〇〇〇は3桁の数字で、左2桁は当初から調査の予定されていた遺跡についており、

右1桁目は計画後に追加された遺跡につけている。番号は起点である高崎側からつけており、本遺跡はKT-080である。

### (2) 調査区の設定

本遺跡では、現市道を境界として西から東に向かってABの2つの区を設定した。A区は未買地等の関係から北及び南西部と南東部に分けて調査し、B区も未買地等の関係から2区に分けて調査した。なお、AB区を分けた市道下はB区として調査した。



第 1 図 鶴光路榎橋遺跡位置図 ( 1 : 200,000 )



第2図 鶴光路榎橋遺跡調査範囲図(1:2,500)

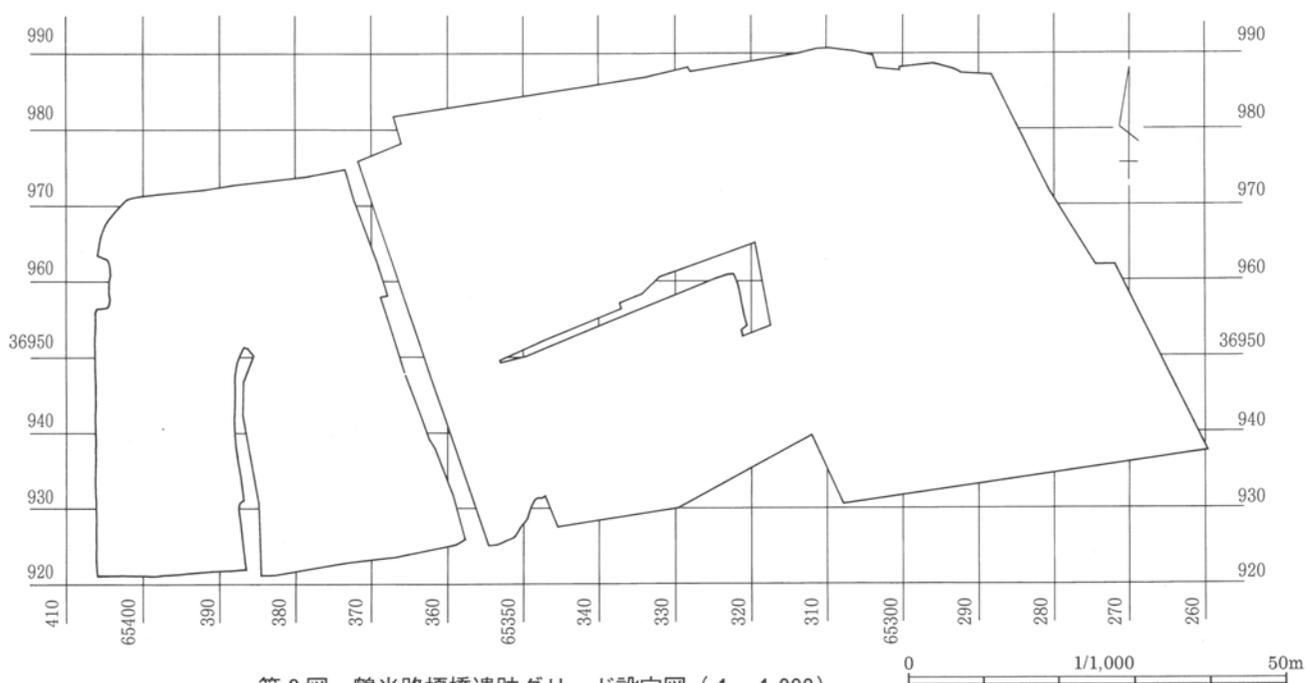
### (3) グリッド設定

日本測地系による、日本平面直角座標(国家座標)を基準とした。そのために日本道路公団の基準点2 T-7 (X=37169.643 Y=64631.475 H=76.853)を用い、発掘調査区域近くに任意基準杭を設置しグリッドを設定した。X軸Y軸ともに国家座標の下3桁の値を用い、X軸-Y軸の順に併記し、その南東隅のポイント名をグリッド名とした(例 950-350)。最小単位は1mだが、方眼杭や遺物取り上げ

などは5mグリッド(下1桁0、5)を用いた。

### (4) 遺構の調査

表土は重機で除去した。はじめに遺構確認作業を行い、確認後遺構を掘り下げた。遺構名称は各調査区ごとに種別ごとに通し番号を付けた。ただし、その後適当でないと判断したものは欠番とした。また、調査後遺構名称を変更したものについては、一桁大きい番号をつけた。また、整理段階ではA B区を分



第 3 図 鶴光路榎橋遺跡グリッド設定図 ( 1 : 1,000 )

けた市道下も調査したため、2区に分ける必要がなくなった。そのためAB区という名称を廃し、一つの区画に統合した。このことにより各遺構名称は発掘調査時に付けられた番号に旧調査区名称を付けた(例 B区1号溝→B1号溝)。また、発掘調査時には異なる遺構として調査されたが、整理段階で同一遺構と判断されたものがある。これらは「-」で各遺構名をつなぎ、一つの遺構として扱った(例 A区10号溝、B区11号溝→A10-B11号溝)。また重複した遺構はアルファベットの小文字を番号の後に付けて区別した(例 B40a号溝)。遺物の取り上げについては遺構単位、グリッド単位を基本とした。

### (5) 遺構測量

測量は、空中写真測量と地上測量を併用し、1/20・1/40・1/100・1/200縮尺図を作成した。遺構実測図には、遺跡名・遺跡略号・実測図名・縮尺・実測者名・レベル高・ベンチマーク高・作成年月日を記入し、1枚ごとに通し番号を付し、台帳を作成した。

### (6) 遺構写真撮影

写真撮影には、中型カメラと小型カメラのモノクロとリバーサルフィルムを使用した。撮影対象に応じて高所作業車を使用したり、気球による写真撮影を行った。撮影データはカードに記入し、撮影対象を撮影する前に撮影した。現像処理した写真のうち、モノクロはベタ焼きにした。このベタ焼きによりネガ検索台帳を作成した。台帳には調査区遺構ごとにベタ焼きを貼り込み、撮影対象・撮影方向・撮影日・フィルム番号を記入した。リバーサルフィルムはコマごとにマウントをつけ、そこに撮影対象・撮影方向・撮影日を記入し、コマごとに通し番号を付し、台帳を作成した。

### (7) 遺物の整理

遺物は洗浄後、遺跡略号(KT-080)、調査区、調査面、遺構名・グリッド名等、遺物No.を記入した。整理作業では、時期・器種・器形分類を行い、数量を把握した。

## 第3節 調査の経過

### (1) 発掘調査の経過

本遺跡は平成9年度から11年度にかけて断続的に調査が行われた。

平成9年度は、隣接する北関東自動車道西田遺跡から調査班1班が赴き、調査を担当した。この年度は調査可能なのが全調査区の一部のみだったため、そこをA区として、調査を開始した。10月2日より重機と土木作業員を導入し、1面目の遺構確認が出来たAs-B軽石下まで掘り下げた。その後、As-B下の水田を中心とした調査を行い、10月13日に空中写真測量を行った。続いて2面目の遺構が確認されたAs-C軽石混じりの土の上面まで掘削機械による掘削を行い、調査を実施した。10月29日に2面目の空中写真撮影を行い、より下層の遺構を試掘トレンチを掘削して確認したが、遺構が存在しなかったため、11月19日をもって発掘調査を終えた。

平成10年度は、徳丸高堰遺跡の発掘調査を終了した1班を移動させて発掘調査を実施した。前年度調査したA区とは市道を挟んで東側部分であるB区の植木などの上物を先に撤去した後、9月15日から重機による湧水対策のための排水溝設置と表土の掘削を併行して開始した。遺構確認作業の結果、一部に平安時代の竪穴住居1軒が検出されたものの、後世の造成などにより平安時代の遺構面のほとんどが壊されており、深く掘り込まれた溝と土坑が主な調査対象となった。

また、調査区内の東西方向の市道下からは大溝(B20号溝)が検出され、南北の市道下も溝(B17号溝)が存在することが確認された。これらは高崎市東部から前橋市南部にかけて多数確認されている家屋や集落を囲む堀と同様のものと考えられ、近世の環濠遺構群の存在が想定された。

平成10年度後半には北関東自動車道の発掘調査を担当する各班には大きな動きがあった。本遺跡の調査班も、10月下旬には工事工程の関係で徳丸高堰遺

跡の発掘調査を併行して実施することとなった。さらに、11月末には作業員のみを伊勢崎地区の岡屋敷遺跡に移動し、その代わりに上滝榎町北遺跡の作業員によって本遺跡の調査を継続することになった。11月いっぱいB区の調査を終了させるために、中旬からは隣接する村中遺跡の担当と作業員の応援を得て、溝の調査を積極的に進めてB区内の調査可能な部分の調査を終了した。12月からは昨年発掘調査出来なかったA区南東部の住宅移転部分の発掘調査を開始した。ここも後世の造成で平安時代の遺構面は壊されており、古代から近世にかけての溝とピットが検出され、環濠集落の広がりが確認された。1月からはA B区間の市道を通行止めとし、その下の溝(B17号溝)の残り部分の調査を開始し、1月中旬に発掘を終了した。

平成11年度は、A B区間の市道下の残りと用地買収が遅れたB区の残り約800㎡を調査した。5月8日より重機と作業員を導入し、一部As-A軽石が入る畠状遺構を残し、As-C軽石混じりの層の上面まで掘り下げ1面とした。6月24日にはこの遺構面の空中写真撮影を行った。さらに下層にトレンチを入れ、調査をしたが遺構は存在しなかったため7月15日に調査を終了した。

### (2) 整理作業の経過

整理作業は平成13年4月から開始され、平成14年3月まで行った。遺物の接合・復元、写真撮影、実測を行い、その後、遺構図面修正、遺物・遺構トレース、図版作成の順に行った。溝が中心となったため、比較的時代がさかのぼる遺物から近現代のものまでが一つの遺構から出土する例が多かった。そのため遺構同士の新旧関係は検討しづらかったが、出来る限り確認した。

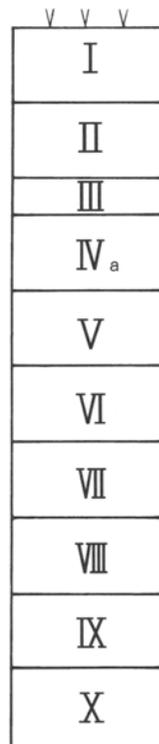
## 第4節 基本土層

本遺跡の基本土層の参考にするため、周辺の遺跡において作成されたものを援用した。周辺遺跡の基本土層図は、平成7年度に前橋市調査の西田遺跡と、平成9年度に群馬県埋蔵文化財調査事業団調査の西田遺跡のものがある。事業団西田遺跡では数箇所

基本土層図が作成されたため、本遺跡に最も近い第2地点のものを用いた。本遺跡の基本土層もこれらの遺跡の土層に準じるが、調査区東よりでは端気川に影響を受けた土層も混じっていた。

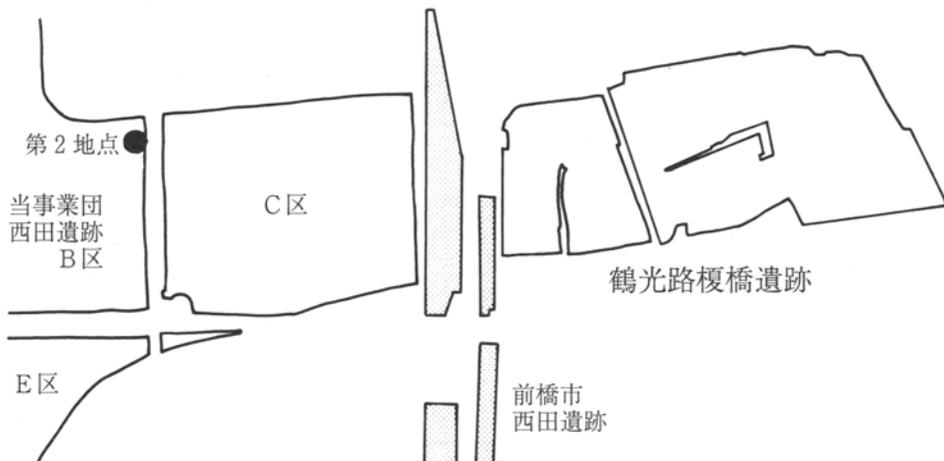
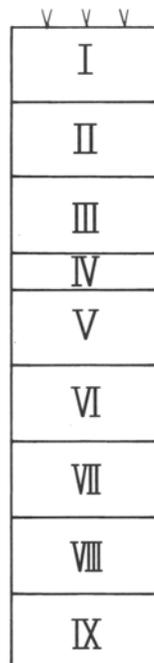
群馬県埋蔵文化財調査事業団  
西田遺跡第2地点（平成9年度調査）

- I 表土 現耕作土
- II As-B混土 As-Bを多量に含む中世の耕作土
- III As-B一次堆積層 残存状況によりユニットがとらえられる地点もある
- IVa 黒褐色土 As-B下水田耕作土 Hr-FA・As-Cを含む
- V 黒色土 As-Cを含む水田耕作土
- VI 黒色土 As-C下の黒色土
- VII 灰黄褐色土 白色軽石を少量含むシルト層
- VIII にぶい黄褐色土 シルト層 粘性強い
- IX 灰褐色土 砂質土 As-YPを多量に含む
- X 灰白色土 シルト層 粘性非常に強い



前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
西田遺跡（平成7年度調査）

- I 客土
- II 客土
- III 橙褐色砂質土層。As-B50%含む。
- IV 黄褐色火山灰層。As-B軽石純層。
- V 暗褐色粘質土層。平安時代の水田耕作土層。下部にAs-C軽石30%含む。
- VI 黒褐色粘質土層。As-C軽石30%含む。
- VII 灰褐色砂質土層。部分的にオレンジ色の鉄分凝縮混入。
- VIII 黒褐色砂質土層。
- IX 白灰色軽石層。



第4図 周辺遺跡の基本土層作成位置図、模式図

## 第Ⅱ章 遺跡の環境

### 第1節 遺跡の地理的環境

鶴光路榎橋遺跡は群馬県の南部、前橋市鶴光路町にあり、関東平野の北西部、利根川流域に広がる沖積平野に位置する。また北に赤城山、北西に榛名山、西に妙義山・浅間山と、三方に上毛三山を望む。

近年まで遺跡周辺は広範囲に水田地帯が広がっていて、その中の微高地に集落が形成されていた。最近は団地が出来、住宅化が進み、また大型店舗や工業団地が相次いで建設されてきた。今後北関東自動車道が開通したことにより、新たな発展が期待される地域である。

#### (1) 前橋台地

群馬県の南部では、赤城山と榛名山の山すその間から利根川が関東平野に流れ出ている。この一帯には傾斜の緩い台地が広がっていて、「前橋台地」と呼ばれている。利根川はこの台地のほぼ中央部をぬって南流している。

この前橋台地の北から東に目を向けると、前橋台地と赤城山の南斜面との間には、「広瀬川低地帯」と呼ばれる幅約3km長さ約30kmの細長い沖積低地が広がっている。この広瀬川低地帯は利根川の旧流路と考えられている。

一方この台地の北西部では、利根川の右岸に「相馬ヶ原扇状地」と呼ばれる扇状地地形が広がっている。本遺跡はこの前橋台地南東部に位置している。

前橋台地には「前橋泥流」と呼ばれる地層が堆積している。この泥流層は、全体として黄褐色を呈し、硬くしまっている。灰色・黒色の角礫の火山岩や火山灰などを多く含むため、火山泥流の堆積物と考えられている。これは浅間山の山体崩壊が原因であると推定されている。前橋泥流は前橋・高崎・伊勢崎を中心とする県内一帯に広がる扇状地上に、10から

15mもの厚みで堆積している。この前橋泥流堆積物層が形成された年代は、洪積世後期の約20,000年前と考えられている。

前橋台地上では、利根川をはじめ幾つかの中小河川が南北に流れ、それらが各所に小規模な氾濫原を形成している。利根川は前橋台地に流れ出たすぐは、榛名山の南東裾野の末端を浸食する形で南流し、前橋市大手町付近から玉村町五料付近の約14kmの間では、前橋台地中央部を貫いて流れている。

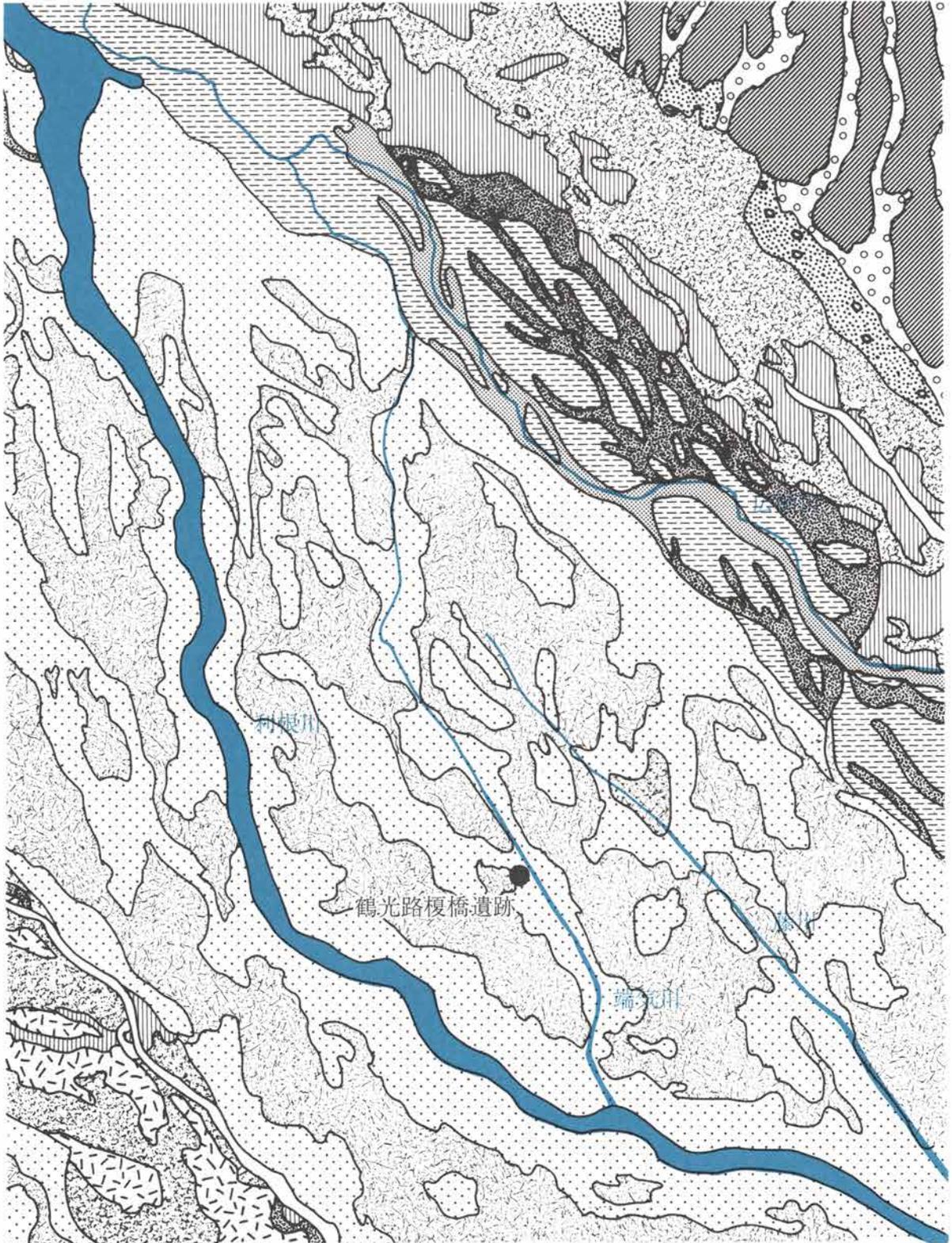
この利根川は確認されているだけでも過去3回流路を変えている。前橋泥流堆積層が堆積した後の約24,000年前の利根川は、前橋市総社町辺りから新前橋を通り、滝川、染谷川付近を流れ井野川に注いでいたと考えられる。

その後、約17,000年前に榛名山で発生した泥流によりその流れは埋め立てられた。そのため前橋台地と赤城山の南斜面の間に広がる広瀬川低地帯に、旧利根川はその流路を変更している。前橋台地の北東部を南北に流れる桃ノ木川や市街地を流れる広瀬川は、この当時の旧利根川本流の流れが一部残った河川である。そのため、旧利根川の流れた広瀬川低地帯と前橋台地の境を流れる馬場川と広瀬川を結ぶラインには、高さ約3mの河崖が形成されていることが現在でも容易に確認できる。

そしてまた、天文年間(16世紀)の洪水によって利根川は現在の川筋に移ったと想定されているが、人為的に流路が変えられた可能性もまた考えられている。

#### (2) 端気川

本遺跡のすぐ東側には、利根川の支流の一つである端気川が、前橋台地の中央部を北から南に向けて



- |  |  |   |
|--|--|---|
|  火砕流堆積面 (大胡火砕流) |  河成段丘 (後背湿地: 完新世)     |  前橋・伊勢崎台地上の後背湿地 |
|  谷底平野           |  広瀬川低地帯の旧中州 (As-B降灰後) |  井野川泥流堆積面       |
|  扇状地 (後期更新世後半)  |  広瀬川低地帯 (As-B降灰後)     |  利根川旧河道         |
|  河成段丘 (旧中州・完新世) |  前橋・伊勢崎台地上の微高地        |   |

第5図 鶴光路榎橋遺跡周辺地形分類図 (1:50,000)

流れている。

端気川を遡ると、前橋市城東町の十六本堰で広瀬川から分水されていることがわかる。その広瀬川を遡ると県中央部の勢多郡北橋村で利根川から取水されていることが分かる。一方、端気川を下ると、本遺跡から1kmほど下流で、利根川にその流れは合流するのである。

江戸時代の文献によると、正保2年(1645)から広瀬川では前橋城下に設けられた河岸場に向かう舟運が行われていた。その経路は2通りあったようである。一つは広瀬川を下り、伊勢崎城下を通して新田郡平塚村(現境町大字平塚)の平塚河岸で利根川に合流するもの。もう一つは広瀬川から端気川に入り、那波郡上福島村(現玉村町大字上福島)で合流する利根川を利用するものである。元禄12年(1699)に大暴風雨によって、端気川下流に落差2.1mある「樋の滝」が出来るまで端気川を通る舟運は続いたが、その後中断していた。それを復活させようと嘉永5年(1852)に前橋河岸問屋、三川民平が水運再開の通船願を道中奉行に提出している。また、『上川淵村誌』『下川淵村誌』には古老の話として、端気川を往来する船を見た記憶があると記載されている。このことを考えあわせると、幕末には端気川を通る舟運は再開されていたようである。

### (3) 水田の広がり

前橋台地上では古墳時代から徐々に水田開発が行われてきたが、奈良時代以降の条里制地割りの時期には耕地の大規模な再開発計画が行われた。豊富な水資源を手に入れるために、まだ広瀬川低地帯を流れていた旧利根川と端気川とを灌漑用水で結ぶことによって、台地上の水田地帯に豊富な水を提供したのである。このことは、前橋台地における農地開拓と端気川とが古代より密接に関わっていたことを示している。また、前橋台地には端気川の他にも藤川など、幾つかの水田開発に欠かせなかった水路が認められる。

前橋台地における条里制地割りは、現在の道路や区画からも読み取ることができる。条里制地割りは端気川の台地への流入地点を起点にしてほぼ碁盤目状に配置されており、現在の道路と当時の条里制地割りは、一致している箇所が多く認められる。このことから前橋台地における条里制の地割りは、部分的ではあるものの現在までその地割りに影響を与えていると言える。

このように本遺跡は、前橋台地のほぼ中央に位置し、条里制地割りが施行されてからは、端気川が運んでくる豊富な水資源を利用して、安定した人間生活を営むことができる一大穀倉地帯の中で、特に農業用水としてばかりではなく、近世には交通手段としても重要な働きを担った端気川の右岸に立地している。

## 第2節 遺跡の歴史的環境

本遺跡の立地する前橋台地南部地域は、北関東自動車道や県道前橋長湍線建設に伴う発掘調査により、徐々に前橋台地の歴史が明らかになっている。周辺遺跡一覧表を見るとわかるとおり、前橋台地周辺は、旧石器時代から弥生時代にかけては遺跡が非常に少なく、「居住」ということにおいてはあまり活発ではなかったと想定できる。これは前橋台地の地形的・地質的特色が、当時は生活を営むのに適していなかったことが原因と考えられる。しかし、古墳時代以降は水田経営も本格化し、居住活動も活発になってきている。以下、時代を追って周辺遺跡の状況を概観していく。

### (1) 旧石器時代～弥生時代

本遺跡周辺では、旧石器時代から弥生時代までの遺跡は少ない。

現利根川と旧利根川に挟まれた前橋台地では旧石器時代の遺跡は今のところ発見されていない。

縄文時代も遺跡は非常に少なく、遺構が確認されている遺跡はごくわずかである。ただ、藤川沿いの徳丸仲田遺跡では草創期の微隆起線文土器片が約150点及、舌尖頭器等の石器類もまとめて出土している。また、前橋玉村線西田Ⅲ遺跡、玉村町の砂町遺跡からも有舌尖頭器が1点ずつ出土している。このように草創期から居住活動が行われていた痕跡はあるものの、早期以降も遺跡数は少なく、縄文時代を通して前橋台地上では人々の活動は少なかったといえる。

弥生時代も前橋台地上に遺跡は少ない。現利根川沿いの櫛島川端遺跡で中期の再埋葬と後期の竪穴住居跡5軒、玉村町の一万田遺跡で後期の再埋葬が確認されている程度である。このことから依然として居住活動は活発に行われていないと考えられる。

### (2) 古墳時代

古墳時代に入ると、遺跡数は、飛躍的に増大する。広瀬川右岸の自然堤防上に位置する広瀬・朝倉古墳群には、古墳時代の前期から後期にわたる大小約150基の古墳が存在している。前期では、古墳時代初頭期としては東国最大の前方後方墳である前橋八幡山古墳や、東日本最古の前方後円墳である前橋天神山古墳などがある。これらは地域の盟主の墓と考えられている。居住活動も活発になり、集落が台地上の各地で営まれるようになる。また方形周溝墓も多くの遺跡で確認されている。水田耕作も広い範囲で行われるようになり、4世紀初頭に降下したと考えられるAs-C軽石に埋没した水田や、As-C軽石を耕作土に含む水田が数箇所確認されている。後世の耕作等により削られてしまっている水田がかなりあると想定されるため、さらに耕作範囲は広がった可能性が高い。徳丸仲田遺跡では、As-C混土を耕土とする水田跡と4世紀後半の灌漑に用いられたと考えられる大溝が確認され、これと同様な大溝は、下流の砂町遺跡でも発見されている。

後期では、6世紀初頭に降下したと考えられるHr-FAで埋没した水田跡や、6世紀中葉以降に降下したと考えられるHr-FPで埋没した水田跡が各地で確認されており、水田経営が行われた地域が大幅に拡大していることが分かる。集落を移動してそこに水田を作っている場所もあるため、かなり大規模な開発を行っていることがうかがわれる。集落を見ると、前期から引き続き営まれている遺跡もあるが、水田開発により集落を移動しているためか、後期に新しく集落が開始される遺跡が多くなっている。逆に前期に集落があったが後期にはなくなっている遺跡もあり、特に前橋台地南東部で多くなっている。古墳は、6世紀前半の帆立貝式古墳である亀塚山古墳、6世紀後半の前方後円墳で金銅製冠の出土した金冠塚古墳などがある。

### (3) 奈良・平安時代

奈良・平安時代には、古墳時代後期に集落遺跡の少なかった台地南東部にも集落が営まれるようになるが、逆に台地北西側では集落数は減少する。このことは水田耕作地が大きく移動している可能性を示している。

福島曲戸遺跡の集落跡からは多量の緑釉陶器、福島飯塚遺跡の幅10mにもなる大溝からは200点に及ぶ墨書土器が出土している。砂町遺跡では7世紀後半に造られた、官道の一つ「東山道」と想定される道状遺構、一万田遺跡では平安時代の那波郡の「郡衙」かこれに準じる豪族の館と思われる、掘立柱建物跡・柵列等の遺構も確認されている。

8世紀以降に律令制が導入されると、前橋市元総社町付近に国府が造営され、国分僧寺・国分尼寺が建立された。その頃前橋台地上には条里制地割りが施行され、台地の大規模開発により水田が広がる豊饒の地域へと変貌した。こうした条里制地割りの施行は、国府を中心とした地域では、中央政府での条里制施行に伴って、それほど時間差はなく施行されたと考えられているが、その他の地域の条里制地割りはいつ施行されたか不明な点が多い。

承平8年(938)には、平将門による承平・天慶の乱が起こった。天慶2年(939)には、将門は常陸の国府を襲い、下野国から上野国に入り、上野の国府も占領したと「将門記」に伝えられている。その後、天仁元年(1108)の浅間山の噴火や利根川の変流等によって起こった洪水などによる周辺地域の疲弊によって、上野の国府はさらに荒廃し、国分僧寺・尼寺の衰退、律令体制の解体へと大きく社会変質を進めたものと思われる。

本遺跡周辺では、前述の天仁元年(1108)の浅間山の噴火で降下したAs-B軽石で埋没した水田跡が周辺遺跡一覧表にあるとおり、本遺跡を含めた低地部分のほとんどの遺跡で確認されている。

また、As-B軽石下の水田跡は、条里制地割りを踏襲したと考えられるものが多く確認されている。

しかし1町四方の地割は現在でも比較的きれいに残っているのに対し、条里制の長地型や半折型などの小規模な区画を残している水田や区画は少ない。

### (4) 中世

中世では、県教育委員会が実施した城郭分布調査によって、前橋南部地域に環濠遺構群の存在が多数確認されている。これによると本遺跡周辺に点在する微高地のほとんどに中世城館が存在したと想定される。本遺跡の東側にも、「房丸」「力丸」「徳丸」と言った城館を想起させる地名が今も残っている。

室町時代の城館跡である力丸城、宿阿内古城や室町・戦国時代の宿阿内城・新堀城などが周辺にあった。力丸城是那波氏一族の居城で、那波郡という現在の伊勢崎市宮柴から前橋市上川淵・下川淵に及ぶ広大な地域を支配していたと考えられる。宿阿内城はこの那波氏の属城と考えられている。また、前橋の地名の由来と考えられる、厩橋城(前橋城)が長野氏によって延徳元年(1489)に築造されたことが「前橋風土記」に記録されている。

この頃の遺構としては、堀を巡らした環濠遺構、掘立柱建物跡、井戸等が、本遺跡をはじめ、多くの遺跡で確認されている。

また生産遺構としては、利根川の変流に伴う洪水層で埋没した、As-B軽石の混ざった土を耕土とする水田跡が、現利根川周辺の遺跡で確認されている。この時代の水田地割りも、基本的には条里制地割りを踏襲していると考えられるものが多い。

### (5) 近世以降

本遺跡の立地する地域は、江戸時代～明治22年までは前橋藩領の群馬郡(明治11年からは、東群馬郡)新堀村・下阿内村に属していた。下阿内村は、寛文8年(1668)新堀村から分村して成立している。

「元禄郷帳」によれば、元禄2年(1689)に検地が行われ、下阿内村は、村高449石余、新堀村は、

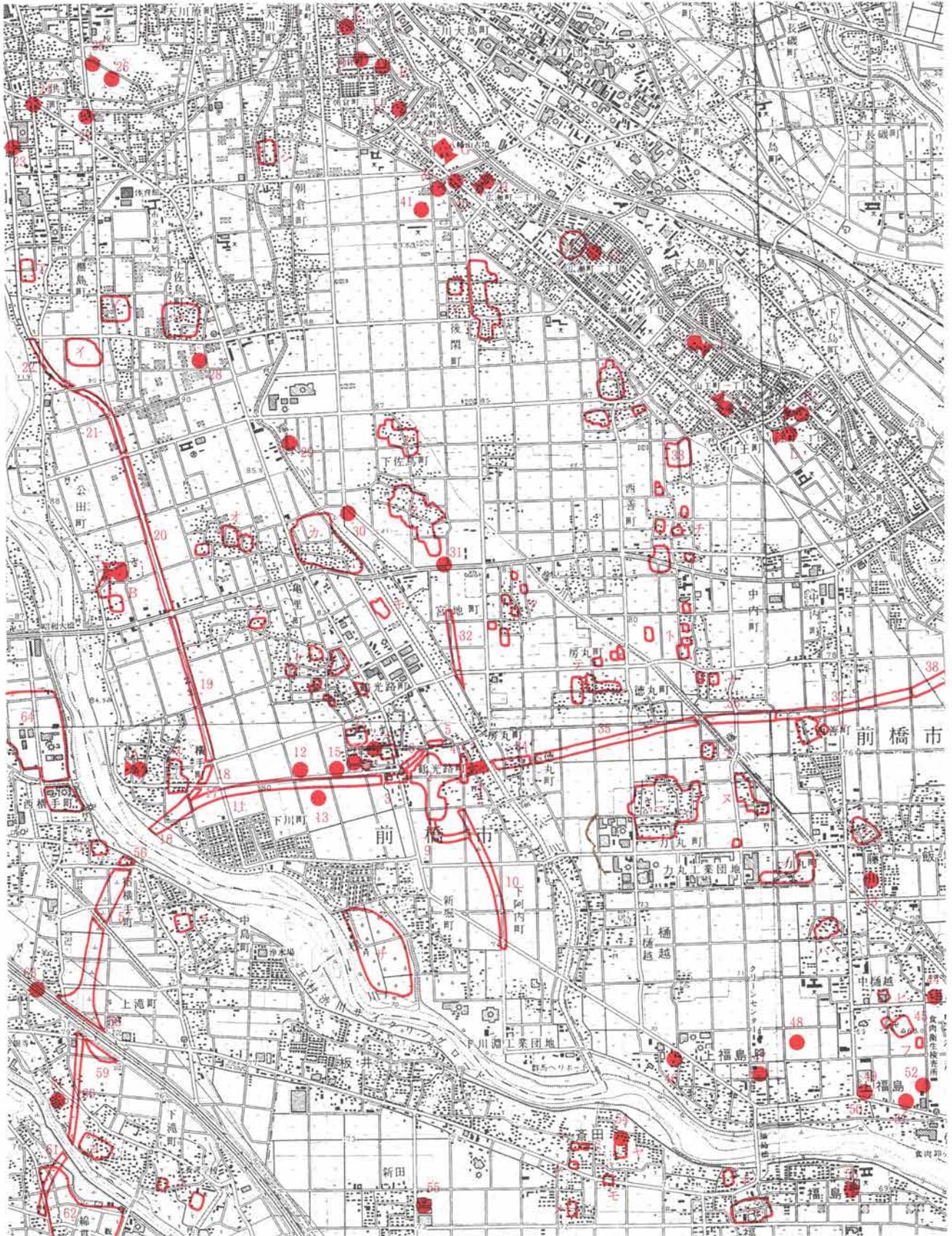
## 第Ⅱ章 遺跡の環境

555石余と伝えられている。

近世の遺構では本遺跡をはじめ、横手湯田遺跡、村中遺跡で、埋土・出土遺物から近世のものと考えられる環濠遺構が確認されている。また亀里平塚遺跡や西田遺跡（当事業団調査）では土坑墓が確認されている。特に、西田遺跡では狭い墓域の中から約70基の土坑墓が確認され、人骨・棺材・銭貨等の副葬品が出土した。生産遺構としては、利根川周辺の遺跡で天明3年（1783）の浅間山噴火によるAs-A軽石、洪水層で埋設した畠、As-A軽石の復旧溝・復旧土坑（灰掻き穴）等が確認されている。また、玉村町では、柄田添遺跡で畠・水田跡が確認されている。

明治22年から昭和29年まではこの地域は群馬郡下川淵村に属していた。昭和29年には、戦後最大の町村合併が実施され、前橋市に合併され現在に至っている。

前橋台地南部は古墳時代以降、一大穀倉地帯であった。しかし、市街地の拡大とともに宅地、工業団地、商業地域化の波が押し寄せつつある。昭和40年代の圃場整備と県道前橋長瀨線・県道大胡藤岡線、北関東自動車道などの幹線道路の建設なども加わって、さらに大きく土地利用の利便性が高められてきている地域である。



第6図 鶴光路榎橋遺跡周辺遺跡図 (1 : 30,000)

第Ⅱ章 遺跡の環境

周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	集落・墳墓等(集落・溝等○ 墳墓●)					水田・畠等(水田○ 畠・復旧溝等●)					備考			
			縄文	弥生	古墳前	古墳中後	奈良平安	中世	近世	As-C	As-C混	Hr-FA		Hr-FP	As-B	中世
1	鶴光路榎橋遺跡	前橋市鶴光路町					○	○					○			本遺跡
2	西田遺跡	前橋市鶴光路町			○	○	○	○	●		○	○				
3	村中遺跡	前橋市鶴光路町						○	○●		○			○		
4	西田遺跡	前橋市鶴光路町											○			
5	西田Ⅱ遺跡	前橋市鶴光路町											○			
6	西田Ⅲ遺跡	前橋市鶴光路町											○			
7	西田Ⅳ遺跡	前橋市鶴光路町											○			
8	村中遺跡	前橋市鶴光路町			※											
9	下阿内壱町畑遺跡	前橋市下阿内町他			○	○	●	○					○			
10	下阿内前田遺跡	前橋市下阿内町							●		○	○	○		●	
11	横手湯田遺跡	前橋市横手町他			○●			○	○		○	○	○	○	○	●
12	横手湯田Ⅱ遺跡	前橋市亀里町											○			
13	横手湯田Ⅲ遺跡	前橋市亀里町							○				○			
14	横手湯田Ⅳ遺跡	前橋市鶴光路町											○			
15	鶴光路練引遺跡	前橋市鶴光路町											○			
16	横手南川端遺跡	前橋市横手町									○		○	○	○	●
17	横手早稲田遺跡	前橋市横手町			○●			○			○	○	○	○	○	●
18	横手宮田遺跡	前橋市横手町									○	○	○	○	○	●
19	亀里平塚遺跡	前橋市亀里町他							●		○	○	○	○		
20	公田池尻遺跡	前橋市公田町			○	○		○			○	○	○			
21	公田東遺跡	前橋市公田町			●	○	○	○			○		○			
22	標島川端遺跡	前橋市標島町他	●○	○●	○	○		○		○●	○	○	○	○		
23	中大門遺跡	前橋市六供町											○			
24	六供中京安寺遺跡	前橋市六供町			○●	●	○									
25	六供下堂木Ⅴ遺跡	前橋市六供町					○						○			
26	六供下堂木Ⅱ遺跡	前橋市六供町			○		○				○		○			
27	六供下堂木Ⅲ遺跡	前橋市六供町					○						○			
28	上佐鳥中原前遺跡	前橋市上佐鳥町											○			
29	下佐鳥遺跡	前橋市下佐鳥町				○										
30	川曲遺跡	前橋市下佐鳥町				○										
31	東田遺跡	前橋市下佐鳥町			○											
32	宮地中田遺跡	前橋市宮地町											○			
33	西善鍛冶屋遺跡	前橋市西善町					○	○								
34	徳丸高堰遺跡	前橋市徳丸町						○					○			
35	徳丸仲田遺跡	前橋市徳丸町	○		○		○	○			○	○	○			
36	西善尺司遺跡	前橋市西善町			●		○	○●			○		○			
37	中内村前遺跡	前橋市中内町			○●		○	○			○	○	○			
38	前田遺跡	前橋市東善町					○	○					○			
39	後閑団地遺跡	前橋市後閑町			○	●	○									
40	坊山遺跡	前橋市広瀬町				○										
41	後閑Ⅱ遺跡	前橋市後閑町				○	○									
42	大屋敷遺跡	前橋市広瀬町														
43	藤川前遺跡	玉村町藤川											○			
44	原浦遺跡	玉村町樋越			○		○									
45	原浦Ⅱ遺跡	玉村町樋越			●		○									
46	柄田添遺跡	玉村町上福島					○						○		●○	
47	金免遺跡	玉村町上福島											○			
48	砂町遺跡	玉村町上福島	○		○		※						○			
49	尾柄町遺跡	玉村町上福島											○			
50	尾柄町Ⅱ遺跡	玉村町上福島														
51	一万田遺跡	玉村町上福島		●			○									
52	神人村Ⅱ遺跡	玉村町樋越					○						○			
53	福島曲戸遺跡	玉村町福島			○		○	○			○		○	○	○●	
54	田口下屋敷遺跡	玉村町斎田					○	○								
55	中道西遺跡	玉村町下新田											○			
56	西横手遺跡群	高崎市宿横手町					○	○				○	○	○		
57	宿横手三波川遺跡	高崎市宿横手町						○			○	○	○		●	
58	上滝榎町北遺跡	高崎市上滝町						○		○		○	○		○	
59	上滝五反畑遺跡	高崎市上滝町						○			○	○	○		○	

第2節 遺跡の歴史的環境

60	下滝天水遺跡	高崎市下滝町			○●	○	○	○	○		○	○						
61	綿貫小林前遺跡	高崎市綿貫町			○	○	○	○●	○									
62	綿貫遺跡	高崎市綿貫町			○●	○	○	○										
63	上滝遺跡	高崎市上滝町			○	○	○	○										
64	西横手遺跡群	高崎市宿横手町			○							○		○				

※遺物のみで遺構は検出されていない。

	古墳名	所在地	形態			時期			備考(別称)	
			前方後方	前方後円	円方	前期	中期	後期		
A	浅間神社古墳	前橋市横手町		●					●	
B	下川淵3号古墳	前橋市公田町		●					●	
C	朝倉Ⅱ号墳	前橋市朝倉町			●		●			
D	長山古墳	前橋市朝倉町		●					●	
E	朝倉Ⅰ号墳	前橋市朝倉町			●				●	
F	朝倉Ⅲ号墳	前橋市朝倉町					●			
G	八幡山古墳	前橋市朝倉町	●				●			
H	前橋天神山古墳	前橋市広瀬町		●			●			
I	亀塚山古墳	前橋市山王町		●					●	
J	金冠塚古墳	前橋市山王町		●					●	(二子山古墳)
K	上陽12号古墳	前橋市山王町		●					●	
L	オーボ山古墳	前橋市山王町		●					●	(文珠山古墳)
M	御伊勢山古墳	高崎市下滝町		●					●	

	城館名	所在地	時期 (C=世紀)	築・在城者	遺構				備考(別称)
					堀	土居	戸口	他	
ア	上橋鳥屋敷	前橋市橋島町	16C	牛込氏	○				
イ	福島屋敷	前橋市上佐鳥町		福島氏	○	○	○		
ウ	中沢屋敷	前橋市上佐鳥町			○	○	○		
エ	三公田環濠遺構群	前橋市公田町			○				
オ	亀里環濠遺構群	前橋市亀里町			○				4ヶ所の環濠遺構
カ	宿阿内城	前橋市亀里町	16C	三輪右丹	○	○	○	槽台、根小屋	(亀里阿内城)
キ	阿内古城	前橋市亀里町		上杉顕定					
ク	前田屋敷	前橋市亀里町			○				
ケ	鶴光路亀里環濠遺構群	前橋市鶴光路町他			○				14ヶ所の環濠遺構
コ	横手環濠遺構群	前橋市横手町							
サ	新堀城	前橋市新堀町	16C	和田正盛					(郷土城)
シ	朝倉環濠遺構群	前橋市朝倉町							
ス	後閑環濠集落	前橋市後閑町			○				
セ	後閑大屋敷	前橋市広瀬町			○				
ソ	山王環濠集落	前橋市山王町			○				
タ	下佐鳥環濠集落	前橋市下佐鳥町			○				
チ	西善環濠遺構群	前橋市西善町			○	○			
ツ	東宮地環濠遺構群	前橋市宮地町			○				
テ	房丸東環濠遺構群	前橋市房丸町							
ト	旧西善環濠遺構群	前橋市西善町	16C	須田氏	○				(須田屋敷)
ナ	横堀環濠遺構群	前橋市西善町			○	○			
ニ	力丸城	前橋市力丸町	15.16C	力丸氏	○	○	○	根小屋	
ヌ	東力丸環濠遺構群	前橋市力丸町			○				
ネ	藤川環濠集落	玉村町藤川			○				
ノ	徳丸東環濠遺構群	前橋市徳丸町							
ハ	中樋越屋敷	玉村町樋越			○				
ヒ	阿左美環濠遺構群	玉村町樋越							
フ	阿左美館	玉村町樋越	13-16C	藤生那波氏	○		○		
ヘ	上福島の砦	玉村町福島		福島元連	○			社	
ホ	宇津木館	玉村町福島		宇津木氏					
マ	温井西屋敷	玉村町斎田		温井氏	○				
ミ	温井東屋敷	玉村町斎田		温井氏	○				
ム	町田屋敷	玉村町斎田		町田氏	○				
メ	石原屋敷	玉村町斎田		石原氏	○				
モ	田村屋敷	玉村町斎田		(田村甚兵衛)(田村甚右衛門)	○				

## 第Ⅱ章 遺跡の環境

ヤ	田口下屋敷	玉村町齋田	16C	田口俊政	○				
ユ	下滝屋敷	高崎市下滝町			(○)				
ヨ	下滝館	高崎市下滝町	文明6年	足利成氏、大井田氏	○	○	○	井、別郭	
ラ	田口屋敷	高崎市中島町		田口業祐	○	○			
リ	新居屋敷	高崎市西横手町		新井喜左衛門					

### 出典文献及び参考文献

文化庁 1977 『全国遺跡地図 群馬県』

群馬県 1990,1991 『群馬県史』通史編1, 2

群馬県立歴史博物館 1992 『上州利根川の水運』

群馬県文化財保護協会 1974 『群馬県遺跡台帳』Ⅰ(東毛編)

前橋市 1978 『前橋市史』第一、四巻

『若宮古墳、上滝遺跡、新保遺跡(蛭沢遺跡)、鳥羽遺跡』[1980]、『川曲遺跡、東公田古墳』[1982]、『須摩野遺跡(鶉が島台・黒浜期土坑)、下佐鳥遺跡(鬼高期住居跡)、宿阿内城跡(城跡)』[1983]、『群馬県の中世城館跡』[1988]、『歴史の遺調査報告書 利根川の水運』[1998](以上、群馬県教育委員会)

『下植木宕町田遺跡』『宿横手三波川遺跡』『上滝五反畑遺跡』[1999]、『徳丸仲田遺跡』(1)『下阿内宕町畑遺跡 下阿内前田遺跡』『亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川端遺跡』[2001]、『年報』(9~19)[1991~2000](以上、群馬県埋蔵文化財調査事業団)『群馬県前橋市 西善鍛冶屋遺跡』[1995](以上、西善団地遺跡調査会)

『中大門遺跡』[1984](以上、前橋市教育委員会)

『後閑団地遺跡』『後閑Ⅱ遺跡』[1983]、『西田遺跡』[1996]、『六供下堂本Ⅱ遺跡』『宮地中田遺跡』[1997]、『横手湯田Ⅱ遺跡 西田Ⅱ遺跡』『西田Ⅳ遺跡』『横手湯田Ⅲ遺跡』『徳丸仲田Ⅱ遺跡 西善尺司Ⅱ遺跡 下増田越渡Ⅲ遺跡』『上佐鳥中原前遺跡』『六供中京安寺遺跡・六供下堂本Ⅲ遺跡』[1998]、『西日Ⅲ遺跡』『徳丸高堰Ⅱ遺跡 徳丸仲田Ⅲ遺跡 西善尺司Ⅲ遺跡 下増田常木Ⅱ遺跡 下増田越渡Ⅳ遺跡』『六供下堂本Ⅴ遺跡』[1999]、『横手湯田Ⅵ遺跡』『鶴光路榎橋Ⅱ遺跡・徳丸高堰Ⅲ遺跡』[2000]、『村中Ⅱ遺跡・西田Ⅴ遺跡』[2001](以上、前橋市埋蔵文化財発掘調査団)

『金免遺跡』[1989]、『玉村町の遺跡』[1992]、『原浦Ⅱ遺跡』[1996](以上、玉村町教育委員会)

『尾柄町遺跡』『尾柄町Ⅱ遺跡』『神人村Ⅱ遺跡』[1992]、『藤川前遺跡』[1993]、『中道西遺跡』[1996]、『原浦遺跡』[1998]、『田口下屋敷遺跡』[2000](以上、玉村町教育委員会、玉村町遺跡調査会)

『綿貫遺跡』[1985]、『西横手遺跡群』(Ⅰ)(Ⅱ)[1990,1991](以上、高崎市教育委員会)

飯森康広 1999『中世後期館跡とその周辺構造』『信濃』第51巻 第10号

井野修二 2001『前橋市前田遺跡の中世屋敷内遺構の検討』『群馬歴史民俗』第22号

岩佐徹道 1978『前橋の川と橋』

山崎 一 1978『群馬県古城址の研究』上巻

## 第Ⅲ章 遺構と遺物

本遺跡の調査は、A区は2面、B区はほぼ1面の遺構確認の面で調査を行った。多くの溝が縦横に走り、ピット、土坑も多数確認されたが、それらの遺構が機能していた時代を確認できる物的証拠はあまり多いとは言えない。そこで整理作業の中では、それらの遺構を、土層や出土遺物の観察を通して、おおよそ3つの時代に分ける作業を行った。

第1節では「平安時代以前」として紹介する。ここでは9世紀の住居や溝、そしてAs-B軽石下から確認された水田を取り上げている。第2節は「中近

世」とした。本遺跡のほとんどの遺構はここに含まれている。本遺跡では多くの遺構が年代特定が困難であったため、やや時間幅が広がっている。第3節は「近世以降」とした。ここではAs-A軽石を含むなど明らかに中世までは遡らない遺構についてまとめている。さらに第4節では遺構外で出土した遺物をまとめて掲載した。

### 第1節 平安時代以前

#### (1) 遺構・遺物の概要

鶴光路榎橋遺跡では縄文時代以降の遺物が、それ以降の時代の遺構の混入物として数点確認されている。しかし、これらの遺物の時代に該当する遺構は確認されていない。本遺跡内で確認される最も時代を遡ると考えられる遺構は、平安時代（9世紀）の遺物を多く出土している遺構群である。これらの遺構群は大きく分けて遺跡内で2ヶ所に集中している。一つは調査区の中央部、もう一つは調査区の北東部である。

中央部の遺構群は、A10-B11号溝、A11-B10号溝という2条の溝に囲まれた区画である。この2条の溝は西側を南北、南西でほぼ直角に曲がり、南側を東西に走っている。これは、条里制の、東西南北に碁盤目状に区画された方向と同一である。時代が下るが、本遺跡を含め、周辺の遺跡では、As-B軽石下から条里制を踏襲した区画を持つ水田が確認されている。この区画は高さがあるためか、水田は確認されなかった。この2条の溝に重複してそれぞれ、不整隅丸細長方形の土坑2基が確認された。この土

坑からは多量の土器が出土している。しかし、これらの土器はみな、割れて散在した状態で出土しているため、廃棄されたものと考えるのが妥当であろう。さらにこの2条の溝の内側には、溝と同時期の遺物を持つ住居が2軒確認されているが、その他にも多量の遺物が集中しているため、さらに数軒の住居が存在していた可能性が高い。

一方、北東部の遺構は1条のほぼ等高線に垂直に走る溝である。これは南北を意識した方向にはなっていない。この溝からは多くの9世紀の土器が出土しているが、それと一緒に馬の歯が多く出土している。条里制への意識からすると、前述の2条の溝に囲まれた区画と、この溝の間に変節点があるようである。

A区のAs-B軽石下からは水田が確認されている。この水田は条里制を意識した畦畔によって確認されているが、東に向かって微高地になるため、380Grラインより東では確認できなかった。

(2) 竪穴住居跡

A 1号住居跡 写真図版 3～4・27

位置 965-969～370-373 Gr

重複 なし

平面形態 隅丸方形

規模 東西(23.2) m 南北32.8m 壁高 12cm

面積 6.06m<sup>2</sup> 床面積 5.70m<sup>2</sup>

主軸方位 N-0° 壁溝 なし

柱穴 なし

貯蔵穴 なし

床面 確認面が床面より下であるのか床面は確認できなかった。

掘り方 ほぼ平坦な掘り方である。

出土遺物 土師器坏172、甕74、須恵器坏28、甕14、蓋1、高台付椀1

カマド

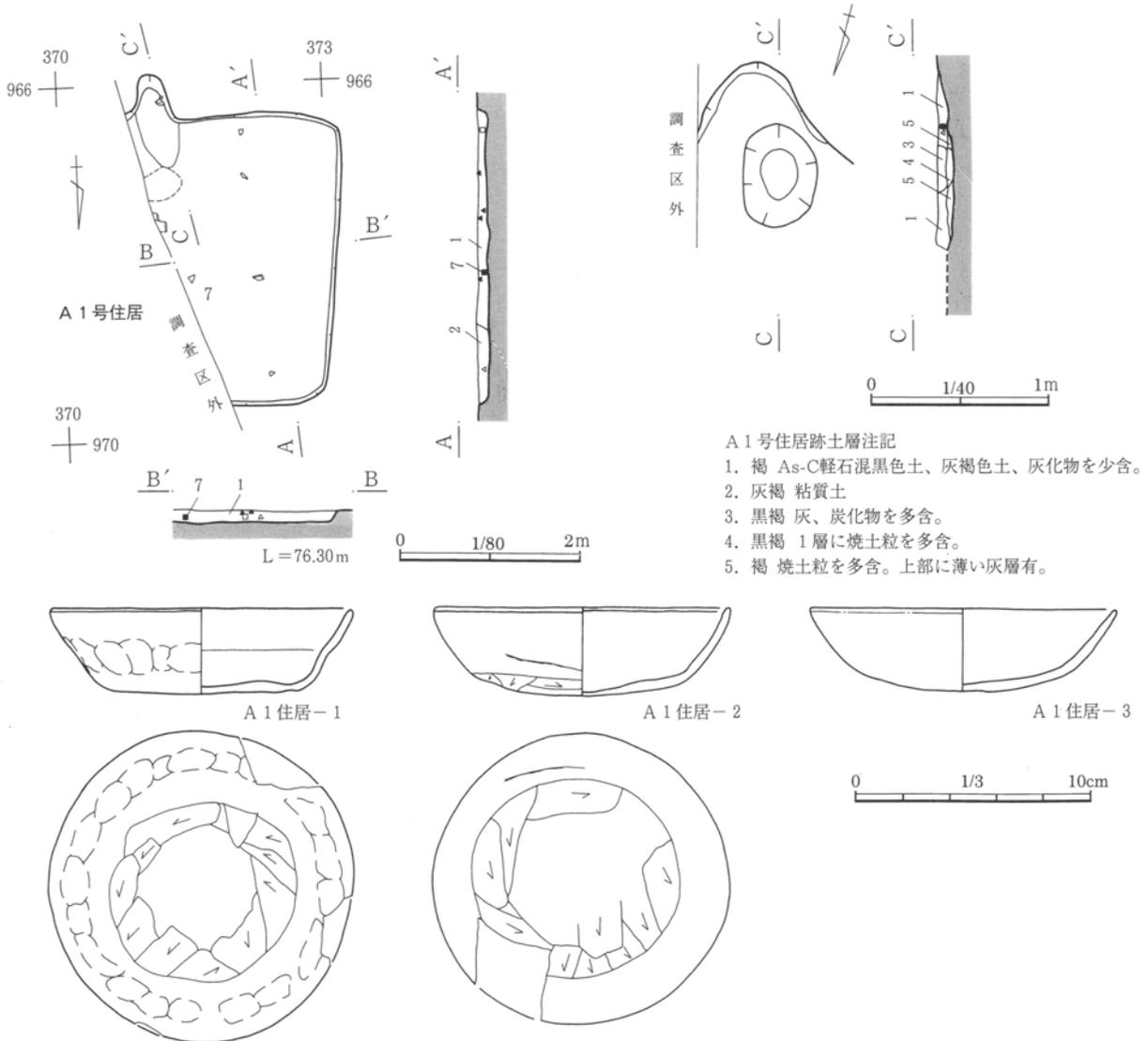
位置 南壁東より 主軸方位 N-12° -W

規模 全長 1.07m 幅 0.45m

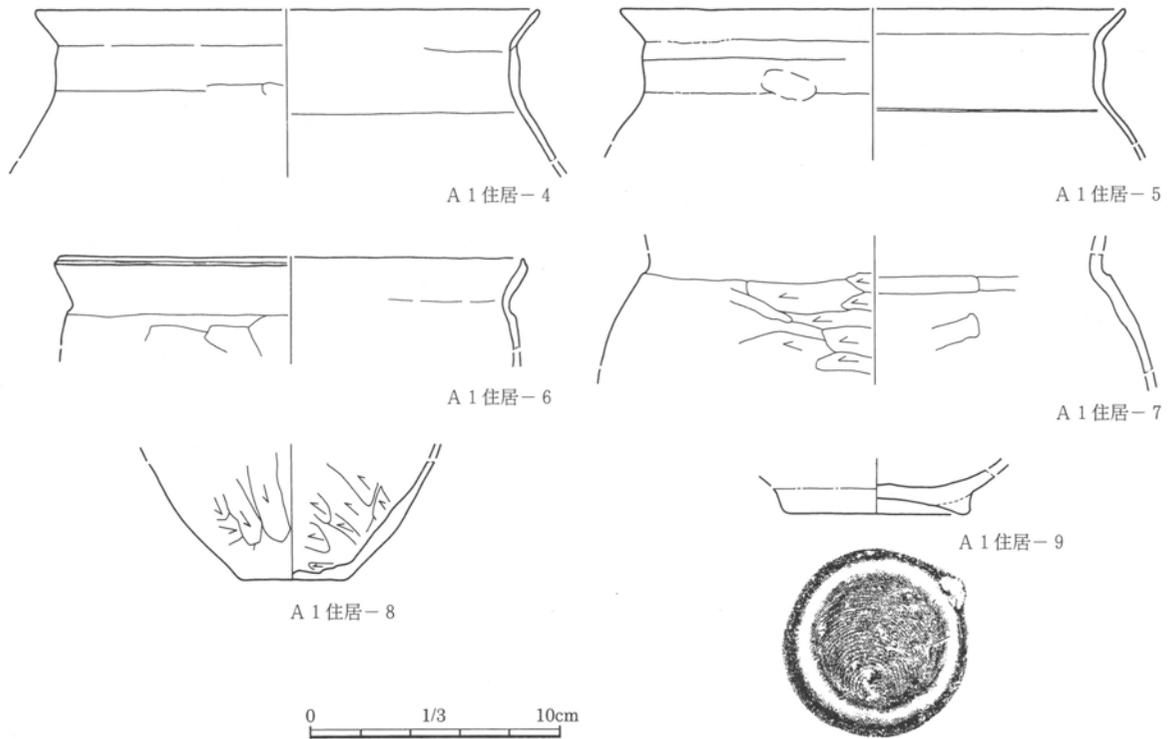
構築 掘り方のみの確認であるが、灰の層があり、ここが火床面になっていた可能性が高い。

火床面は床面のレベルよりやや低い。

所見 東半分が調査区外に及ぶため全体を確認できなかった。A10-B11、A11-B10号溝に囲われた区画に位置し、これらの溝との関係が考えられる。



第7図 A 1号住居跡および出土遺物(1)



第8図 A1号住居跡出土遺物(2)

A1号住居出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
1 27	①土師器 ②坏 ③ほぼ完形	カマド	口-12.8 底-7.9 高-3.6	①細 細砂. パミスを少量含む ②酸化 焰 良好 ③橙2.5YR6/6	口縁部横ナデ 体部指頭圧痕 内面ナデ 底部外面外周篋削り
2 27	①土師器 ②坏 ③ほぼ完形	覆土	口-12.6 底-9.0 高-3.7	①中 細砂. 粗砂パミス・黒色粒を多量 に含む ②酸化焰 良好 ③橙2.5YR 7/6	口縁部横ナデ 内面ナデ 底部外面外周 篋削り
3 27	①土師器 ②坏 ③1/2弱	覆土	口-(13.0) 底- 高-3.4	①中 細砂パミス・黒色粒を多量に含む ②酸化焰 普通 ③橙5YR6/6	口縁部横ナデ 内面ナデ 底部外面外周 篋削り
4 27	①土師器 ②甕 ③口縁部~胴部片	覆土	口-(20.0) 底- 高-(6.0)	①細 細粒パミスを少量含む ②酸化焰 良好 ③にぶい橙7.5YR7/3	口縁部横ナデ 胴部外面横位篋削り 内 面口縁部横ナデ
5 27	①土師器 ②甕 ③口縁部片	覆土	口-(20.0) 底- 高-(5.3)	①細 細砂. パミスを少量含む ②酸化 焰 良好 ③にぶい褐7.5YR5/3	口縁部横ナデ 頸部に指頭圧痕 胴部外 面横位篋削り
6 27	①土師器 ②甕 ③口縁部片	覆土	口-(18.4) 底- 高-(3.5)	①細 細粒パミスを少量含む ②酸化焰 良好 ③橙2.5YR6/6	口縁部横ナデ 胴部外面横位篋削り 内 面口縁部横ナデ
7 27	①土師器 ②甕 ③頸部~胴部上位片	7	最大口-(20.0) 底- 高-(5.1)	①細 粗砂. パミスを少量含む ②酸化 焰 良好 ③にぶい褐7.5YR6/3	頸部横ナデ 胴部外面横位篋削り 内面 篋ナデ
8 27	①土師器 ②甕 ③胴部~底部片	覆土	口- 底-(4.0) 高-(4.5)	①細 細粒パミスを少量含む ②酸化焰 普通 ③にぶい褐7.5YR5/4	胴部外面縦位篋削り 内面胴部篋ナデ
9 27	①須恵器 ②坏 ③底部片	覆土	口- 底-7.4 高-(1.6)	①粗 細砂~礫. パミスを多量に含む ②還元焰 不良 ③灰黄2.5Y7/2	ロクロ調整(右)底部回転糸切り後高台 貼付摩滅著しい

B 1号住居跡 写真図版 3～4・27

位置 970-974~355-359 Gr

重複 なし

平面形態 不整形四角形

規模 東西36.0m 南北34.1m 壁高 8cm

面積 9.86m<sup>2</sup> 床面積 9.20m<sup>2</sup>

主軸方位 N-37° -W 壁溝 なし

柱穴 なし

貯蔵穴 なし

床面 確認面が床面より下であるのか床面は確認できなかった。

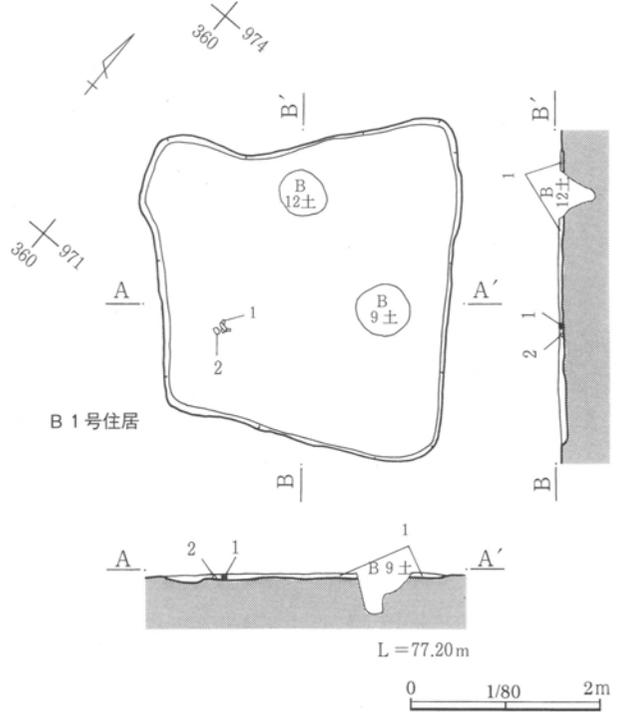
掘り方 ほぼ平坦な掘り方である。

出土遺物 縄文1、古式土師器1、土師器坏39、甕169、台付甕1、須恵器坏55、甕4、蓋4、鉄2、自然礫4

カマド なし

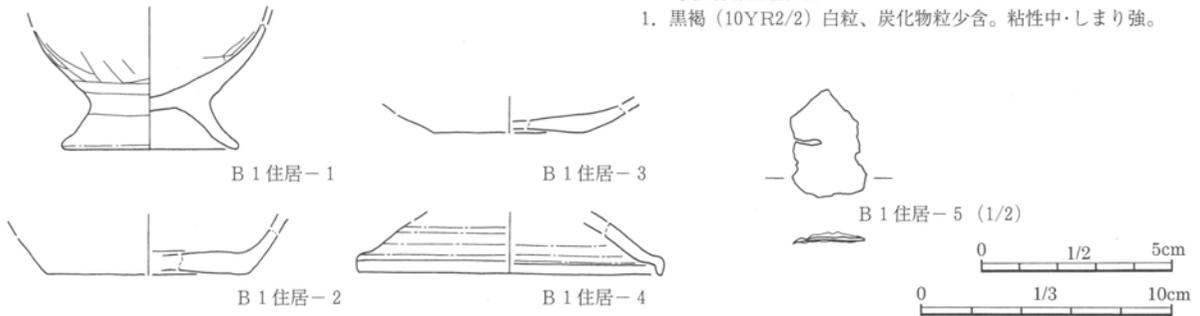
所見 確認面が掘り方を僅かに残すばかりの高さであるためか、不整形である。しかし出土遺物がこの

周辺から多数出土していることなどは、この遺構が竪穴住居である可能性が高いことを示している。



B 1号住居跡土層注記

1. 黒褐 (10YR2/2) 白粒、炭化物粒少含。粘性中・しまり強。



第9図 B 1号住居跡および出土遺物

B 1号住居出土遺物観察表

遺物No 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調外④色調内	成・整形技法の特徴					
						長さ	幅	厚さ	重量	
1 27	①土師器 ②台付甕 ③脚台部3/4	1	口- 底-7.0 高-〔4.9〕	①中 細砂、パミスを少量に含む ②酸化焰 良好 ③橙2.5YR6/6 ④にぶい黄橙10YR6/3	胴部篋削り 脚台部横ナデ 内面篋削り					
2 27	①須恵器 ②坏 ③底部片	2	口- 底-(8.0) 高-(1.7)	①細 細砂を少量含む ②還元焰 不良 ③灰白N8/0 ④灰N6/0	ロクロ調整 底部調整不明					
3 27	①須恵器 ②坏? ③底部片	覆土	口- 底-(6.0) 高-(0.9)	①中 砂粒を含む ②還元焰 不良 ③灰白10Y7/1	ロクロ調整(?) 底部回転糸切り(?) 口縁にむかってひろがるため「皿」か摩滅著しい					
4 27	①須恵器 ②蓋 ③底部片	覆土	端部-(12.0) 底- 高-(2.0)	①細 細砂粒を少量含む ②還元焰 良好 ③灰N6/0	ロクロ調整					
遺物No	写真頁	種類	器種	残存状態	出土位置	量目 (cm・g)				特 徴
5	27	金属器	不明	破片	不明	長さ	幅	厚さ	重量	
						2.7	1.9	0.1	1.1	鉄

(3) 溝

B1号溝

位置 973~978-351~353 Gr

重複 なし

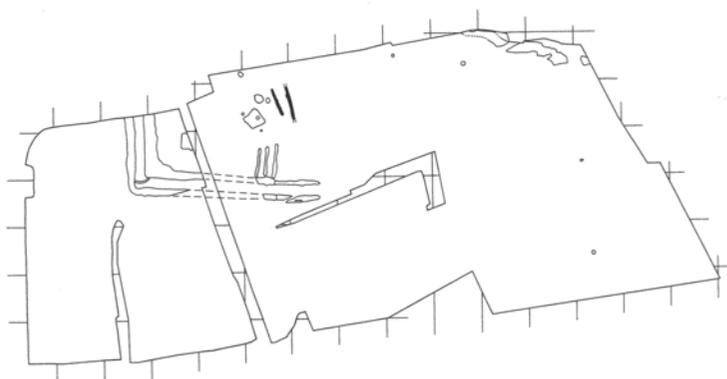
規模 長さ6.2m 幅0.4~0.5m

深さ 10~15cm

掘り方 浅いすり鉢状を呈する。

遺物 土師器甕9

所見 N-24°-Wの走向で、B2号溝とほぼ走向を同じくする。両端は浅くなってしまい確認されないが、流水を伴うような溝ではなく、何らかの耕作痕などの可能性が周囲に似た形状の溝があることや、覆土から想定できる。



B2号溝 写真図版 8

位置 972~979-348~350 Gr

重複 なし

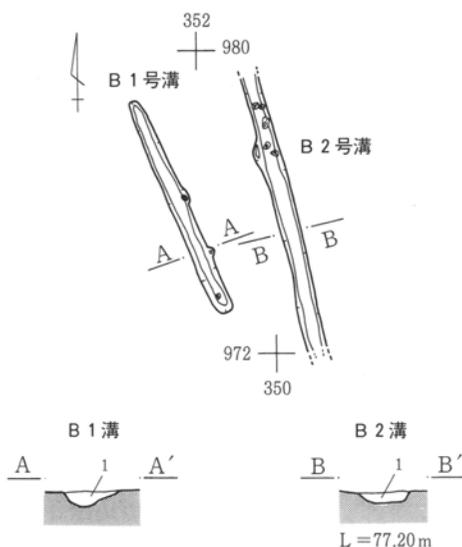
規模 長さ7.3m 幅0.5m

深さ 10~15cm

掘り方 台形を呈する。底部幅が広い。

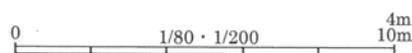
遺物 土師器坏2、甕34、須恵器坏7、甕2、灰釉陶器碗1

所見 N-14°-Wの走向で、B1号溝とほぼ走向を同じくする。両端は浅くなってしまい確認されないが、流水を伴うような溝ではなく、何らかの耕作痕などの可能性が周囲に似た形状の溝があることや、覆土から想定できる。



B1号、B2号溝土層注記

1. 暗褐(10YR3/3) やや砂質。粘性弱・しまり中。



第10図 B1、B2号溝

B7号溝 写真図版 9・27

位置 959~966-352~353 Gr

重複 なし

規模 長さ7.6m 幅0.4~1.1m

深さ 7~14cm

掘り方 台形を呈する。底部幅が広い。

遺物 土師器坏79、甕1、須恵器坏17、蓋2、甕3、高台付碗1、土師質土器皿1

所見 N-6°-Eの走向。966-352Gr付近から確認され、960-353Gr付近まで南に延びる。北半は幅約50cmだが、南半は幅約1mに広がり、浅くなる。B8、B9号溝と並行し、3条はほぼ等間隔に存在し、その規模も似ているため、同時期に存在し、同じ目的を持って作られた溝であると想定される。流水を伴うような溝ではなく、耕作痕の可能性も考えられる。

B 8 号溝 写真図版 10

位置 960～966-354～355 Gr

重複 なし

規模 長さ6.2m 幅0.4～0.6m

深さ 6～18cm

掘り方 台形を呈する。底部幅が広い。

遺物 土師器坏18、甕1、須恵器坏1、蓋1

所見 N-6°-Eの走向。966-354Gr付近から確認され、960-355Gr付近まで南に延びる。両端は徐々に浅くなり確認できなくなる。途中でやや細くなるがほぼ均一な幅を保つ。B 7、B 9 号溝と並行し、3条はほぼ等間隔に存在し、その規模も似ているため、同時期に存在し、同じ目的を持って作られた溝であると想定される。流水を伴うような溝ではなく、耕作痕の可能性も考えられる。

B 9 号溝 写真図版 10・27

位置 959～966-356～357 Gr

重複 なし

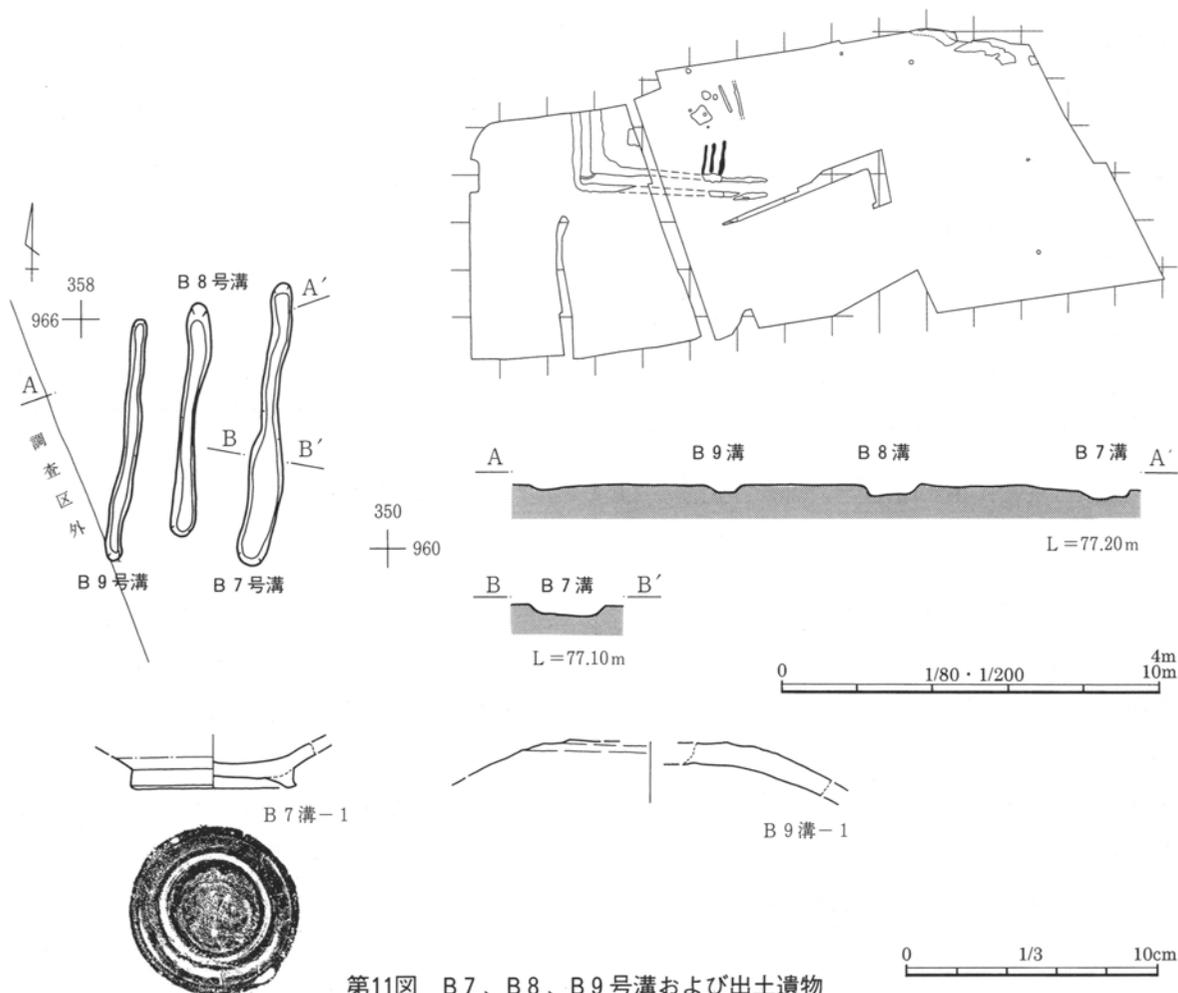
規模 長さ6.4m 幅0.3～0.6m

深さ 9～12cm

掘り方 台形を呈する。

遺物 土師器坏65、甕5、須恵器坏6、蓋1、甕3、土師質土器皿1

所見 N-6°-Eの走向。965-356Gr付近から確認され、960-357Gr付近まで南に延びる。北端は徐々に浅くなり確認できなくなるが、南端はB 8 号土坑と重なった所で確認できなくなる。B 7、B 8 号溝と並行し、3条はほぼ等間隔に存在し、その規模も似ているため、同時期に存在し、同じ目的を持って作られた溝であると想定される。流水を伴うような溝ではなく、耕作痕の可能性も考えられる。



第11図 B 7、B 8、B 9 号溝および出土遺物

B7号溝出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
1 27	①須恵器 ②高台付碗 ③底部片	覆土	口— 底—6.6 高—{1.8}	①粗 細砂～礫. パミスを多量に含む ②還元焰 普通 ③灰白N7/0	ロクロ調整 底部調整不明

B9号溝出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
1 27	①須恵器 ②蓋 ③体部片	覆土	口— 底— 高—{2.0}	①粗 細砂～礫. パミスを多量に含む ②酸化焰 不良 ③灰褐 5 YR4/2	ロクロ調整(右) 天井回転篋削り

## A10-B11号溝 写真図版 6～7・27～28

位置 958～973-343～380 Gr

重複 新しいB8号土坑。新旧不明A12号溝。

規模 長さ46.6m 幅0.5～4.4m

深さ 10～33cm

掘り方 台形を呈する。底部幅が広く、起伏が多い。

遺物 古式土師器甕2、土師器坏360、甕69、須恵器坏74、蓋3、甕36、長頸壺1、碗15、灰釉陶器碗3、皿1、蓋3、土師質土器皿4、陶器鉢1

所見 972-380Grから961-380Grまで南に向かい、そこで、ほぼ直角に東方向に曲がり、958-344Gr付近までのびた後、浅くなり確認できなくなる。途中を新しい溝などにより攪乱されてしまっているため確認できなかった。A11-B10号溝と並行し、出土遺物などからも同時期に存在していたことが想定できる。B8号土坑と重複し、主軸方向も重なるため、この溝がまだ埋まりきらない時点で、B8号土坑が掘られたものと想定される。

## A11-B10号溝 写真図版 6～7・28

位置 954～973-343～384 Gr

重複 新しいB11号土坑。新旧不明A12号溝。

規模 長さ55.0m 幅0.8～20.m

深さ 11～43cm

掘り方 底部幅が広い台形を呈する。A10-B11号溝より底部は平坦。

遺物 古式土師器甕1、台付甕1、土師器坏313、甕32、台付甕1、須恵器坏66、蓋2、甕19、高台付

碗6、皿1、灰釉陶器皿2、瓦1

所見 973-384Grから957-384Grまで南に向かい、そこで、ほぼ直角に東方向に曲がり、955-343Gr付近までのびた後、浅くなり確認できなくなる。途中を新しい溝などにより攪乱されてしまっているため確認できなかった。A10-B11号溝と並行し、出土遺物などからも同時期に存在していたことが想定できる。B11号土坑と重複し、主軸方向も重なるため、この溝がまだ埋まりきらない時点で、B11号土坑が掘られたものと想定される。

## A12号溝 写真図版 6

位置 959～960-379～382 Gr

重複 同時期A10-B11、A11-B10号溝

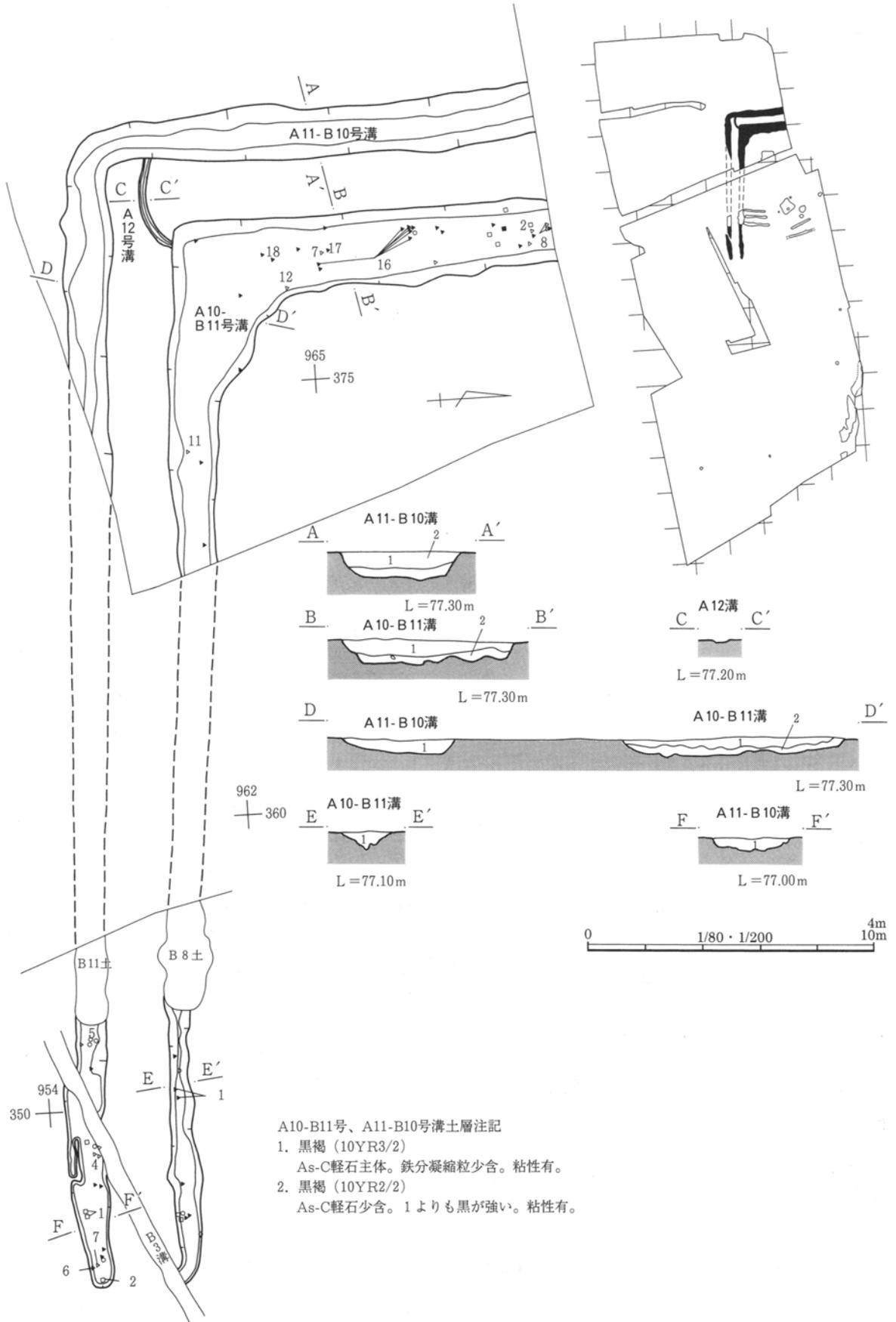
規模 長さ3.5m 幅0.2～0.6m

深さ 5cm

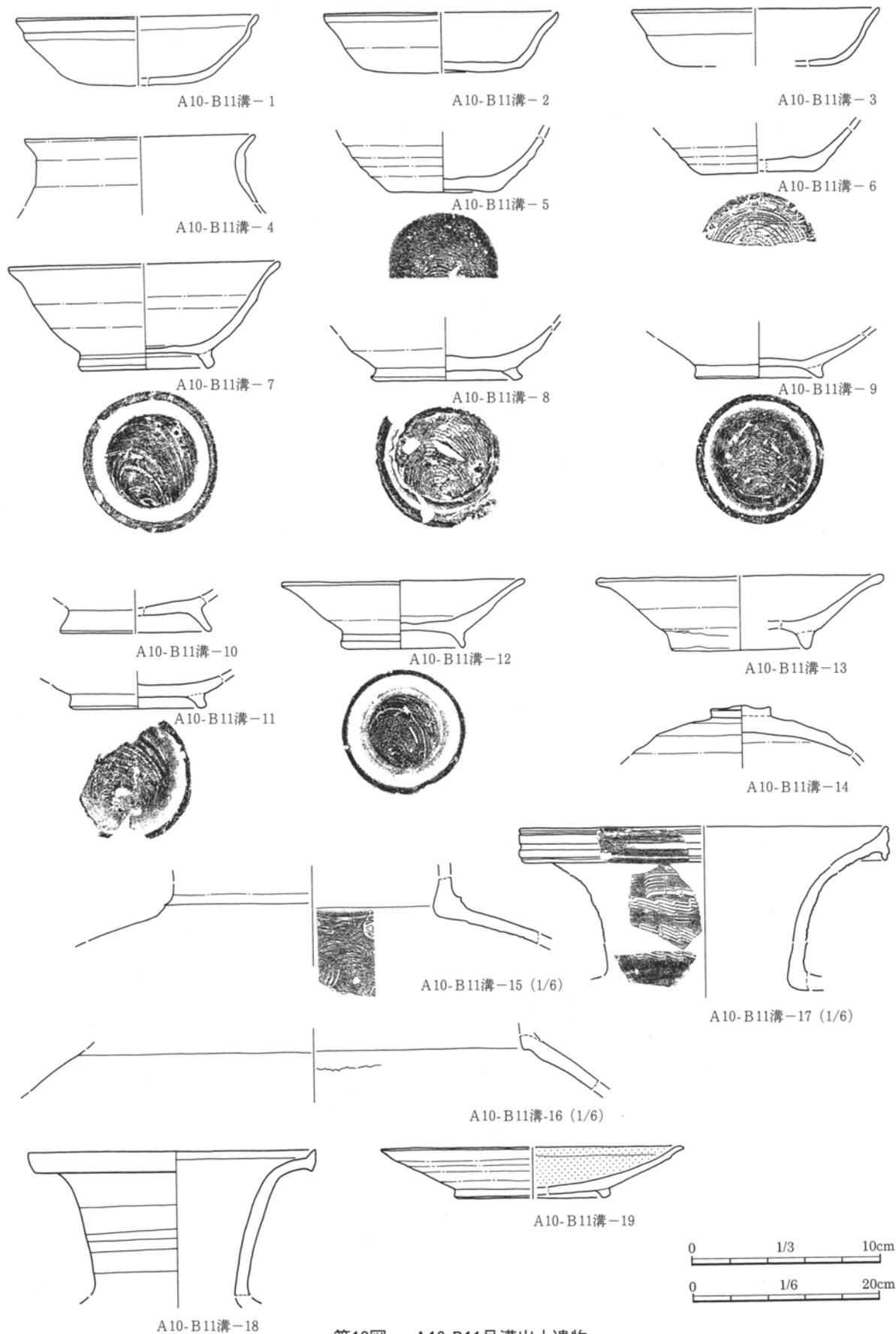
掘り方 浅い台形を呈する。

遺物 土師器甕6

所見 A10-B11号溝、A11-B10号溝とをつなぐようになり、ほぼ同時期のものと考えられる。やや弧を描いている。

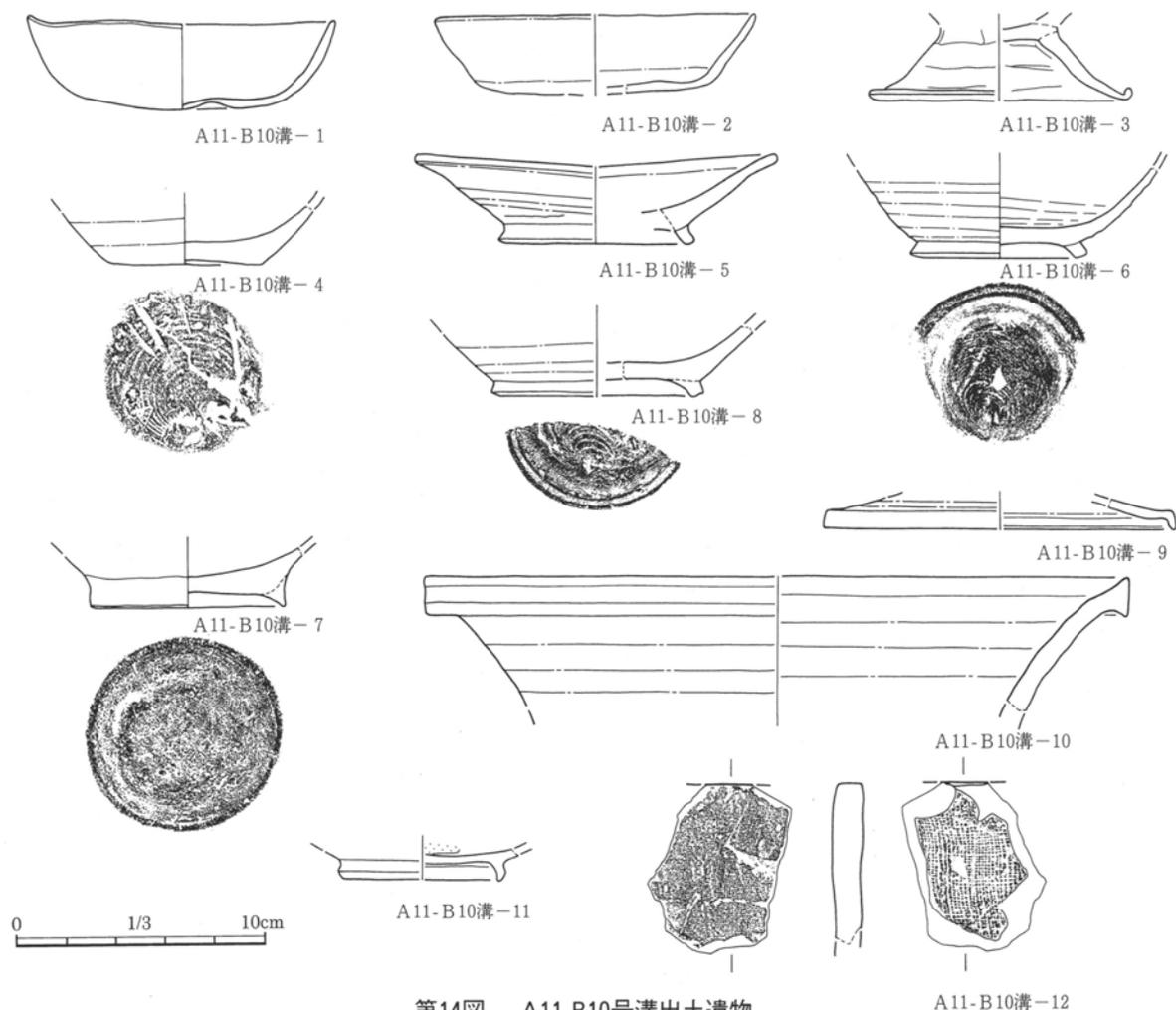


第12図 A10-B11、A11-B10、A12号溝



第13図 A10-B11号溝出土遺物

第三章 遺構と遺物



第14図 A11-B10号溝出土遺物

A10-B11号溝出土遺物観察表

遺物No 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調外④色調内	成・整形技法の特徴
1 27	①土師器 ②坏 ③口縁部~底部1/2弱	1	口-(12.8) 底- 高-(3.6)	①細砂,粗砂,パミスを含む ②酸化焰不良 ③橙2.5YR6/6	口縁部横ナデ 体部指頭圧痕 内面ナデ
2 27	①土師器 ②坏 ③口縁部~底部破片	2	口-(12.6) 底-(8.2) 高-3.1	①細 細砂,パミス黒色粒を少量含む ②酸化焰 良好 ③橙 5 YR6/6	口縁部横ナデ 内面ナデ
3 27	①土師器 ②坏 ③口縁部~体部1/5弱	覆土	口-(13.0) 底-(8.0) 高-3.0	①中 細砂,パミスを多量に含む ②酸化焰 良好 ③橙2.5YR6/6	口縁部指ナデ 指頭圧痕(?) 内面ナデ 摩滅著しい
4 27	①土師器 ②甕 ③口縁部片	覆土	口-(12.2) 底- 高-(3.5)	①中 細砂,パミスを多量に含む ②酸化焰 普通 ③にぶい橙 5 YR6/4	口縁部横ナデ 胴部横位篋削り 内面口縁部横ナデ 摩滅著しい
5 27	①須恵器 ②坏 ③底部片	覆土	口- 底-(6.0) 高-(2.4)	①中 細砂~礫,パミスを多量含む ②還元焰 普通 ③褐灰10YR4/1	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り無調整 摩滅が著しい
6 27	①須恵器 ②坏 ③底部片1/2弱	不明	口- 底-(6.0) 高-(2.2)	①粗 細砂~礫,パミスを多量に含む ②還元焰 良好 ③灰N4/0	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整
7 27	①須恵器 ②坏 ③口縁部~底部片	7	口-(14.2) 底-7.2 高-5.5	①粗 細砂~礫,パミスを多量に含む ②酸化焰 不良 ③褐灰7.5YR4/1 ④橙2.5YR7/6	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り後高台貼付
8 27	①須恵器 ②坏 ③底部片	8	口- 底-(8.0) 高-(2.8)	①中 細砂,粗砂,パミスを少量含む ②還元焰 不良 ③灰白10YR7/1	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り後高台貼付

第1節 平安時代以前

9 27	①須恵器 ②坏 ③底部片	覆土	口ー 底ー6.7 高ー(2.1)	①中 細砂～礫、パミスを多量に含む ②還元焰 普通 ③灰白N6/0	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り後高台貼付 摩滅著しい
10 27	①須恵器 ②坏 ③底部片1/4	覆土	口ー 底ー(8.0) 高ー(1.8)	①中 細砂、パミス、黒色粒を少量含む ②還元焰 普通 ③灰白N7/0	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り後高台貼付
11 27	①須恵器 ②坏 ③底部3/4	11	口ー 底ー(7.3) 高ー(1.7)	①中 細砂～礫、パミス、褐色鉱物粒を多量に含む ②還元焰 不良 ③灰白2.5Y8/1	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り後高台貼付
12 27	①須恵器 ②皿 ③口縁部～底部2/3	12	口ー(12.9) 底ー6.5 高ー(3.6)	①中 細砂～大礫、パミスを含む ②還元焰 普通 ③灰白10YR7/1	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り後高台貼付
13 27	①須恵器 ②皿 ③底部～口縁部片	覆土	口ー(15.2) 底ー(7.5) 高ー(3.9)	①中 細砂～礫、パミスを少量含む ②還元焰 不良 ③灰黄2.5Y7/2	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り後高台貼付 内面に褐色付着物有
14 27	①須恵器 ②蓋 ③つまみ～体部	覆土	つまみー3.2 底ー 高ー(2.8)	①中 細砂～礫、パミスを多量に含む ②酸化焰 不良 ③にぶい橙2.5YR6/4 ④灰黄2.5Y7/2	ロクロ調整(右) 擬宝珠鈕貼付 天井部回転篋削り
15 27	①須恵器 ②甕 ③胴部片	覆土	頸部-32.0 底ー 高ー(7.2)	①中 細砂～礫、パミスを多量に含む ②還元焰 良好 ③灰N4/0	輪積成形でロクロ使用か 内面青海波状当て具痕
16 27	①須恵器 ②甕 ③口縁・肩部片	16	口ー 底ー 高ー(5.8)	①粗 細砂～礫を少量含む ②還元焰 良好 ③灰白5Y8/1	輪積成形 外面ナデ 内面ナデ
17 28	①須恵器 ②甕 ③口縁・胴部片	17	口ー(40.0) 底ー 高ー(17.5)	①中 細砂～礫、黒色粒を少量含む ②還元焰 不良 ③灰白5Y7/1	外面3本1単位の櫛状工具による波状文 内面横ナデ
18 28	①須恵器 ②長頸壺 ③口縁部片	18	口ー15.1 底ー 高ー(7.6)	①中 細砂、粗砂、パミスを少量含む ②還元焰 普通 ③灰7.5Y6/1	ロクロ調整(右) 内面の剥離著しい
19 28	①灰釉陶器 ②皿 ③口縁部～底部片	覆土	口ー(15.8) 底ー(8.0) 高ー(8.0)	①中 夾雑鉱物粒を多量に含む ②還元焰 良好 ③胎土灰白2.5Y7/1 釉灰黄2.5Y6/2	ロクロ調整 高台貼付け 内面全面に灰釉 塗り掛け? 年代・平安

A11-B10号溝出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調外④色調内	成・整形技法の特徴
1 28	①土師器 ②坏 ③3/4	1	口ー12.2 底ー 高ー3.5	①中 細砂、粗砂、パミスを含む ②酸化焰 良好 ③にぶい橙5YR6/4	口縁部横ナデ 体部篋削り後ナデ 内面ナデ底部に大きな湾曲部有
2 28	①土師器 ②坏 ③1/4	2	口ー(12.6) 底ー 高ー3.2	①粗 細砂～礫を少量含む ②酸化焰 不良 ③橙5YR6/6	口縁部横ナデ 内面ナデ
3 28	①土師器 ②台付甕 ③脚台部1/5弱	覆土	口ー 底ー(10.5) 高ー(2.8)	①粗 細砂、粗砂を少量含む ②酸化焰 良好 ③赤褐5YR4/6	脚台部外面横ナデ 内面横ナデ
4 28	①須恵器 ②坏 ③底部～体部片	4	口ー 底ー6.1 高ー(2.3)	①粗 細砂～礫、パミス、褐色鉱物粒を多量に含む ②還元焰 不良 ③灰白7.5Y7/1	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り無調整 底部に篋描き痕
5 28	①須恵器 ②皿 ③口縁部～高台片	5	口ー(14.5) 底ー(7.8) 高ー3.5	①細 細砂、粗砂、パミス、褐色鉱物粒を少量含む ②酸化焰 不良 ③にぶい黄橙10YR7/4 ④灰黄2.5Y5/1	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り後高台貼付か
6 28	①須恵器 ②高台付碗底 ③底部～体部片	6	口ー 底ー(7.0) 高ー(3.5)	①粗 細砂～礫、パミス、褐色鉱物粒を少量含む ②還元焰 不良 ③灰白10YR8/1	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り後高台貼付
7 28	①須恵器 ②高台付碗 ③底部片	7	口ー 底ー7.8 高ー(2.3)	①粗 細砂～礫、パミスを多量に含む ②還元焰 不良 ③褐灰10YR4/1 ④灰白5Y7/1	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り 摩滅著しい
8 28	①須恵器 ②高台付碗 ③底部1/3	覆土	口ー 底ー(8.4) 高ー(2.8)	①中 細砂～礫、パミスを含む ②酸化焰 普通 ③にぶい橙7.5YR6/4	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り後高台貼付

第三章 遺構と遺物

9 28	①須恵器 ②蓋 ③端部片	不明	端部-(14.0) 底- 高-(1.2)	①細 細砂をわずかに含む ②還元焰 良好 ③灰N6/0	ロクロ調整
10 28	①須恵器 ②甕 ③口縁破片	不明	口-(28.0) 底- 高-(5.3)	①中 細砂~礫、パミスを多量に含む ②還元焰 良好 ③灰N4/0	輪積成形 ロクロ使用
11 28	①灰釉陶器 ②皿? ③底部片	覆土	口- 底-(6.2) 高-(1.2)	①細 夾雑鉱物粒をわずかに含む ②還 元焰 良好 ③胎土灰白10Y7/1	ロクロ調整 高台貼付け 内面体部まで 灰釉塗り掛け?
12 28	①瓦 ②平瓦 ③破片	覆土	長さ-6.7 幅 -5.7 厚さ-1.3	①中 細砂~礫、パミス、褐色鉱物粒を 少量含む ②還元焰 良好 ③胎土にぶ い赤褐 5 YR5/4 ④褐灰 5 YR5/1	

B41号溝 写真図版 14・28~30

位置 982~990-286~313 Gr

重複 なし

規模 長さ27.5m 幅0.4~2.9m

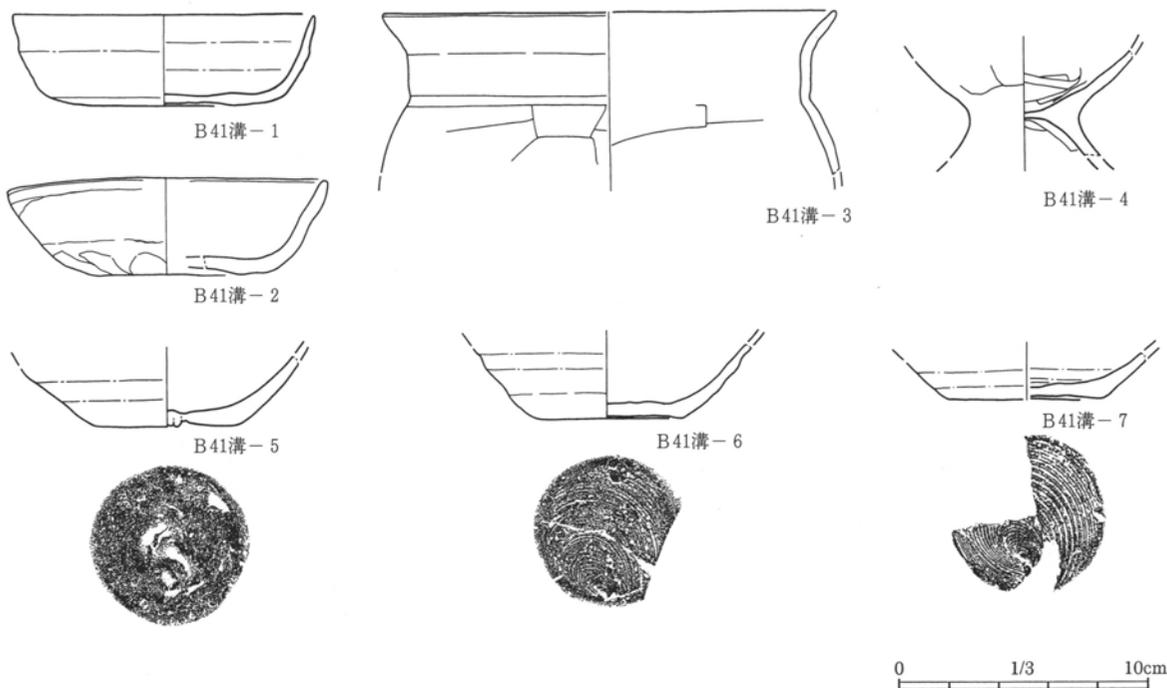
深さ 21~75cm

掘り方 やや歪む部分もあるが、おおよそ台形を呈する。

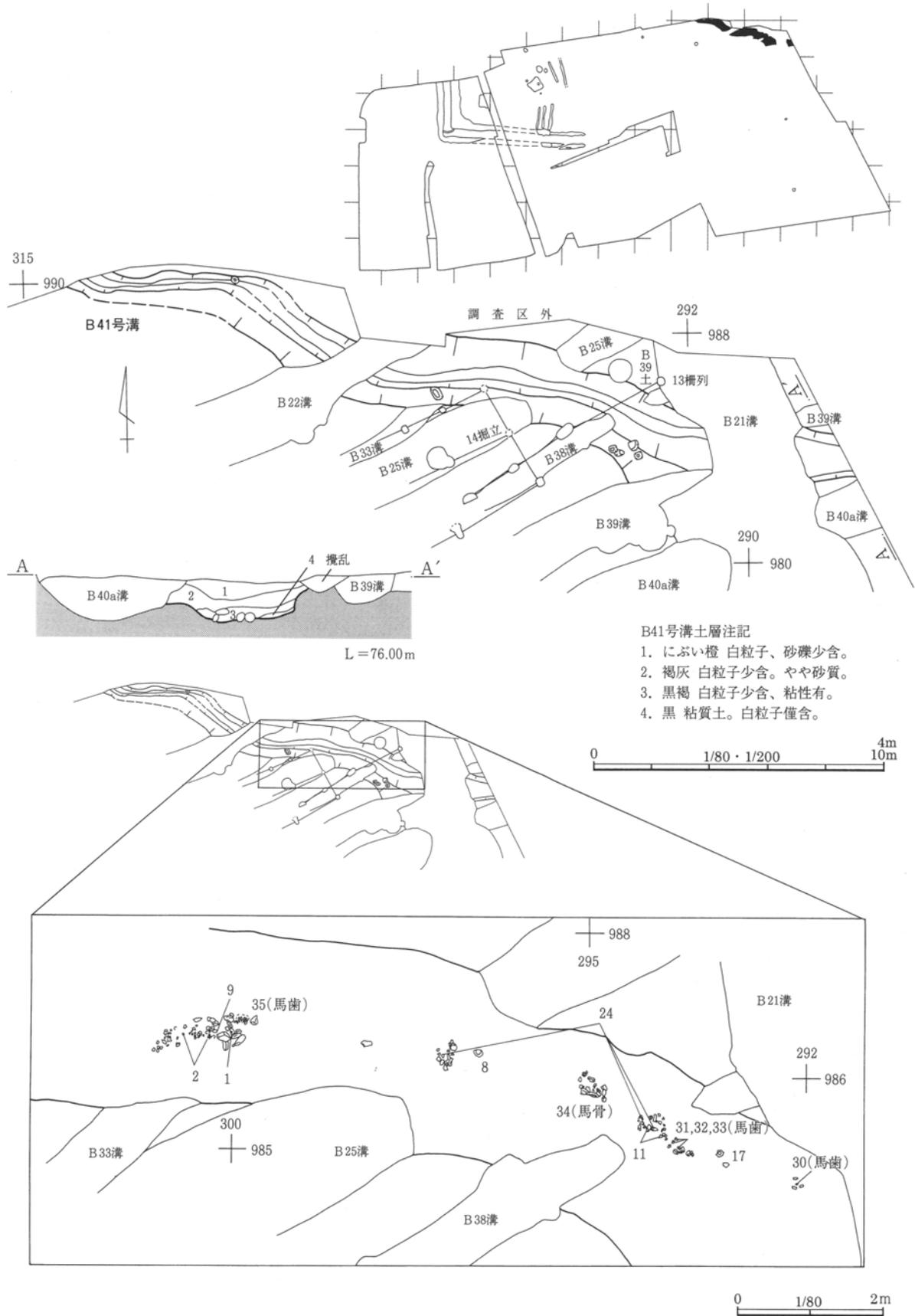
遺物 古式土師器高坏1、土師器坏267、甕939、台付甕1、須恵器坏203、蓋9、甕83、壺9、羽釜1、高台付碗23、灰釉陶器皿2、土師質土器皿1、軟質陶器鍋1、陶器碗2、皿1、甕5、鉢1、瓦1、土

製品1、砥石1、磨石1、自然礫、馬歯8+

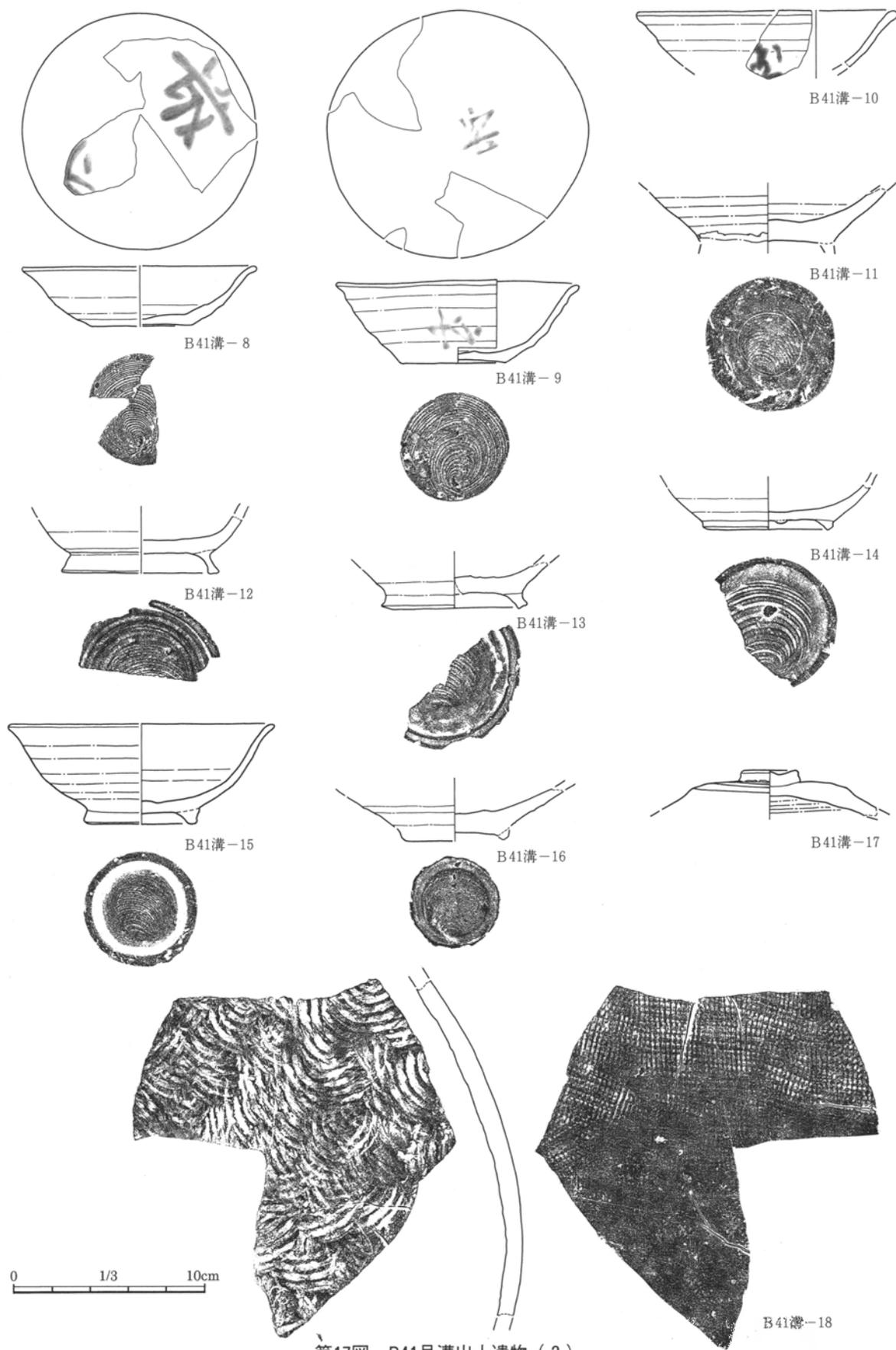
所見 やや蛇行しているがおおよそN-80°-Wの走向。両端とも調査区外までのびる。土師器、須恵器を大量に出土している。この周辺では一番古い段階の溝と思われる。この溝と重複する溝でこのB41号溝の遺物と同時期のものが出土しているのは、この溝からの流れ込みと考えられる。この溝だけが端気川の走向とは違う方向で、尚かつ周辺の遺跡などで確認されている南北を意識した方向とも違う。出土馬歯は第四章第2節にて報告する。



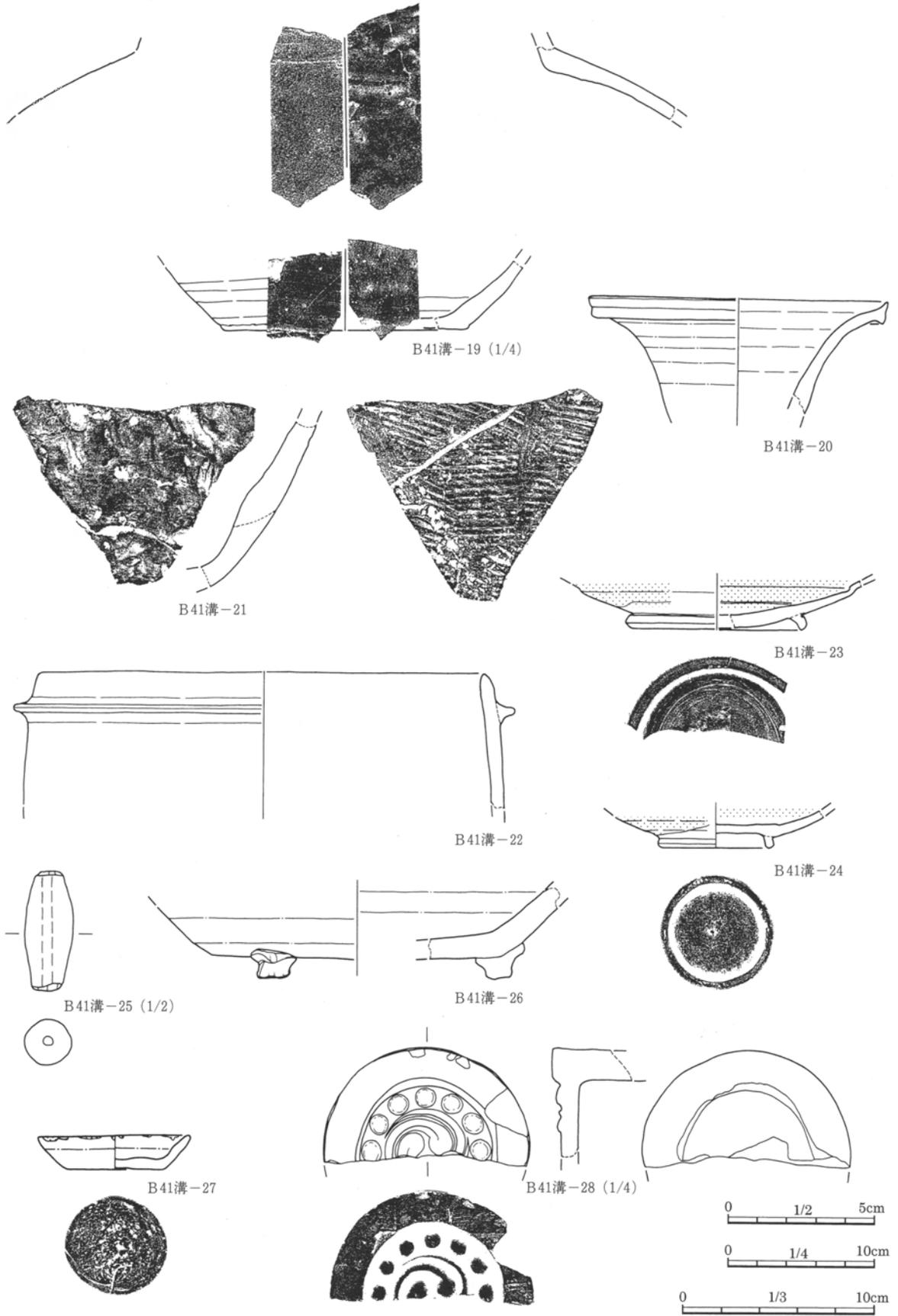
第15図 B41号溝出土遺物(1)



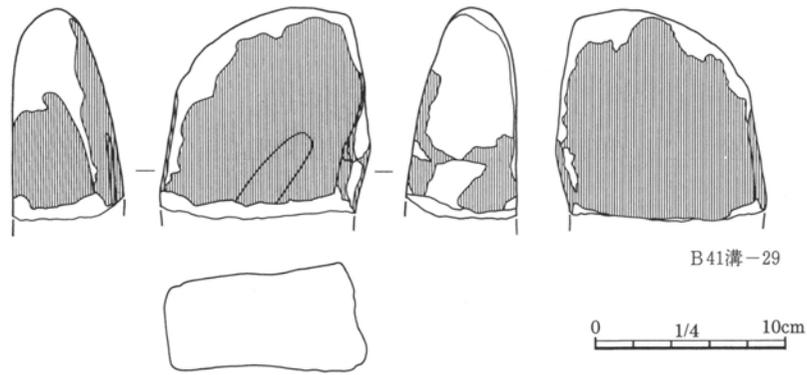
第16図 B41号溝



第17図 B41号溝出土遺物(2)



第18図 B41号溝出土遺物(3)



第19図 B41号溝出土遺物(4)

B41号溝出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調外④色調内	成・整形技法の特徴
1 28	①土師器 ②坏 ③1/3	1	口-(12.0) 底-(9.2) 高-3.5	①細 細砂を少量含む ②酸化焰 不良 ③橙 5 YR6/6	口縁部横ナデ 底部外面外周篋削り 内面ナデ
2 28	①土師器 ②坏 ③3/4	2	口-(12.8) 底-(7.0) 高-3.8	①中 粗砂を少量含む ②酸化焰 不良 ③橙 2.5 YR6/6	口縁部横ナデ 底部外面外周篋削り 体部に輪積痕がみられる 内面ナデ
3 28	①土師器 ②甕 ③口縁部~胴部片	覆土	口-(17.9) 底- 高-(6.4)	①細 細砂, パミスを少量含む ②酸化焰 良好 ③にぶい橙 5 YR7/4	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り 内面篋ナデ
4 28	①土師器 ②台付甕 ③胴部~脚台部片	覆土	口- 底- 高-(4.2)	①細 細砂を少量含む ②酸化焰 不良 ③灰黄褐 10 YR5/2	脚台部横ナデ 胴部外面篋削り 内面篋ナデ
5 28	①須恵器 ②坏 ③底部~体部片	覆土	口- 底-6.0 高-(2.7)	①粗 細砂~礫, パミスを多量に含む ②酸化焰 不良 ③にぶい橙 2.5 YR6/3 ④褐灰 10 YR4/1	ロクロ調整(右?) 底部回転糸切り無調整 内外面とも摩滅著しい
6 28	①須恵器 ②坏 ③底部~体部片	覆土	口- 底-5.5 高-(2.8)	①中 細砂, 粗砂, パミスを少量含む ②還元焰 不良 ③黒 5 Y2/1	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り無調整
7 28	①須恵器 ②坏 ③底部3/4	覆土	口- 底-(6.2) 高-(1.8)	①中 細砂~礫, パミスを含む ②還元焰 不良 ③明褐灰 5 YR7/1 ④黒 5 YR7/1	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り無調整
8 28	①須恵器 ②坏 ③底部~体部片	覆土	口-(12.2) 底-(5.2) 高-3.1	①細 細砂~礫, パミスを少量含む ②還元焰 良好 ③褐灰 7.5 YR6/1	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り無調整 内面に墨書 2文字か 文字不明
9 29	①須恵器 ②坏 ③完形	9	口-12.6 底-5.4 高-4.2	①中 細砂~礫, パミス, 黒色粒を少量に含む ②還元焰 普通 ③灰白 2.5 Y 7/1	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整 内外面に墨書 1字ずつ 内外面とも「宅」か
10 29	①須恵器 ②坏 ③口縁部片	覆土	口-(13.5) 底- 高-(2.9)	①細 細砂, 雲母, 黒色粒を少量に含む ②還元焰 良好 ③灰 7.5 Y6/1	ロクロ調整(右) 外面に墨書 文字不明
11 29	①須恵器 ②坏 ③底部片	11	口- 底-(6.8) 高-(2.9)	①中 細砂, 粗砂, パミスを少量含む ②酸化焰 不良 ③にぶい黄橙 10 YR 7/2	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り後高台貼付
12 29	①須恵器 ②坏 ③底部1/2	覆土	口- 底-(6.2) 高-(2.9)	①細 細砂~礫, パミスを少量含む ②還元焰 不良 ③灰 N6/0 ④灰白 N 7/0	ロクロ整形(右) 底部回転糸切り後高台貼付
13 29	①須恵器 ②坏 ③底部1/2	覆土	口- 底-(3.6) 高-(2.0)	①中 細砂, 粗砂を少量含む ②還元焰 不良 ③灰 N5/0	ロクロ調整(?) 底部回転糸切り後高台貼付
14 29	①須恵器 ②坏 ③底部~体部片	覆土	口- 底-(6.4) 高-(2.2)	①中 細砂, パミスを含む ②還元焰 普通 ③灰白 5 Y7/1	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り後高台貼付 粘土塊付着

第1節 平安時代以前

15 29	①須恵器 ②坏 ③口縁部～底部片	覆土	口-(13.6) 底-5.3 高-5.2	①細 細砂～礫. 雲母を少量含む ②還元焰 良好 ③灰白N7/0	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り後高台貼付				
16 29	①須恵器 ②坏 ③体部～底部片	覆土	口- 底-5.8 高-《2.2》	①細 細砂を少量含む ②還元焰 不良 ③灰白N7/0	ロクロ調整(?) 底部回転糸切り後高台貼付				
17 29	①須恵器 ②蓋 ③つまみ～体部片	17	つまみ-3.0 底- 高-《2.3》	①細 細砂～礫を少量含む ②還元焰 普通 ③灰 5 Y6/1	ロクロ調整(右) 天井回転篋削り 環状鈕貼				
18 29	①須恵器 ②甕 ③胴部片	覆土	口- 底- 高-《17.7》	①中 細砂～礫を多量に含む ②還元焰 良好 ③灰7.5Y6/1	外面平行叩き 内面青海波文当て具痕				
19 29	①須恵器 ②甕 ③頸部片・底部片	覆土	口- 底-(17.0) 高-《4.8》	①細 細砂～礫を少量含む ②還元焰 不良 ③灰N6/0 ④褐灰 5 YR5/1	胴部ナデ 内部篋ナデ				
20 29	①須恵器 ②壺 ③口辺部片	覆土	口-(15.4) 底- 高-《5.8》	①細 細砂～礫. パミスを少量含む ②酸化焰 不良 ③にぶい赤褐 5 YR 4/3	ロクロ調整 口辺部回転篋削り				
21 29	①須恵器 ②甕 ③胴部片	覆土	口- 底- 高-《10.0》	①細 細砂～礫. 黒色粒. パミスを多量に含む ②還元焰 不良 ③灰黄2.5Y 7/2	外面平行叩き目 一部篋削りが残る 内面ナデ 残存長8.3cm 巾0.3cmの沈線が斜めに1条入る				
22 30	①須恵器 ②羽釜 ③口辺部片	覆土	口-(23.0) 底- 高-《7.0》	①粗 細砂～礫. パミスを多量に含む ②酸化焰 不良 ③橙 5 YR6/6 ④灰褐 5 YR6/2	全体に摩滅著しい 平安時代の遺物				
23 30	①灰釉陶器 ②皿 ③底部～体部片	覆土	口- 底-(9.0) 高-《2.5》	①細 細砂. パミスを少量含む ②還元焰 良好 ③灰白2.5Y7/1	ロクロ調整(右) 底部回転篋削り後高台貼付 内外面の口縁部灰釉 年代・平安				
24 30	①灰釉陶器 ②皿 ③底部片	24	口- 底-5.7 高-《1.9》	①細 細砂～礫を少量含む ②還元焰 良好 ③灰白N7/0	ロクロ調整(右) 底部全面回転篋削り後高台貼付 内外面つけ掛け施釉 年代・平安				
遺物No 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm・g)				①胎土②焼成③色調	特徴	
			長さ	幅	孔径	重量			
25 30	①土製品 ②土錘 ③完形	覆土	4.2	1.7	0.4	11.47	①細 細砂を少量含む ②酸化焰 普通 ③にぶい黄橙10 YR7/2	外面磨きか	
遺物No 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調			成・整形技法の特徴		
26 30	①陶器 ②鉢? ③底部片	覆土	口- 底-(15.1) 高-《4.7》	①中 夾雑鉱物粒を少量含む ②還元焰 良好 ③にぶい橙2.5YR6/4			3足か 古瀬戸 生産地・瀬戸、美濃 年代・14末～15C		
27 30	①土師質土器 ②皿 ③完形	覆土	口-7.9 底-5.9 高-1.8	①中 細砂. 粗砂. パミスを多量に含む ②酸化焰 良好 ③にぶい橙 5 YR6/4			ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整 口縁部に煤. 油煙付着		
28 30	①瓦 ②軒丸瓦 ③破片	覆土	長さ-(5.5) 幅-14.5 厚さ-2.1	①雲母を少量含む ②二次焼成無 ③暗灰N3/0			左巻三巴 連珠7 残存		
遺物No 写真頁	①種類②器種	残存状態	石材	出土位置	量目 (cm・g)				特徴
					長さ	幅	厚さ	重量	
29 30	①石製品 ②磨石	1/2	粗粒輝石 安山岩	覆土	11	10.7	5.9	820.0	4面に使用痕

(3) 土坑

B 2 号土坑 写真図版 19

位置 975~976-354 Gr

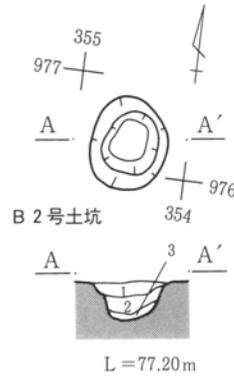
平面形態 楕円形

規模 長径0.99m 短径0.8m 深さ 41cm

主軸方位 N-12° -E 面積 0.64m<sup>2</sup>

掘り方 上端より深さ12cmに中段がある。中段から下端にかけてはほぼ垂直に落ち込む。

出土遺物 土師器坏7、甕8



B 2 号土坑土層注記

1. 暗褐 (10YR3/3)  
黒褐~暗赤褐粒を多含。  
粘性弱・しまり中。
2. 暗褐 (10YR3/3)  
1より黄褐~暗赤褐粒を多含。  
粘性中・しまり強。
3. 暗褐 (10YR3/3)  
黄褐~暗赤褐粒を含む。  
2より砂質。  
粘性中・しまり強。

B 6 号土坑 写真図版 19・30

位置 973-359~360 Gr

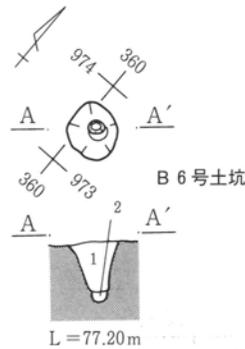
平面形態 円形

規模 長径0.62m 短径0.54m 深さ 65cm

主軸方位 N-44° -W 面積 0.26m<sup>2</sup>

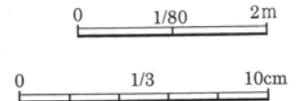
掘り方 上端に近い部分で朝顔状に開く。中位からはほぼ垂直に落ち込む。

出土遺物 土師器坏18、甕6、須恵器坏5、蓋1、甕1、壺1



B 6 号土坑土層注記

1. 黒褐 (10YR2/2)  
黄褐~暗赤褐粒、  
白粒子含。  
炭化物粒少含。  
粘性中・しまり強。
2. 灰白 粘質土。  
黒褐砂質土を多含。



所見 柱穴と考えられる形状を呈する。

第20図 B 2、B 6 号土坑および出土遺物

B 6 号土坑出土遺物観察表

遺物No 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
1 30	①須恵器 ②蓋 ③つまみ部	覆土	つまみ径-3.5 底- 高-1.2	①中 細砂。パミスを含む 普通 ③白灰 5 Y7/1	環状鈕

B 8 号土坑 写真図版 19・30

位置 958~960-352~356 Gr

平面形態 不整隅丸細長方形

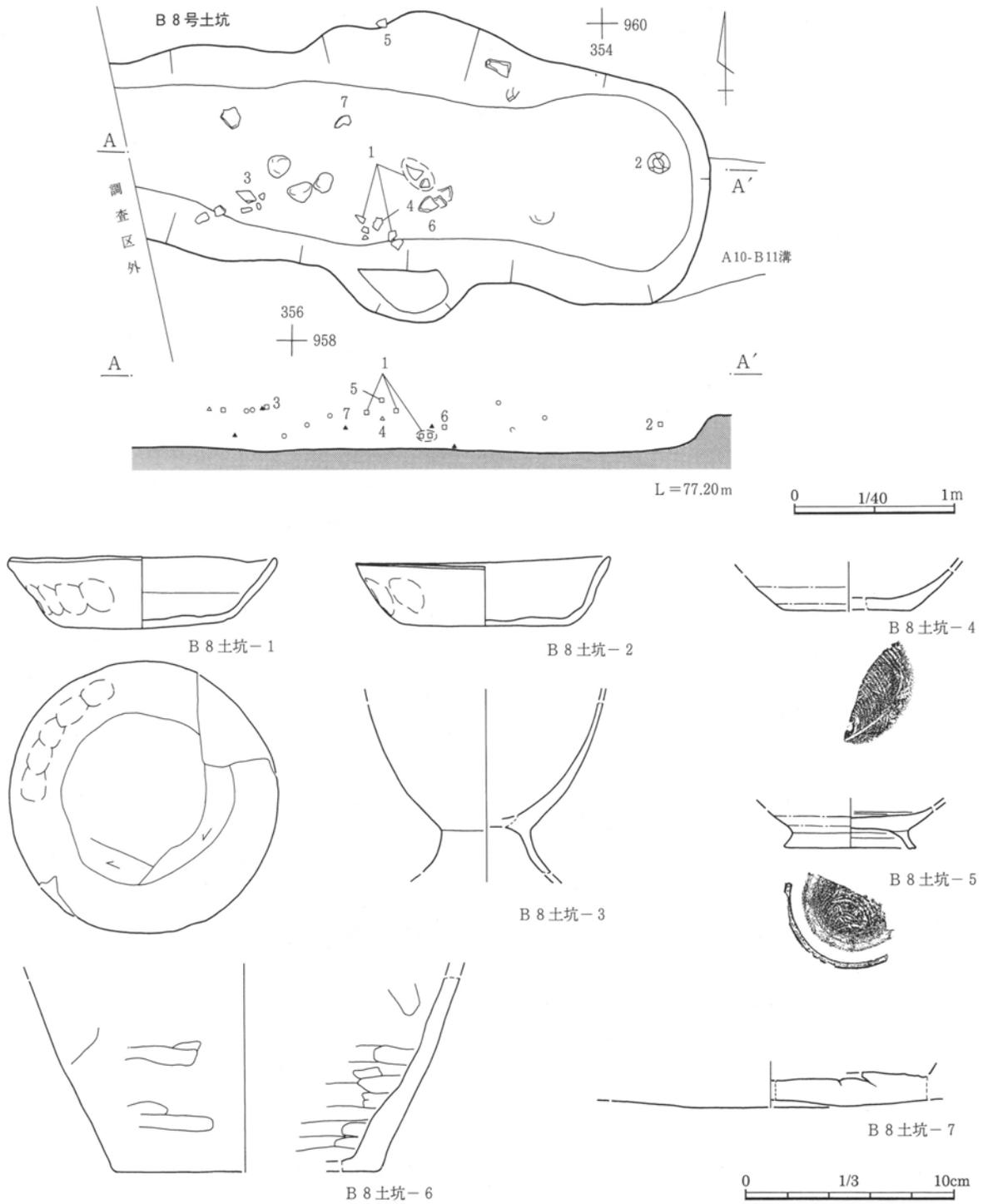
規模 長径4.0m 短径1.5m 深さ 25cm

主軸方位 N-88° -W 面積 5.39m<sup>2</sup>

掘り方 西半が遺構外となり全体形は不明。壁はなだらかに落ち込む。

出土遺物 土師器坏20、甕108、台付甕1、須恵器坏9、甕7、皿1、軟質陶器鍋2、瓦1

所見 A10-B11号溝の直上に位置する。幅は溝よりやや大きい。溝の走向と土坑の長軸は方向も重なるため、溝がまだ埋まりきらない状態でこの土坑が掘られたと考えられる。3 m南に同様の形態のB11号土坑があり、この土坑はA10-B11号溝の外側に並行して走るA11-B10号溝の直上に位置するため、この二つの土坑には関連性が高いと考えられる。覆土は不明。



第21図 B8号土坑および出土遺物

B8号土坑出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調外④色調内	成・整形技法の特徴
1 30	①土師器 ②坏 ③4/5	1	口-12.8 底-8.2 高-3.4	①中 細砂, 粗砂, パミスを多量に含む ②酸化焰 良好 ③にぶい褐7.5YR6/3	口縁部横ナデ 体部指頭圧痕 底部一部 鈍削り 内面ナデ
2 30	①土師器 ②坏 ③完形	2	口-12.2 底-8.0 高-2.3	①中 細砂, 粗砂, パミスを多量に含む ②酸化焰 普通 ③橙5 YR6/6	口縁部横ナデ 指頭圧痕 内面ナデ 底 部鈍削り

第三章 遺構と遺物

3 30	①土師器 ②台付甕 ③脚台部～胴部片	3	口— 底—(6.0) 高—(8.0)	①中 細砂、粗砂、パミスを多量に含む ②酸化焰 良好 ③灰褐7.5YR4/2 ④にぶい褐7.5YR6/3	外面篋削り 内面ナデ
4 30	①須恵器 ②坏 ③底部～体部片	4	口— 底—(6.0) 高—(2.0)	①細 細砂～礫、パミスを多量に含む ②還元焰 良好 ③明褐灰7.5YR7/1	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り無調整
5 30	①須恵器 ②皿? ③底部片	5	口— 底—(6.2) 高—(2.0)	①中 細砂～礫、パミス、褐色粒を多量に含む ②還元焰 良好 ③灰N4/0	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り後高台貼付
6 30	①須恵器 ②甕 ③胴部～底部片	6	口— 底—(12.6) 高—(9.2)	①中 細砂、パミスを含む ②還元焰 良好 ③紫灰 5 P5/1	ロクロ調整(右) 外面ナデ 内面ナデ
7 30	①須恵器 ②甕 ③底部片	7	口— 底— 高—(1.6)	①細 細砂、パミスを少量含む ②酸化焰 良好 ③明褐灰 5 YR7/1	底部に篋削り痕?

B 9 号土坑 写真図版 19・30

位置 972～973-356～357 Gr

平面形態 円形

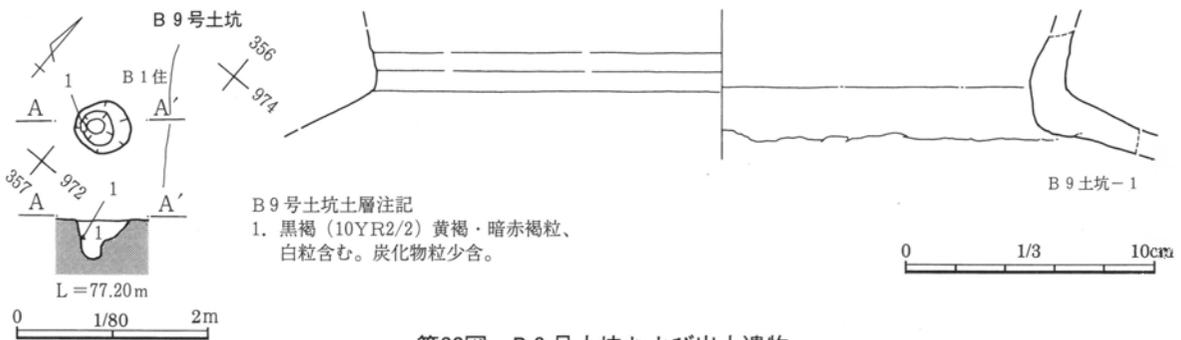
規模 長径0.59m 短径0.52m 深さ 42cm

主軸方位 N-52° -W 面積 0.24m<sup>2</sup>

掘り方 中位より朝顔状に開く。底部はほぼ水平。

出土遺物 土師器甕12、須恵器坏3、甕2

所見 B 1 号住居と重複し、遺物から見た所では同時期に存在していた可能性は高いが、B 1 号住居の柱穴と考えるには位置が妥当性を欠くため、住居との関連は考えにくい。



第22図 B 9 号土坑および出土遺物

B 9 号土坑出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
1 30	①須恵器 ②甕 ③頸部片	1	頸部—(27.4) 底— 高—(4.7)	①中 細砂～礫、パミスを多量に含む ②還元焰 良好 ③灰N5/0	ロクロ調整(?)

B11号土坑 写真図版 20・30～31

位置 955～956-354～355 Gr

平面形態 不整隅丸細長方形

規模 長径2.94m 短径1.2m 深さ 22cm

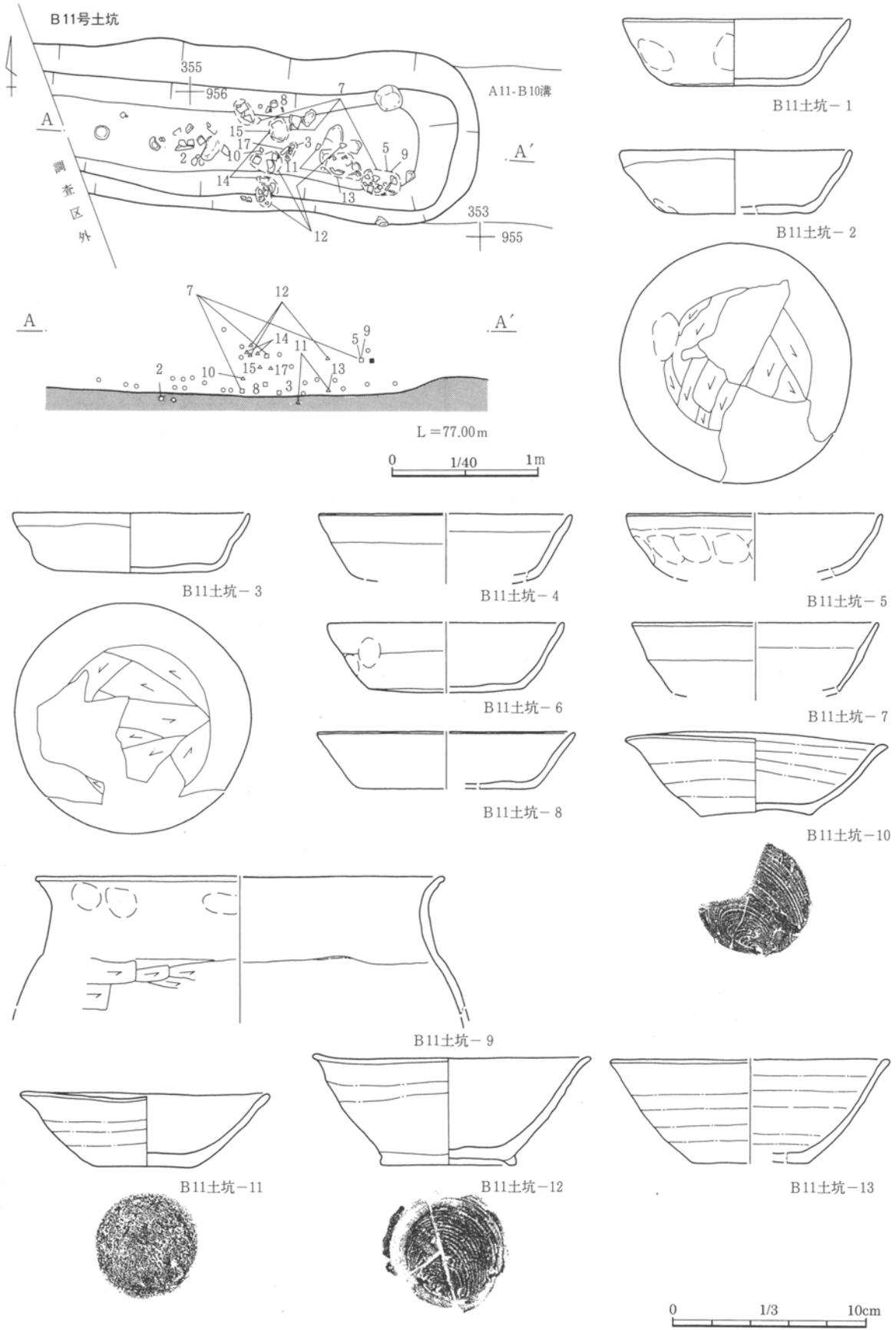
主軸方位 N-87° -W 面積 3.14m<sup>2</sup>

掘り方 西半が遺構外となり全体形は不明。壁はなだらかに落ち込む。

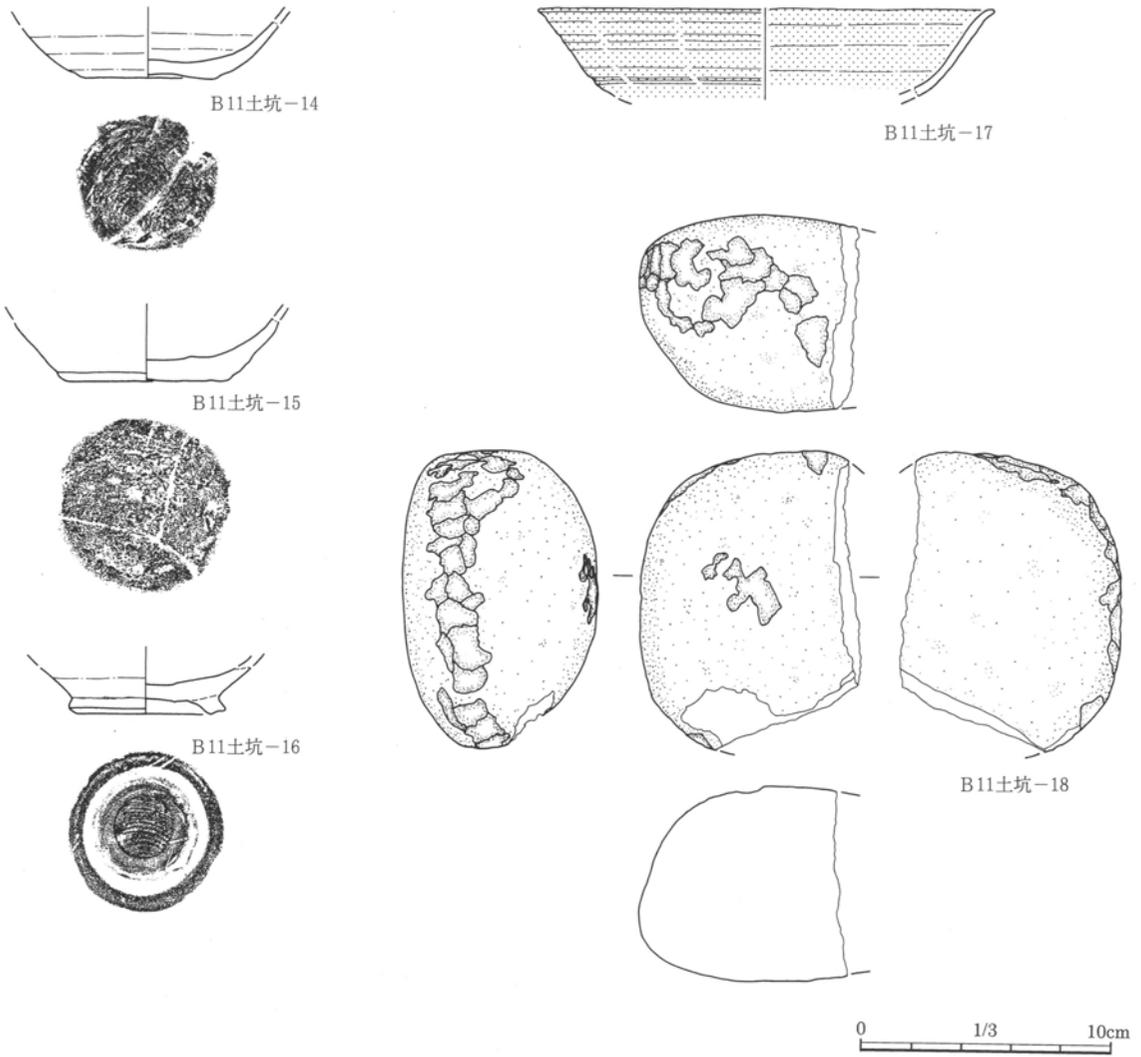
出土遺物 古式土師器甕1、高坏1、土師器坏281、甕8、須恵器坏76、甕6、蓋2、高台付碗2、灰釉

陶器碗2、敲石1

所見 A11-B10号溝の直上に位置する。幅は溝よりやや大きい、溝の走向と土坑の長軸は方向も重なるため、溝がまだ埋まりきらない状態でこの土坑が掘られたと考えられる。3 m北にA10-B11号溝の直上に位置する同様の形態のB 8 号土坑がある。同様の位置に存在することから、この二つの土坑には関連性が高いと考えられる。覆土は不明。



第23図 B11号土坑および出土遺物(1)



第24図 B11号土坑出土遺物（2）

B11号土坑出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
1 30	①土師器 ②坏 ③口縁部～底部2/3	1	口-11.7 底-7.2 高-3.5	①中 細砂, パミス, 黑色粒を含む ②酸化焰 良好 ③橙 5 YR6/6	口縁部横ナデ 体部指頭圧痕 底部外面 斲削り? 内面ナデ
2 30	①土師器 ②坏 ③口縁部～底部4/5	2	口-(11.9) 底-(7.7) 高-(3.3)	①中 細砂, 粗砂, パミスを含む ②酸 化焰 普通 ③にぶい褐7.5YR6/3	口縁部横ナデ 体部指頭圧痕 底部外面 斲削り 内面ナデ
3 30	①土師器 ②坏 ③口縁部～底部2/3	3	口-12.3 底-(8.0) 高-3.0	①中 細砂, 粗砂, パミス, 黑色粒を含 む ②酸化焰 普通 ③橙 5 YR6/6	口縁部横ナデ 底部外面斲削り 内面ナ デ
4 31	①土師器 ②坏 ③口縁部～体部1/2	覆土	口-(13.1) 底- 高-(3.5)	①細 細砂, パミスを少量含む ②酸化 焰 普通 ③橙 5 YR7/6	口縁部横ナデ 内面ナデ
5 31	①土師器 ②坏 ③口縁部～体部1/3	覆土	口-(13.3) 底- 高-(3.2)	①中 細砂, パミス, 黑色粒を含む ②酸化焰 不良 ③にぶい橙 5 YR7/6	口縁部横ナデ 体部指頭圧痕 内面ナデ
6 31	①土師器 ②坏 ③口縁部～底部1/3	6	口-(12.2) 底-(7.9) 高-3.6	①細 細砂, 粗砂, パミスを少量含む ②酸化焰 良好 ③橙 5 YR7/6	口縁部横ナデ 体部指頭圧痕 底部外面 斲削り 内面ナデ

7 31	①土師器 ②坏 ③口縁部～体部1/3	7	口-(12.6) 底- 高-(3.5)	①細 細砂, 粗砂, パミスを少量含む ②酸化焰 良好 ③橙 5 YR6/8	口縁部横ナデ 内面ナデ	
8 31	①土師器 ②坏 ③口縁部～底部片	8	口-(13.3) 底-(8.6) 高-2.9	①粗 細砂, 粗砂, パミスを少量含む ②酸化焰 不良 ③にぶい橙 7.5 YR6/4	口縁部横ナデ 内面ナデ	
9 31	①土師器 ②甕 ③口縁部～頸部片	9	口-(21.0) 底- 高-(7.1)	①中 細砂, パミスを含む ②酸化焰 良好 ③橙 2.5 YR6/6	口縁部横ナデ 体部指頭圧痕 胴部外面 横位篋削り 内面口縁部横ナデ	
10 31	①須恵器 ②坏 ③口縁部～底部3/4	10	口-13.5 底-5.8 高-4.3	①細 細砂～礫を少量含む ②還元焰 普通 ③灰 5 Y6/1	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り無調整	
11 31	①須恵器 ②坏 ③ほぼ完形	11	口-12.9 底-5.3 高-3.8	①粗 細砂～礫, パミスを多量に含む ②還元焰 不良 ③灰白 N7/0	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り無調整	
12 31	①須恵器 ②高台付碗 ③ほぼ完形	12	口-14.5 底-7.0 高-5.7	①細 細砂, 粗砂, パミスを少量含む ②酸化焰 不良 ③にぶい橙 YR7/3	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り後高台 貼付	
13 31	①須恵器 ②坏 ③口縁部～底部片	13	口-(14.4) 底-(6.1) 高-5.5	①中 細砂～礫, パミスを多量に含む ②還元焰 不良 ③灰白 5 Y8/1	ロクロ調整 底部調整不明	
14 31	①須恵器 ②坏 ③底部片	14	口- 底-(5.3) 高-(2.2)	①中 細砂～礫, パミス, 褐色鉱物粒を 多量に含む ②還元焰 不良 ③灰白 10 Y8/1	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り無調整	
15 31	①須恵器 ②坏 ③底部～体部片	15	口- 底-(6.9) 高-(2.5)	①粗 細砂, 礫, 黒色粒を多量に含む ②還元焰 不良 ③灰白 5 Y7/1	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り 摩滅 著しい	
16 31	①須恵器 ②高台付碗? ③底部片	16	口- 底-(6.3) 高-(1.8)	①細 細砂, パミスを少量含む ②還元 焰 不良 ③灰白 5 Y7/1	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り後高台 貼付	
17 31	①灰釉陶器 ②碗 ③口辺部片	17	口-(18.0) 底- 高-(3.5)	①細 夾雑鉱物粒を多量に含む ②還元 焰 良好 ③胎土灰白 5 Y7/1	ロクロ調整 内外面に灰釉 塗り掛けか 年代・平安	
遺物No. 写真頁	①種類②器種	残存状態	石材	出土位置	量目 (cm・g) 長さ 幅 高さ 重量	特徴
18 31	①石製品 ②敲石	1/2	粗粒輝石 安山岩	覆土	11.9 (7.8) 7.8 1109.0	周縁部を一様に敲打痕

B13号土坑 写真図版 20

位置 969～970-355～356 Gr

平面形態 円形

規模 長径0.34m 短径0.3m 深さ 64cm

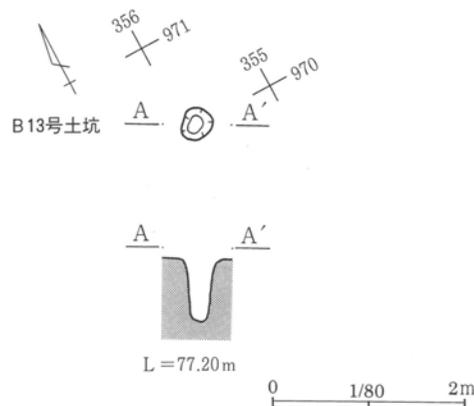
主軸方位 N-48° -E 面積 0.08m<sup>2</sup>

掘り方 上端から下端までほぼ垂直に落ち込み、柱  
穴状を呈する。

出土遺物 土師器坏5、甕49、須恵器坏5、自然礫  
3

所見 B1号住居の出土遺物と同時代の遺物が出土  
しており、同時期に存在していたことが推察される。

自然礫3点が出土しているが、これが根石であるか  
は比定できない。



第25図 B13号土坑

B16号土坑 写真図版 20

位置 942~943-286 Gr

平面形態 円形

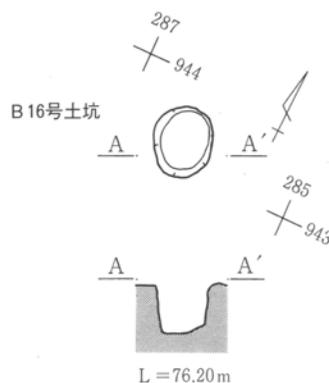
規模 長径0.75m 短径0.64m 深さ 52cm

主軸方位 N-0° 面積 0.35m<sup>2</sup>

掘り方 50cm程の直径で上端から下端までほぼ垂直に落ち込み、柱穴状を呈する。

出土遺物 土師器甕3、須恵器杯1、甕1

所見 形状から柱穴と考えられるが、これに伴う柱穴は周囲からは確認されなかったため、土坑とした。覆土は不明。



B18号土坑 写真図版 20

位置 962-288 Gr

平面形態 不整円形

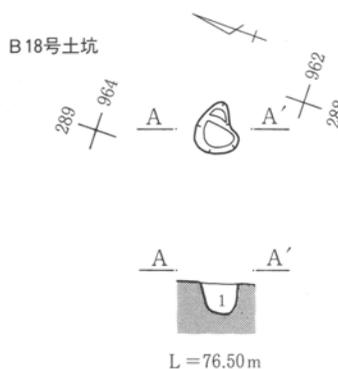
規模 長径0.58m 短径0.46m 深さ 33cm

主軸方位 N-45° -E 面積 0.21m<sup>2</sup>

掘り方 上端から下端までほぼ垂直に落ち込み、柱穴状を呈する。

出土遺物 土師器甕2

所見 形状から柱穴と考えられるが、これに伴う柱穴は周囲にない。一括埋土であり、短時間で埋まったものと考えられる。



B18号土坑土層注記

1. 褐灰 黒大塊・黄褐粘性土の大塊を僅含。

B22号土坑 写真図版 20

位置 983-312~313 Gr

平面形態 円形

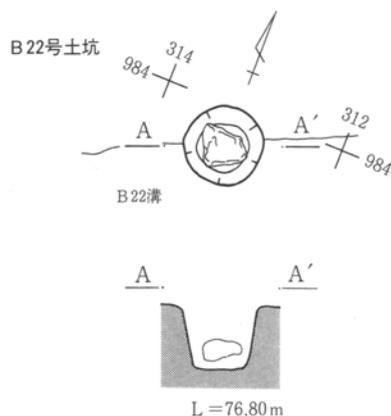
規模 長径0.84m 短径0.84m 深さ 79cm

主軸方位 N-37° -W 面積 0.55m<sup>2</sup>

掘り方 上端から下端までほぼ垂直に落ち込み、柱穴状を呈する。

出土遺物 土師器杯8

所見 B22号溝の肩にある。底部近くに長径40cm以上の大型礫があり、根石と考えられるため、柱穴であったと考えられるが、この柱穴に伴うと考えられる遺構は見つからなかった。覆土は不明。



0 1/80 2m

第26図 B16、B18、B22号土坑

B55号土坑 写真図版 22

位置 981~982-359~360 Gr

平面形態 不整形円形

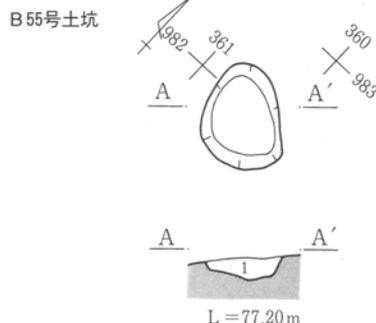
規模 長径1.13m 短径0.84m 深さ 24cm

主軸方位 N-52° -W 面積 0.77m<sup>2</sup>

掘り方 不整形に底面まで落ち込む。底面も平坦な箇所はない。

出土遺物 土師器甕1、須恵器甕2

所見 一括埋土であり、短期間に埋まったと考えられる。性格は不明。



B55号土坑土層注記

1. 黒褐 (10YR3/2) 砂質。しまり弱。

B60号土坑 写真図版 23

位置 985-327~378 Gr

平面形態 円形

規模 長径0.5m 短径0.44m 深さ 35cm

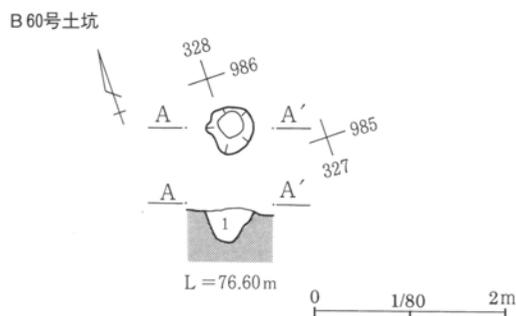
主軸方位 N-40° -E 面積 0.18m<sup>2</sup>

掘り方 柱穴状であるが、底部は鍋底状を呈する。

上端より10cm強の所に中段がある。

出土遺物 土師器杯1

所見 柱穴と考えられるが、これに伴う柱穴は周囲からは確認されなかったため、土坑とした。



B60号土坑土層注記

1. 黒褐 (10YR3/2) 灰白土を多含。炭化物少含。鉄分沈着少量有。粘性強・しまり強。

第27図 B55、B60号土坑

(5) 井戸跡

B1号井戸 写真図版 24・31

位置 975~977-355~357 Gr

平面形態 円形

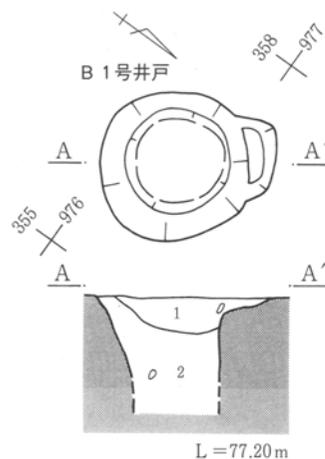
規模 長径1.86m 短径1.32m 深さ 86+cm

主軸方位 N-36° -W 面積 2.29m<sup>2</sup>

掘り方 上端より60cmくらいまでが朝顔状に広がるが、そこより下はほぼ垂直に落ち込む。86cmより下は未調査。

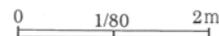
出土遺物 土師器杯1、甕6、須恵器杯3、甕5、壺1、軟質陶器鍋3、陶器甕2、鉢1、磁器碗2、徳利1

所見 出土遺物より見るとB1号住居などと同時代のものと考えられる。新しい遺物も見受けられるが、出土層が不明のため性格は分からない。埋土は徐々に埋まっていった様子が見られる。



B1号井戸土層注記

1. 暗褐 (10YR3/3) 黒褐粒・にぶい黄褐少含。灰黄褐粒極少含。粘性弱・しまり中。  
2. 黒褐 (10YR3/2) 黒褐粒少含。黄褐粒を斑状に含む。灰白粒~大塊含む。粘性中・しまり中。



第28図 B1号井戸



第29図 B1号井戸出土遺物

B1号井戸出土遺物観察表

遺物No.	写真頁	種類	材質	残存状態	出土位置	量目 (cm・g)				特徴
						長さ	幅	厚さ	重量	
1	31	金属器	鉄	破片	不明	5.5	0.5	0.6	4.2	
2	31	金属器	鉄	破片	覆土	8.6	1.7	0.5	3.3	中空になっている
3	31	金属器	鉄	破片	覆土	4.3	1.9	0.4	4.4	

## (6) 水田跡

本遺跡の西部ではAs-B軽石の1次堆積層が残っており、その軽石の下からは水田跡が確認された。しかしながら、おおよそY軸385ラインより東では後の耕作の影響があるためか、確認できなくなる。

ここで確認されたAs-B軽石下の水田は畦畔間の南北の長さの平均が13.4m、東西の長さの平均が12.4mであった。やや形が南北に長くなっているが、ほぼ条里を意識した区画になっている。本遺跡の西に続く、前橋市教育委員会が平成7年度に調査した西田遺跡や、さらにその西の平成9年度に当事業団が調査した西田遺跡でもAs-B軽石の下から、条里を意識した水田の広がりが確認されている。両西田遺跡のAs-B軽石下の水田の平面図と照らし合わせると本遺跡の畦畔とつながり続いていた。そこで本遺跡の水田も西に広がるこれらの水田につながる一部であったことが想定される。

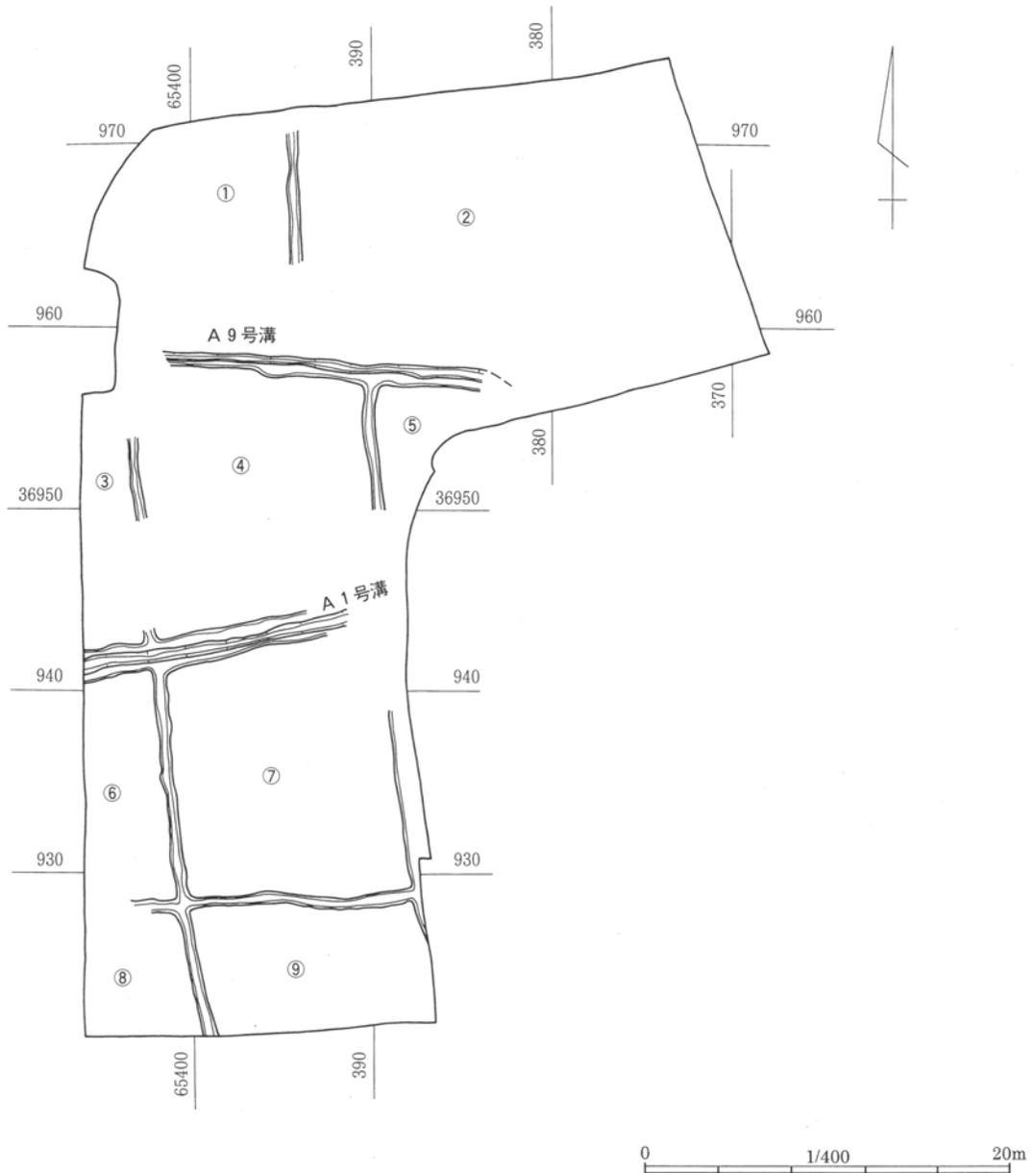
しかしながら、本遺跡の水田の残存状態は、あまりよくなく、畦畔もすべてが高まりをもって確認されているのではない。As-B軽石降下後の耕作などの土地利用によって、削平されてしまい、畦畔は基部が残るのみであった。よって、耕作面と畦畔部分

の高低差はあまり無く、As-B軽石のユニットで一番下にあたる灰色の細かい灰が残存している部分を耕作面、それが無い部分を畦畔としてとらえ、畦畔を確認した。

水田に伴うA1号、A9号の2条の溝がおおよそ西から東に向かって流れていた。しかし、この2条の溝も並行しておらず、東に行くに従い、間隔が狭くなっていた。碁盤目状に広がってきた水田は、本遺跡のすぐ東側を南流する端気川によって、平面的な広がりを地理的に規制される。ほぼ条里を意識して作られていた畦畔も東にいくに従い、やや北に振れている。これらの東西に走る畦畔は、端気川に近づいてその流路方向にやや引っ張られる形で、歪みが生じていると想定される。

水田は狭い面積でしか確認されず合計で9枚のみの確認となった。そのうちほぼ4面を畦畔に囲まれた水田は2枚確認されたのみである。それ以外の水田のうち、南北方向は調査区外に畦畔がのびており、水田の更なる広がりが想定できる。

写真図版 26



第30図 As-B下水田 全体図

As-B軽石下水田 計測一覧表

No	面積 (m <sup>2</sup> )	南北長 (m)	東西長 (m)	水口
①	(126.0)	(11.0)	(13.4)	無
②	(151.2)	(10.0)	(13.8)	無
③	(42.4)	(3.4)	(15.6)	無
④	171.8	14.4	12.4	無
⑤	(39.6)	(6.6)	(5.6)	無
⑥	(54.8)	12.4	(4.2)	無
⑦	167.8	13.4	12.4	無
⑧	(39.2)	(6.6)	(5.6)	無
⑨	(85.6)	(7.0)	12.4	無



第31図 As-B下水田（1）

A 1号溝 写真図版 5

位置 942～944-391～405 Gr

重複 なし

規模 長さ15.0m 幅0.4～0.8m

深さ 5～8cm

掘り方 とても浅く、鍋底状に底部が丸まる。

遺物 土師器甕4、須恵器甕1

所見 N-77° -Eの走向。東端は944-393Gr付近で浅くなり確認できなくなり、西端は調査区外に及ぶ。並行して走る水田の畦畔に挟まれた溝。隣接する西田遺跡（平成7年前橋市埋蔵文化財発掘調査団調査）、西田遺跡（平成9年当事業団調査）から続いており、水田の水路として機能していたと想定される。

A 9号溝 写真図版 5

位置 957～958-383～401 Gr

重複 なし

規模 長さ18.2m 幅0.2～0.7m

深さ 1～4cm

掘り方 とても浅く、鍋底状に底部が丸まる。

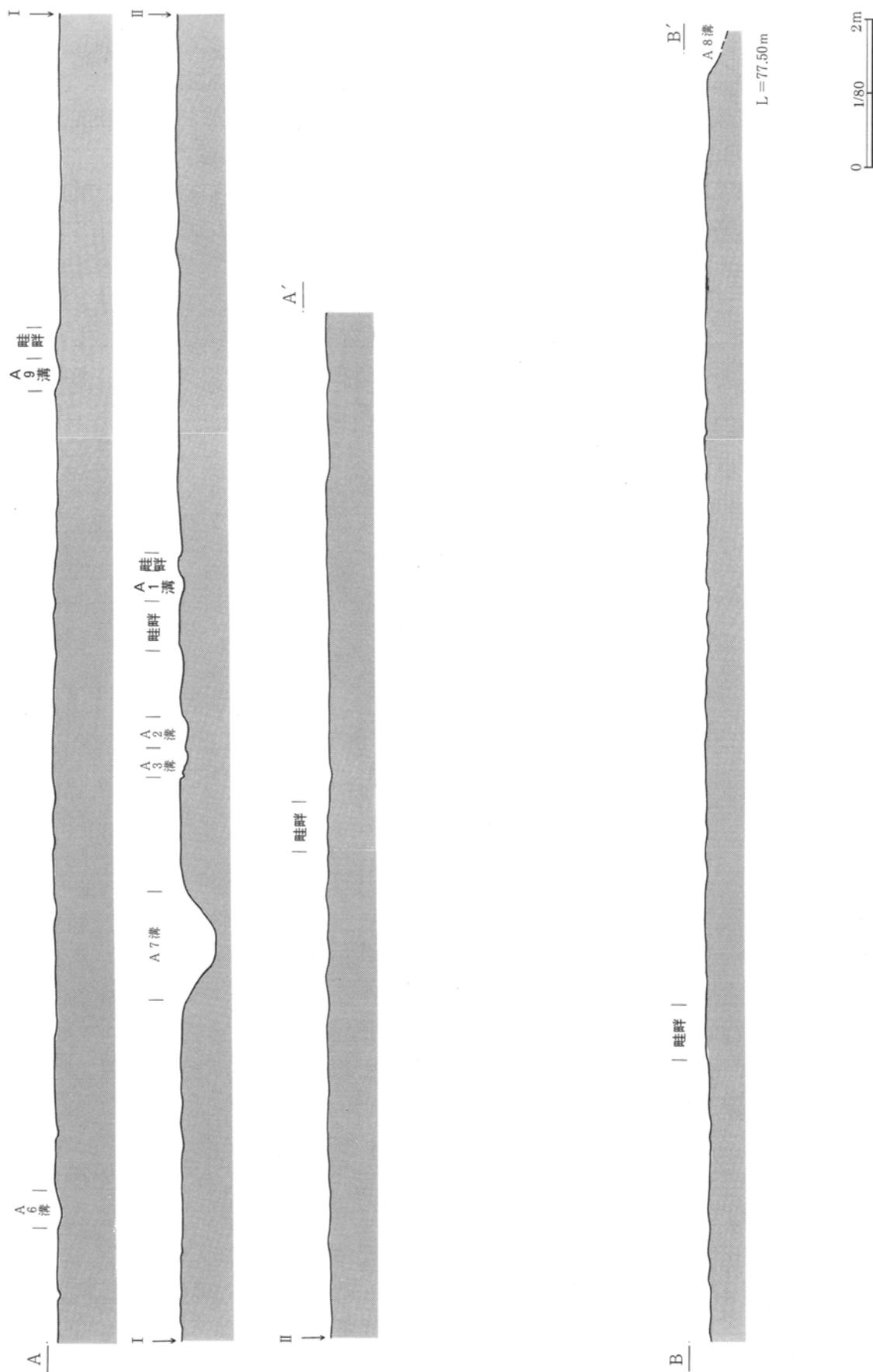
遺物 なし

所見 隣接する西田遺跡（平成7年前橋市埋蔵文化財発掘調査団調査）、西田遺跡（平成9年当事業団調査）から続く。前橋市教育委員会の報告書ではこの溝とこの溝の北にもう1条の並行する溝を確認しており、間に挟まれた幅約80～100cmの微高地はAs-B軽石が踏み固められていたため、道路状遺構、あるいは鳥畑の可能性を指摘している。当遺跡では、北に並行する溝は確認されず、後年の削平によって



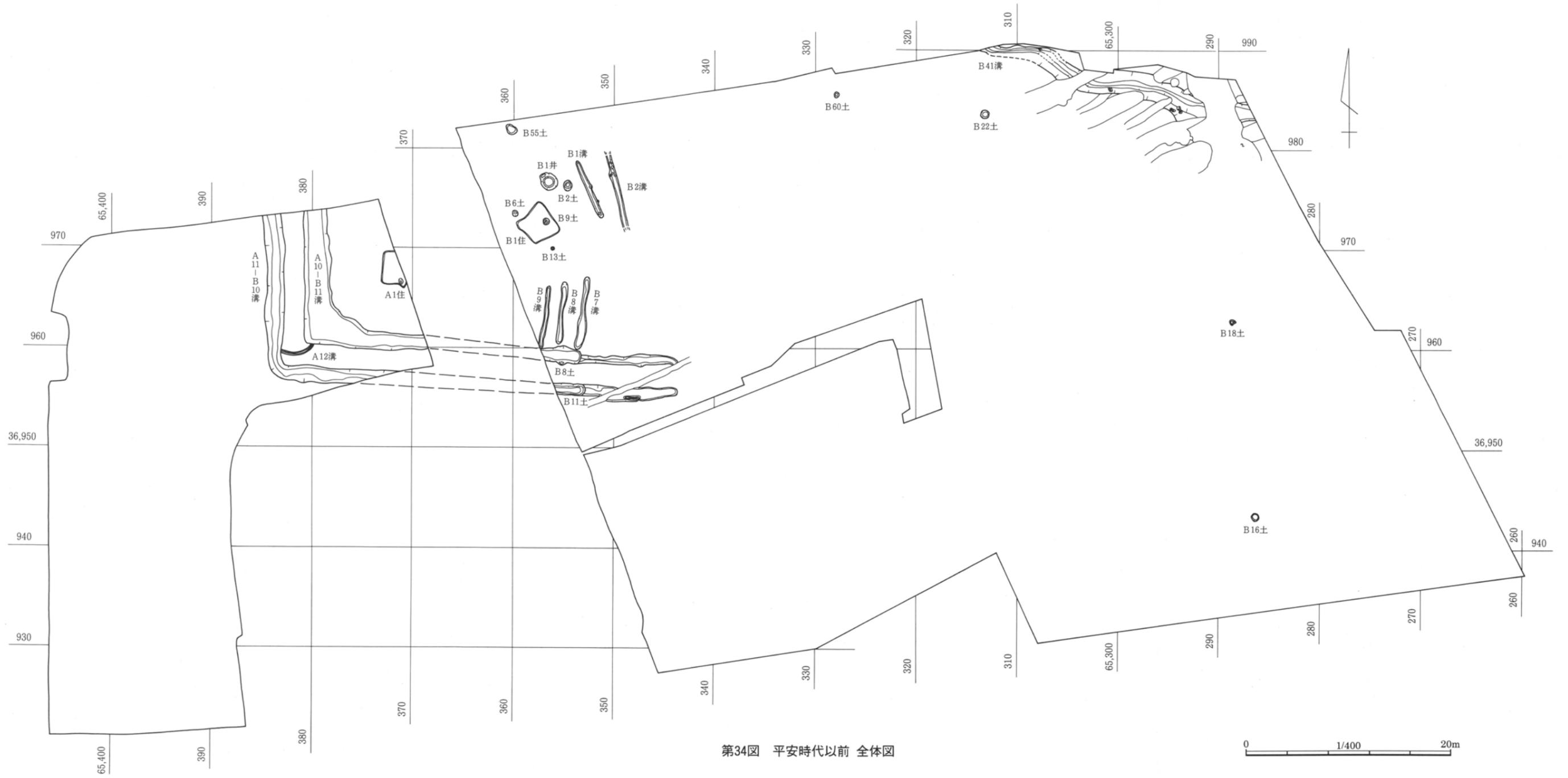
消失したものと考えられる。南に接し並行する水田畦畔がある。東端は徐々に浅くなり、確認できない。

第32図 As-B下水田(2)



第33図 As-B下水田 断面図

鶴光路榎橋遺跡  
平安時代以前 全体図





## 第2節 中近世

### (1) 遺構・遺物の概要

本遺跡の時代を特定し難かった遺構については、おおよそ本節の中で紹介する。発掘調査時に多くの溝とピットが確認された。しかし、これらの遺構については時代を特定しうる情報が少なく、遺構同士の新旧関係についても不明な点が多かったため、やや大きい時間の中で「中近世」とした。

多くの溝は南北の軸が30°前後西に傾いたものと、それらに直交する溝によって構成されている。この角度は遺跡のすぐ東を南流する端気川の向きとほぼ同一である。周辺の環境等も加えて考えると、これらの溝は環濠屋敷の周囲に築かれた濠と考えられる。さらに全体としては、それらが連結した環濠遺構群の様相を呈している。また、これらの溝は空間的間隔をあけずに同一方向に築かれているものも多くあ

り、ある程度の時間的幅を持って、これらの溝の関係を捉える必要もある。しかし、これらの環濠内では建物を想定できるピットは少なく、その環濠内部構造は不明な点が多い。そこでここでは一つの機能を持った環濠屋敷としてではなく、各々の遺構を観察していく。また同時期に機能していたことが確認できる遺構については、それぞれの遺構の中で述べていく。

ピットの中で規則的に並ぶものについては、掘立柱建物や柵列と想定した。それ以外のピットについてはピット群としてある。

本節で扱う遺構数は掘立柱建物9、柵列13、溝57、土坑30、井戸9、土坑墓1、ピット群8である。

### (2) 掘立柱建物跡・柵列跡

1号掘立柱建物 写真図版 4・31

位置 971~973-372~376 Gr

重複 なし

規模 東西(4.4)m 南北(2.7)m

面積 (10.28)m<sup>2</sup>

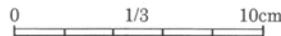
主軸方位 N-87° -E

出土遺物 土師器坏8、甕3、須恵器蓋1

所見 残存して確認できるのは、1間×1間分であるが、調査区の隅にあるため、東方向、北方向に続く可能性が考えられる。ここでは東方向にのびるという想定をもって作図してある。柱間は桁行が平均2.25m、梁行が平均2.47mである。桁は完全には並行しておらず、やや東に向かって広がった形を呈している。



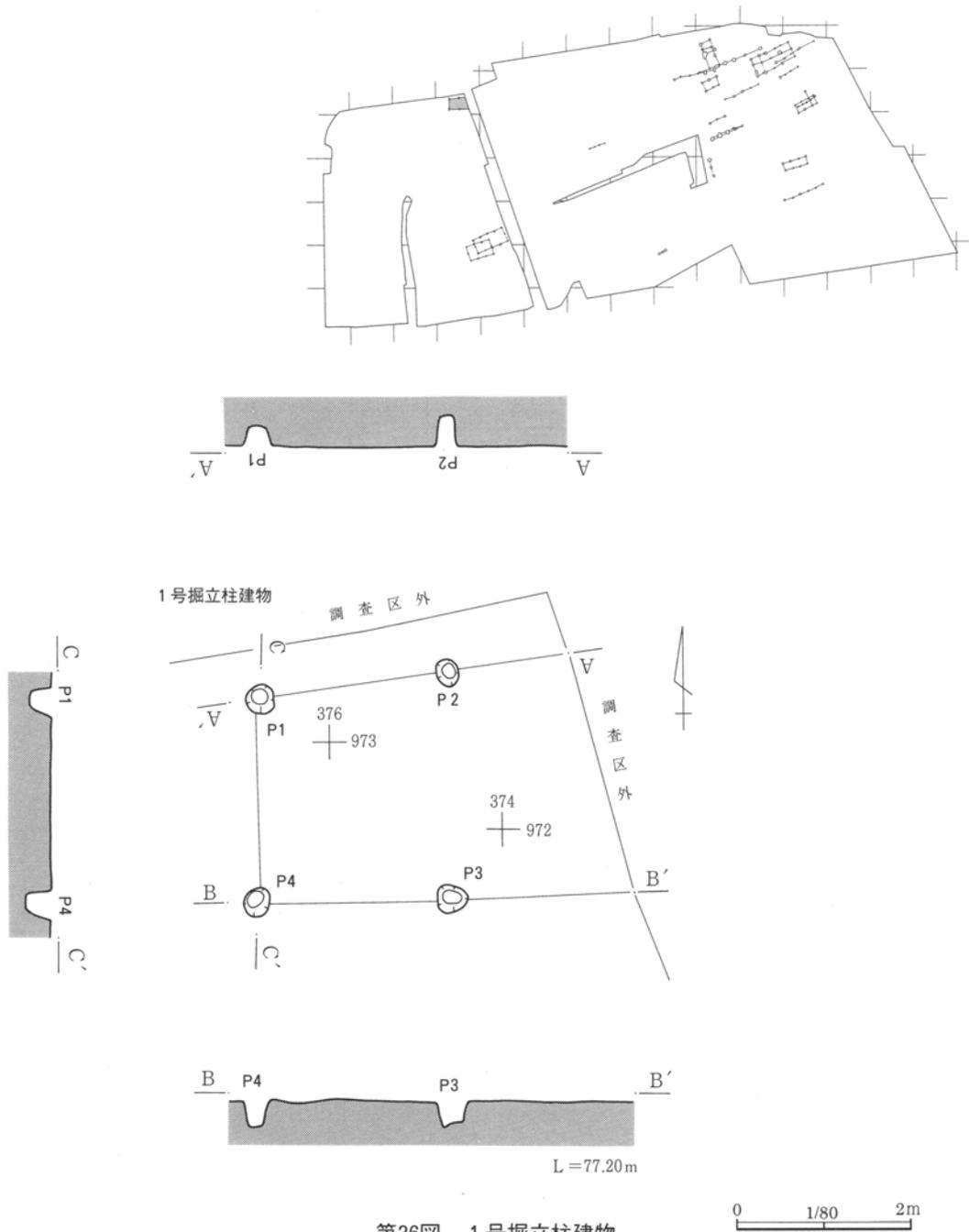
1 掘立-1



第35図 1号掘立柱建物出土遺物

1号掘立柱建物出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
1 31	①須恵器 ②蓋 ③体部片	2ピット	口- 底- 高-《2.8》	①細 細砂~礫. パミスを少量含む ②還元焰 普通 ③灰白2.5Y7/1	ロクロ調整(右)天井部回転斲削り



第36図 1号掘立柱建物

11号掘立柱建物

位置 982~986-315~319 Gr

重複 12号掘立柱建物

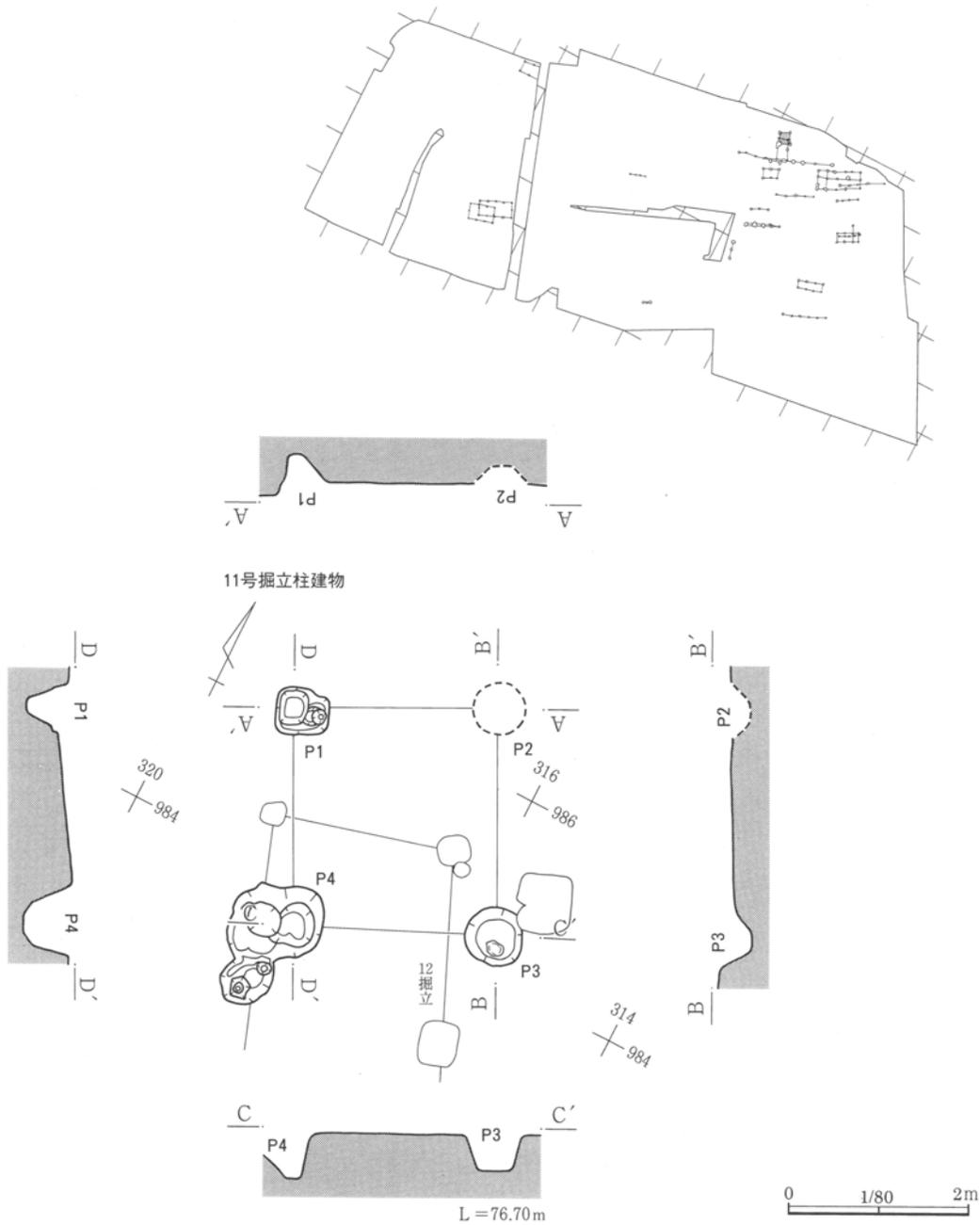
規模 東西2.3m 南北2.5m

面積 5.80m<sup>2</sup>

主軸方位 N-29° -W

出土遺物 須恵器坏7、甕1

所見 1間×1間の建物と考えられる。2号ピットは発掘調査時には確認されなかったため、想定復元した。4号ピットは12号掘立柱建物の6号ピットと重複して確認されている。柱間は平均して2.38mである。この建物は径が50cm以上ある大型のピットにより構成されているため、通常の掘立柱建物と想定しがたいものである。



第37図 11号掘立柱建物

12号掘立柱建物

位置 979~985-314~319 Gr

重複 新旧不明B22号溝、11号掘立、11、12号柵列

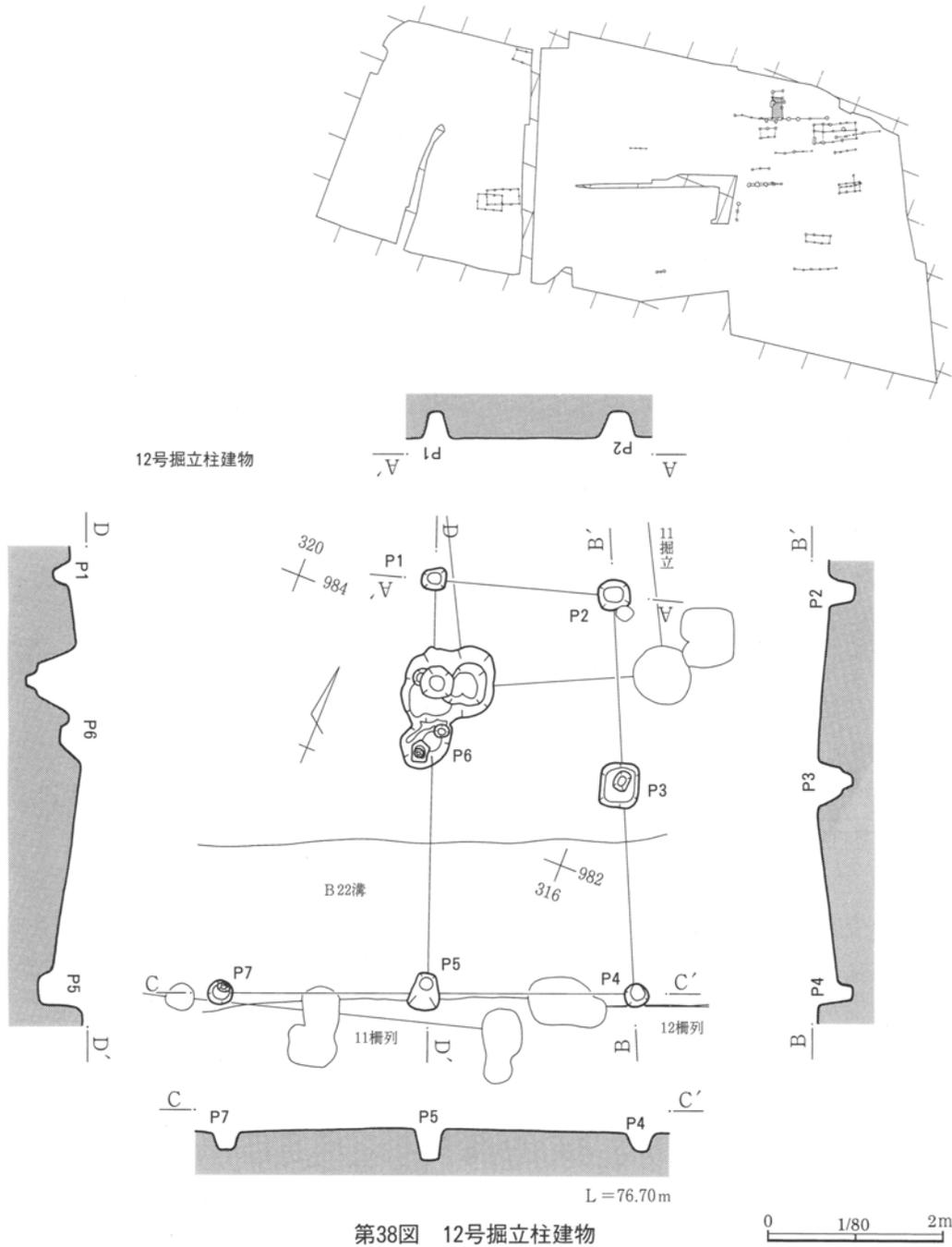
規模 東西4.7m 南北4.8m

面積 10.32m<sup>2</sup>

主軸方位 N-22° -W

出土遺物 土師器坏1、甕2、須恵器坏1

所見 1間×2間の建物と考えられる。6号ピットは11号掘立柱建物の4号ピットと重複している。南の梁は西に1間のびる。柱間は桁行が平均2.32m、梁行が平均2.30mである。3号ピットは他に比べやや大きく、また一段深い柱跡と考えられるくぼみがあり、平面形態も隅丸方形を呈する。



13号掘立柱建物

位置 974~978-314~318 Gr

重複 新旧不明B25号溝、B2号井戸

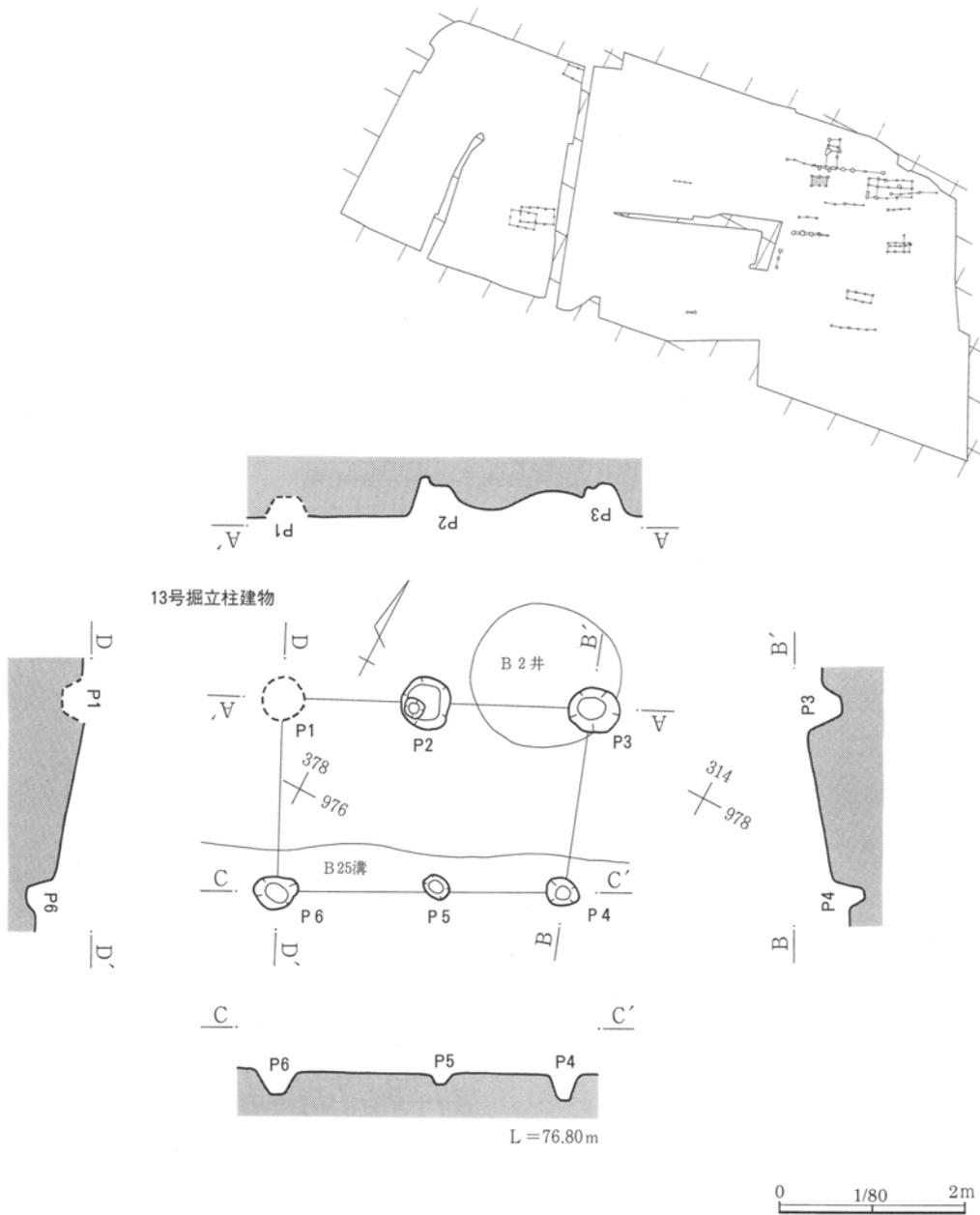
規模 東西3.2m 南北2.1m

面積 6.80㎡

主軸方位 N-23° -W

出土遺物 なし

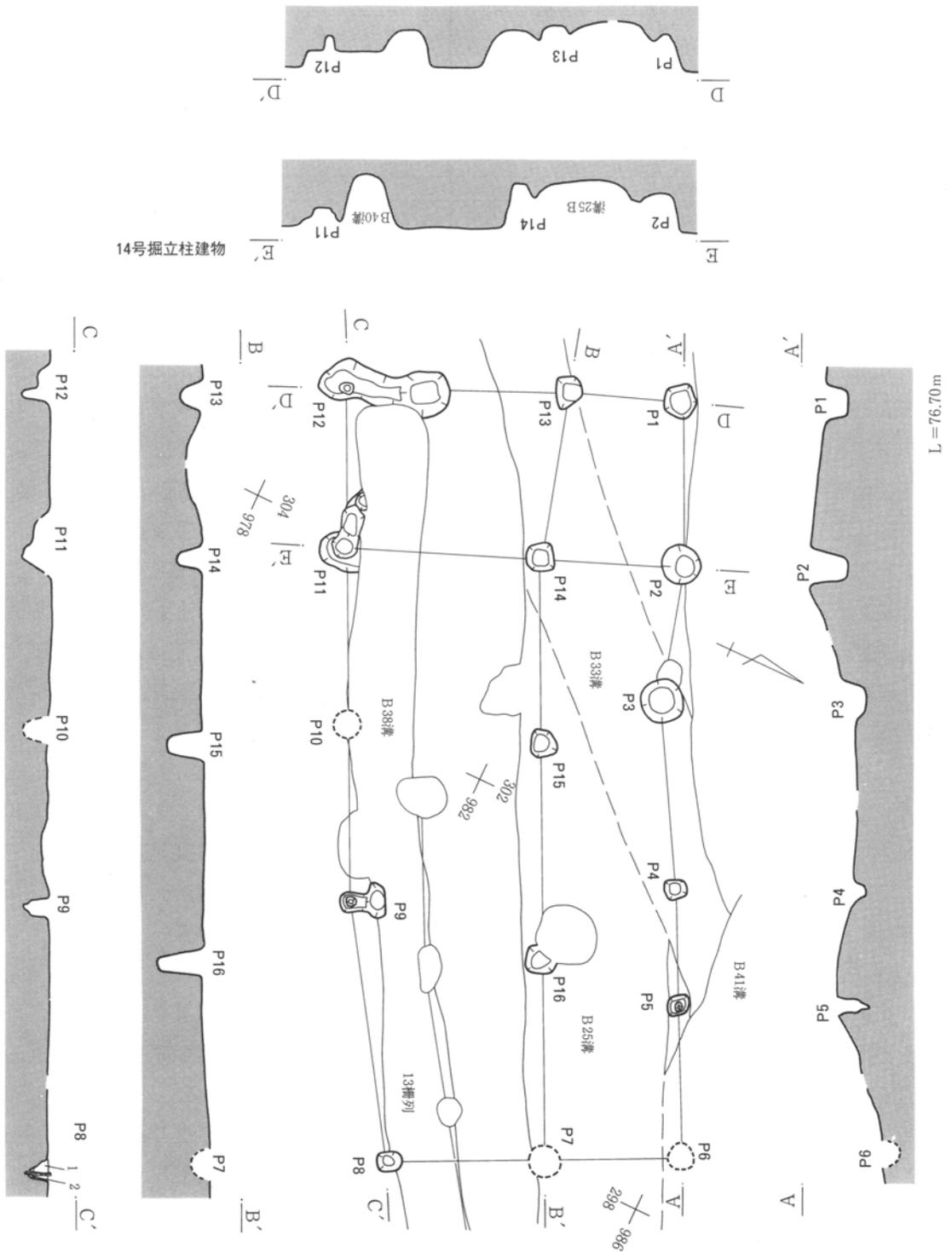
所見 2間×1間の建物と考えられる。1号ピットは発掘調査時には確認されなかったため、想定復元した。2号ピットは一段深い柱跡と考えられるくほみがある。4号ピットはやや西による。柱間は桁元が平均1.60m、梁行が平均2.05mであり、梁行がやや広い。底面の深さは32cmの差があり、掘立柱建物と想定しがたい点も残る。



第39図 13号掘立柱建物

14号掘立柱建物 写真図版 4・31  
 位置 978~986-297~307 Gr  
 重複 新旧不明B25、B33、B38号溝、13号柵列  
 規模 東西9.7m 南北4.3m  
 面積 15.58m<sup>2</sup>  
 主軸方位 N-66° -E  
 出土遺物 なし

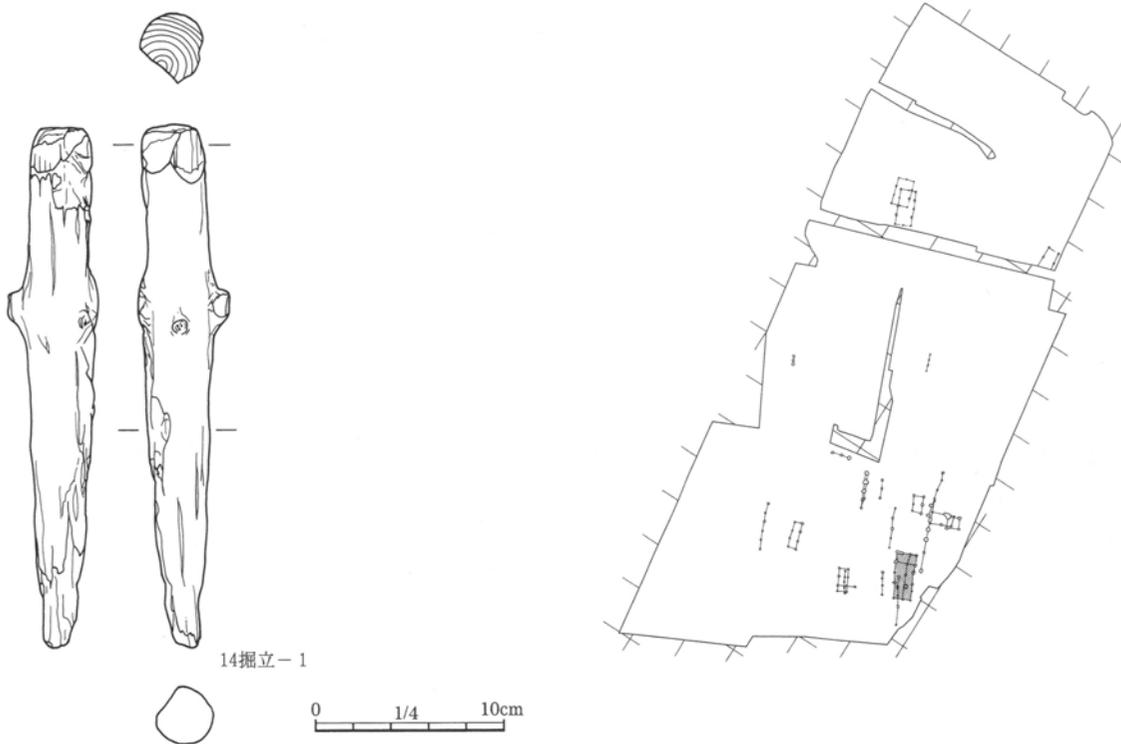
所見 5間×2間の建物と考えられる。6、7、10号ピットは発掘調査時には確認されなかったため、想定復元した。8号ピットは杭が残存していた。また位置がやや北にあがる。3、4、5号ピット間がやや狭くなるが、他はほぼ均等に配置されている。柱間は桁行が平均2.20m、梁行が平均2.10mである。底面の深さは43cmの差があり、掘立柱建物と想定しがたい点も残る。



14号掘立柱建物土層注記

1. 黒褐 (10YR2/3) 灰白粘質土粒を含む。白粒・黄褐粒少含。  
黒褐砂質土少含。粘性強・しまり強。
2. 黒褐 (10YR2/2) 粘質土。灰白粘質土少含。粘性強・しまり強。

第40図 14号掘立柱建物



第41図 14号掘立柱建物出土遺物

14号掘立柱建物出土遺物観察表

遺物No.	写真頁	種類	器種	残存状態	出土位置	量目 (cm・g)				特徴
						長さ	幅	厚さ	重量	
1	31	木器	杭	上半部	8ピット底面	<27.4>	4.9	3.7	192.7	マツ科 下半部が欠落 下半は細くなるため残存より長さが極端に長くはならない

15号掘立柱建物 写真図版 31

あり、掘立柱建物と想定しがたい点も残る。

位置 969～975-292～297 Gr

重複 新旧不明B46号土坑、18号柵列

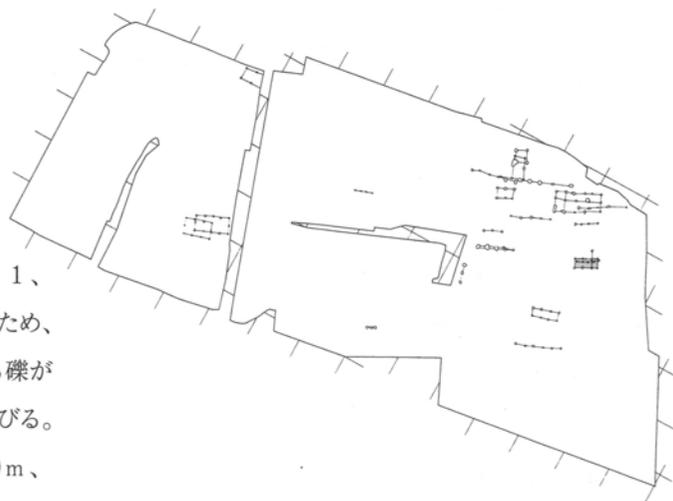
規模 東西4.8m 南北2.0m

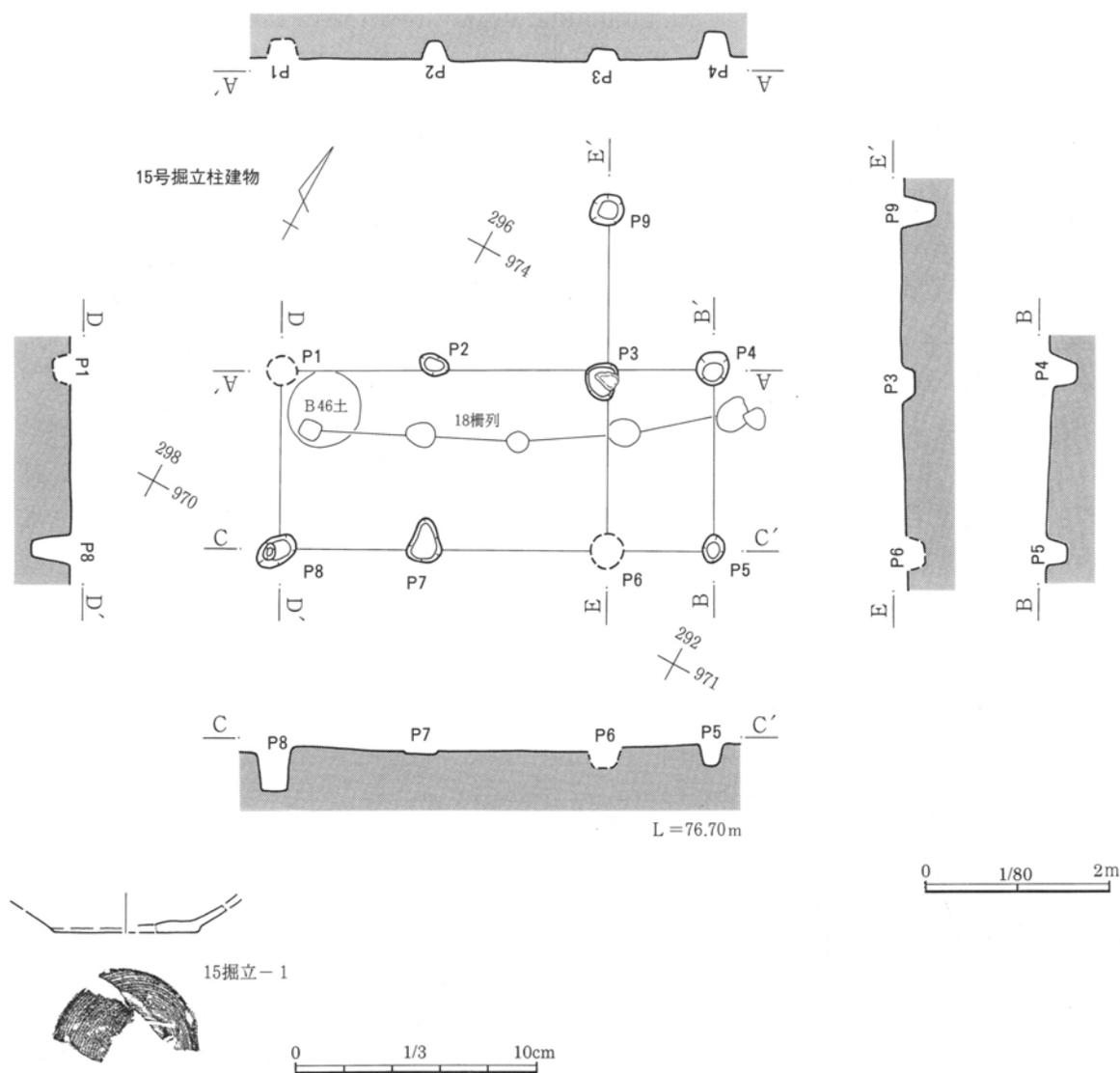
面積 9.41m<sup>2</sup>

主軸方位 N-62° -E

出土遺物 土師質土器皿2

所見 3間×1間の総柱の建物と考えられる。1、6号ピットは発掘調査時には確認されなかったため、想定復元した。3号ピットには根石と思われる礫が残存していた。東から2列目の梁は1間北にのびる。この列はやや東による。柱間は桁行が平均1.50m、梁行が平均1.85mである。底面の深さは41cmの差が





第42図 15号掘立柱建物および出土遺物

15号掘立柱建物出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
1 31	①土師質土器 ②皿 ③底部片	9ピット	口- 底-(6.0) 高-(1.1)	①細 細砂、雲母、褐色鉱物粒を少量含む ②酸化焰 良好 ③にぶい橙 5 YR 6/3	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整

16号掘立柱建物

位置 937~944-363~371 Gr

重複 新旧不明A 5号土坑、17号掘立

規模 東西7.2m 南北3.2m

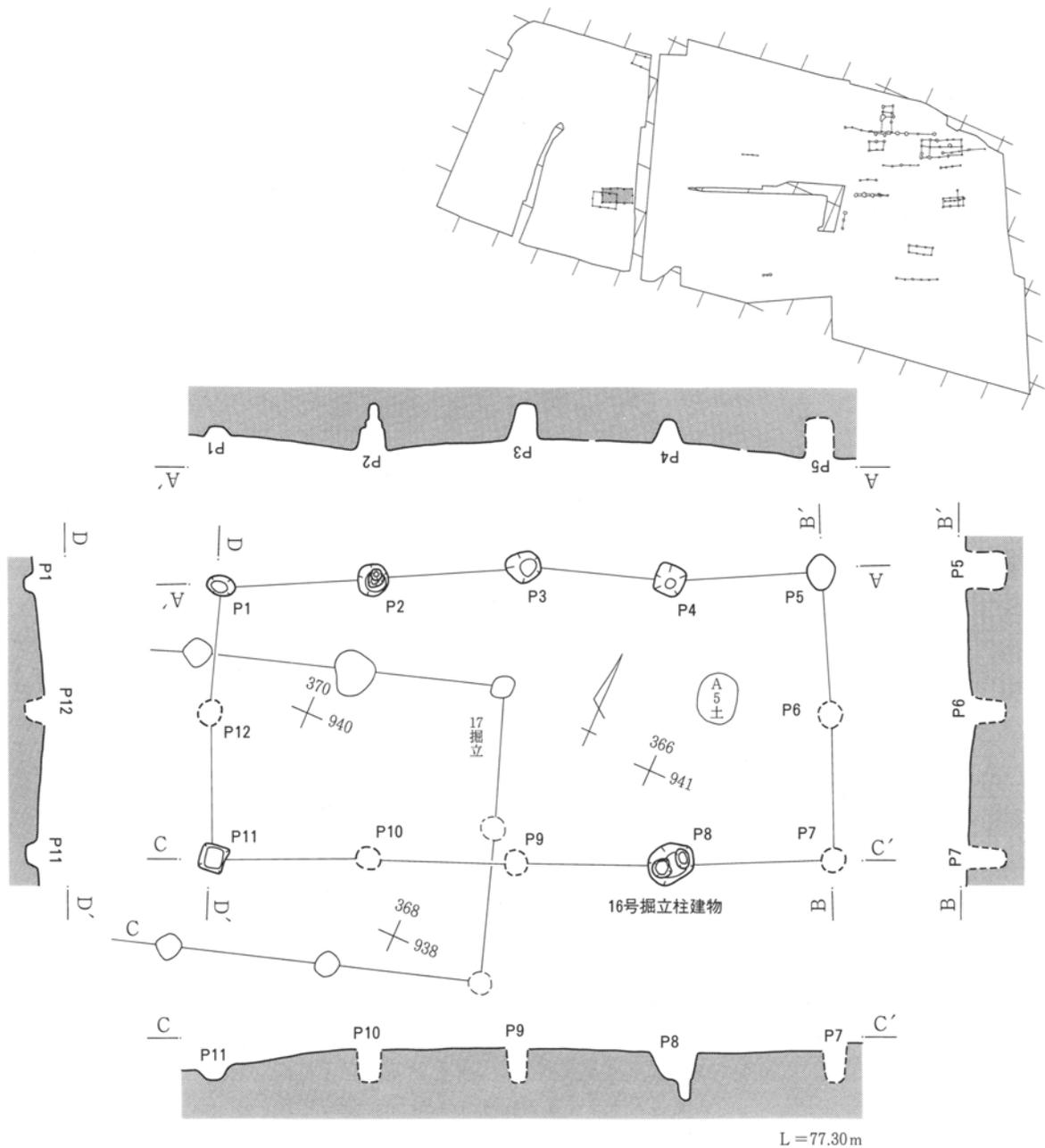
面積 24.84m<sup>2</sup>

主軸方位 N-64° -E

出土遺物 土師器甕 1

所見 4間×2間の建物と考えられる。6、7、9、

10、12号ピットは発掘調査時には確認されなかったため、想定復元した。5号ピットは底面のデータが発掘調査時に得られなかったため、底面を推定した。2、8号ピットは柱跡と考えられるくぼみが確認できる。4、11号ピットは隅丸方形の平面形態を呈するが、他は円形に近い。柱間は桁行が平均1.70m、梁行が平均1.65mである。



第43図 16号掘立柱建物

0 1/80 2m

17号掘立柱建物 写真図版 31

位置 936~941-366~373 Gr

重複 新旧不明16号掘立

規模 東西5.5m 南北3.5m

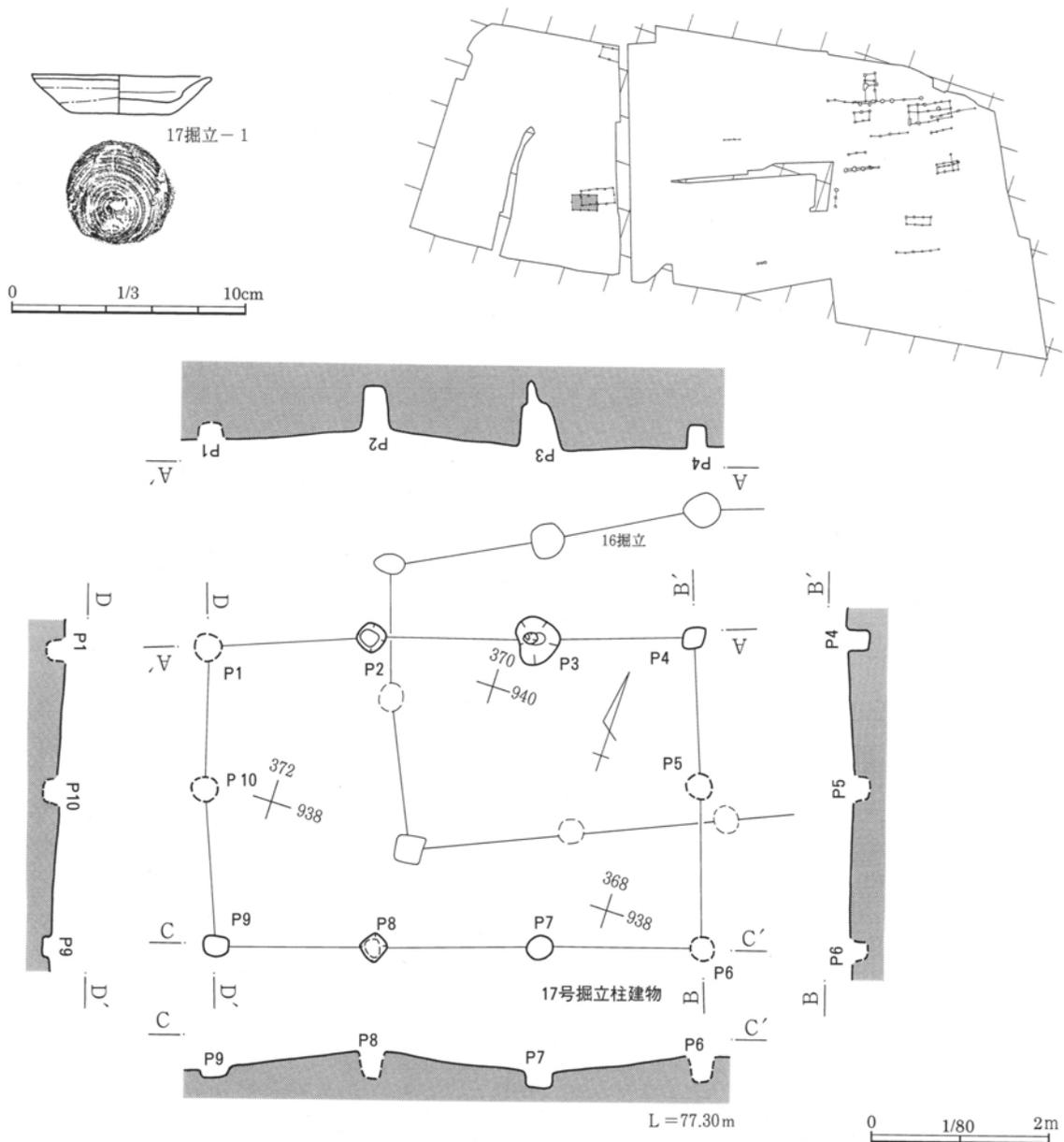
面積 19.39m<sup>2</sup>

主軸方位 N-71° -E

出土遺物 土師質土器皿1

所見 3間×2間の建物と考えられる。1、5、6、

10号ピットは発掘調査時には確認されなかったため、想定復元した。5号ピットは底面のデータが発掘調査時に得られなかったため、底面を推定した。2、8号ピットは柱跡と考えられるくぼみが確認できる。4、11号ピットは隅丸方形の平面形態を呈するが、他は円形に近い。柱間は桁行が平均1.85m、梁行が平均1.75mである。



第44図 17号掘立柱建物および出土遺物

17号掘立柱建物出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
1 31	①土師質土器 ②皿 ③2/3	3ピット	口-3.6 底-4.5 高-1.7	①細 細砂、褐色鈣物粒を含む ②酸化 良好 ③にぶい橙7.5YR7/4	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り無調整

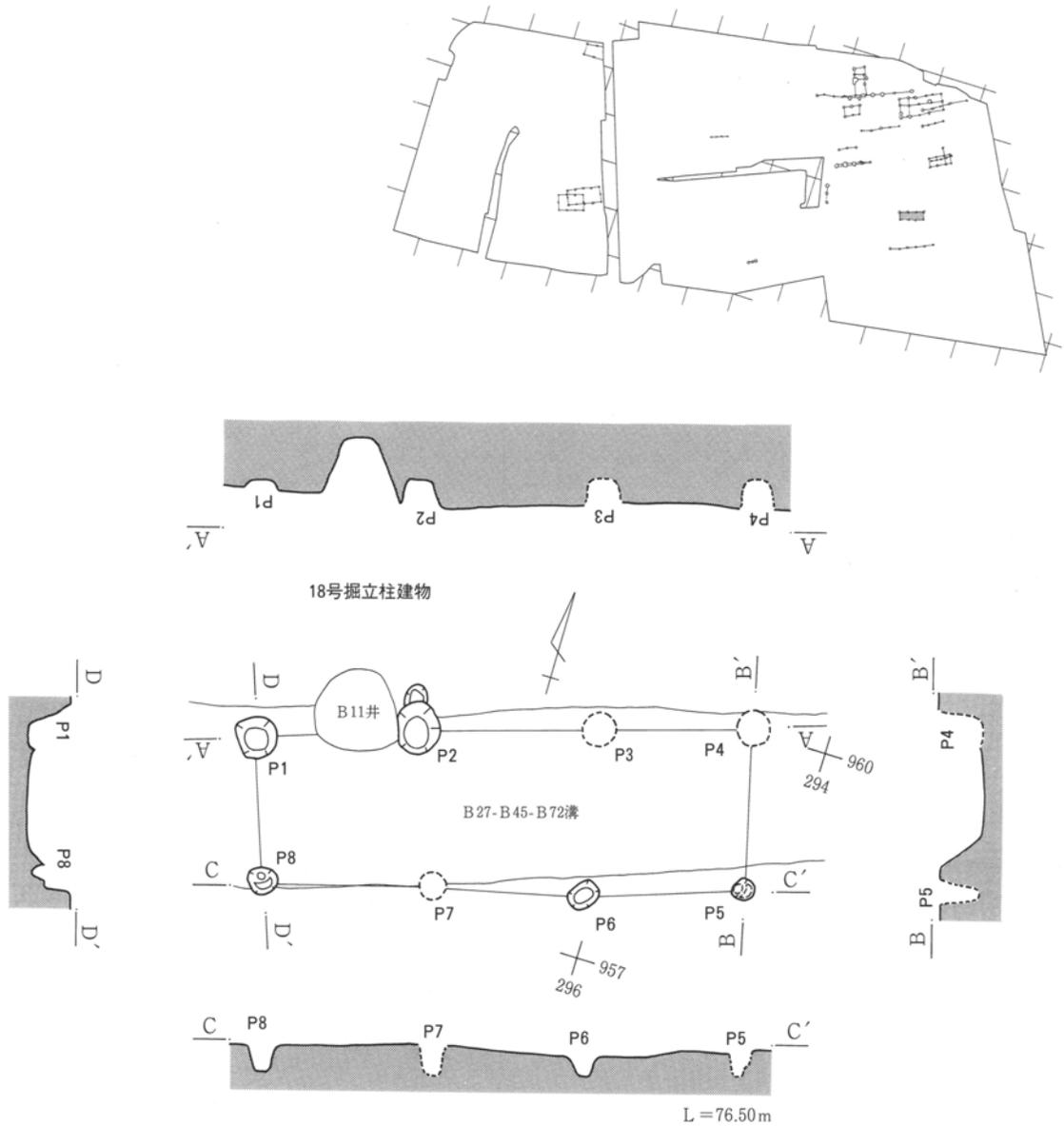
18号掘立柱建物

位置 956~960-294~300 Gr  
 重複 新旧不明B27-B45-B72号溝、B11号井戸  
 規模 東西5.4m 南北1.7m  
 面積 9.60㎡  
 主軸方位 N-72° -E

出土遺物 土師器坏1

所見 3間×1間の建物と考えられる。3、4、7号ピットは発掘調査時には確認されなかったため、想定復元した。5号ピットは底面のデータが発掘調査時に得られなかったため、底面を推定した。8号ピットは柱跡と考えられるくぼみが確認できる。1、

6号ピットは隅丸方形の平面形態を呈するがやや角度がずれている。他は円形に近い。柱間は桁行が平均1.80m、梁行が平均1.65mである。



第45図 18号掘立柱建物

0 1/80 2m

1号柵列

位置 961~965-341~344 Gr

重複 新旧不明B6号溝

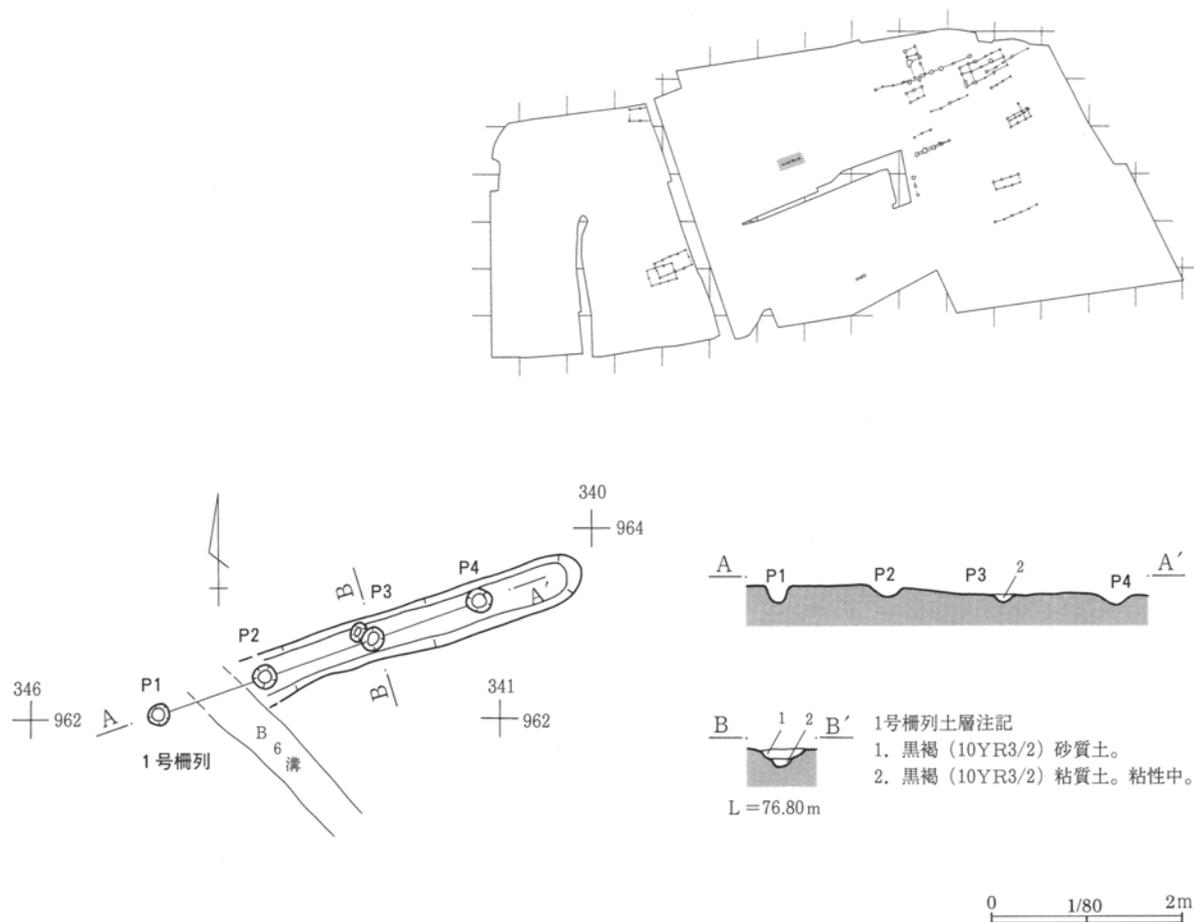
規模 3.6m

主軸方位 N-71° -E

出土遺物 なし

所見 3間の柵列と考えられる。2から4号ピット

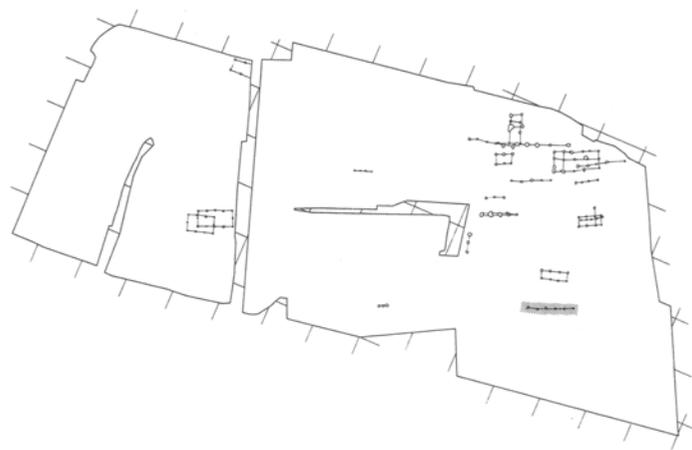
の間では柵列に重複して落ち込む溝状の遺構が確認されている。ピット間をつなぐ壁状などの構造物の基部のための掘り込みと想定される。ただし、残存する深さが12cm弱しかいないため、柱間に壁状の構造物があると想定するにはやや脆い印象が残る。柱間は平均1.20mである。

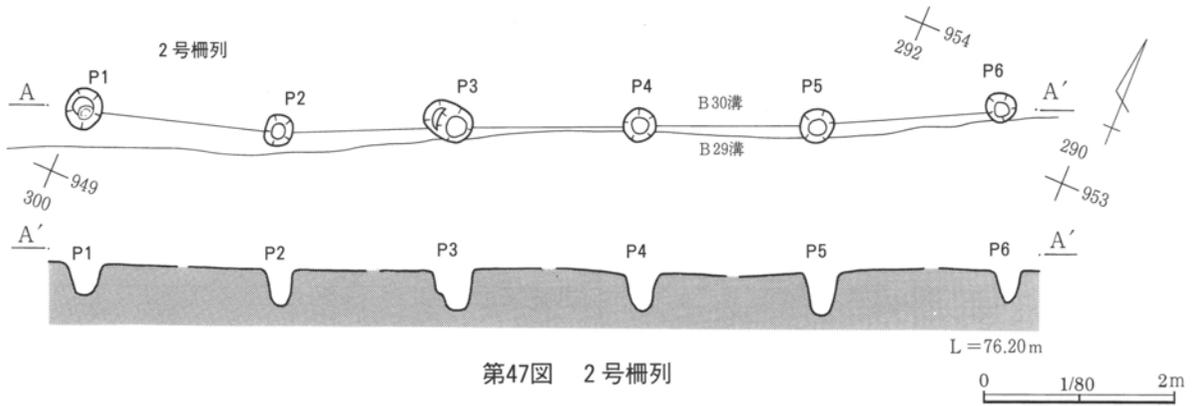


第46図 1号柵列

2号柵列 写真図版 4  
 位置 949～953-290～300 Gr  
 重複 新旧不明B29、B30号溝  
 規模 9.8m  
 主軸方位 N-67° -E  
 出土遺物 土師器坏1、礫1

所見 5間の柵列と考えられる。3号ピットは柱跡と考えられるくぼみが確認できる。1号ピットには根石と考えられる礫が1点残存していた。2号ピットはやや東よりに存在している。柱間は平均1.96mである。





第47図 2号柵列

3号柵列

位置 954~959-315~317 Gr

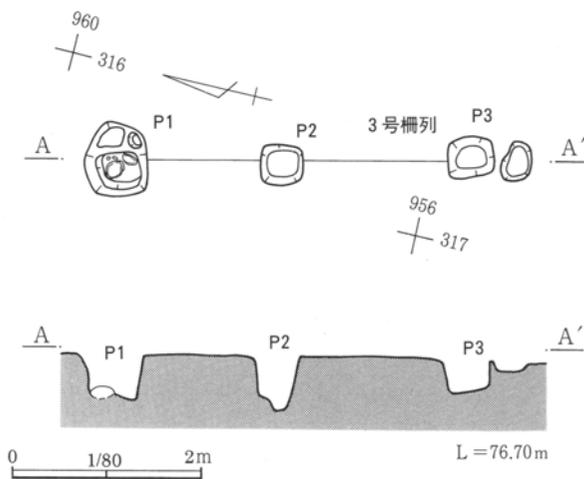
重複 なし

規模 4.3m

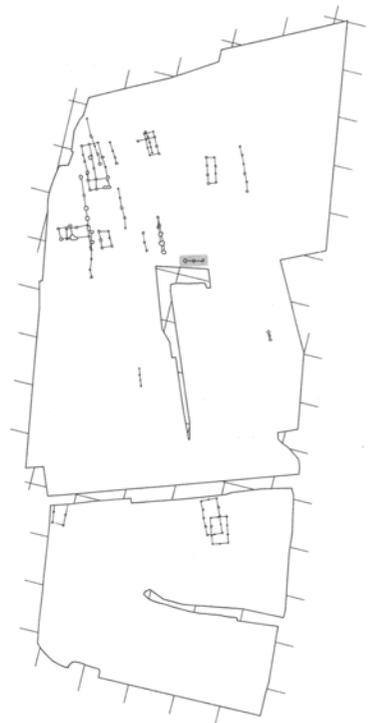
主軸方位 N-13° -W

出土遺物 土師器坏1、甕4、須恵器坏1

所見 2間の柵列と考えられる。1、2号ピットは柱跡と考えられるくぼみが確認できる。また、1号ピットには根石と考えられる礫が数点残存していた。すべての平面形態は隅丸方形形状を呈する。柱間は平均2.17mである。



第48図 3号柵列



4号、17号柵列

位置 963~967-309~316 Gr

重複 B40a号溝

規模 4号柵列 7.5m

17号柵列 7.3m

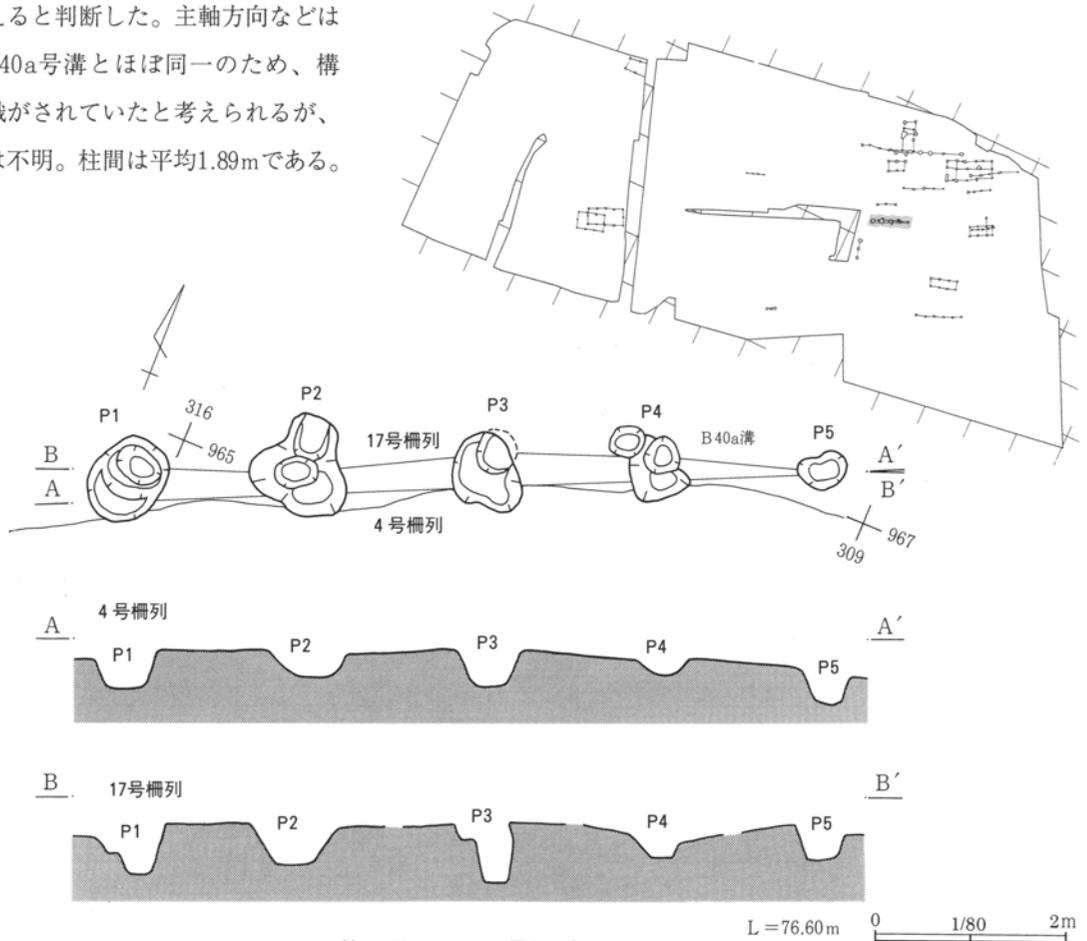
主軸方位 4号柵列 N-65° -E

17号柵列 N-67° -E

出土遺物 なし

所見 B40a号溝の南側の肩に存在している。4間の柵列と考えられる。1から4号ピットは複数の柱穴が重複した形状を呈しており、ここでは、両柵列が重複していると考えた。1から4号ピットはそれぞれ別の高さの底面を用い、5号ピットについては両柵列で位置が完全に重複しているため1つの

ように見えると判断した。主軸方向などは重複するB40a号溝とほぼ同一のため、構築時に意識がされていたと考えられるが、その性格は不明。柱間は平均1.89mである。



第49図 4、17号柵列

11号柵列

位置 977~980-315~327 Gr

重複 新旧不明B22号溝、12号掘立、12号柵列

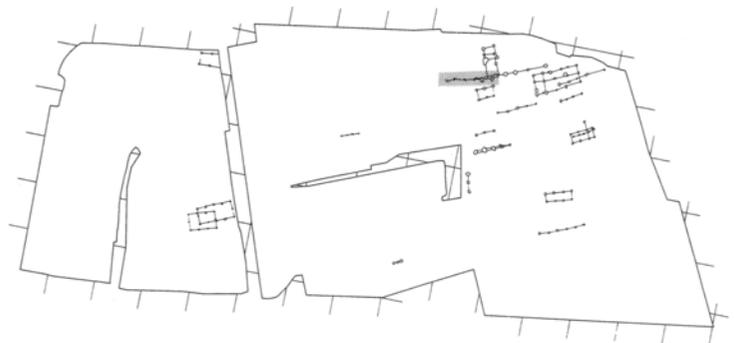
規模 9.4m

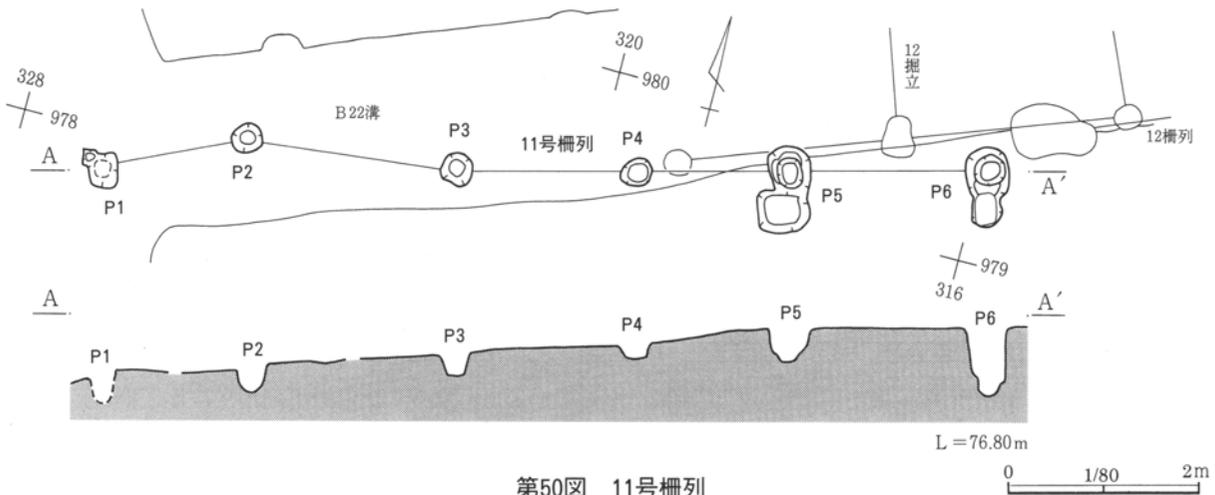
主軸方位 N-75° -E

出土遺物 なし

所見 B22号溝の南側の肩から中心部分にかけて存

在している。5間の柵列と考えられる。1号ピットは底面のデータが発掘調査時に得られなかったため、底面を推定した。1、5、6号ピットは複数の柱穴が重複した形状を呈している。5、6号ピットは柱跡と考えられるくぼみが確認されている。柱間は平均1.90mである。





第50図 11号柵列

12号柵列 写真図版 31

位置 980~984-304~315 Gr

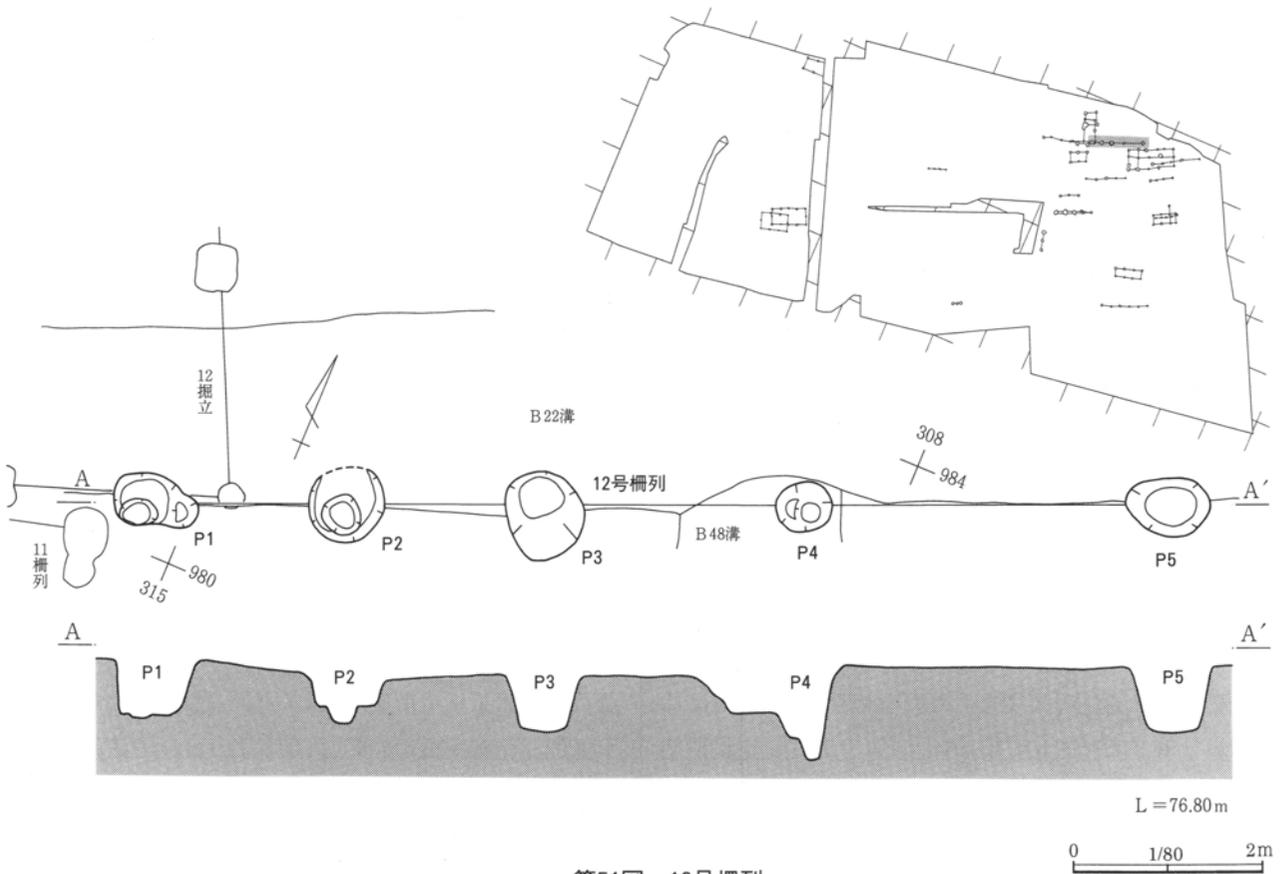
重複 新旧不明B22、B48号溝、12号掘立

規模 11.0m

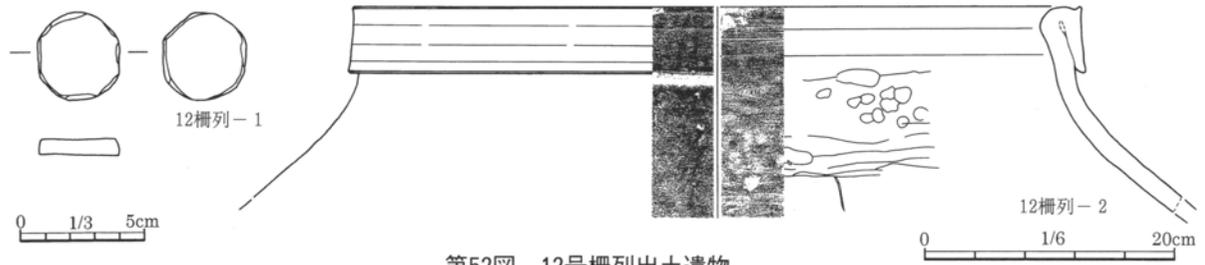
主軸方位 N-68° -E

出土遺物 土師器甕14、須恵器坏1、灰釉陶器碗3、  
甕1、土師質土器皿1、陶器碗1、大甕1、土製品1

所見 B22号溝の南側の肩に存在している。4間の柵列と考えられる。1号ピットは複数の柱穴が重複した形状を呈している。1、2、4号ピットは柱跡と考えられるくぼみが確認されている。主軸方向などは重複するB22号溝とほぼ同一のため、構築時に意識がされていたと考えられるが、その性格は不明。柱間は平均2.72mである。



第51図 12号柵列



第52図 12号柵列出土遺物

12号柵列出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
1 31	①軟質陶器 ②転用円盤 ③ほぼ完形	5ピット	縦-3.4 横-3.2 厚さ-0.7	①粗 細砂、粗砂、パミスを多量に含む ②酸化焰 良好 ③明赤褐 5 YR5/6	内耳鍋か焙烙を加工した円盤 泥メンコ か
2 31	①陶器 ②大甕 ③口縁部片	3ピット	口-(58.8) 底- 高-(16.4)	①粗 夾雑鉱物粒を多量に含む ②還元 焰 良好 ③にぶい赤褐7.5 R4/3	ロクロ調整 生産地・知多窯 年代・16C

13号柵列

位置 981~986-292~301 Gr

重複 新旧不明B21、B38号溝、14号掘立

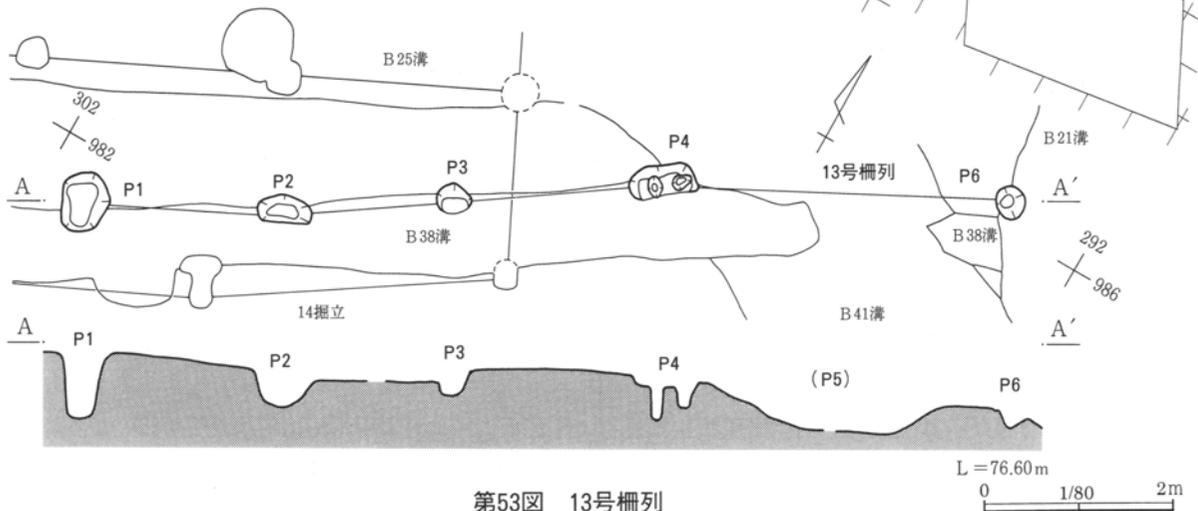
規模 9.9m

主軸方位 N-61° -E

出土遺物 土師器坏1、甕1、須恵器坏1、甕1

所見 B38号溝の北側の肩に存在している。5間の柵列と考えられる。5号ピットは、発掘調査では確認されなかったが、B41号溝と重複していたため、B41号溝の開削により失われたか、発掘調査時には確認されなかったものと想定し、復元した。4号ピットは柱跡と考えられるくぼみが確認されてい

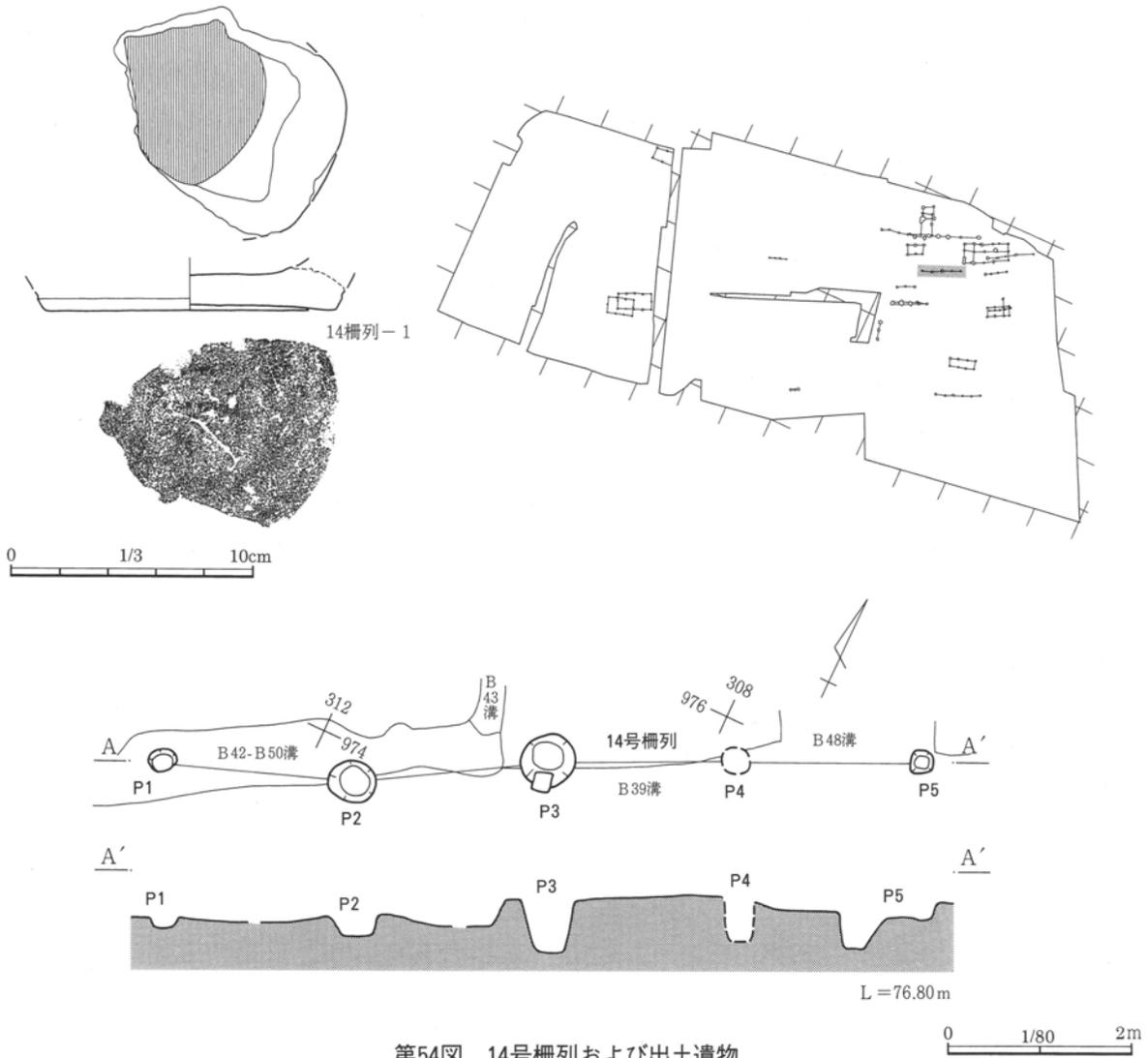
る。主軸方向などは重複するB38号溝とほぼ同一のため、構築時に意識がされていたと考えられるが、その性格は不明。柱間は平均2.46mである。



第53図 13号柵列

14号柵列 写真図版 31  
 位置 972~976-305~313 Gr  
 重複 新旧不明B39、B48、B42-B50号溝  
 規模 8.4m  
 主軸方位 N-65° -E  
 出土遺物 土師器不明1、須恵器転用硯1

所見 B39号溝の北側の肩に存在している。4間の柵列と考えられる。4号ピットは、発掘調査では確認されなかったが、想定復元した。主軸方向などは重複するB39号溝とほぼ同一のため、構築時に意識がされていたと考えられるが、その性格は不明。柱間は平均2.13mである。



第54図 14号柵列および出土遺物

14号柵列出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
1 31	①須恵器 ②転用硯 ③底部片	3ピット	口- 底-(12.0) 高-(1.8)	①中 細砂~礫. パミスを少量含む ②還元焰 普通 ③黄灰2.5Y6/1	内面人為的に摩滅 須恵器甕底部の転用硯か

15号柵列

位置 977~980-296~301 Gr

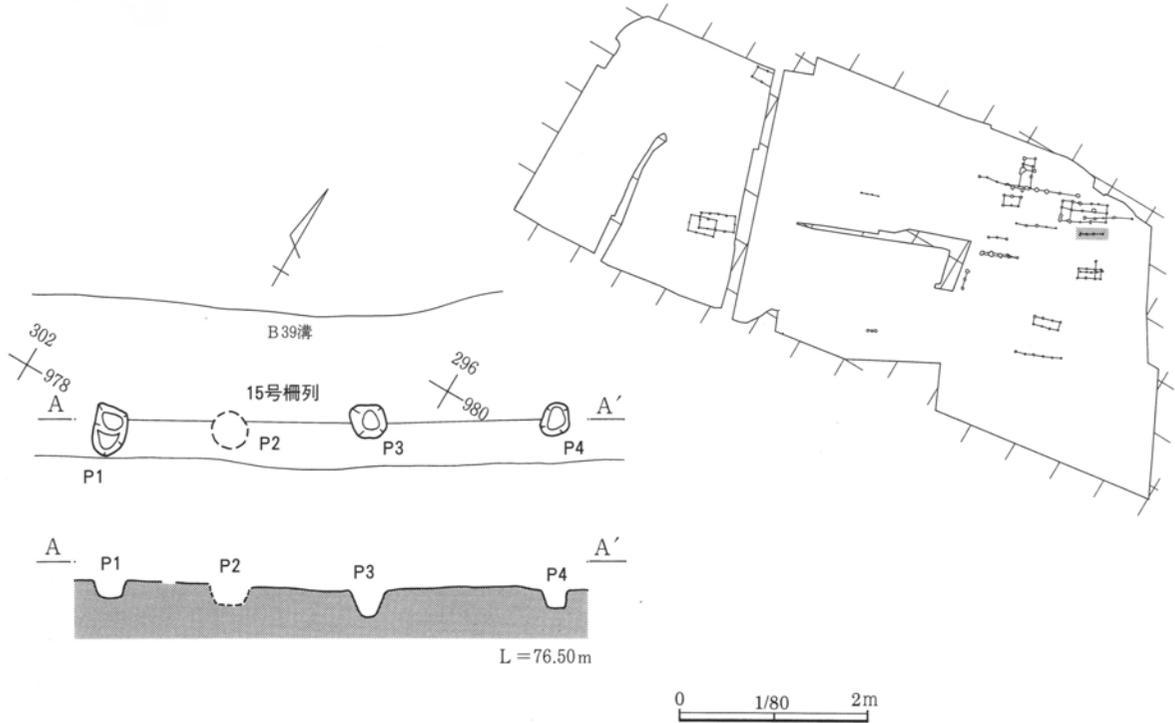
重複 新旧不明B39号溝

規模 4.7m

主軸方位 N-60° -E

出土遺物 なし

所見 3間の柵列と考えられる。2号ピットは、発掘調査では確認されなかったが、想定復元した。1号ピットは複数の柱穴が重複した形状を呈している。柱間は平均2.00mである。



第55図 15号柵列

16号柵列

位置 967~969-313~317 Gr

重複 新旧不明B49号溝

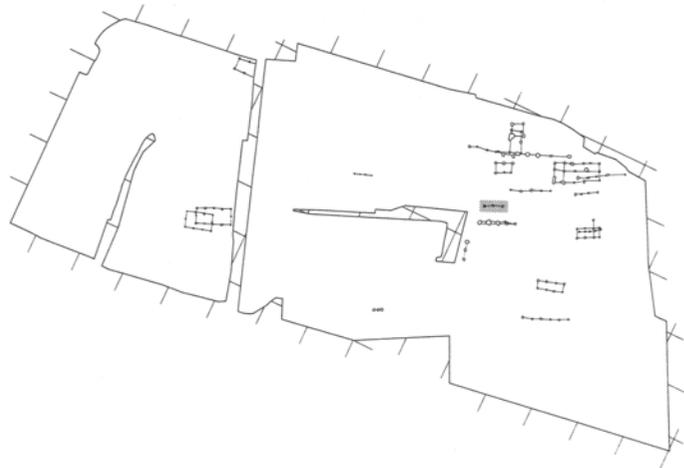
規模 3.8m

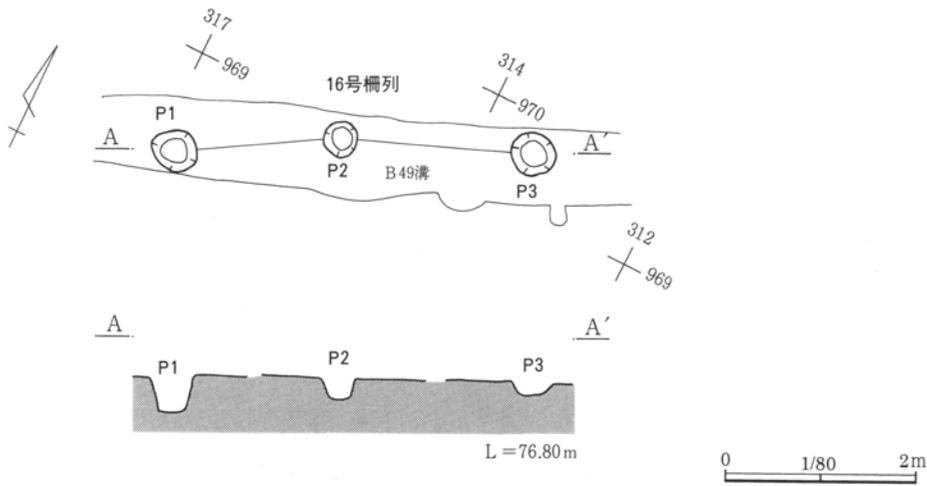
主軸方位 N-64° -E

出土遺物 なし

所見 B49号溝の中に存在している。2間の柵列と考えられる。

主軸方向などは重複するB49号溝とほぼ同一のため、構築時に意識がされていたと考えられるが、その性格は不明。柱間は平均2.15mである。





第56図 16号柵列

18号柵列

位置 971~973-292~296 Gr

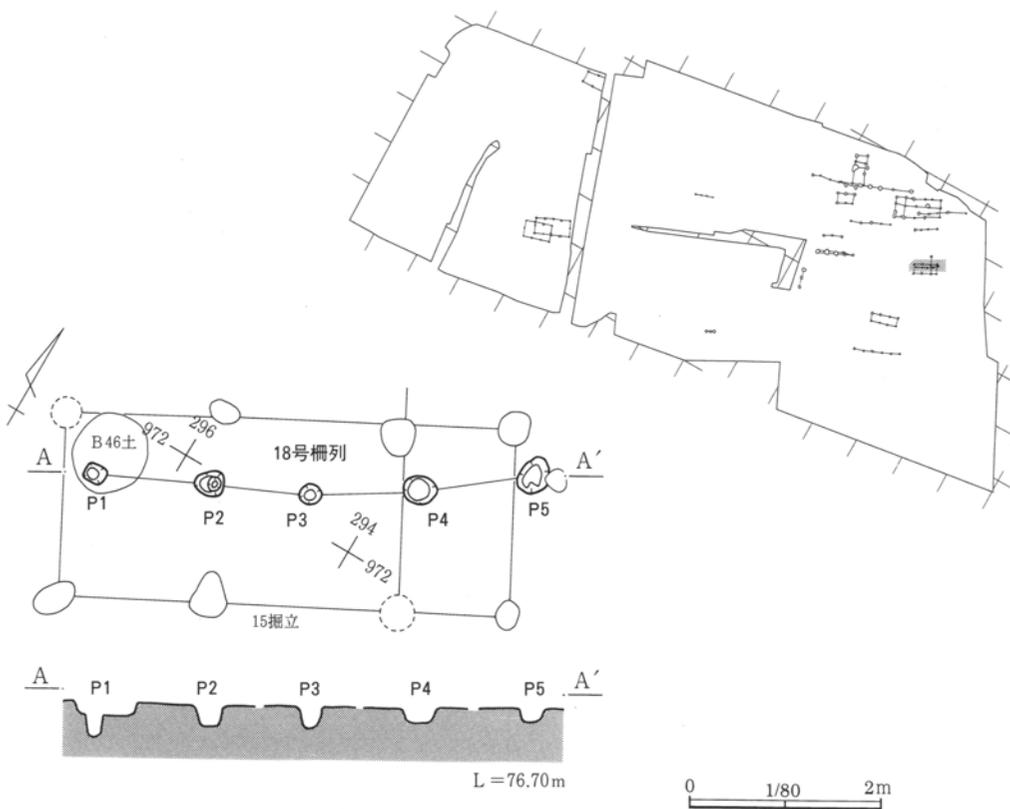
重複 新旧不明B46号土坑、15号掘立

規模 4.7m

主軸方位 N-60° -E

出土遺物 土師器甕2

所見 4間の柵列と考えられる。主軸方向などは重複するB39号溝とほぼ同一のため、構築時に意識がされていたと考えられるが、その性格は不明。5号ピットはやや北寄りになる。柱間は平均1.18mである。



第57図 18号柵列

19号柵列

位置 937~938-326~328 Gr

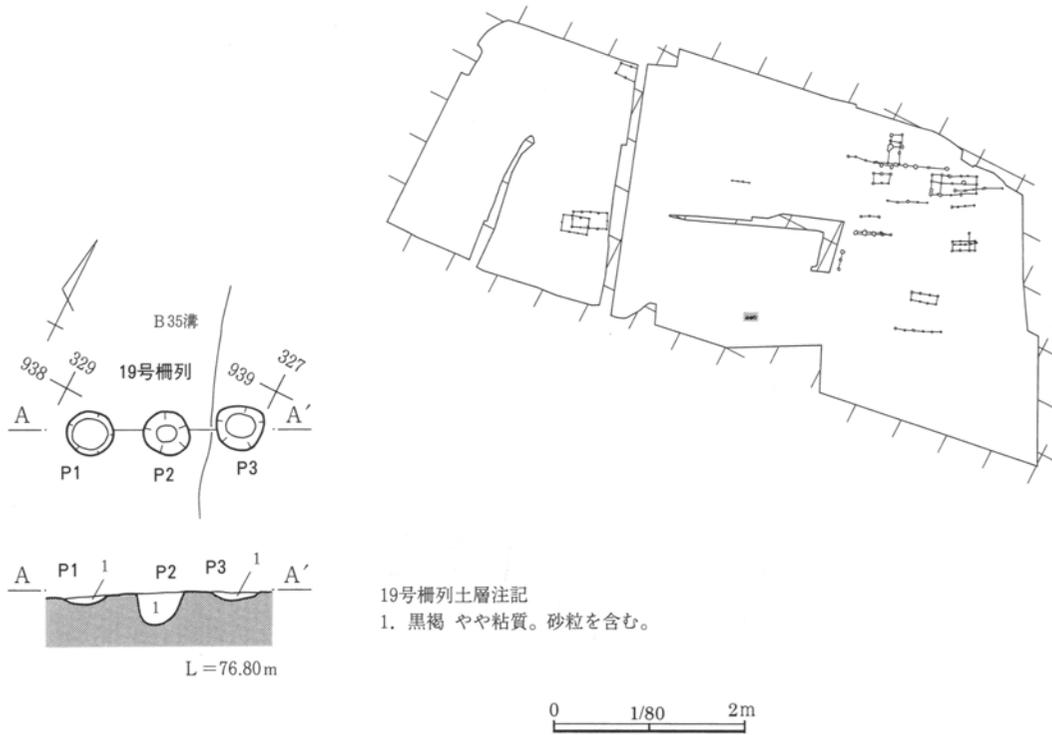
重複 古いB35号溝

規模 1.7m

主軸方位 N-63° -E

出土遺物 土師器坏1、不明1

所見 B35号溝と重複しているが、相関関係はないものと考えられる。その性格は不明。同一の覆土であったが、柱間は平均1.18mであり、かなり間隔が狭く、深さも一定ではないため、柵列と想定するにはやや難しい所も残る。



第58図 19号柵列

## 掘立柱建物跡 計測表

「平均値」「最大値」「最小値」「差」上から 長径、短径、深さ、底面絶対標高

掘立No.	Pit No.	原図No.	長径 (m)	短径 (m)	深さ (cm)	底面絶対標高 (m)	平均値	最大値	最小値	差	位置
1	1	1掘立1	0.35	0.32	31	76.94	0.35	0.36	0.31	0.05	971~973
	2	1掘立2	0.31	0.26	42	77.01	0.3	0.32	0.26	0.06	—
	3	1掘立3	0.36	0.32	39	76.99	37.75	42	31	11	372~376
	4	1掘立4	0.36	0.29	39	76.96	76.98	77.01	76.94	0.07	Gr
11	1	Naなし	0.6	0.52	40	76.15	0.61	0.68	0.56	0.12	982~986
	2	復元	—	—	—	—	0.54	0.64	0.46	0.18	—
	3	Naなし	0.68	0.64	30	76.23	36.67	40	30	10	315~319
	4	B21土坑	0.56	0.46	40	76.12	76.17	76.23	76.12	0.11	Gr
12	1	Naなし	0.32	0.28	32	76.2	0.41	0.67	0.28	0.39	979~985
	2	Naなし	0.4	0.4	30	76.2	0.35	0.44	0.27	0.17	—
	3	B98ビット	0.48	0.44	40	76.22	28.57	40	19	21	314~319
	4	Naなし	0.29	0.27	20	76.24	76.24	76.4	76.13	0.27	Gr
	5	Naなし	0.44	0.38	37	76.13					
	6	B94ビット	0.67	0.4	22	76.4					
	7	B81ビット	0.28	0.28	19	76.3					
13	1	復元	—	—	—	—	0.45	0.58	0.3	0.28	974~978
	2	B84ビット	0.58	0.56	42	76.35	0.4	0.56	0.24	0.32	—
	3	B109ビット	0.57	0.5	32	76.31	28	42	12	30	314~318
	4	Naなし	0.36	0.3	27	76.03	76.19	76.35	76.03	0.32	Gr
	5	Naなし	0.3	0.24	12	76.18					
	6	Naなし	0.47	0.38	27	76.06					
14	1	B32土坑	0.43	0.4	26	76.14	0.41	0.56	0.24	0.32	978~986
	2	Naなし	0.51	0.47	47	76.14	0.37	0.54	0.24	0.3	—
	3	Naなし	0.56	0.54	22	75.92	34.31	57	14	43	297~307
	4	Naなし	0.29	0.28	14	75.92	76.01	76.16	75.73	0.43	Gr
	5	Naなし	0.32	0.24	38	75.87					
	6	復元	—	—	—	—					
	7	復元	—	—	—	—					
	8	B113ビット	0.3	0.24	35	76.09					
	9	Naなし	0.24	0.24	30	76.16					
	10	復元	—	—	—	—					
	11	Naなし	0.52	0.5	38	76.13					
	12	Naなし	0.5	0.5	36	76.15					
	13	Naなし	0.44	0.36	26	76.01					
	14	Naなし	0.39	0.37	32	75.99					
	15	Naなし	0.34	0.32	45	75.87					
	16	Naなし	0.4	0.3	57	75.73					
15	1	復元	—	—	—	—	0.39	0.48	0.3	0.18	969~975
	2	B122ビット	0.32	0.23	21	76.37	0.32	0.38	0.23	0.15	—
	3	B57ビット	0.39	0.37	13	76.46	23.71	44	2	42	292~297
	4	B62ビット	0.37	0.35	29	76.27	76.34	76.53	76.12	0.41	Gr
	5	B127ビット	0.3	0.25	22	76.38					
	6	復元	—	—	—	—					
	7	B129ビット	0.48	0.38	2	76.53					
	8	B44ビット	0.48	0.28	44	76.12					
	9	B116ビット	0.4	0.35	35	76.22					
16	1	A10ビット	0.35	0.21	12	76.81	0.41	0.59	0.32	0.27	937~944
	2	A7土坑	0.4	0.37	54	76.75	0.34	0.45	0.21	0.24	—
	3	A19ビット	0.44	0.38	44	76.55	34.83	57	12	45	363~371
	4	A15ビット	0.36	0.35	28	76.74	76.71	76.82	76.55	0.27	Gr
	5	A14ビット	0.42	0.34	—	—					
	6	復元	—	—	—	—					
	7	復元	—	—	—	—					
	8	A1ビット	0.59	0.45	57	76.56					
	9	復元	—	—	—	—					
	10	復元	—	—	—	—					
	11	A4ビット	0.32	0.3	14	76.82					
	12	復元	—	—	—	—					

第Ⅲ章 遺構と遺物

「平均値」「最大値」「最小値」「差」上から 長径、短径、深さ、底面絶対標高

掘立No	Pit No	原因No	長径 (m)	短径 (m)	深さ (cm)	底面絶対標高 (m)	平均値	最大値	最小値	差	位置
17	1	復元	—	—	—	—	0.34	0.54	0.28	0.26	936~941
	2	A9ピット	0.32	0.31	52	76.82	0.3	0.47	0.24	0.23	—
	3	A6土坑	0.54	0.47	77	76.34	37.8	77	10	67	366~373
	4	A20ピット	0.31	0.25	—	—	76.72	76.83	76.34	0.49	Gr
	5	復元	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6	復元	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	7	A3ピット	0.29	0.27	20	76.78	—	—	—	—	—
	8	A5ピット	0.28	0.27	30	76.83	—	—	—	—	—
	9	A16ピット	0.28	0.24	10	76.82	—	—	—	—	—
	10	復元	—	—	—	—	—	—	—	—	—
18	1	Naなし	0.49	0.48	10	75.97	0.4	0.58	0.25	0.33	956~960
	2	B49土坑	0.58	0.44	30	75.95	0.35	0.48	0.23	0.25	—
	3	復元	—	—	—	—	24	31	10	21	294~300
	4	復元	—	—	—	—	76.05	76.15	75.95	0.2	Gr
	5	B170ピット	0.25	0.23	28	76.15	—	—	—	—	—
	6	B176ピット	0.35	0.28	21	76.14	—	—	—	—	—
	7	復元	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	8	Naなし	0.34	0.3	31	76.04	—	—	—	—	—

柵列跡 計測表

「平均値」「最大値」「最小値」「差」上から 長径、短径、深さ、底面絶対標高

柵列No	Pit No	原因No	長径 (m)	短径 (m)	深さ (cm)	底面標高 (m)	平均値	最大値	最小値	差	位置
1	1	B1掘立	0.23	0.21	18	76.68	0.26	0.28	0.23	0.05	961~965
	2	B1掘立	0.26	0.24	10	76.74	0.24	0.26	0.21	0.05	—
	3	B1掘立	0.26	0.23	8	76.71	11.75	18	8	10	341~344
	4	B1掘立	0.28	0.26	11	76.66	76.7	76.74	76.66	0.08	Gr
2	1	B3掘立	0.43	0.39	24	75.73	0.39	0.53	0.32	0.21	949~953
	2	B3掘立	0.35	0.3	38	75.61	0.35	0.39	0.3	0.09	—
	3	B3掘立	0.53	0.39	44	75.59	35.33	48	24	24	290~300
	4	B3掘立	0.36	0.33	26	75.61	75.62	75.73	75.58	0.15	Gr
	5	B3掘立	0.37	0.34	48	75.58	—	—	—	—	—
	6	B3掘立	0.32	0.32	32	—	—	—	—	—	—
3	1	B47土坑	0.78	0.67	46	76.22	0.57	0.78	0.42	0.36	954~959
	2	B206ピット	0.51	0.48	56	76.18	0.49	0.67	0.33	0.34	—
	3	B207ピット	0.56	0.48	31	75.96	35.5	56	9	47	315~317
	4	B208ピット	0.42	0.33	9	76.49	76.21	76.49	75.96	0.53	Gr
4	1	B43土坑	0.95	0.66	38	76.12	0.79	0.95	0.53	0.42	963~967
	2	B44土坑	0.92	0.66	26	76.23	0.58	0.7	0.38	0.32	—
	3	B45土坑	0.86	0.7	39	76.15	30.2	39	16	23	309~316
	4	Naなし	0.68	0.5	16	76.28	76.14	76.28	75.92	0.36	Gr
	5	Naなし	0.53	0.38	32	75.92	—	—	—	—	—
11	1	Naなし	0.35	0.3	—	—	0.34	0.36	0.32	0.04	977~980
	2	Naなし	0.32	0.3	28	76.01	0.31	0.36	0.26	0.1	—
	3	Naなし	0.36	0.36	24	76.16	34.4	70	14	56	315~327
	4	Naなし	0.34	0.29	14	76.37	76.16	76.37	75.95	0.42	Gr
	5	B108ピット	0.32	0.26	36	76.31	—	—	—	—	—
	6	B80ピット	0.34	0.32	70	75.95	—	—	—	—	—
12	1	B25土坑	0.84	0.56	62	76.06	0.82	0.94	0.62	0.32	980~984
	2	B26土坑	0.83	0.78	50	76	0.65	0.82	0.45	0.37	—
	3	B27土坑	0.94	0.82	60	75.94	68	98	50	48	304~315
	4	Naなし	0.62	0.45	98	75.61	75.91	76.06	75.61	0.45	Gr
	5	B28土坑	0.89	0.62	70	75.93	—	—	—	—	—
13	1	B38土坑	0.63	0.5	70	75.82	0.51	0.7	0.34	0.36	981~986
	2	B115ピット	0.56	0.3	36	75.93	0.35	0.5	0.3	0.2	—
	3	B112ピット	0.34	0.3	20	76.08	37.6	70	16	54	292~301
	4	Naなし	0.7	0.34	46	75.81	75.87	76.08	75.73	0.35	Gr
	5	復元	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6	Naなし	0.34	0.32	16	75.73	—	—	—	—	—
14	1	Naなし	0.32	0.26	12	76.19	0.44	0.6	0.3	0.3	972~976
	2	Naなし	0.52	0.44	23	76.09	0.39	0.57	0.26	0.31	—
	3	B34土坑	0.6	0.57	57	75.94	26	57	12	45	305~313
	4	復元	—	—	—	—	76.13	76.29	75.94	0.35	Gr
	5	Naなし	0.3	0.28	12	76.29	—	—	—	—	—

第2節 中近世

「平均値」「最大値」「最小値」「差」上から 長径、短径、深さ、底面絶対標高

柵列No	Pit No	原図No	長径 (m)	短径 (m)	深さ (cm)	底面絶対標高 (m)	平均値	最大値	最小値	差	位置
15	1	Noなし	0.5	0.35	19	76.27	0.43	0.5	0.37	0.13	977~980
	2	復元	—	—	—	—	0.35	0.4	0.29	0.11	—
	3	Noなし	0.42	0.4	28	75.94	22.33	28	19	9	296~301
	4	Noなし	0.37	0.29	20	76.03	76.08	76.27	75.94	0.33	Gr
16	1	Noなし	0.49	0.42	37	76.02	0.45	0.49	0.37	0.12	967~969
	2	Noなし	0.37	0.36	24	76.16	0.41	0.46	0.36	0.1	—
	3	Noなし	0.48	0.46	14	76.21	25	37	14	23	313~317
							76.13	76.21	76.02	0.19	Gr
17	1	B43土坑	0.5	0.35	48	75.77	0.48	0.53	0.4	0.13	963~967
	2	B44土坑	0.47	0.33	41	75.89	0.37	0.41	0.33	0.08	—
	3	B45土坑	0.5	0.41	65	75.69	40.8	65	18	47	309~316
	4	Noなし	0.4	0.38	18	75.96	75.85	75.96	75.69	0.27	Gr
	5	Noなし	0.53	0.38	32	75.92					
18	1	Noなし	0.22	0.2	38	76.19	0.3	0.4	0.22	0.18	971~973
	2	B132ピット	0.31	0.27	22	76.31	0.26	0.32	0.2	0.12	—
	3	B123ピット	0.22	0.2	23	76.32	22.4	38	13	25	292~296
	4	B56ピット	0.36	0.29	16	76.4	76.29	76.4	76.19	0.21	Gr
	5	B64ピット	0.4	0.32	13	76.22					
19	1	B62土坑	0.5	0.44	9	76.64	0.5	0.51	0.5	0.01	937~938
	2	B61土坑	0.5	0.44	33	76.44	0.46	0.5	0.44	0.06	—
	3	B89土坑	0.51	0.5	8	76.68	16.67	33	8	25	326~328
							76.59	76.68	76.44	0.24	Gr

(3) 溝

A 2号溝 写真図版 5・32

位置 944～959-397～402 Gr

重複 新しいA 7号溝。同時期A 3、A 4、A 5号溝。

規模 長さ19.3m 幅0.4～0.8m

深さ 6～14cm

掘り方 浅い台形を呈する。964-405Gr付近では半月状の落ち込みが連続して並ぶ。

遺物 土師器坏11、甕3、須恵器坏1、高台付碗1、土製品1

所見 西田IV遺跡ではこれに続く溝がW-5として確認されているものと同一と考えられる。944-399Gr付近で直角に曲がり、A 3、A 4、A 5号溝と重複する。その形態がよく似ていることなどから、これらの溝は同じ目的を持ってごく短期間の中で掘り換えられたものと想定できる。流水方向は北西側から南東側に向かって流れたものと思われる。半月状の落ち込みはこの溝を掘ったときの耕具の跡と想定される。

A 3号溝 写真図版 5

位置 945～967-397～404 Gr

重複 新しいA 7号溝。同時期A 2、A 4、A 5号溝。

規模 長さ29.5m 幅0.2～0.5m

深さ 6～13cm

掘り方 浅い円弧状を呈する。404-966Gr付近では半月状の落ち込みが数カ所確認できる。

遺物 なし

所見 西田IV遺跡ではこれに続く溝がW-1として確認されている。945-398Gr付近で直角に曲がり、A 2、A 4、A 5号溝と重複する。その形態がよく似ていることなどから、これらの溝は同じ目的を持ってごく短期間の中で掘り換えられたものと想定できる。流水方向は北西側から南東側に向かって流れたものと思われる。半月状の落ち込みはこの溝を掘ったときの耕具の跡と想定される。

A 4号溝 写真図版 5

位置 944～967-397～404 Gr

重複 新しいA 7号溝。同時期A 2、A 3、A 5号溝。

規模 長さ29.5m 幅0.2～0.8m

深さ 9cm

掘り方 浅い円弧状を呈する。溝のほぼ全体には半月状の落ち込みが連続して並ぶ。

遺物 土師器坏1、甕1

所見 西田IV遺跡ではこれに続く溝がW-2、W-3として確認されている。945-397Gr付近で直角に曲がり、A 2、A 3、A 5号溝と重複する。その形態がよく似ていることなどから、これらの溝は同じ目的を持ってごく短期間の中で掘り換えられたものと想定できる。流水方向は北西側から南東側に向かって流れたものと思われる。半月状の落ち込みはこの溝を掘ったときの耕具の跡と想定される。

A 5号溝 写真図版 5

位置 945～965-396～405 Gr

重複 新しいA 7号溝。同時期A 2、A 3、A 4号溝。

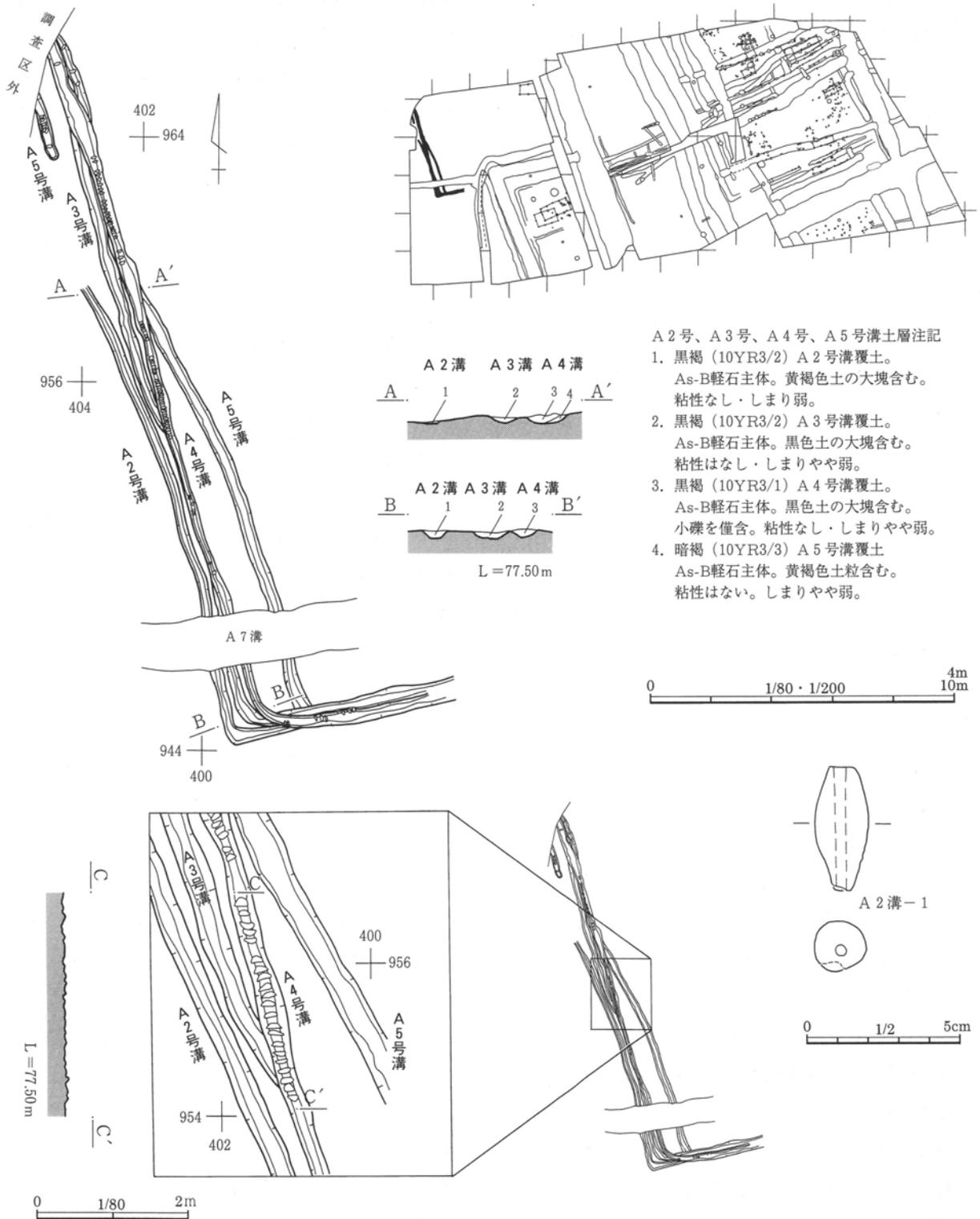
規模 長さ21.6m 幅0.3～0.5m

深さ 6～12cm

掘り方 浅い円弧状を呈する。半月状の落ち込みは確認できない。

遺物 なし

所見 西田IV遺跡ではこれに続く溝がW-4として確認されている。945-396Gr付近で直角に曲がり、A 2、A 3、A 4号溝と重複する。その形態がよく似ていることなどから、これらの溝は同じ目的を持ってごく短期間の中で掘り換えられたものと想定できる。流水方向は北西側から南東側に向かって流れたものと思われる。半月状の落ち込みはこの溝を掘ったときの耕具の跡と想定される。



第59図 A 2、A 3、A 4、A 5号溝および出土遺物

A 2号溝出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm · g)				①胎土②焼成③色調	特徴
			長さ	幅	孔径	重量		
1 32	①土製品 ②土錘 ③ほぼ完形	覆土	4.0	1.8	0.4	2.3	①中 細砂パミスを多量に含む ②酸化焰 不良 ③灰褐 7.5YR6/2	外面磨きか

A7号溝 写真図版 5

位置 946～949-388～406 Gr

重複 古いA2、A3、A4、A5号溝。同時期A8号溝。

規模 長さ17.5m 幅1.4～2.3m

深さ 41～47cm

掘り方 上端から下端まではなだらかに落ち込み、底部は平らになる。

遺物 なし

所見 昭和期まで流水があったことが確認されている。隣接する西田遺跡（平成7年前橋市教育委員会調査）、西田遺跡（平成9年当事業団調査）から続く。東側はA8号溝につながる。

A8号溝 写真図版 6

位置 930～958-368～388 Gr

重複 同時期A7号溝。

規模 長さ41.0m 幅1.4～2.6m

深さ 27～58cm

掘り方 上端から下端まではなだらかに落ち込み、底部は平らになる。

遺物 なし

所見 昭和期まで流水があったことが確認されている。北東方向から、南西方向に向き、A7号溝とつながった後、南に向う。調査前は猪岡まさ枝邸がこの溝に囲まれる形で存在し、一部にはブロック塀が築かれていた。

A13号溝 写真図版 6～7

位置 922～956-360～385 Gr

重複 新しいA15、B17号溝

規模 長さ50.8m 幅3.2～3.9m

深さ 95～114cm

掘り方 下端から約30cmの所に中段があり、それ以外の所は緩い弧を描いて落ち込む。底面は幅約1.2mで平坦。

遺物 古式土師器高坏1、土師器坏1、甕1、須恵器甕1、軟質陶器鍋1

所見 955-361近辺でB17号溝と接し、950-383Gr付近まで西に向かい、約80°で鋭角に南に曲がった後、調査区外まで南方向に向かう。接するB17号溝へ流れ込むような様相を呈している。この溝の方が26cm底面が高く、地割りを大きく区画するB17号溝からの支流として一区画を形成するものと考えられる。B14、B15、B16号溝もこの溝に並行して走り、ほぼ同時代に存在していたものと考えられる。しかし、断面からはA14号溝は同時期に掘り込まれたが、A15号溝はこの溝が埋没した後に掘られたことが観察される。

A14号溝 写真図版 7～8

位置 923～937-364～373 Gr

重複 同時期A16号溝

規模 長さ20.3m 幅0.4～1.1m

深さ 9～24cm

掘り方 浅い円弧状を呈する。場所によって深さや規模が不均一。

遺物 土師器甕2、須恵器甕1

所見 937-361Gr付近から西に延び、933-374Gr付近ではほぼ直角に南に曲がった後、調査区外まで南方向に向かう。直角に曲がる所で、A16号溝とつながり、A13号溝で囲まれ区画された所をさらに小さく二分する様相を呈する。A13号溝やA8号溝A15号溝と走向が同じため、同時期のものと考えられる。溝として扱ったが、溝の壁には植物の根跡が多く残り、凸凹した状態のため、生垣などを植栽した痕跡とも考えられる。

A15号溝 写真図版 7～8

位置 922～949-374～386 Gr

重複 古いA13号溝

規模 長さ29.2m 幅1.3～1.6m

深さ 7～28cm

掘り方 浅い円弧状を呈する。

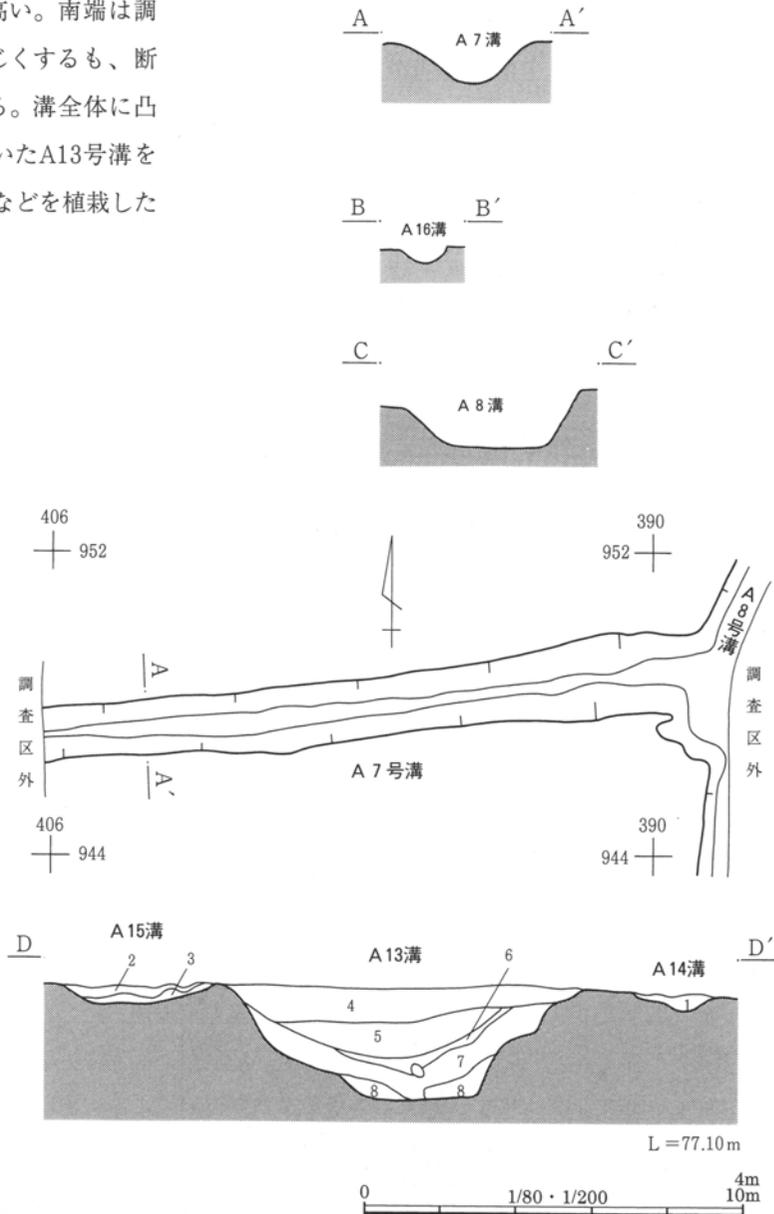
遺物 なし

所見 北端は950-386Gr付近で未調査部分となる

が、A8号溝と接している可能性が高い。南端は調査区外に及ぶ。A13号溝と走向を同じくするも、断面よりA13号溝埋没後掘削されている。溝全体に凸凹した根跡があり、土地を区画していたA13号溝を埋め立てた後、その代用として生垣などを植栽した可能性も考えられる。

A13号、A14号、A15号溝土層注記

1. 黒褐 (10YR2/3) 白色粒少含。  
炭化物、小礫含む。粘性弱・しまりやや強。
2. 黒褐 (10YR3/2) 白色粒多含。  
鉄分沈着有。
3. 黒褐 (10YR2/2) 白色粒含。
4. 黒褐 (10YR2/2) 白色粒含。  
鉄分沈着が斑状に有。粘性中・しまり強。
5. 黒褐 (10YR3/2) 粘質土と砂質土混在。  
白色粒を砂質土中に少含。  
鉄分沈着やや有。
6. 黒色 (10YR2/1) 粘質土。小礫を少含。  
鉄分沈着少量有。粘性強・しまり強。
7. 黒褐 (10YR2/3) やや砂質。  
鉄分沈着やや有。粘性中・しまり強。
8. 黒 (10YR2/1) やや砂質。  
鉄分沈着やや有。粘性強・締まり強。



第60図 A7、A8、A13、A14、A15、A16号溝(1)

A16号溝 写真図版 7

位置 936~949-366~378 Gr

重複 同時期A14号溝

規模 長さ21.8m 幅0.4~1.1m

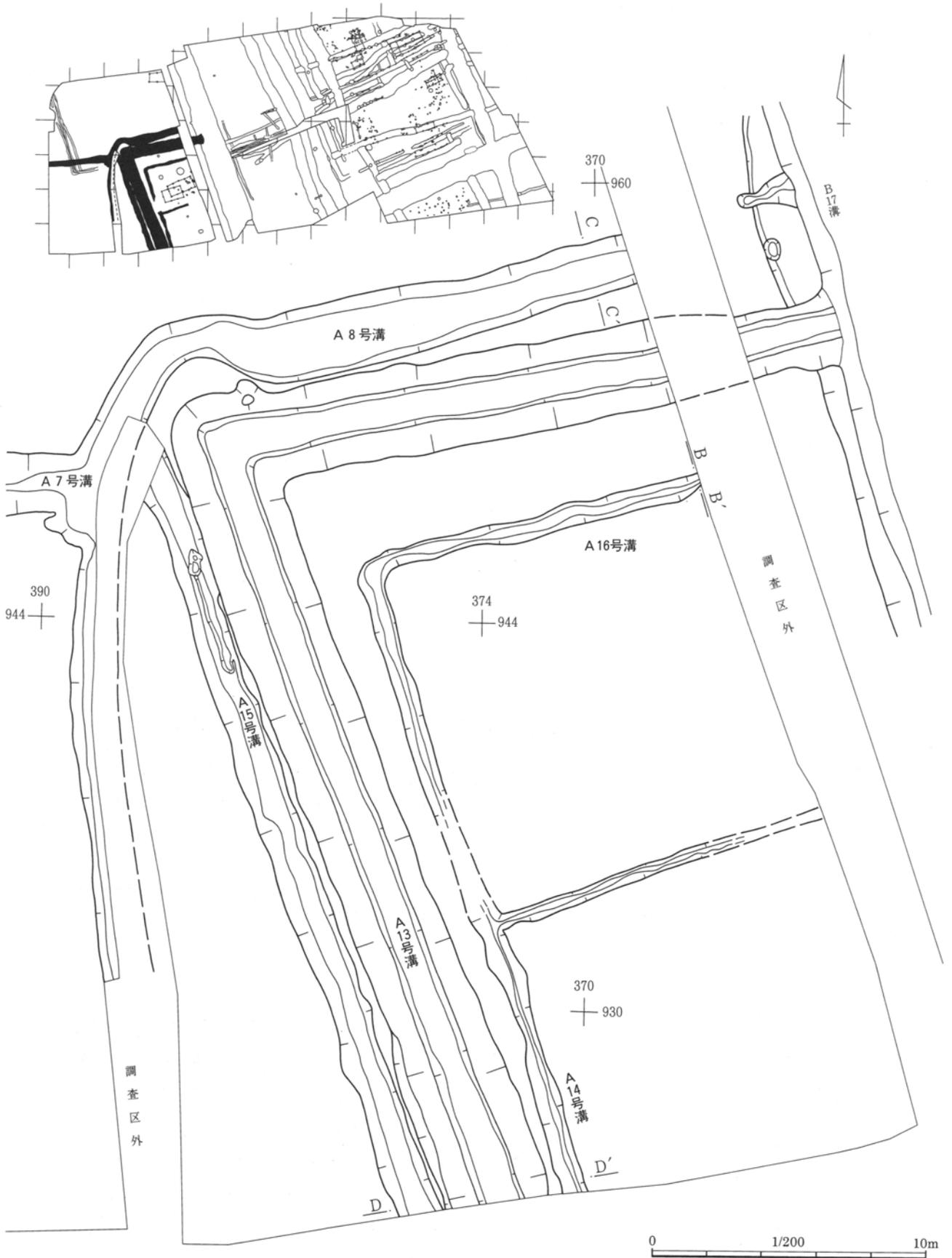
深さ 14~24cm

掘り方 浅い円弧状を呈する。

遺物 軟質陶器鍋1

所見 949-366Gr付近から西に延び、946-378Gr付近ではほぼ直角に南に曲がった後、A14号溝とつな

がるまで南に向かう。調査時にはA14、A16号溝と分けて調査されているが、同時期に存在した一連の溝と考えられる。この2条の溝でA13号溝で囲まれ区画された所をさらに小さく2分する様相を呈する。A13号溝やA8号溝A15号溝と走向が同じため、同時期のものと考えられる。溝として扱ったが、溝の壁には植物の根跡が多く残り、凸凹した状態のため、生垣などを植栽した痕跡とも考えられる。



第61図 A7、A8、A13、A14、A15、A16号溝(2)

B3号溝 写真図版 8・32

位置 953~960-338~355 Gr

重複 新しいB6、B17、B35号溝。古いB12号溝。  
同時期B5号溝。

規模 長17.6m 幅0.2~0.3m

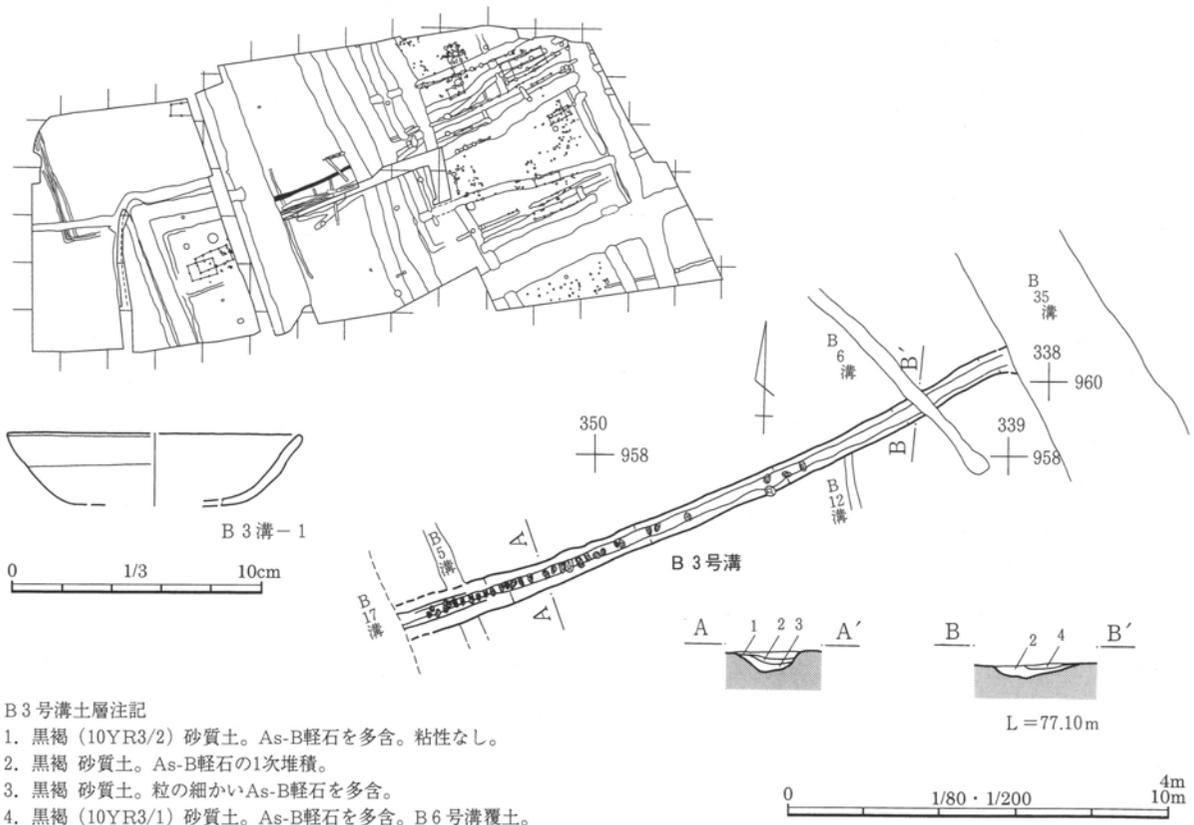
深さ 9~27cm

掘り方 円弧状を呈する。およそ西側半分では半月状の落ち込みが連続して並ぶ。

遺物 土師器坏2、甕223、台付甕1、須恵器坏30、甕2、軟質陶器鍋1、瓦1

所見 N-64°-Eの走向。遺物は土師器、須恵器などがほとんどであるが、これらは重複するA11-B10号溝の遺物の混入と考えられる。東端はB35号溝、

西端はB17号溝につながる形のため、別時期の溝がたまたま重複する部分で端となっているか、同時期に存在して機能していた可能性も考えられる。また、形状からA2、A3、A4、A5号溝に似るため同時期に存在した可能性も考えられるが、直接つながるかなどは確認できない。また、連続して存在する半月状の落ち込みはこの溝を掘ったときの耕具痕と見られる。これらの落ち込みは西側が直線に近く、東側が弧を描く。このことから鋤などの刃が平板で刃先が弧を描いているもので耕具使用者は東に背を向け、掘り進めた可能性が考えられる。



B3号溝土層注記

1. 黒褐 (10YR3/2) 砂質土。As-B軽石を多含。粘性なし。
2. 黒褐 砂質土。As-B軽石の1次堆積。
3. 黒褐 砂質土。粒の細かいAs-B軽石を多含。
4. 黒褐 (10YR3/1) 砂質土。As-B軽石を多含。B6号溝覆土。

第62図 B3号溝および出土遺物

B3号溝出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
1 32	①土師器 ②坏 ③1/8	覆土	口-(11.6) 底- 高-2.7	①中 細砂~礫. パミスを少量含む ②酸化焰 良好 ③橙 5 YR6/6	口縁部横ナデ 内面横ナデ

**B4号溝 写真図版 9・32**

**位置** 951～956-338～353 Gr

**重複** 新しいB15号溝。新旧不明B12、B14号溝

**規模** 長さ16.1m 幅1.0m

**深さ** 20cm

**掘り方** 上端からなだらかに下端まで落ち込み、底面はほぼ平坦を呈する。

**遺物** 土師器坏33、甕3、須恵器坏5

**所見** N-72° -Eの走向。詳細な時期は不明。遺物として土師器須恵器を出土しているが、覆土の観察などからこの時期に分類した。B13、B14、B15、B16号溝と並行重複し、長さもほぼ同一なため、同時期の溝と考えられる。覆土の状態からは流水を伴うような溝とは見られない。

**B12号溝 写真図版 9～10**

**位置** 955～958-342～343 Gr

**重複** 新しいB3号溝。新旧不明B4、B14号溝

**規模** 長さ2.4m 幅0.2～0.4m

**深さ** 6cm

**掘り方** 浅い円弧状を呈する。

**遺物** なし

**所見** N-14° -Wの走向。上端は958-343Gr付近でB3号溝と交わるまで確認され、その北は確認されていない。南端は955-343Gr付近で攪乱され、その先は確認されない。この攪乱内でB4号溝と交わる可能性も考えられる。その他B4号溝に並行するB13、B14、B15、B16号溝ともつながる可能性は考えられる。覆土の観察ではB15号溝の埋土に似る。

**B13号溝 写真図版 9**

**位置** 950～953-342～353 Gr

**重複** 新しいB15、B17号溝。古いB16号溝。新旧不明B14号溝。

**規模** 長さ11.5m 幅0.4m

**深さ** 15cm

**掘り方** 浅い台形状を呈する。

**遺物** なし

**所見** N-72° -Eの走向。950-354Gr付近でB17号溝に接し、954-343Gr付近で調査区外に及ぶ。ほぼ均一の幅でのびる。B4、B14、B15、B16号溝と並行する。B14号溝と埋土を区別できなかったため、ごく短期間にこの2条は存在したか、2条のように平面形態上見えるが、1つの溝として機能した可能性も高い。

**B14号溝 写真図版 9**

**位置** 950～957-338～353 Gr

**重複** 新しいB15、B17号溝。古いB16号溝。新旧不明B13号溝。

**規模** 長さ16.6m 幅0.2～0.4m

**深さ** 16cm

**掘り方** 浅い台形状を呈する。

**遺物** なし

**所見** N-72° -Eの走向。951-353Gr付近でB17号溝に接し、954-343Gr付近で浅くなり確認できなくなるが、956-341Gr付近で再び確認でき、957-338Gr付近で再び浅くなり確認できなくなる。ほぼ均一の幅でのびる。B4、B13、B15、B16号溝と並行する。B13号溝と埋土を区別できなかったため、ごく短期間にこの2条は存在したか、2条のように平面形態上見えるが、1つの溝として機能した可能性も高い。

**B15号溝 写真図版 9**

**位置** 951～954-343～346 Gr

**重複** 新しいB17号溝。古いB4、B13、B14号溝。

**規模** 長さ10.5m 幅0.2～0.7m

**深さ** 15cm

**掘り方** 浅い台形状を呈する。

**遺物** なし

**所見** N-72° -Eの走向。951-354Gr付近でB17号溝に接し、954-342Gr付近で浅くなり確認できなくなる。土層で確認すると、この溝に並行するB4、B13、B14溝の中で一番新しいことが確認されている。同時に調査が行われたため、この溝は平面

上は東端をのぞき、ほとんど底部しか確認されていない。

掘り方 浅い台形状を呈する。

遺物 なし

所見 N-72° -Eの走向。950-353Gr付近でB17号溝に接し、952-346Gr付近でB13号溝の下に入り確認できなくなる。B4、B13、B14、B15号溝と並行する。

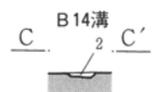
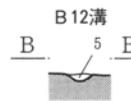
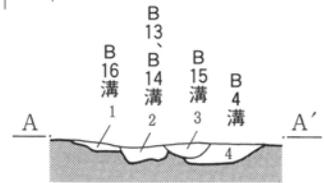
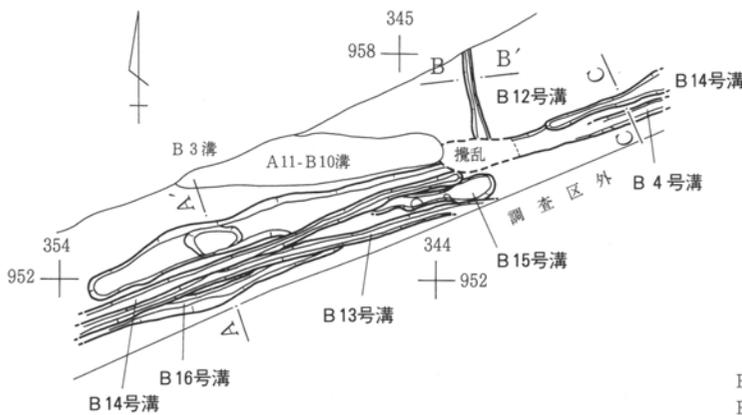
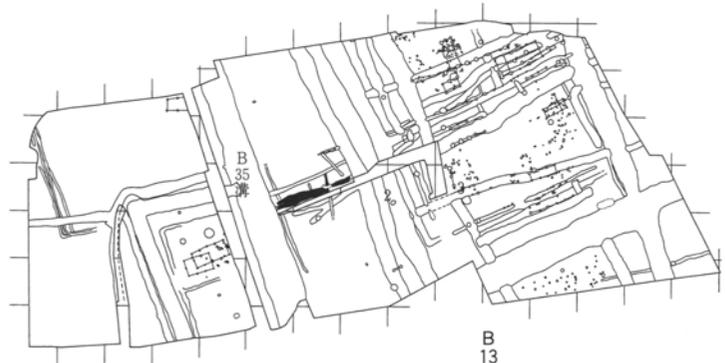
B16号溝 写真図版 9

位置 950~952-346~353 Gr

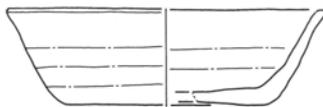
重複 新しいB13、B14、B17号溝

規模 長さ7.8m 幅0.5m

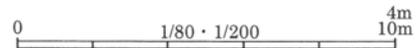
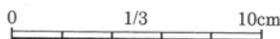
深さ 10cm



L=77.10m



B4溝-1



- B4号、B12号、B13号、B14号、B15号、B16号溝土層注記
1. 黒褐 (10YR3/1) 砂質土。B16号溝覆土。
  2. 黒褐 (10YR3/1) 砂質土。  
3層よりAs-B軽石を多含。B13号、B14号溝覆土。
  3. 褐灰 (10YR4/1) 砂質土。  
As-B軽石を多含。B15号溝覆土。
  4. 褐灰 (10YR4/1) 粘質土。  
最下部に1cm程の砂層有。B4号溝覆土。
  5. 褐灰 (10YR4/1) 砂質土。  
褐灰粘質土を多含。B12号溝覆土。

第63図 B4、B12、B13、B14、B15、B16号溝および出土遺物

B4号溝出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
1 32	①須恵器 ②坏 ③口縁部~底部片	覆土	口-(12.6) 底-(8.2) 高-3.8	①中 細砂~礫、パミスを少量含む ②還元焰 良好 ③灰7.5Y5/1	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り無調整

B5号溝 写真図版 9・32

位置 953～959-352～355 Gr

重複 同時期B3号溝。

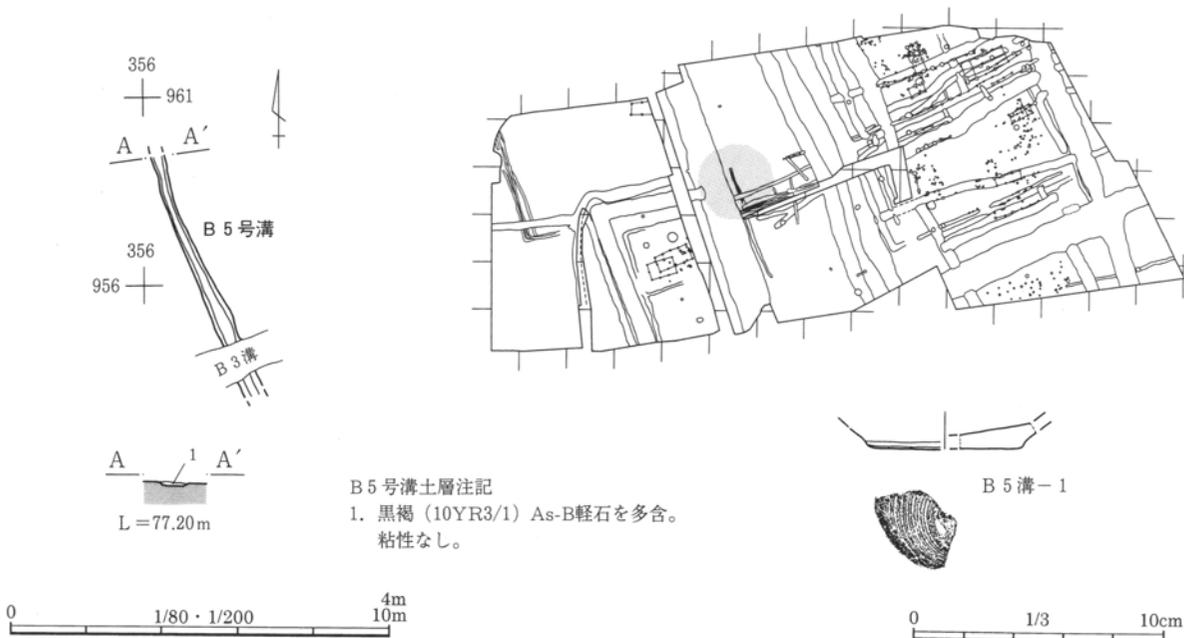
規模 長さ5.4m 幅0.2～0.5m

深さ 5～6cm

掘り方 ごく浅い台形状を呈する。

遺物 土師器甕47、須恵器坏7、甕1

所見 N-23°-Wの走向。959-355Gr付近から確認され、954-354Gr付近でB3号溝とつながる。覆土は両溝とも似ているため、ほぼ同時期存在していた可能性を指摘できる。



第64図 B5号溝および出土遺物

B5号溝出土遺物観察表

遺物No 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調外④色調内	成・整形技法の特徴
1 32	①須恵器 ②坏 ③底部片	覆土	口- 底-(6.0) 高-(1.0)	①中 細砂、パミス、褐色鉱物粒を少量含む ②還元焰 不良 ③灰白 5 Y7/1 ④にぶい橙 7.5 YR7/4	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り無調整

B6号溝 写真図版 9・32

位置 957～962-339～344 Gr

重複 古いB3号溝、1号柵列。

規模 長さ6.4m 幅0.3～0.6m

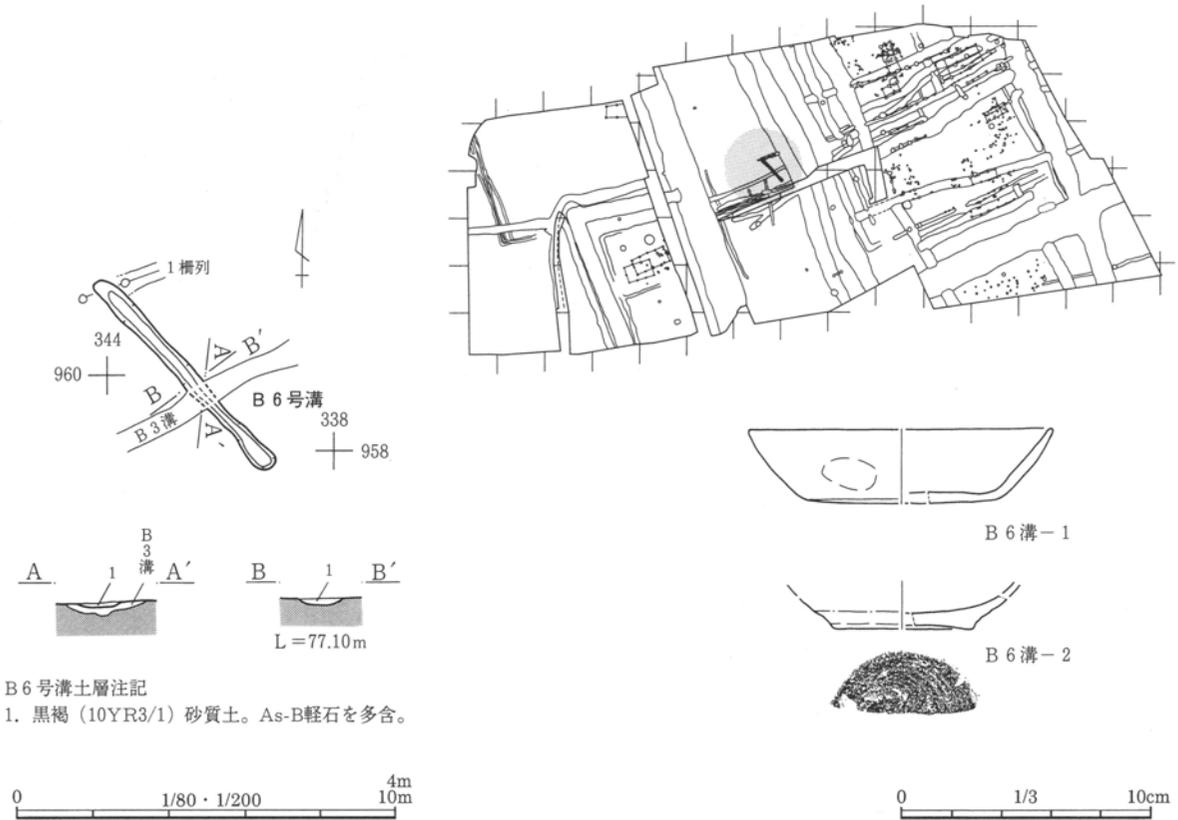
深さ 2～9cm

掘り方 浅い台形状を呈する。

遺物 古式土師器甕2、土師器坏37、甕272、須恵器坏26、甕10、灰釉陶器碗2、軟質陶器鍋1、陶器鉢1、その他1

所見 N-42°-Wの走向。962-344Gr付近から確

認され、958-340Gr付近まで南に延びる。両端は浅くなり確認されていない。B3号溝より下の層位で確認されたが、覆土はよく似ており、ごく短期間の時間差しかないものと考えられる。



B 6号溝土層注記  
1. 黒褐(10YR3/1)砂質土。As-B軽石を多含。

第65図 B 6号溝および出土遺物

B 6号溝出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
1 32	①土師器 ②坏 ③口縁部~底部1/5	覆土	口-(12.0) 底-(7.9) 高-3.0	①中 細砂・粗砂・パミスを含む ②酸 化焰 普通 ③にぶい橙 5 YR6/4	口縁部横ナデ 底部外面篋削り 指頭圧 痕 内面ナデ
2 32	①須恵器 ②坏 ③底部片	覆土	口- 底-(5.4) 高-(1.3)	①中 細砂~礫・パミスを少量含む ②還元焰 普通 ③明褐灰 5 YR7/1	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り無調整 摩滅著しい

B17号溝 写真図版 10・32~33

位置 925~981-347~369 Gr

重複 古いB 3、B13、B14、B15、B16号溝。同時  
期A13号溝。

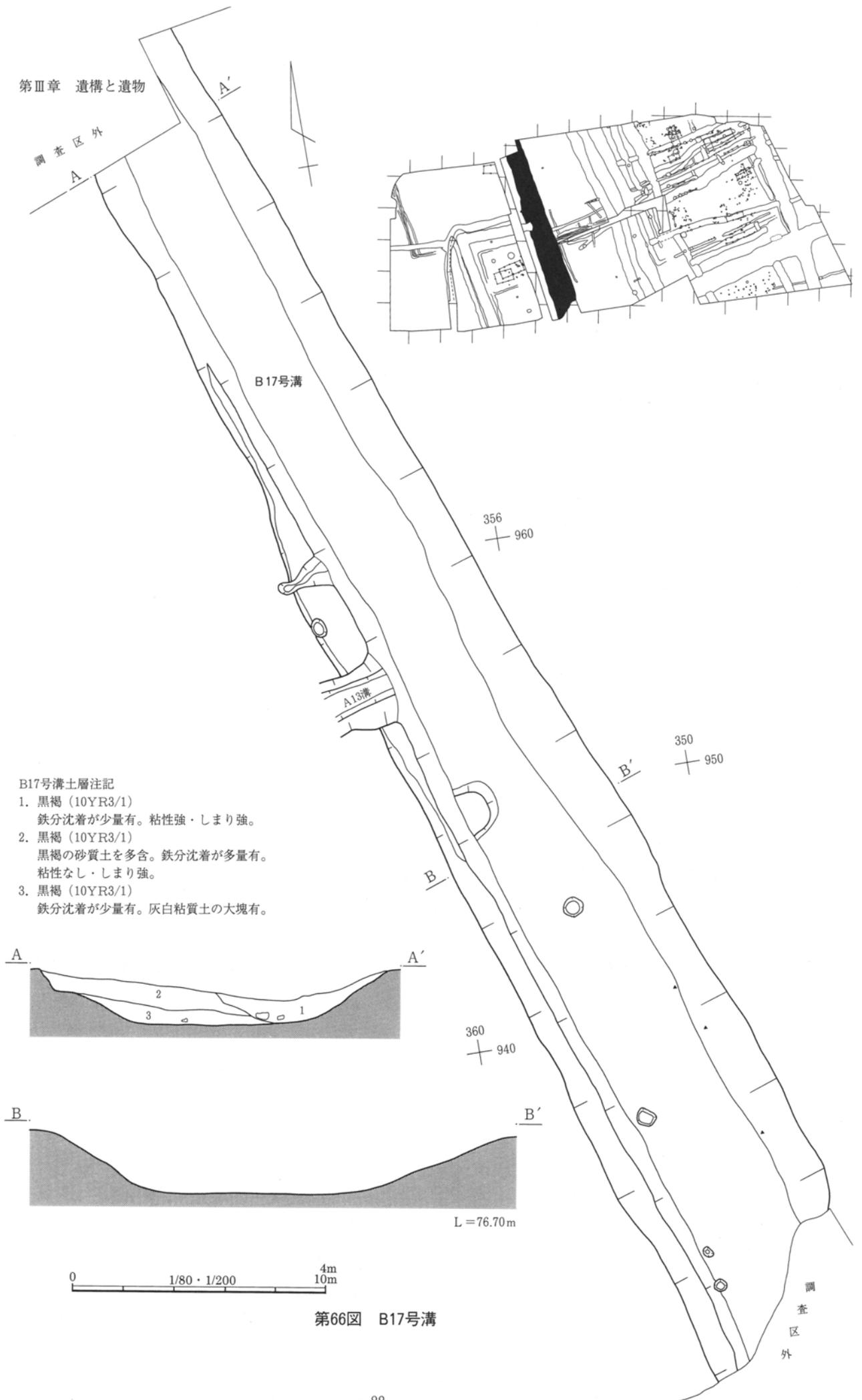
規模 長さ58.0m 幅5.5~7.4m

深さ 67~101cm

掘り方 溝西側の落ち込み方は下端から約30cmに  
中段を持ち、東側の落ち込み方はなだらかに漸次的  
に立ち上がる。

遺物 土師器坏9、甕2、須恵器坏3、蓋1、甕15、  
高台付碗1、灰釉陶器碗1、皿1、土師質土器皿1、  
軟質陶器鍋22、火鉢4、瓶掛け1、陶器碗11、皿3、

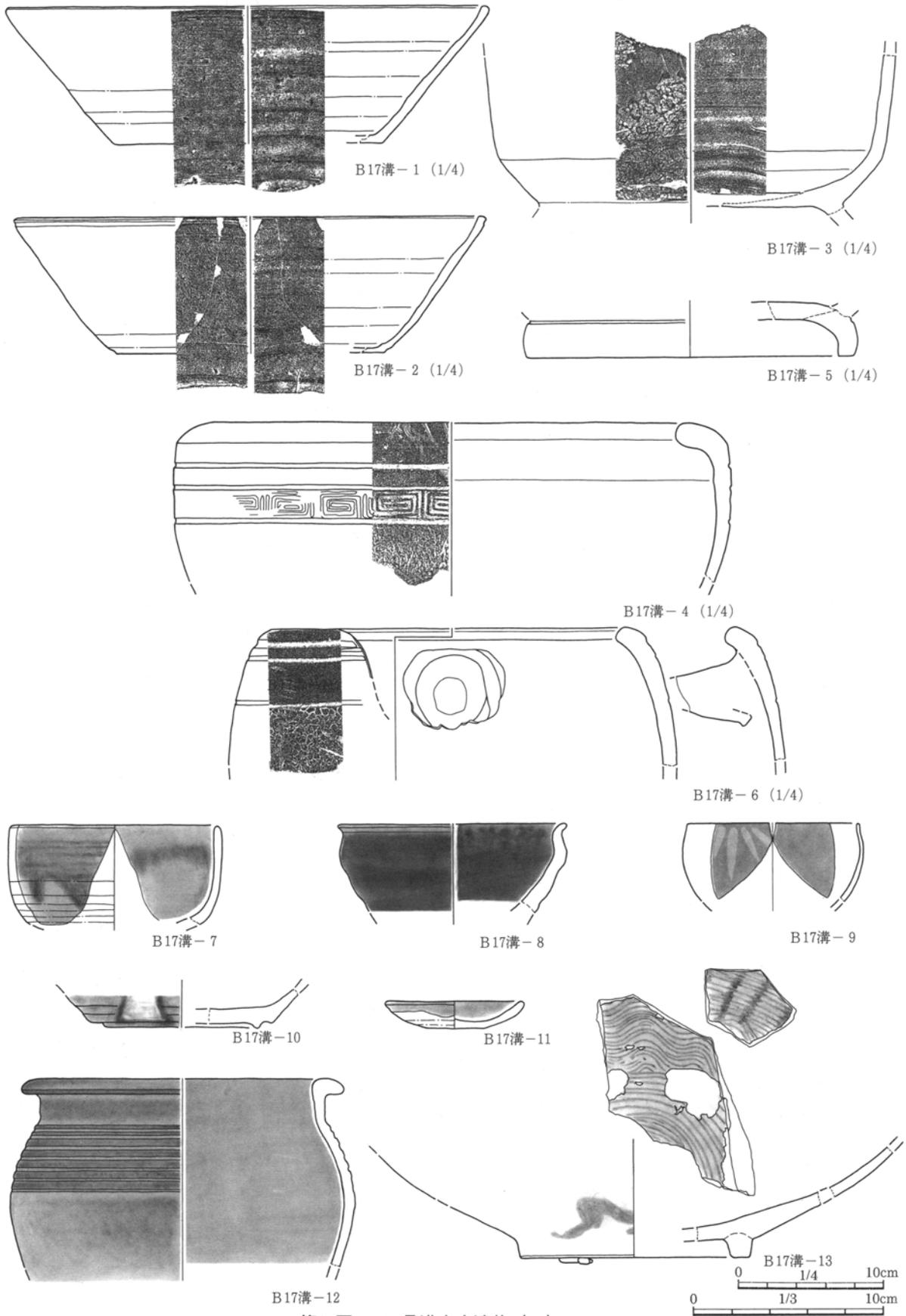
甕6、壺9、鉢5、播鉢1、捏ね鉢1、灯明皿4、  
天目碗1、片口1、磁器碗21、皿2、瓦14、砥石2  
所見 N-20° -Wの流水方向で北から南に向かっ  
て流れたものと、底面のレベルから確認できる。両  
端は調査区外にのびる。調査前の段階では市道が直  
上を走っていた。出土遺物などからは昭和期まで溝  
として存在していた事が確認できるが、戦後には道  
路化している。この溝と並行してAs-B軽石の混じ  
る土が覆土となるB60号溝が存在するため、As-B軽  
石の混土が形成される時期には開削されていた可能  
性も考えられる。



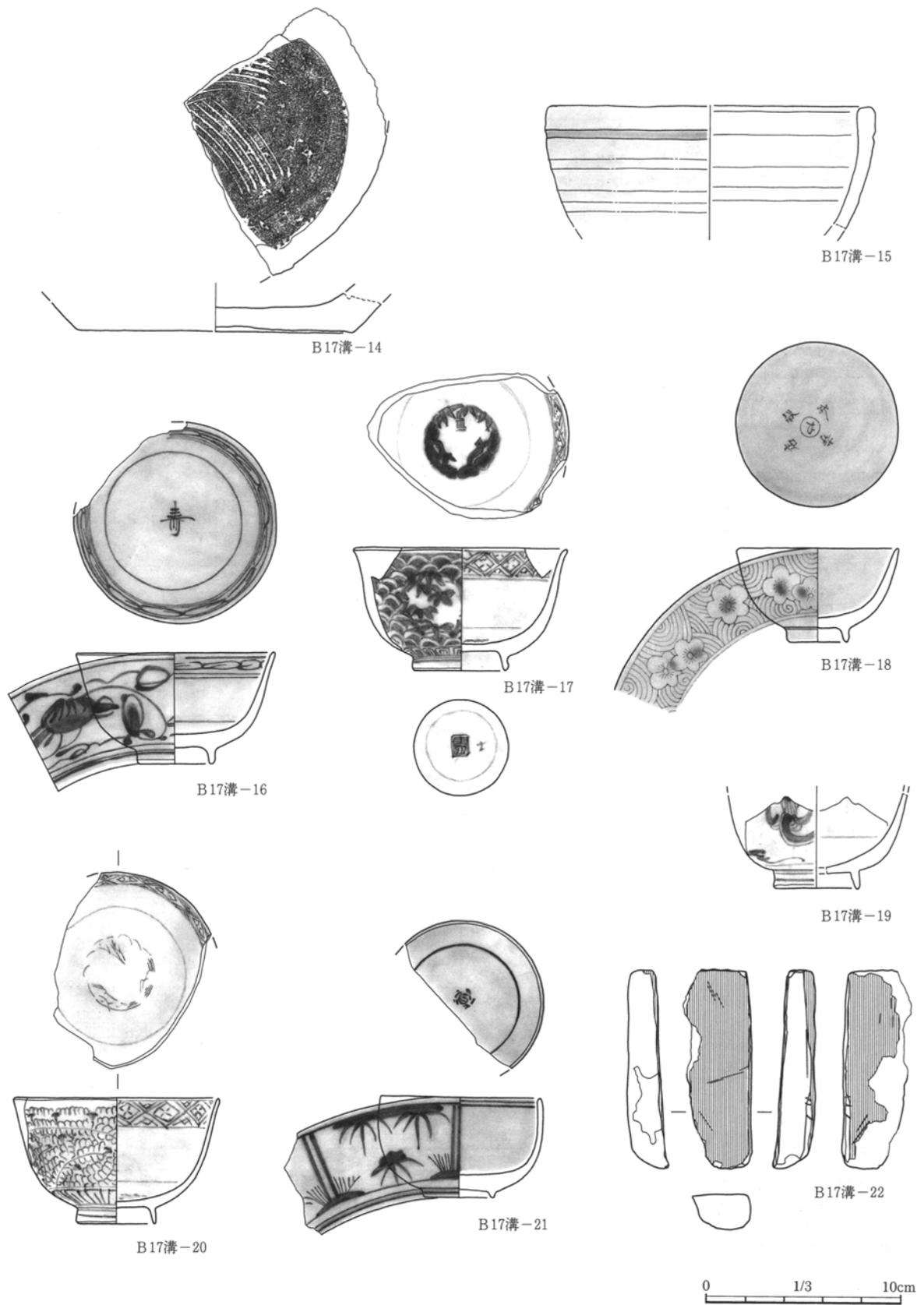
B17号溝土層注記

1. 黒褐 (10YR3/1)  
鉄分沈着が少量有。粘性強・しまり強。
2. 黒褐 (10YR3/1)  
黒褐の砂質土を多含。鉄分沈着が多量有。  
粘性なし・しまり強。
3. 黒褐 (10YR3/1)  
鉄分沈着が少量有。灰白粘質土の大塊有。

第66図 B17号溝



第67図 B17号溝出土遺物(1)



第68図 B17号溝出土遺物(2)

B17号溝出土遺物観察表

遺物No 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調外④色調内	成・整形技法の特徴
1 32	①軟質陶器 ②鍋 ③口縁部～底部片	覆土	口-(33.4) 底-(18.8) 高-(9.6)	①中 夾雑鉍物粒を少量含む ②還元焰 普通 ③黒褐2.5Y3/1	ロクロ調整
2 32	①軟質陶器 ②鍋 ③口縁部～底部片	覆土	口-(32.8) 底-(18.8) 高-9.6	①中 夾雑鉍物粒を少量含む ②還元焰 普通 ③黒褐2.5Y3/1	ロクロ調整 年代・江戸～近代
3 32	①軟質陶器 ②火鉢 ③胴部下～底部片	覆土	口- 底- 高-(11.2)	①粗 夾雑鉍物粒を多量に含む ②還元 焰 普通 ③灰5 Y6/1	ロクロ調整 外型による施文
4 32	①軟質陶器 ②火鉢 ③口辺部片	覆土	口-(38.7) 底- 高-(11.1)	①粗 夾雑鉍物粒を多量に含む ②還元 焰 普通 ③灰7.5Y5/1	ロクロ調整 外面沈線3本 外型による 施文
5 32	①軟質陶器 ②火鉢? ③底部片	覆土	口- 底-(23.0) 高-(3.8)	①粗 夾雑鉍物粒を含む ②還元焰 普 通 ③橙5 YR7/6	ロクロ調整 高台貼付
6 32	①軟質陶器 ②瓶掛け ③口縁部～胴部1/5	覆土	口-(25.0) 底- 高-(6.7)	①粗 夾雑鉍物粒を多量に含む ②還元 焰 普通 ③にぶい橙5 YR5/4 ④橙 2.5YR6/8	内面に突起1つ残存 口辺部に窓あり 外面に3本沈線 外面磨き 外型成形
7 32	①陶器 ②碗 ③口辺部片	覆土	口-(10.8) 底- 高-(5.6)	①粗 夾雑鉍物粒を多量に含む ②還元 焰 良好 ③胎土灰黄2.5Y6/1 釉暗オ リーブ5 Y4/3	内外面全面鉛釉 生産地・瀬戸、美濃 年代・18C中～後
8 32	①陶器 ②天目碗 ③口辺部片	覆土	口-(12.0) 底- 高-(4.7)	①中 夾雑鉍物粒を含む ②還元焰 良 好 ③灰白7.5Y7/1	内外面全面天目釉 生産地・瀬戸、美濃
9 32	①陶器 ②碗 ③口辺部片	覆土	口-(9.0) 底- 高-(4.1)	①細 夾雑鉍物粒をわずかに含む ②還 元焰 良好 ③灰白5 Y7/2	内外面透明釉 内外面細かい貫入有 外 面上絵付剥離 生産地・不詳 年代・18 C
10 32	①陶器 ②皿 ③底部片	覆土	口- 底-(4.6) 高-(1.9)	①中 夾雑鉍物粒を多量に含む ②還元 焰 良好 ③灰黄2.5Y7/2	内外面面灰釉 内面に貫入がわずかに入 る 生産地・瀬戸、美濃 年代・17C
11 32	①陶器 ②灯明皿 ③1/2	覆土	口-(7.2) 底-(3.2) 高-1.4	①中 夾雑鉍物粒を少量含む ②還元焰 普通 ③黄灰2.5Y4/1	内面全面 外面口縁部に透明釉 生産地・ 不詳 年代・近代
12 32	①陶器 ②甕 ③口辺部片	覆土	口-(15.0) 底- 高-(9.8)	①中 夾雑鉍物粒を含む ②還元焰 良 好 ③にぶい赤褐5 YR4/4	内外面全面鉄釉 頸部に沈線7本 生産 地・瀬戸、美濃
13 32	①陶器 ②鉢 ③底部片	覆土	口- 底-(12.0) 高-(3.4)	①中 夾雑鉍物粒を少量含む ②還元焰 良好 ③胎土明赤褐2.5YR5/6 釉灰白 N8/0	内面櫛がき後白化粧 目跡3カ所 生産 地・肥前、高台に窯道具付着
14 32	①陶器 ②播鉢 ③底部片	覆土	口- 底-(14.0) 高-(2.0)	①粗 夾雑鉍物粒を多量に含む ②酸化 焰 普通 ③にぶい赤褐2.5YR5/4	ロクロ調整 外底砂底 生産地・堺、明 石
15 32	①陶器 ②片口 ③口辺部片	覆土	口-(16.4) 底- 高-(6.2)	①粗 夾雑鉍物粒を多量に含む ②還元 焰 良好 ③灰白7.5Y8/2	内外面全面灰釉 外面口縁部に4mm幅の 沈線 生産地・瀬戸、美濃
16 33	①磁器 ②碗 ③ほぼ完形	覆土	口-10.2 底-3.8 高-5.6	①細 夾雑鉍物粒をわずかに含む ②還 元焰 良好 ③胎土灰白2.5GY8/1 釉 灰白5 GY8/1	内外面染付 外面花唐草文? 生産地・ 瀬戸、美濃
17 33	①磁器 ②碗 ③口辺部～底部1/2	覆土	口-(11.0) 底-4.9 高-6.2	①細 夾雑鉍物粒をわずかに含む ②還 元焰 良好 ③胎土灰白N8/0	内外面染付 内底「三友」内面口縁部四方 櫛底部高台内赤色で「キ」の記号 焼き 継ぎ生産地・瀬戸、美濃 年代・19C中
18 33	①磁器 ②碗 ③完形	覆土	口-8.2 底-2.9 高-4.8	①細 夾雑鉍物粒なし ②還元焰 良好 ③胎土白	内面底部に丸に「や」を中心に「寺本穀 店」外面ゴム印によるコバルト染付 生 産地・瀬戸、美濃 年代・昭和
19 33	①磁器 ②碗 ③体部～底部片	覆土	口- 底-(4.4) 高-(4.8)	①細 夾雑鉍物粒をわずかに含む ②還 元焰 良好 ③胎土灰白N8/0	内外面染付 生産地・瀬戸、美濃 年代・ 19C中

第Ⅲ章 遺構と遺物

20 33	①磁器 ②碗 ③口辺部～底部1/2	覆土	口-(10.5) 底-4.1 高-6.3	①細 夾雑鉱物粒を少量含む ②還元焰 良好 ③胎土灰白N8/0	内外面染付 内面口縁部四方襷 生産地・肥前 年代・19C中				
21 33	①磁器 ②碗 ③口辺部～底部1/2	覆土	口-(8.2) 底-(3.6) 高-5.1	①細 夾雑鉱物粒をわずかに含む ②還元焰 良好 ③胎土灰白N8/0	内外面染付 生産地・肥前 年代・18C				
遺物No 写真頁	①種類②器種	残存状態	石材	出土位置	量目 (cm・g)				特 徴
					長さ	幅	厚さ	重量	
22 33	①石製品 ②砥石	破片	砥沢石	覆土	10.0	(3.4)	2.8	75.0	2面使用

B20号溝 写真図版 11

位置 932～956-268～311 Gr

重複 新旧不明B24、B36、B44号溝。同時期B21号溝。

規模 長さ46.7m 幅4.3～7.1m

深さ 82～103cm

掘り方 上端から下端まで漸次的になだらかに落ち込む。壁面の形状はいびつで多くの凹凸がある。

遺物 土師器甕2、須恵器甕4、軟質陶器鍋5、陶器碗1、鉢8、播鉢2、釜輪1、蓋2、磁器碗6、皿3、徳利1、瓦2

所見 N-65° -Eの走向。935-310Gr付近から確認され、東端は調査区外に及ぶ。覆土は不明。形状がB17号溝と似ており、また出土遺物も同時期のものが多いことから、同時に存在したものと想定できる。その場合、920-350Gr付近（調査区外）でこの二つの溝が直交していたか、あるいは、直角に曲がる一条の溝であった可能性も考えられる。また、B21号溝はその形状や出土遺物、ほぼ直角に交わる関係などから同時期に存在し、機能していた可能性が高い。しかし、これらの溝の開削年代は不明。この溝は東進すると、調査区東側に現道1本を挟んで南流する端気川に直交することとなり、端気川との関係も考えられる。流水であるか溜水であるかは分からないが、水を伴う溝であったと想定される。

B21号溝 写真図版 11・33～34

位置 935～987-270～292 Gr

重複 古いB23、B28、B38、B39、B40a、B44、B27-B45-B72号溝。同時期B20号溝。

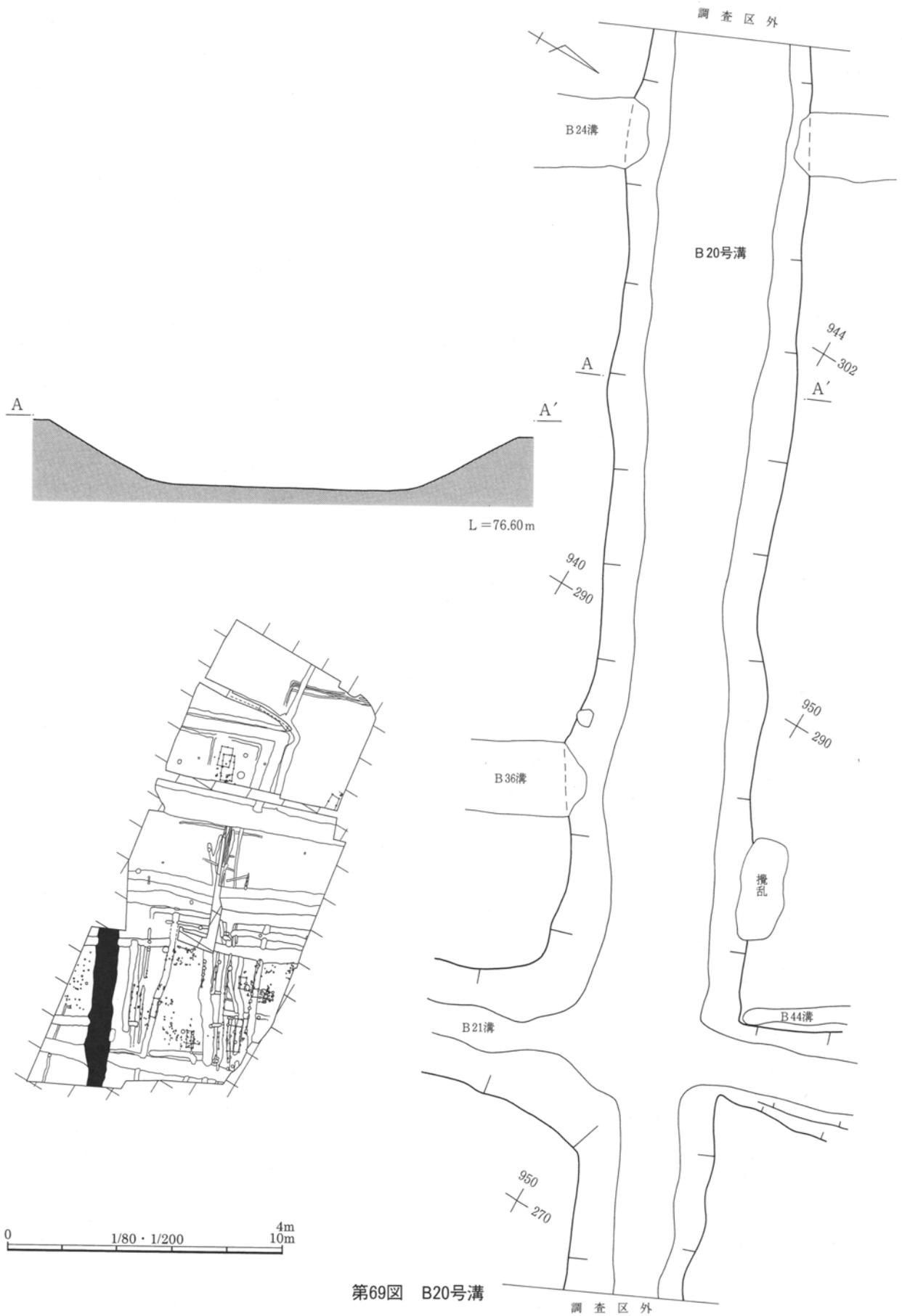
規模 長さ56.0m 幅2.8～5.3m

深さ 74～98cm

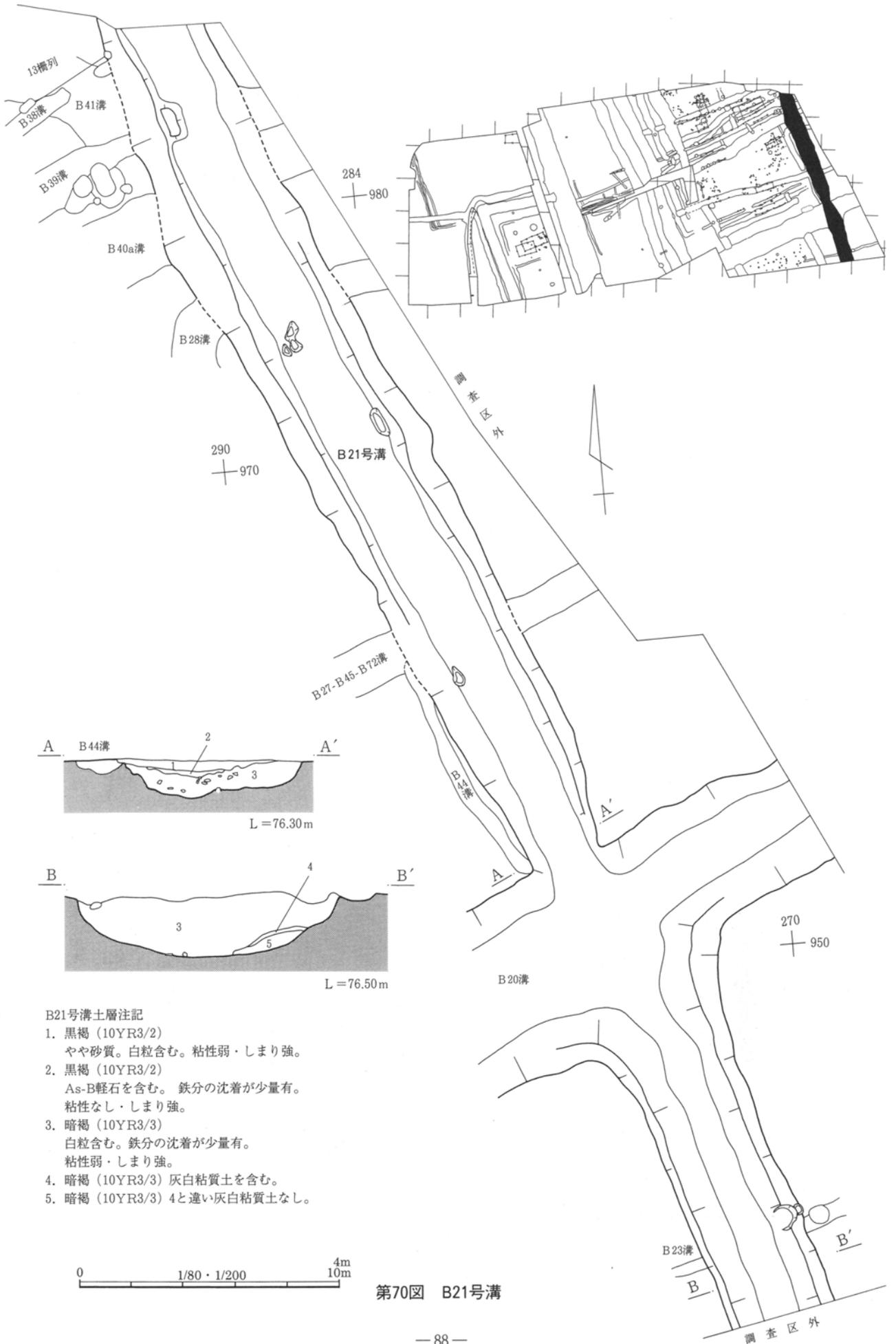
掘り方 上端から下端までなだらかに落ち込む。底部はほぼ平坦を呈する。

遺物 土師器坏14、甕133、高台付碗1、須恵器坏19、蓋1、甕36、高台付碗2、灰釉陶器壺1、土師質土器皿4、羽口1、軟質陶器鍋163、内耳鍋2、焙烙1、内耳焙烙3、火鉢3、鉢1、七輪1、陶器碗76、天目碗1、皿3、香炉7、甕6、徳利1、鉢7、播鉢14、捏ね鉢12、灯明皿2、片口1、磁器碗120、青磁碗1、皿7、急須4、徳利1、蓋1、瓦15、板碑2、砥石2、自然礫64、金属類銭貨1、鎌2

所見 N-23° -Wの走向。両端とも調査区外までのびる。B20号溝と規模が似ており、また直交する状態からほぼ同時期に存在していたものと想定される。特にB20号溝との交点のすぐ北側の955-277Gr付近では板碑や陶磁器類、自然礫が大量に集まって出土している。しかしなぜそこに集中するのかについては不明。



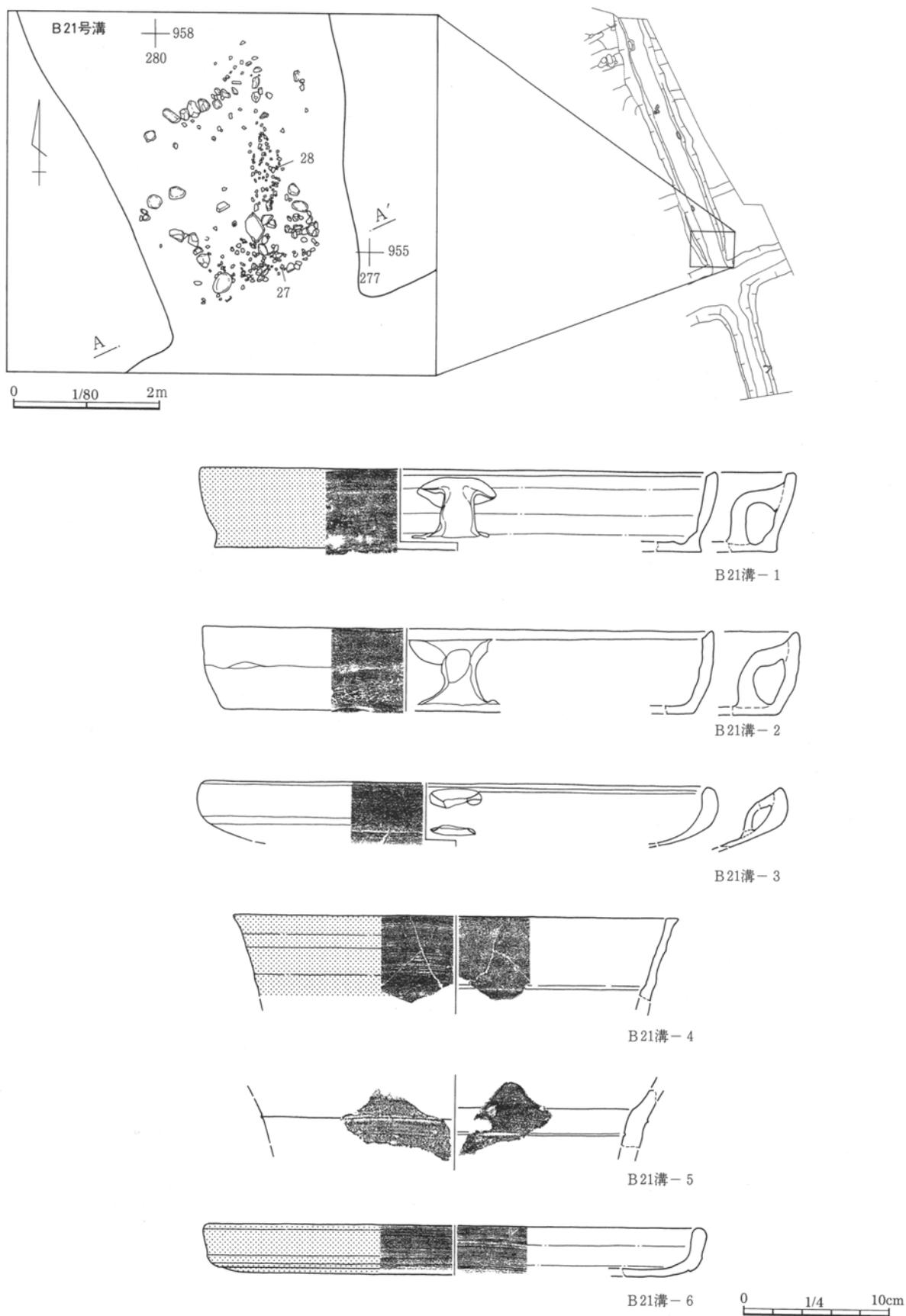
第69図 B20号溝



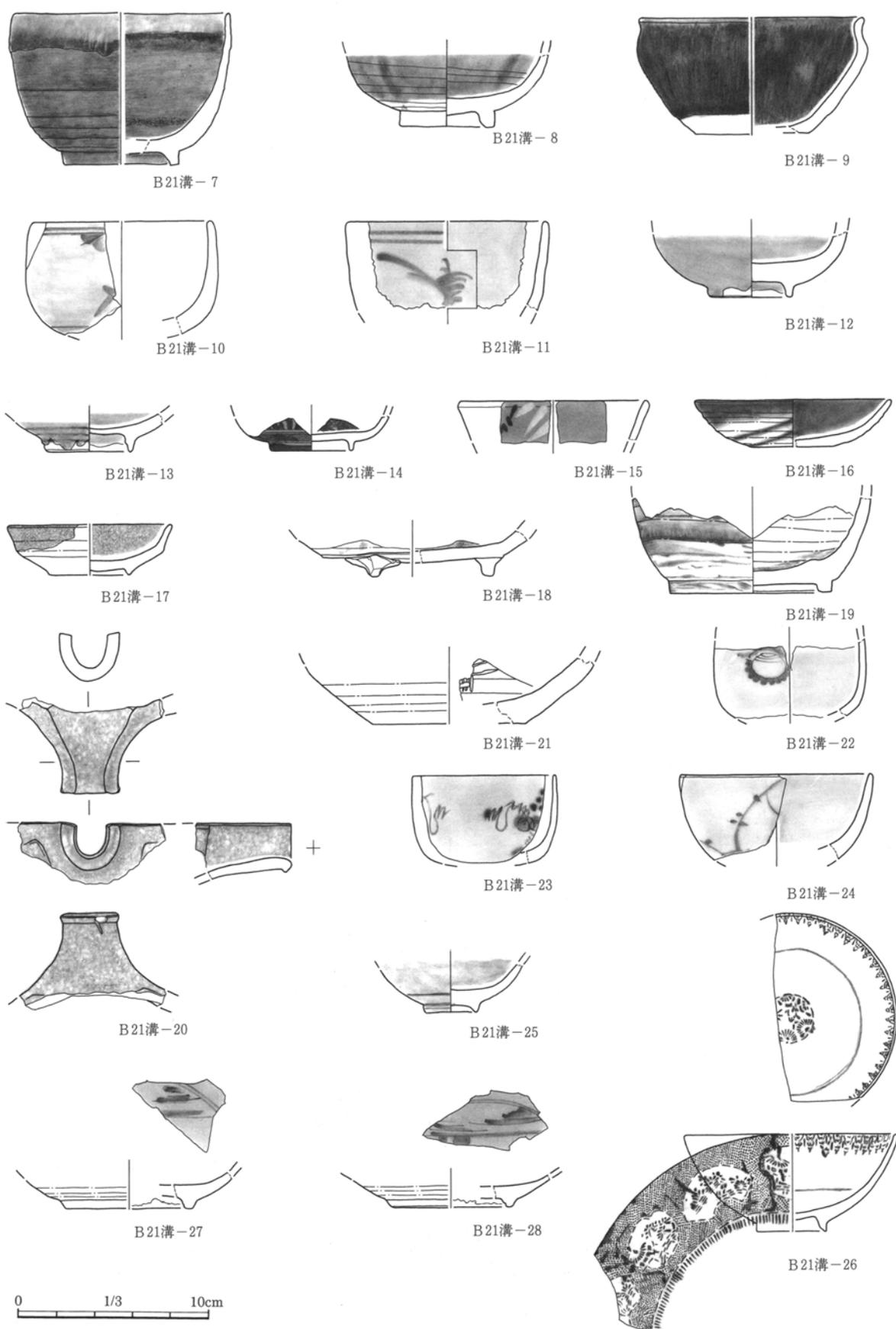
B21号溝土層注記

1. 黒褐 (10YR3/2)  
やや砂質。白粒含む。粘性弱・しまり強。
2. 黒褐 (10YR3/2)  
As-B軽石を含む。鉄分の沈着が少量有。  
粘性なし・しまり強。
3. 暗褐 (10YR3/3)  
白粒含む。鉄分の沈着が少量有。  
粘性弱・しまり強。
4. 暗褐 (10YR3/3) 灰白粘質土を含む。
5. 暗褐 (10YR3/3) 4と違い灰白粘質土なし。

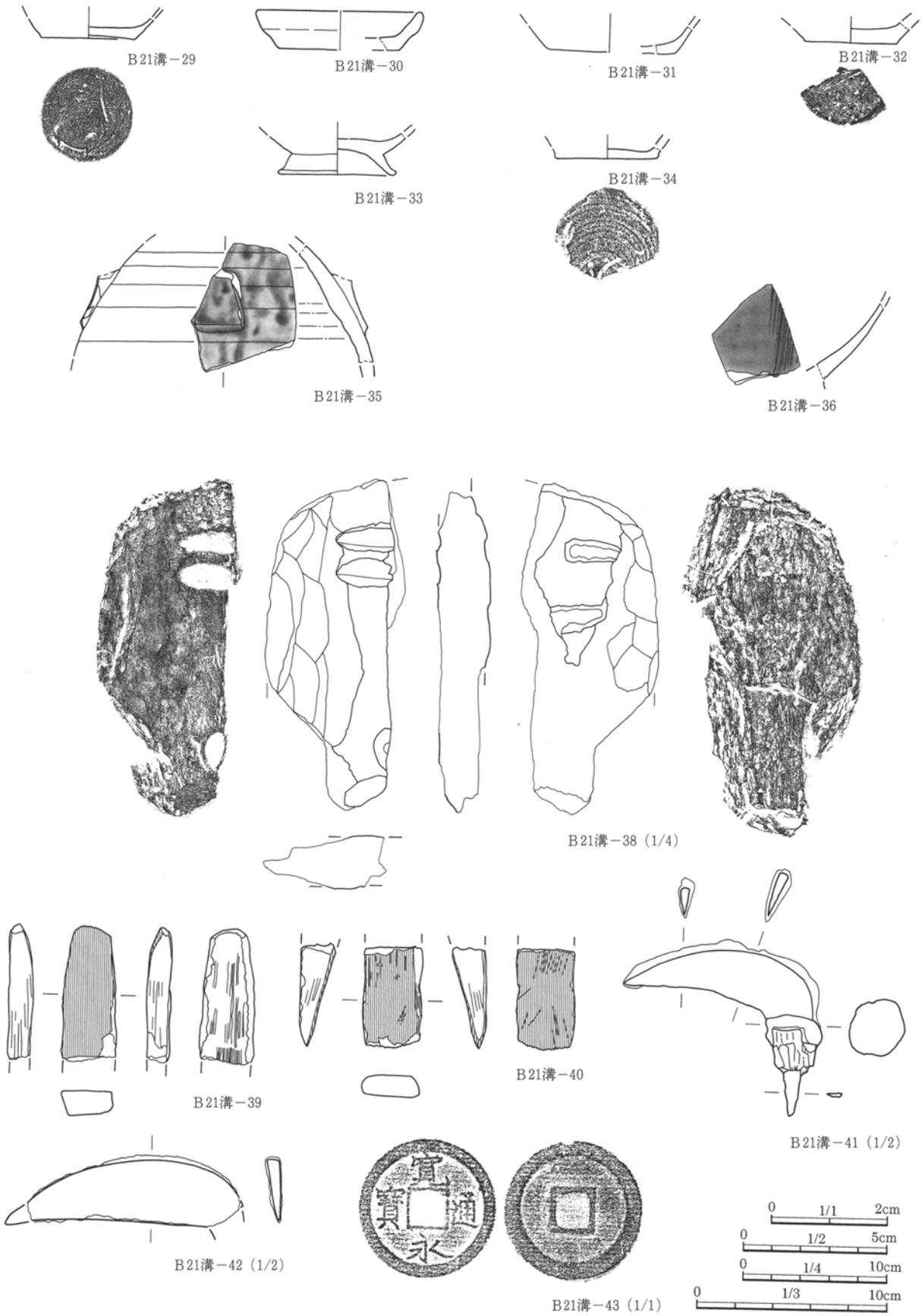
第70図 B21号溝



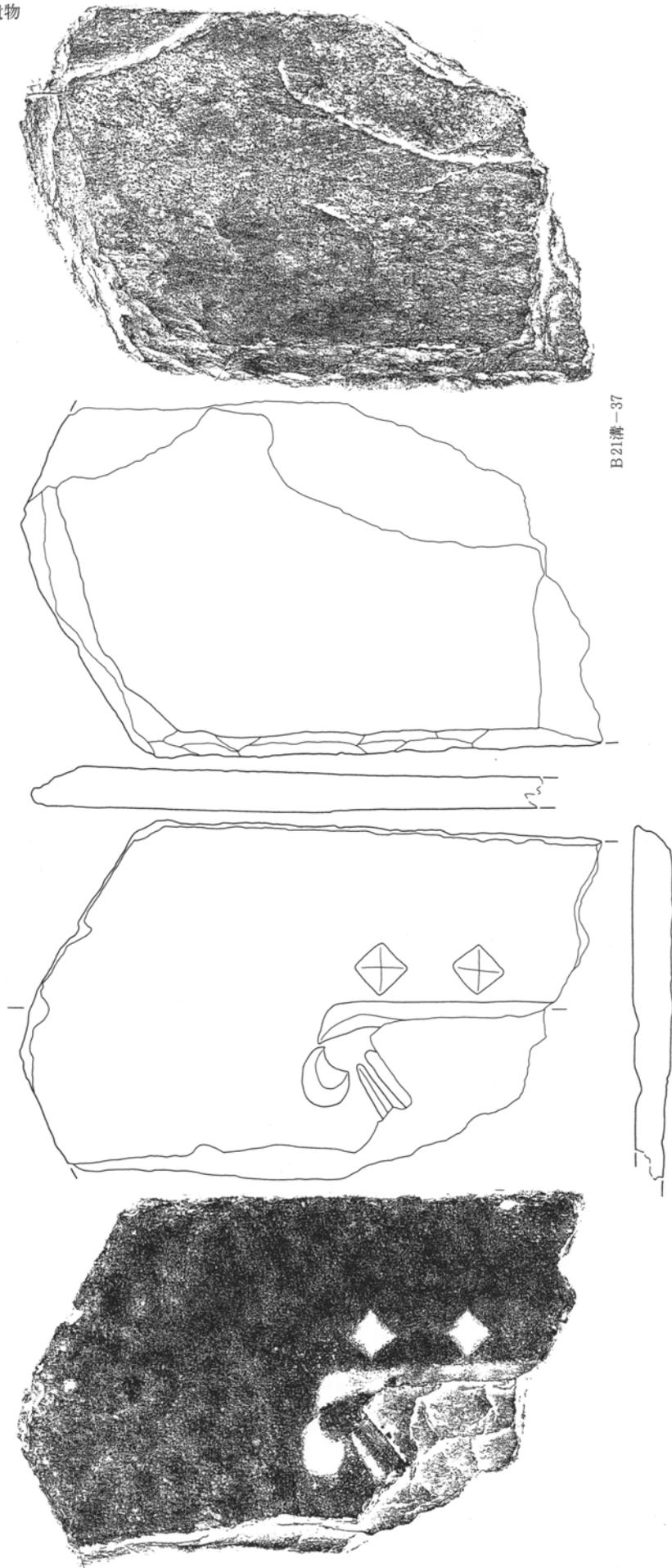
第71図 B21号溝出土遺物(1)



第72図 B21号溝出土遺物(2)



第73図 B21号溝出土遺物(3)



第74図 B21号溝出土遺物(4)

B21号溝出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調外④色調内	成・整形技法の特徴
1 33	①軟質陶器 ②内耳焙烙 ③口辺部～底部片	覆土	口-(36.2) 底-(3.4) 高-5.5	①粗 夾雑鉍物粒を少量含む ②還元焰 普通 ③黒N2/0 ④灰N5/0	ロクロ調整 耳貼付 平底 外面胴部煤 付着
2 33	①軟質陶器 ②内耳焙烙 ③口辺部～底部片	覆土	口-(35.5) 底-(33.0) 高-5.7	①粗 夾雑鉍物粒を多量に含む ②還元 焰 普通 ③黒褐5 Y3/1 ④褐灰10Y R5/1	ロクロ調整 耳貼付 平底
3 33	①軟質陶器 ②内耳焙烙 ③口辺部～底部片	覆土	口-(35.0) 底- 高-(4.1)	①粗 夾雑鉍物粒を多量に含む ②還元 焰 良好 ③黒10YR2/1 底灰黄褐10 YR5/2 ④褐灰10YR5/1	ロクロ調整 耳貼付 丸底 年代・19C 中
4 33	①軟質陶器 ②内耳鍋 ③口辺部片	覆土	口-(31.0) 底- 高-(5.8)	①中 夾雑鉍物粒を含む ②還元焰 普 通 ③褐灰10YR6/1	ロクロ調整 外面煤付着 年代・中世
5 33	①軟質陶器 ②内耳鍋 ③胴部片	覆土	口- 底- 高-(4.1)	①中 夾雑鉍物粒を少量含む ②酸化焰 普通 ③黒褐7.5YR3/1 ④にぶい赤褐 5 YR5/2	ロクロ調整 外面黒変 年代・中世
6 33	①軟質陶器 ②焙烙 ③口辺部～底部片	覆土	口-(34.2) 底- 高-(3.4)	①中 夾雑鉍物粒を含む ②酸化焰 良 好 ③黒褐10YR3/2 ④にぶい黄橙10 YR7/2	ロクロ調整 丸底 外面煤付着
7 33	①陶器 ②碗 ③口辺部～底部片	覆土	口-(11.2) 底-(6.0) 高-7.8	①粗 夾雑鉍物粒を多量に含む ②還元 焰 良好 ③浅黄2.5Y7/3	内外面全面鉛釉 高台接地部分けずり調整 口縁部はわら灰釉かけ 高台端部のみ無釉 生産地・瀬戸、美濃 年代・18C前
8 33	①陶器 ②碗 ③胴部～底部片	覆土	口- 底-5.0 高-3.8	①中 夾雑鉍物粒を少量含む ②還元焰 良好 ③胎土にぶい黄2.5Y6/3 釉黄褐 2.5Y5/6	内面全面 外面底部体部最下半以外鉛釉 外面に1部薬灰釉付着 生産地・瀬戸、 美濃 年代18C前～中
9 33	①陶器 ②天目碗 ③口辺部～底部片	覆土	口-(12.8) 底-(3.0) 高-6.0	①中 夾雑鉍物粒を含む ②還元焰 良 好 ③胎土白灰5 Y8/1 釉黒7.5Y2/2	内面全面 外面底部体部最下半以外天目 釉 生産地・瀬戸、美濃
10 33	①陶器 ②碗 ③口辺部～胴部片	覆土	口-(9.4) 底- 高-(5.8)	①細 夾雑鉍物粒をわずかに含む ②還 元焰 良好 ③明オリブ灰2.5GY7/1	外面染付 内面無文 貫入が入る 陶胎 染付 生産地・肥前 年代・18C前～中
11 33	①陶器 ②碗 ③口辺部～胴部片	覆土	口-(10.4) 底- 高-(4.6)	①粗 夾雑鉍物粒を含む ②還元焰 良 好 ③灰白10Y7/1	外面染付 内面無文 貫入が入る 陶胎 染付 生産地・肥前 年代・18C前～中
12 33	①陶器 ②碗 ③胴部～底部片	覆土	口- 底-4.4 高-(3.3)	①細 夾雑鉍物粒を少量含む ②還元焰 良好 ③胎土灰5 Y6/1 釉灰白10Y7/1	外面染付 内面無文 貫入が入る 高台 一部露胎 陶胎染付 生産地・肥前 年 代・18C前～中
13 33	①陶器 ②碗 ③底部片	覆土	口- 底-(4.4) 高-(2.0)	①中 夾雑鉍物粒をわずかに含む ②還 元焰 良好 ③胎土灰5 Y6/1 釉灰白 10Y7/1	外面染付 内面無文 貫入が入る 高台 一部露胎 陶胎染付 生産地・肥前 年 代・18C前～中
14 33	①陶器 ②碗 ③胴部～底部片	覆土	口- 底-(4.3) 高-(1.8)	①細 夾雑鉍物粒をわずかに含む ②還 元焰 せっ器質 ③胎土にぶい黄褐10Y R7/4 釉暗褐10YR3/3	内面と外面白泥による刷毛目 器壁薄い 現川に似るやや高級品か 生産地・肥前
15 33	①陶器 ②碗 ③口縁部片	覆土	口-(9.9) 底- 高-(3.0)	①細 夾雑鉍物粒をわずかに含む ②還 元焰 良好 ③胎土灰白5 Y7/2	内外面透明釉 内外面貫入有 外面に色 絵(白紅)生産地・不詳
16 33	①陶器 ②灯明皿 ③口辺部～底部片	覆土	口-(12.0) 底-(4.0) 高-2.5	①細 夾雑鉍物粒を少量含む ②還元焰 良好 ③胎土黄灰2.5Y6/1 釉にぶい赤 褐5 YR4/3	全面錆釉 施釉後外面底部～体部釉拭い 取る 生産地・瀬戸、美濃
17 33	①陶器 ②灯明皿 ③口辺部～底部片	覆土	口-(8.6) 底-(4.3) 高-2.6	①細 夾雑鉍物粒をわずかに含む ②還 元焰 良好 ③浅黄2.5Y8/3	内面全面 外面口縁部に鉛釉 口縁部煤 付着 生産地・瀬戸、美濃
18 33	①陶器 ②香炉 ③底部片	覆土	口- 底-(9.4) 高-(2.3)	①中 夾雑鉍物粒を含む ②還元焰 良 好 ③淡黄2.5Y8/3 ④黄褐10YR5/6	内面鉄釉 外面露胎 生産地・瀬戸、美 濃 年代・江戸
19 33	①陶器 ②德利 ③胴部～底部	覆土	口- 底-8.4 高-(5.0)	①中 夾雑鉍物粒を少量含む ②還元焰 良好 ③胎土灰黄褐10YR6/2 釉褐7.5 YR4/4	外面胴部鉛釉 胴部最下半から底部は釉 ぬぐい取る 生産地・瀬戸、美濃 年代・ 18C

第三章 遺構と遺物

20 34	①陶器 ②片口 ③注口部片	覆土	口-(7.6) 底-(4.9) 高-(3.2)	①中 夾雑鉱物粒を含む ②還元焰 良好 ③にぶい黄橙10YR7/2	内外面灰釉 生産地・瀬戸、美濃 年代・18C	
21 34	①陶器 ②不詳 ③胴部～底部片	覆土	口- 底-(8.0) 高-(3.4)	①細 夾雑鉱物粒を含む ②還元焰 良好 ③灰白5Y8/1	内面に沈線有 生産地・瀬戸、美濃	
22 34	①磁器 ②碗 ③胴部片	覆土	口- 底- 高-(4.0)	①細 夾雑鉱物粒をわずかに含む ②還元焰 良好 ③胎土灰白N8/0	外面染付 内面無文 生産地・瀬戸、美濃年代・19C前～中	
23 34	①磁器 ②碗 ③口辺部～胴部片	覆土	口-(7.4) 底- 高-(4.6)	①細 夾雑鉱物粒を少量含む ②還元焰 良好 ③胎土灰白N8/0	外面染付 内面無文 焼成不良により釉が部分的に自濁する 生産地・肥前? 年代・18C後～19C中	
24 34	①磁器 ②碗 ③口辺部～胴部1/6	覆土	口-(10.0) 底- 高-(4.4)	①細 夾雑鉱物粒を少量含む ②還元焰 良好 ③胎土灰白N8/0	外面雪輪梅樹文 内面無文 波佐見系 生産地・肥前 年代・18C中～後	
25 34	①磁器 ②碗 ③底部片	覆土	口- 底-3.0 高-(2.4)	①細 夾雑鉱物粒をわずかに含む ②還元焰 良好 ③胎土灰白10Y7/1	外面染付 内面無文 焼成不良により釉が部分的に自濁する 波佐見系 生産地・肥前 年代18C中～19C前	
26 34	①磁器 ②碗 ③1/3	覆土	口-(11.1) 底-(3.6) 高-5.0	①細 夾雑鉱物粒をわずかに含む ②還元焰 良好 ③胎土灰白N8/0	内外面型紙染付 内面口縁部に環珞文と底部に松竹梅文 素地灰白色で焼成不良か? 生産地・不詳 年代・明治以降	
27 34	①磁器 ②皿 ③体部～底部	覆土	口- 底-(6.6) 高-(1.9)	①細 夾雑鉱物粒をわずかに含む ②還元焰 良好 ③胎土灰白N7/0	内面染付 外面無文 生産地・肥前 年代・17C	
28 34	①磁器 ②皿 ③体部～底部	覆土	口- 底-(6.6) 高-(1.6)	①細 夾雑鉱物粒をわずかに含む ②還元焰 良好 ③胎土灰白N7/0	内面染付 外面無文	
29 34	①土師質土器 ②皿 ③底部片	覆土	口- 底-4.9 高-(1.1)	①中 細砂～礫、パミスを少量含む ②酸化焰 良好 ③橙5YR6/6	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整	
30 34	①土師質土器 ②皿 ③口辺部～底部片	覆土	口-(8.8) 底-(6.2) 高-2.1	①中 細砂、パミスを多量に含む ②酸化焰 良好 ③にぶい橙7.5YR7/4	ロクロ調整	
31 34	①土師質土器 ②皿 ③底部片	覆土	口- 底-(6.8) 高-(1.4)	①中 細砂、パミス、褐色鉱物粒含む ②酸化焰 普通 ③橙5YR6/6	ロクロ調整 底部回転糸切り無調整	
32 34	①土師質土器 ②皿 ③底部片	覆土	口- 底-(4.8) 高-(1.0)	①中 細砂～礫、パミスを少量含む ②酸化焰 普通 ③橙5YR6/6	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整	
33 34	①土師器 ②高台付碗 ③底部片	覆土	口- 底-6.2 高-(2.0)	①粗 細砂、粗砂、パミスを多量に含む ②酸化焰 良好 ③橙5YR6/6	ロクロ調整 高台貼付 体部内面黒色処理	
34 34	①須恵器 ②坏 ③底部片	覆土	口- 底-(5.4) 高-(0.6)	①中 夾雑鉱物粒を多量に含む ②還元焰 普通 ③褐灰5YR6/1	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整 内面底部に鉍滓状のもの付着	
35 34	①灰釉陶器 ②壺 ③胴部片	覆土	口- 底- 高-(5.9)	①細 夾雑鉱物粒を含む ②還元焰 良好 ③釉オリープ灰10Y6/2 ④灰白7.5Y8/1	外面耳貼付後灰釉 水注か手付瓶 年代・平安	
36 34	①磁器(青磁) ②碗 ③体部片	覆土	口- 底- 高-(3.9)	①細 夾雑鉱物粒を少量含む ②還元焰 良好 ③胎土灰白10Y8/1 釉灰オリープ5Y6/1	内面全面 体部外面下位以下は無釉 外面体部に櫛がき文 生産地・同安窯系 年代・12C	
遺物No 写真頁	①種類②器種	残存状態	石材	出土位置	量目 (cm・g) 長さ 幅 高さ 重量	特徴
37 34	①石製品 ②板碑	上半部	緑色片岩	覆土	37.7 23.0 2.6 4475.0	キリーク上半部残る
38 34	①石製品 ②板碑	破片	緑色片岩	覆土	23.0 9.8 3.7 1010.0	2条線 キリークか 裏面にノミ状工具痕残る
39 34	①石製品 ②砥石	破片	砥沢石	覆土	(7.0) 2.8 1.3 36.0	1面使用 3面に成形痕を残す
40 34	①石製品 ②砥石	破片	砥沢石	覆土	(5.2) 3.0 1.8 31.0	2面使用

遺物No.	写真頁	種類	器種	残存状態	出土位置	量目 (cm・g)				特徴	
						長さ	幅	厚さ	重量		
41	34	金属器	鎌	刃部完形	覆土	6.8	2.0	0.6	22.1	柄の一部木質残存	
42	34	金属器	鎌	刃部破片	不明	7.4	2.3	0.6	17.7		
遺物No.	写真頁	種類	残存状態	銭貨名	国名	量目 (cm・g)				出土位置	備考
						外径	孔径	厚さ	重量		
43	34	銭貨	完形	寛永通寶	日本	2.5	0.6	0.1	2.7	不明	一文銭 3期

B22号溝 写真図版 11・35

位置 974～987-301～334 Gr

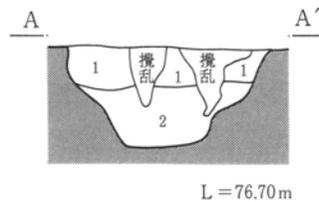
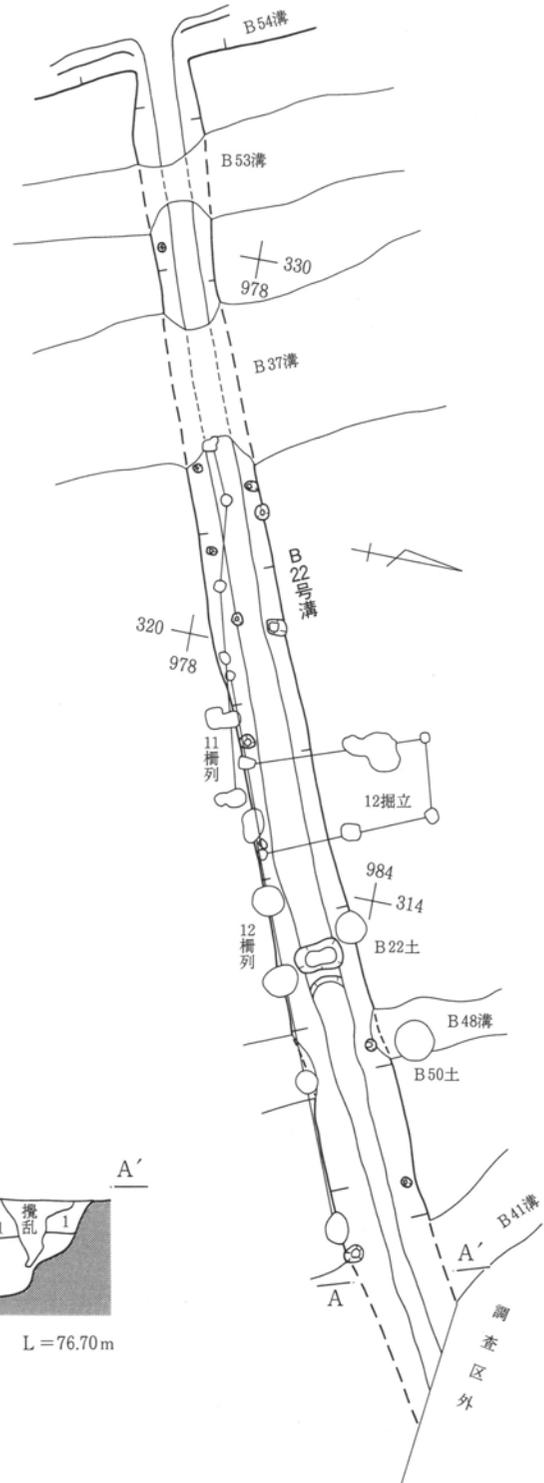
重複 同時期B54号溝。新旧不明B37、B48、B53号溝、12号掘立、11、12号柵列。

規模 長さ36.0m 幅1.5～2.4m

深さ 49～91cm

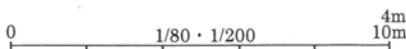
掘り方 上端から約60cmに中段を持ちながら落ち込む。底面はほぼ平坦を呈する。

遺物 土師器坏54、甕191、須恵器坏27、甕9、高台付碗2、灰釉陶器壺2、土師質土器皿1、陶器甕1、壺1、その他1、磁器碗7、皿3、金属器釘1  
 所見 N-65°-Eの走向。東端は調査区外に及び、西端は974-334Gr付近でB54号溝と重なる。走向はB20号溝と等しく、B21号溝とはほぼ直角になる。B21号溝とは調査区外になるが、293-991Gr付近で交わり、1条になるか、または直交していたと想定される。B17号溝まで西進すればこれらに囲まれた一つの大きな区画を形成する。しかし、調査の中では確認されなかった。B54号溝を越えて西側では確認されないため、B54号溝と同時期に存在していたと想定されるが、西に向かうに従って、浅くなってしまうため、B54号溝と共にどんな機能を持っていたかは不明。

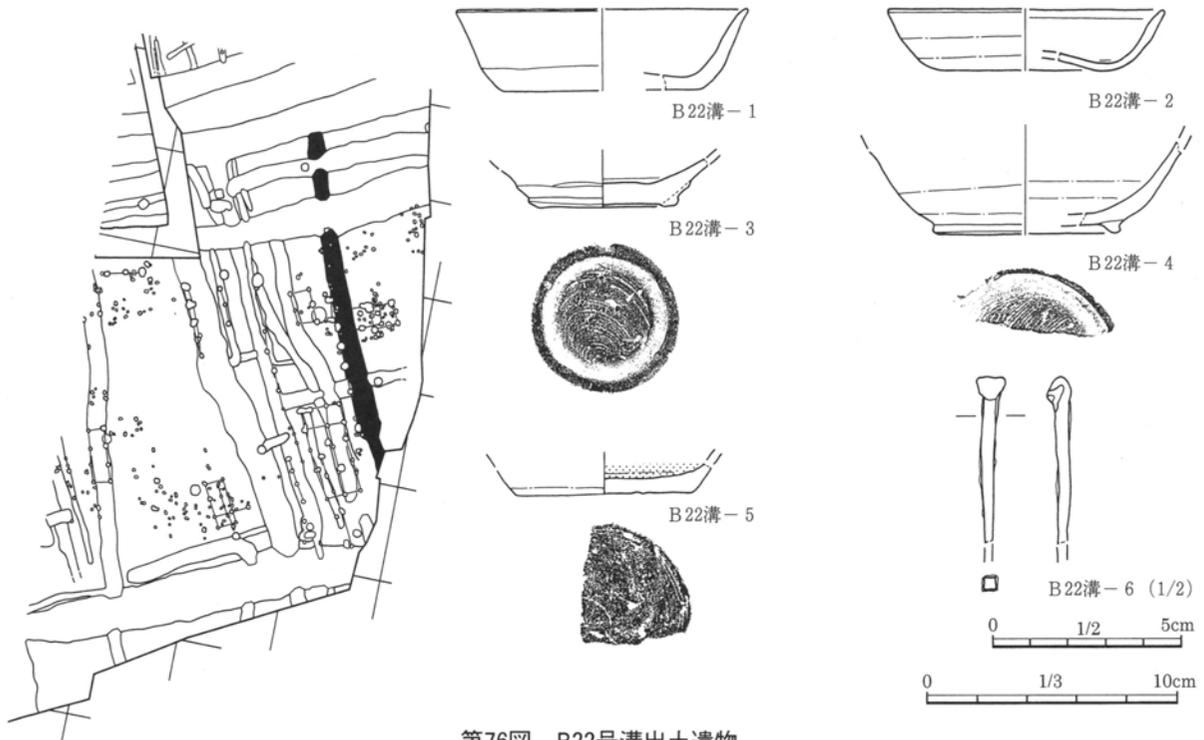


B22号溝土層注記

1. 褐灰 淡黄粘質土細粒少含。  
黒褐粘質土の大塊を少含。
2. におい赤褐 黄橙粘質土、  
黒褐粘質土大塊、黒褐砂質土の混土。



第75図 B22号溝



第76図 B22号溝出土遺物

B22号溝出土遺物観察表

遺物No 写真頁	①種類②器種 ③残存状態			出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調外④色調内				成・整形技法の特徴	
	遺物No	写真頁	種類			器種	残存状態	量目 (cm・g)			
		長さ	幅	高さ	重量						
1 35	①土師器 ②坏 ③口縁部～底部1/4	覆土	口-(11.4) 底-(7.8) 高-3.2	①細 細砂, パミスを少量含む ②酸化 焰 良好 ③にぶい橙7.5YR6/4	口縁部横ナデ 底部篋削り 内面ナデ						
2 35	①須恵器 ②坏 ③口縁部～底部1/4	覆土	口-(11.0) 底-(6.0) 高-2.4	①中 細砂, 黒色鉱物粒を多量に含む ②酸化焰 良好 ③灰N5/0 ④灰N5/1	ロクロ調整(右) 底部外面口縁から体部 にかけ自然釉						
3 35	①須恵器 ②高台付碗 ③底部片	覆土	口- 底-5.3 高-(1.8)	①中 細砂～礫, パミスを含む ②還元 焰 良好 ③暗灰N3/0	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り後高台 貼付						
4 35	①須恵器 ②高台付碗 ③底部～体部1/4	覆土	口- 底-(7.0) 高-(3.6)	①細 細砂～礫, パミスを含む ②還元 焰 良好 ③灰N6/0	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り後高台 貼付						
5 35	①土師質土器 ②皿 ③底部片	覆土	口- 底-(7.0) 高-(1.1)	①細 細砂～礫, パミスを含む ②酸化 焰 普通 ③にぶい橙7.5YR6/4	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整 内面一部に煤付着						
6	27	金属器	釘	ほぼ完形	覆土	長さ	幅	高さ	重量	特 徴	
						4.4	0.4	0.4	1.8	頭巻釘	

B23号溝

位置 935～942-262～285 Gr

重複 新しいB21、B36号溝。新旧不明B20号土坑。

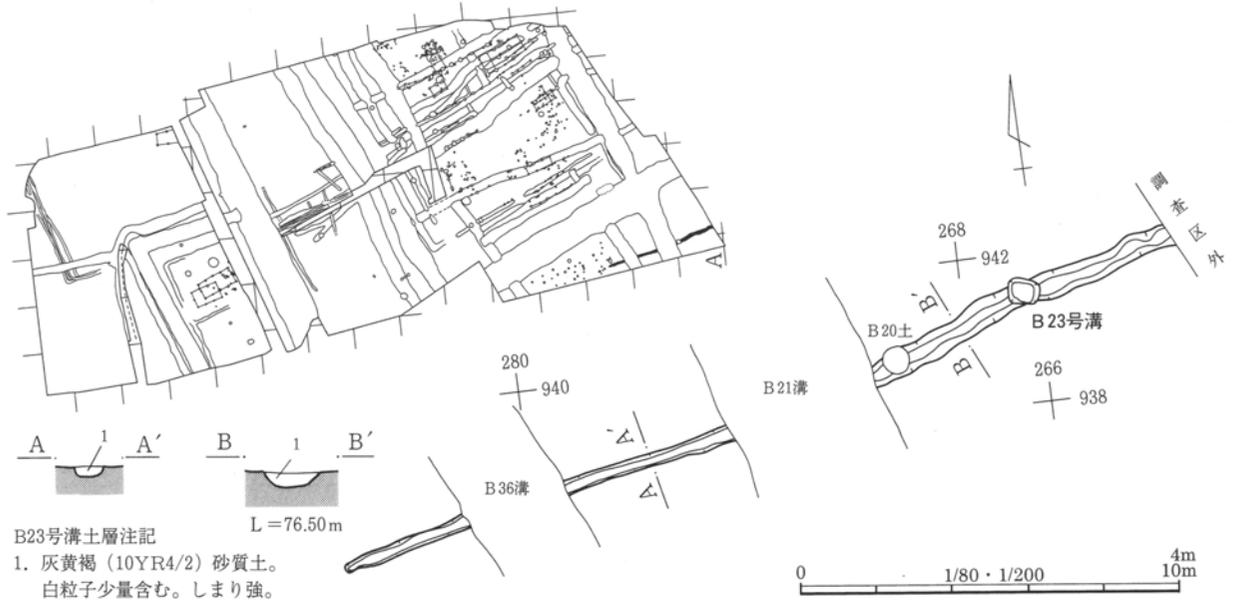
規模 長さ24.0m 幅0.2～0.8m

深さ 7～14cm

掘り方 残存する深さは浅く、底部はやや丸みを持つものの平坦に近い。

遺物 なし

所見 N-72° -Eの走向。東端は遺構外までのび、西端は936-285Gr付近で浅くなり終わる。ほぼ一直線に伸びる。覆土の観察では白色粒が多少含まれているが、これでは時期を特定するには至らなかった。



B24号溝 写真図版 11

位置 930~954-302~316 Gr

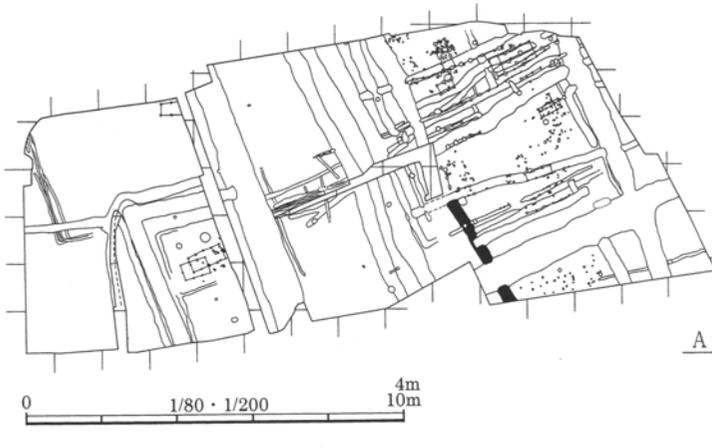
重複 時期不明B20、B26、B29、B30、B31号溝、B24号土坑。同時期B27-B45-B72号溝。

規模 長さ26.5m 幅2.2~2.5m 深さ 40cm

掘り方 なだらかに落ち込み、底部は平坦。

遺物 土師器坏3、甕10、須恵器坏5、甕1、自然礫4

所見 N-31° -Wの走向。北端は953-316Gr付近でB27-B45-B72号溝と交わって終わり、南端は調査区外までのびる。ほぼ直線的できれいな印象を受ける。B31号溝との交点上のB24号土坑の位置は特殊な意味合いを持つものなのかは不明。



B25号溝 写真図版 11・35

位置 971~986-297~322 Gr

重複 同時期B37号溝。古いB33号溝。新旧不明B48号溝、13、14号掘立、B29、B37号土坑。

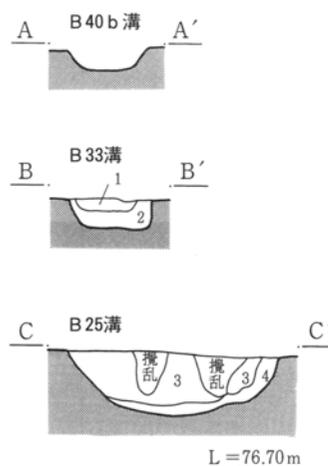
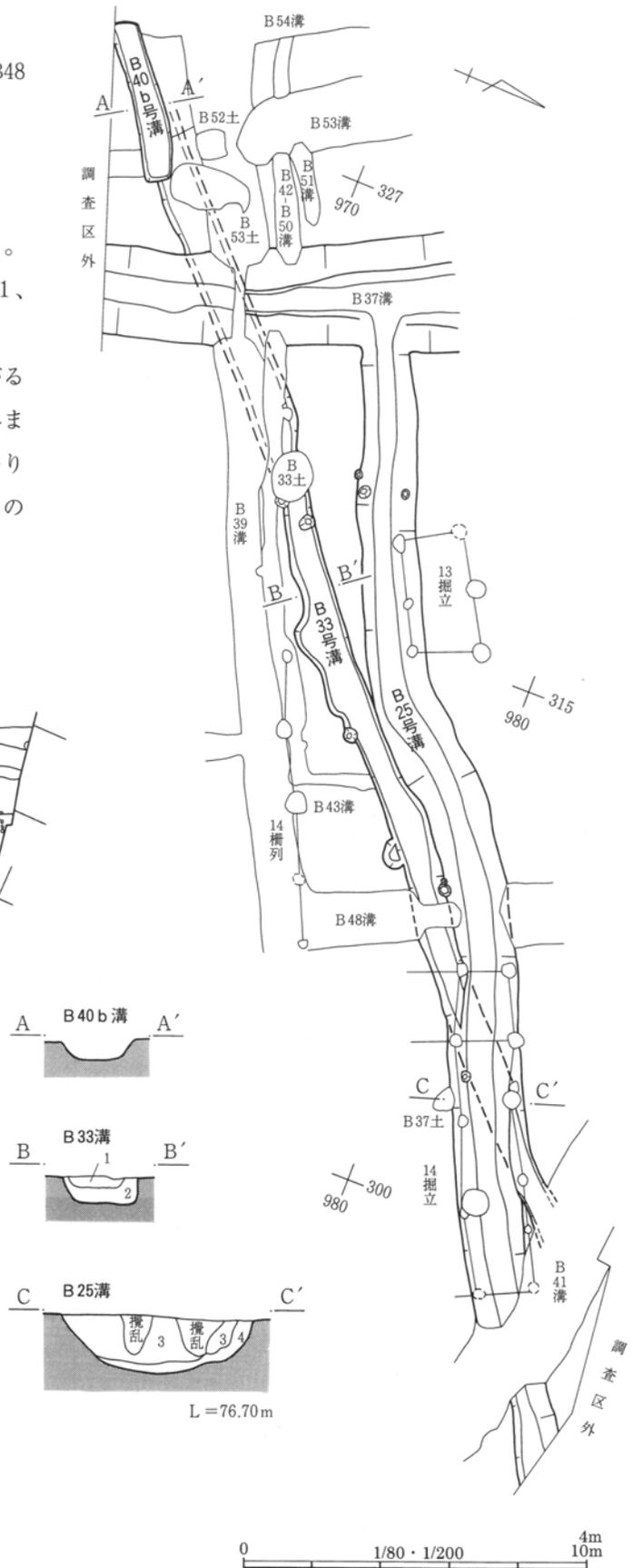
規模 長さ29.0m 幅1.4~1.8m

深さ 24~55cm

掘り方 丸みを持って落ち込み、円弧状を呈する。

遺物 土師器台付甕1、須恵器甕1、緑釉陶器皿1、灰釉陶器碗1、甕2

所見 977-313Gr付近でややクランク状に曲がるがおおよそN-58°-Eの走向。東端は調査区外までのび、西端は972-323Gr付近でB37号溝に交わり終わる。B37号溝に交わるように終わるため、この溝とは同時に存在していた可能性も考えられる。



B25号、B33号溝土層注記

1. 褐灰 (10YR4/1) 砂質土。  
白粒子少含。鉄分僅含。
2. 黒褐 砂質土。粒子荒い。
3. にぶい黄褐 やや砂質。白粒子少含。
4. 褐灰 砂質土。  
1層の大塊を僅含。鉄分沈着が少量に有。

第79図 B25、B33、B40b号溝

B33号溝 写真図版 36

位置 964~985-300~325 Gr

重複 新しいB25号溝。新旧不明B37、B39、B40b、B42-B50、B43、B48、B53号溝、B33、B53号土坑。14号掘立。

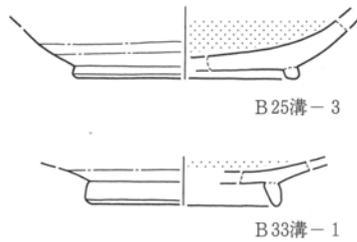
規模 長さ32.0m 幅1.0~1.2m

深さ 25~57cm

掘り方 上端から下端まで急な角度で落ち込み、底面はほぼ平坦を呈する。

遺物 土師器坏16、須恵器坏5、甕1、灰釉陶器皿1、軟質陶器不明2、陶器皿1、甕1、その他1

所見 N-49° -Eの走向。東端はととても浅くなりながら985-303Gr付近のB41号溝上で確認できなくなる。西端は962-329Gr付近でB54号溝と交わり終わると思われるが、重複が激しく、確定はされない。出土遺物は時代幅があるが、これはB41号溝と重複しているために、流れ込んできたものが多いことが原因だと想定される。



B40b号溝 写真図版 14

位置 962~964-325~329 Gr

重複 新旧不明B33、B53、B54号溝。

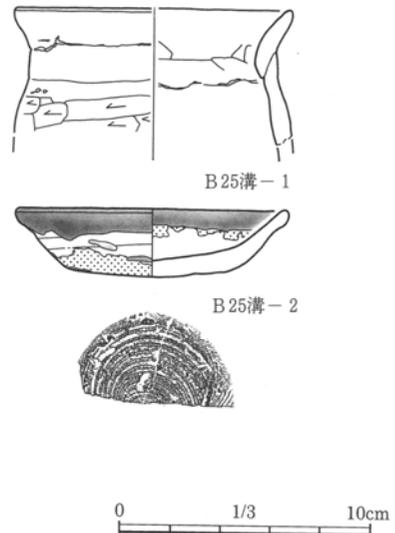
規模 長さ4.7m 幅0.8~0.9m

深さ 26cm

掘り方 浅い台形状を呈する。

遺物 なし

所見 N-55° -Eの走向。東端は964-325Gr付近、西端は962-328Gr付近でB53号溝と交わり確認できなくなる。形状からは溝というよりは隅丸長方形の土坑に近い。



第80図 B25、B33号溝出土遺物

B25号溝出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
1 35	①土師器 ②台付甕? ③口辺部~胴部1/4	覆土	口-(11.0) 底-( ) 高-(5.3)	①中 細砂、パミス、黒色粒を少量含む ②酸化焰 不良 ③にぶい褐7.5YR5/3	口縁部横ナデ 胴部外面横位篋削り 内面口縁部横ナデ
2 35	①緑釉陶器 ②皿 ③1/4	不明	口-(10.8) 底-(6.8) 高-2.8	①細 夾雑鉱物粒を少量含む ②還元焰 良好 ③釉灰オリーブ 5 Y 5/3 胎土灰 7.5Y6/1	底部右回転糸切り無調整 口縁部内外に灰釉内面の露体面と外面の底に煤附着 生産地・瀬戸、美濃 年代・14C
3 35	①灰釉陶器 ②碗 ③底部片	覆土	口-( ) 底-(9.0) 高-(2.4)	①中 夾雑鉱物粒を少量含む ②還元焰 普通 ③釉オリーブ灰10Y6/2 外灰白 7.5Y8/1	体部下半~底部回転篋削り 高台貼付 内面全面灰釉 年代・平安

B33号溝出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
1 36	①灰釉陶器 ②皿 ③底部1/2弱	覆土	口-( ) 底-(7.4) 高-(1.8)	①細 夾雑鉱物粒をわずかに含む ②還元焰 良好 ③灰白N8/0	ロクロ調整 高台貼り付け 内面底部以外灰釉 年代・平安
2 36	①陶器 ②皿? ③口縁部片	覆土	口-(12.0) 底-( ) 高-(2.1)	①中 夾雑鉱物粒をわずかに含む ②還元焰 良好 ③釉灰オリーブ 5 Y 6/2 にぶい橙 5 YR6/4	内面と外面 口縁部に釉 内面に鉄絵 口縁端部に鉄絵具を塗る 生産地・肥前

**B26号溝** 写真図版 12・35

**位置** 945～958-284～311 Gr

**重複** 古いB30号溝。新旧不明B24号溝、B90号土坑。

**規模** 長さ30.0m 幅0.8～1.2m

**深さ** 20cm

**掘り方** 浅い台形状で、底面はやや平坦を呈する。

**遺物** 土師器坏5、甕8、須恵器坏2、陶器碗2、香炉1、瓶子1、板碑1、自然礫2

**所見** N-65° -Eの走向。東端は958-285Gr付近で浅くなり終わり、西端は946-311Gr付近でB24号溝と交わり終わる。ここには4条の同一方向の走向を持つ溝が重複しており、遺物の時間的な幅もある。同時期に機能していたものかは分からないが、B30号溝など古い溝が機能しなくなっても記憶が薄れないうちに、B26号溝が掘られたであろうと考えられる。

**B29号溝** 写真図版 12・36

**位置** 942～955-286～311 Gr

**重複** 新旧不明B24、B30号溝、2号柵列、B90号土坑。

**規模** 長さ26.8m 幅1.3～2.5m

**深さ** 45～62cm

**掘り方** 台形状を呈し、底面はやや凹凸がある。

**遺物** 土師器坏7、甕6、須恵器壺1、土師質土器皿3、陶器碗1、甕1、磁器碗1、板碑2

**所見** N-66° -Eの走向。東端は954-288Gr付近で浅くなり、西端は944-310Gr付近でB24号溝に交わり、終わる。このためこの溝とは同時期に存在していた可能性が高い。2号柵列はこの溝と並行して存在し、同時期に機能していた可能性は高い。

**B30号溝** 写真図版 12

**位置** 945～955-290～310 Gr

**重複** 新しいB26号溝。新旧不明B24、B29号溝、B90号土坑、2号柵列。

**規模** 長さ22.3m 幅0.9～2.0m

**深さ** 38～68cm

**掘り方** 円弧状を呈するが、底面はやや凸凹している。

**遺物** 土師器甕8、須恵器甕3、軟質陶器鍋2、陶器碗1、甕1

**所見** N-66° -Eの走向。東端は954-290Gr付近でB90号土坑と交わり、終わる。西端は945-310Gr付近でB24号溝に交わり、終わる。このため同時期に存在していた可能性は高い。

**B31号溝** 写真図版 13・36

**位置** 945～959-285～316 Gr

**重複** 新しいB1号土坑墓。新旧不明B24号溝。

**規模** 長さ35.0m 幅0.4～1.0m

**深さ** 14cm

**掘り方** 円弧状を呈する。

**遺物** 古式土師器1、土師器坏55、甕5、須恵器坏7、甕5、灰釉陶器高台付碗1、土師質土器皿3、陶器皿1、壺1、播鉢1、磁器碗1、その他1、青磁碗1、石臼1

**所見** N-66° -Eの走向。東端は959-286Gr付近、西端は945-316Gr付近で浅くなり終わる。952-301Gr付近から951-303Gr付近までは浅くなり確認されなかった。西端延長上のB68号溝は覆土も同じため、同一の可能性ある。覆土中には多くの礫が混入しており、機能していたときは流水を伴うような溝であった可能性は低いと考えられる。

**B68号溝** 写真図版 18

**位置** 942～959-319～328 Gr

**重複** 新しいB27-B45-B72、B54号溝

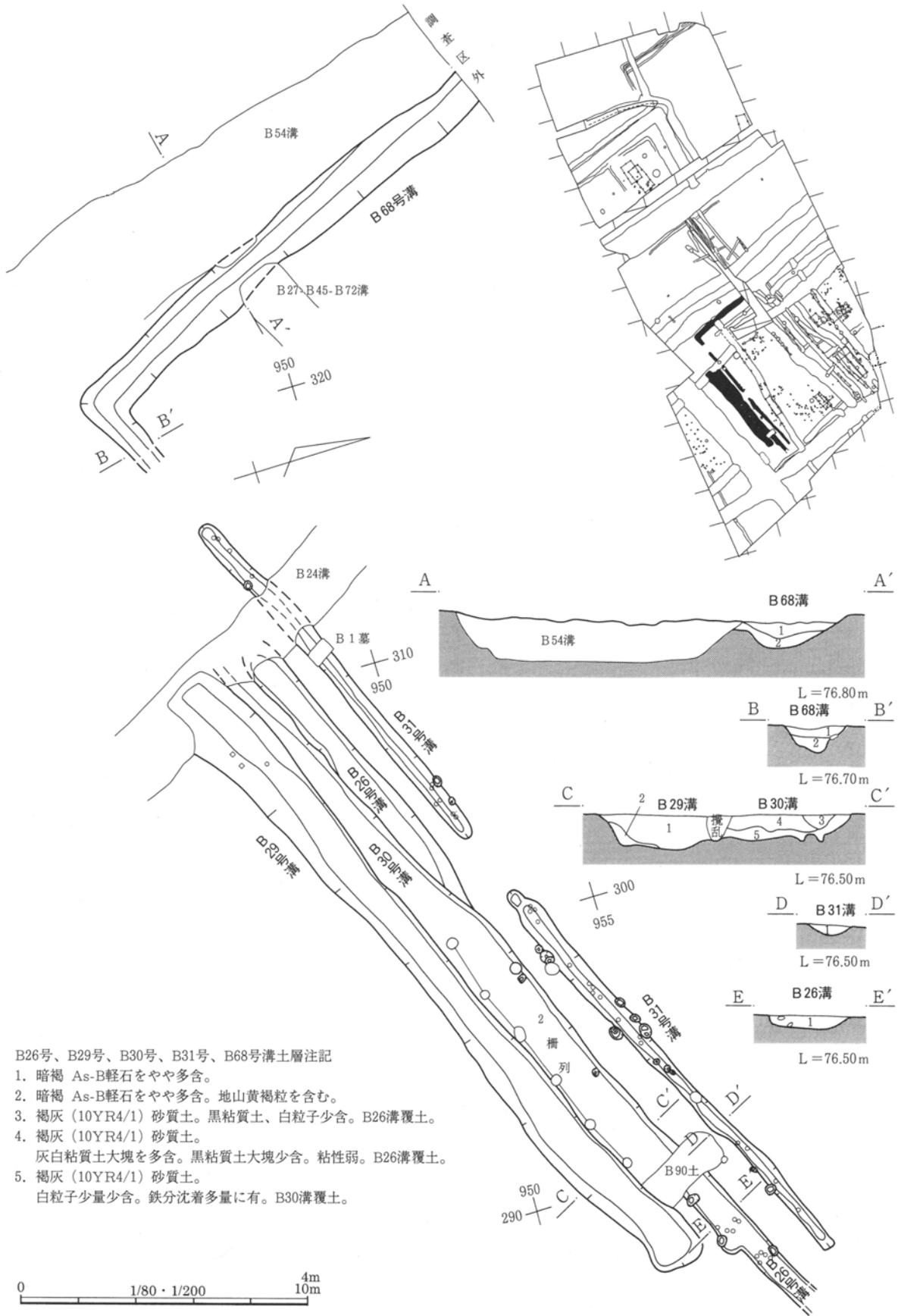
**規模** 長さ19.3m 幅1.3～2.1m

**深さ** 64cm

**掘り方** 円弧状を呈する。

**遺物** 土師器坏7、須恵器坏3、蓋1

**所見** N-66° -Eの走向からN-24° -Wの走向に変わる。944-319Gr付近から確認され、943-321Grではほぼ直角に曲がり、959-327Gr付近で調査区外にのびるが、この細い調査区外の北では確認でき

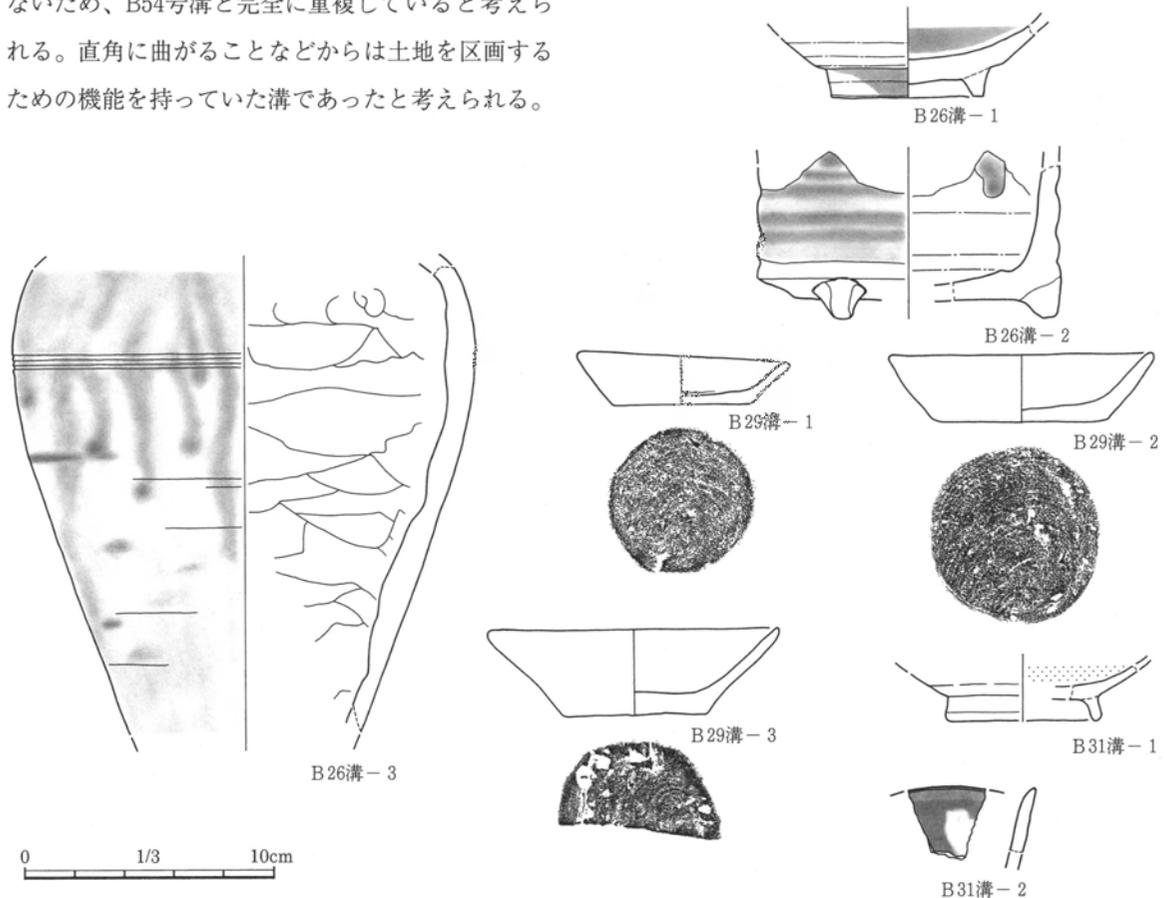


- B26号、B29号、B30号、B31号、B68号溝土層注記
1. 暗褐 As-B軽石をやや多含。
  2. 暗褐 As-B軽石をやや多含。地山黄褐粒を含む。
  3. 褐灰 (10YR4/1) 砂質土。黒粘質土、白粒子少含。B26溝覆土。
  4. 褐灰 (10YR4/1) 砂質土。  
灰白粘質土大塊を多含。黒粘質土大塊少含。粘性弱。B26溝覆土。
  5. 褐灰 (10YR4/1) 砂質土。  
白粒子少量少含。鉄分沈着多量に有。B30溝覆土。

第81図 B26、B29、B30、B31、B68号溝

第三章 遺構と遺物

ないため、B54号溝と完全に重複していると考えられる。直角に曲がることなどからは土地を区画するための機能を持っていた溝であったと考えられる。



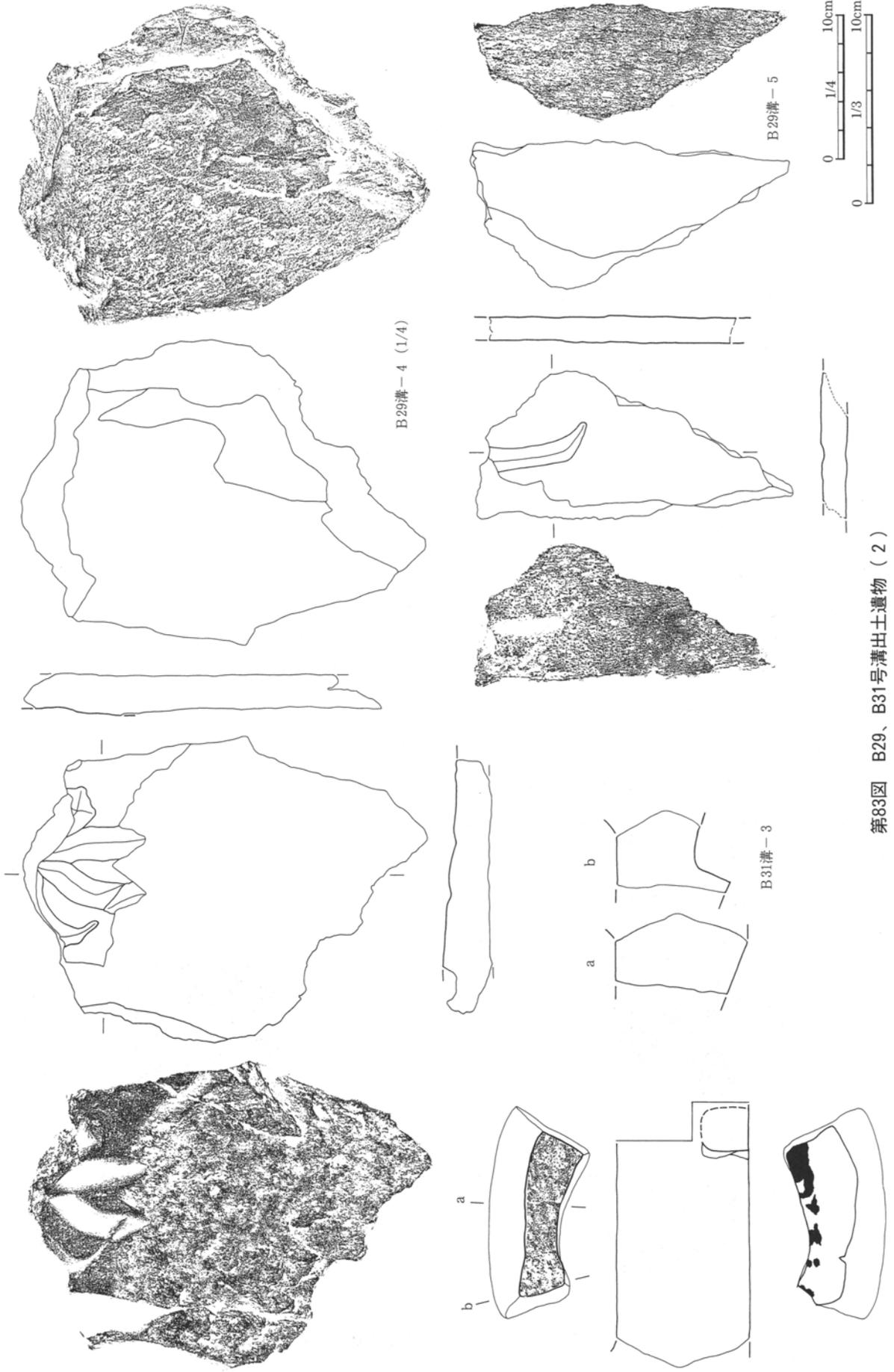
第82図 B26、B29、B31号溝出土遺物（1）

B26号溝出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
1 35	①陶器 ②碗 ③底部1/2	覆土	口— 底—(6.0) 高—(2.8)	①中 夾雑鉱物粒を少量含む ②還元焰 良好 ③灰白2.5Y8/2	内面全面 外面体部灰釉 生産地・瀬戸、 美濃
2 35	①陶器 ②香炉 ③底部片	覆土	口— 底—(12.0) 高—(6.6)	①粗 夾雑鉱物粒を多量に含む ②還元 焰 良好 ③釉灰白10Y8/2	3足か 外面胴部灰釉 内面口縁部から の釉だれ 生産地・瀬戸、美濃 年代・ 17C
2 35	①陶器 ②瓶子 ③胴部片	覆土	口— 底— 高—(18.4)	①細 夾雑鉱物粒をわずかに含む ②還 元焰 良好 ③灰白5Y7/1	外面最大径部に4本の櫛がき文後灰釉 内面ナデ 古瀬戸 生産地・瀬戸、美濃

B29号溝出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調				成・整形技法の特徴	
				長さ	幅	高さ	重量		
1 36	①土師質土器 ②皿 ③完形	覆土	口—8.4 底—5.7 高—2.1	①粗 細砂、褐色鉱物粒を多量に含む ②酸化焰 良好 ③明黄褐10YR7/6	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整 か 摩滅著しい				
2 36	①土師質土器 ②皿 ③ほぼ完形	覆土	口—10.5 底—7.0 高—2.6	①中 細砂、パミス、褐色鉱物粒を含む ②酸化焰 良好 ③にぶい褐7.5YR6/3	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整				
3 36	①土師質土器 ②皿 ③1/3	覆土	口—(5.6) 底—(3.0) 高—3.3	①中 細砂、粗砂を含む ②酸化焰 良 好 ③にぶい黄橙10YR7/3	ロクロ調整 底部回転糸切りか				
遺物No. 写真頁	①種類②器種	残存状態	石材	出土位置	量目 (cm・g)				特 徴
					長さ	幅	高さ	重量	
4 36	①石製品 ②板碑	破片	緑色片岩	覆土	28.6	21.5	2.8	2365.0	キリーク下半のみ残る



第83図 B29、B31号溝出土遺物(2)

第三章 遺構と遺物

5 36	①石製品 ②板碑	破片	緑色片岩	覆土	(16.8)	(7.8)	1.4	250.0	梵字部分残るが判読不可能
---------	-------------	----	------	----	--------	-------	-----	-------	--------------

B31号溝出土遺物観察表

遺物No 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調				成・整形技法の特徴	
1 36	①灰釉陶器 ②高台付碗 ③底部片	覆土	口— 底—(6.0) 高—(2.1)	①細 夾雑鉱物粒を少量含む ②還元焰 良好 ③胎土灰白N7/0 釉灰黄2.5Y6/2				ロクロ調整 高台貼付 内面底部以外灰 釉 高台に焼成時の下の個体の釉付着	
2 36	①磁器(青磁) ②碗 ③口縁部片	覆土	縦—2.9 横—3.0 厚さ—0.5	①細 夾雑鉱物粒をわずかに含む ②還 元焰 良好 ③灰10Y6/1				内外面施釉 外面鎊蓮弁文 生産地・龍 泉窯系 年代・13C中～後	
遺物No 写真頁	①種類②器種	残存状態	石材	出土位置	量目 (cm・g)				特 徴
					長さ	幅	厚さ	重量	
3 36	①石製品 ②石臼? ③口縁部	破片	粗粒輝石 安山	覆土	(6.5)	(20.6)	(4.3)	360.0	上白か 上下面にのみ加工した平坦面残る 下面には黒色の付着物(漆か)使用による摩 滅により不能になった横打込穴の左半残存

B27-B45-B72号溝 写真図版 12・35

位置 949～964-276～324 Gr

重複 新しいB21号溝。古いB68号溝。新旧不明B44、  
B54、B73号溝、18号掘立、B3、B11号井戸。同時  
期B24号溝。

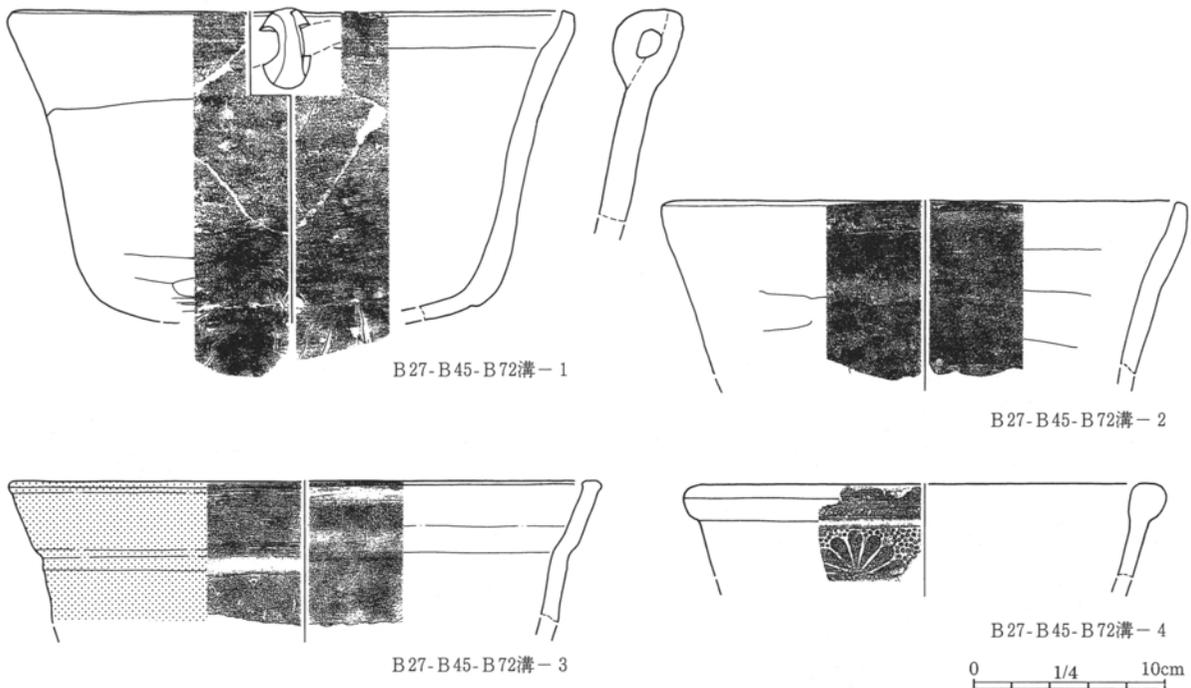
規模 長さ50.5m 幅1.7～1.9m 深さ 35cm

掘り方 台形状を呈する。957-304Grから955-312  
Gr付近まではさらに一段深く落ち込む。957-302G  
r付近の遺物集合部分も一段落ち込んでいる。

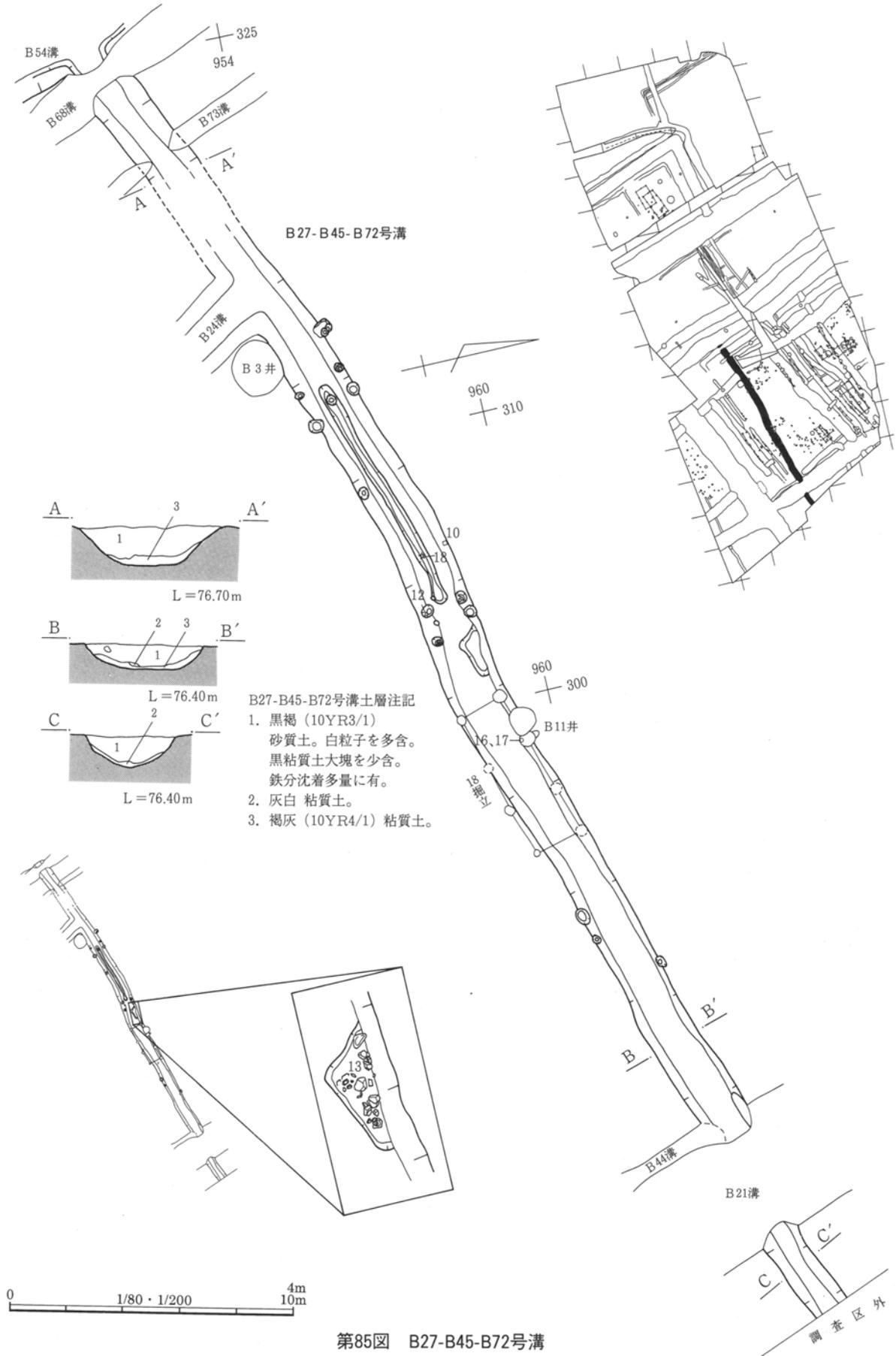
遺物 土師器坏15、甕8、須恵器坏8、甕6、高台  
付碗3、土師質土器皿2、軟質陶器鍋8、内耳鍋3、

鉢2、火鉢1、陶器鉢8、半胴甕1、磁器碗7、皿  
2、徳利1、青磁1、水注蓋1、小瓶1、不明1、  
瓦1、砥石1、銅銭2、馬歯4

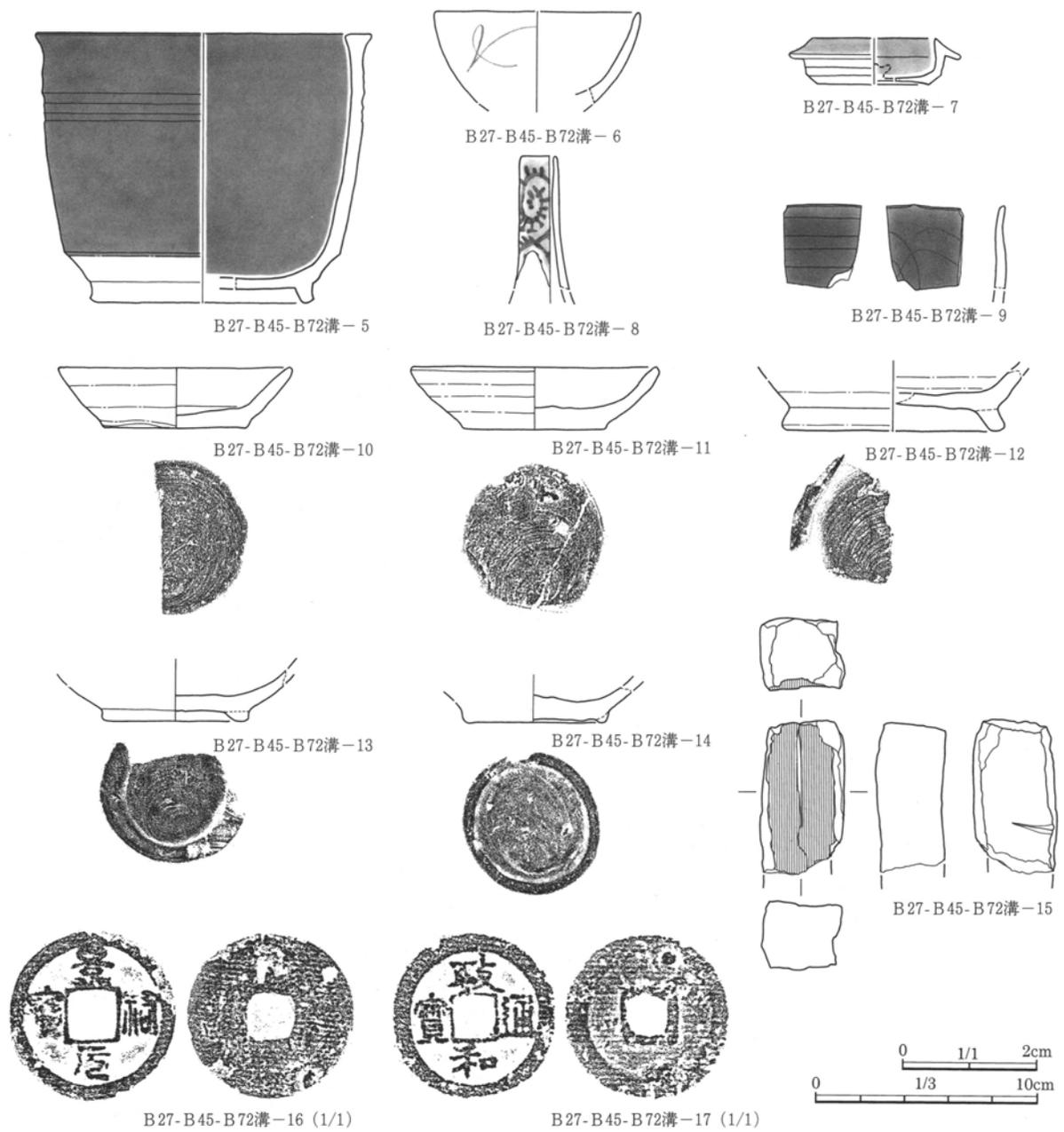
所見 N-74°-Eの走向。やや湾曲しながらもほ  
ぼ直線的である。東端は調査区外にのび、西端は950-  
325Gr付近でB54号溝と交わり終わる。このためこ  
の溝とは同時期に存在していた可能性は高い。また、  
B24号溝とも同様な関係にあり、同時期に存在して  
いた可能性が考えられる。出土した馬歯については  
第IV章第2節で報告する。



第84図 B27-B45-B72号溝出土遺物(1)



第85図 B27-B45-B72号溝



第86図 B27-B45-B72号溝出土遺物(2)

B27-B45-B72号溝出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調外④色調内	成・整形技法の特徴
1 35	①軟質陶器 ②内耳鍋 ③口辺部～底部1/3	覆土	口-30.0 底-(20.0) 高-(16.4)	①粗 夾雑鉱物粒を多量に含む ②還元 焰 普通 ③灰5 Y4/1	ロクロ調整 胴部最下半匏削り 耳貼付 丸底 年代・中世
2 35	①軟質陶器 ②内耳鍋? ③口辺部片	覆土	口-(28.0) 底- 高-(9.2)	①粗 夾雑鉱物粒を多量に含む ②還元 焰 良好 ③灰7.5 Y4/1	ロクロ調整 外面匏削り 年代・中世
3 35	①軟質陶器 ②内耳鍋? ③口辺部片	覆土	口-(31.6) 底- 高-(7.5)	①粗 夾雑鉱物粒を多量に含む ②還元 焰 良好 ③黄灰2.5 Y4/1 ④灰5 Y6/1	ロクロ調整 外面煤付着 年代・中世

4 35	①軟質陶器 ②火鉢? ③口辺部片	覆土	口-(25.7) 底- 高-《4.9》	①中 夾雑鉱物粒を含む ②還元焰 普通 ③黄灰2.5Y6/1	ロクロ調整 外面型押文様(菊花文)						
5 35	①陶器 ②半胴甕 ③口辺部~底部片	覆土	口-(14.8) 底-(9.4) 高-12.0	①細 夾雑鉱物粒を多量に含む ②還元焰 良好 ③胎土にぶい黄10YR7/3 釉暗褐7.5YR3/3	内面全面 外面胴部最下半 底部以外鉄釉 生産地・瀬戸、美濃						
6 35	①磁器 ②碗 ③口辺部片	覆土	口-(9.2) 底- 高-《4.0》	①細 夾雑鉱物粒をわずかに含む ②還元焰 良好 ③胎土灰白N8/0	外面雪輪梅樹文か染付草花文 内面無文波佐見系 生産地・肥前 年代・18C中~後						
7 35	①磁器 ②水注蓋 ③1/3	覆土	口-(4.9) 底-(3.0) 高-《2.1》	①細 夾雑鉱物粒をわずかに含む ②還元焰 良好 ③灰白10Y8/1	外面透明釉 つまみ欠 生産地・瀬戸、美濃						
8 35	①磁器 ②小瓶 ③口辺部~頸部片	覆土	口-(1.6) 底- 高-《5.9》	①細 夾雑鉱物粒を少量含む ②還元焰 良好 ③胎土灰白N8/0	染付蜻唐草 生産地・肥前						
9 35	①磁器(青磁) ②皿 ③口辺部片	覆土	縦-3.7 横-3.3 厚さ-0.5	①細 夾雑鉱物粒をわずかに含む ②還元焰 良好 ③灰オリーブ5Y5/3	内外面全面 青磁釉 口縁部に成形後削りだした輪花 内面に5本の円弧状の沈線有 生産地・中国						
10 35	①土師質土器 ②皿 ③口辺部~底部1/2	10	口-(10.4) 底-6.4 高-2.7	①粗 粗砂, パミス, 褐色鉱物粒を多量に含む ②酸化焰 良好 ③橙2.5YR6/6 ④褐灰7.5YR5/1	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整						
11 35	①土師質土器 ②皿 ③口辺部~底部3/5	不明	口-(11.0) 底-6.6 高-2.7	①中 細砂, パミス, 褐色鉱物粒を含む ②酸化焰 普通 ③にぶい橙7.5YR7/3	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整						
12 35	①須恵器 ②高台付碗 ③底部片	12	口- 底-(9.4) 高-《2.5》	①中 細砂, 粗砂, パミス, 黒色粒を含む ②還元焰 良好 ③灰N6/0	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り後高台貼付						
13 35	①須恵器 ②高台付碗 ③底部片	13	口- 底-(6.3) 高-《2.2》	①細 細砂, パミスを少量含む ②還元焰 不良 ③灰白5Y7/1	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り後高台貼付						
14 35	①須恵器 ②高台付碗 ③底部片	覆土	口- 底-6.4 高-《1.5》	①中 細砂~礫, パミスを多量に含む ②還元焰 不良 ③灰5Y4/1	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り後高台貼付か						
遺物No 写真頁	①種類②器種	残存状態	石材	出土位置	量目 (cm・g) 長さ 幅 厚さ 重量	特 徴					
15 35	①石製品 ②砥石	破片	粗粒輝石 安山岩	覆土	(6.8) 3.7 3.7 91.0	1面使用					
遺物No	写真頁	種類	残存状態	銭貨名	国名	初鑄年	量目 (cm・g) 外径 孔径 厚さ 重量				出土位置
16	35	銭貨	完形	景祐元寶	北宋	1034年	2.5	0.7	0.1	1.9	16
17	35	銭貨	完形	政和通寶	北宋	1111年	2.5	0.7	0.1	2.9	17

B28号溝 写真図版 12

位置 963~977-283~291 Gr

重複 新しいB21号溝。新旧不明B32号溝、B42号土坑。

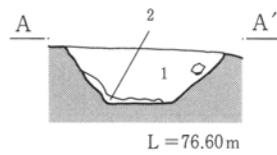
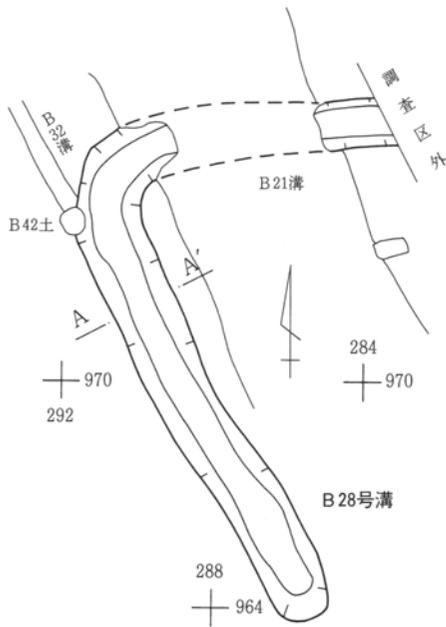
規模 長さ20.8m 幅1.6~1.8m

深さ 9~51cm

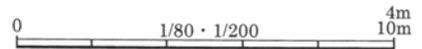
掘り方 上端から下端までまっすぐ落ち込み、底面は平坦を呈する。

遺物 なし

所見 N-82° -Eの走向からN-30° -Wに鋭角的に変わる。東端は調査区外にのび、975-291Gr付近で南に曲がり、964-286Gr付近で浅くなり終わる。東の調査区外すぐに端気川があり、そこにつながる排水路的な機能を持たせていた可能性も想定される。



B28号溝土層注記  
 1. 灰黄褐 (10YR4/2)  
 砂質土。灰白粘質土大塊を多含。  
 2. 褐灰 (10YR5/1) 粘質土。



第87図 B28号溝

B32号溝 写真図版 13

位置 974~977-291~293 Gr

重複 新旧不明B28、B40a号溝、B42号土坑。

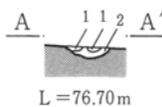
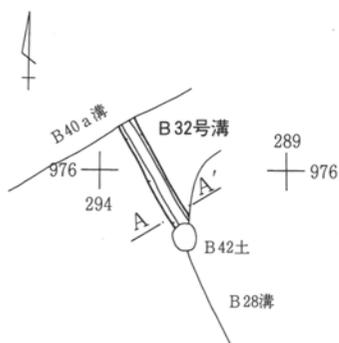
規模 長さ3.0m 幅0.4~0.5m

深さ 12m

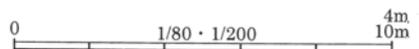
掘り方 浅い台形状を呈する。

遺物 土師器坏1、甕1

所見 北端は977-293Gr付近でB40a号溝と交わり  
 終わり、南端は974-292Gr付近でB28号溝と交わり  
 終わる。形状位置などからはこれらの溝と同時期に  
 存在していたのかは不明。



B32号溝土層注記  
 1. 黒褐 白粒子少含。粘性弱。  
 2. 灰褐 白粒子少含。  
 黒褐大塊僅含。粘性弱。



第88図 B32号溝

B35号溝 写真図版 13・36

位置 931~984-325~350 Gr

重複 新しい19号柵列。古いB3号溝。新旧不明B63号溝、B86、B87号土坑、1号柵列。

規模 長さ57.5m 幅2.2~4.1m

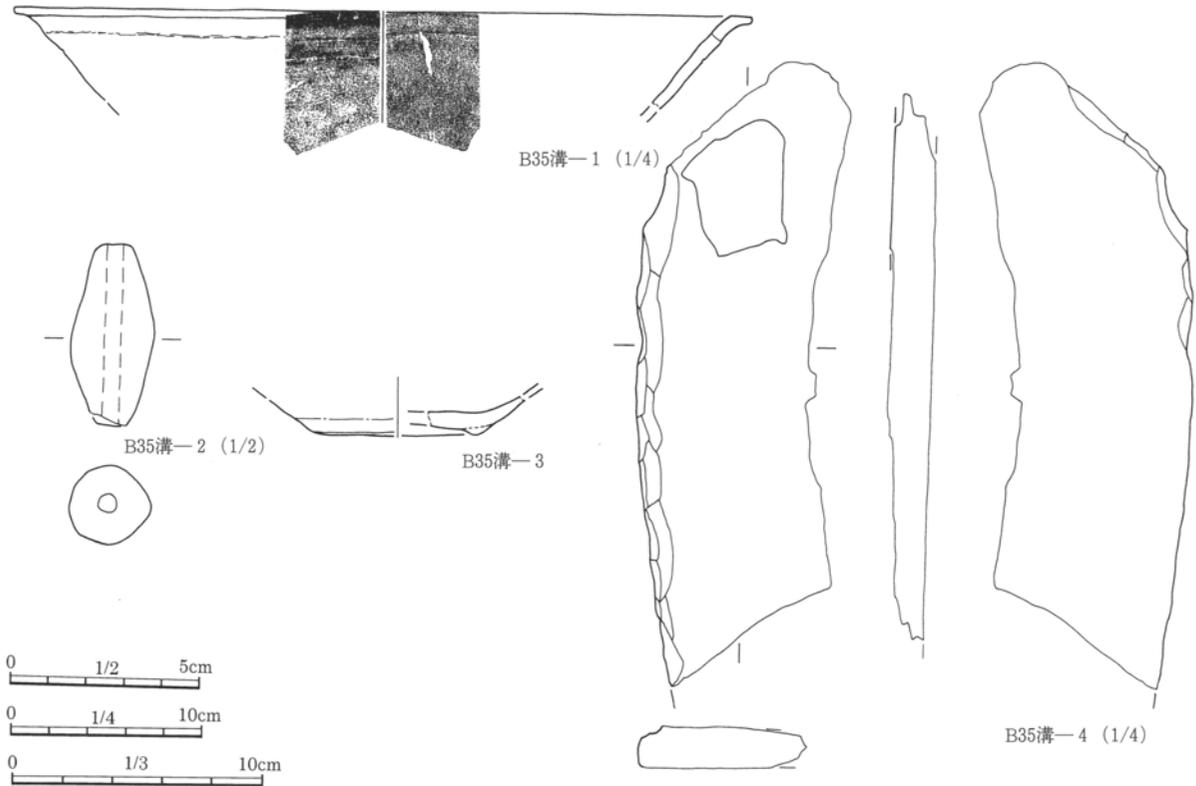
深さ 49~103cm

掘り方 北半分程までは中段を持っており、南半は中段が無くなる。底面はほぼ平坦を呈する。

遺物 土師器坏156、須恵器坏20、甕13、土師質土

器皿1、その他1、軟質陶器鍋5、陶器皿1、甕2、鉢2、磁器碗5、皿1、土製品土錘1、板碑1

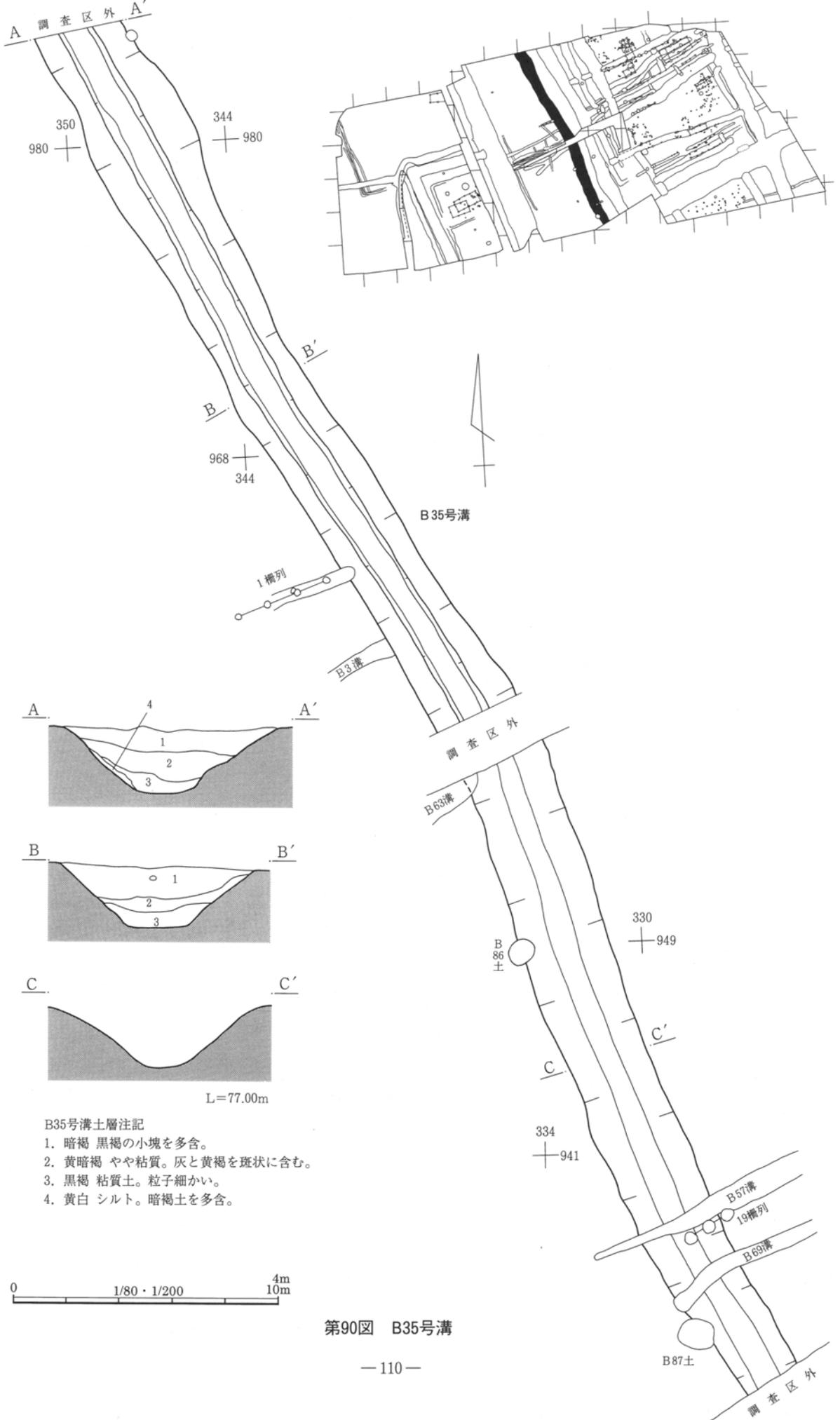
所見 N-28° -Wの走向。両端とも調査区外までのびる。As-A軽石降下時に機能していたと見られるが、B54、B37号溝などがこの溝と平行に走るが、一つ一つの溝の規模が大きいわりに、その間隔が狭いことなどから同時期に存在していた可能性は低いと考えられる。南の調査区外でB20号溝と交わる可能性が高い。



第89図 B35号溝出土遺物

B35号溝出土遺物観察表

遺物No 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm・g)				①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
			長さ	幅	孔径	重量		
1 36	①軟質陶器 ②鍋 ③口辺部片	覆土	口-(39.0) 底- 高-(5.0)				①中 夾雑鈳物粒を少量含む ②還元焰 良好 ③灰黄褐10YR5/2	ロクロ調整 年代・江戸
2 36	①土製品 ②土錘 ③完形	覆土	4.7	2.1	0.5	17.83	①細 細砂、パミスを少量含む ②還元焰 不良 ③灰白2.5Y7/1	外面磨き
3 36	①須恵器 ②坏 ③底部片	覆土	口- 底-(6.6) 高-(1.7)				①細 細砂~礫、パミスを少量含む ②還元焰 普通 ③灰白N7/1	ロクロ調整(?) 底部回転糸切り後高台貼付か



B35号溝土層注記

1. 暗褐 黒褐の小塊を多含。
2. 黄暗褐 やや粘質。灰と黄褐を斑状に含む。
3. 黒褐 粘質土。粒子細かい。
4. 黄白 シルト。暗褐土を多含。

第90図 B35号溝

遺物No 写真頁	①種類②器種	残存状態	石材	出土位置	量目 (cm・g)				特徴
					長さ	幅	厚さ	重量	
4 36	①石製品 ②板碑	破片	黒色片岩	覆土	32.8	11.4	2.2	1130.0	剥離が激しく、側面以外では加工痕は見られない

**B36号溝 写真図版 13**

位置 935～944-278～285 Gr

重複 古いB23号溝。新旧不明B20号溝。

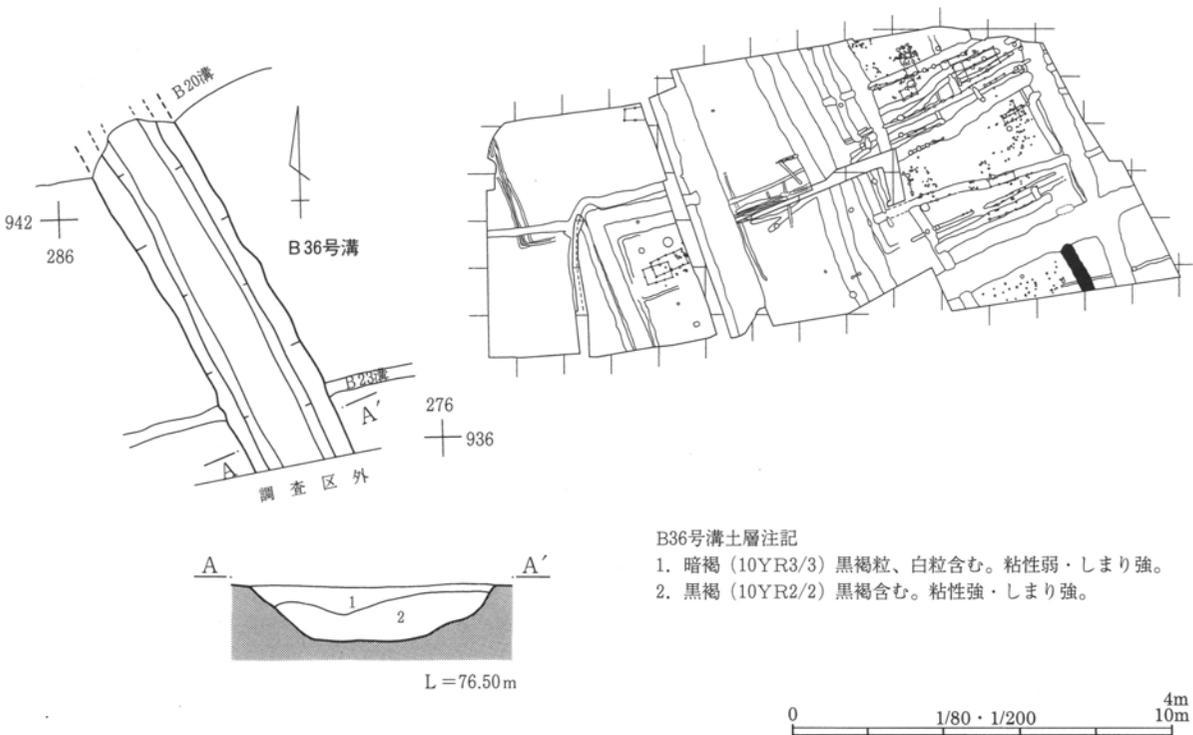
規模 長さ10.5m 幅2.6～2.8m

深さ 57～73cm

掘り方 中段を持って落ち込む。底面はほぼ平坦を呈する。

遺物 土師器甕4、須恵器坏1、土師質土器皿1、陶器碗2

所見 N-28° -Wの走向。南端は調査区外に及び、北端は944-284Gr付近でB20号溝と交わり終わる。このためB20号溝とは同時期にあった可能性も考えられる。



B36号溝土層注記  
 1. 暗褐 (10YR3/3) 黒褐粒、白粒含む。粘性弱・しまり強。  
 2. 黒褐 (10YR2/2) 黒褐含む。粘性強・しまり強。

第91図 B36号溝

**B37号溝 写真図版 13・36**

位置 954～987-319～333 Gr

重複 同時期B25号溝。新旧不明B22、B33、B39、B42-B50、B49号溝。11号柵列。

規模 長さ35.0m 幅2.3～4.5m

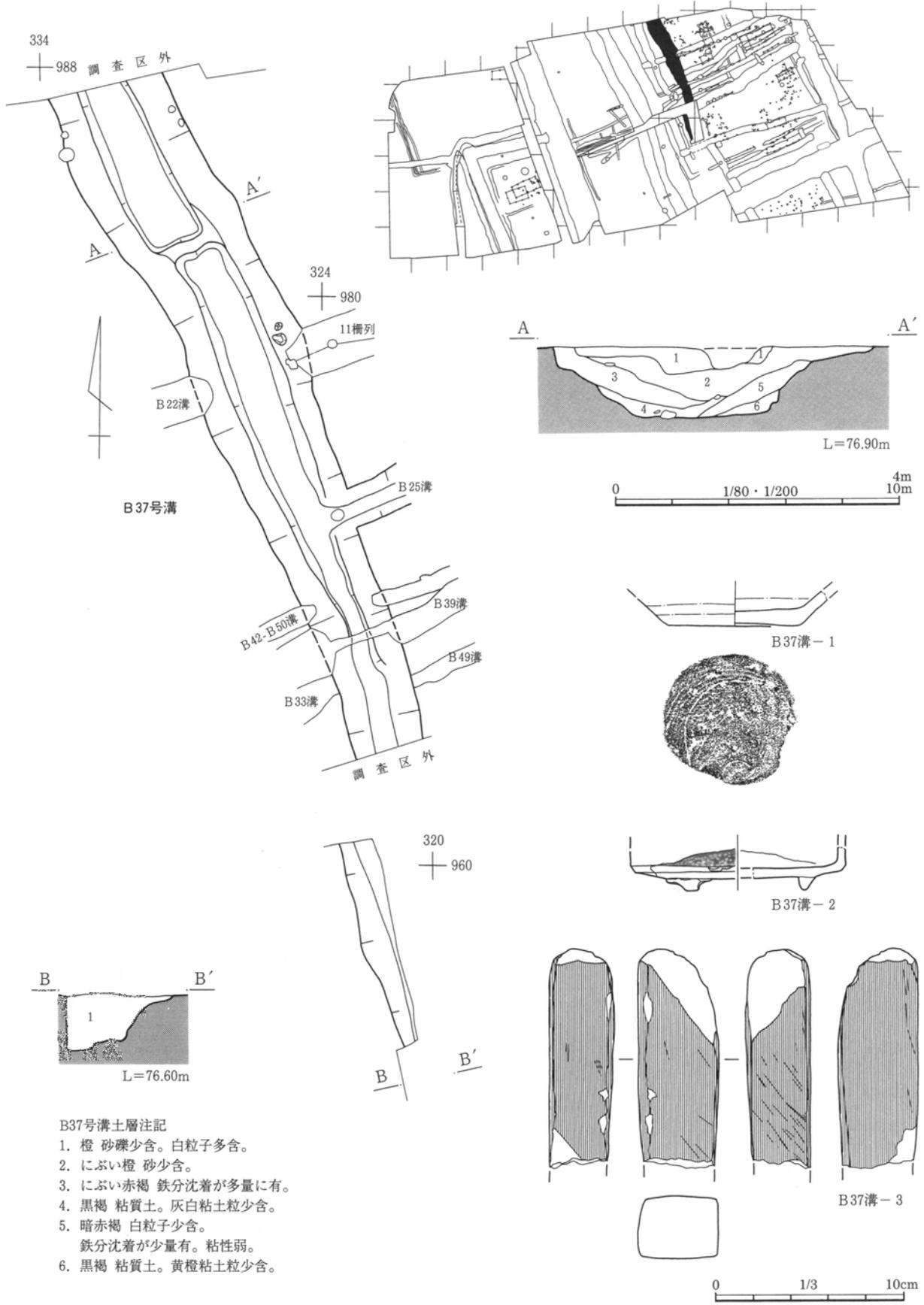
深さ 61～86cm

掘り方 中段が複数あり、断面形状は凸凹した形状を持つが、底面はほぼ平坦を呈する。

遺物 土師器坏5、甕1、須恵器坏1、甕15、土師

質土器坏1、軟質陶器鍋9、鉢1、陶器碗4、皿1、鉢4、蓋1、香炉1、磁器碗2、瓦40、砥石1、自然礫1

所見 N-25° -Wの走向。北端は調査区外に及び、南端は953-320Gr付近の試掘トレンチであるSPB-B'で確認されている。これより南に至る調査は出来なかった。B35、B54号溝などが並行して走るが、溝の規模が大きいのが、溝同士が近すぎるため、同時期に機能した可能性は低いと思われる。



第92図 B37号溝および出土遺物

B37号溝出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴				
						1 36	①土師質土器? ②坏 ③底部～体部片	覆土	口— 底-7.1 高-《1.8》
2 36	①陶器 ②香炉 ③底部片	覆土	口— 底-(11.4) 高-2.2	①中 夾雑鉱物粒を少量含む ②還元焰良好 ③胎土淡黄5Y8/3 釉黄褐10YR5/8 外灰白5Y8/2	三足 外面胴部鉄釉 内面露胎 生産地・瀬戸、美濃 年代・18C				
遺物No. 写真頁	①種類②器種	残存状態	石材	出土位置	量目 (cm・g)				特 徴
					長さ	幅	厚さ	重量	
3 36	①石製品 ②砥石	破片	砥沢石	覆土	(11.5)	4.3	3.3	261.0	4面使用

B38号溝 写真図版 14

位置 978～985-292～306 Gr

重複 新しいB21号溝。新旧不明14号掘立。13号柵列。

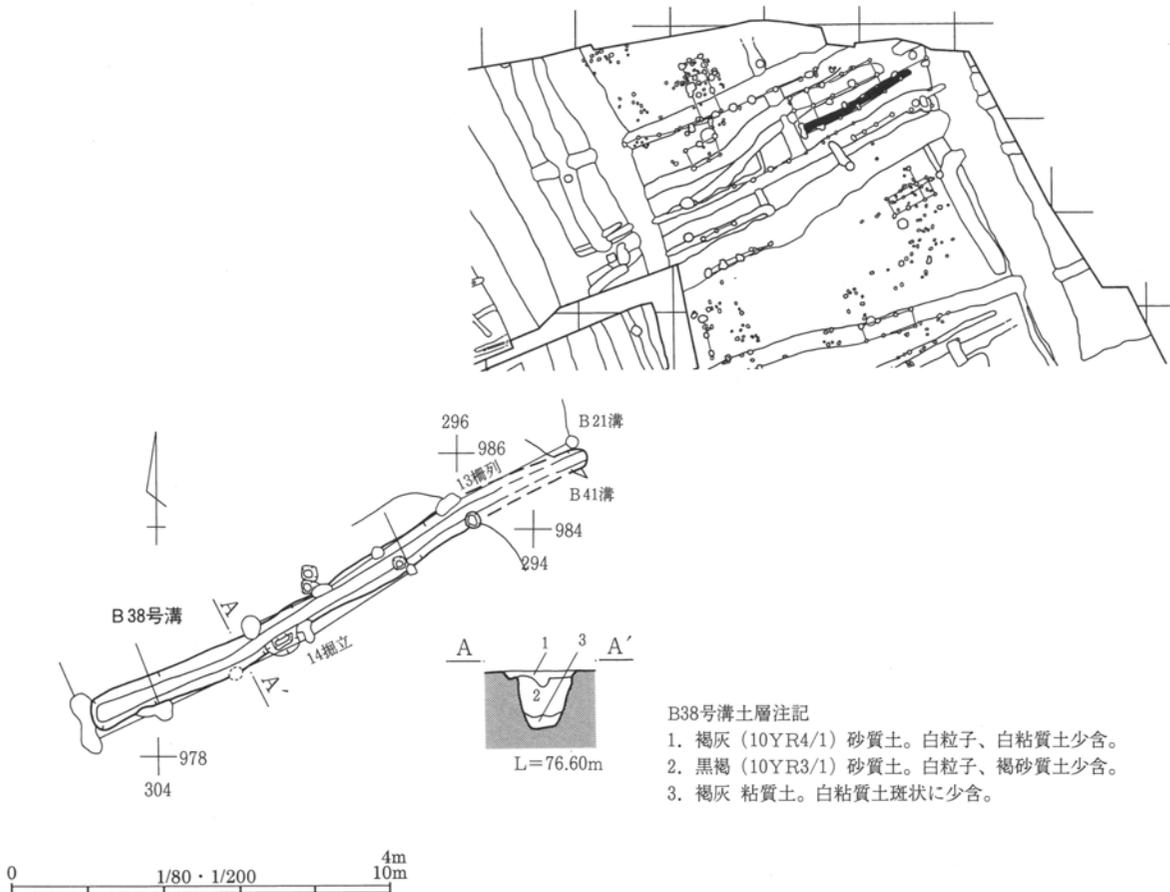
規模 長さ13.4m 幅0.5～0.9m

深さ 48～67cm

掘り方 ほぼ垂直に落ち込む掘り方を持ち、底面はほぼ平坦を呈する。

遺物 土師器甕2、須恵器坏1、甕5、羽釜1、灰釉陶器壺1

所見 N-60° -Eの走向。東端は984-295Gr付近でB41号溝と交わり、確認できなくなる。西端は978-306Gr付近で立ち上がり終わる。形状からは流水を伴うようなものではなく、構造物を立たせるために穿たれた溝と想定される。



第93図 B38号溝

**B39号溝 写真図版 14・36**

**位置** 966～985-287～323 Gr

**重複** 新しいB21号溝。新旧不明B33、B37、B42-B50、B47、B53号溝、B35、B36、B52、B53号土坑、B4号井戸、14、15柵列。同時期B48、B54号溝。

**規模** 長さ48.0m 幅1.5～1.9m

**深さ** 22～90cm

**掘り方** 浅い円弧状に、さらに一段深く細い落ち込みが確認でき、薬研状に近い形状を呈する。

**遺物** 古式土師器高坏1、土師器坏2、甕29、須恵器甕5、軟質陶器鍋2、陶器壺1、磁器碗5、皿2、徳利1、砥石1、自然礫11、鉄1、

**所見** N-61° -Eの走向。東端は調査区外に及び、西端は964-330Gr付近でB54号溝に交わり終わる。このため、B54号溝と同時期に機能していた可能性が考えられる。またB48号溝もほぼ直角に交わることや、その断面形状がよく似ていることから同時期に機能していたと想定できる。さらに一段落ち込むため別の溝が重複しているように見える部分が、調査区外に及ぶ東端から、966-325Gr付近でB53号土坑にぶつかるまでである。別遺構とも考えられるが、これだけの長距離にわたることや、覆土の観察からは同一遺構と考えられた。

**B42-B50号溝 写真図版 14・37**

**位置** 966～974-310～330 Gr

**重複** 新旧不明B33、B37、B39、B43、B51、B53、B54号溝、B33号土坑、14柵列。

**規模** 長さ21.8m 幅0.4～0.7m

**深さ** 9～23cm

**掘り方** 浅い台形状を呈する。底面はやや凸凹する。

**遺物** 土師器坏6、甕52、須恵器15、軟質陶器鍋1、陶器天目碗1、甕1、壺1、磁器碗1、皿1、急須1、自然礫51、金属類銭貨1

**所見** N-63° -Eの走向。東端は974-310Gr付近でB43号溝と交わり終わり、西端は966-330Gr付近でB54号溝と交わり終わる。このため、B54号溝と同時期に機能していた可能性が考えられる。B39号

溝と覆土もにているため、近い時期に機能していたと思われる。

**B43号溝 写真図版 15・37**

**位置** 974～976-311 Gr

**重複** 新旧不明B33、B42-B50号溝。

**規模** 長さ2.1m 幅0.5m

**深さ** 16cm

**掘り方** 台形状を呈する。底面は丸みを持つ。

**遺物** 軟質陶器鍋1、内耳焙烙1、火鉢1、陶器甕1、瓦3、土製品1、自然礫1

**所見** N-17° -Wの走向。北端は976-311Gr付近でB33号溝と交わり確認できなくなり、南端は974-310Gr付近でB42-B50号溝と交わり、確認できなくなる。性格は不明。

**B48号溝 写真図版 15・37**

**位置** 975～987-305～312 Gr

**重複** 新旧不明B22、B25、B33号溝、B50号土坑。12、14号柵列。同時期B39号溝。

**規模** 長さ13.5m 幅1.0～1.6m

**深さ** 34～57cm

**掘り方** 浅い円弧状を呈しているが、さらに一段深く細い落ち込みが確認できる。

**遺物** 須恵器甕1、緑釉陶器皿1、軟質陶器鍋1、砥石1

**所見** N-24° -Wの走向。北端は調査区外に及び、南端は976-306Gr付近でB39号溝に交わり終わる。また、断面形状も似ているためこの溝とは同時期に機能していた可能性が高い。どのような機能を持たせたものかは不明。

**B51号溝 写真図版 14**

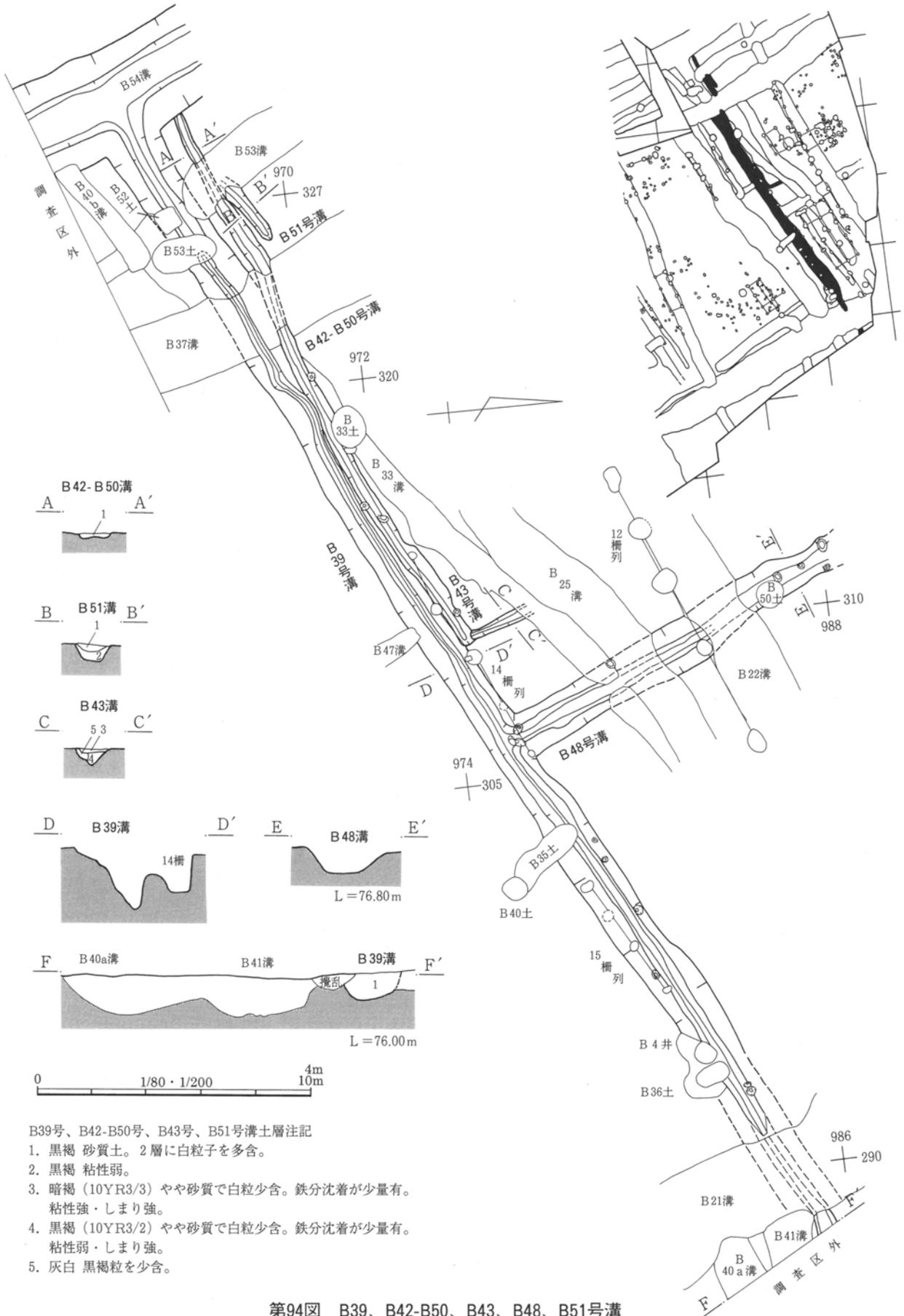
**位置** 967～969-325～327 Gr

**重複** 新旧不明B53、B42-B50号溝

**規模** 長さ2.2m 幅0.4～0.6m

**深さ** 7～30cm

**掘り方** 台形状を呈する。底面はほぼ平坦。



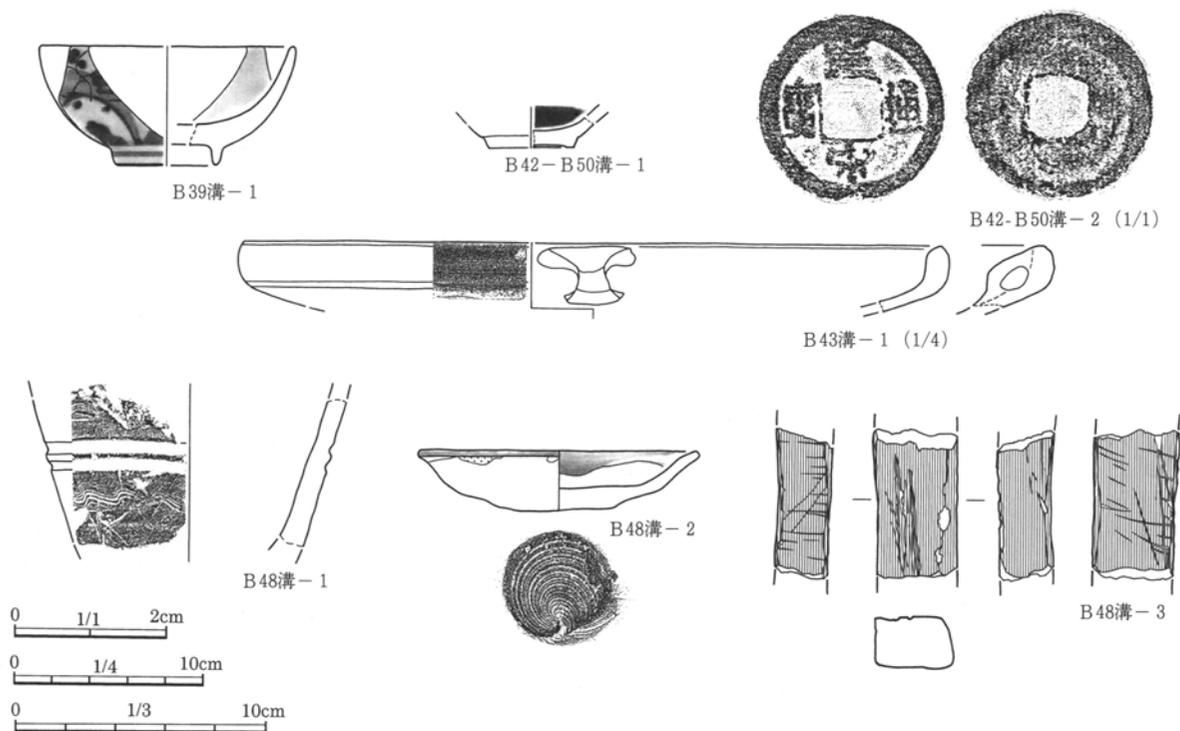
第94図 B39、B42-B50、B43、B48、B51号溝

第三章 遺構と遺物

遺物 なし

所見 N-62° -Eの走向。東端は969-325Gr付近で浅くなり消滅し、西端は968-327Gr付近でB54号溝と交わり確認できなくなる。覆土がB42-B50号溝

に似ていることから同時期に機能していたか、あるいは短い期間の中で同じ目的を持って掘り換えられた可能性が高い。



第95図 B39、B42-B50、B43、B48号溝出土遺物

B39号溝出土遺物観察表

遺物No 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
1 36	①磁器 ②碗 ③口辺部~底部片	覆土	口-(10.2) 底-(4.2) 高-4.7	①細 夾雑鉱物粒をわずかに含む ②還元焰 良好 ③胎土灰白10Y8/1	雪輪梅樹文 内面無文 波佐見系 生産地・肥前 年代・18C中~後

B42-B50号溝出土遺物観察表

遺物No 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴						
1 37	①陶器 ②天目碗 ③底部片	覆土	口- 底-(1.6) 高-(0.9)	①中 夾雑鉱物粒をわずかに含む ②還元焰 良好 ③胎土灰白N7/0 釉黒10Y2/1	内面鉄釉						
遺物No	写真頁	種類	残存状態	銭貨名	国名	初鑄年	量目 (cm・g)				出土位置
2	37	銭貨	完形	皇宋通寶	北宋	1038年	外径	孔径	厚さ	重量	不明

B43号溝出土遺物観察表

遺物No 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
1 37	①軟質陶器 ②内耳焙烙 ③口辺部片	覆土	口-(37.0) 底- 高-(3.4)	①中 夾雑鉱物粒を含む ②還元焰 良好 ③黒褐7.5YR3/1	ロクロ調整 耳貼付 丸底

B48号溝出土遺物観察表

遺物No 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調				成・整形技法の特徴	
1 37	①須恵器 ②甕 ③胴部片	覆土	口ー 底ー 高ー{5.7}	①細 細砂を少量含む ②還元焰 普通 ③明紫灰 5 RP7/1				外面に波状文 2本の平行沈線をめぐらす	
2 37	①緑釉陶器 ②皿 ③1/2	覆土	口ー11.0 底ー3.7 高ー2.4	①中 夾雑鉱物粒を少量含む ②還元焰 良好 ③胎土浅黄2.5Y7/3 釉灰白2.5Y 8/2				内面口縁部灰釉 外底右回転糸切り無調整 口縁部に4ヶ所油煤付着 生産地・瀬戸、美濃 年代・14C	
遺物No 写真頁	①種類②器種	残存状態	石材	出土位置	量目 (cm・g)				特 徴
					長さ	幅	厚さ	重量	
3 36	①石製品 ②砥石	破片	砥沢石	覆土	(5.8)	3.4	2.2	68.0	4面使用

**B40a号溝 写真図版 14・36～37**

位置 962～982-275～319 Gr

重複 新しいB21、B49号溝。新旧不明B32、B37号溝、B35、B40、B41号土坑、4、17号柵列。

規模 長さ38.0m 幅1.6～3.7m

深さ 36～72cm

掘り方 台形状を呈し、底部は平坦に近い。一部には中段を持って落ち込む。

遺物 土師器28、甕3、須恵器坏2、甕4、灰釉陶器碗1、土師質土器皿1、軟質陶器鍋11、内耳鍋1、播鉢1、陶器播鉢3、磁器碗2、急須1、瓦2、土製品1、石鏃1、人骨

所見 ほぼ直線的にN-60° -Eの走向だが、970-307Gr付近でやや角度が変わる。東端は調査区外に及び、西端は、調査年度の関係で未調査に終わった箇所のにびる。ここより西では確認されないため、調査区外でB37号溝と交わり、終わる可能性が高い。人骨の詳細については第IV章第1節に記載する。

**B47号溝**

位置 971～972-309～310 Gr

重複 新旧不明B39、B40a、B49号溝。

規模 長さ1.6m 幅0.6～0.9m

深さ 11～16cm

掘り方 浅い台形状を呈し、底面はほぼ平坦。

遺物 陶器播鉢1

所見 N-23° -Wの走向。北端は972-310Gr付近でB39号溝と交わり終わり、南端は971-310Gr付近でB49号溝と交わり終わる。長さはとても短く、溝

と分類するよりは土坑と区分する余地も残る。南端で交わるB49号溝は交わる部位の周辺で遺物が数点出土しているため、この溝との関係を考慮する必要がある。

**B49号溝 写真図版 15・37**

位置 966～971-309～320 Gr

重複 古いB40a溝。新旧不明B37、B47号溝、B5号井戸、16号柵列。

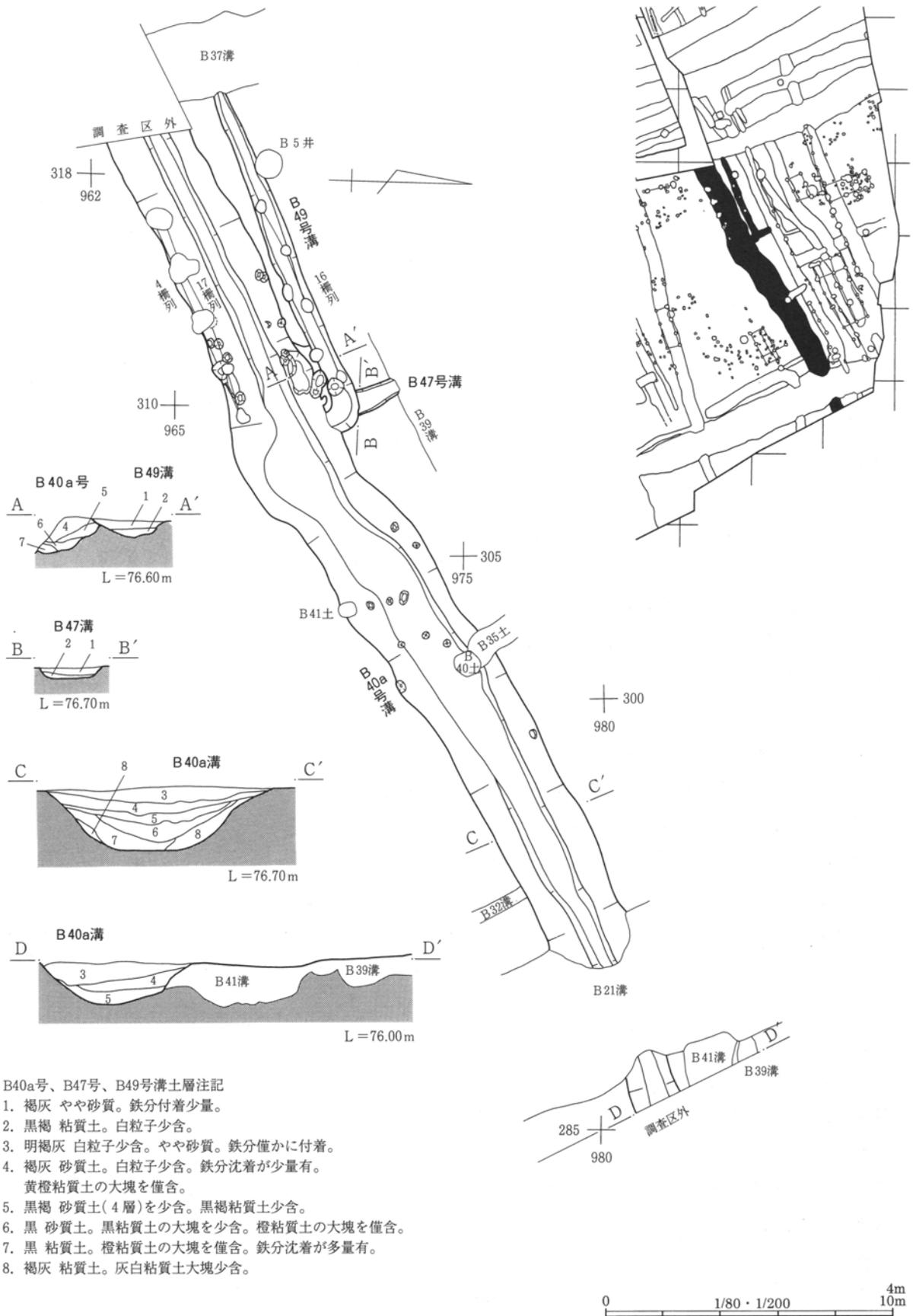
規模 長さ12.2m 幅0.4～0.9m

深さ 18～28cm

掘り方 底面はやや歪むが台形状に近い。

遺物 軟質陶器火鉢1

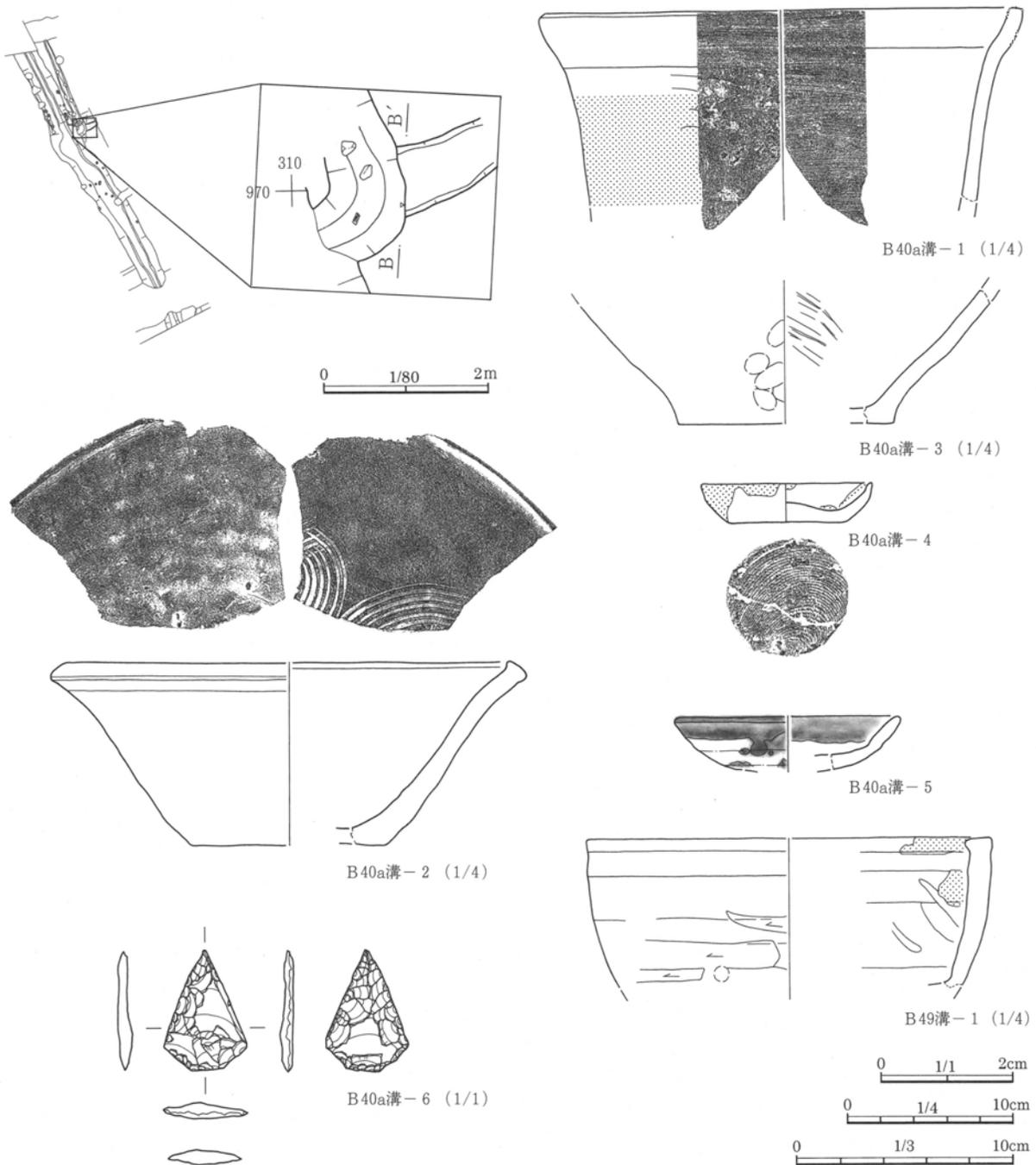
所見 N-67° -Eの走向。東端は970-309Gr付近でB40a号溝と交わり終わり、B40a号溝に流れ込むような印象を受ける。2m弱ほど北上した後西に向きを変え、B37号溝に交わり終わる。16号柵列はほぼ重複して確認されているが、各ピットの位置が溝の特定の部位に集中してはいないので、同時期とは考えにくい。



B40a号、B47号、B49号溝土層注記

1. 褐灰 やや砂質。鉄分付着少量。
2. 黒褐 粘質土。白粒子少含。
3. 明褐灰 白粒子少含。やや砂質。鉄分僅かに付着。
4. 褐灰 砂質土。白粒子少含。鉄分沈着が少量有。  
黄橙粘質土の大塊を僅含。
5. 黒褐 砂質土(4層)を少含。黒褐粘質土少含。
6. 黒 砂質土。黒粘質土の大塊を少含。橙粘質土の大塊を僅含。
7. 黒 粘質土。橙粘質土の大塊を僅含。鉄分沈着が多量有。
8. 褐灰 粘質土。灰白粘質土大塊少含。

第96図 B40a、B47、B49号溝



第97図 B40a、B49号溝出土遺物

B40a号溝出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
1 37	①軟質陶器 ②内耳鍋? ③口辺部～胴部片	覆土	口-(29.8) 底-( ) 高-(11.8)	①粗 夾雑鉱物粒を多量に含む ②還元 普通 ③黄灰2.5Y5/1	ロクロ調整 外面胴部篋削り 内面ナデ 胴部下半煤付着 年代・中世
2 37	①軟質陶器 ②播鉢 ③口辺部～底部片	覆土	口-(29.8) 底-(13.0) 高-11.5	①粗 夾雑鉱物粒を多量に含む ②還元 良好 ③灰N5/0	ロクロ調整 外面ナデ 内面木瓜型の播 り目 外底回転糸切り 須恵器と同様な 色調、同様な焼き締まる
3 37	①陶器 ②播鉢 ③口辺部～底部片	覆土	口-( ) 底-(13.2) 高-(8.2)	①粗 夾雑鉱物粒を多量に含む ②還元 不良 ③赤褐2.5YR4/6	ロクロ調整 外面指頭圧痕 内面使用に よる摩滅著しい 生産地・丹波 年代・ 江戸

第三章 遺構と遺物

4 37	①土師質土器 ②皿 ③口辺部～底部3/4	覆土	口-(7.8) 底-5.6 高-1.8	①細 細砂を少量含む ②酸化焰 良好 ③灰白2.5Y8/2	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整 内外面に煤部分的に付着	
5 37	①緑釉陶器 ②皿 ③口辺部～底部1/4	覆土	口-(10.4) 底-(6.2) 高-(2.4)	①細 夾雑鉱物粒を少量含む ②還元焰 良好 ③胎土灰白7.5Y7/1 釉オリープ 灰10Y6/1	口縁部内外に灰釉 生産地・瀬戸、美濃 年代・14C	
遺物No 写真頁	器種	残存状態	石材	出土位置	量目 (cm・g) 長さ 幅 厚さ 重量	特 徴
6 37	石鏃	完形	チャート	覆土	1.9 1.3 0.2 0.5	薄い巾広剥片を素材 先端及び左右の側 縁を主に加工 ㄣ形状の基部形状を呈す

B49号溝出土遺物観察表

遺物No 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
1 37	①軟質陶器 ②火鉢 ③口辺部～胴部片	覆土	口-(25.0) 底- 高-(9.2)	①中 細砂、粗砂、パミスを少量含む ②酸化焰 普通 ③橙 5 YR7/8	ロクロ調整(右) 外面胴部下半篔削り 内面ナデ 口縁部内側煤付着

B44号溝 写真図版 15

位置 953～962-280～283 Gr

重複 新しいB21号溝。新旧不明B20、B27-B45-B72号溝。

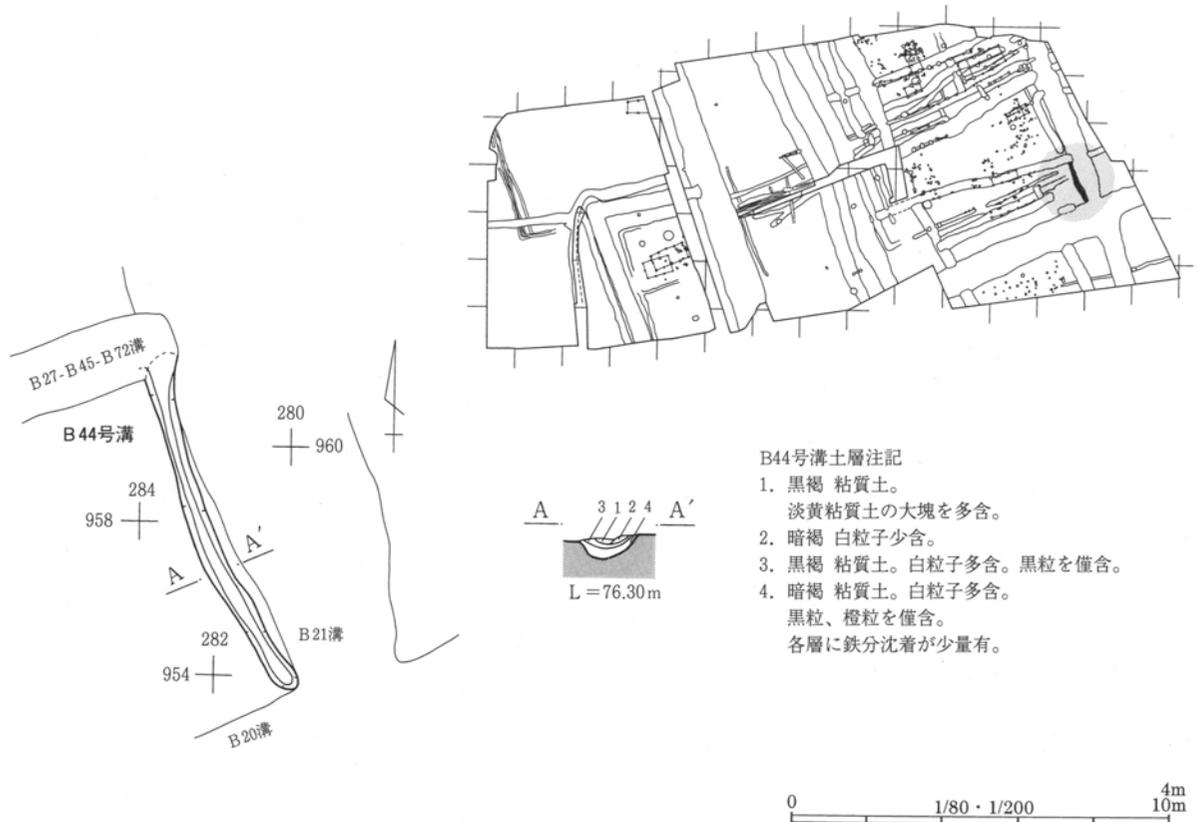
規模 長さ9.5m 幅0.3～0.6m

深さ 26～36cm

掘り方 台形状を呈する。

遺物 なし

所見 やや西側に中央部に膨らみながらN-27°-Wの走向。北端は961-284Gr付近でB27-B45-B72号溝と交わり終わり、南端は954-280Gr付近でB20号溝と交わり終わる。B21号溝と重複して存在していた可能性が高いと思われ、もっと両端が南北にのびることも想定できる。



第98図 B44号溝

B53号溝 写真図版 15・37

位置 964~986-325~336 Gr

重複 古いB22号溝。新旧不明B39、B33、B40b、B42-B50、B51号溝、B52、B53号土坑。

規模 長さ24.3m 幅1.4~2.4m

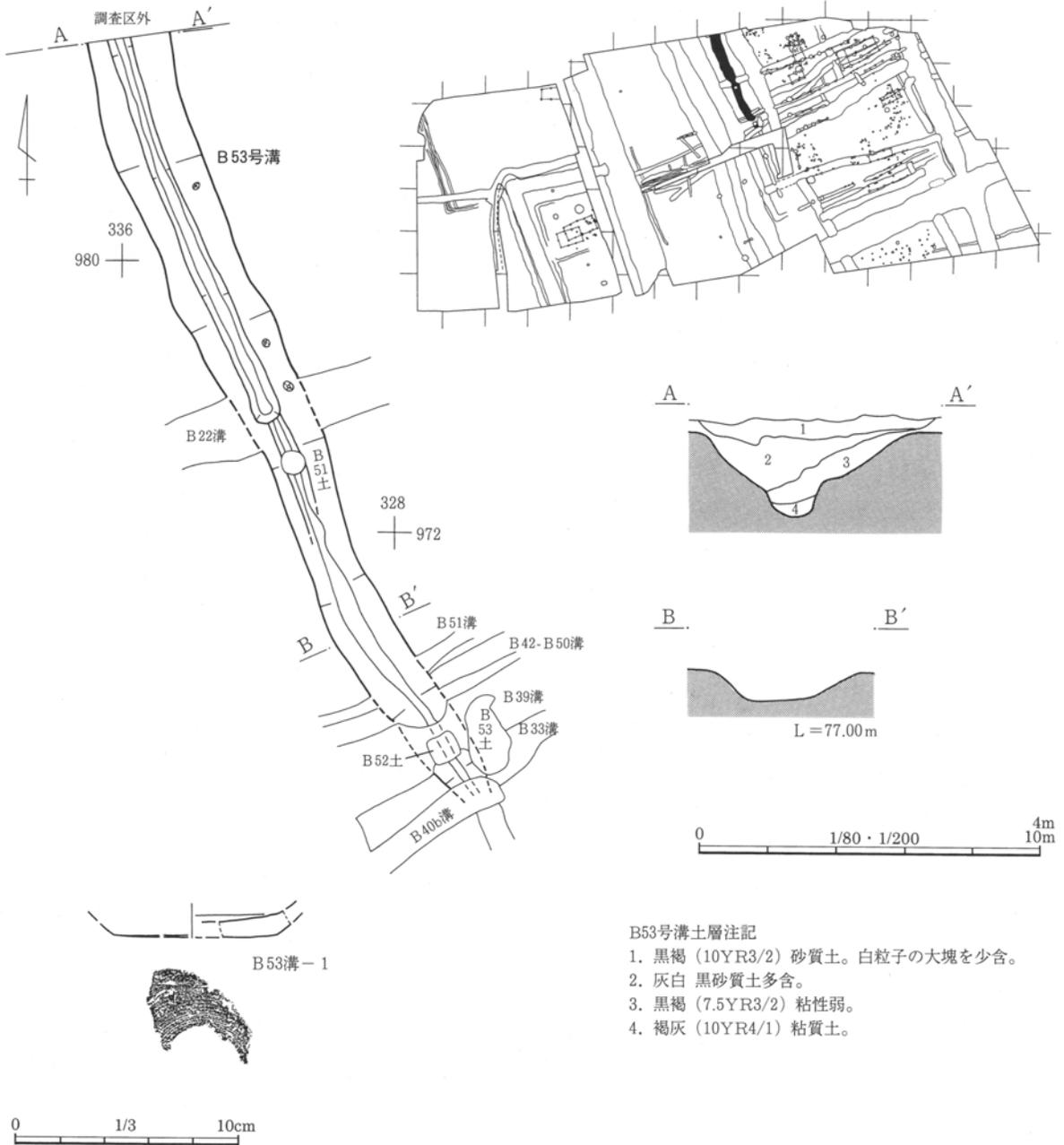
深さ 21~99cm

掘り方 なだらかに落ち込み、円弧状を呈するが北半分ではさらに一段深く落ち込み、その底部は丸い。

遺物 土師器甕12、須恵器坏1、甕3、土師質土器

皿1、陶器鉢1、磁器皿1、瓦1、石1

所見 N-24°-Wの走向。北端は調査区外に及び、南端はB39号溝などとの重複でどこまでのびるかは確認できない。しかし、調査区外を挟んだ南側では確認されていないため、B40a号溝と交わり終わるとも想定できる。また、B39号溝も断面形状が似ているため、同時期に存在していた可能性も考えられる。



B53号溝土層注記

1. 黒褐 (10YR3/2) 砂質土。白粒子の大塊を少含。
2. 灰白 黒砂質土多含。
3. 黒褐 (7.5YR3/2) 粘性弱。
4. 褐灰 (10YR4/1) 粘質土。

第99図 B53号溝および出土遺物

B53号溝出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
1 37	①土師質土器 ②皿 ③底部片	覆土	口- 底-(7.2) 高-(1.1)	①中 細砂、粗砂、パミスを含む ②酸 化焰 普通 ③にぶい橙7.5YR7/4	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り無調整

B54号溝 写真図版 16・37

位置 944~985-319~344 Gr

重複 新しいB76号土坑。新旧不明B42-B50、B40b号溝。同時期B22、B27-B45-B72、B39号溝。

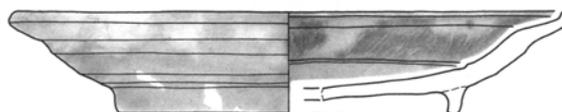
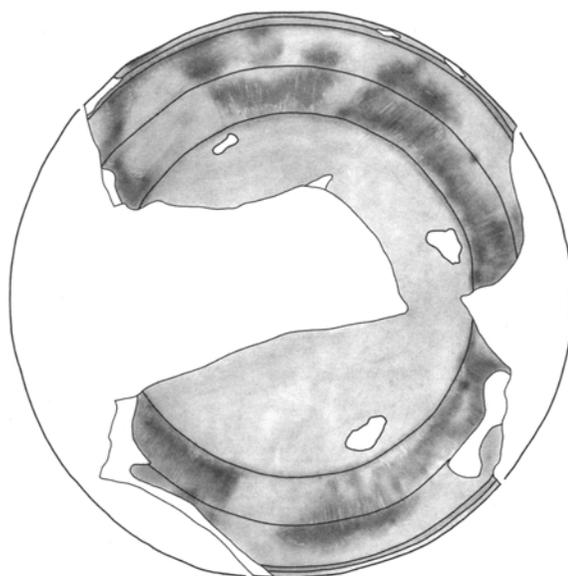
規模 長さ55.5m 幅2.6~4.6m

深さ 61~104cm

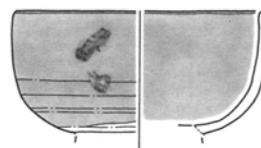
掘り方 上端から下端にまっすぐと落ち込み、底部は平坦。ほぼ均等な幅だが、中央部の調査区外すぐ南側でやや細くなる。調査区南で橋状遺構と思われる規則的な4つのピットがあるが、深さにばらつきがあり、東側の2つが深くなっている。

遺物 古式土師器甕1、壺1、土師器坏64、甕18、須恵器坏7、甕17、蓋2、土師質土器皿4、軟質陶器鍋11、内耳鍋1、内耳焙烙1、鉢3、焜炉1、陶器碗2、皿1、甕1、壺2、急須1、磁器碗3、瓦4、土製品土錘1、自然礫1

所見 N-21° -Wの走向。両端は調査区外に及ぶ。B22、B27-B45-B72、B39号溝などはこの溝に交わる形で終わるため、同時期存在していた可能性が考えられる。中でもB39号溝は中段を持つ形状など規模こそ異なるが類似点が多く、同時期の可能性は高い。調査区内南で確認された4つの方形の頂点に1間×1間の間隔で並ぶピットはこの溝との位置などから橋状の遺構の橋脚用のピットと想定される。



B54溝-1

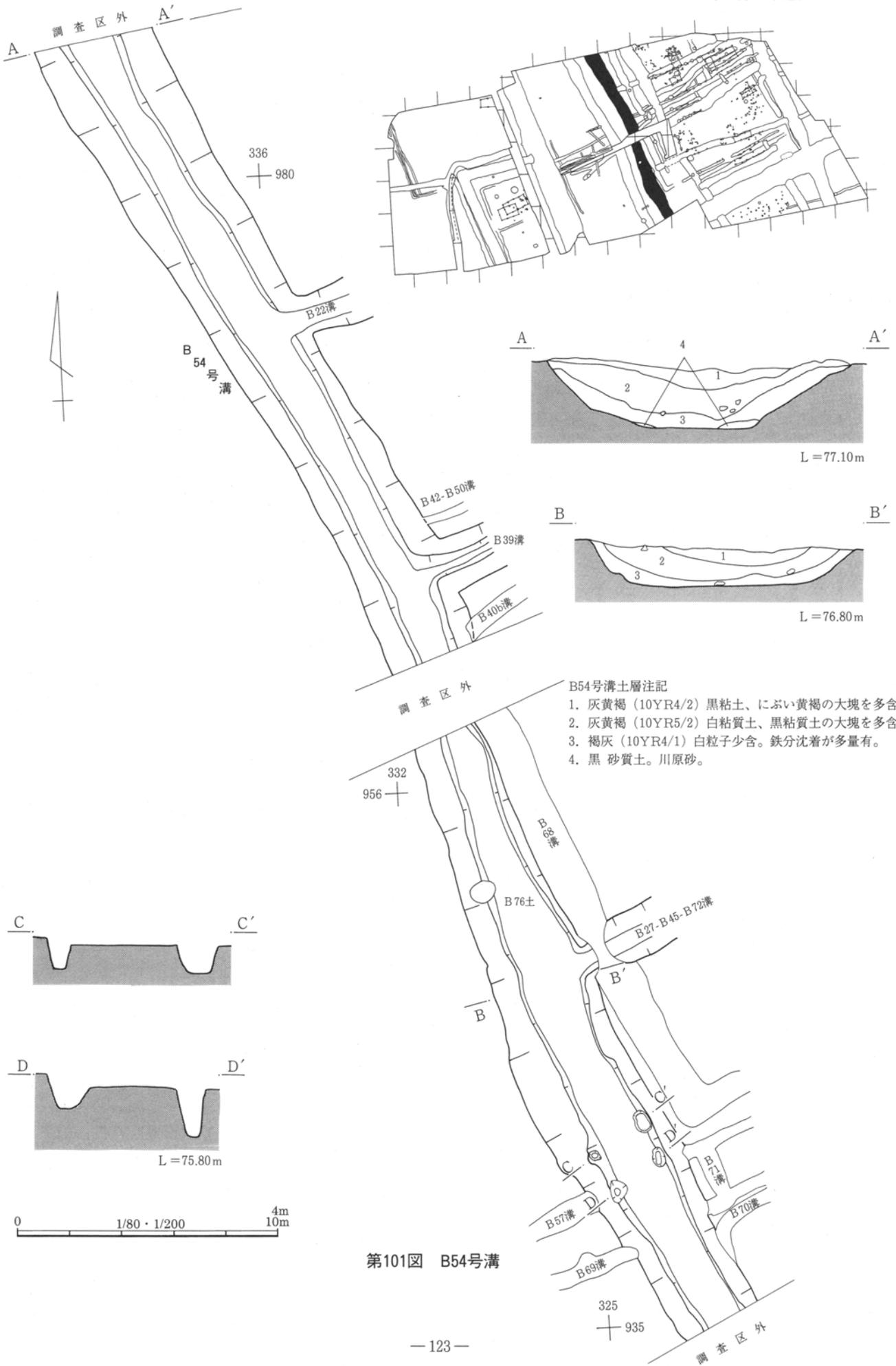


B54溝-2



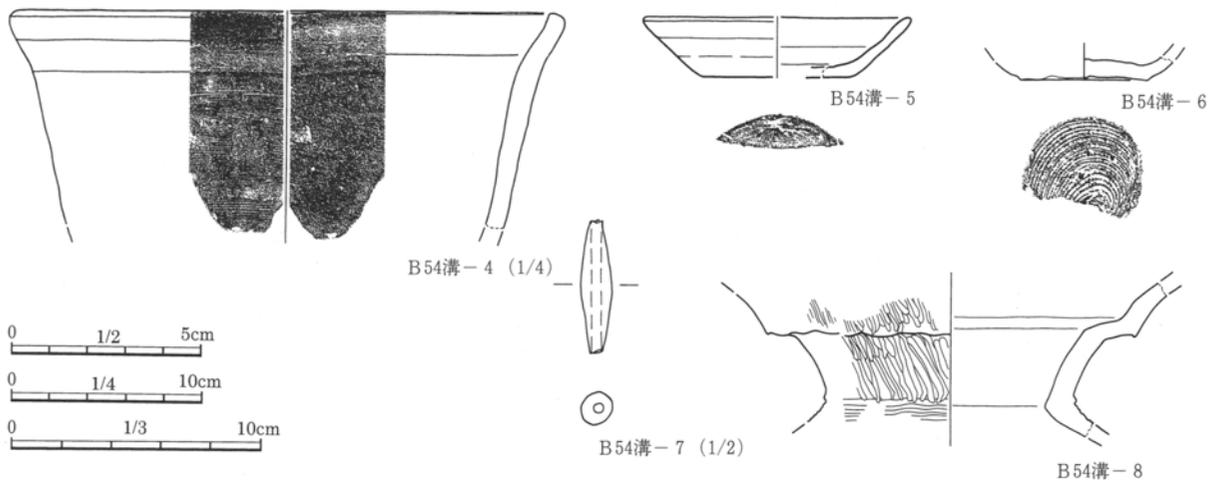
B54溝-3 (1/4)  
0 1/4 10cm  
0 1/3 10cm

第100図 B54号溝出土遺物(1)



第101図 B54号溝

第三章 遺構と遺物



第102図 B54号溝出土遺物（2）

B54号溝出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)				①胎土②焼成③色調外④色調内	成・整形技法の特徴
			長さ	幅	孔径	重量		
1 37	①陶器 ②皿 ③3/4	覆土	口-(22.2) 底-(13.5) 高-4.0				①粗 夾雑鉱物粒を多量に含む ②還元焰 良好 ③胎土灰白10YR8/2 釉浅黄2.5Y7/3	内外面灰釉 内面織部流し 外面底部露胎 内面目跡3つ残存 生産地・瀬戸、美濃 年代・17C
2 37	①陶器 ②碗 ③口辺部~底部1/4	覆土	口-(10.0) 底- 高-(4.9)				①粗 夾雑鉱物粒を含む ②還元焰 良好 ③胎土にぶい橙5 YR5/4 釉灰白5 Y7/2	外面染付 内面無文 細かい貫入が入る 高台脚以下を除き灰釉 生産地・瀬戸、美濃 年代・18C後
3 37	①軟質陶器 ②内耳焙烙 ③口辺部~底部片	覆土	口-(38.5) 底-(36.6) 高-5.6				①粗 夾雑鉱物粒を少量含む ②還元焰 普通 ③灰白N7/0 灰黄褐10YR6/2	ロクロ調整 耳貼付 平底 外面煤付着
4 37	①軟質陶器 ②内耳鍋? ③口辺部~胴部片	覆土	口-(29.6) 底- 高-(11.4)				①粗 夾雑鉱物粒を多量に含む ②還元焰 普通 ③黄灰2.5Y4/1 ④黄灰2.5Y6/1	ロクロ調整 外面胴部鋭削り 年代・中世
5 37	①土師質土器 ②皿? ③口辺部~底部片	覆土	口-(10.6) 底-(6.0) 高-2.4				①細 細砂、雲母、パミスを少量含む ②酸化焰 良好 ③橙2.5YR6/8	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整
6 37	①土師質土器 ②皿 ③底部1/2	覆土	口- 底-(5.1) 高-(0.9)				①中 細砂、パミス、褐色鉱物粒を少量含む ②酸化焰 普通 ③にぶい褐7.5 YR6/3	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整
遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm・g)				①胎土②焼成③色調	特 徴
			長さ	幅	孔径	重量		
7 37	①土製品 ②土錘 ③完形	覆土	3.5	0.8	0.3	10.08	①粗 細砂、粗砂、パミス を多量に含む ②酸化焰 良好 ③にぶい褐7.5 YR5/4	外面磨きか 摩滅著しい
遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)		①胎土②焼成③色調		成・整形技法の特徴	
8 37	①古式土師器 ②壺 ③頸部片	覆土	口- 底- 高-(6.1)				①粗 粗砂、礫、パミス を多量に含む ②酸化焰 普通 ③橙2.5YR6/6	二重口縁 口辺部縦磨き 頸部拂描き 内面口辺部横ナデ

B55号溝

位置 954~955-346 Gr

重複 なし

規模 長さ1.2m 幅0.3m

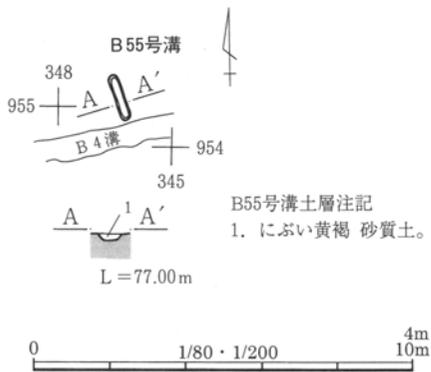
深さ 4~5cm

掘り方 ごく浅い台形状を呈し、底面はやや平坦に

なる。

遺物 なし

所見 N-21° -Wの走向。とても短く、土坑状の溝である。すぐ北にあるB3号溝とほぼ同時代の溝として調査されたが、覆土、遺物などでは確証はない。



第103図 B55号溝

B60号溝 写真図版 17

位置 937~949-346~352 Gr

重複 なし

規模 長さ13.6m 幅3.0~7.0m

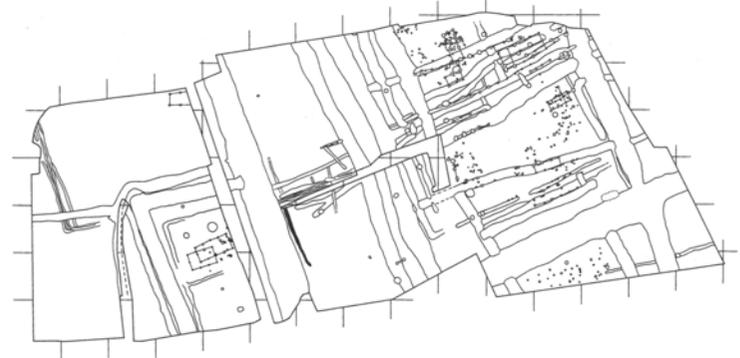
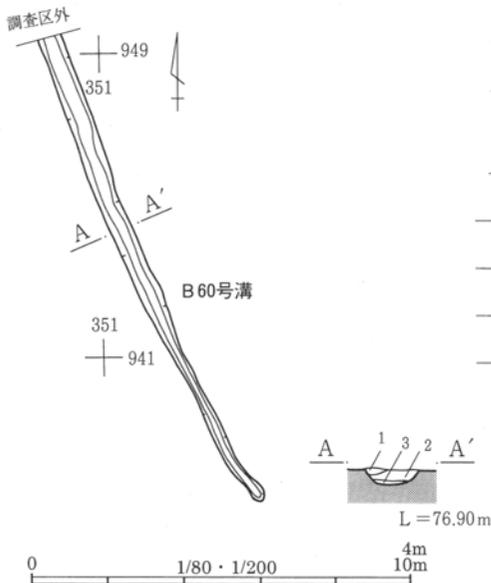
深さ 5~20cm

掘り方 浅い台形状を呈する。

遺物 土師器甕7、須恵器坏1、甕2、灰釉陶器碗

1、自然礫4

所見 N-22° -Wの走向。北端は調査区外に及ぶが、その北では確認されていない。南端は937-347 Gr付近で浅くなり確認できなくなる。時代は変わるが並行してB17号溝が走るため、B17号溝はこのB60号溝が機能した時期から存在していた可能性も想定できる。



第104図 B60号溝

B61号溝 写真図版 17

位置 948~953-341~342 Gr

重複 古いB62、B63号溝。

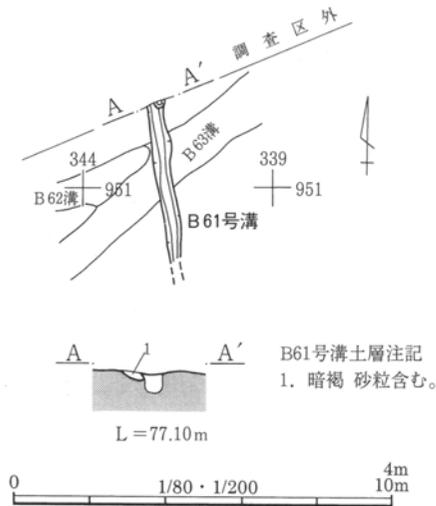
規模 長さ4.2m 幅0.3~0.5m

深さ 9~10cm

掘り方 浅い円弧状を呈する。

遺物 なし

所見 N-10° -Wの走向。北端は調査区外に及ぶが、その北では確認されていない。南端は948-341 Gr付近で浅くなり確認できなくなる。



第105図 B61号溝

**B62号溝 写真図版 17**

位置 949～951-342～350 Gr

重複 新しいB61号溝。古いB63号溝。

規模 長さ8.0m 幅0.7～1.0m

深さ 28～36cm

掘り方 浅い台形状を呈するが、底面はやや歪む。

遺物 なし

所見 N-75°-Eの走向。東端は951-342Gr付近でB63号溝と交わり終わり、西端は949-350Gr付近で浅くなり終わる。平面形態や走向は調査区外を挟んで北側のB4、B13、B14、B15、B16号溝と似ており、同時期に存在したか、ごく短期間のうちに存在していた可能性が高い。

**B63号溝 写真図版 17・37**

位置 947～955-335～346 Gr

重複 新しいB61、B62号溝。新旧不明B35号溝。

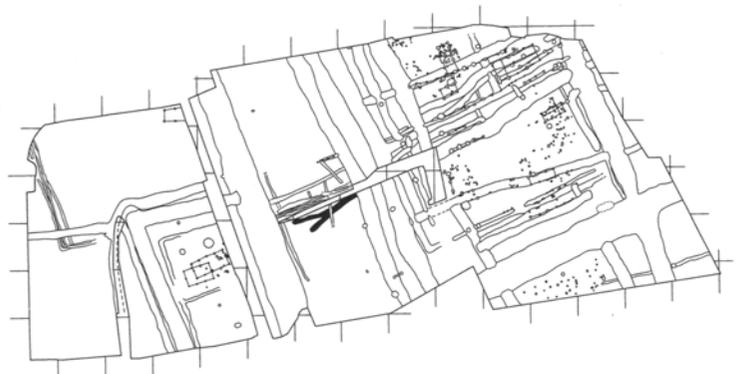
規模 長さ13.0m 幅0.9～1.3m

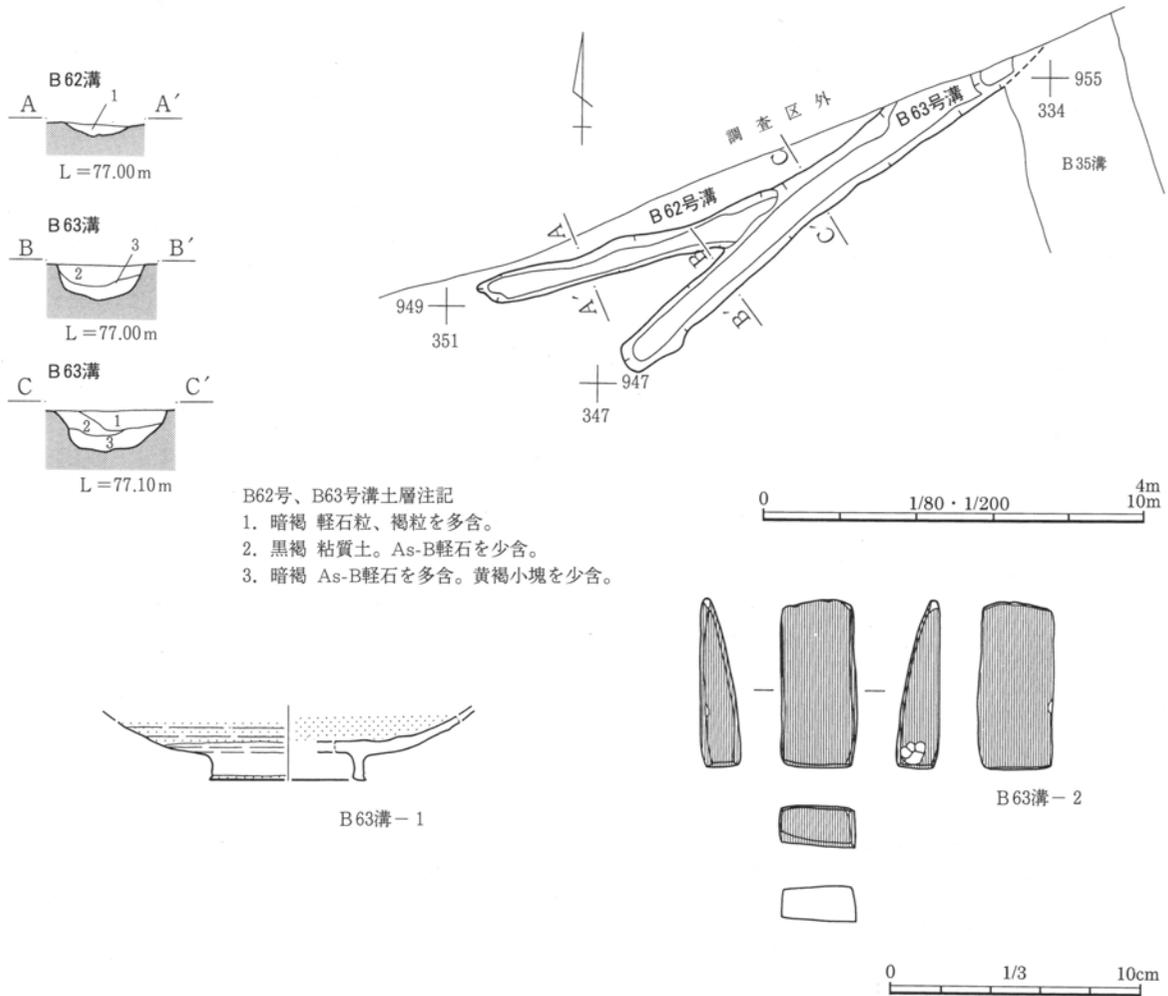
深さ 36～40cm

掘り方 台形状を呈するが、底面はやや歪む。

遺物 土師器坏28、甕8、須恵器坏8、甕1、灰釉陶器高台付皿1、陶器甕1、磁器碗1、砥石1、自然礫1（発掘調査時B62号溝の遺物と一括で取り上げられている。）

所見 N-50°-Eの走向。東端は調査区外に及び、その北では確認されない。西端は947-346Gr付近で浅くなり終わる。





第106図 B62、B63号溝および出土遺物

B63号溝出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調				成・整形技法の特徴	
				粗	夾雑	鋳物粒	を多量に含む		②還元
1 37	①灰釉陶器 ②高台付皿 ③体部～底部片	覆土	口— 底—(6.2) 高—(2.5)	①粗	夾雑	鋳物粒	を多量に含む	②還元 釉灰オ	ロクロ調整 高台貼付け 内面全面 外面体部上半灰釉 内面重ね焼き 高台に重ね焼き痕
遺物No. 写真頁	①種類②器種	残存状態	石材	出土位置	量目 (cm・g)				特 徴
					長さ	幅	厚さ	重量	
2 37	①石製品 ②砥石	ほぼ完形	砥沢石	覆土	6.6	3.0	1.6	41.0	5面使用

B73号溝 写真図版 18

位置 948～960—320～325 Gr

重複 新旧不明B27-B45-B72号溝、B88号土坑。

規模 長さ12.5m 幅0.7～0.8m

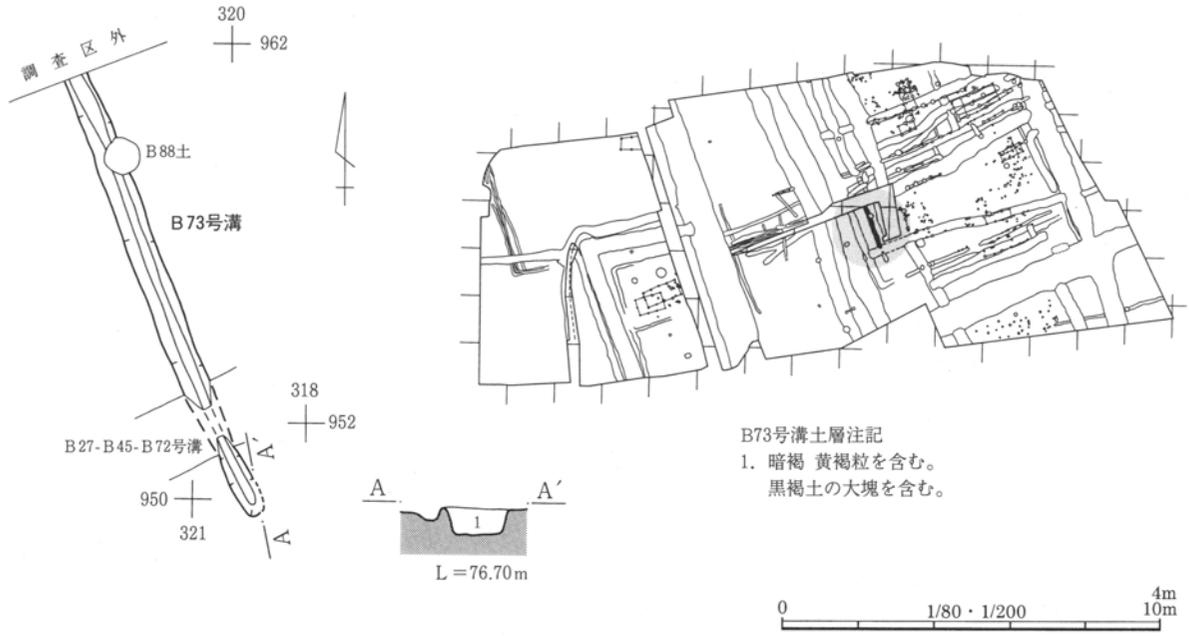
深さ 21～36cm

掘り方 上端から下端までほぼ垂直に落ち込み、底

面は平坦。

遺物 なし

所見 N-21° -Wの走向。上端は調査区外に及び、それより北側では確認されない。南端は948-320Gr付近で浅くなり確認できなくなる。



B73号溝土層注記  
 1. 暗褐 黄褐粒を含む。  
 黒褐土の大塊を含む。

第107図 B73号溝

(4) 土坑

A5号土坑 写真図版 19

位置 942~943-342~343 Gr

平面形態 円形

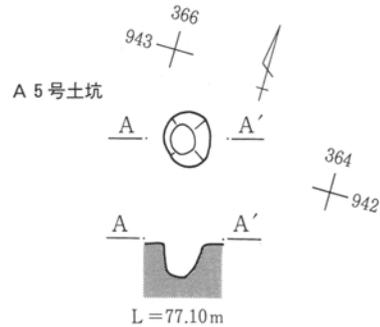
規模 長径0.6m 短径0.5m 深さ 38cm

主軸方位 N-19° -W 面積 0.23m<sup>2</sup>

掘り方 上端から下端にかけてほぼ垂直な掘り方を呈する。

出土遺物 なし

所見 覆土は不明。



A12号土坑 写真図版 19

位置 932-365~366 Gr

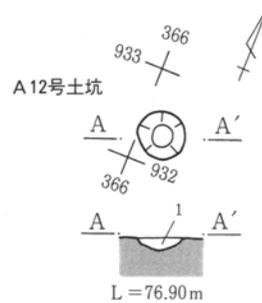
平面形態 円形

規模 長径0.52m 短径0.48m 深さ 14cm

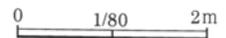
主軸方位 N-63° -W 面積 0.20m<sup>2</sup>

掘り方 円弧状を呈する。

出土遺物 なし



A12号土坑土層注記  
 1. 黒褐 (10YR3/1) 砂質土。  
 褐灰色粘質土の大塊を少含。  
 黒色土の大塊も少含。



第108図 A5、A12号土坑

A13号土坑 写真図版 19

位置 927~928-361~362 Gr

平面形態 隅丸方形

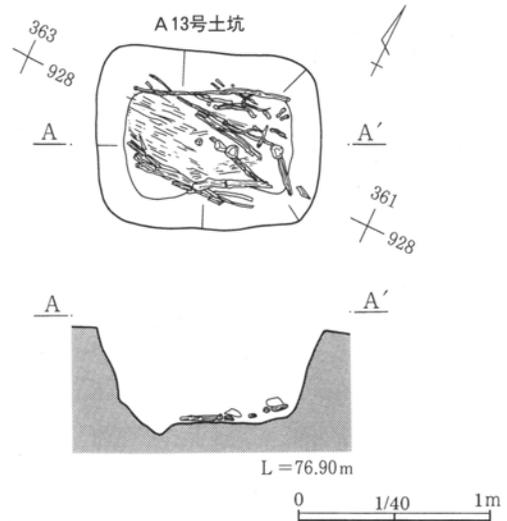
規模 長径1.20m 短径1.13m 深さ 55cm

主軸方位 N-75° -W 面積 1.01m<sup>2</sup>

掘り方 上端から下端に向けてやや傾斜しながら落ち込む。

出土遺物 多くの木片。樹種不明。

所見 覆土は不明。底部近くで敷き詰めたような状態で木片が多量に出土している。板状などに加工されたものではなく、樹枝状のままである。



A14号土坑 写真図版 19

位置 950~951-373~375 Gr

平面形態 隅丸方形

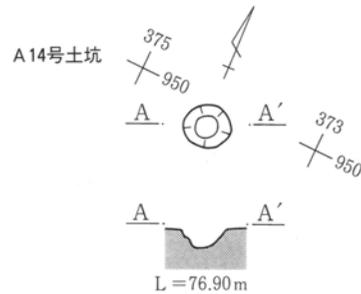
規模 長径0.52m 短径0.46m 深さ 20cm

主軸方位 N-78° -E 面積 0.19m<sup>2</sup>

掘り方 やや底部は張るが、円弧状を呈する。

出土遺物 なし

所見 覆土は不明。



B12号土坑 写真図版 20

位置 972~973-357~358 Gr

平面形態 円形

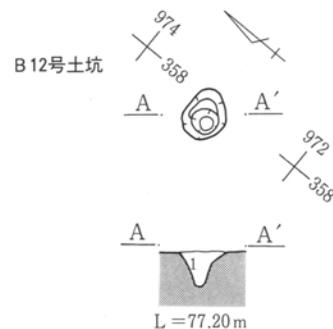
規模 長径0.54m 短径0.47m 深さ 20cm

主軸方位 N-68° -E 面積 0.19m<sup>2</sup>

掘り方 上端から下端までほぼ垂直に落ち込み、柱穴状を呈する。

出土遺物 なし

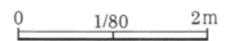
所見 B1号住居と重複しているが、住居に伴う柱穴としては位置が不适当であり、断面観察では住居より新しい掘り込みであることが確認できた。



B12号土坑土層注記

1. 黒褐 (10YR2/2)

黄褐・暗赤褐粒、白粒色含む。炭化物粒も少含。



第109図 A13、A14、B12号土坑

掘り方 ほぼ円形に深さ20cmほど落ち込み、そこからさらに、長径20~36cm、短径18~24cm、深さ11~23cmの4つのピットが多少のバランスの崩れはあるが、ほぼ均等に土坑外縁部に割り振られている。

出土遺物 須恵器坏1、土師質土器皿1、軟質陶器鍋1、自然礫4

B19号土坑 写真図版 20・37

位置 968~970-295~296 Gr

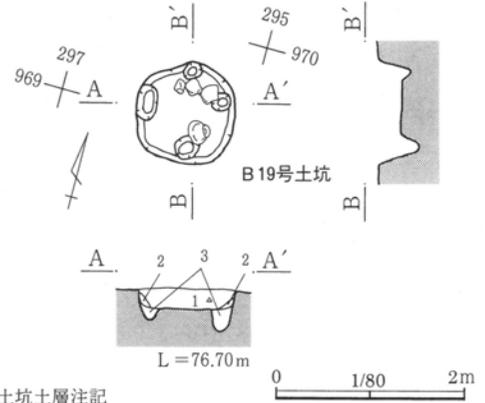
平面形態 円形

規模 長径1.08m 短径1.04m 深さ 20cm

主軸方位 N-25° -W 面積 0.92m<sup>2</sup>

第三章 遺構と遺物

所見 遺構の性格は不明。24×28cmに及ぶ大型の礫も埋土中に含まれる。ほぼ一括埋土であり、短時間で埋まったものと考えられる。



B19号土坑土層注記

1. 灰褐 鉄分沈着が少量有。灰白粘土粒、白粒子を少含。粘性弱。
2. 灰褐 鉄分沈着が少量有。灰白粘土の大塊を少含。
3. 不明

第110図 B19号土坑および出土遺物

B19号土坑出土遺物観察表

遺物No 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
1 37	①土師質土器 ②皿 ③2/3	覆土	口-11.9 底-7.4 高-2.9	①中 細砂、パミス、褐色鉱物粒を含む ②酸化焙 普通 ③橙7.5YR6/6	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整

B20号土坑 写真図版 20・37

位置 939-269~270 Gr

平面形態 円形

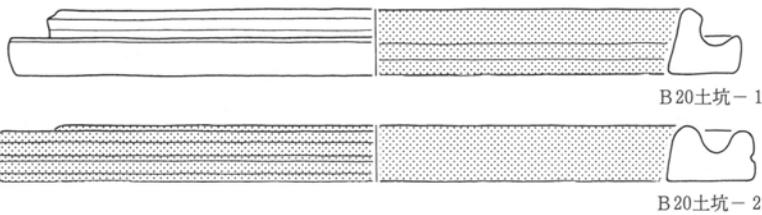
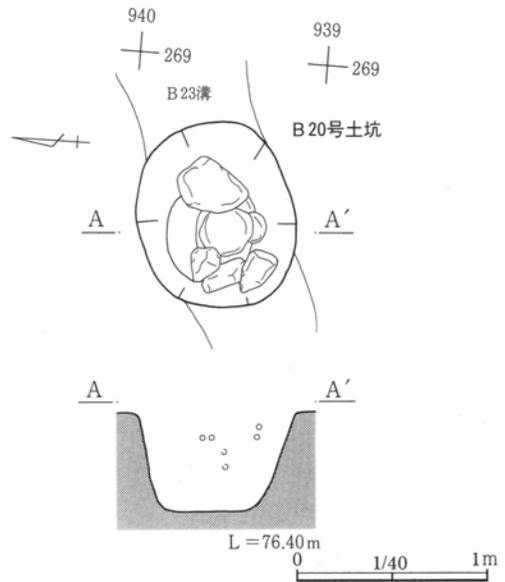
規模 長径1.0m 短径0.82m 深さ 52cm

主軸方位 N-63° -E 面積 0.68m<sup>2</sup>

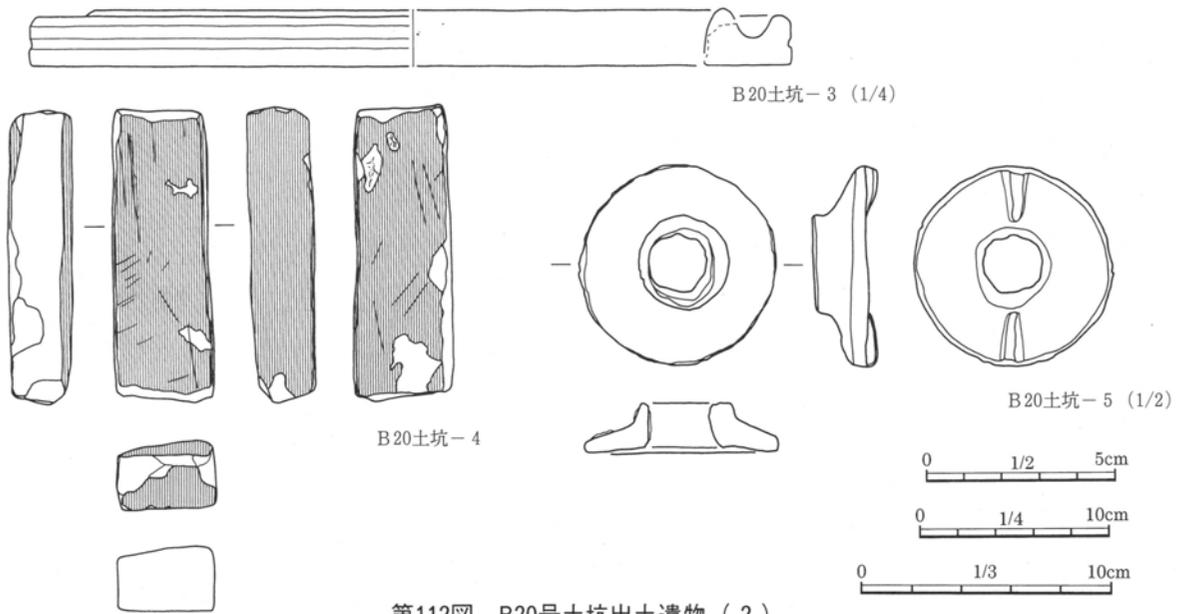
掘り方 上端から下端までやや傾斜を持って落ち込む。

出土遺物 土師器坏1、甕2、須恵器甕1、土師質土器皿1、軟質陶器鍋2、火鉢1、釜輪3、その他1、磁器碗12、皿2、急須6、その他1、砥石1、不明金属類1、自然礫7

所見 大型の礫が7点出土しているが根石となるかは判断できない。周辺にこれに伴う遺構は確認されていない。覆土は不明。



第111図 B20号土坑および出土遺物(1)



第112図 B20号土坑出土遺物（2）

B20号土坑出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調				成・整形技法の特徴	
				①粗	②還元	③に	④色調		
1 37	①軟質陶器 ②釜輪 ③破片	覆土	口-(38.8) 底- 高-3.5	①粗 夾雑鉱物粒を多量に含む	②還元 良好	③に	④赤褐 5 YR5/2	ロクロ調整 内面に煤附着	
2 37	①軟質陶器 ②釜輪 ③破片	覆土	口-(40.2) 底- 高-3.0	①粗 夾雑鉱物粒を多量に含む	②還元 普通	③に	④暗赤褐 5 YR3/3	ロクロ調整 外面に沈線1本 全面に煤附着	
3 37	①軟質陶器 ②釜輪 ③破片	覆土	口-(40.2) 底- 高-3.0	①粗 夾雑鉱物粒を多量に含む	②酸化 良好	③に	④橙 5 YR6/4	ロクロ調整 一部黒変	
遺物No. 写真頁	①種類②器種	残存状態	石材	出土位置	量目 (cm・g)				特徴
					長さ	幅	厚さ	重量	
4 37	①石製品 ②砥石	ほぼ完形	砥沢石	覆土	11.7	4.0	2.7	220.0	4面使用
遺物No. 写真頁	種類	器種	残存状態	出土位置	量目 (cm・g)				特徴
					長さ	幅	厚さ	重量	
5 37	金属器	不明	ほぼ完形	覆土	5.3	5.2	1.7	61.6	

B24号土坑 写真図版 21

位置 946~947-312~313 Gr

平面形態 円形

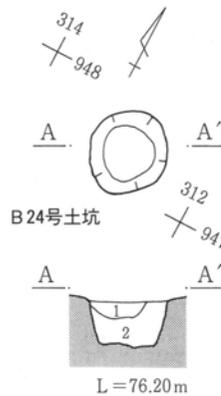
規模 長径0.94m 短径0.86m 深さ 48cm

主軸方位 N-6° -E 面積 0.61m<sup>2</sup>

掘り方 上端から下端までほぼ垂直に落ち込む。

出土遺物 なし

所見 B24号溝の底部で確認されているが、溝との新旧関係は不明。この土坑に伴うと考えられる遺構は確認されなかった。



B24号土坑土層注記

1. 黄橙  
やや砂質、砂岩少含。  
黄橙粘質土の大塊を多含。
2. 黒粘質土。  
暗褐粘質土の大塊を僅含。

0 1/80 2m

第113図 B24号土坑

B29号土坑 写真図版 21

位置 983~984-300~301 Gr

平面形態 隅丸方形

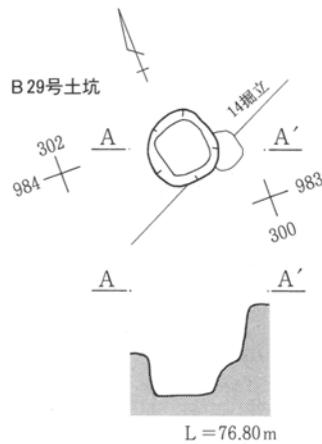
規模 長径0.82m 短径0.50m 深さ 100cm

主軸方位 N-31° -E 面積 0.47m<sup>2</sup>

掘り方 上端から下端までほぼ垂直に落ち込み、底部はほぼ平坦を呈する。

出土遺物 土師器甕4、陶器鉢1

所見 B25号溝の肩にある。14号掘立のピットとも一部重複する。形状からは柱穴と考えられるが、周囲からこれに伴う遺構は確認できなかった。



B33号土坑

位置 970~971-317~319 Gr

平面形態 不整楕円形

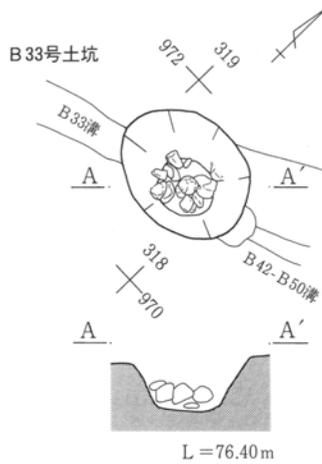
規模 長径1.53m 短径1.19m 深さ 54cm

主軸方位 N-4° -E 面積 1.46m<sup>2</sup>

掘り方 上端部からやや角度を持って落ち込み、底部から20cmほどのところでやや角度がきつくなる。底部はほぼ平坦を呈する。

出土遺物 自然礫14

所見 底部近くに14個の礫を敷き並べている。この土坑の機能は不明。



B35号土坑 写真図版 21

位置 975~977-300~303 Gr

平面形態 不整隅丸方形

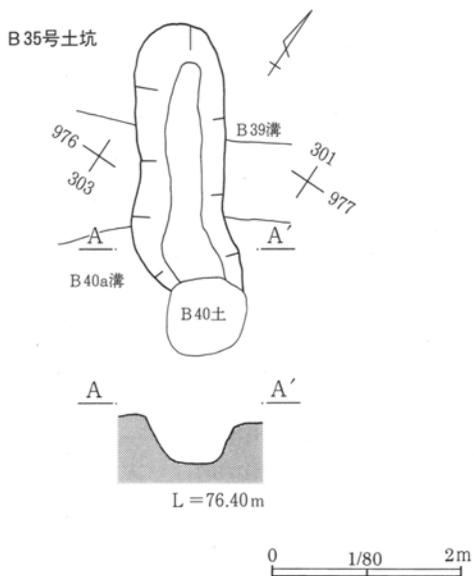
規模 長径2.82m 短径1.1m 深さ 25cm

主軸方位 N-29° -W 面積 2.50m<sup>2</sup>

掘り方 上端から下端に向けてやや傾斜を持って落ち込む。下端から深さ16cmほどに中段を持つ。底部はほぼ平坦を呈す。

出土遺物 なし

所見 覆土は不明。ほぼ並行するB39号溝、B40a号溝をつなぐ形でほぼ垂直に交わる。南端ではB40号土坑につながる。これらの溝との関係は不明。



第114図 B29、B33、B35号土坑

B36号土坑

位置 980~982-293~294 Gr

平面形態 不整楕円形

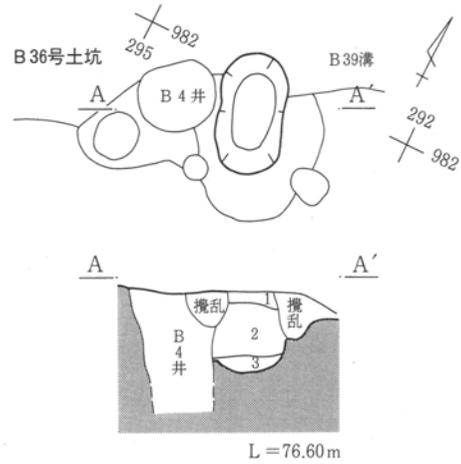
規模 長径1.29m 短径0.70m 深さ 87cm

主軸方位 N-19° -W 面積 0.80m<sup>2</sup>

掘り方 上端の形状は攪乱により不明。底部は鍋底状を呈す。

出土遺物 なし

所見 B4号井戸と重複し、関係も考えられる。



B36号土坑土層注記

1. 黒褐 (10YR2/3) 褐粘質粒を含む。白粒をやや多含。鉄分沈着が少量有。黒褐粒を少含。粘性中・しまり強。
2. 黒褐 (10YR2/3) 1層に褐粘質土を多含。白粒少含。鉄分沈着が少量有。粘性中・しまり強。
3. 黒褐 (10YR3/2) やや砂質。灰白粘質土・黒褐粒を少含。粘性やや弱・しまり強。

B37号土坑 写真図版 21

位置 981~982-302~303 Gr

平面形態 不整方形

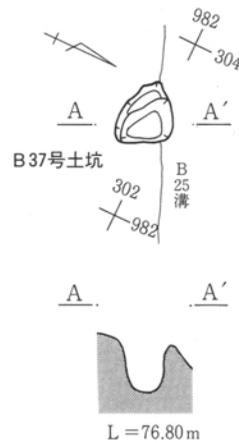
規模 長径0.64m 短径0.30m 深さ 62cm

主軸方位 N-48° -W 面積 0.30m<sup>2</sup>

掘り方 上端から下端にかけてほぼ垂直に落ち込む。底部は平坦。

出土遺物 なし

所見 覆土は不明。断面形状からは柱穴と考えられるが、平面形状が整わない。14号掘立柱建物内にあり、関係も考えられる。



B39号土坑 写真図版 21・37

位置 986~987-294 Gr

平面形態 円形

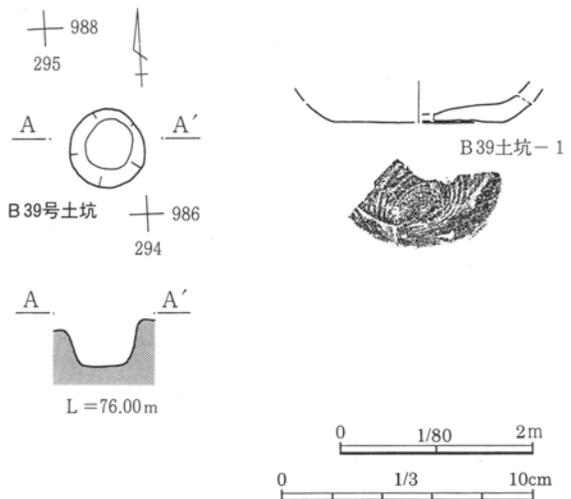
規模 長径0.82m 短径0.74m 深さ 47cm

主軸方位 N-0° 面積 0.53m<sup>2</sup>

掘り方 上端から下端までほぼ垂直に落ち込む。底部は平坦。

出土遺物 土師器不明1、須恵器坏3、土師質土器皿1、軟質陶器鍋1、瓦1

所見 覆土は不明。



第115図 B36、B37、B39号土坑および出土遺物

B39号土坑出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
1 37	①土師質土器 ②皿 ③底部片	覆土	口— 底—(7.0) 高—(1.0)	①細 細砂, パミス, 褐色鉱物粒を含む ②酸化焰 良好 ③にぶい褐7.5YR6/3	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整

B40号土坑

位置 974~975-300~301 Gr

平面形態 不整円形

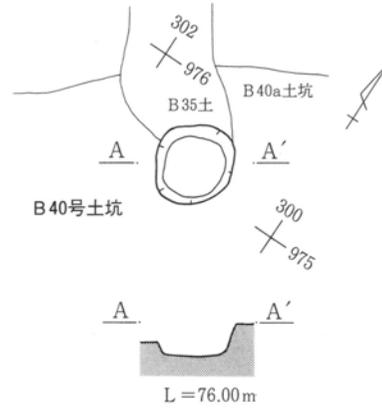
規模 長径0.94m 短径0.54m 深さ 10cm

主軸方位 N-13° -E 面積 0.60m<sup>2</sup>

掘り方 上端から下端までなだらかに落ち込む。

出土遺物 なし

所見 B40a号溝内にあり、B35号土坑と北端で接するが、これに伴うかは不明。覆土は不明。



B41号土坑 写真図版 21

位置 970~971-302~303 Gr

平面形態 隅丸方形

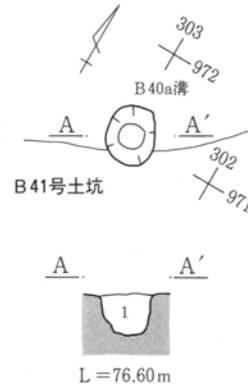
規模 長径0.64m 短径0.54m 深さ 44cm

主軸方位 N-9° -W 面積 0.29m<sup>2</sup>

掘り方 上端から下端までほぼ垂直に落ち込み、柱穴状を呈する。

出土遺物 なし

所見 B40a号溝の肩にある。柱穴と思われるが、これに伴う遺構は周辺では確認できない。



B41号土坑土層注記  
1. 褐灰 砂質土。

B42号土坑 写真図版 21

位置 973~974-291~292 Gr

平面形態 円形

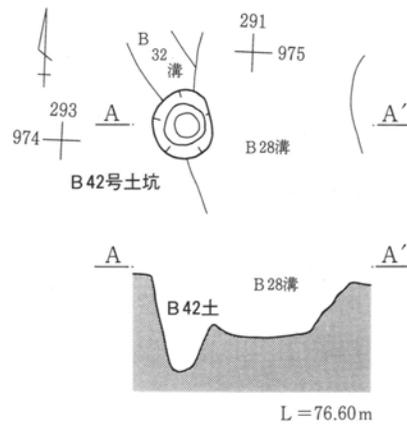
規模 長径0.72m 短径0.64m 深さ 104cm

主軸方位 N-0° 面積 0.38m<sup>2</sup>

掘り方 上端から下端までほぼ垂直に落ち込み、柱穴状を呈する。

出土遺物 なし

所見 B28号溝、B32号溝と重複するが新旧は不明。柱穴と思われるが、これに伴う遺構は周辺では確認できない。覆土は不明。



0 1/80 2m

第116図 B40、B41、B42号土坑

B46号土坑 写真図版 22

位置 971~972-296~297 Gr

平面形態 円形

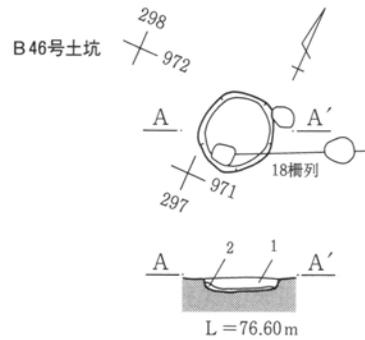
規模 長径0.86m 短径0.78m 深さ 16cm

主軸方位 N-0° 面積 0.53m<sup>2</sup>

掘り方 上端から下端までほぼ垂直に落ち込む。底部は平坦。

出土遺物 なし

所見 18号柵列1号柱穴と重複する。機能は不明。



B46号土坑土層注記

1. 褐灰(10YR4/1)砂質土。白粒子多含。鉄分沈着少量有。しまり強。
2. 褐灰(10YR4/1)砂質土。

B48号土坑 写真図版 22

位置 959-317~318 Gr

平面形態 隅丸方形

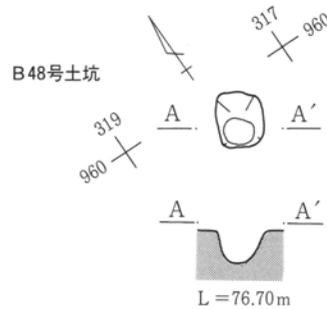
規模 長径0.64m 短径0.50m 深さ 19cm

主軸方位 N-70° -E 面積 0.29m<sup>2</sup>

掘り方 上端から下端までなだらかに落ち込む。底部は鍋底状を呈し、やや南西方向にずれる。

出土遺物 なし

所見 柱穴と思われるが、周辺の遺構との規則性は確認できない。



B50号土坑 写真図版 22

位置 985-986-310~311 Gr

平面形態 円形

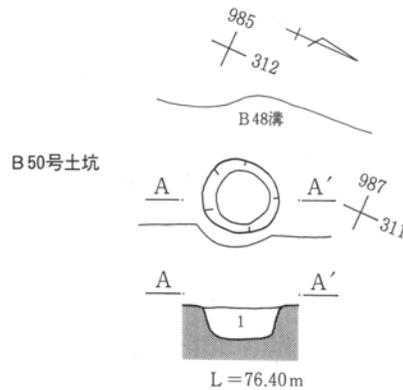
規模 長径1.05m 短径1.03m 深さ 37cm

主軸方位 N-0° 面積 0.53m<sup>2</sup>

掘り方 上端から下端までほぼ垂直に落ち込む。底部は平坦。

出土遺物 なし

所見 B48号溝と重複する。新旧は不明。一括埋土であり、短期間に埋まったものと考えられる。



B50号土坑土層注記

1. 黒砂質土。褐灰粘質土の大塊を含む。

B51号土坑 写真図版 22

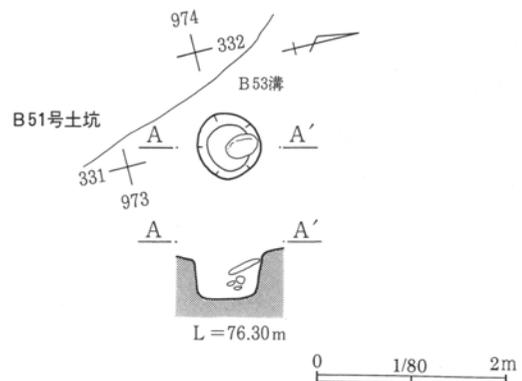
位置 973-974-330~331 Gr

平面形態 円形

規模 長径0.70m 短径0.68m 深さ 44cm

主軸方位 N-0° 面積 0.37m<sup>2</sup>

掘り方 上端から下端までほぼ垂直に落ち込む。底



第117図 B46、B48、B50、B51号土坑

部は平坦。

出土遺物 自然礫 5

所見 B53号溝と重複するが新旧は不明。40cm弱ある大きな自然礫が上端に近い所から出土している。

覆土は不明。

B52号土坑 写真図版 22

位置 965~966-326~327 Gr

平面形態 方形

規模 長径0.84m 短径0.80m 深さ 10cm

主軸方位 N-26° -W 面積 0.66m<sup>2</sup>

掘り方 上端から下端までほぼ垂直に落ち込む。底部は平坦。

出土遺物 なし

所見 B39号溝、B53号溝の交点部に位置し、重複する。新旧関係は不明。覆土は一括埋土であったようだが、詳細は不明。

B53号土坑 写真図版 22

位置 964~967-324~325 Gr

平面形態 不整楕円形

規模 長径2.46m 短径1.28m 深さ 32cm

主軸方位 N-6° -W 面積 2.33m<sup>2</sup>

掘り方 上端から下端までほぼ垂直に落ち込む。

出土遺物 なし

所見 B39号溝と重複し、特にこのB39号溝の中段より深い部分はこの土坑に流れ込むようになっている。

B54号土坑 写真図版 22

位置 985~986-337 Gr

平面形態 楕円形

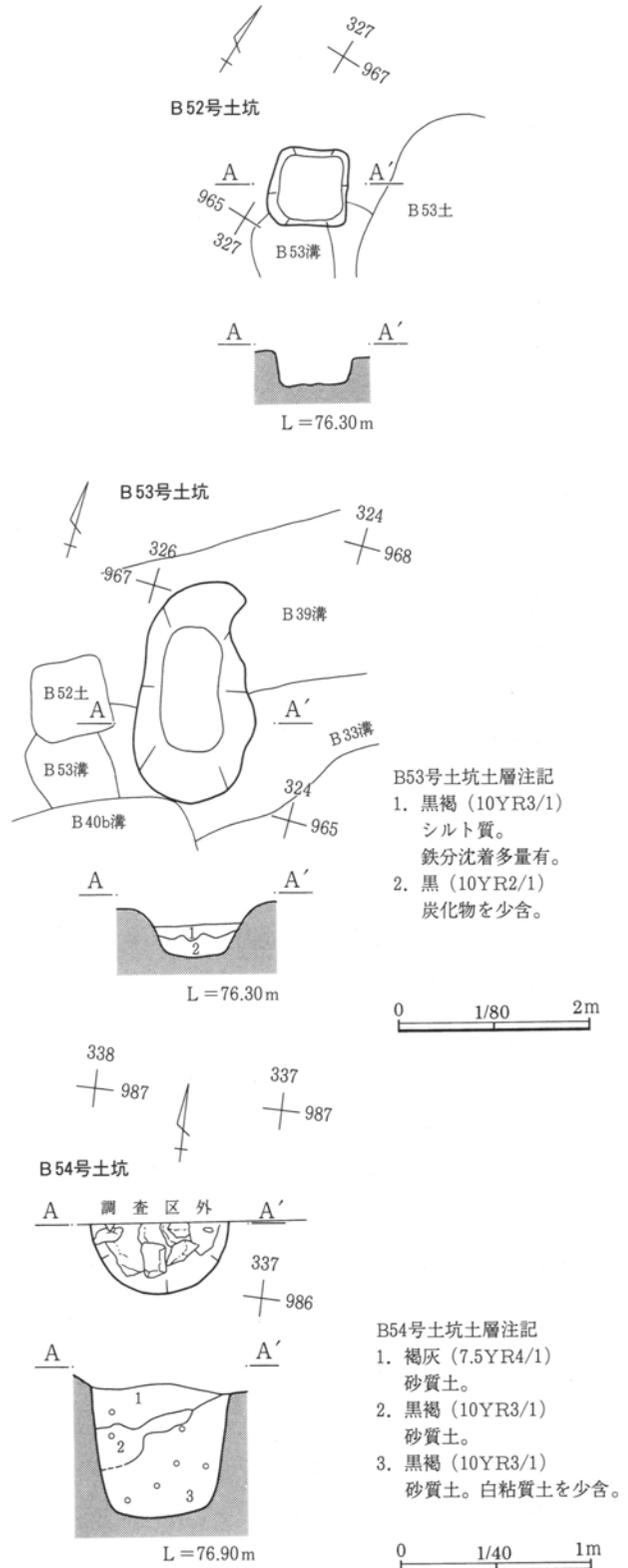
規模 長径0.70m 短径0.35m 深さ 95cm

主軸方位 N-82° -E 面積 0.22m<sup>2</sup>

掘り方 上端から下端までほぼ垂直に落ち込むが底部は未確認。北半分は調査区外。

出土遺物 自然礫 7

所見 多くの自然礫が出土している。柱穴か。



第118図 B52、B53、B54号土坑

B76号土坑 写真図版 23

位置 951~952-328~329 Gr

平面形態 不整楕円形

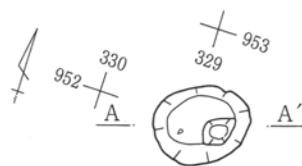
規模 長径1.00m 短径0.80m 深さ 32cm

主軸方位 N-50° -E 面積 0.67m<sup>2</sup>

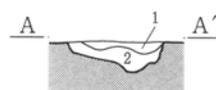
掘り方 上端から下端までなだらかに落ち込む。底部やや東よりに一段深く落ち込む箇所がある。

出土遺物 土師器坏1、甕2、須恵器甕2、灰釉陶器碗1、軟質陶器鍋1

所見 性格は不明。



B76号土坑



L = 76.90m

B76号土坑土層注記

1. 暗褐色 軽石粒多含。炭化物含む。
2. 暗褐色 黄褐色粘土粒を含む。

B85号土坑 写真図版 23

位置 938~939-334 Gr

平面形態 楕円形

規模 長径0.68m 短径0.32m 深さ 36cm

主軸方位 N-27° -W 面積 0.15m<sup>2</sup>

掘り方 上端から下端までなだらかに落ち込む。底部中央に径8cm、深さ18cm程の円形の落ち込みがある。

出土遺物 磁器急須1

所見 柱穴と思われるが、これと規則性を持つ遺構は周辺にはない。

B85号土坑



L = 76.90m

B85号土坑土層注記

1. 灰茶 シルト質。炭化物少含。しまり中。

0 1/80 2m

B86号土坑 写真図版 23・38

位置 948~949-334~335 Gr

平面形態 楕円形

規模 長径1.08m 短径0.89m 深さ 1.09cm

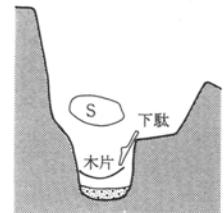
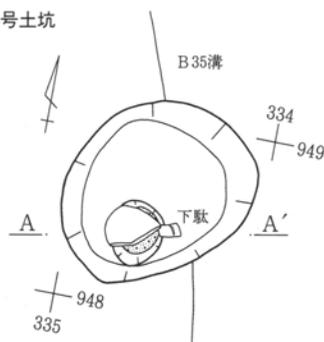
主軸方位 N-50° -E 面積 0.75m<sup>2</sup>

掘り方 上端から下端までほぼ垂直に落ち込むが、上端から深さ60cmほどに中段がある。

出土遺物 土師器坏1、須恵器不明1、陶器碗1、鉢2、石製品1、下駄1

所見 中段部分に長径30cm弱の大型の礫があり、その下から下駄などが出土した。最低部には小石が敷き詰められていた。性格は不明。

B86号土坑

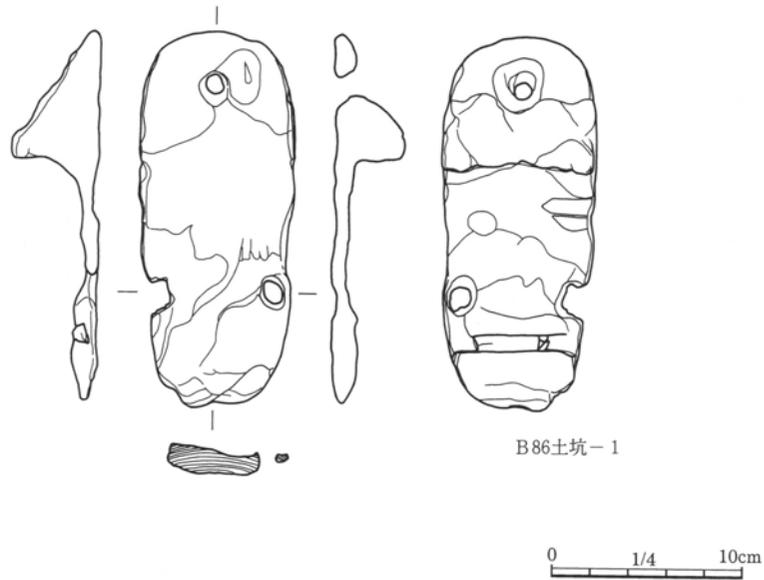


L = 76.90m

小石集中箇所

0 1/40 1m

第119図 B76、B85、B86号土坑



第120図 B86号土坑出土遺物

B86号土坑出土遺物観察表

遺物No.	写真頁	種類	器種	残存状態	出土位置	量目 (cm・g)				特徴
						長さ	幅	厚さ	重量	
1	38	木器	下駄	ほぼ完形	覆土	19.7	8.2	4.7~0.7	216.8	前壺0.9×1.0 左横緒穴(1.5) 右横緒穴1.0×1.4

B87号土坑 写真図版 23・38

位置 933~934-327~329 Gr

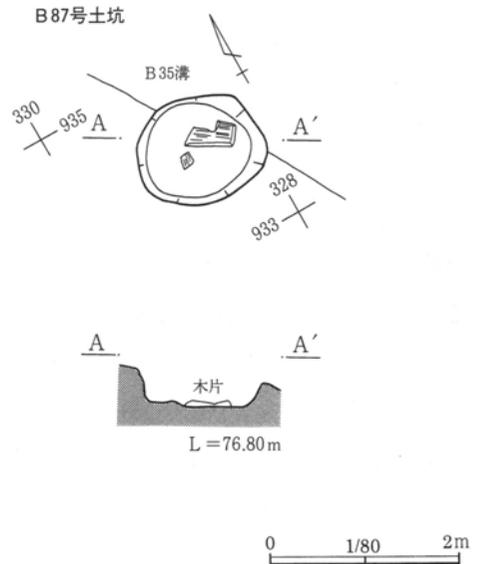
平面形態 楕円形

規模 長径1.40m 短径1.08m 深さ 34cm

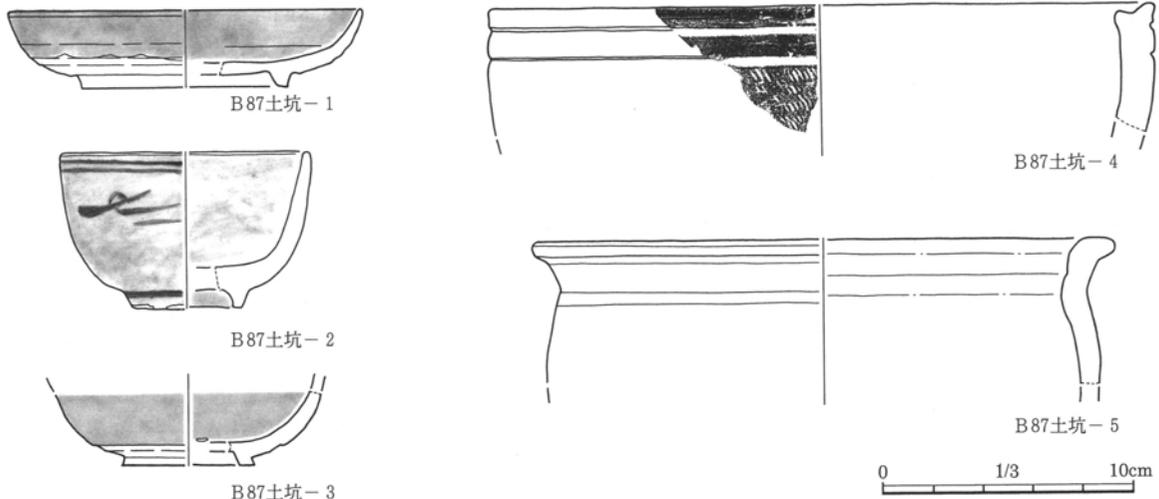
主軸方位 N-27° -E 面積 1.27m<sup>2</sup>

掘り方 上端から下端まではほぼ垂直に落ち込む。底部は平坦。

出土遺物 土師器甕5、須恵器坏1、甕2、軟質陶器鍋16、甕1、その他2、陶器碗4、皿1、甕2、壺1、鉢2、その他2、磁器碗2、砥石1、木片  
 所見 B35号溝の肩にある。底部より板状に加工されていると思われる木片が出土しているが詳細は不明。覆土は不明。



第121図 B87号土坑



第122図 B87号土坑出土遺物

B87号土坑出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調外④色調内	成・整形技法の特徴
1 38	①陶器 ②皿 ③口辺部～底部1/5	覆土	口-(14.0) 底-(8.0) 高-3.0	①中 夾雑鉱物粒を少量含む ②還元焰良好 ③胎土浅黄2.5Y7/3 釉白灰10Y7/2	内面全面 外面口縁部に灰釉 内面底部に鉄絵の具による型紙刷 生産地・瀬戸、美濃 年代・18C
2 38	①陶器 ②碗 ③口辺部～底部1/4	覆土	口-(5.0) 底-(4.4) 高-6.1	①粗 夾雑鉱物粒を含む ②還元焰良好 ③灰N5/0	外面染付 内面無文 貫入がわずかに入る高台一部が露胎 陶胎染付 生産地・肥前 年代・18C前～中
3 38	①陶器 ②碗 ③底部～体部片	覆土	口-(5.0) 底-(4.9) 高-(4.9)	①細 夾雑鉱物粒を少量含む ②還元焰良好 ③オリーブ黄5 Y6/4 胎土浅黄2.5Y7/3 ④釉内明黄褐2.5Y6/6	内面全面 外面底部体部最下半以外透明釉 内面目跡1残存 高台接地部けずり調整 生産地・不詳 年代・江戸時代
4 38	①軟質陶器 ②不詳 ③口辺部片	覆土	口-(26.6) 底- 高-(4.8)	①細 夾雑鉱物粒を少量含む ②還元焰不良 ③灰白5 Y7/1	ロクロ調整 外面沈線2本 外面回転施文
5 38	①軟質陶器 ②甕 ③口辺部片	覆土	口-(23.0) 底- 高-(5.8)	①中 粗砂、パミス、褐色鉱物粒を含む ②酸化焰良好 ③にぶい橙7.5YR7/3	ロクロ調整

B88号土坑 写真図版 23

位置 957～958-323～324 Gr

平面形態 円形

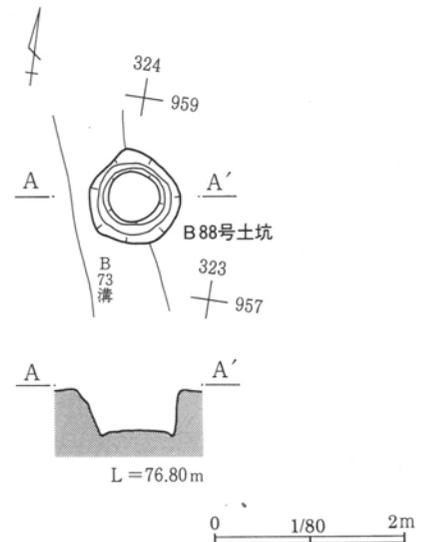
規模 長径1.00m 短径0.96m 深さ 46cm

主軸方位 N-8° -W 面積 0.74m<sup>2</sup>

掘り方 上端から下端までほぼ垂直に落ち込む。深さ4cm、幅8cmのさらに深い落ち込みが底部周辺を一周する。

出土遺物 なし

所見 覆土は不明。B73号溝と重複するが新旧は不明。桶状のものがあつた掘り方と考えられる。



第123図 B88号土坑

B90号土坑

位置 953~956-289~291 Gr

平面形態 隅丸長方形

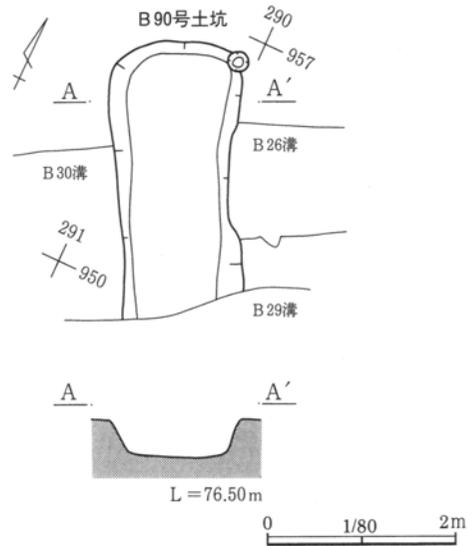
規模 長径2.84m 短径1.40m 深さ 39cm

主軸方位 N-25° -W 面積 3.53m<sup>2</sup>

掘り方 上端から下端まで漸次的になだらかに落ち込む。

出土遺物 自然礫3

所見 覆土は不明。B26、B29、B30号溝と重複する。



第124図 B90号土坑

(5) 井戸跡

A1号井戸 写真図版 24・38

位置 944~946-366~368 Gr

平面形態 円形

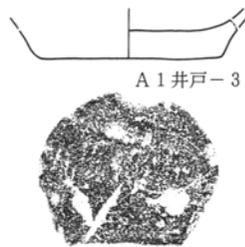
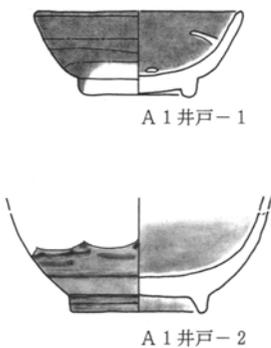
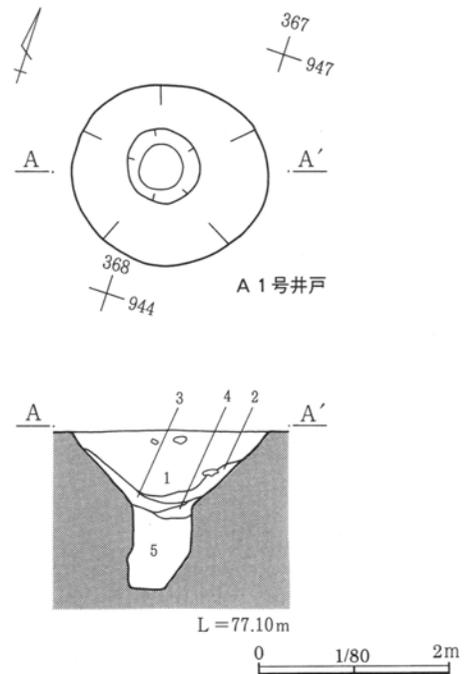
規模 長径2.10m 短径1.90m 深さ 168cm

主軸方位 N-0° 面積 3.13m<sup>2</sup>

掘り方 上端から80cmまで位の深さまでが朝顔状に大きく広がる。その下はほぼ垂直に落ち込むが、底面付近はやや西方に掘り込まれている。

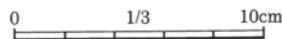
出土遺物 土師質土器皿1、陶器碗2

所見 覆土の入り方を見ると2段階に時期を分けて埋められたことが分かる。深さが168cmまで調査されたが、このレベルでは現在の地下水に届いていない。この井戸はより深く掘り込まれていた可能性も想定できる。



A1号井戸土層注記

1. 黒褐 (10YR3/2) 黒褐の塊を含む。白色粒、炭化物少含。鉄分沈着少量有。粘性弱・しまり強。
2. 黒褐 (10YR3/1) 黒褐の塊を少含。鉄分沈着がやや多量に有。
3. 褐灰 (10YR4/1) 2層を少含。粘性強・しまり強。
4. 黒褐 (10YR3/2) 砂質土。鉄分沈着多量に有。粘性中・しまり強。
5. 黒褐 (10YR3/1) 砂質土。鉄分沈着が少量有。粘性中・しまり強。



125図 A1号井戸および出土遺物

A1号井戸出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
1 38	①陶器 ②碗 ③口辺部~底部3/4	覆土	口-(8.0) 底-4.5 高-3.2	①中 夾雑鉍物粒を含む ②還元焰 良好 ③灰白5Y8/2	内面全面 外面底部部最下半以外鉄釉 内面目跡3残存 生産地・瀬戸、美濃
2 38	①陶器 ②碗 ③3/5	覆土	口- 底-5.3 高-(3.8)	①細 夾雑鉍物粒をわずかに含む ②還元焰 良好 ③灰白10Y7/1	外面染付 貫入が著しい 内面無文 陶胎染付 生産地・肥前 年代・18C前~中
3 38	①土師質土器 ②皿 ③底部片	覆土	口- 底-7.6 高-(1.0)	①中 細砂~礫パミスを含む ②酸化焰 普通 ③橙5YR6/6	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整 摩滅が著しい

A2号井戸 写真図版 23

位置 943~944-372~373 Gr

平面形態 円形

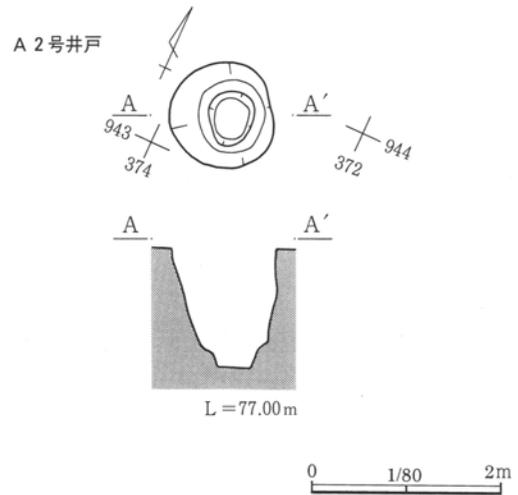
規模 長径1.1m 短径1.1m 深さ 128cm

主軸方位 N-0° 面積 0.99m<sup>2</sup>

掘り方 上端から下端までほぼ垂直に落ち込む。底面から20cmくらいの高さまでが、一回り径を小さくして落ち込んでいる。

出土遺物 なし

所見 深さが128cmまで調査されたが、このレベルでは現在の地下水に届いていない。この井戸はより深く掘り込まれていた可能性も想定できる。



B2号井戸 写真図版 24・38

位置 977~979-315~317 Gr

平面形態 円形

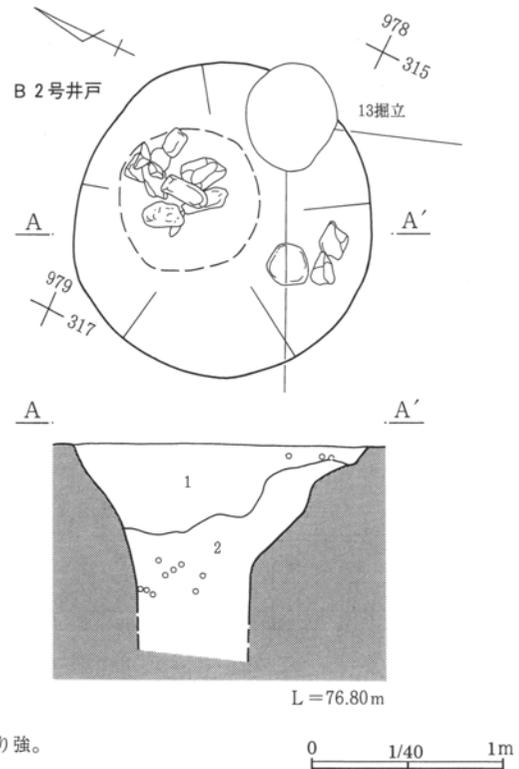
規模 長径1.67m 短径1.57m 深さ 98+cm

主軸方位 N-68° -E 面積 2.06m<sup>2</sup>

掘り方 上端より深さ70cmくらいまでが朝顔状に広がるが、そこより下はほぼ垂直に落ち込む。98cmより下は未調査。

出土遺物 古式土師器台付甕1、土師器坏2、須恵器2、磁器碗1、自然礫8

所見 13号掘立柱建物の3号ピットが重複している。覆土を見ると自然礫の入り方などから人為的に埋め戻されたと考えられる。



B2号井戸土層注記

1. 黒褐(10YR2/3) 黄褐粒少含。白粒含む。炭化物少含。鉄分沈着が少量有。粘性弱・しまり強。
2. 黒褐(10YR2/3) やや砂質。黄褐粒・白粒少含。粘性やや強・しまりやや強。

第126図 A2、B2号井戸



第127図 B 2号井戸出土遺物

B 2号井戸出土遺物観察表

遺物No 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
1 38	①磁器 ②小碗 ③口辺部～体部片	覆土	口-(7.2) 底- 高-(3.9)	①細 夾雑鉱物粒をわずかに含む ②還元 元焰 良好 ③胎土灰白10Y8/1	外面陰刻後染付草花文 内面無文 生産 地・肥前? 年代・19C中
2 38	①古式土師器 ②台付甕 ③脚台部片	覆土	口- 底- 高-(3.9)	①中 細砂、粗砂、パミスを含む ②酸化 元焰 普通 ③褐灰10YR5/1	外面脚台部刷毛目 内面ナデ

B 3号井戸 写真図版 24・38

位置 951～953-312～314 Gr

平面形態 円形

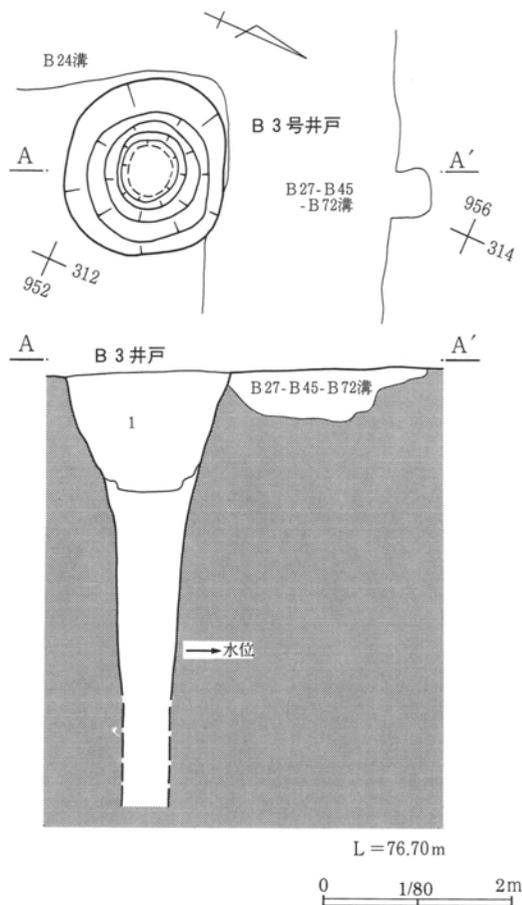
規模 長径1.94m 短径1.72m 深さ 340+cm

主軸方位 N-72° -W 面積 2.64m<sup>2</sup>

掘り方 上端から150cmほどは徐々に広がり、弱い朝顔状を呈する。その下はほぼ垂直に落ち込み、390cmより下は未確認であるが、さらに深く掘り込まれている。

出土遺物 土師器坏2、甕8、須恵器坏1、甕3、軟質陶器鍋5、内耳鍋1、陶器急須1、土製人形1、自然礫4

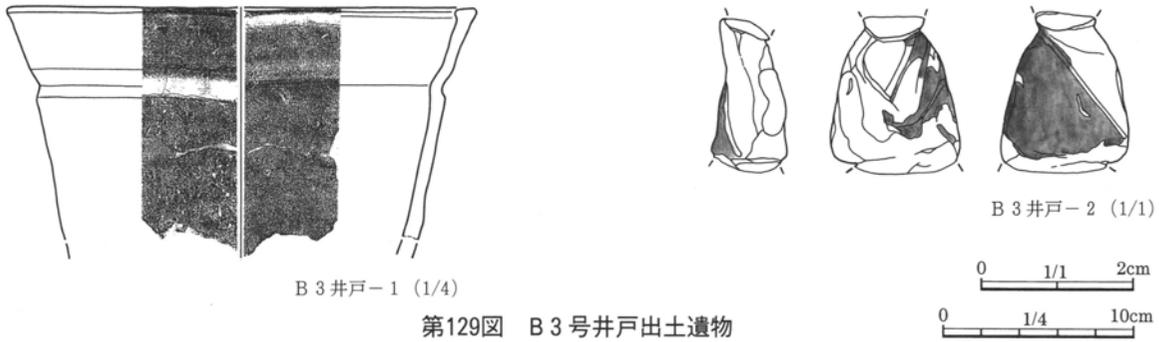
所見 B27-B45-B72号溝と重複する。水位は上端から340cmで確認されている。覆土は不明。



B 3号井戸土層注記

1. 黒褐 (10YR2/3) 黒褐大塊を含む。白粒含む。粘性中・しまり強。

第128図 B 3号井戸



第129図 B3号井戸出土遺物

B3号井戸出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)				①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
			長さ	幅	高さ	重量		
1 38	①軟質陶器 ②内耳鍋? ③口辺部片	覆土	口-(25.0) 底- 高-(12.2)				①中 夾雑鉱物粒を少量含む ②還元焰 良好 ③黒5 Y2/1	ロクロ調整 外面胴部ナデ 口縁部横ナデ 内面横ナデ 年代・中世
遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm・g)				①焼成②色調	特 徴
			長さ	幅	高さ	重量		
2 38	①土製品 ②人形 ③頭部、台座部欠	覆土	{2.1}	1.7	1.0	3.4	①酸化焰 良好 ②橙2.5 YR6/6 衣灰白5 GY8/1	前後型合わせ 底部有中実 穿孔 無僧座像? 袈裟の形は板状物の縁を押しあて成形 着色は胡粉か

B4号井戸 写真図版 24

位置 981-294 Gr

平面形態 円形

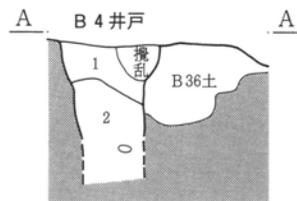
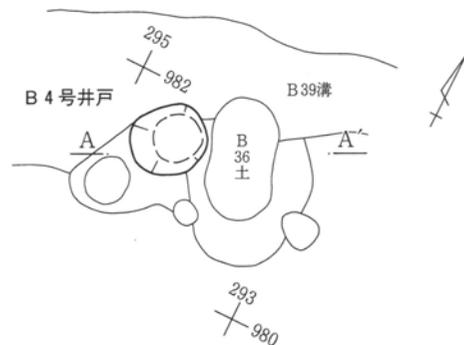
規模 長径0.84m 短径0.66m 深さ 128+cm

主軸方位 N-28° -E 面積 0.50m<sup>2</sup>

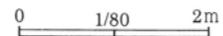
掘り方 上端から45cmほどは徐々に広がり朝顔状を呈する。その下はほぼ垂直に落ち込むが、深さ128cmより下は未調査。

出土遺物 土師器坏1、甕3、台付甕1、須恵器坏1、軟質陶器鍋1

所見 B36号土坑、B39号溝と重複する。埋土を見ると短期間に埋もれたことが観察される。



L=76.60m



B4号井戸土層注記

1. 黒褐(10YR3/2) 褐粘質粒、炭化物少含。粘性やや強・しまり強。
2. 黒褐(10YR2/2) やや砂質。黄褐粒・白粒少量。粘性強・しまり強。

第130図 B4号井戸

B5号井戸 写真図版 25

位置 967~968-317~318 Gr

平面形態 円形

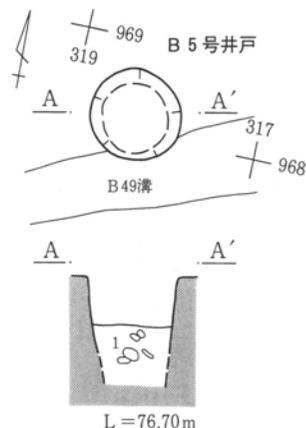
規模 長径0.86m 短径0.85m 深さ 92+cm

主軸方位 N-10° -W 面積 0.74m<sup>2</sup>

掘り方 上端から確認されている92cmまではほぼ垂直に落ち込む。

出土遺物 土師器甕4、須恵器坏2、自然礫5

所見 B49号溝と重複する。上端から60~90cmに礫が集中して出土している。



B5号井戸土層注記

1. 褐灰 粘質土。橙粘土の大塊、砂礫少含。鉄分沈着多量に有。

B6号井戸 写真図版 25・38

位置 936-284~285 Gr

平面形態 円形

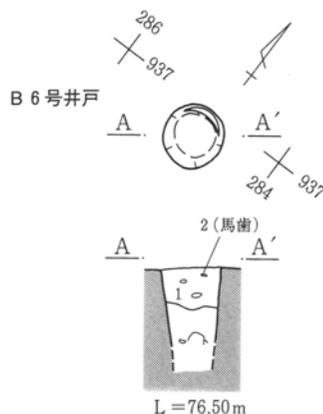
規模 長径0.66m 短径0.63m 深さ 84+cm

主軸方位 N-18° -W 面積 0.34m<sup>2</sup>

掘り方 上端から確認された深さまではほぼ垂直に落ち込む。

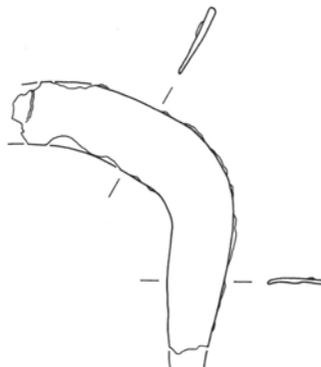
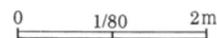
出土遺物 金属器不明1、馬歯2

所見 深さが84cmまで調査されたが、このレベルでは現在の地下水に届いていない。この井戸はより深く掘り込まれていたと考えられるが、発掘調査はこの深さまでとなった。出土した馬歯については、第四章第2節にて報告する。

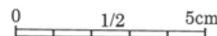


B6号井戸土層注記

1. 黒褐 砂質土。灰白粘質土の大塊を少含。



B6井戸-1



第131図 B5、B6号井戸および出土遺物

B6号井戸出土遺物観察表

遺物No.	写真頁	種類	器種	残存状態	出土位置	量目 (cm・g)				特徴
						長さ	幅	厚さ	重量	
1	38	金属器	不明	破片	不明	〈8.0〉	1.9	0.2	12.7	

B7号井戸 写真図版 25

位置 937~938-293 Gr

平面形態 円形

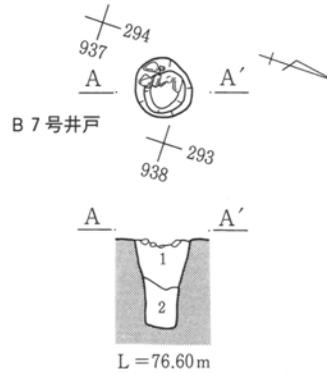
規模 長径0.66m 短径0.60m 深さ 98cm

主軸方位 N-26° -E 面積 0.30m<sup>2</sup>

掘り方 上端から確認された深さまでほぼ垂直に落ち込む。

出土遺物 自然礫6

所見 深さが98cmまで調査されたが、このレベルでは現在の地下水に届いていない。この井戸はより深く掘り込まれていた可能性も想定できる。



B7号井戸土層注記

1. 暗褐 (10YR3/3) 黒粘質土と灰白粘質土を少含。
2. 暗褐 (10YR3/3)

B11号井戸 写真図版 25

位置 958~959-298~299 Gr

平面形態 円形

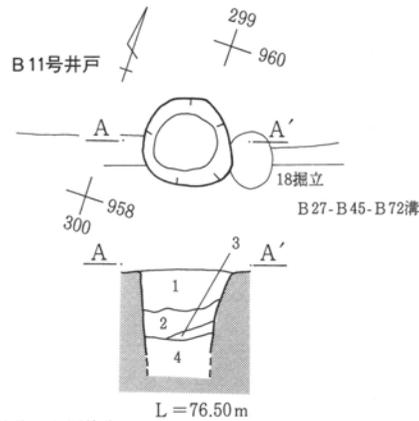
規模 長径1.00m 短径0.92m 深さ 96+cm

主軸方位 N-69° -W 面積 0.76m<sup>2</sup>

掘り方 上端から確認された深さまでほぼ垂直に落ち込む。

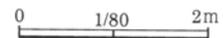
出土遺物 なし

所見 18号掘立の2号ピットと重複している。深さが96cmまで調査されたが、このレベルでは現在の地下水に届いていない。この井戸はより深く掘り込まれていたと考えられるが、発掘調査はこの深さまでとなった。



B11号井戸土層注記

1. 明褐灰 白粒子、黄橙粒を僅含、鉄分沈着少量有。
2. 褐灰 灰白粘質土の大塊、白粒子少含、鉄分沈着少量有。
3. 褐灰 粘質土。
4. 褐灰 粘質土。褐粘質土の大塊を少含。



第132図 B7、B11号井戸

(6) 土坑墓

B1号土坑墓 写真図版 25・38

位置 947~949-310~312 Gr

重複 古いB31号溝

平面形態 長方形

規模 長軸0.94m 短軸0.57m 深さ 10cm

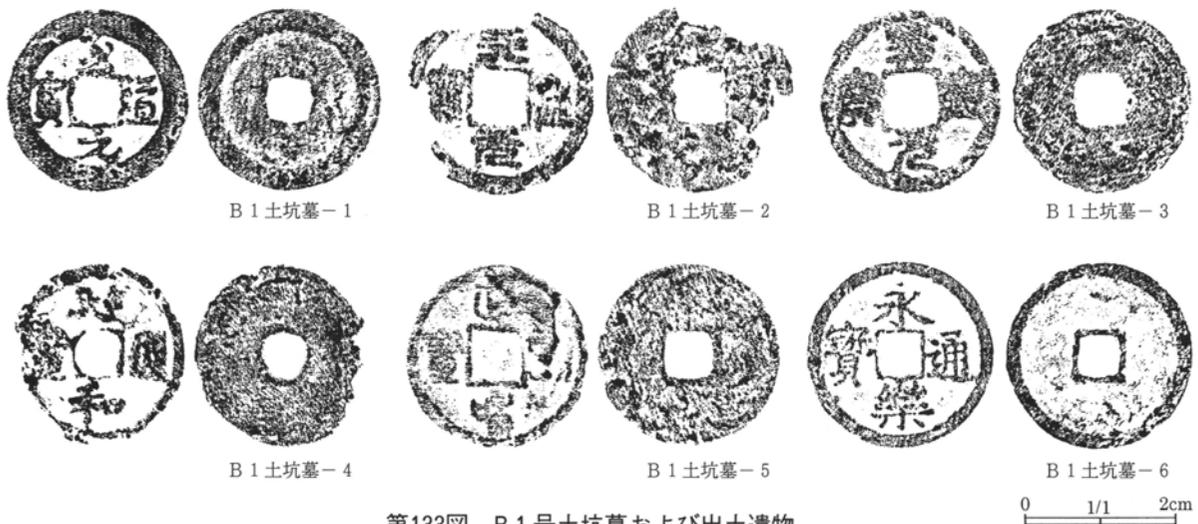
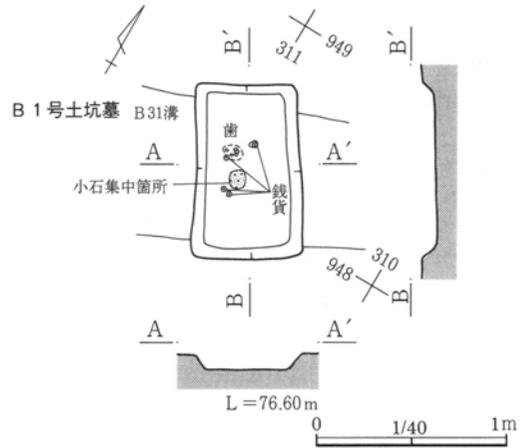
主軸方位 N-0° 面積 3.13m<sup>2</sup>

出土遺物 人歯、銭貨9、小石9

所見 重複するB31号溝の直上に作られている。現存する深さは10cmしかないが、作られた当時の深さはより深かったことが想定される。榑崎氏の鑑定により、3歳男児が埋葬されていたことが確認された。銭貨9点は遺構中心部よりではあるが、やや散在している。一部には織物の圧痕が確認できたが、この織物は、埋葬当時何だったかを判断できるものでは

第三章 遺構と遺物

はなかった。また、小石9点が1ヶ所に集中して確認された。重さ12.2~41.8gで、石材は頁岩6、溶結凝灰岩1、粗粒輝石安山岩1、珪質頁岩1、であり、すべてが摩滅が進んだ川原石である。埋葬時に一緒に納められたものであるが、玩具として生前使用していたものなのか、あるいは供養にかかわる遺物なのか性格は明らかではない。人骨の詳細については第四章第1節に記載する。



第133図 B1号土坑墓および出土遺物

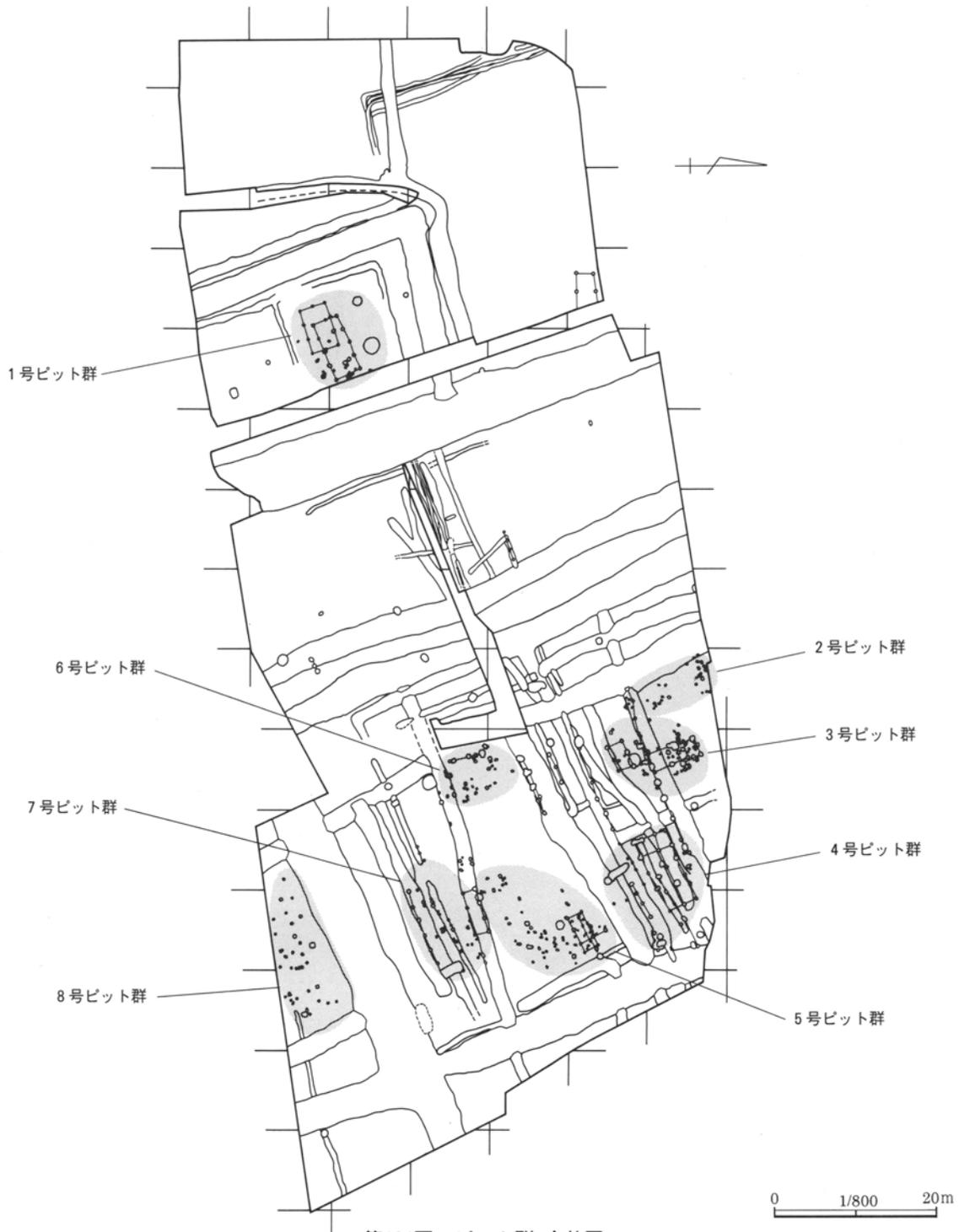
B1号土坑墓出土遺物

遺物No	写真頁	種類	残存状態	銭貨名	国名	初鑄年	量目 (cm・g)				出土位置
							外径	孔径	厚さ	重量	
1	38	銭貨	完形	至道元寶	北宋	995年	2.4	0.6	0.2	2.6	覆土
2	38	銭貨	一部欠	天聖元寶	北宋	1023年	2.4	0.7	0.1	3.4	覆土
3	38	銭貨	完形	熙寧元寶	北宋	1068年	2.4	0.6	0.1	3.0	覆土
4	38	銭貨	完形	政和通寶	北宋	1111年	2.6	0.7	0.1	2.5	覆土
5	38	銭貨	完形	政和通寶	北宋	1111年	2.5	0.6	0.1	2.5	覆土
6	38	銭貨	完形	永樂通寶	明	1408年	2.4	0.7	0.1	3.2	覆土

(7) ピット群

本遺跡では発掘調査時に多数のピットが確認された。整理作業の中でこれらの中から規則的に並ぶものに関しては、掘立柱建物や柵列を想定した。しかし、それ以外でもまだ多数のピットが確認されてい

る。これらは不規則ではあるがおおよそ空間的なまとまりをもっているので、8つの群に便宜的に分け掲載する。ある特定の機能を持つがゆえにまとめて報告するものではない。



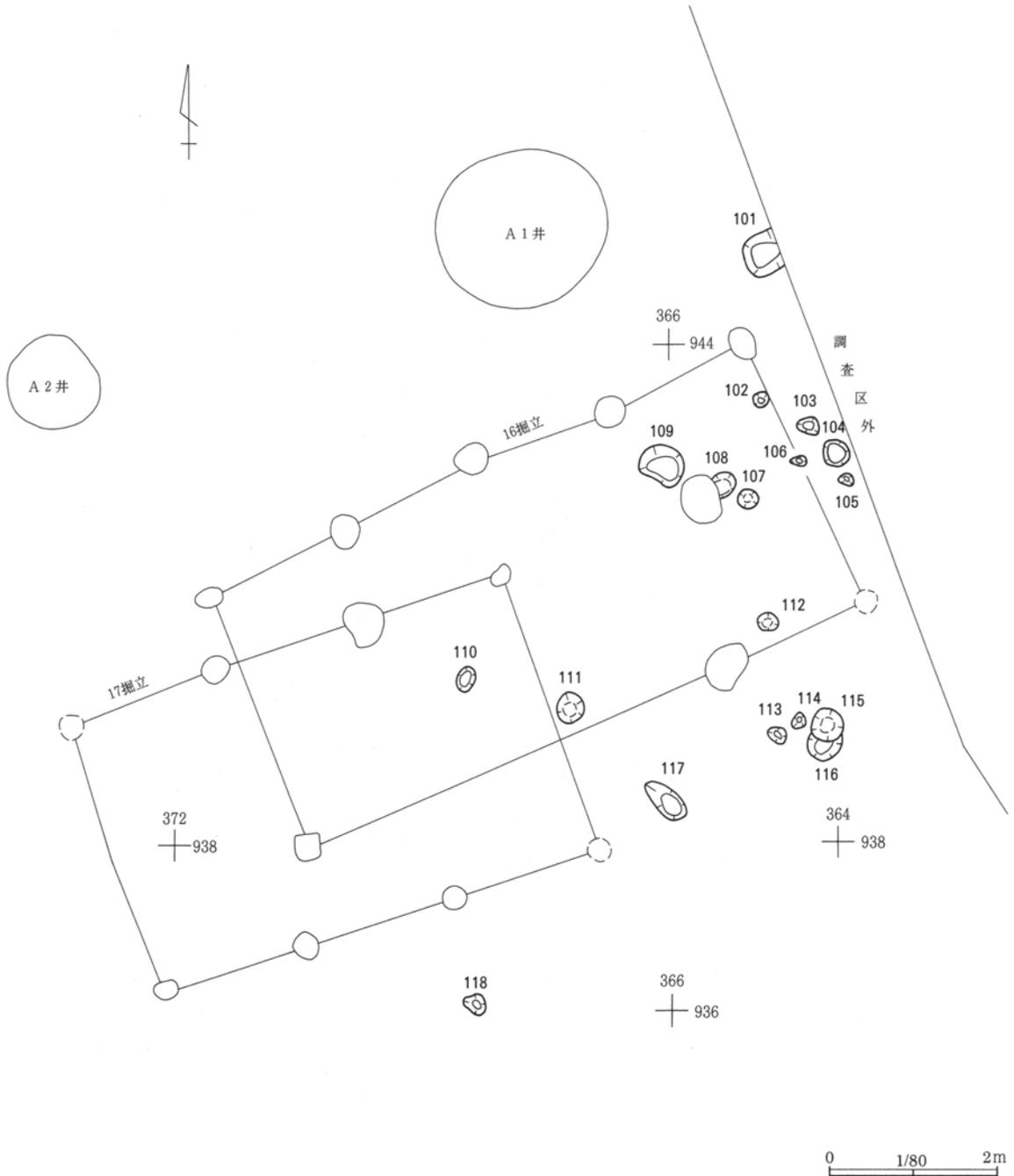
第134図 ピット群 全体図

1号ピット群

位置 935~945-363~368 Gr

所見 16号、17号掘立柱建物跡周辺に広がる。16号、17号掘立は発掘調査中には確認できなかった遺構で、整理作業中に規則的に並ぶピットを掘立柱建物跡として認定したものである。このピット群では発掘調

査時には確認されたが、さらにこの掘立柱建物跡に付随する遺構である可能性も考えられるものの、規則的に並ぶようには見えないため、ピット群とした。よってこのピット群は一つの機能を持った遺構とは想定出来ない。



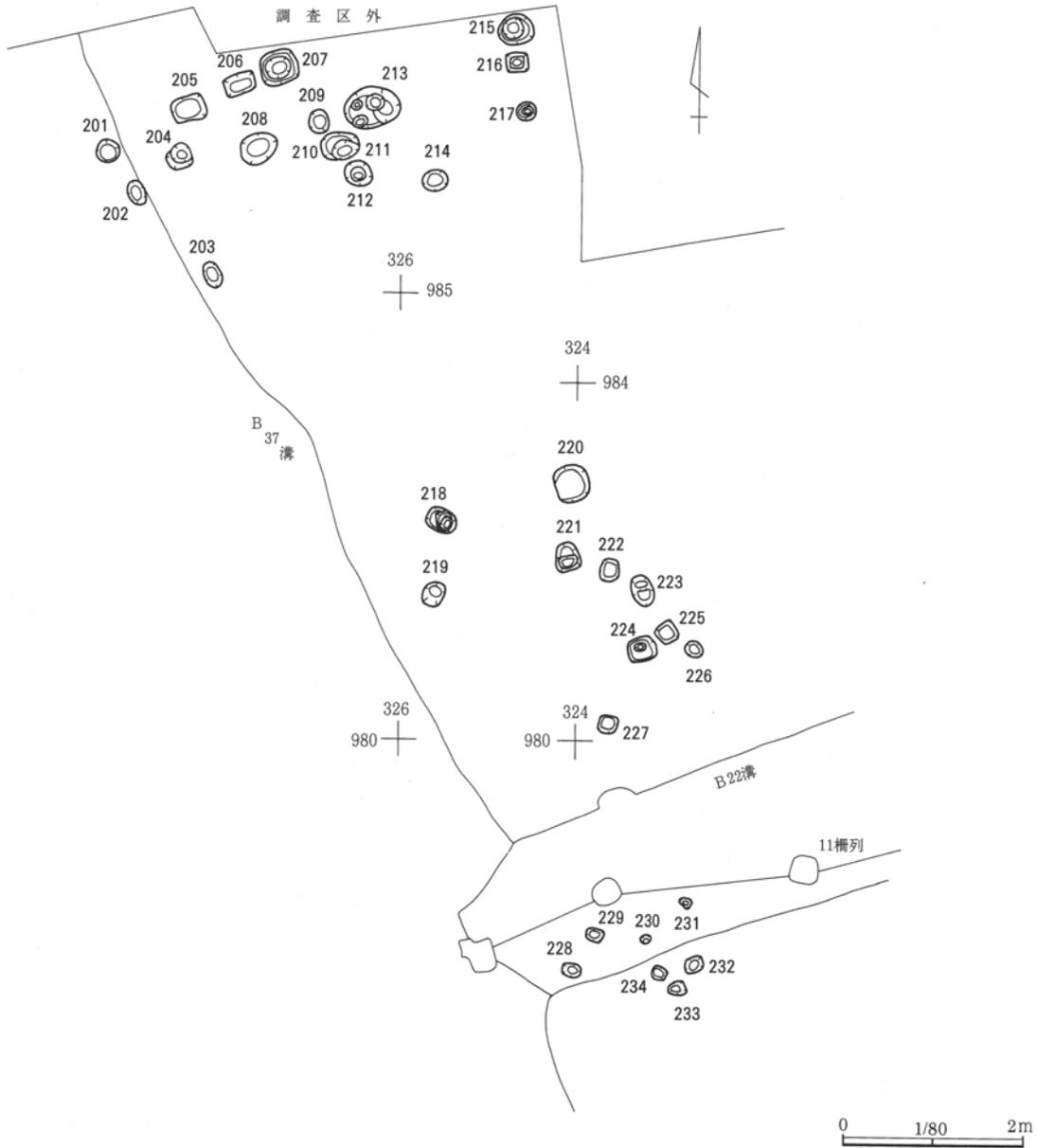
第135図 1号ピット群

2号ピット群

位置 977～988-322～329 Gr

所見 B37号溝の左岸に位置している。一つのピット群として掲載したが、細かくはさらに三つの群を形成している。それぞれ201～217号、218～227号、228～233号ピットによって構成されている。228～233号ピットは11号柵列周辺に広がる。11号柵列

跡は発掘調査中には確認できなかった遺構で、整理作業中に規則的に並ぶピットを柵列跡として認定したものである。このピット群がさらにこの柵列跡に付随する遺構である可能性も考えられるものの、規則的に並ぶようには見えないため、ピット群とした。よってこのピット群は一つの機能を持った遺構とは想定出来ない。



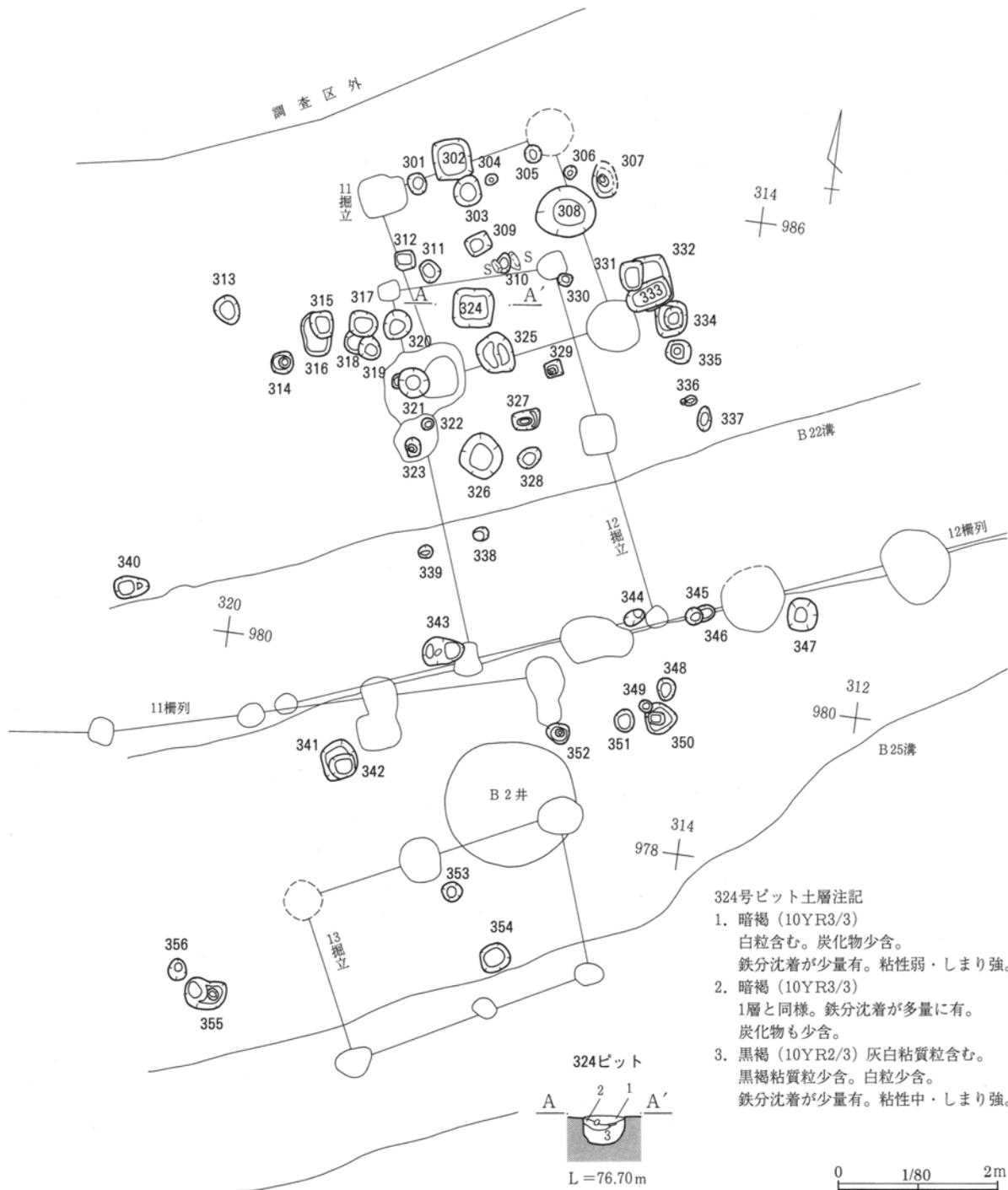
第136図 2号ピット群

3号ピット群

位置 975~986-312~321 Gr

所見 B22号溝周辺に位置している。一つのピット群として掲載したが、細かくはさらに二つの群を形成している。301~337号、341~352号ピットによって構成される。11号、12号、13号掘立柱建物、11号、12号柵列は発掘調査中には確認できなかった遺構で、

整理作業中に規則的に並ぶピットを掘立柱建物跡、柵列跡として認定したものである。このピット群では発掘調査時には確認されたが、さらにこの掘立柱建物跡、柵列跡に付随する遺構である可能性も考えられるものの、規則的に並ぶようには見えないため、ピット群とした。よってこのピット群は一つの機能を持った遺構とは想定出来ない。



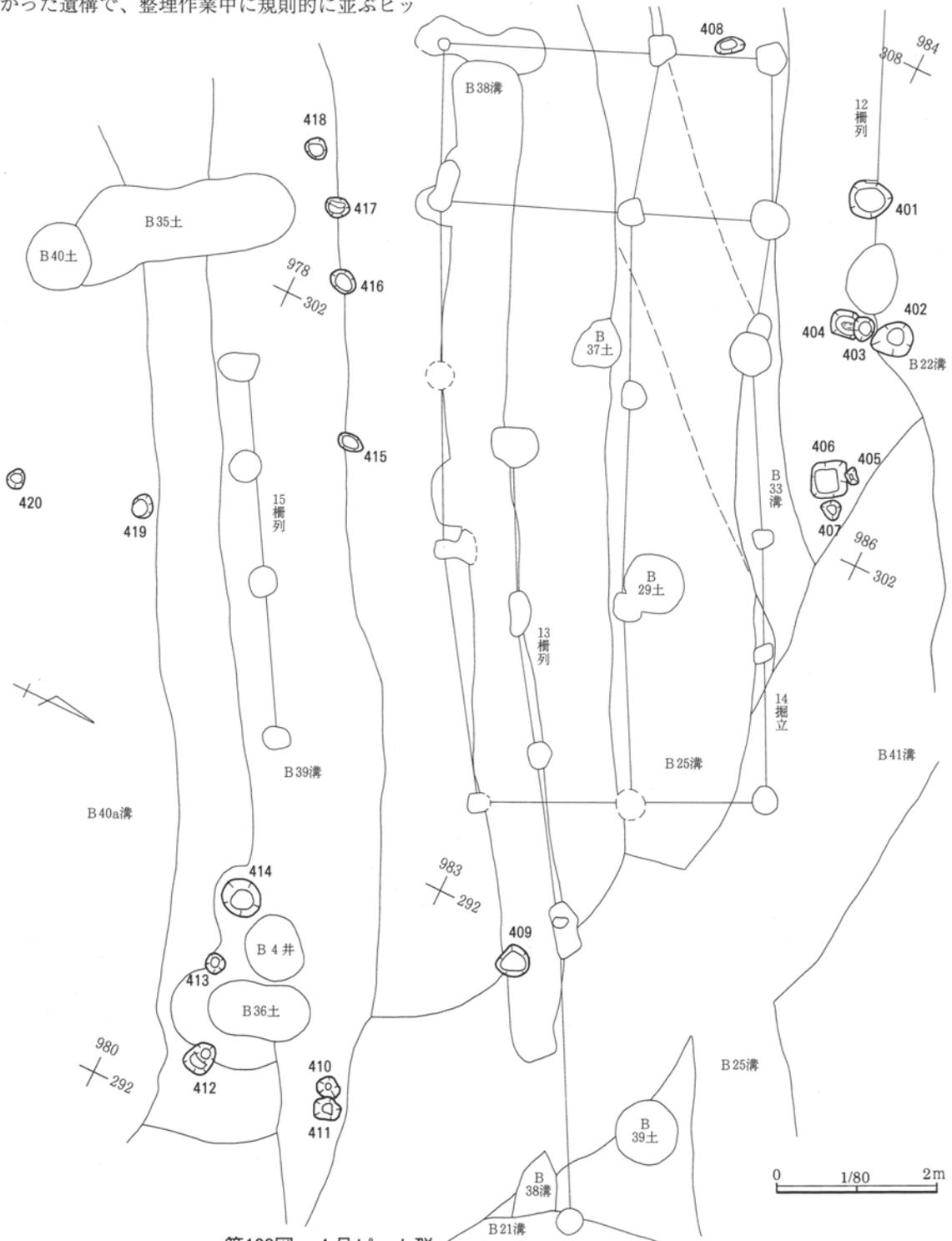
第137図 3号ピット群

4号ピット群

位置 975～985-292～307 Gr

所見 14号掘立柱建物周辺に位置している。一つのピット群として掲載したが、401～407号ピットが集中しているだけで、他のピットは散在している。14号掘立、12、13、15号柵列は発掘調査中には確認できなかった遺構で、整理作業中に規則的に並ぶピット

トを掘立柱建物跡、柵列跡として認定したものである。このピット群では発掘調査時には確認されたが、さらにこの掘立柱建物跡、柵列跡に付随する遺構である可能性も考えられるものの、規則的に並ぶようには見えないため、ピット群とした。よってこのピット群は一つの機能を持った遺構とは想定出来ない。



第138図 4号ピット群

5号ピット群 写真図版 38

位置 958~974-290~302 Gr

所見 15号掘立柱建物周辺に位置している。一つのピット群として掲載したが、まとまりを構成しているわけではない。ただし、南東方向にやや弧を描く様相を呈している。15号掘立、18号柵列は発掘調査中には確認できなかった遺構で、整理作業中に規則的に並ぶピットを掘立柱建物跡、柵列跡として認定したものである。このピット群では発掘調査時には確認されたが、さらにこの掘立柱建物跡、柵列跡

に付随する遺構である可能性も考えられるものの、規則的に並ぶようには見えないため、ピット群とした。よってこのピット群は一つの機能を持った遺構とは想定出来ない。



第139図 5号ピット群および出土遺物

551号ピット出土遺物

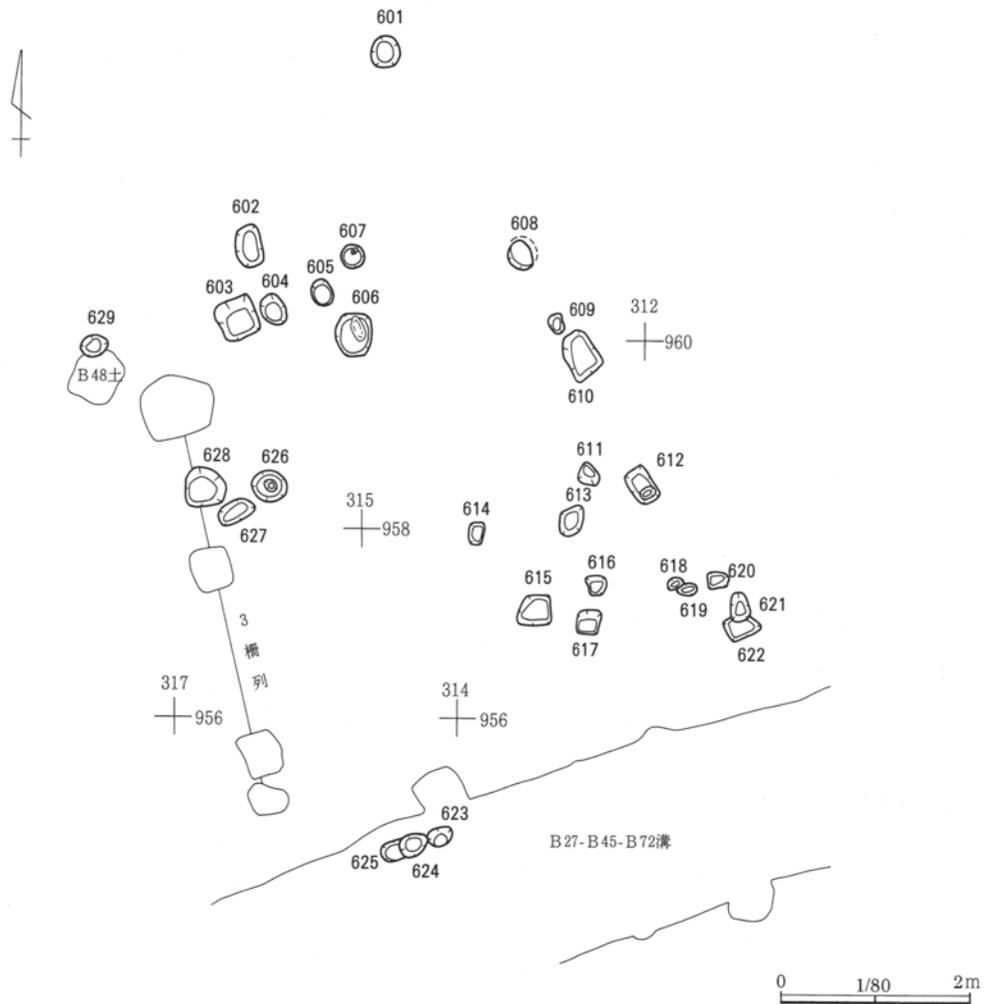
遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
1 38	①須恵器 ②坏 ③底部片	覆土	口— 底—(6.0) 高—(0.7)	①細 細砂をわずかに含む ②還元焰 普通 ③灰白7.5YR7/1	ロクロ調整(右) 底部回転斲切り

6号ピット群

位置 954~963-310~317 Gr

所見 3号柵列東側に位置している。ピットによつては平面形が方形のものもあり、柱穴と考えられる

ものも含まれているが、掘立柱建物跡や柵列跡を想定することは出来なかった。このピット群は一つの機能を持った遺構とは想定出来ない。



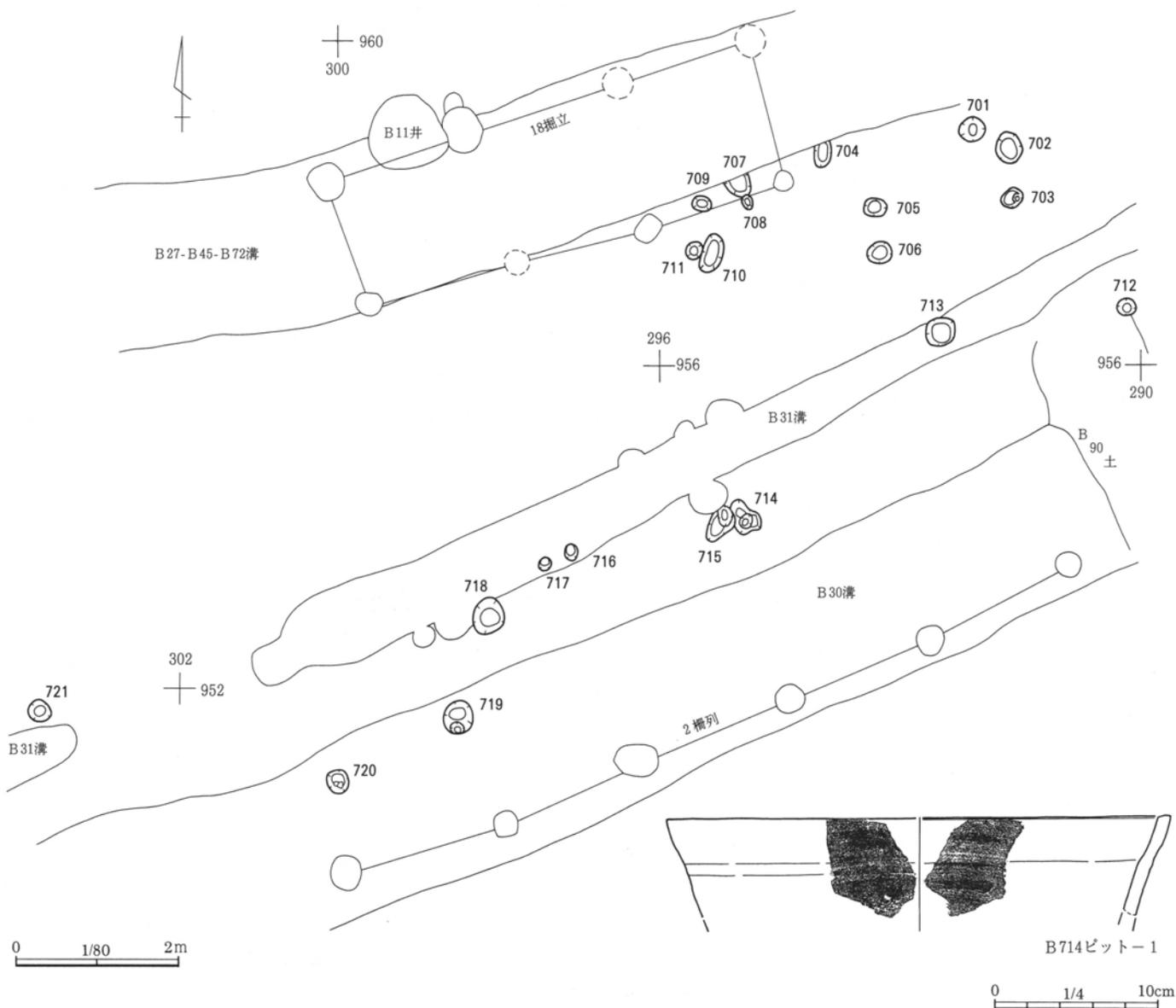
第140図 6号ピット群

7号ピット群 写真図版 38

位置 950~959-290~303 Gr

所見 B27-B45-B72号、B30号溝の間に位置している。一つのピット群として掲載したが、全体的に散在している。18号掘立柱建物、2号柵列は発掘調査時には確認できなかった遺構で、整理作業中に規則的に並ぶピットを掘立柱建物跡、柵列跡として認定

したものである。このピット群では発掘調査時には確認されたが、さらにこの掘立柱建物跡、柵列跡に付随する遺構である可能性も考えられるものの、規則的に並ぶようには見えないため、ピット群とした。よってこのピット群は一つの機能を持った遺構とは想定出来ない。



第141図 7号ピット群および出土遺物

714号ピット出土遺物

遺物No 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
1 38	①軟質陶器 ②内耳鍋? ③口辺部片	覆土	口-(15.7) 底- 高-(6.2)	①中 夾雜鉱物粒を少量含む 良好 ③暗青灰 5 PB4/1	ロクロ調整 年代・中世

8号ピット群

位置 932~941-284~301 Gr

所見 B20号溝南に位置している。整理作業中においても、掘立柱建物跡や柵列跡と確認できる規則的に並ぶピットは確認できなかった。しかし、これだけ多量のピットが一ヶ所から確認されており、また、B6号、B7号井戸が周辺から確認されていることから、何かしらの複数のピットによって構成される遺構が存在している可能性は高い。



第142図 8号ピット群

第Ⅲ章 遺構と遺物

1号ピット群 計測表

遺構名	発掘時遺構名	位置	重複	長径(cm)	短径(cm)	底面標高(m)
101号ピット	なし	944~945-364~365 Gr	なし	50	(44)	76.97
102号ピット	なし	943-364 Gr	なし	21	19	77.11
103号ピット	なし	942~943-364 Gr	なし	28	22	77.10
104号ピット	なし	942-363~364 Gr	なし	36	32	77.09
105号ピット	なし	942-363 Gr	なし	19	14	77.09
106号ピット	なし	942-364 Gr	なし	22	12	77.10
107号ピット	13号ピット	942-364~365 Gr	なし	28	24	76.63
108号ピット	12号ピット	942-365 Gr	A5土坑	30	(26)	76.56
109号ピット	なし	942-365~366 Gr	なし	56	46	77.06
110号ピット	なし	939~940-368 Gr	なし	32	24	77.06
111号ピット	17号ピット	939- 367Gr	なし	38	34	76.53
112号ピット	18号ピット	940-364 Gr	なし	26	23	76.90
113号ピット	なし	939-364 Gr	なし	26	20	77.11
114号ピット	なし	939-364 Gr	なし	20	14	77.08
115号ピット	7号ピット	939-363~364 Gr	116号ピット	42	39	76.42
116号ピット	なし	939-363~364 Gr	115号ピット	40	(22)	77.08
117号ピット	6号ピット	938-365~366 Gr	なし	62	30	76.57
118号ピット	なし	935~936-368 Gr	なし	30	20	76.93

2号ピット群 計測表

遺構名	発掘時遺構名	位置	重複	長径(cm)	短径(cm)	底面標高(m)
201号ピット	251号ピット	986-329 Gr	B37溝	27	24	75.98
202号ピット	245号ピット	985~986-328~329 Gr	B37溝	28	21	76.50
203号ピット	なし	985-328 Gr	なし	28	19	76.45
204号ピット	232号ピット	986-328 Gr	なし	34	26	76.35
205号ピット	233号ピット	986~987-328 Gr	なし	37	27	76.20
206号ピット	234号ピット	987-327 Gr	なし	35	24	76.25
207号ピット	235号ピット	987-327 Gr	なし	42	38	76.13
208号ピット	236号ピット	986-327 Gr	なし	42	34	-
209号ピット	237号ピット	986~987-326~327 Gr	なし	26	23	76.55
210号ピット	239号ピット	986-326 Gr	211号ピット	43	39	76.64
211号ピット	なし	986-326 Gr	210号ピット	32	21	76.08
212号ピット	240号ピット	986-326 Gr	なし	32	28	76.25
213号ピット	238号ピット	986~987-326 Gr	なし	62	46	76.27
214号ピット	241号ピット	986-325 Gr	なし	28	24	76.48
215号ピット	252号ピット	987~988-324 Gr	なし	40	34	76.41
216号ピット	243号ピット	987-324 Gr	なし	26	22	76.21
217号ピット	244号ピット	986~987-324 Gr	なし	23	21	76.23
218号ピット	229号ピット	982-325 Gr	なし	35	26	76.29
219号ピット	230号ピット	981-325 Gr	なし	30	24	76.20
220号ピット	228号ピット	982-323~324 Gr	なし	42	39	76.06
221号ピット	227号ピット	981~982-323~324 Gr	なし	32	38	76.31
222号ピット	226号ピット	981~982-323 Gr	なし	25	22	76.43
223号ピット	225号ピット	981-323 Gr	なし	35	24	76.50
224号ピット	221号ピット	980~981-323 Gr	なし	33	26	76.24
225号ピット	222号ピット	981-322~323 Gr	なし	24	23	76.39
226号ピット	223号ピット	980~981-322 Gr	なし	20	17	76.51
227号ピット	220号ピット	980-323 Gr	なし	21	21	76.51
228号ピット	なし	977-323~324 Gr	B22溝	21	15	76.27
229号ピット	なし	977-323 Gr	B22溝	21	14	76.22
230号ピット	なし	977-323 Gr	B22溝	13	10	76.36
231号ピット	なし	978-322 Gr	B22溝	14	10	76.28
232号ピット	217号ピット	977-322 Gr	なし	20	18	76.29
233号ピット	216号ピット	977-322 Gr	なし	20	16	76.50
234号ピット	218号ピット	977-322~323 Gr	なし	17	13	76.43

3号ピット群 計測表

遺構名	発掘時遺構名	位置	重複	長径(cm)	短径(cm)	底面標高(m)
301号ピット	なし	985~986-318 Gr	なし	27	23	76.10

302号ピット	なし	985~986-317~318 Gr	203号ピット	51	47	76.27
303号ピット	なし	985~986-317 Gr	202号ピット	38	35	76.11
304号ピット	なし	986-317 Gr	なし	16	12	76.37
305号ピット	なし	986-316~317 Gr	なし	23	21	76.27
306号ピット	なし	986-316 Gr	なし	18	15	76.29
307号ピット	なし	986-315~316 Gr	なし	46	(32)	75.70
308号ピット	なし	985~986-316 Gr	なし	75	63	76.27
309号ピット	なし	985-317 Gr	なし	33	25	76.13
310号ピット	なし	984~985-317 Gr	なし	24	17	75.96
311号ピット	なし	984-317~318 Gr	なし	28	23	76.25
312号ピット	なし	984~985-318 Gr	なし	25	24	76.40
313号ピット	104号ピット	983~984-320 Gr	なし	37	31	76.65
314号ピット	103号ピット	983-319 Gr	なし	29	29	76.44
315号ピット	なし	983~984-319 Gr	316号ピット	33	30	76.26
316号ピット	102号ピット	983~984-319 Gr	315号ピット	55	35	76.59
317号ピット	なし	983~984-318 Gr	318.319号ピット	35	31	76.39
318号ピット	なし	983-318 Gr	317.319号ピット	32	(28)	76.51
319号ピット	101号ピット	983-318 Gr	317.318号ピット	29	26	76.38
320号ピット	なし	983~984-318 Gr	なし	40	35	76.30
321号ピット	なし	982~983-317~318 Gr	11掘立P4	38	38	76.00
322号ピット	なし	982-317 Gr	94号ピット	17	15	76.20
323号ピット	なし	982-317~318 Gr	94号ピット	24	20	76.14
324号ピット	231号ピット	984-317 Gr	なし	51	48	76.25
325号ピット	100号ピット	983~984-316~317 Gr	なし	50	44	76.37
326号ピット	95号ピット	982-316~317 Gr	なし	58	54	76.36
327号ピット	97号ピット	983-316 Gr	なし	36	25	76.35
328号ピット	96号ピット	982-316 Gr	なし	30	24	76.51
329号ピット	99号ピット	983-316 Gr	なし	22	20	76.29
330号ピット	なし	984~985-316 Gr	なし	18	16	76.24
331号ピット	なし	984~985-315 Gr	332.333号ピット	36	28	76.07
332号ピット	なし	984~985-315 Gr	331.333号ピット	68	(47)	76.52
333号ピット	なし	984~985-315 Gr	11掘立.331.332.334号ピット	56	32	75.91
334号ピット	なし	984-314~315 Gr	333号ピット	43	40	75.93
335号ピット	なし	984-314 Gr	なし	35	31	76.57
336号ピット	なし	983-314 Gr	なし	17	13	76.47
337号ピット	79号ピット	983-314 Gr	なし	31	16	76.33
338号ピット	なし	981-316~317 Gr	B22溝	21	18	—
339号ピット	なし	981-317 Gr	B22溝	19	16	—
340号ピット	224号ピット	980-321 Gr	なし	46	28	76.28
341号ピット	219号ピット	978-318 Gr	なし	49	43	76.48
342号ピット	なし	978-318 Gr	なし	32	32	76.17
343号ピット	93号ピット	979~980-317 Gr	11掘立P5.B22溝	52	33	76.37
344号ピット	なし	980-314~315 Gr	B22溝	27	19	76.20
345号ピット	なし	980~981-314 Gr	B22溝.346号ピット	22	20	76.35
346号ピット	なし	980~981-313~314 Gr	B22溝.345号ピット	(25)	22	76.40
347号ピット	なし	980~981-312~313 Gr	なし	41	37	76.26
348号ピット	なし	979~980-314 Gr	なし	28	22	76.40
349号ピット	107号ピット	979-314 Gr	350号ピット	17	17	76.43
350号ピット	なし	979-314 Gr	349号ピット	40	38	76.26
351号ピット	106号ピット	979-314~315 Gr	なし	30	25	76.44
352号ピット	105号ピット	979-315 Gr	なし	30	25	76.50
353号ピット	なし	977-316 Gr	なし	26	25	76.37
354号ピット	85号ピット	976-315~316 Gr	なし	38	34	76.03
355号ピット	83号ピット	975-319 Gr	なし	53	38	76.43
356号ピット	82号ピット	975-319~320 Gr	なし	27	23	76.43

4号ピット群 計測表

遺構名	発掘時遺構名	位置	重複	長径(cm)	短径(cm)	底面標高(m)
401号ピット	78号ピット	983~984-304Gr	B22溝	56	48	—
402号ピット	なし	984~985-304~305 Gr	B22溝	54	40	76.10
403号ピット	77号ピット	984-304 Gr	404号ピット	28	26	—
404号ピット	76号ピット	984-304 Gr	403号ピット	34	(28)	—

第Ⅲ章 遺構と遺物

405号ピット	なし	985-302~303 Gr	406号ピット	20	12	—
406号ピット	なし	984~985-302~303 Gr	405号ピット	46	46	75.86
407号ピット	なし	985-302 Gr	なし	26	24	75.86
408号ピット	なし	981-307 Gr	B25溝	40	18	75.83
409号ピット	なし	984-295 Gr	B38溝	44	40	75.79
410号ピット	なし	982-293 Gr	B39溝.411号ピット	28	24	75.89
411号ピット	なし	982-292~293 Gr	B39溝.410号ピット	34	27	75.82
412号ピット	なし	980~981-292 Gr	なし	43	40	75.93
413号ピット	なし	980-293~294 Gr	なし	27	27	75.76
414号ピット	なし	980-294~295 Gr	なし	52	46	75.96
415号ピット	75号ピット	979-300 Gr	B39溝	32	20	—
416号ピット	74号ピット	978-302 Gr	B39溝	34	26	—
417号ピット	73号ピット	977~978-303 Gr	B39溝	30	27	—
418号ピット	72号ピット	977-303 Gr	B39溝	28	28	—
419号ピット	なし	977-298 Gr	B40a溝	30	26	76.14
420号ピット	なし	975-298 Gr	B40a溝	25	22	75.68

5号ピット群 計測表

遺構名	発掘時遺構名	位置	重複	長径(cm)	短径(cm)	底面標高(m)
501号ピット	117号ピット	974-295 Gr	なし	23	19	76.37
502号ピット	61号ピット	974-295 Gr	なし	21	15	76.39
503号ピット	60号ピット	974-294 Gr	なし	26	20	76.30
504号ピット	58.59号ピット	973-294 Gr	なし	41	24	76.42
505号ピット	118号ピット	973-294 Gr	なし	40	26	76.43
506号ピット	119号ピット	972~973-294 Gr	なし	17	17	76.45
507号ピット	120号ピット	973-295 Gr	なし	48	28	76.45
508号ピット	121号ピット	972-295 Gr	なし	25	20	76.34
509号ピット	133号ピット	971~972-296 Gr	B46土坑	26	20	76.32
510号ピット	135号ピット	970-297~298 Gr	511号ピット	27	26	76.33
511号ピット	136号ピット	969~970-298 Gr	510号ピット	30	30	76.33
512号ピット	137号ピット	969-299~300 Gr	なし	35	22	76.42
513号ピット	134号ピット	970-295~296 Gr	なし	28	20	76.37
514号ピット	130号ピット	971-294~295 Gr	なし	24	18	76.48
515号ピット	128号ピット	970~971-293~294 Gr	なし	26	24	76.22
516号ピット	53号ピット	971-293~294 Gr	なし	19	18	76.37
517号ピット	124号ピット	972-294 Gr	なし	25	16	76.33
518号ピット	125号ピット	972-293 Gr	なし	20	16	76.34
519号ピット	131号ピット	972-293Gr	18柵列P 4	(22)	14	76.51
520号ピット	55号ピット	972~973-293 Gr	なし	20	14	—
521号ピット	54号ピット	972-292~293 Gr	なし	37	21	76.33
522号ピット	126号ピット	972-292 Gr	なし	33	18	76.50
523号ピット	63号ピット	973-292 Gr	18柵列P 5	23	20	76.30
524号ピット	51号ピット	970~971-290 Gr	なし	13	10	76.42
525号ピット	67号ピット	970-291 Gr	なし	42	38	76.15
526号ピット	52号ピット	970~971-293 Gr	なし	(20)	16	76.49
527号ピット	50号ピット	970-292 Gr	なし	16	13	76.48
528号ピット	49号ピット	969~970-293 Gr	なし	22	18	76.38
529号ピット	48号ピット	969-293 Gr	なし	26	22	76.38
530号ピット	47号ピット	969-293~294 Gr	なし	30	23	76.37
531号ピット	142号ピット	968-292 Gr	なし	41	28	76.31
532号ピット	141号ピット	968-292~293 Gr	なし	21	26	76.40
533号ピット	140号ピット	968-293 Gr	なし	19	16	76.45
534号ピット	139号ピット	968-293 Gr	なし	21	16	76.45
535号ピット	138号ピット	968-293~294 Gr	なし	40	26	76.32
536号ピット	146号ピット	967-293~294 Gr	なし	28	23	76.35
537号ピット	147号ピット	967-294 Gr	538号ピット	28	(24)	76.37
538号ピット	148号ピット	967-294 Gr	537号ピット	24	(23)	76.42
539号ピット	149号ピット	966-294 Gr	なし	20	15	—
540号ピット	150号ピット	966-293~294 Gr	なし	32	21	76.38
541号ピット	151号ピット	965~966-294 Gr	なし	41	21	76.41
542号ピット	152号ピット	965-294 Gr	なし	29	27	76.37
543号ピット	185号ピット	965-295 Gr	なし	37	27	76.28

544号ピット	なし	964-965-295-296 Gr	なし	61	57	76.34
545号ピット	177号ピット	964-297 Gr	なし	18	15	76.44
546号ピット	178号ピット	963-964-298-299 Gr	なし	43	35	76.45
547号ピット	159号ピット	962-300 Gr	なし	26	21	76.36
548号ピット	160号ピット	961-962-300 Gr	なし	30	25	76.23
549号ピット	179号ピット	961-962-301 Gr	なし	29	22	76.39
550号ピット	180号ピット	961-962-301 Gr	なし	28	23	76.38
551号ピット	181号ピット	961-301 Gr	なし	47	35	76.18
552号ピット	182号ピット	962-302 Gr	なし	15	11	76.45
553号ピット	163号ピット	959-960-301 Gr	なし	40	28	76.20
554号ピット	184号ピット	959-299 Gr	なし	41	40	76.18
555号ピット	183号ピット	959-299 Gr	なし	26	22	76.14
556号ピット	162号ピット	960-299-300 Gr	なし	46	32	76.41
557号ピット	161号ピット	961-299-300 Gr	なし	23	18	76.36
558号ピット	160号ピット	962-296 Gr	なし	35	33	76.22
559号ピット	157号ピット	962-295 Gr	なし	33	27	76.11
560号ピット	156号ピット	963-293 Gr	なし	22	19	76.18
561号ピット	155号ピット	963-293 Gr	なし	24	19	76.26
562号ピット	154号ピット	963-964-293 Gr	なし	38	27	76.15
563号ピット	153号ピット	964-965-292-293 Gr	なし	85	42	76.13
564号ピット	145号ピット	966-292 Gr	なし	41	31	76.24
565号ピット	144号ピット	966-967-292 Gr	なし	19	14	76.45
566号ピット	143号ピット	967-292 Gr	なし	18	18	76.42
567号ピット	68号ピット	967-291 Gr	なし	16	15	76.32
568号ピット	69号ピット	967-290 Gr	なし	30	21	76.36
569号ピット	なし	965-290-291 Gr	なし	30	27	76.19

6号ピット群 計測表

遺構名	発掘時遺構名	位置	重複	長径(cm)	短径(cm)	底面標高(m)
601号ピット	186号ピット	962-963-314 Gr	なし	33	31	76.39
602号ピット	214号ピット	960-961-316 Gr	なし	43	29	76.56
603号ピット	201号ピット	959-960-316 Gr	なし	43	42	76.35
604号ピット	200号ピット	960-315-316 Gr	なし	33	27	76.34
605号ピット	199号ピット	960-315 Gr	なし	28	23	76.50
606号ピット	197号ピット	959-960-314-315 Gr	なし	46	39	-
607号ピット	198号ピット	960-314-315 Gr	なし	25	25	76.43
608号ピット	187号ピット	960-961-313 Gr	なし	31	26	76.10
609号ピット	188号ピット	960-312 Gr	なし	22	14	-
610号ピット	189号ピット	959-960-312 Gr	なし	50	36	76.37
611号ピット	191号ピット	958-312 Gr	なし	23	20	76.25
612号ピット	190号ピット	958-311-312 Gr	なし	39	25	76.14
613号ピット	192号ピット	957-958-312 Gr	なし	36	26	76.40
614号ピット	196号ピット	957-958-313 Gr	なし	23	17	76.48
615号ピット	195号ピット	957-313 Gr	なし	37	32	76.39
616号ピット	193号ピット	957-312 Gr	なし	24	20	76.36
617号ピット	194号ピット	956-957-312 Gr	なし	27	24	76.28
618号ピット	なし	957-311 Gr	619号ピット	17	12	76.32
619号ピット	なし	957-311 Gr	618号ピット	21	12	76.38
620号ピット	なし	957-311 Gr	なし	24	17	-
621号ピット	なし	957-310-311 Gr	622号ピット	32	20	76.21
622号ピット	なし	956-957-310-311 Gr	621号ピット	34	25	76.39
623号ピット	なし	954-314 Gr	なし	28	19	76.11
624号ピット	なし	954-314 Gr	625号ピット	31	24	76.09
625号ピット	なし	954-314 Gr	624号ピット	(31)	24	76.16
626号ピット	204号ピット	958-315-316 Gr	なし	38	33	76.39
627号ピット	205号ピット	958-316 Gr	なし	41	21	76.36
628号ピット	203号ピット	958-316 Gr	なし	43	43	76.51
629号ピット	202号ピット	959-960-317 Gr	B48土坑	30	23	76.14

7号ピット群 計測表

遺構名	発掘時遺構名	位置	重複	長径(cm)	短径(cm)	底面標高(m)
701号ピット	164号ピット	958-959-291-292 Gr	なし	33	30	76.14

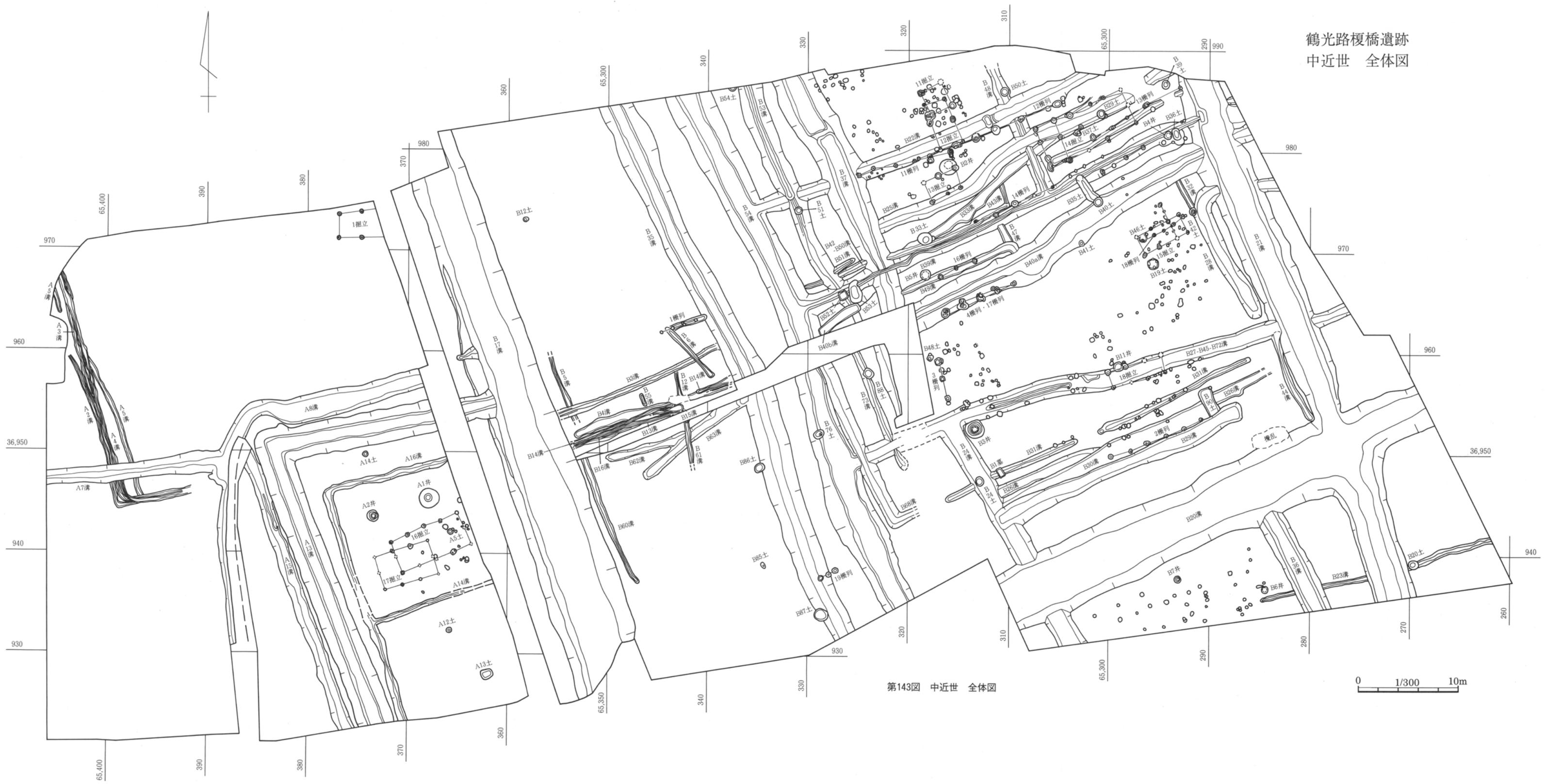
第Ⅲ章 遺構と遺物

702号ピット	165号ピット	958-291 Gr	なし	40	32	76.03
703号ピット	166号ピット	957-958-291 Gr	なし	29	23	76.06
704号ピット	169号ピット	958-293-294 Gr	なし	30	21	76.25
705号ピット	168号ピット	957-958-293 Gr	なし	28	23	76.31
706号ピット	167号ピット	957-293 Gr	なし	30	28	76.18
707号ピット	171号ピット	958-294-295 Gr	18掘立.708号ピット	31	(26)	76.25
708号ピット	172号ピット	957-958-294 Gr	18掘立.707号ピット	18	13	76.26
709号ピット	173号ピット	957-958-295 Gr	18掘立	24	18	76.35
710号ピット	174号ピット	957-295 Gr	なし	48	26	76.29
711号ピット	175号ピット	957-295 Gr	なし	22	20	76.32
712号ピット	なし	956-290 Gr	なし	23	23	75.95
713号ピット	71号ピット	956-292 Gr	B31溝	40	38	75.94
714号ピット	92号ピット	953-954-294-295 Gr	715号ピット	46	33	76.29
715号ピット	なし	953-954-295 Gr	714号ピット	48	(32)	76.26
716号ピット	なし	953-297 Gr	B31溝	22	18	76.24
717号ピット	なし	953-297 Gr	B31溝	18	17	76.26
718号ピット	90号ピット	952-953-297-298 Gr	B31溝	44	40	76.06
719号ピット	なし	951-298 Gr	B30溝	40	37	75.97
720号ピット	なし	950-299-300 Gr	B30溝	31	30	75.89
721号ピット	89号ピット	951-303 Gr	なし	30	27	76.06

8号ピット群 計測表

遺構名	発掘時遺構名	位置	重複	長径(cm)	短径(cm)	底面標高(m)
801号ピット	41号ピット	940-941-286 Gr	なし	24	22	76.30
802号ピット	40号ピット	939-285-286 Gr	なし	26	24	76.12
803号ピット	なし	938-286 Gr	なし	26	24	76.29
804号ピット	43号ピット	938-287-288 Gr	805.806号ピット	27	20	76.13
805号ピット	43号ピット	938-287 Gr	804.806号ピット	(16)	18	76.28
806号ピット	43号ピット	938-287-288 Gr	804.805号ピット	34	(21)	76.28
807号ピット	45号ピット	937-284 Gr	なし	27	24	76.32
808号ピット	46号ピット	937-284-285 Gr	なし	70	24	76.38
809号ピット	42号ピット	937-287 Gr	なし	24	23	76.29
810号ピット	12号ピット	935-936-286 Gr	なし	29	26	76.18
811号ピット	39号ピット	935-285-286 Gr	なし	35	26	76.27
812号ピット	38号ピット	935-286 Gr	なし	30	29	76.28
813号ピット	37号ピット	935-286-287 Gr	なし	25	18	76.16
814号ピット	35号ピット	934-286-287 Gr	なし	27	22	76.32
815号ピット	36号ピット	934-935-287 Gr	なし	28	24	76.26
816号ピット	34号ピット	934-286 Gr	なし	29	27	76.33
817号ピット	18号ピット	937-290-291 Gr	なし	37	30	76.17
818号ピット	17号ピット	936-290 Gr	819号ピット	39	35	76.17
819号ピット	16号ピット	936-290 Gr	818号ピット	(37)	31	76.20
820号ピット	15号ピット	935-936-290 Gr	なし	30	29	76.15
821号ピット	14号ピット	935-290 Gr	なし	20	18	76.41
822号ピット	13号ピット	933-290 Gr	なし	31	26	76.23
823号ピット	19号ピット	936-291-292 Gr	なし	32	28	76.10
824号ピット	20号ピット	935-292 Gr	なし	31	25	76.22
825号ピット	21号ピット	934-291 Gr	なし	40	27	76.22
826号ピット	23号ピット	933-934-292 Gr	なし	24	22	76.30
827号ピット	22号ピット	933-292 Gr	なし	34	24	76.51
828号ピット	24号ピット	936-293 Gr	なし	32	26	76.27
829号ピット	25号ピット	935-294 Gr	なし	46	40	76.15
830号ピット	26号ピット	933-294 Gr	なし	25	21	76.24
831号ピット	27号ピット	935-295 Gr	なし	35	33	76.33
832号ピット	28号ピット	936-296 Gr	なし	41	38	76.36
833号ピット	29号ピット	934-297 Gr	なし	21	19	76.50
834号ピット	30号ピット	932-296 Gr	なし	27	26	76.40
835号ピット	32号ピット	935-298-299-Gr	なし	33	29	76.16
836号ピット	31号ピット	933-934-298 Gr	なし	44	41	76.16
837号ピット	33号ピット	934-301 Gr	なし	34	29	76.16

鶴光路榎橋遺跡  
中近世 全体図



第143図 中近世 全体図

0 1/300 10m



## 第3節 近世以降

### (1) 遺構・遺物の概要

本節は「近世以降」として、1783年の浅間山噴火によるAs-A軽石が覆土中に含まれるなどによって、As-A軽石降下以降のものであることが確実な遺構について述べていく。扱う遺構は、9条の溝と、畠状遺構である。ここで扱う溝はすべて調査3年目にあたる1999年に調査した区画で確認された。それ以外の部分では、As-A軽石が混入していると判断された遺構はなかった。しかし、出土遺物を観察するとAs-A軽石降下以降のものも、本節で扱う溝以外でも確認されている。しかし、前節までで報告してきたそれらの溝については、溝として機能していた期間が長期にわたるため、様々な年代の遺物が出土する可能性を孕んでいるものである。

本節で述べる溝の走向はN-60° - E前後を意識したものが多く、その点は2節で述べた時代の溝と

共通している。それぞれの溝は近接しており、また、B57号溝などのように石組みを持つなどの特徴がある。しかし、どの溝も残存状態があまりよくないため、性格を特定出来るものではない。

畠状遺構は調査区中央よりのところで確認されている。この畑が耕されていた当時は周辺には建物が建っていたはずで、それらに囲まれた区画の中に存在していたものと考えられる。

### (2) 溝

A6号溝 写真図版 5・39

位置 967~972-386~404 Gr

重複 なし

規模 長さ19.0m 幅0.6~0.8m

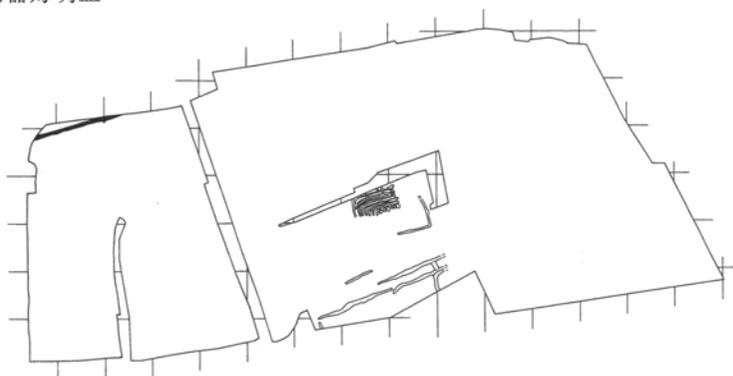
深さ 1~8cm

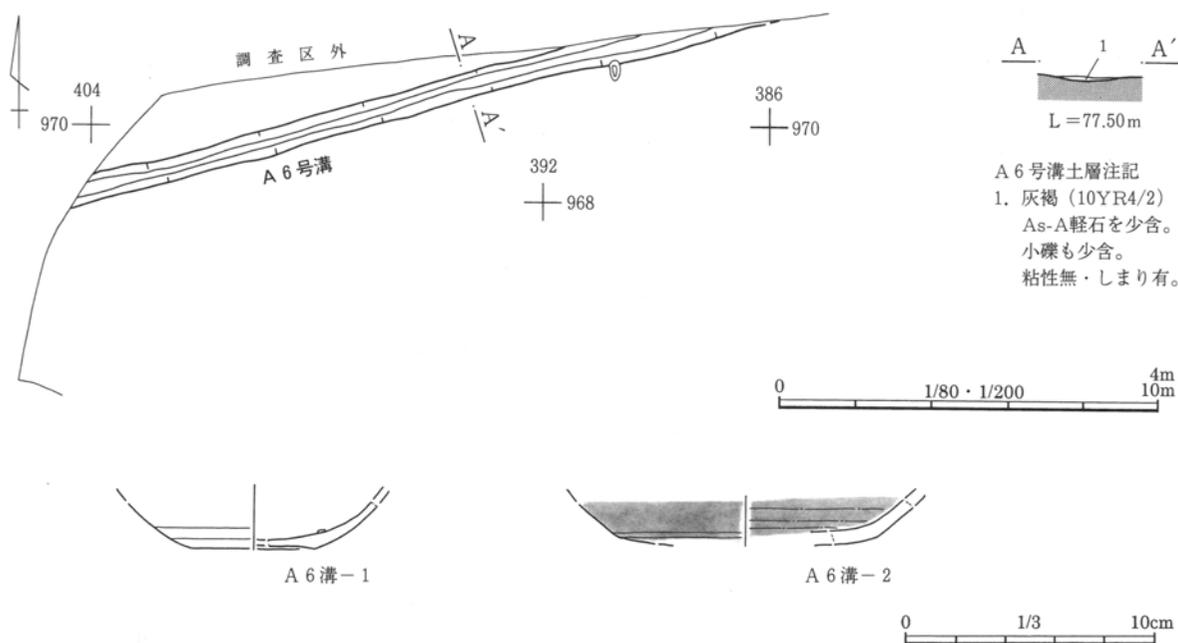
掘り方 極浅い円弧状を呈する。

遺物 土師器坏11、須恵器坏1、甕2、陶器灯明皿

1、白磁瓶1、瓦1

所見 西に隣接する西田遺跡（平成7年前橋市埋蔵文化財発掘調査団調査）、を抜け、さらに西の西田遺跡（平成9年当事業団調査）から続く。N-74° - Eの走向で、南西から北東方向に流れたものと思われる。





第144図 A 6号溝および出土遺物

A 6号溝出土遺物

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
1 39	①陶器 ②灯明皿 ③底部片	覆土	口- 底-(5.0) 高-(3.8)	①細 夾雑鉱物粒をわずかに含む ②還元焰 良好 ③胎土浅黄2.5Y7/3	内面全面灰釉 貫入わずかに入る 目跡1残存 生産地・不詳 年代・近代
2 39	①磁器(白磁) ②瓶類? ③胴部片	覆土	口- 底- 高-(1.7)	①細 夾雑鉱物粒をわずかに含む ②還元焰 良好 ③灰白7.5Y7/2	内外面施釉 内面口口目明瞭 生産地・中国 年代・12C~13Cか

B56号溝 写真図版 16

位置 929~935-329~344 Gr

重複 なし

規模 長さ16.6m 幅0.3~1.1m

深さ 6~21cm

掘り方 浅い掘り方を呈している。底面はほぼ平坦で、深さに対して幅広い。

遺物 土師器坏1、甕6、須恵器坏2、甕3、軟質陶器鍋1

所見 やや西よりで少シクランクするが、おおよそN-66°-Eの走向。東端は935-329Gr付近で浅くなり終わり、西端は929-344Gr付近で浅くなり終わる。覆土は違うが、B69号溝とほぼ一直線上にあり、同一遺構の可能性が高いと想定される。

B57号溝 写真図版 16・39

位置 937~942-319~332 Gr

重複 新旧不明B71号溝。

規模 長さ14.6m 幅0.3~1.0m

深さ 2~31cm

掘り方 浅い鍋底状を呈する。両側に石組みが残存する部分あり。底部には石組みはない。

遺物 土師器坏2、甕12、須恵器坏1、甕6、軟質陶器焙烙1、陶器甕1、磁器碗1、その他1

所見 N-66°-Eの走向。東端は年度をまたぐ調査の関係で調査できなかったが、西端は937-332Gr付近で浅くなり確認できなくなる。B56、B58、B69号溝とほぼ同一の走向でB69、B71号溝などとは石組みを持つという共通点があり、同一時期に機能していた可能性が高いと考えられる。

**B58号溝 写真図版 17**

位置 937～939-333～338 Gr

重複 なし

規模 長さ6.2m 幅0.3～0.4m

深さ 3～6cm

掘り方 浅い円弧状を呈する。

遺物 なし

所見 N-66° -Eの走向。東端は939-333Gr付近で浅くなり確認できなくなり、西端は936-338Gr付近で浅くなり確認できなくなる。B56、B57、B69号溝とほぼ同一の走向だが、関係については不明。

**B64号溝 写真図版 18**

位置 927～929-343～344 Gr

重複 なし

規模 長さ1.6m 幅0.3～0.4m

深さ 8～12cm

掘り方 浅い円弧状を呈する。

遺物 土師器坏1、須恵器甕1

所見 N-27° -Wの走向。北端は929-344Gr付近で浅くなり確認できなくなり、南端は調査区外に及ぶ。B56号溝とほぼ直交する走向だが、関係については不明。出土遺物は古いですが、この溝の下からより新しい遺構が見つかったので、混入したものと考えられる。

**B69号溝 写真図版 18**

位置 935～941-318～329 Gr

重複 古いB70号溝。新旧不明B71号溝。

規模 長さ11.9m 幅0.5～0.8m

深さ 4～32cm

掘り方 浅い円弧状を呈する。

遺物 軟質陶器鍋3

所見 N-66° -Eの走向。東端は年度をまたぐ調査の関係で調査できなかったが、西端は934-329Gr付近で浅くなり確認できなくなる。B56、B57、B58号溝とほぼ同一の走向だが、関係は不明。

**B70号溝 写真図版 18**

位置 935～940-318～320 Gr

重複 新しいB69号溝。

規模 長さ5.4m 幅0.5～0.8m

深さ 13～37cm

掘り方 円弧状を呈する。

遺物 土師器甕1、須恵器坏2

所見 N-60° -Eの走向からN-15° -Wの走向に変わる。東端は年度をまたぐ調査の関係で調査できなかったが、938-320Gr付近で南に向きを変え、南端は調査区外に及ぶ。B71号溝と覆土が同一のため、同時期に機能していたことが伺える。出土遺物は古いですが、この溝の下からより新しい遺構が見つかったので、混入したものと考えられる。

**B71号溝**

位置 939～942-319～321 Gr

重複 新旧不明B57、B69号溝。

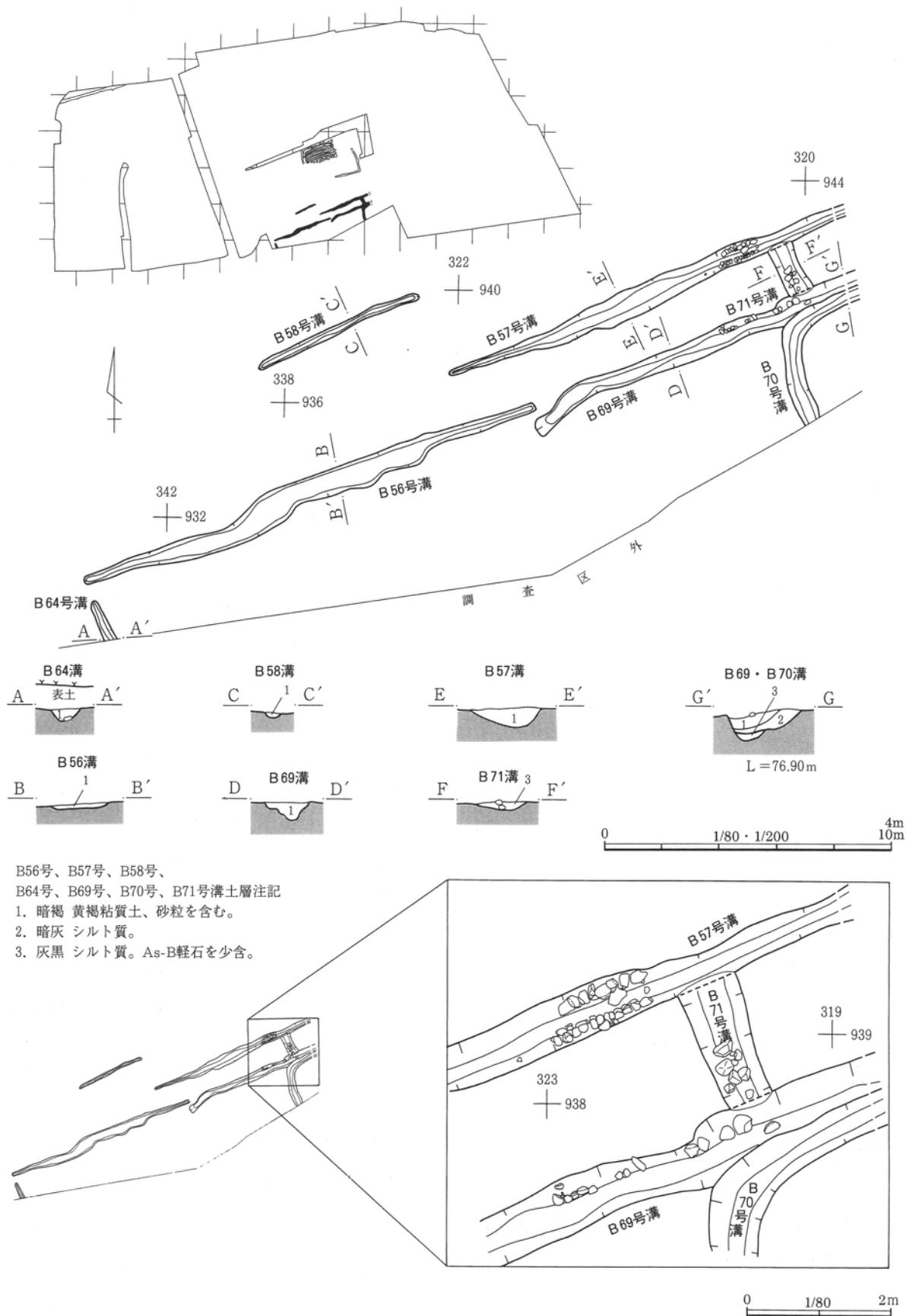
規模 長さ1.8m 幅0.8～0.9m

深さ 7～9cm

掘り方 浅い円弧状を呈する。

遺物 土師器坏5

所見 N-23° -Wの走向。940-320Gr付近でB69号溝と交わり確認できなくなるが、より南のB70号溝と覆土が同一のため、つながる可能性は高い。北端は941-320Gr付近でB57号溝と交わり終わる。このため、この溝とは同時期に存在していた可能性は高い。出土遺物は古いですが、この溝の下からより新しい遺構が見つかったので、混入したものと考えられる。



第145図 B56、B57、B58、B64、B69、B70、B71号溝



第146図 B57号溝出土遺物

B57号溝出土遺物

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴
1 39	①軟質陶器 ②焙烙 ③底部片	覆土	口- 底-(24.0) 高-(2.5)	①中 夾雜鉍物粒を含む ②還元焰 普通 ③黒10YR2/1	ロクロ調整

B67号溝

位置 948～955-321～328 Gr

重複 なし。

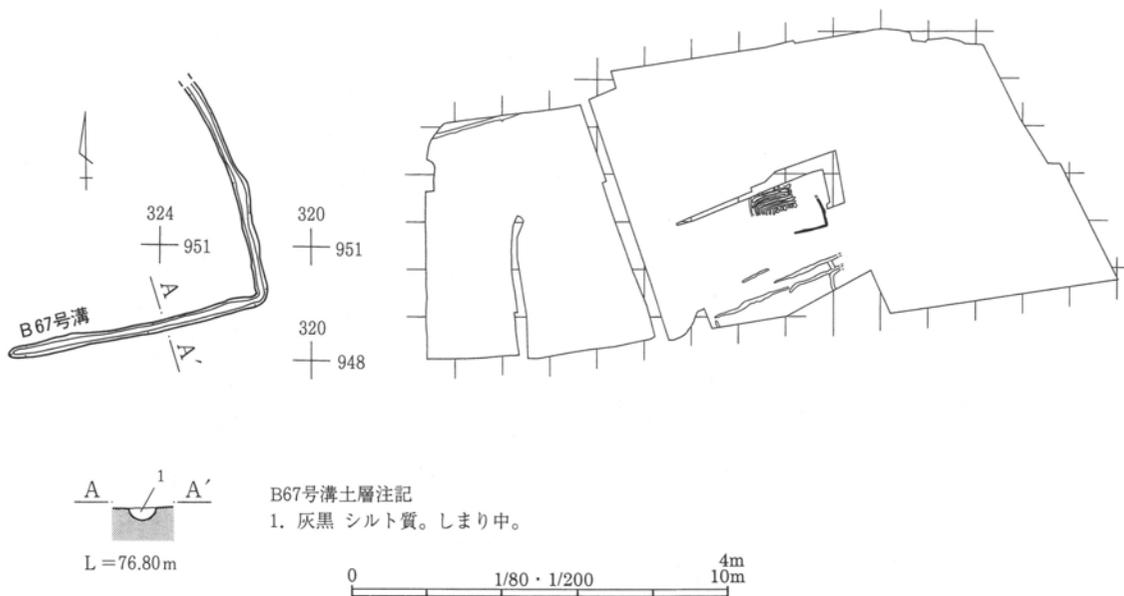
規模 長さ13.0m 幅0.3m

深さ 12cm

掘り方 円弧状を呈する。

遺物 なし

所見 走向はN-23° -WからN-78° -Eへとほぼ直角に曲がる。北端は955-323Gr付近で浅くなり終わり、949-321Gr付近ではほぼ直角に曲がり、西端は948-327Gr付近で浅くなり終わる。直角に曲がることなどから何かを区画する溝や、何か中心になる構造物の周縁に掘られたとも想定される。



第147図 B67号溝

(2) 畠状遺構

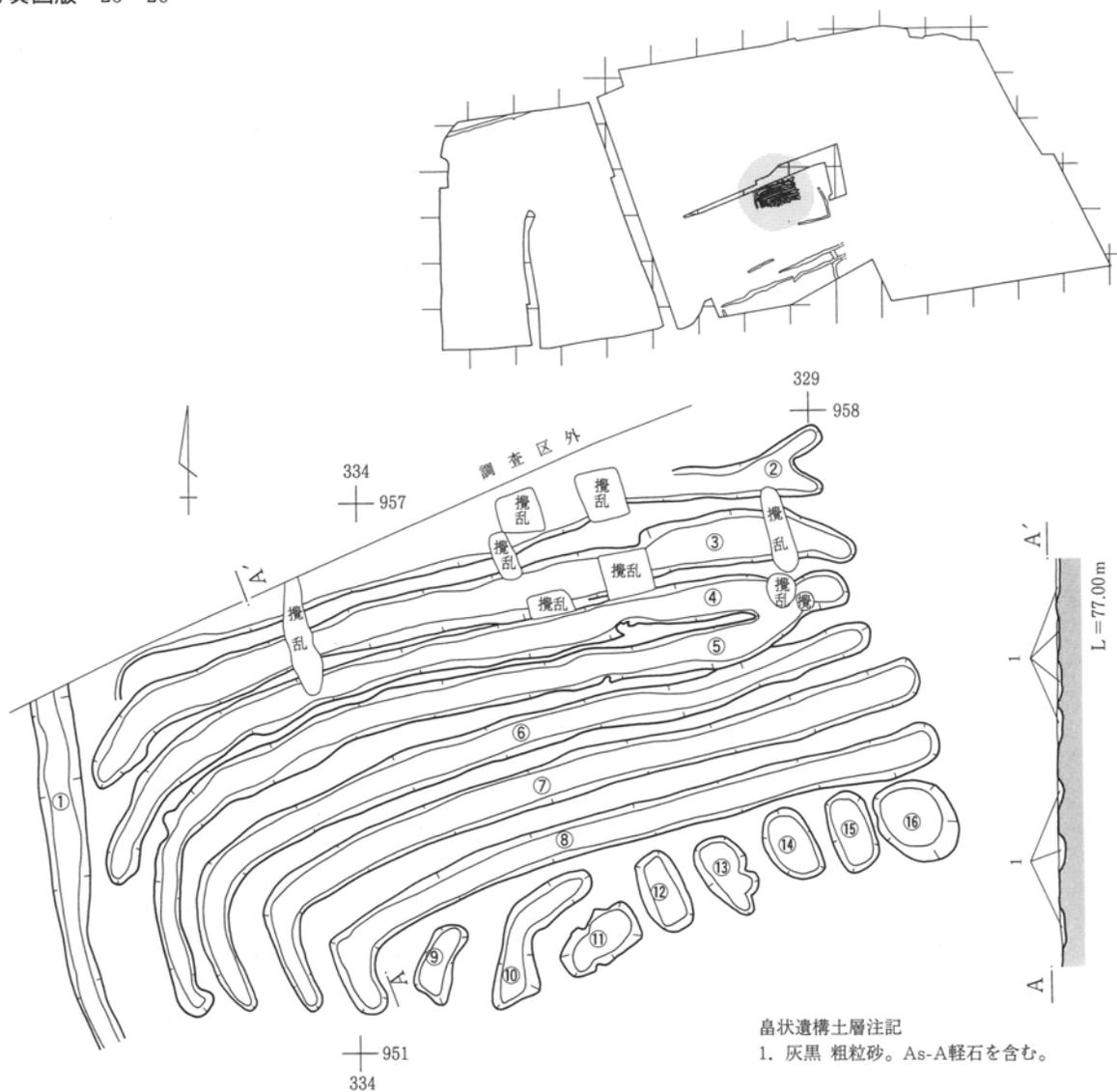
浅い溝状の遺構が並行して7条、それにほぼ垂直な関係のものが1条、土坑状のものが8ヶ所確認された。その形状から畠の畝が後に削平されたため、削平を免れた畝間の溝が確認されたものと想定される。残存する深さが浅いため現状では確認できなかったが、⑨～⑯の土坑状のものについては、軸が②～⑧に垂直になるようにさらに南方へ延びていた可能性が高い。遺物は出土しなかったが、覆土に天明3年(1789)に降下したAs-A軽石が混ざって含まれているため、それ以降に機能していたものと考えられる。

写真図版 25・26

畠状遺構計測表

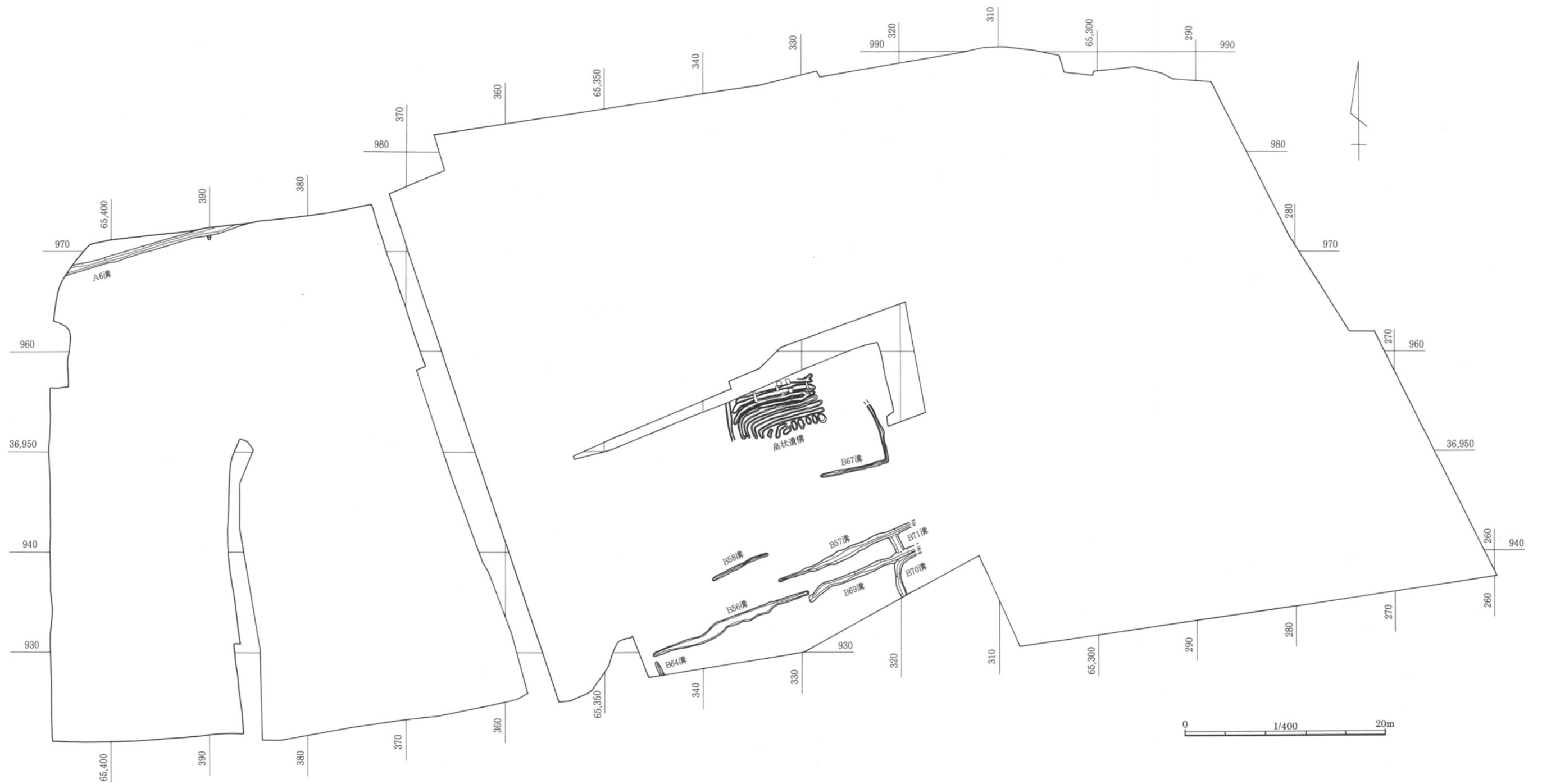
No	長さ (m)	幅 (m)	面積 (m <sup>2</sup> )
①	〈3.92〉	0.48	〈1.57〉
②	〈8.60〉	0.44	〈3.9〉
③	9.04	0.48	4.35
④	9.28	0.40	3.58
⑤	10.16	0.48	3.52
⑥	9.28	0.48	3.43
⑦	8.68	0.44	3.68
⑧	7.64	0.40	3.09
⑨	0.84	0.40	0.30
⑩	1.92	0.44	0.66
⑪	0.96	0.48	0.43
⑫	0.92	0.48	0.37
⑬	0.96	0.52	0.38
⑭	0.84	0.52	0.37
⑮	0.92	0.48	0.37
⑯	1.04	0.84	0.67

〈 〉は残存長



第148図 畠状遺構

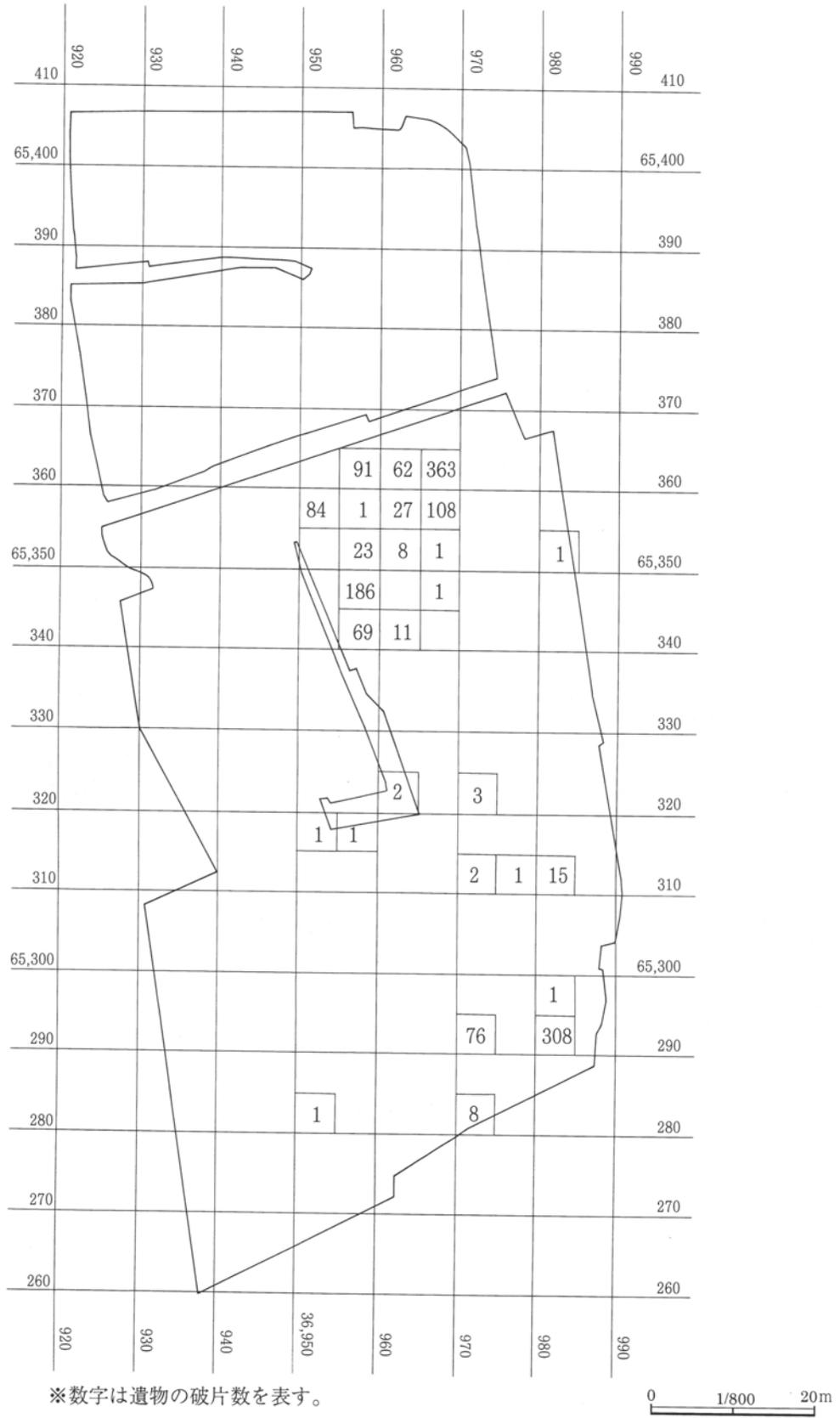
鶴光路榎橋遺跡  
近世以降 全体図



第149図 近世以降 全体図



第4節 遺構外遺物出土状況



第150図 遺構外出土遺物 分布図

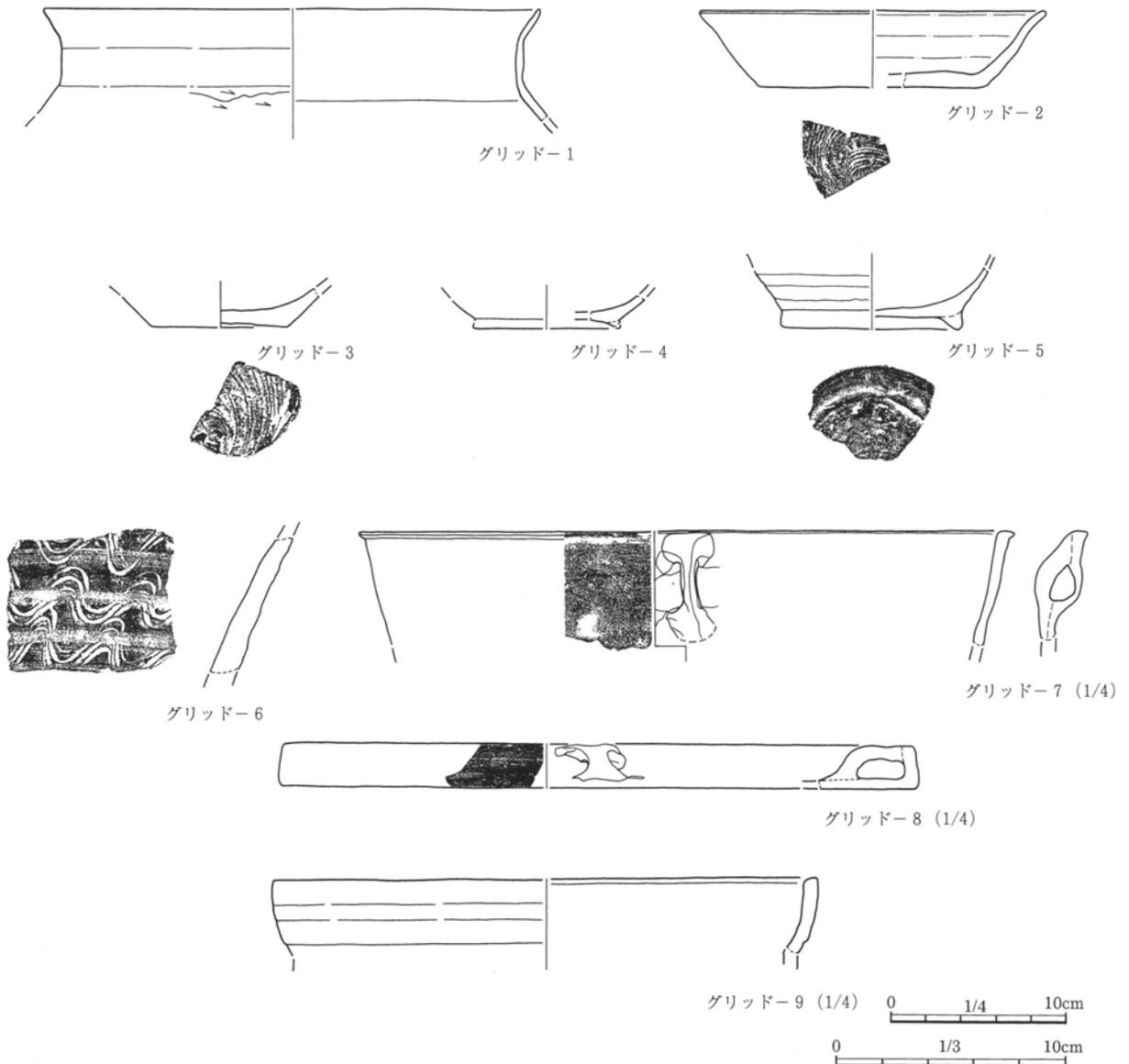
第三章 遺構と遺物

本遺跡では、遺構以外でも遺物が確認されているため、それらをここで大きく二つに分けて掲載する。

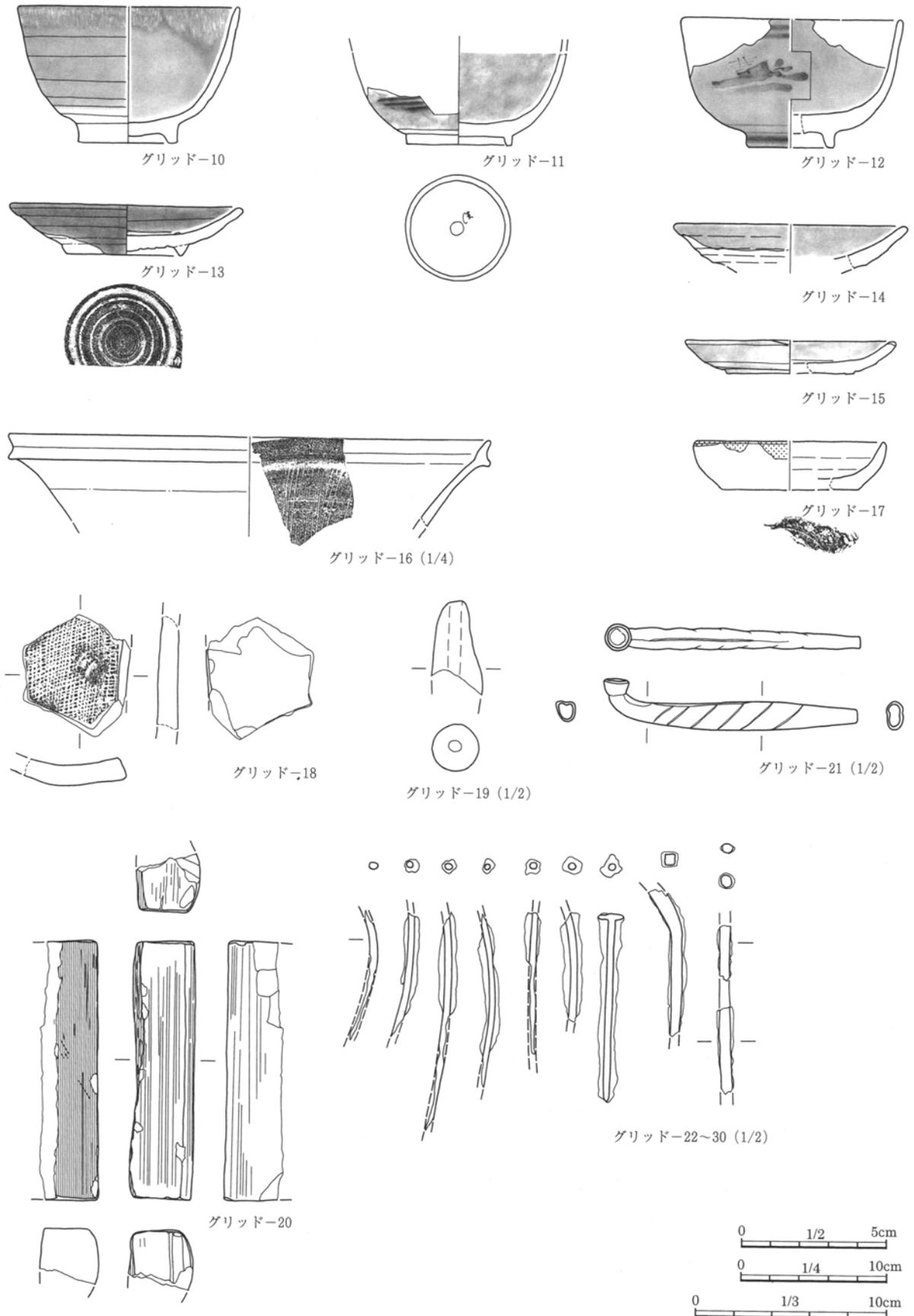
まず一つ目は、遺構には伴わなかったが、出土位置が5mピッチの方眼グリッド単位で確認されているもの。そしてもう一つは、遺跡内での出土ではあるが、出土位置が確定できないものである。第150図は5mピッチの方眼グリッド内での遺物出土数を表している。ここでも例言に記載したとおり、遺物数とは遺物の破片数である。よって、個体数ではこの数より少なくなると考えられる。950~965-340~360Grにおいて、出土遺物数が圧倒的に多い。こ

こで出土しているものの大半は、第三章第1節に記載した住居と同じ時期のものである。B1号住居などは、確認されたのが、床面より下であった。後の耕作などにより、当時の生活面は失われていたため、この住居に伴う遺物がこの周辺で攪乱されて散在しているものと想定される。また、980-290Grで遺物出土量が多いのは、B41号溝で出土してる土器と同じ時期のものである。これも前述のB1号住居周辺と同様な理由により、遺構外の遺物出土量が多いものと考えられる。

写真図版 39~41

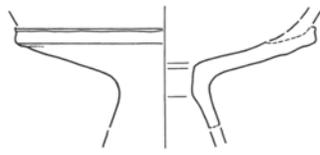


第151図 グリッド出土遺物（1）

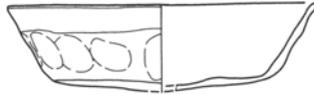


第152図 グリッド出土遺物(2)

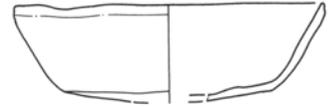
第三章 遺構と遺物



遺構外遺物-1



遺構外遺物-2



遺構外遺物-3



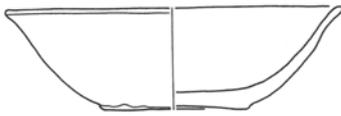
遺構外遺物-4



遺構外遺物-5



遺構外遺物-6



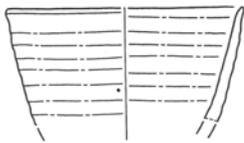
遺構外遺物-7



遺構外遺物-8



遺構外遺物-9



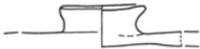
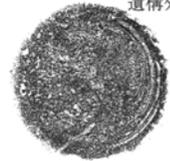
遺構外遺物-10



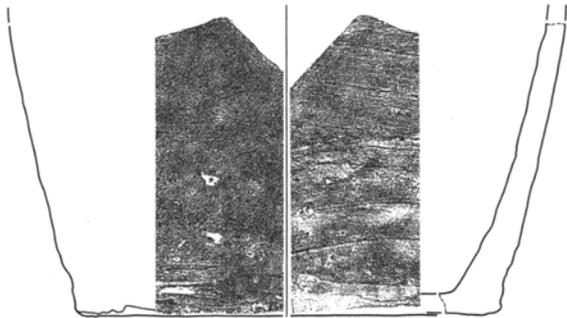
遺構外遺物-11



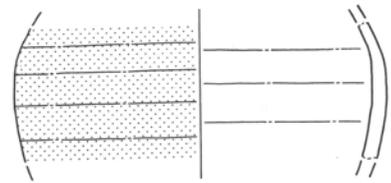
遺構外遺物-12



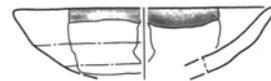
遺構外遺物-13



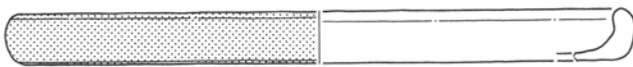
遺構外遺物-14



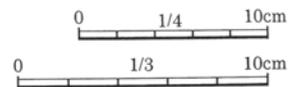
遺構外遺物-15



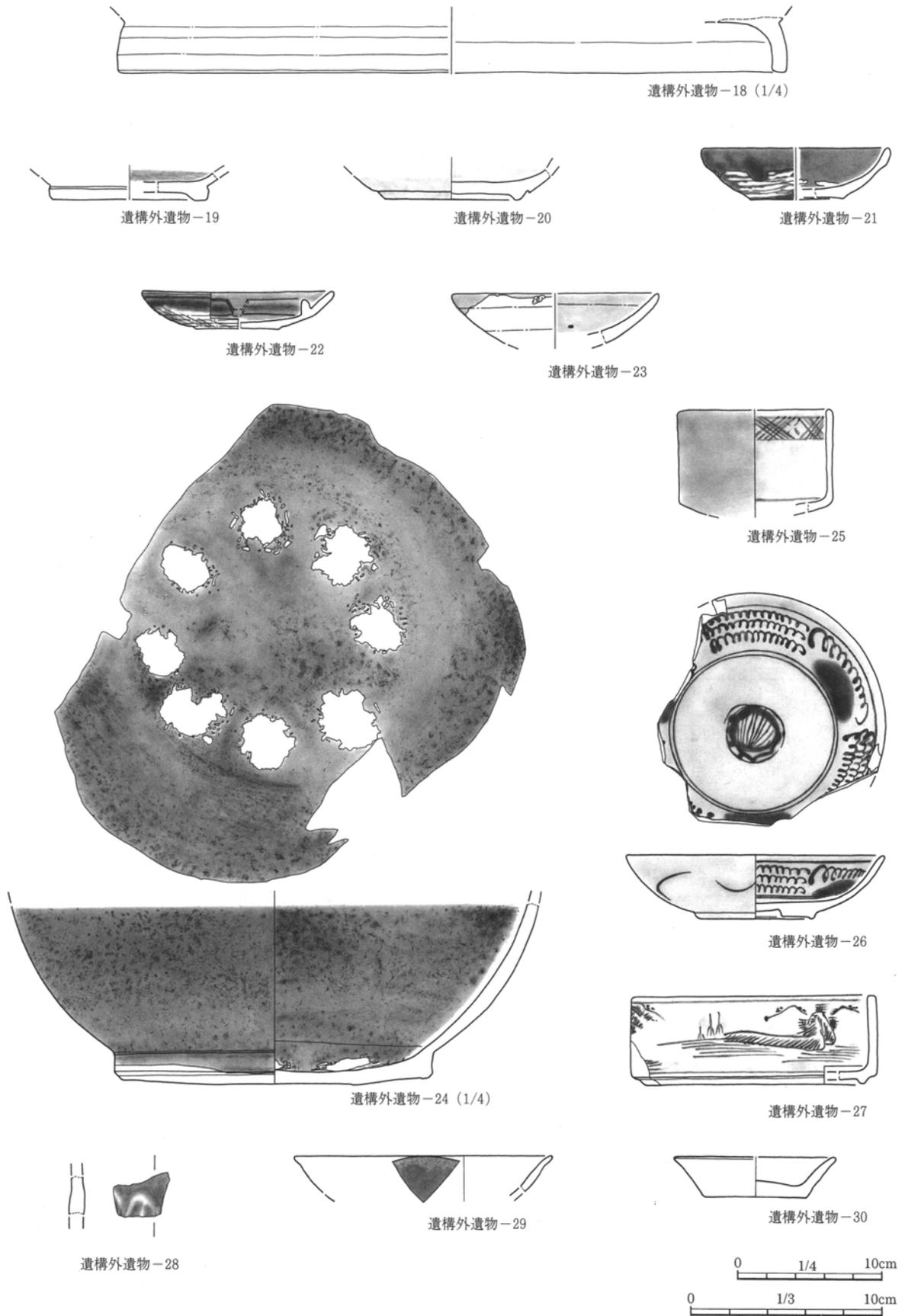
遺構外遺物-16



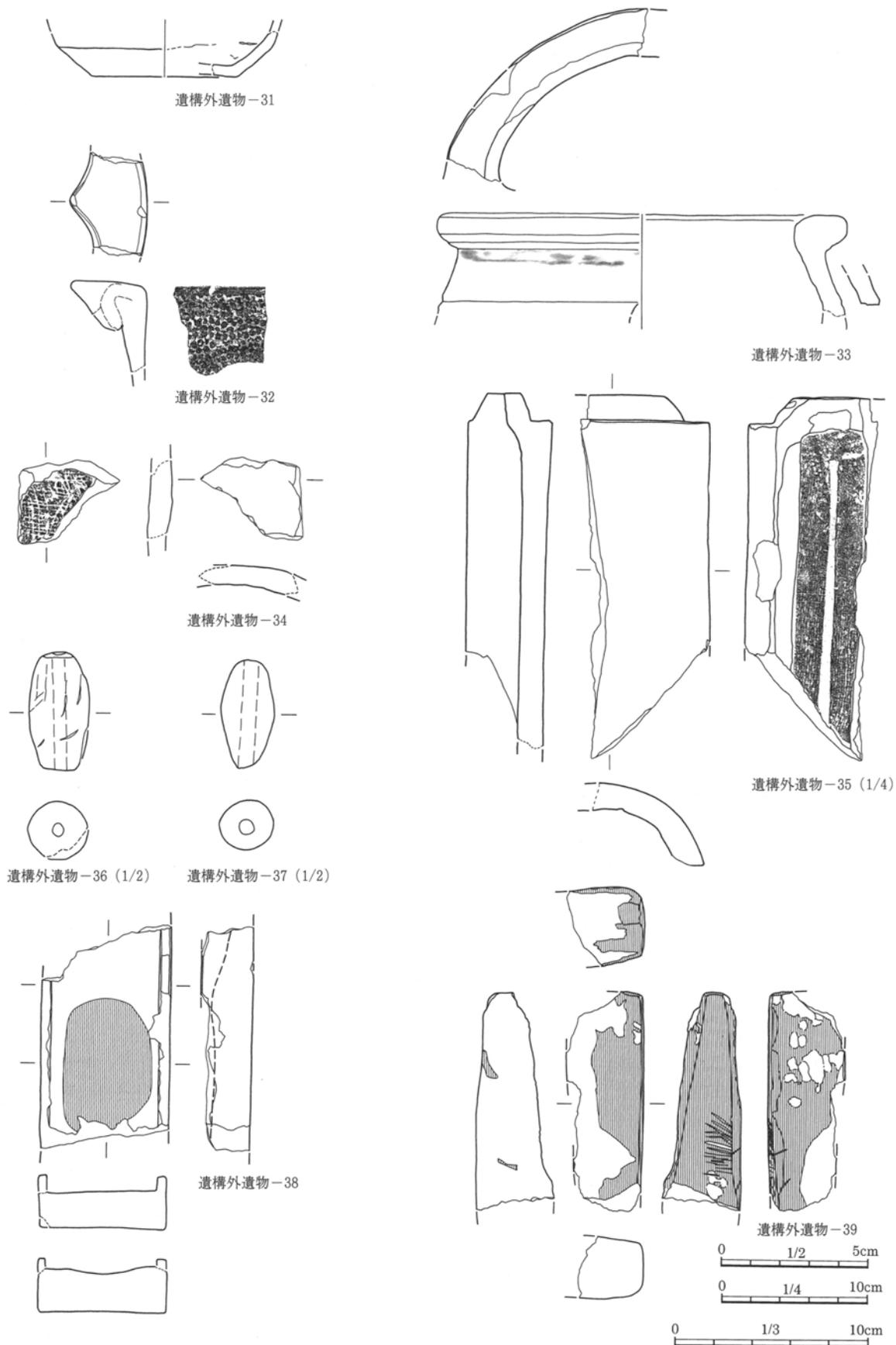
遺構外遺物-17 (1/4)



第153図 遺構外遺物(1)



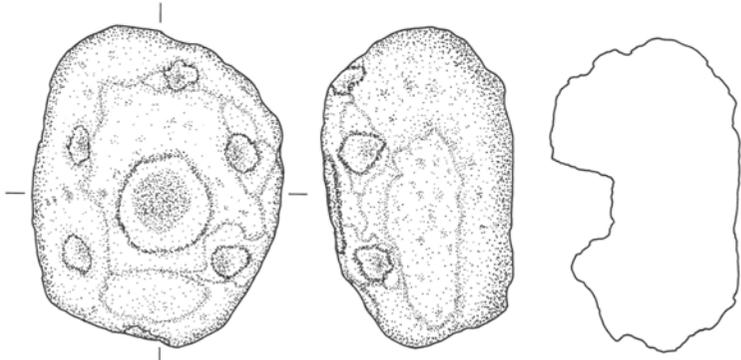
第154図 遺構外遺物(2)



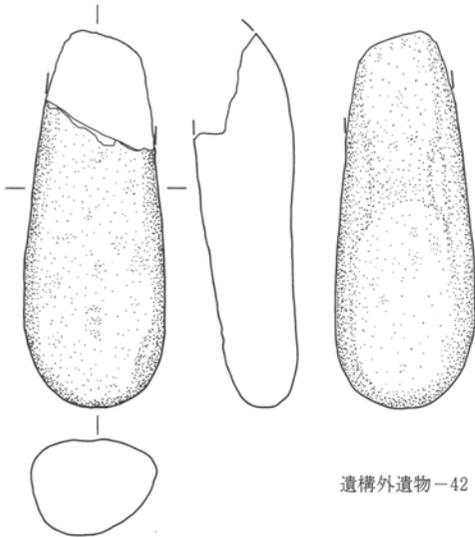
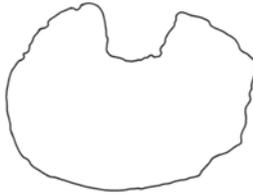
第155図 遺構外遺物 (3)



遺構外遺物-40



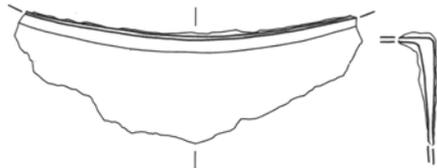
遺構外遺物-41 (1/4)



遺構外遺物-42



遺構外遺物-43 (1/2)



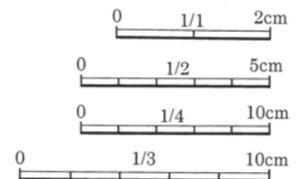
遺構外遺物-44 (1/2)



遺構外遺物-45 (1/1)



遺構外遺物-46 (1/1)



第156図 遺構外遺物 (4)

第三章 遺構と遺物

グリッド出土遺物観察表

遺物№ 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置 (Gr)	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調外④色調内	成・整形技法の特徴
1 39	①土師器 ②甕 ③口辺部～頸部片	960-370	口-(21.4) 底- 高-(4.8)	①中 細砂, パミスを少量含む ②酸化 焰 良好 ③にぶい黄橙10YR6/3	口縁部横ナデ 胴部外面横位篋削り 内 面口縁部横ナデ
2 39	①須恵器 ②坏 ③1/6	965-360	口-(14.8) 底-(9.6) 高-3.3	①粗 細砂～礫を少量含む ②還元焰 良好 ③灰白N7/0	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り無調整
3 39	①須恵器 ②坏 ③底部片	955-340	口- 底-6.0 高-(1.7)	①中 細砂～礫, 黒色粒を含む ②還元 焰 不良 ③灰白2.5Y7/1	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り無調整 粘土粒付着
4 39	①須恵器 ②碗 ③底部片	955-315	口- 底-(6.4) 高-(1.5)	①中 細砂を少量含む ②還元焰 不良 ③褐灰7.5YR6/1 ④明赤褐5YR5/6	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り後高台 貼付
5 39	①須恵器 ②高台付碗 ③底部片	955-350	口- 底-(7.8) 高-(2.7)	①中 細砂, 粗砂, パミスを少量含む ②還元焰 普通 ③灰7.5Y6/1	ロクロ調整(右) 底部回転篋削り後高台 貼付か
6 39	①須恵器 ②甕 ③頸部片	970-290	口- 底- 高-(6.7)	①中 細砂, パミスを多量に含む ②還 元焰 良好 ③灰N4/0	ロクロ調整 外面波状文
7 39	①軟質陶器 ②内耳鍋 ③口辺部片	970-290	口-(38.0) 底- 高-(6.6)	①粗 夾雑鉱物粒を多量に含む ②酸化 焰 普通 ③にぶい赤褐7.5YR5/3	ロクロ調整 耳貼付 年代・中世
8 39	①軟質陶器 ②内耳焙烙 ③口辺部～底部片	465-345	口-(36.4) 底-(37.0) 高-2.5	①粗 夾雑鉱物粒を多量に含む ②酸化 焰 普通 ③にぶい橙YR7/4	ロクロ調整 耳貼付 平底 年代・19C 中
9 39	①軟質陶器 ②焙烙 ③口辺部片	980-350	口-(31.5) 底- 高-(4.4)	①粗 夾雑鉱物粒を多量に含む ②還元 焰 良好 ③黒7.5YR2/2 ④灰白2.5Y R7/1	ロクロ調整 胴部に太い沈線が1条入る
10 39	①陶器 ②碗 ③1/4	970-290	口-(11.4) 底-5.0 高-7.1	①細 夾雑鉱物粒を多く含む ②還元焰 良好 ③胎土灰白2.5Y8/2 釉オリーブ 褐2.5Y4/4	内面全面 高台脇以下を除き鉛釉 口縁 部薫灰釉 高台削りだし 生産地・瀬戸、 美濃 年代・18C前
11 39	①陶器 ②碗 ③底部片	970-210	口- 底-5.6 高-(4.8)	①細 夾雑鉱物粒をわずかに含む ②還 元焰 良好 ③胎土浅黄5Y7/4 釉灰 白5Y7/2	内面全面 外面底部以外灰釉 体部外面 鉄絵 外面底部に「清」の刻印 京焼風 陶器 生産地・肥前 年代・17C後～末
12 39	①陶器 ②碗 ③1/2弱	960-320	口-(11.3) 底-(4.4) 高-6.7	①細 夾雑鉱物粒をわずかに含む ②還 元焰 良好 ③灰N6/0	外面染付 内面無文 貫入入る 陶胎染 付
13 39	①陶器 ②皿 ③1/2弱	970-290	口-(12.2) 底-(6.1) 高-2.6	①中 夾雑鉱物粒を少量含む ②還元焰 良好 ③にぶい黄橙10YR7/2	内面全面 外面口縁部灰釉 内面重ね痕 生産地・瀬戸、美濃 年代・17C
14 39	①陶器 ②皿 ③口辺部片	970-290	口-(12.0) 底- 高-(2.1)	①中 夾雑鉱物粒を多量に含む ②還元 焰 良好 ③胎土にぶい黄橙10YR7/2 釉灰オリーブ5Y6/2	内面全面 外面口縁部灰釉 生産地・瀬 戸、美濃 年代・17C
15 39	①陶器 ②丸皿 ③1/5	970-290	口-(6.0) 底-(3.3) 高-(1.6)	①中 夾雑鉱物粒を含む ②還元焰 良 好 ③胎土灰白7.5Y8/1	内外面灰釉 高台と口縁部を平坦に2次 加工 生産地・瀬戸、美濃 年代・17C
16 39	①陶器 ②播鉢 ③口辺部片	965-355	口-(33.6) 底- 高-(6.0)	①粗 夾雑鉱物粒を多量に含む ②還元 焰 良好 ③灰褐7.5YR4/2	ロクロ調整 内面櫛目 生産地・丹波
17 39	①土師質土器 ②皿 ③口辺部～底部1/4	970-290	口-(9.7) 底-(7.2) 高-2.5	①中 細砂, パミスを多量に含む ②酸 化焰 普通 ③明褐灰7.5YR7/2	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整 内面全面と口縁部に油煤付着
18 39	①瓦 ②平瓦 ③破片	960-350	長さ-6.3 幅 -5.6 厚さ-1.1	①中 細砂, パミスを少量含む ②二次 焼成無 ③灰N6/0	凸面ナデ 凹面布目

第4節 遺構外遺物出土状況

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置 (Gr)	量目 (cm・g)				①胎土②焼成③色調	特 徴		
			長さ	幅	孔径	重量				
19 39	①土製品 ②土錘 ③1/2	965-350	《3.3》	1.8	0.4	8.1	①中 細砂、パミスを少量含む ②還元焰 不良 ③褐灰7.5YR4/1	外面磨き		
遺物No. 写真頁	①種類②器種	残存状態	石材	出土位置 (Gr)	量目 (cm・g)				特 徴	
20 39	①石製品 ②砥石	1/2?	砥沢石	970-290	(13.5)	(3.4)	3.1	160.0		1面使用 3面に成形痕残す
遺物No.	写真頁	種類	器種	残存状態	出土位置 (Gr)	量目 (cm・g)				特 徴
21	39	金属器	キセル	完形	980-290	8.9	1.0	0.8	13.3	
22	39	金属器	釘?	一部残存	980-290	《4.5》	0.3	0.3	0.9	残存きわめて悪い
23	39	金属器	釘?	一部残存	980-290	《4.4》	0.5	0.6	1.8	残存きわめて悪い
24	39	金属器	釘?	一部残存	980-290	《7.7》	0.7	0.5	2.5	残存きわめて悪い
25	39	金属器	釘?	一部残存	980-290	《6.1》	0.4	0.5	2.2	残存きわめて悪い
26	39	金属器	釘?	一部残存	980-290	《4.9》	0.5	0.5	1.4	残存きわめて悪い
27	39	金属器	釘?	一部残存	980-290	《3.8》	0.7	0.6	2.2	残存きわめて悪い
28	39	金属器	釘	ほぼ完形	980-290	6.6	0.8	0.9	4.2	残存きわめて悪い
29	39	金属器	釘?	一部残存	980-290	《5.1》	0.6	0.6	4.1	残存きわめて悪い
30	39	金属器	釘?	一部残存	980-290	《5.0》	0.5	0.5	1.8	残存きわめて悪い

遺構外出土遺物観察表

遺物No. 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm)	①胎土②焼成③色調外④色調内	成・整形技法の特徴
1 40	①古式土師器 ②器台 ③器受部片	不明	口- 底- 高-《3.8》	①粗 粗砂、礫、パミスを多量に含む ②酸化焰 不良 ③橙7.5YR7/6	外面磨き
2 40	①土師器 ②坏 ③1/2	不明	口-(12.2) 底-(8.6) 高-3.4	①粗 細砂、粗砂、パミス、黒色粒を多量に含む ②酸化焰 不良 ③にぶい褐7.5YR6/3	口縁部横ナデ 体部指頭圧痕 底部外面磨削り 内面ナデ
3 40	①土師器 ②坏 ③1/4	不明	口-(12.2) 底-(8.2) 高-3.8	①粗 細砂に礫、パミスを多量に含む ②酸化焰 普通 ③にぶい橙 5 YR6/4	口縁部横ナデ 体部下半～底部外面磨削り 内面ナデ
4 40	①土師器 ②坏 ③口辺部～底部片	不明	口-(11.0) 底- 高-《3.0》	①中 細砂、粗砂、パミスを少量含む ②酸化焰 普通 ③橙 5 YR6/6	口縁部横ナデ 体部指頭圧痕 底部外面磨削り 内面ナデ
5 40	①土師器 ②高坏 ③脚上半部	不明	口- 底- 高-《2.9》	①中 細砂、パミスを少量含む ②酸化焰 良好 ③橙2.5YR6/6	外面磨き? 摩滅が著しい
6 40	①土師器 ②台付甕 ③底部～脚台部片	不明	口- 底- 高-《3.5》	①細 細砂を少量含む ②酸化焰 良好 ③赤橙10R6/6	脚台部横ナデ
7 40	①須恵器 ②坏 ③1/5	不明	口-(13.5) 底-(6.0) 高-4.0	①細 細砂、粗砂、パミスをわずかに含む ②還元焰 不良 ③灰白7.5Y8/1	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り無調整
8 40	①須恵器 ②坏 ③底部～体部片	不明	口- 底-7.3 高-《3.1》	①細 粗砂、礫を多量に含む ②還元焰 普通 ③灰7.5Y6/1	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り無調整
9 40	①須恵器 ②坏 ③底部片	不明	口- 底-(9.0) 高-《1.5》	①粗 細砂に礫、パミスを多量に含む ②還元焰 良好 ③黄灰2.5Y6/1	ロクロ調整(?) 底部回転磨削り 摩滅著しい
10 40	①須恵器 ②碗 ③口辺部～体部片	不明	口-(9.5) 底- 高-《4.3》	①細 細砂、パミスをわずかに含む ②還元焰 良好 ③灰N5/0	ロクロ調整(?)
11 40	①須恵器 ②高台付碗 ③底部片	不明	口- 底-6.4 高-1.5	①粗 細砂に礫、パミスを多量に含む ②還元焰 普通 ③黄灰2.5Y4/1	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り後高台貼付
12 40	①須恵器 ②高台付碗 ③底部片	不明	口- 底- 高-《1.7》	①中 細砂に礫を少量含む ②還元焰 不良 ③灰白10YR7/1	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り後高台貼付
13 40	①須恵器 ②蓋 ③つまみ部	不明	つまみ-3.5 底- 高-《1.7》	①細 細砂、パミスを少量含む ②還元焰 普通 ③灰白2.5Y8/1	ロクロ調整(?) 環状紐貼付

第三章 遺構と遺物

14 40	①須恵器 ②甕 ③底部～胴部片	不明	口－ 底－(16.7) 高－(11.5)	①中 粗砂、礫を少量含む ②還元焰 良好 ③灰N5/0	胴部下半回転篋削り 底部に成形時の木 片のあてもの圧痕?
15 40	①灰釉陶器 ②壺 ③胴部片	不明	口－ 底－ 高－(5.4)	①細 夾雑鉱物粒を少量含む ②還元焰 良好 ③胎土褐灰7.5YR6/1 釉灰オリ ープ7.5Y5/2	ロクロ調整 外面灰釉 年代・平安
16 40	①緑釉陶器 ②皿 ③口片部～体部片	不明	口－(10.4) 底－ 高－(2.6)	①中 夾雑鉱物粒を少量含む ②還元焰 良好 ③胎土淡黄2.5Y8/3 釉にぶい黄 2.5Y6/4	ロクロ調整 灰釉口縁部 生産地・瀬戸、 美濃 年代・14C
17 40	①軟質陶器 ②焙烙 ③口辺部～体部片	不明	口－(32.5) 底－(31.8) 高－(2.7)	①中 夾雑鉱物粒を含む ②酸化焰 良 好 ③暗赤灰2.5YR3/1 ④にぶい橙2.5 YR6/4	ロクロ調整 外面煤付着
18 40	①軟質陶器 ②火鉢 ③脚部片	不明	口－ 底－(46.4) 高－(3.8)	①中 夾雑鉱物粒を含む ②還元焰 良 好 ③黒2.5Y2/1	外面黒着色 外面磨き
19 40	①陶器 ②碗 ③底部片	不明	口－ 底－(8.0) 高－(1.3)	①中 夾雑鉱物粒を少量含む ②還元焰 普通 ③浅黄 5 Y7/3	内面灰釉 生産地・瀬戸、美濃 年代・ 江戸
20 40	①陶器 ②丸皿 ③底部片	不明	口－ 底－(7.2) 高－(1.5)	①中 夾雑鉱物粒を多量に含む ②還元 焰 良好 ③灰白 5 Y8/2	ロクロ調整 削りだし高台 生産地・瀬 戸 美濃 年代・17C
21 40	①陶器 ②灯明皿 ③1/5	不明	口－(9.9) 底－(4.9) 高－2.7	①細 夾雑鉱物粒をわずかに含む ②還 元焰 良好 ③胎土灰N6/0 釉明赤褐 5 YR3/4	ロクロ調整(右) 錆釉内面から口縁 体 部は施釉後ふきとり 見込重ね焼痕 生 産地・瀬戸、美濃
22 40	①陶器 ②受皿 ③1/4	不明	口－(10.0) 底－(4.4) 高－2.0	①細 夾雑鉱物粒を少量含む ②還元焰 良好 ③胎土にぶい黄橙10YR7/3 釉 褐7.5YR4/3	内面全面 外面口縁部錆釉 外面体部釉 拭い取る 受け部切り込み1ヶ所 生産 地・瀬戸、美濃 年代・19C
23 40	①陶器 ②灯明皿 ③口辺部～体部片	不明	口－(10.8) 底－ 高－(2.6)	①細 夾雑鉱物粒をわずかに含む ②還 元焰 良好 ③胎土灰白2.5Y8/2 釉浅 黄2.5Y7/3	ロクロ調整 透明釉 内面から口縁部へ 貫入 内面目跡1残存 口縁に煤 生産 地・不詳 年代・近代
24 40	①陶器 ②捏ね鉢 ③1/2	不明	口－ 底－21.6 高－(12.5)	①粗 夾雑鉱物粒を多量に含む ②還元 焰 良好 ③胎土灰黄2.5Y7/1 釉灰オ リープ7.5Y4/2	内面全面 外面底部以外灰釉 内面に8 ヶ所目跡 生産地・益子、笠間 年代・ 近代～昭和
25 40	①磁器 ②筒形碗 ③口縁1/3	不明	口－8.0 底－8.0 高－(5.3)	①細 夾雑鉱物粒をわずかに含む ②還 元焰 良好 ③胎土灰白10Y7/1	内面染付 四方襷 外面無文 青磁染付 生産地・肥前 年代・18C中～後
26 40	①磁器 ②皿 ③1/2	不明	口－(13.5) 底－6.2 高－3.3	①細 夾雑鉱物粒をわずかに含む ②還 元焰 良好 ③胎土灰白N8/0	内外面染付 内面体部唐花 生産地・瀬 戸、美濃
27 40	①磁器 ②重 ③1/2	不明	口－(12.6) 底－(11.4) 高－4.6	①細 夾雑鉱物粒を少量含む ②還元焰 良好 ③胎土灰白N8/0 釉灰白2.5GY 8/1	口縁端部釉かき取る 内面無文 生産地・ 肥前 年代・19C前
28 40	①磁器 ②不詳 ③破片	不明	縦－2.3 横－2.9 厚さ－0.9	①微 黒色粒を少量含む ②還元焰 良 好 ③オリープ灰 5 GY6/1	生産地・肥前?
29 40	①磁器(青磁) ②碗 ③口縁部片	不明	口－(13.4) 底－ 高－(1.9)	①細 夾雑鉱物粒をわずかに含む ②還 元焰 良好 ③胎土灰白7.5Y7/1 釉明 オリープ灰2.5GY7/1	内外面施釉 外面鎊蓮弁文 生産地・龍 泉窯系 年代・13C中～後
30 40	①土師質土器 ②皿 ③1/4	不明	口－(8.4) 底－5.4 高－2.1	①中 細砂、粗砂、パミスを多量に含む ②酸化焰 良好 ③橙 5 YR6/8	ロクロ調整 摩滅が著しい
31 40	①土師質土器 ②皿 ③1/5	不明	口－ 底－(7.6) 高－(2.4)	①中 細砂、粗砂、赤褐色粒を多量に含 む ②酸化焰 良好 ③にぶい橙7.5YR 7/4	ロクロ調整 底部回転糸切り無調整
32 40	①土師質土器 ②焜炉 ③口辺部片	不明	口－ 底－ 高－4.7	①中 夾雑鉱物粒を少量含む ②酸化焰 良好 ③橙2.5YR6/6 ④灰白10YR 8/1	ロクロ調整 口縁部を平滑にナデ 口縁 に突起
33 40	①土師質土器 ②置き竈? ③口辺部～胴部片	不明	口－(20.2) 底－ 高－(5.2)	①中 細砂、パミスを少量含む ②酸化 焰 良好 ③にぶい褐7.5YR6/3	ロクロ調整(左) 頸部に補修とおもわれ る金輪痕有 黒変部分は廃棄後付着か

第4節 遺構外遺物出土状況

34 40	①瓦 ②布目瓦 ③体部片	不明	縦-5.2 横-4.0 厚さ-1.2	①粗 細砂~礫. パミスを多量に含む ②不良 ③にぶい黄橙10YR7/2 ④に ぶい橙7.5YR7/4	凸面ナデカ 凹面布目						
35 41	①瓦 ②丸瓦 ③1/3	不明	長さ-(25.2) 幅-(9.0) 厚さ-1.9	①細 夾雑鉱物粒を含む ②二次焼成無 ③暗灰N3/0							
遺物No 写真頁	①種類②器種 ③残存状態	出土位置	量目 (cm・g)				①胎土②焼成③色調		特 徴		
			長さ	幅	孔径	重量					
36 41	①土製品 ②土錘 ③ほぼ完形	不明	4.1	2.1	0.4	13.47	①細 細砂. 粗砂. パミス を含む ②酸化焰 良好 ③灰白10YR7/1		外面磨きか		
37 41	①土製品 ②土錘 ③一部欠	不明	3.7	1.9	0.5	10.25	①粗 細砂~礫. パミス を多量に含む ②酸化焰 不 良 ③にぶい橙 5 YR6/4		外面磨きか		
遺物No 写真頁	①種類②器種	残存状態	石材	出土位置	量目 (cm・g)				特 徴		
					長さ	幅	厚さ	重量			
38 41	①石製品 ②硯	上下端欠	砂岩	不明	(11.4)	6.6		230.0	丘の摩滅著しい		
39 41	①石製品 ②砥石	破片	砥沢石	不明	(11.2)	4.0	4.0	190.0	5面使用		
40 41	①石製品 ②火打石	完形	石英	不明	3.1	2.4		11.9	全面に火打ちに使った痕跡が残る		
41 41	①石製品 ②くぼみ石	完形	軽石	不明	17.0	13.4	10.3	995.0	中央に径3.0cm 深さ3.0cm程の窪み、そ の周囲6ヶ所に小さな窪み		
42 41	①石製品 ②不明石製品	一部欠	変玄武岩	不明	14.8	5.6	4.0	475.0			
遺物No	写真頁	種類	器種	残存状態	出土位置	量目 (cm・g)				特 徴	
						長さ	幅	厚さ	重量		
43	41	金属器	鎌	ほぼ完形	不明	《7.0》	2.0	0.8	25.5	柄の一部木質、止め金具残存	
44	41	金属器	カマドの縁?	破片	不明	9.2	2.9	0.5	19.8		
遺物No	写真頁	種類	残存状態	銭貨名	国名	初鑄年	量目 (cm・g)				特 徴
							外径	孔径	厚さ	重量	
45	41	銭貨	完形	洪武通寶	明	1368年	2.3	0.6	0.2	2.4	
46	41	銭貨	完形	寛永通寶	日本	1697年	2.4	0.6	0.1	3.1	新寛永=3期

## 第5節 遺構番号の置き換え

本遺跡では、発掘調査時には、A区、B区という二つの調査区に分けて調査を進めた。その後、調査区を分けていた市道下も調査したため、おおよそ大きな一つの区画として整理した方が有効と考えた。また、同一の番号が別遺構に付けられているものもあった。さらに同一遺構なのだが調査区をまたいだり、年度をまたぐことによって、同一遺構に別番号が付けられたものもあった。そのため、発掘調査時に付けられた遺構の番号は、整理段階で新たな番号に置き換える必要が生まれた。

そこで以下の置き換えルールを作成し、下記の表のように、遺構番号を置き換えた。

### 遺構番号置き換えのルール

1. 旧調査区名を旧遺構番号の前に付ける。  
A区1号住居 → A1号住居
2. 別遺構に同一番号が付けられていた時は、遺構番号の後ろに小文字アルファベットを付ける。  
B区40号溝2条 → B40a号、B40b号溝
3. 同一遺構に別番号が付けられていた時は、元の遺構番号をハイフン「-」でつなぐ。  
B区42号、50号溝 → B42-B50号溝
4. 発掘調査時には、遺構と認定しなかったり、遺構の種類が違った時は、新たな番号を付ける。ただしこのときは、旧調査区名は付けない。  
B区13号ピット → 107号ピット  
B区61号、62号、89号土坑 → 19柵列

### 遺構番号の置き換え一覧表

#### 堅穴住居跡

掲載遺構名	発掘調査時遺構名	ページ	写真図版
A1号住居	A区1号住居	18～19	3～4・27
B1号住居	B区1号住居	20	3～4・27

#### 堀立柱建物跡

掲載遺構名	発掘調査時遺構名	ページ	写真図版
1号掘立柱建物	A区1号掘立	49～50	4・31
11号掘立柱建物	B区21号土坑、Noなし2、復元1	50～51	
12号掘立柱建物	B区81、B区94、B区98号ピット、Noなし4	51～52	
13号掘立柱建物	B区84、B区109号ピット、Noなし3、復元1	52～53	
14号掘立柱建物	B区30、B区31、B区32号土坑、B区113号ピット、Noなし9、復元3	53～55	4・31
15号掘立柱建物	B区44、B区57、B区62、B区116、B区122、B区127、B区129号ピット、復元2	55～56	31
16号掘立柱建物	A区7号土坑、A区1、A区4、A区10、A区14、A区15、A区19号ピット、復元5	56～57	
17号掘立柱建物	A区6号土坑、A区3、A区5、A区9、A区16、A区20号ピット、復元4	57～58	31
18号掘立柱建物	B区49号土坑、B区170、B区176号ピット、Noなし2、復元3	58～59	

#### 柵列跡

掲載遺構名	発掘調査時遺構名	ページ	写真図版
1号柵列	B区19号溝、B区1号掘立	59～60	
2号柵列	B区3号掘立	60～61	4
3号柵列	B区4号掘立（B区47、B区206、207号ピット）	61	
4号柵列	B区43、B区44、B区45号土坑、Noなし2	61～62	
11号柵列	B区80、B区108号ピット、Noなし4	62～63	
12号柵列	B区25、B区26、B区27、B区28号土坑、Noなし1	63～64	31
13号柵列	B区38号土坑、B区112、B区115、Noなし2、復元1	64	
14号柵列	B区34号土坑、Noなし3、復元1	65	31
15号柵列	Noなし3、復元1	66	
16号柵列	Noなし3	66～67	
17号柵列	B区43、B区44、B区45号土坑、Noなし2	61～62	
18号柵列	B区56、B区64、B区123、B区132号ピット、Noなし1	67	
19号柵列	B区61、B区62、B区89号土坑	68	

溝

掲載遺構名	発掘調査時遺構名	ページ	写真図版
A 1号溝	A区1号溝	44~46	5
B 1号溝	B区1号溝	21	
A 2号溝	A区2号溝	72~73	5・32
B 2号溝	B区2号溝	21	8
A 3号溝	A区3号溝	72~73	5
B 3号溝	B区3号溝	77	8・32
A 4号溝	A区4号溝	72~73	5
B 4号溝	B区4号溝	78~79	9・32
A 5号溝	A区5号溝	72~73	5
B 5号溝	B区5号溝	80	9・32
A 6号溝	A区6号溝	163~164	5・39
B 6号溝	B区6号溝	80~81	9・32
A 7号溝	A区7号溝	74~76	5
B 7号溝	B区7号溝	21~23	9・27
A 8号溝	A区8号溝	74~76	6
B 8号溝	B区8号溝	22	10
A 9号溝	A区9号溝	44~46	5・27
B 9号溝	B区9号溝	22~23	10
A10-B11号溝	A区10、B区11号溝	23~27	6~7・ 27~28
A11-B10号溝	A区11、B区10号溝	23~24 26~28	6~7・28
A12号溝	A区12号溝	23~24	6
B12号溝	B区12号溝	78~79	9・10
A13号溝	A区13号溝	74~76	6・7
B13号溝	B区13号溝	78~79	9
A14号溝	A区14号溝	74~76	7・8
B14号溝	B区14号溝	78~79	9
A15号溝	A区15号溝	74~76	7・8
B15号溝	B区15号溝	78~79	9
A16号溝	A区16号溝	75~76	7
B16号溝	B区16号溝	79	9
B17号溝	B区17号溝	81~86	10・32~33
B20号溝	B区20号溝	86~87	11
B21号溝	B区21号溝	86・88~95	11・33~34
B22号溝	B区22号溝	95~96	11・35
B23号溝	B区23号溝	96~97	
B24号溝	B区24号溝	97	11
B25号溝	B区25号溝	98~99	11・35
B26号溝	B区26号溝	100~102	12・35
B27-B45-B72号溝	B区27、B区45、B区 72号溝	104~107	12・35
B28号溝	B区28号溝	107~108	12
B29号溝	B区29号溝	100~104	12・36
B30号溝	B区30号溝	100~101	12
B31号溝	B区31号溝	100~104	13・36
B32号溝	B区32号溝	108	13
B33号溝	B区33号溝	98~99	36
B35号溝	B区35号溝	109~111	13・36
B36号溝	B区36号溝	111	13
B37号溝	B区37号溝	111~113	13・36
B38号溝	B区38号溝	113	14
B39号溝	B区39号溝	114~116	14・36
B40a号溝	B区40号溝	117~120	14・36~37
B40b号溝	B区40号溝	98~99	14
B41号溝	B区41号溝	28~33	14・28~30
B42-B50号溝	B区42、B区50号溝	114~116	14・37
B43号溝	B区43号溝	114~116	15・37
B44号溝	B区44号溝	120	15

掲載遺構名	発掘調査時遺構名	ページ	写真図版
B47号溝	B区47号溝	117~118	
B48号溝	B区48号溝	114~117	15・37
B49号溝	B区49号溝	117~120	15・37
B51号溝	B区51号溝	114~115	14
B53号溝	B区53号溝	121~122	15・37
B54号溝	B区54号溝	122~124	16・37
B55号溝	B区55号溝	124~125	
B56号溝	B区56号溝	164・166	16
B57号溝	B区57号溝	164・166 ~167	16・39
B58号溝	B区58号溝	165~166	17
B60号溝	B区60号溝	125	17
B61号溝	B区61号溝	125~126	17
B62号溝	B区62号溝	126~127	17
B63号溝	B区63号溝	126~127	17・37
B64号溝	B区64号溝	165~166	18
B67号溝	B区67号溝	167	
B68号溝	B区68号溝	100~101	18
B69号溝	B区69号溝	165~166	18
B70号溝	B区70号溝	165~166	18
B71号溝	B区71号溝	165~166	
B73号溝	B区73号溝	127~128	18

第三章 遺構と遺物

土坑

掲載遺構名	発掘調査時遺構名	ページ	写真図版
B 2号土坑	B区2号土坑	34	19
A 5号土坑	A区5号土坑	128	19
B 6号土坑	B区6号土坑	34	19・30
B 8号土坑	B区8号土坑	34～36	19・30
B 9号土坑	B区9号土坑	36	19・30
B11号土坑	B区11号土坑	36～39	20・30～31
A12号土坑	A区12号土坑	128	19
B12号土坑	B区12号土坑	129	20
A13号土坑	A区13号土坑	129	19
A14号土坑	A区14号土坑	129	19
B13号土坑	B区13号土坑	39	20
B16号土坑	B区16号土坑	40	20
B18号土坑	B区18号土坑	40	20
B19号土坑	B区19号土坑	129～130	20・37
B20号土坑	B区20号土坑	130～131	20・37
B22号土坑	B区22号土坑	40	20
B24号土坑	B区24号土坑	131	21
B29号土坑	B区29号土坑	132	21
B33号土坑	B区33号土坑	132	
B35号土坑	B区35号土坑	132	21
B36号土坑	B区36号土坑	133	
B37号土坑	B区37号土坑	133	21
B39号土坑	B区39号土坑	133～134	21・37
B40号土坑	B区40号土坑	134	
B41号土坑	B区41号土坑	134	21
B42号土坑	B区42号土坑	134	21
B46号土坑	B区46号土坑	135	22
B48号土坑	B区48号土坑	135	22
B50号土坑	B区50号土坑	135	22
B51号土坑	B区51号土坑	135～136	22
B52号土坑	B区52号土坑	136	22
B53号土坑	B区53号土坑	136	22
B54号土坑	B区54号土坑	136	22
B55号土坑	B区55号土坑	41	22
B60号土坑	B区60号土坑	41	23
B76号土坑	B区76号土坑	137	23
B85号土坑	B区85号土坑	137	23
B86号土坑	B区86号土坑	137～138	23・37
B87号土坑	B区87号土坑	138～139	23・38
B88号土坑	B区88号土坑	139	23
B90号土坑	名称なし	140	

井戸跡

掲載遺構名	発掘調査時遺構名	ページ	写真図版
A 1号井戸	A区1号井戸	140～141	24・38
B 1号井戸	B区1号井戸	41～42	24・31
A 2号井戸	A区2号井戸	141	23
B 2号井戸	B区2号井戸	141～142	24・38
B 3号井戸	B区3号井戸	142～143	24・38
B 4号井戸	B区4号井戸	143	24
B 5号井戸	B区5号井戸	144	25
B 6号井戸	B区15号土坑	144	25・38
B 7号井戸	B区17号土坑	145	25
B11号井戸	B区23号土坑	145	25

土坑墓

掲載遺構名	発掘調査時遺構名	ページ	写真図版
B 1号土坑墓	B区1号墓	145～146	25・38

ピット

掲載遺構名	発掘調査時遺構名	ページ	写真図版
101号ピット	なし	148	
102号ピット	なし	148	
103号ピット	なし	148	
104号ピット	なし	148	
105号ピット	なし	148	
106号ピット	なし	148	
107号ピット	13号ピット	148	
108号ピット	12号ピット	148	
109号ピット	なし	148	
110号ピット	なし	148	
111号ピット	17号ピット	148	
112号ピット	18号ピット	148	
113号ピット	なし	148	
114号ピット	なし	148	
115号ピット	7号ピット	148	
116号ピット	なし	148	
117号ピット	6号ピット	148	
118号ピット	なし	148	
201号ピット	251号ピット	149	
202号ピット	245号ピット	149	
203号ピット	なし	149	
204号ピット	232号ピット	149	
205号ピット	233号ピット	149	
206号ピット	234号ピット	149	
207号ピット	235号ピット	149	
208号ピット	236号ピット	149	
209号ピット	237号ピット	149	
210号ピット	239号ピット	149	
211号ピット	なし	149	
212号ピット	240号ピット	149	
213号ピット	238号ピット	149	
214号ピット	241号ピット	149	
215号ピット	252号ピット	149	
216号ピット	243号ピット	149	
217号ピット	244号ピット	149	
218号ピット	229号ピット	149	
219号ピット	230号ピット	149	
220号ピット	228号ピット	149	
221号ピット	227号ピット	149	
222号ピット	226号ピット	149	
223号ピット	225号ピット	149	
224号ピット	221号ピット	149	
225号ピット	222号ピット	149	
226号ピット	223号ピット	149	
227号ピット	220号ピット	149	
228号ピット	なし	149	
229号ピット	なし	149	
230号ピット	なし	149	
231号ピット	なし	149	
232号ピット	217号ピット	149	
233号ピット	216号ピット	149	
234号ピット	218号ピット	149	
301号ピット	なし	150	
302号ピット	なし	150	
303号ピット	なし	150	
304号ピット	なし	150	
305号ピット	なし	150	
306号ピット	なし	150	
307号ピット	なし	150	

第5節 遺構外番号の置き換え

掲載遺構名	発掘調査時遺構名	ページ	写真図版
308号ビット	なし	150	
309号ビット	なし	150	
310号ビット	なし	150	
311号ビット	なし	150	
312号ビット	なし	150	
313号ビット	104号ビット	150	
314号ビット	103号ビット	150	
315号ビット	なし	150	
316号ビット	102号ビット	150	
317号ビット	なし	150	
318号ビット	なし	150	
319号ビット	101号ビット	150	
320号ビット	なし	150	
321号ビット	なし	150	
322号ビット	なし	150	
323号ビット	なし	150	
324号ビット	231号ビット	150	
325号ビット	100号ビット	150	
326号ビット	95号ビット	150	
327号ビット	97号ビット	150	
328号ビット	96号ビット	150	
329号ビット	99号ビット	150	
330号ビット	なし	150	
331号ビット	なし	150	
332号ビット	なし	150	
333号ビット	なし	150	
334号ビット	なし	150	
335号ビット	なし	150	
336号ビット	なし	150	
337号ビット	79号ビット	150	
338号ビット	なし	150	
339号ビット	なし	150	
340号ビット	224号ビット	150	
341号ビット	219号ビット	150	
342号ビット	なし	150	
343号ビット	93号ビット	150	
344号ビット	なし	150	
345号ビット	なし	150	
346号ビット	なし	150	
347号ビット	なし	150	
348号ビット	なし	150	
349号ビット	107号ビット	150	
350号ビット	なし	150	
351号ビット	106号ビット	150	
352号ビット	105号ビット	150	
353号ビット	なし	150	
354号ビット	85号ビット	150	
355号ビット	83号ビット	150	
356号ビット	82号ビット	150	
401号ビット	78号ビット	151	
402号ビット	なし	151	
403号ビット	77号ビット	151	
404号ビット	76号ビット	151	
405号ビット	なし	151	
406号ビット	なし	151	
407号ビット	なし	151	
408号ビット	なし	151	
409号ビット	なし	151	
410号ビット	なし	151	
411号ビット	なし	151	
412号ビット	なし	151	

掲載遺構名	発掘調査時遺構名	ページ	写真図版
413号ビット	なし	151	
414号ビット	なし	151	
415号ビット	75号ビット	151	
416号ビット	74号ビット	151	
417号ビット	73号ビット	151	
418号ビット	72号ビット	151	
419号ビット	なし	151	
420号ビット	なし	151	
501号ビット	117号ビット	152	
502号ビット	61号ビット	152	
503号ビット	60号ビット	152	
504号ビット	58.59号ビット	152	
505号ビット	118号ビット	152	
506号ビット	119号ビット	152	
507号ビット	120号ビット	152	
508号ビット	121号ビット	152	
509号ビット	133号ビット	152	
510号ビット	135号ビット	152	
511号ビット	136号ビット	152	
512号ビット	137号ビット	152	
513号ビット	134号ビット	152	
514号ビット	130号ビット	152	
515号ビット	128号ビット	152	
516号ビット	53号ビット	152	
517号ビット	124号ビット	152	
518号ビット	125号ビット	152	
519号ビット	131号ビット	152	
520号ビット	55号ビット	152	
521号ビット	54号ビット	152	
522号ビット	126号ビット	152	
523号ビット	63号ビット	152	
524号ビット	51号ビット	152	
525号ビット	67号ビット	152	
526号ビット	52号ビット	152	
527号ビット	50号ビット	152	
528号ビット	49号ビット	152	
529号ビット	48号ビット	152	
530号ビット	47号ビット	152	
531号ビット	142号ビット	152	
532号ビット	141号ビット	152	
533号ビット	140号ビット	152	
534号ビット	139号ビット	152	
535号ビット	138号ビット	152	
536号ビット	146号ビット	152	
537号ビット	147号ビット	152	
538号ビット	148号ビット	152	
539号ビット	149号ビット	152	
540号ビット	150号ビット	152	
541号ビット	151号ビット	152	
542号ビット	152号ビット	152	
543号ビット	185号ビット	152	
544号ビット	なし	152	
545号ビット	177号ビット	152	
546号ビット	178号ビット	152	
547号ビット	159号ビット	152	
548号ビット	160号ビット	152	
549号ビット	179号ビット	152	
550号ビット	180号ビット	152	
551号ビット	181号ビット	152~153	38
552号ビット	182号ビット	152	
553号ビット	163号ビット	152	

第三章 遺構と遺物

掲載遺構名	発掘調査時遺構名	ページ	写真図版
554号ピット	184号ピット	152	
555号ピット	183号ピット	152	
556号ピット	162号ピット	152	
557号ピット	161号ピット	152	
558号ピット	160号ピット	152	
559号ピット	157号ピット	152	
560号ピット	156号ピット	152	
561号ピット	155号ピット	152	
562号ピット	154号ピット	152	
563号ピット	153号ピット	152	
564号ピット	145号ピット	152	
565号ピット	144号ピット	152	
566号ピット	143号ピット	152	
567号ピット	68号ピット	152	
568号ピット	69号ピット	152	
569号ピット	なし	152	
601号ピット	186号ピット	153	
602号ピット	214号ピット	153	
603号ピット	201号ピット	153	
604号ピット	200号ピット	153	
605号ピット	199号ピット	153	
606号ピット	197号ピット	153	
607号ピット	198号ピット	153	
608号ピット	187号ピット	153	
609号ピット	188号ピット	153	
610号ピット	189号ピット	153	
611号ピット	191号ピット	153	
612号ピット	190号ピット	153	
613号ピット	192号ピット	153	
614号ピット	196号ピット	153	
615号ピット	195号ピット	153	
616号ピット	193号ピット	153	
617号ピット	194号ピット	153	
618号ピット	なし	153	
619号ピット	なし	153	
620号ピット	なし	153	
621号ピット	なし	153	
622号ピット	なし	153	
623号ピット	なし	153	
624号ピット	なし	153	
625号ピット	なし	153	
626号ピット	204号ピット	153	
627号ピット	205号ピット	153	
628号ピット	203号ピット	153	
629号ピット	202号ピット	153	
701号ピット	164号ピット	154	
702号ピット	165号ピット	154	
703号ピット	166号ピット	154	
704号ピット	169号ピット	154	
705号ピット	168号ピット	154	
706号ピット	167号ピット	154	
707号ピット	171号ピット	154	
708号ピット	172号ピット	154	
709号ピット	173号ピット	154	
710号ピット	174号ピット	154	
711号ピット	175号ピット	154	
712号ピット	なし	154	
713号ピット	71号ピット	154	
714号ピット	92号ピット	154	38
715号ピット	なし	154	
716号ピット	なし	154	

掲載遺構名	発掘調査時遺構名	ページ	写真図版
717号ピット	なし	154	
718号ピット	90号ピット	154	
719号ピット	なし	154	
720号ピット	なし	154	
721号ピット	89号ピット	154	
801号ピット	41号ピット	155	
802号ピット	40号ピット	155	
803号ピット	なし	155	
804号ピット	43号ピット	155	
805号ピット	43号ピット	155	
806号ピット	43号ピット	155	
807号ピット	45号ピット	155	
808号ピット	46号ピット	155	
809号ピット	42号ピット	155	
810号ピット	12号ピット	155	
811号ピット	39号ピット	155	
812号ピット	38号ピット	155	
813号ピット	37号ピット	155	
814号ピット	35号ピット	155	
815号ピット	36号ピット	155	
816号ピット	34号ピット	155	
817号ピット	18号ピット	155	
818号ピット	17号ピット	155	
819号ピット	16号ピット	155	
820号ピット	15号ピット	155	
821号ピット	14号ピット	155	
822号ピット	13号ピット	155	
823号ピット	19号ピット	155	
824号ピット	20号ピット	155	
825号ピット	21号ピット	155	
826号ピット	23号ピット	155	
827号ピット	22号ピット	155	
828号ピット	24号ピット	155	
829号ピット	25号ピット	155	
830号ピット	26号ピット	155	
831号ピット	27号ピット	155	
832号ピット	28号ピット	155	
833号ピット	29号ピット	155	
834号ピット	30号ピット	155	
835号ピット	32号ピット	155	
836号ピット	31号ピット	155	
837号ピット	33号ピット	155	

## 第IV章 調査の成果と課題

### 第1節 鶴光路榎橋遺跡出土人骨

榎崎修一郎

#### はじめに

鶴光路榎橋遺跡は、群馬県前橋市鶴光路町に位置し、平成9（1997）年10月1日より平成11（1999）年7月31日まで（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団により調査された。この内、B1号土坑墓とB40a号溝より人骨が発見されているので、報告する。B1号土坑墓出土人骨は、平成10（1998）年11月17日に発見されている。伴出遺物は、土坑内より政和通寶及び永楽通寶等の銅銭が7点発見されている。一番新しい鑄造年代は、永楽通寶の1408年であるので、時代は1408年以降の中近世となる。B1号土坑墓からは歯の歯冠部のみしか出土しておらず、非常に保存状態は悪いが、水洗後、接着復元を試み計測を行った。一方、B40a号溝出土人骨は、平成10（1998）年11月19日に発見されている。発見時には、馬骨として取り上げられたが、整理段階で人骨の大腿骨と判明した。水洗後、接着復元を試み計測を行った。以下に、B1号土坑墓とB40a号溝出土人骨について報告する。

歯の計測は藤田（1949b）に従った。また、歯の比較データは、古代人のものはMATSUMURA（1995）を用い、現代人のものは権田（1959）を用いた。人骨の計測は、マルティン法 [MARTIN] に従った（BRÄUER & KNUSSMANN, 1988；馬場, 1991）。また、人骨の比較データは、江戸時代人のものは遠藤他（1967）を用い、現代人のものは大場（1950）を用いた。

#### (1) B1号土坑墓出土人骨

##### 1. 人骨の出土状況

人骨は、長径約94cm、幅約57cm、深さ約10cmの隅丸長方形のB1号土坑墓より出土している。但し、深さは上面が削平されているので確かではない。このB1号土坑墓は、B31号溝の中に掘りこまれて発見されている。

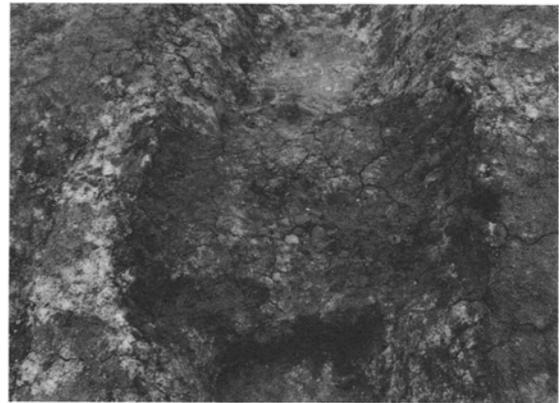


写真1. 鶴光路榎橋遺跡B1号土坑墓出土状況（東から）

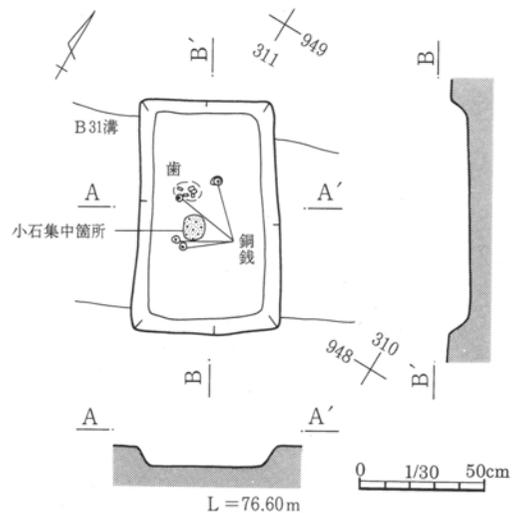


図1. 鶴光路榎橋遺跡B1号土坑墓実測図



写真2. 鶴光路榎橋遺跡B1号土坑墓出土歯の咬合面観

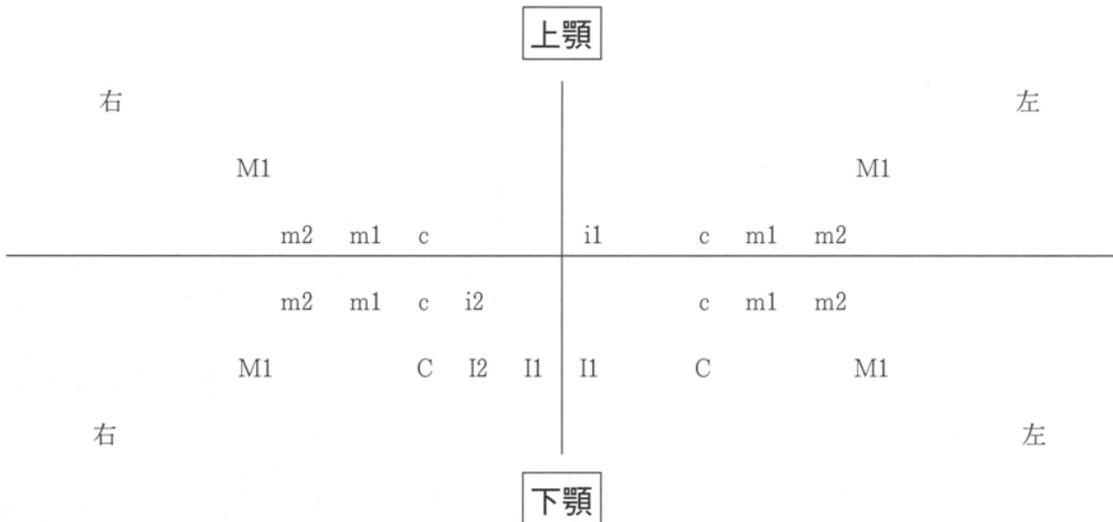


図2. 鶴光路榎橋遺跡B1号土坑墓出土歯の残存表

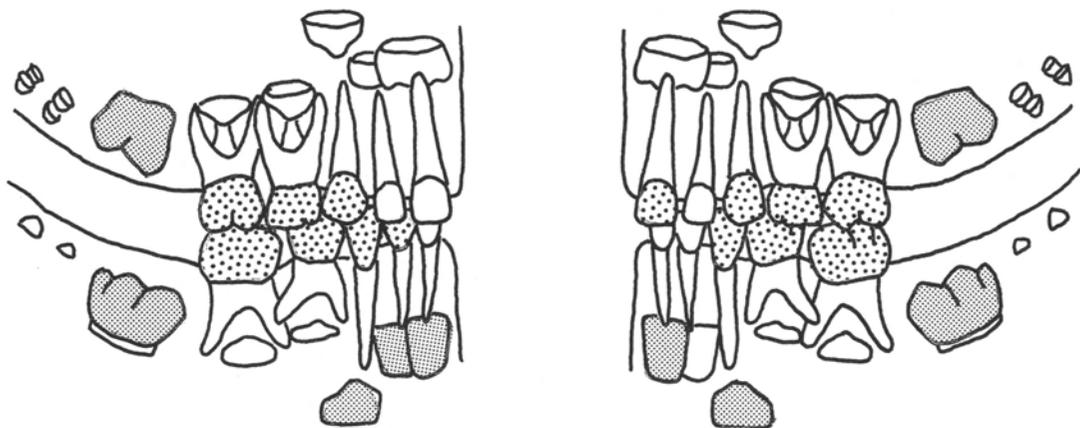


図3. 鶴光路榎橋遺跡B1号土坑墓出土歯の残存図  
(註：粗の点は乳歯、密の点は永久歯を表す)

表1. 鶴光路榎橋遺跡B1号土坑墓出土永久歯歯冠計測値及び比較表

鶴光路榎橋遺跡			鎌倉時代人*				江戸時代人*				現代日本人**					
			♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀						
歯種	左右	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	
上	M1	右	12.0	12.3	10.45	11.81	10.09	11.30	10.61	11.87	10.18	11.39	10.68	11.75	10.47	11.40
顎	M1	左	12.0	12.3	10.45	11.81	10.09	11.30	10.61	11.87	10.18	11.39	10.68	11.75	10.47	11.40
下	I1	右	6.1	—	5.42	5.78	5.22	5.61	5.45	5.78	5.32	5.65	5.48	5.88	5.47	5.77
	I1	左	6.1	—	5.42	5.78	5.22	5.61	5.45	5.78	5.32	5.65	5.48	5.88	5.47	5.77
	I2	右	7.3	—	6.04	6.22	5.78	5.98	6.09	6.29	5.97	6.11	6.20	6.43	6.11	6.30
	I2	左	7.3	—	6.04	6.22	5.78	5.98	6.09	6.29	5.97	6.11	6.20	6.43	6.11	6.30
顎	M1	右	13.3	11.9	11.56	11.00	11.06	10.49	11.72	11.15	11.14	10.62	11.72	10.89	11.32	10.55
	M1	左	13.6	—	11.56	11.00	11.06	10.49	11.72	11.15	11.14	10.62	11.72	10.89	11.32	10.55

註1：計測値の単位は、すべて、「mm」である。  
 註2：I1（第1切歯）・I2（第2切歯）・M1（第1大臼歯）を意味する。  
 註3：MD（歯冠近遠心径）・BL（歯冠唇舌径）を意味する。  
 註4：\*はMATSUMURA（1995）より、\*\*は権田（1955）より引用  
 註5：永久歯は、全部で9本出土しているが下顎左右犬歯は歯冠部が完成していないので計測値の比較はできない。  
 また、下顎切歯の歯冠唇舌径も歯冠部の形成が完成していないので計測値の比較はできない。

表2. 鶴光路榎橋遺跡B1号土坑墓出土乳歯歯冠計測値及び比較表

鶴光路榎橋遺跡出土乳歯				現代日本人乳歯*		
歯種	左右	MD	BL	MD	BL	
上	i1	左	7.7	6.0	6.4	4.8
	c	右	8.0	6.0	6.9	5.9
	c	左	7.8	6.2	6.9	5.9
	m1	右	8.3	9.1	7.2	9.1
	m1	左	8.2	9.5	7.2	9.1
	m2	右	10.7	11.0	9.3	10.6
下	m2	左	10.7	11.0	9.3	10.6
	i2	右	6.5	4.6	4.8	4.2
	c	右	6.5	5.5	5.8	5.3
	c	左	6.5	5.3	5.8	5.3
	m1	右	8.8	8.2	8.9	7.1
	m1	左	9.5	8.1	8.9	7.1
顎	m2	右	11.9	10.0	10.6	9.0
	m2	左	11.9	9.9	10.6	9.0

註1：計測値の単位は、すべて、「mm」である。  
 註2：歯種は、i1（第1乳切歯）・i2（第2乳切歯）・c（乳犬歯）・m1（第1乳臼歯）・m2（第2乳臼歯）を意味する。  
 註3：MD（歯冠近遠心径）・BL（歯冠唇舌径）を意味する。  
 註4：\*現代人のデータは、藤田（1949a）より引用

表3. 鶴光路榎橋遺跡B1号土坑墓出土永久歯の非計測的形質

上下	歯種	観察項目	観察結果		
			右	左	
上	顎	M1	カラベリ結節	無し	無し
下	顎	M1	第6咬頭	有り	有り
			第7咬頭	無し	無し
			原錘茎状突起	無し	無し
			屈曲隆線	無し	無し

註：歯種のM1は、第1大臼歯を意味する。

## 2. 出土人骨の残存状況

すべて、歯の歯冠部のみである。乳歯と永久歯との混合歯であり、全部で23本出土している。その内訳は、乳歯が14本で、永久歯が9本である。前頁に、写真・残存表・残存図を示した。

## 3. 頭位及び埋葬形態

頭位は、歯の出土状況より、北西向きである。また、歯しか出土していないが、埋葬形態は土坑の形状及び大きさより伸展葬ではなく、屈葬であったと推定される。これは、死亡年齢推定の項で述べるが、今回の被葬者の死亡年齢は約3歳の男児と推定された。現代日本人のデータを1975年の統計で見ると、3歳の男児の平均身長は約95.3cmであり、女兒の平均身長は約95.4cmである（鈴木、1996）。中世であれば、もう少し身長が低かったことが予測される。本人骨が出土したB1号土坑墓の長径は、約94cmであり、ぎりぎりに伸展葬にされたとも考えられるが、歯の出土位置が北側から1/3ほど南側に寄っているので、屈葬であろう。さらに、歯には火を受けた痕跡が見られないため、火葬ではなく、土葬であったと推定される。このことは、歯がまとまった箇所から出土していることから裏付けられる。

## 4. 被葬者の個体数

歯の歯冠部に重複部位が認められないことより、被葬者の個体数は1体と考えられる。このことは、土坑の大きさからも裏付けられる。

## 5. 被葬者の性別

歯の歯冠部計測値より、歯の大きさは乳歯及び永久歯共に大きく、男性（男児）である可能性が高い。

## 6. 被葬者の死亡年齢

成長過程にある子供の場合、その死亡年齢は歯の萌出過程でかなり正確に推定することが可能である。しかし、その場合は歯の歯根の形成過程の度合いで推定するが、今回の出土歯は歯冠部のみで歯根が保存されておらず、困難である。今回の個体の歯の咬耗は、乳歯の場合、エナメル質のみであり象牙質にまでは達しておらず、咬耗度は、14本の歯すべてがブローカ [BROCA] の1度である。また、永久歯

の場合、9本の歯すべてに咬耗が認められずブローカの0度である。このことは、永久歯がまだ未萌出であることを示す。出土歯の色を見ると、乳歯が淡緑色、永久歯が淡茶色を呈している。乳歯の場合、埋葬後、伴出遺物の銅銭の緑青により着色され、未萌出の永久歯は顎骨内部にあり着色されなかったと考えられる。さらに、永久歯の下顎切歯及び犬歯を見ると歯冠部のみが形成過程にあり、上下顎の第1大臼歯は歯冠がほぼ完成していることがわかるので、これらの所見を総合して、この個体は約3歳であると推定される。

## 7. 歯の病変

俗に虫歯と呼ばれる齲蝕は、乳歯及び永久歯の23本の歯の歯冠部には認められなかった。また、歯石も認められなかった。

## (2) B40 a 号溝出土人骨

### 1. 人骨の出土状況

B区にB40a号溝より出土している。このB40a号溝は、長さ約38m、幅1.6~3.7mの溝で、出土遺物より時代は中近世である。詳しい出土位置は不明である。

### 2. 人骨の残存状況

人骨は、小さな破片で取り上げられたが、水洗後、可能な限り接着復元した結果、約15cmの長さを持つ左大腿骨骨幹中央部と判明した。



写真3. 鶴光路榎橋遺跡B40a号溝出土人骨  
左大腿骨骨幹中央部

表4. 鶴光路榎橋遺跡B40a号溝出土大腿骨計測値及び比較表

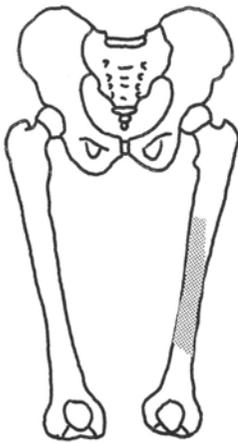


図4. 鶴光路榎橋遺跡B40a号溝出土人骨残存図

計測項目: Martin(1928)	鶴光路榎橋遺跡	江戸時代人骨*		現代人骨**	
		♂	♀	♂	♀
6. 体中央矢状径	24.0mm	28.3mm	24.8mm	27.6mm	24.5mm
7. 体中央横径	25.0mm	27.4mm	24.1mm	26.3mm	23.0mm
8. 体中央周径	76.0mm	87.2mm	76.9mm	83.7mm	73.8mm
6:7 体中央断面示数	96.0	103.9	103.1	105.4	107.3

\* : 遠藤・北條・木村 (1967) より引用

\*\* : 大場 (1950) より引用

### 3. 個体数

大腿骨に重複部位はみられないので、個体数は1体と考えられる。

### 4. 性別

大腿骨骨幹部の計測値より、計測値が比較的小さく女性であると推定される。

### 5. 死亡年齢

大腿骨破片しか出土しておらず、死亡年齢の決め手となる指標に欠けるので、成人としか推定できない。

## まとめ

鶴光路榎橋遺跡のB1号土坑墓とB40a号溝から人骨が出土した。1408年以降の中近世のB1号土坑墓からは、乳歯14本と永久歯9本の合計23本の歯の歯冠部が出土したが、頭位を北西向きにした屈葬で土葬により埋葬されたと推定される。被葬者の死亡年齢は約3歳で、性別は男性(男児)で個体数は1体である。歯には、齲蝕や歯石は認められなかった。また、中近世のB40a号溝からは、左大腿骨破片が出土したが、成人女性のものと推定される。

## 謝辞

本出土人骨を報告する機会を与えていただき、出土人骨に関する様々な情報をいただいた、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の長沼孝則氏に感謝いたします。

## 参考文献及び引用文献(ABC順)

- 馬場悠男 1991 『人類学講座別巻1.人体計測法 II.人骨計測法』、雄山閣出版  
 BRÄUER, G. & KNUSSMANN, R. 1988 Anthropometrie (KNUSSMANN ed), "ANTHROPOLOGIE", Gustav Fischer Verlag, pp.129-285.  
 遠藤萬里・北條暉幸・木村 賛 1967 「四肢骨」『増上寺徳川將軍墓とその遺品・遺体』(鈴木 尚・矢島恭介・山辺知行編)、東京大学出版会、p.275-405.  
 藤田恒太郎 1965 『歯の話』、岩波書店  
 藤田恒太郎 1949a 『歯の解剖学』、金原出版  
 藤田恒太郎 1949b 歯の計測規準について、「人類学雑誌」、61: 1-6.  
 権田和良 1959 歯の大きさの性差について、「人類学雑誌」、67: 151-163.  
 上條雍彦 1962 『日本人永久歯解剖学』、アナトーム社  
 MATSUMURA, Hirofumi 1995 A microevolutional history of the Japanese people as viewed from dental morphology, *National Science Museum Monographs* No. 9, National Science Museum.  
 大場信次 1950 関東地方人大腿骨の人類学的研究、「東京慈恵会医科大学解剖学教室業績集」、第9輯  
 白水美輝雄・中村正雄・古橋九平 1970 『歯の形態学』、医歯薬出版  
 鈴木隆雄 1996 『日本人のからだ』、朝倉書店

## 第2節 鶴光路榎橋遺跡出土獣骨

榎崎修一郎

### はじめに

鶴光路榎橋遺跡は、群馬県前橋市鶴光路町に位置し、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が平成9(1997)年10月1日より平成11(1999)年7月31日まで行われた。この遺跡の、B6号井戸・B27-B45-B72号溝・B41号溝より馬歯及び牛歯を中心として獣骨が出土したので以下に報告する。なお、馬歯及び牛歯の計測方法は、von den Driesch(1976)に従った。

### (1) 獣骨の出土状況及び時代

本獣骨は、B6号井戸・B27-B45-B72号溝・B41号溝の3ヶ所から出土している。その他、出土地点不明の獣骨が1点発見されている。時代は、出土状況及び出土遺物よりB6号井戸とB27-B45-B72号溝が中近世・B41号溝が奈良平安時代に比定されている。

#### 1. B6号井戸 [No.2で記載]

B6号井戸は、長径約66cm・短径約63cm・深さ約84cmの井戸であるが、調査では井戸の底までは発掘調査をしていない。出土状況は、不明である。

#### 2. B27-B45-B72号溝 [No.18で記載]

B27-B45-B72号溝は、長さ約50.5m・幅約1.7~1.9m・深さ約35cmの溝である。出土状況は不明である。

#### 3. B41号溝 [No.30~39で記載]

B41号溝は、長さ約27.5m・幅約0.4~2.9m・深さ約21~75cmの溝である。出土状況は、番号のNo.30~35までは、約8m以内に発見されている。

### (2) 獣骨の残存状態

#### 1. B6号井戸出土獣骨 [No.2で記載]

馬歯の下顎左第3大白歯(M3)が、遠心部分が破損した状態で1本出土している。その他、破損した状態でもう1本出土しており、馬歯の下顎左第2大白歯(M2)と推測されるが歯種の同定はできなかった。色及び保存状態も良く似ており、恐らく、同一個体と思われる。

#### 2. B27-B45-B72号溝出土獣骨 [No.18で記載]

牛歯の下顎左第2小白歯(P2)・第3小白歯(P3)・第4小白歯(P4)・第1大白歯(M1)の4本が出土している。

この内、第1小白歯~第3小白歯までは歯根は破損しているが歯冠部は完全である。しかし、第1大白歯は、歯冠部も破損している。また、下顎骨も一部保存されており、同一個体であると思われる。

#### 3. B41号溝出土獣骨 [No.30~39で記載]

全部で10ヶ所で発見されて取り上げられている。この内、同定不能の破片や歯種不明の破片を除くと、馬歯・馬骨と牛歯が出土している。馬歯では、上顎左第2切歯(I2:No.39)・上顎右第1大白歯(M1:No.38)・上顎左第1大白歯(M1:No.31)・上顎左第2大白歯(M2:No.32)・上顎左第3大白歯(M3:No.33)がそれぞれ1本ずつ発見されている。この内、上顎左の第1大白歯~第3大白歯(M1~M3:No.31~33)は、取り上げ位置も同じ箇所であり、色及び保存状態も良く似ており、恐らく、同一個体と思われるが、その他の歯についてはわからない。また、牛歯では、上顎右第2大白歯(M2:No.37)及び同第3大白歯(M3:No.37)が発見されている。第3大白歯の保存状態はほぼ完全であるが、第2大白歯は破片である。この2本は、取り上げ位置も同じ箇所であり、色及び保存状態も良く似ており、恐らく、同一個体と思われる。

## (2) 個体数

## 1. B6号井戸出土獣骨 [No.2で記載]

馬歯が2点出土しているが、色及び保存状態も良く似ているので、恐らく同一個体と考えられるため、1体と推定される。

## 2. B27-B45-B72号溝出土獣骨 [No.18で記載]

牛歯が4点出土しているが、下顎骨も一部保存されており、歯の色及び保存状態も良く似ているので、恐らく同一個体と考えられるため、1体と推定される。

## 3. B41号溝出土獣骨 [No.30~39で記載]

10ヶ所で取り上げられているが、No.30~35は、約8m以内に発見されており、溝で流されたと仮定すると同一個体の馬である可能性もある。この内、同一箇所で見つかったNo.31~33は歯種も隣り合う歯であり、しかも歯の色及び保存状態も良く似ているので、恐らく同一個体であると考えられる。また、No.38及びNo.39も馬歯であり、歯種もNo.30~35と重複しないが色や保存状態も異なり、それぞれ別個体と推定できる。さらに、No.37は牛歯であり上顎大白歯が2本発見されているが、歯の色及び保存状態も良く似ているので、恐らく同一個体であると考えられる。従って、10ヶ所で取り上げられているので最大個体数で10体となる。但し、この内、2ヶ所の骨・歯は同定不能である。同定された中でみると、馬の場合、最大個体数は7体でありNo.31~33が同一個体と仮定した最小個体数は5体となる。牛の場合は、恐らく1体であろう。

## (4) 性別

馬の場合、性別は上下顎にある犬歯の有無、あるいは寛骨により推定できる。しかし、今回、B6号井戸・B27-B45-B72号溝・B41号溝出土馬歯のどれも、すべての歯が残存して出土しているわけではなく、犬歯の有無が確認できない上、寛骨も出土していないため、性別の推定は難しい。また、馬の歯の計測値による推定も、馬の場合、性差が少ないため推定は難しい。牛の場合、馬よりは性差があると言

われており、角芯や寛骨で性別が推定できるとされているが、馬同様に、今回は歯のみが出土しており性別の推定は難しい。

## (5) 死亡年齢

## 1. B6号井戸出土獣骨 [No.2で記載]

馬歯が2本出土しており、通常であれば、全歯高で死亡年齢の推定ができるが、残念ながら破損しており死亡年齢の推定は難しい。馬の第3大白歯は、約4歳で萌出するので4歳以上としか推定できない。

## 2. B27-B45-B72号溝出土獣骨 [No.18で記載]

牛歯の下顎第2小白歯~第1大白歯(P2~M1)が4点出土している。第2小白歯~第4小白歯(P2~P4)は約2歳から2歳半で萌出し、第1大白歯(M1)は約0.5歳で萌出するので、死亡年齢は2歳半以上ということになる。さらに、第2小白歯~第4小白歯の歯根の完成が約3歳~3歳半なので、死亡年齢は3歳半以上としか推定できないが、咬耗度はかなり高いので死亡年齢も3歳半以上よりかなり上であろう。

## 3. B41号溝出土獣骨 [No.30~39で記載]

破片のため同定しえなかったNo.30・36と馬骨のNo.34を除く、馬歯5点と牛歯1点について死亡年齢を推定した。馬歯の大白歯の場合、歯根中心部と咬合面中心部との距離から推定した。3本がまとまって出土し、恐らく同一個体と考えられる馬歯の上顎第1大白歯~第3大白歯(M1~M3) [No.31~33]は、約11歳~13歳と推定された。同様に馬歯の上顎第1大白歯(M1) [No.38]は約10歳と推定された。上顎第2切歯(I2) [No.39]は、歯の咬耗度より約6歳~9歳と推定された。牛歯は、上顎第2・3大白歯(M2・M3) [No.37]が出土しているが、第2大白歯は破片であるので死亡年齢の推定はできない。牛歯の場合、下顎歯では咬耗度で詳しく死亡年齢が推定できるが、今回は上顎なので推定は難しい。第3大白歯は、牛の場合、約2歳~2歳半で萌出するが咬耗があまりみられないので約3歳以上としか推定できない。

## (6) 馬歯・牛歯の病変

今回、出土した馬歯及び牛歯に、歯石の付着があるものは1本も認められなかった。また、齲蝕（虫歯）があるものも1本も認められなかった。

## (7) 馬・牛の体高

今回、B6号井戸・B27-B45-B72号溝・B41号溝からは馬歯及び牛歯が主に出土しており、馬や牛の生前の体高を推定するのに必要な頭骨・下顎骨・肩甲骨・上腕骨・橈骨・中手骨・大腿骨・脛骨・中足骨等が出土していないため、体高の推定は不可能である。

## (8) 馬・牛の殉殺

我が国における馬及び牛の渡来時期は、どちらもほぼ同じ時期で今から1600年前、5世紀の古墳時代であると考えられている。以前は、縄文時代からと考えられていたが、近年の年代測定によりそのほとんどが攪乱あるいは後世の掘り込みであることが確認されている。

遺跡から出土する牛馬歯・牛馬骨は、目的をもって殉殺した犠牲牛馬と廃牛馬を投棄した斃牛馬との2つに大別されるという。本報告の牛馬歯・牛馬骨の場合、井戸及び溝から出土しているため、犠牲牛馬の可能性が高い。この殉殺した犠牲牛馬の目的としては、水神に捧げる・葬送の道連れに殉葬する・土木工事や戦いに際して神に捧げる等が考えられるという。本牛馬歯・牛馬骨の場合、井戸及び溝から出土しており、井戸の場合は井戸を埋める際の祭祀にまた溝の場合は祈雨祭祀に伴い水神に捧げるために殉殺した可能性が高い。例えば、『日本書紀』には642年6月に群臣が集まって、旱魃に際して雨を祈るために牛馬を殺し河伯（漢神）に祈った記事が見られ、『続日本紀』には791年9月に「殺牛用祭漢神」を禁じた記事があるという（久保・松井、1999）。

## まとめ

鶴光路榎橋遺跡のB6号井戸より馬歯2点・B27-B45-B72号溝より牛歯4点・B41号溝より馬歯6点と牛歯2点が出土した。中近世のB6号井戸から出土した馬歯は、下顎左側第2大白歯（M2）と第3大白歯（M3）であり、破片で出土しているM2は除いてM3は死亡年齢約4歳以上と推定された。恐らく同一個体と考えられるので、個体数は1体である。井戸から出土しているため、井戸を埋める際の祭祀に関連するものと推定される。中近世のB27-B45-B72号溝から出土した牛歯は、下顎左第2小白歯（P2）～第1大白歯（M1）であり、死亡年齢3歳半以上と推定された。恐らく同一個体と考えられるので、個体数は1体である。溝から出土しているため祈雨祭祀に関連するものと推定される。B41号溝からは、馬歯・馬骨・牛歯が出土している。同一個体と考えられる馬歯の上顎左側第1大白歯（M1）～第3大白歯（M3）の死亡年齢は約11歳～13歳と推定された。その他、馬歯が2点出土しており、上顎右第1大白歯（M1）は約10歳、上顎左第2切歯（I2）は約6歳～9歳と推定された。また、牛歯は上顎右第2・3大白歯（M2・M3）が出土しており、同一個体と考えられるが、保存の良い第3大白歯より死亡年齢は約3歳以上と推定された。溝から出土しているため、牛馬歯共に祈雨祭祀に関連するものと推定される。なお、牛馬歯共に、歯石や齲蝕（虫歯）は認められなかった。また、性別及び体高を推定できたものはなかった。

## 謝辞

本出土獣骨を報告する機会を与えていただき、出土獣骨に関する考古学的情報をいただいた、（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団の長沼孝則氏に感謝いたします。

表1. 鶴光路榎橋遺跡出土獣骨表

No.	遺構	出土点数	出土部位	出土月日*
2	B6号井戸	2点	馬歯：下顎左第2・3大白歯(M2・M3)	10月30日
18	B27-B45-B72号溝	4点	牛歯：下顎左第1小白歯～第1大白歯(P1～M1)	11月19日
30	B41号溝	破片	同定不能	11月17日
31		1点	馬歯：上顎左第1大白歯(M1)	
32		1点	馬歯：上顎左第2大白歯(M2)	
33		1点	馬歯：上顎左第3大白歯(M3)	
34		1点	馬骨	
35		破片	馬歯(歯種は同定不能)	
36		破片	同定不能	11月26日
37		2点	牛歯：上顎右第2・3大白歯(M2・3)	11月25日
38		1点	馬歯：上顎右第1大白歯(M1)	11月27日
39		1点	馬歯：上顎左第2切歯(I2)	
47	遺構外出土遺物	1点	馬歯(歯種は同定不能)	不明

\*：出土年は、すべて、平成10(1998)年である。

表2. 鶴光路榎橋遺跡出土獣歯計測値

No.	出土地点	種類	歯種	歯冠長	歯冠幅	頬側歯冠高	出土月日*
2	B6号井戸	馬歯	下顎左M3	計測不能	計測不能	計測不能	10月30日
18	B27-B45-B72号溝	牛歯	下顎左P2	11.5mm	7.7mm	13.0mm	11月19日
			下顎左P3	17.0mm	10.5mm	11.0mm	
			下顎左P4	20.0mm	12.0mm	14.0mm	
			下顎左M1	計測不能	計測不能	計測不能	
30	B41号溝	獣歯	同定不能	計測不能	計測不能	計測不能	11月17日
31		馬歯	上顎左M1	22.0mm	24.5mm	31.0mm	
32			上顎左M2	22.0mm	24.0mm	37.5mm	
33			上顎左M3	25.5mm	23.0mm	40.0mm	
34		馬骨	—	—	—	—	
35		馬歯	同定不能	計測不能	計測不能	計測不能	
36		獣歯	同定不能	計測不能	計測不能	計測不能	11月26日
37		牛歯	上顎右M2	36.0mm	25.0mm	47.0mm	11月25日
			上顎右M3	計測不能	計測不能	計測不能	
38		馬歯	上顎右M1	計測不能	23.5mm	37.0mm	11月27日
39	上顎左I2		15.7mm	11.0mm	—		
47	遺構外出土遺物	馬歯	同定不能	計測不能	計測不能	計測不能	不明

\*：出土年は、すべて、平成10(1998)年である。



写真1. 鶴光路榎橋遺跡出土馬歯

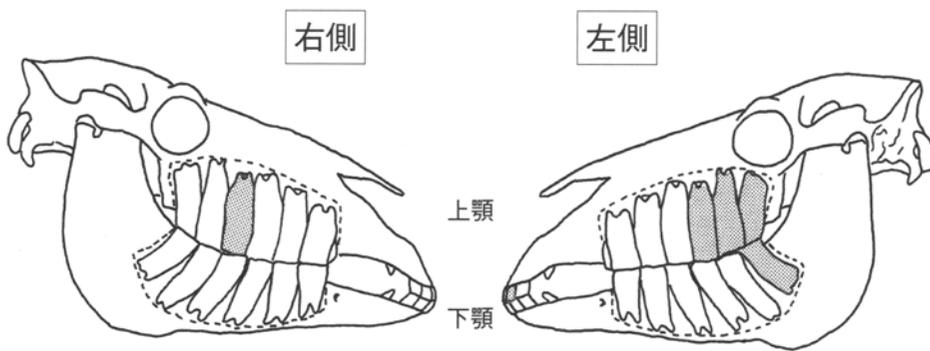


図1. 鶴光路榎橋遺跡出土馬歯残存図  
(註: 点線部分は顎骨を取り除いた状態)



写真2. 鶴光路榎橋遺跡出土牛歯

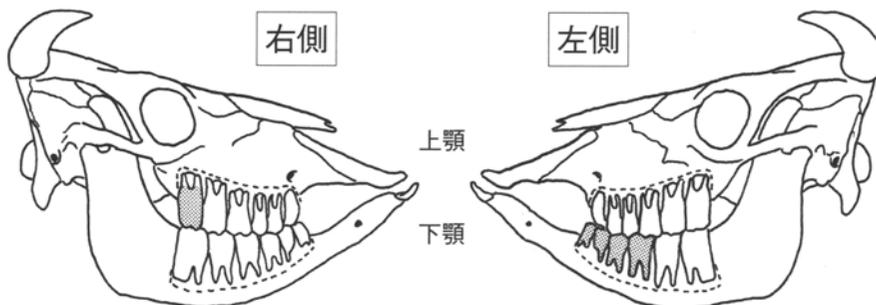


図2. 鶴光路榎橋遺跡出土牛歯残存図  
(註: 点線部分は顎骨を取り除いた状態)

## 参考文献及び引用文献

## [和文] (あいうえお順)

- 五十嵐謙吉 1998 『十二支の動物たち』、八坂書房  
 鐙方貞亮 1993 『改訂 日本古代家畜史』、有明書房  
 遠藤秀紀 2001 『アニマルサイエンス2. ウシの動物学』、東京大学出版会  
 大森司紀之 1993 『十二齒考』、医歯薬出版  
 大森司紀之 1998 『哺乳類の生物学：2. 形態』、東京大学出版会  
 加藤嘉太郎 1993 『家畜比較解剖図説・上巻』、養賢堂  
 金子浩昌・小西正泰・佐々木清光・千葉徳爾 1992 『日本史のなかの動物事典』、東京堂出版  
 加茂儀一 1973 『家畜文化史』、法政大学出版局  
 久保和士・松井 章 1999 『家畜その2：ウマ・ウシ』、  
 『考古学と動物学』(西本豊弘・松井 章編)、同成社  
 クラットン=ブロック,J. (増井光子監修・増井久代訳) 1989  
 『図説動物文化史事典』原書房  
 クラットン=ブロック,J. (桜井清彦監訳・清水雄次郎訳) 1997  
 『馬と人の文化史』、東洋書林  
 後藤仁敏・大森司紀之編 1986 『歯の比較解剖学』、医歯薬出版  
 小西正泰監修・阿部 禎著 1994 『干支の動物誌』、技報堂出版  
 近藤誠司 2001 『アニマルサイエンス1.ウマの動物学』、東京大学出版会  
 佐原 真 1993 『騎馬民族は来なかった』、日本放送出版会  
 芝田清吾 1969 『日本古代家畜史の研究』、学術書出版会  
 正田陽一 1983 『家畜という名の動物たち』、中央公論社  
 正田陽一編著 1987 『人間がつくった動物たち』、東京書籍  
 シンプソン,G.G. (長谷川善和監修、原田俊治訳) 1989 『馬と進化』、どうぶつ社  
 田名部雄一 1995 『家畜と人間の歴史』、『講座文明と環境：8. 動物と文明』(河合雅雄・埴原和郎編)、朝倉書店、p.186-204.  
 樽野博幸 1986 『けもの歯』、大阪市立自然史博物館  
 直良信夫 1984 『日本馬の考古学的研究』、校倉書房  
 中村禎里 1987 『日本動物民俗誌』、海鳴社  
 日本中央競馬界競走馬総合研究所編 1986 『馬の科学』、講談社  
 日高敏隆監修 1996 『日本動物大百科：2.哺乳類II』、平凡社  
 ラッカム,ジェイムズ 1997 『動物の考古学』(本郷一美訳)、学藝書林

## [英文] (ABC順)

- CHAPLIN, R.E. 1971 *"The Study of Animal Bones from Archaeological Sites"*, Seminar Press  
 CORNWALL, I.W. 1974 *"Bones for the Archaeologist"*, J.M. Dent & Sons  
 GILBERT, B. Miles 1980 *"Mammalian Osteology"*, Modern Printing  
 HESSE, Brian & WAPNISH, Paula 1985 *"Animal Bone Archaeology"*, Taraxacum  
 HILLSON, Simon 1986 *"Teeth"*, Cambridge University Press  
 OLSEN, Stanley J. 1973 *"Mammal Remains from Archaeological Sites"*, Harvard University Press  
 PEYER, Bernhard 1968 *"Comparative Odontology"*, The University of Chicago Press  
 REITZ, Elizabeth J. & WING, Elizabeth S. 1999 *"Zoo archaeology"*, Cambridge University Press  
 SCHMID, Elisabeth 1972 *"Atlas of Animal Bones"*, Elsevier Publishing  
 Von Den DRIESCH, Angela 1976 *"A Guide to the Measurement of Animal Bones from Archaeological Sites"*, Harvard University

### 第3節 出土木製品の樹種について

土橋まり子

#### (1) 鶴光路榎橋遺跡出土木製品

本遺跡では2ヶ所から木製品が出土している。B6号土坑の底部に近い所から出土した下駄と、14号掘立柱建物から出土した杭である。

#### (2) 樹種同定の方法

プレパラート作成は群馬県埋蔵文化財調査事業団において行われた。樹種同定は、これらの標本を光学顕微鏡下で40～200倍の倍率で観察し、現生標本との比較により行われた。以下に標本の同定結果とその根拠を述べる。

下表にその結果を示した。

クリ ブナ科

環孔材で 孔圏部導管が目立って大きく、チロースがつまっている。年輪境界に沿って大道管がほぼ連続的に並び 孔圏外の小道管は火炎状に配列している。放射組織は平伏細胞のみから成る同性放射組織である。

単列、1～15細胞高の放射組織が板目面に平均している。

マツ科

仮導管、放射柔組織、放射仮導管と樹脂道から成る針葉樹である。早材から晩材への移行がゆるやかで、大きめの垂直樹脂道が早材晩材部に散在する。本標本については劣化が著しいため、分野壁孔は定かでない。放射組織は多くは単列、2～7高で、より大きめの放射組織内部は劣化のため紡錘型の穴状をなし水平樹脂道の痕跡と見られる。放射仮導管内に鋸歯状肥は見あたらない。

出土木製品の樹種

遺物 No.	出土位置	製品名	樹種
B86号土坑-1	覆土	下駄	クリ
14号掘立柱建物-1	底面	杭	マツ科

## 第4節 鶴光路榎橋遺跡の土地利用

本遺跡の狭い範囲における地理的環境の最大の特徴は、端気川の右岸に立地するということである。第Ⅱ章でも述べたように、端気川は利根川の支流の一つであり、古代からその豊富な水を活かして、水田開発の灌漑用水として、この地域を潤してきた。近世にはそれに加え、江戸と前橋城下を結ぶ舟運のルートとしても機能してきた。本遺跡はこの端気川の河畔にある。

### (1) 平安時代以前の土地利用

本遺跡では、後の耕作で削平されたことを考慮しても平安時代以前の遺構数は少ない。遺跡西部の条里型の地割りを意識したA10-B11号、A11-B10号溝周辺と、東部のそれに沿わない、やや蛇行するB41号溝が確認されるのみである。西から続いてきた条里型の地割りへの意識は、本遺跡の東部では途切れている。

周辺の遺跡ではAs-B軽石下やAs-C軽石の混じった土を耕土とする水田、Hr-FA下の水田が確認されているが、本遺跡ではAs-B軽石に覆われた水田が確認された。これも遺跡西部の調査区A区で断片的に9枚が数えられたのみで、中央部及び東部では確認されなかった。端気川沿いまでは水田開発されなかった可能性がうかがえる。

### (2) 中近世の地形的要因

本遺跡の中近世の遺構の特徴としては、多くの溝が縦横に走っていることが挙げられる。しかも規模の大きい溝が多く、B17号溝にいたっては、その幅が7.4mにも及んでいる。また、こうした大型の溝は現状では道の下になることが一般的に多いといわれるが、本遺跡においてもB17号、B20号溝は市道の直下に存在していた。

溝の走向について見ると、おおよそ二つの方向に集中していることがわかる。一つはA16、A14、A13、A15、A5、A4、A3、A2、B21、B32、B28、

B36、B48、B43、B44、B47、B37、B24、B53、B73、B54、B68、B35、B5、B17溝などの、N-30°-Wの走向。もう一つはそれに垂直になるA7、A8、A13、A14、A16、B3、B4、B13、B14、B15、B16、B20、B22、B23、B25、B26、B27-B45-B72、B29、B30、B31、B33、B38、B39、B40a、B40b、B42-B50、B62、B63溝などのN-60°-Eの走向である。前者は、遺跡の東を流れる端気川の改修以前からの走向に一致するもので、後者はそれと垂直になる走向である。

本遺跡より西の遺跡から見つかる平安時代以降の遺構は、おおむね条里型の地割りを意識した区画に収まって、溝が穿たれている例が多い。しかし本遺跡においては、第Ⅲ章第1節で報告した平安時代の遺構のみが、条里型の地割りを意識した区画に収まっているのである。時代が下って中近世になると、条里型の地割りを意識した遺構はなくなり、変わって端気川の流路を意識した方向に本遺跡のすべての溝が流れるのである。

以上のことから、中近世以降本遺跡の溝は、端気川を基準とするものへ移行したものと考えられる。

### (3) 環濠屋敷

さて、本遺跡では多くの溝が確認されたが、これらの溝は並行するものと、それに直交するもので構成されている。そしてその内側に溝に囲われた空間を形作る。また、多数のピットも確認されており、本報告書で報告した以上に建物が存在していた可能性が高い。こうした溝で四方を囲むことによって、区画された遺構、すなわち環濠遺構の内部に多数のピットが存在することから、本遺跡のこれらの遺構は、環濠屋敷であったと考えられる。しかもこうした区画が連結して多数確認されることから、環濠屋敷群という様相が強い。

こうした遺構が本遺跡の周辺でも多数確認されていることは先の第Ⅱ章で触れた。これらの遺構の性格は、一部には屋敷という概念を越え、防御を目的

とする機能がより濃厚になった城になるものもある。宿阿内城、力丸城などはこうした由来を持つ城だったと考えられている。<sup>(1)</sup> 本遺跡は城が備える他の遺構などが確認されないことから、城としての性格は薄いと考えられる。しかし周囲を囲んでいる溝の規模の大きさや、調査開始前には土居の存在が確認されていたことから、それなりの防御機能をもった屋敷が存在していた可能性が高い。

本遺跡ではそうした屋敷の存在が確認されているが、それを構成する溝が多く重なり合って確認されることから、数度の作り替えが想定でき、時間的な幅を持って屋敷が存在していたと考えられる。しかし同時期に機能した遺構を洗い出し、時間上の一点における、本遺跡の景観を復元することは出来なかった。今後、時間を追って、その環濠屋敷がどのように発生し拡大したか、またその後防御を目的とした堀などが、どのように転用されていったのかを見ていくことが課題となろう。

#### (4) 絵図に見る鶴光路榎橋遺跡

次頁の写真1の絵図は、群馬県立文書館が所蔵している「壬申地券発行にかかる地引絵図」群馬県大一区小七区上野国群馬郡今宿村の内、本遺跡の部分を抜粋したものである。明治政府は明治元年に土地私有が認められたことに伴い、「地券ハ地所持主タルノ確証ニ付」<sup>(2)</sup> として土地所有権の公証を地券の交付で行うこととした。この絵図はそれを受けて1873年（明治6）に作成されたものである。これは正確に測量されたものではないため、面積や方角などは正確ではないが、長さや平面形態などはおおよその形がつかめる。図1はその絵図を、土地利用ごとに塗り分けたものである。これによると、中心を南北に通る道の東側は端気川との間で屋敷が多く、その屋敷中心部に畑が存在していることがわかる。一方西側は畑の方が水田より多いが長方形やその変形の水田が散在している。

図2は、その絵図と本遺跡の遺構とを照らし合わせて、合致すると見られる部分である。まず、B20号溝は絵図の右下を東西に流れる水路がこれに該当

すると考えられる。B17号溝は中央の南北に細長い水田とそれに並行する道、水路になる。A13号溝は絵図中央左よりのカギ型をした水田部分、A8号溝はその水田の外側を流れる水路、A7号溝はその水路の北西隅から西に延びる地境で水田と畑とを分けるものがこれにあたと想定した。明治期に及ぶ遺物がそれらの遺構から出土していることも、この傍証としてあげられよう。

明治初期においてはA13号溝やB17号溝は、半ば埋まったところで、水田として利用され、脇に水路としてその姿を留めていたようである。中世に、屋敷の環濠として成立したこれらの溝は、このころにはその当初の機能を失っていたようである。B20号溝は東進して端気川につながっていたようである。また中央部東よりの、屋敷に囲まれた畑は、本遺跡の畠状遺構と空間的な位置がおおよそ合致している。前出のAs-B軽石下で水田が確認されたところではこの時代も水田が営まれていた。

#### まとめ

本遺跡では平安時代の土地利用が現代まで残っているものは確認されなかった。しかし中世以降、環濠屋敷が造られたころからは、一つ一つの遺構の役割には変化したものがあるものの、鶴光路榎橋周辺の土地は現代まで同じような目的で使用され続けている。

#### 註

- (1) 山崎 一 1978 『群馬県古城墨址の研究』上巻
- (2) 群馬県・群馬県教育委員会 1986 『群馬県行政文書簿冊目録』第4集

#### 参考文献

- 群馬県教育委員会 1988 『群馬県の中世城館跡』  
前橋市史編さん委員会 1978 『前橋市史』一、四  
飯森康広 1999 『下植木老町田遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
飯森康広 1999 「中世後期館跡とその周辺構造」『信濃』第51巻第10号  
井野修二 2001 「前橋市前田遺跡の中世屋敷内遺構の検討」『群馬歴史民俗』第22号

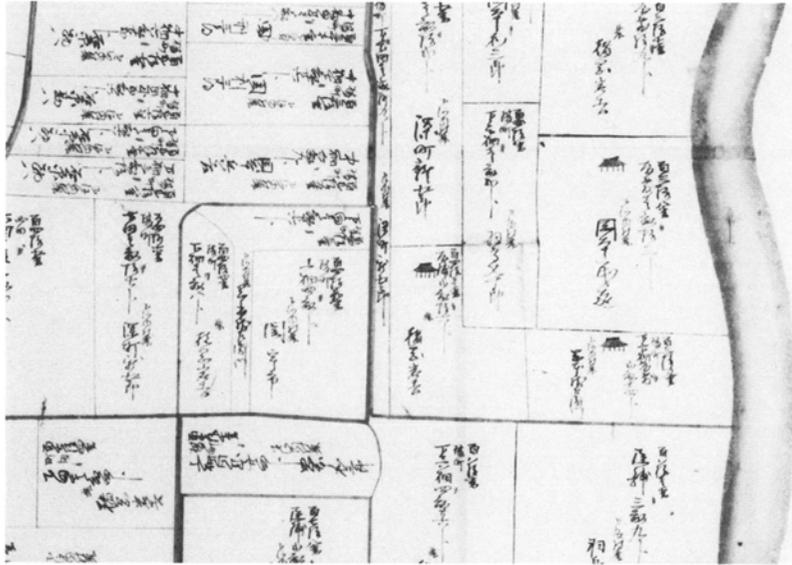


写真1  
「壬申地券発行にかかる  
地引絵図 今宿村」  
鶴光路榎橋遺跡部分  
(群馬県立文書館 蔵)

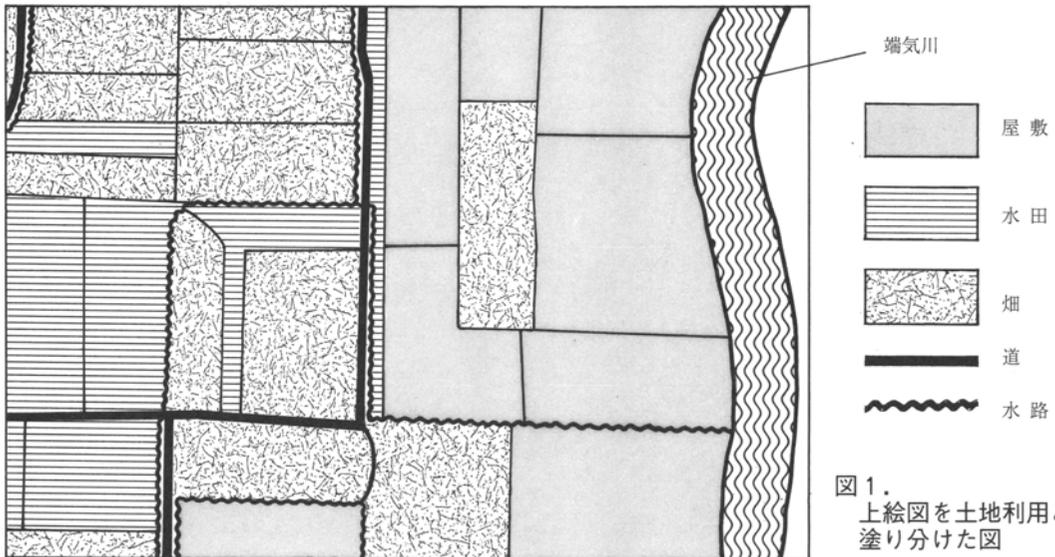


図1.  
上絵図を土地利用ごとに  
塗り分けた図

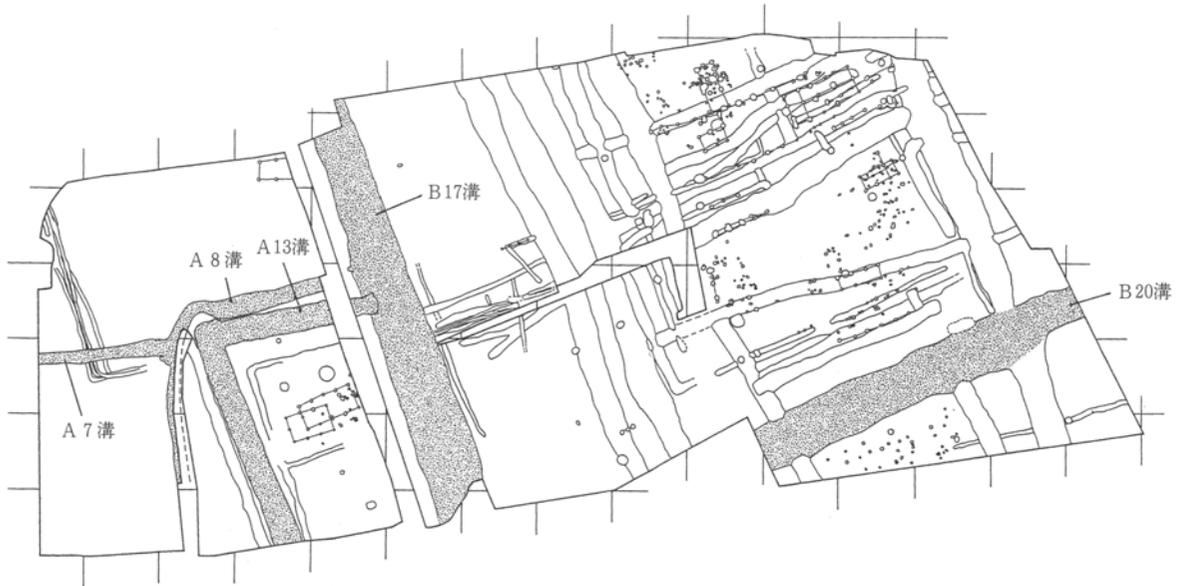


図2. 上絵図に記載されていると思われる鶴光路榎橋遺跡の遺構 (1/1,000)



# 写 真 图 版





遺跡 遠景 (東上空から)



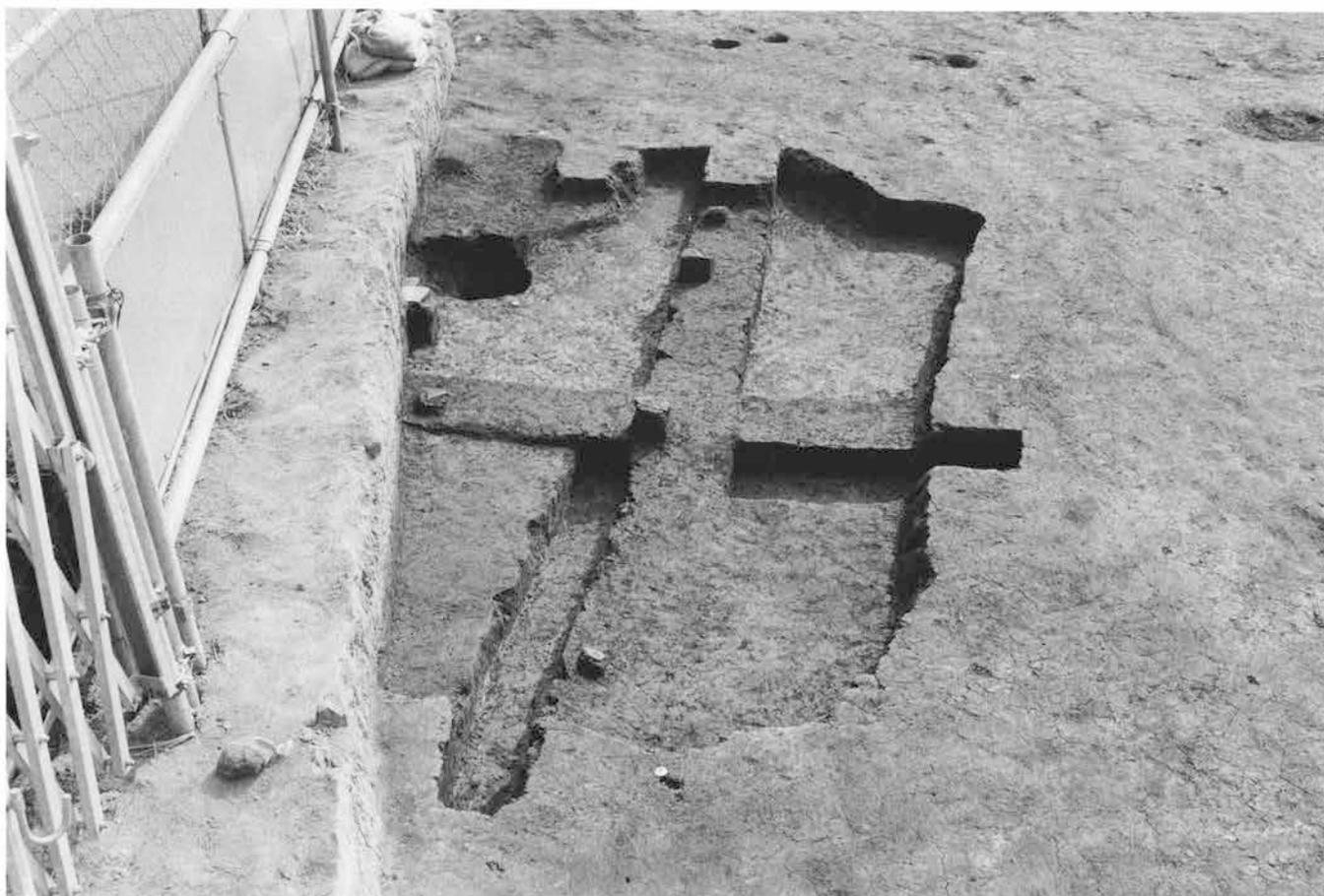
調査区 遠景 (南上空から)



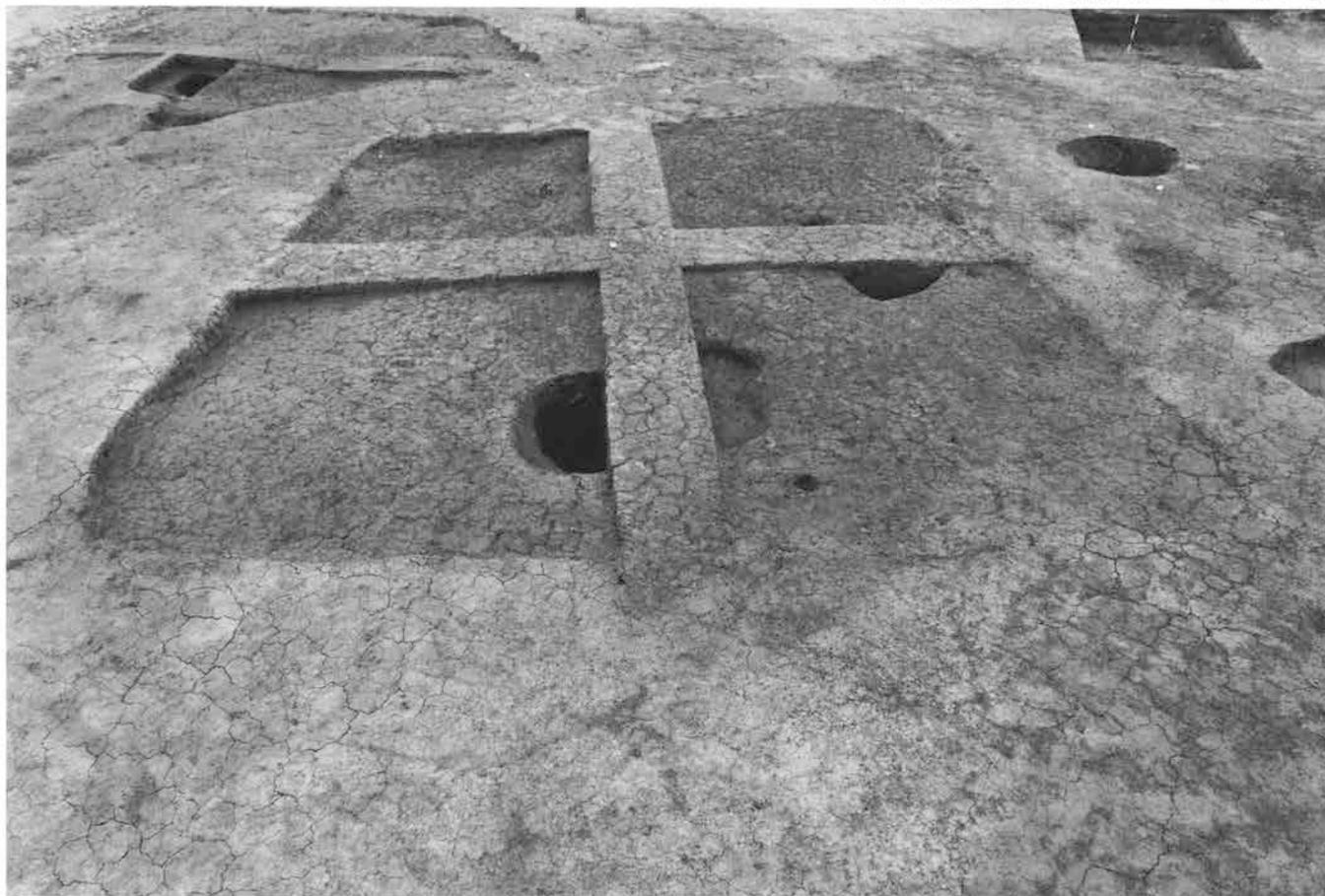
A13号溝周辺 調査風景 (北から)



B54号溝周辺 調査風景 (南から)



A1号住居 全景 (北から) 18~19ページ



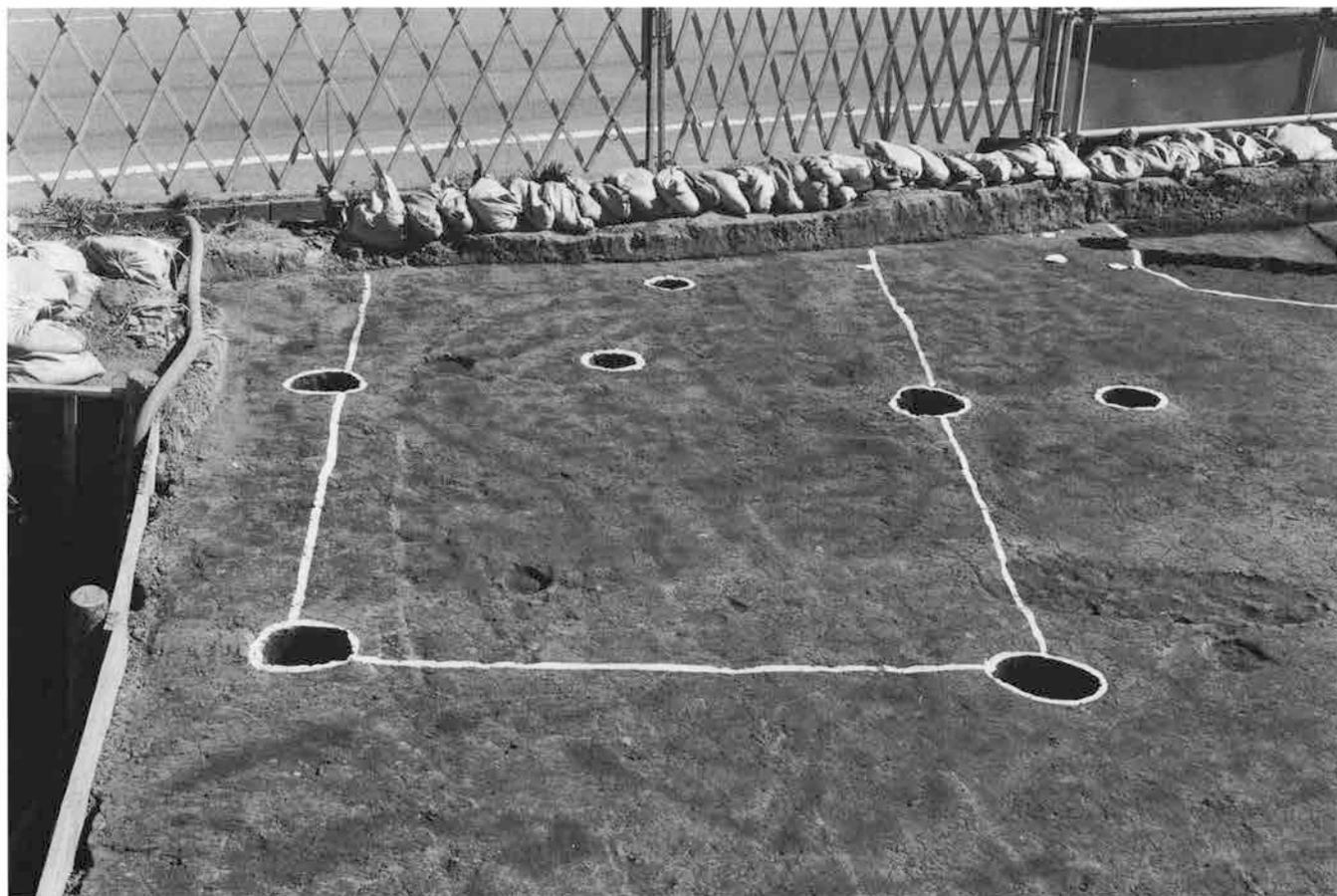
B1号住居 全景 (東から) 20ページ



A1号住居 カマド掘り方 (北から) 18ページ



B1号住居 遺物出土状況 (南から) 20ページ



1号掘立柱建物 全景 (西から) 49~50ページ



14号掘立柱建物 8号ピット 木片出土状況 (北から) 53~55ページ



2号柵列 全景 (北東から) 60~61ページ



A 1号溝 全景 (西から) 44~46ページ



A 2、A 3、A 4、A 5号溝 全景 (南から) 72~73ページ



A 4号溝耕具痕 全景 (南から) 73ページ



A 6号溝 全景 (西から) 163~164ページ



A 7号溝 全景 (西から) 74~76ページ



A 9号溝 全景 (西から) 44~46ページ



A 8号溝南半部 全景 (北から) 74~76ページ



A13号溝 全景 (南から) 74~76ページ



A10-B11、A11-B10、A12号溝 全景 (西上空から) 23~28ページ



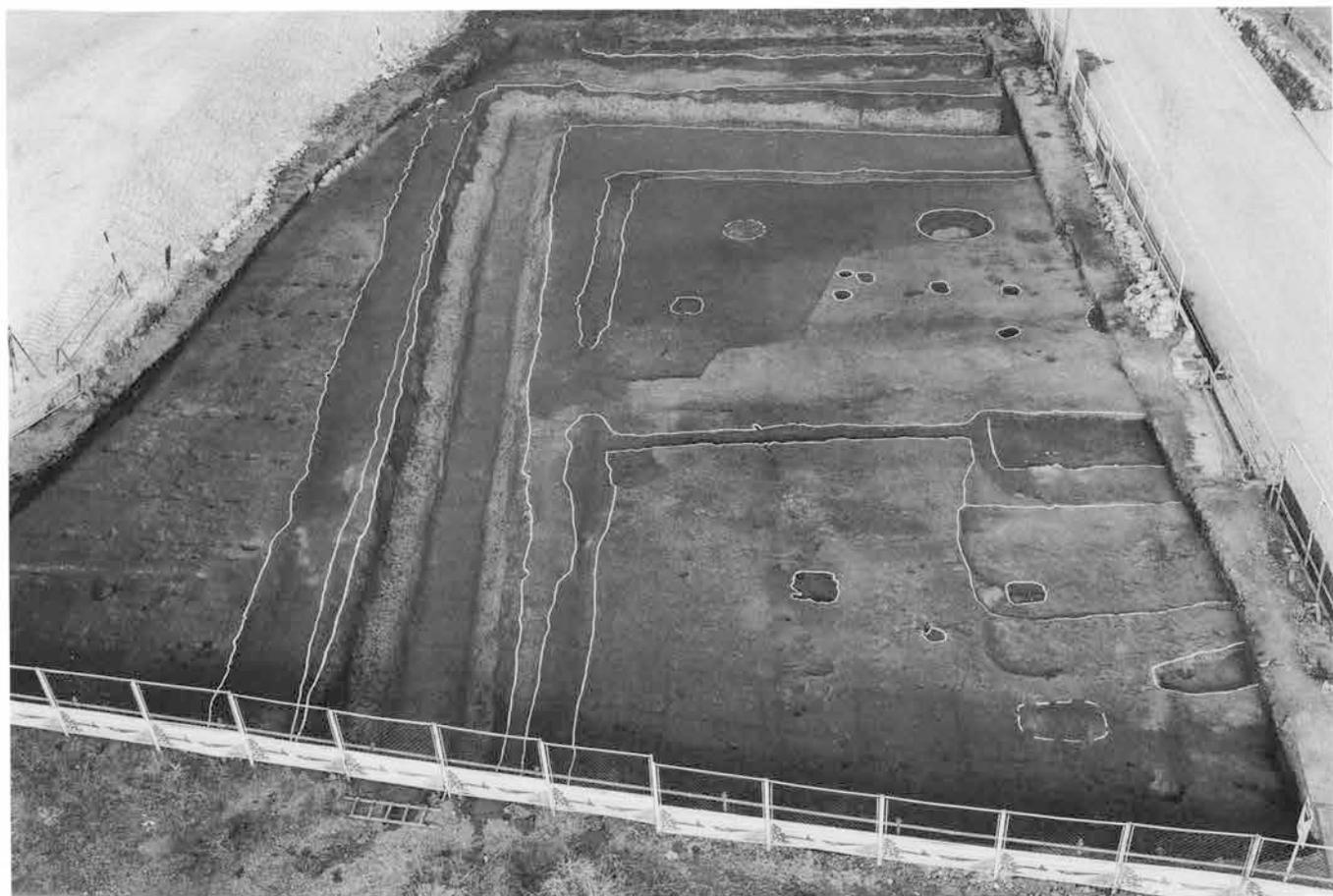
A10-B11号溝東半部 全景 (西から) 23~27ページ



A10-B11号溝 遺物出土状況 (東から) 24ページ



A11-B10号溝 遺物出土状況 (北から) 24ページ



A13、A14、A15、A16号溝 全景 (南から) 74~76ページ



A14、A16号溝 全景 (南から) 74~76ページ



A15号溝 全景 (南から) 74~76ページ



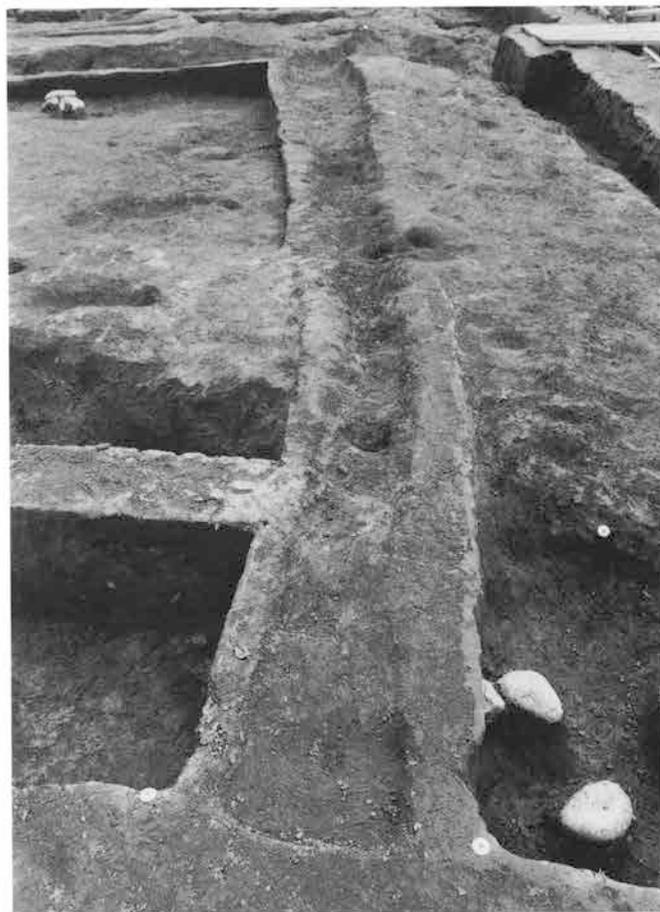
B2号溝 全景 (北から) 21ページ



B3号溝 遺物出土状況 (西から) 77ページ



B 4、B12、B13、B14、B15、B16号溝 全景（東から） 78～79ページ



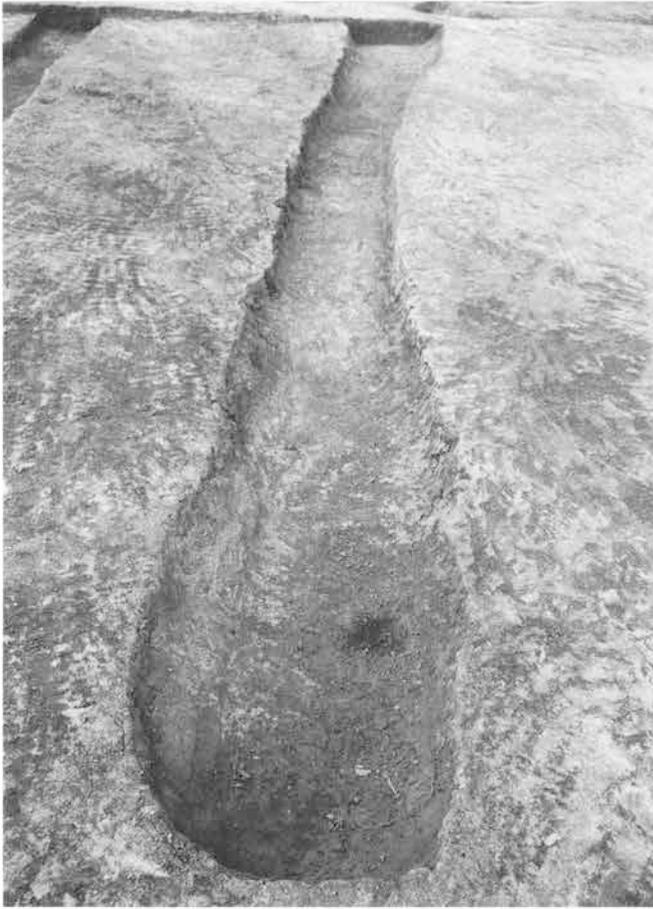
B 5号溝 全景（北から） 80ページ



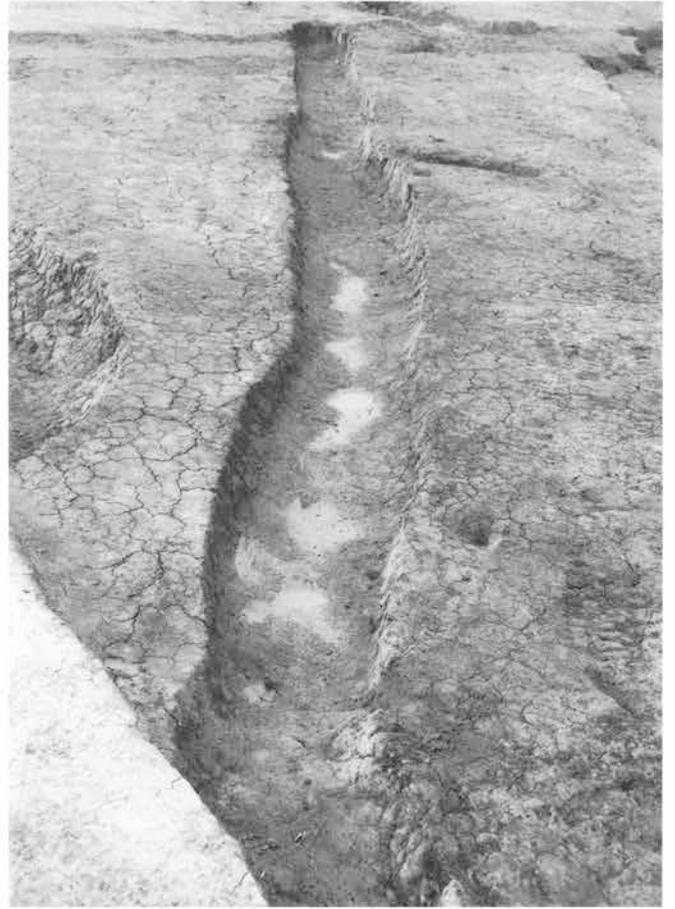
B 6号溝 全景（北西から） 80～81ページ



B 7号溝 遺物出土状況（南から） 21～23ページ



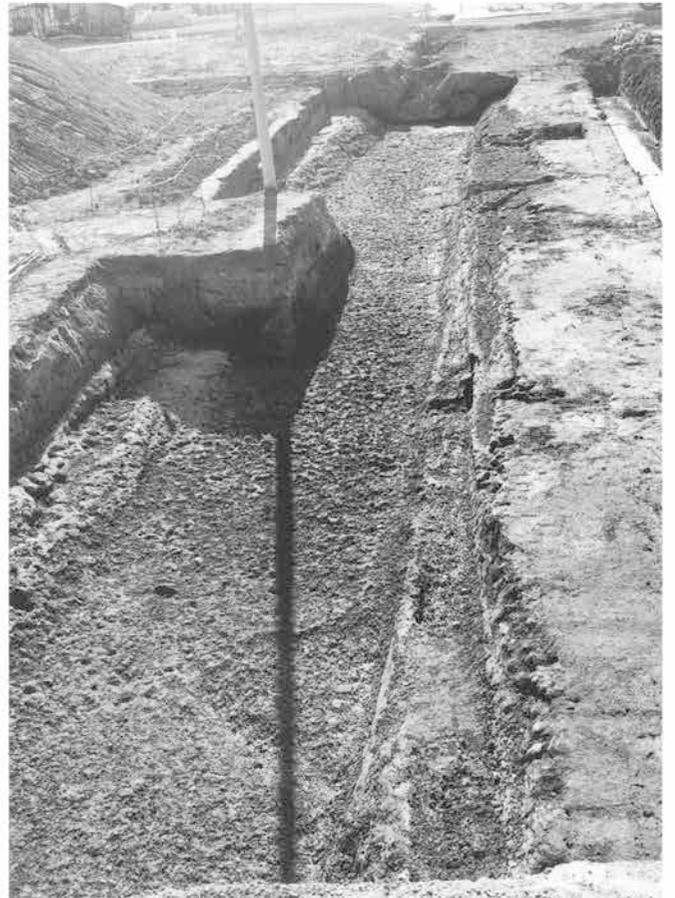
B 8 号溝 全景 (南から) 22ページ



B 9 号溝 全景 (南から) 22~23ページ



B12号溝 全景 (南から) 78~79ページ



B17号溝 全景 (南から) 81~86ページ



B20号溝 全景 (西から) 86~87ページ



B21号溝 全景 (北から) 86・88~95ページ



B21号溝 遺物出土状況 (南から) 89ページ



B24号溝 全景 (北から) 97ページ



B22号溝 全景 (西から) 95~96ページ



B25号溝 全景 (西から) 98~99ページ



B26号溝 全景 (東から) 100~102ページ



B29、B30号溝 全景 (西から) 100~104ページ



B28号溝 全景 (北から) 107~108ページ



B27-B45-B72号溝 全景 (西から) 104~107ページ



B27-B45-B72号溝 全景 (東から) 104~107ページ



B31号溝 全景 (西から) 100~104ページ



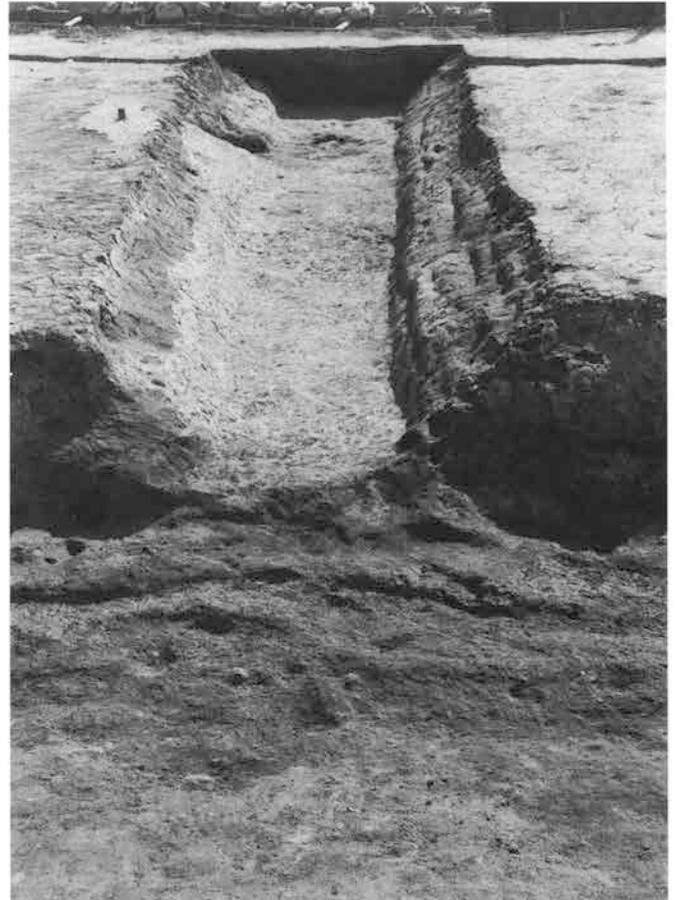
B32号溝 全景 (南から) 108ページ



B35号溝 全景 (北から) 109~111ページ



B37号溝 全景 (南から) 111~113ページ



B36号溝 全景 (北から) 111ページ



B38号溝 全景 (東から) 113ページ



B40 a号溝 全景 (西から) 117~120ページ



B39号溝 全景 (西から) 114~116ページ



B41号溝 全景 (東から) 28~33ページ



B40 b号溝 全景 (西から) 98~99ページ



B42-B50、B51号溝 全景 (西から) 114~116ページ



B43号溝 全景 (北から) 114~116ページ



B48号溝 全景 (北から) 114~117ページ



B44号溝 全景 (南から) 120ページ



B53号溝 全景 (北から) 121~122ページ



B49号溝 全景 (西から) 117~120ページ



B54号溝 全景 (南から) 122~124ページ



B54号溝 橋脚ピット (南から) 123ページ



B57号溝 全景 (東から) 164・166~167ページ



B56号溝 全景 (東から) 164・166ページ



B57号溝 石組 (南から) 166ページ



B58号溝 全景 (東から) 165~166ページ



B60号溝 全景 (南から) 125ページ



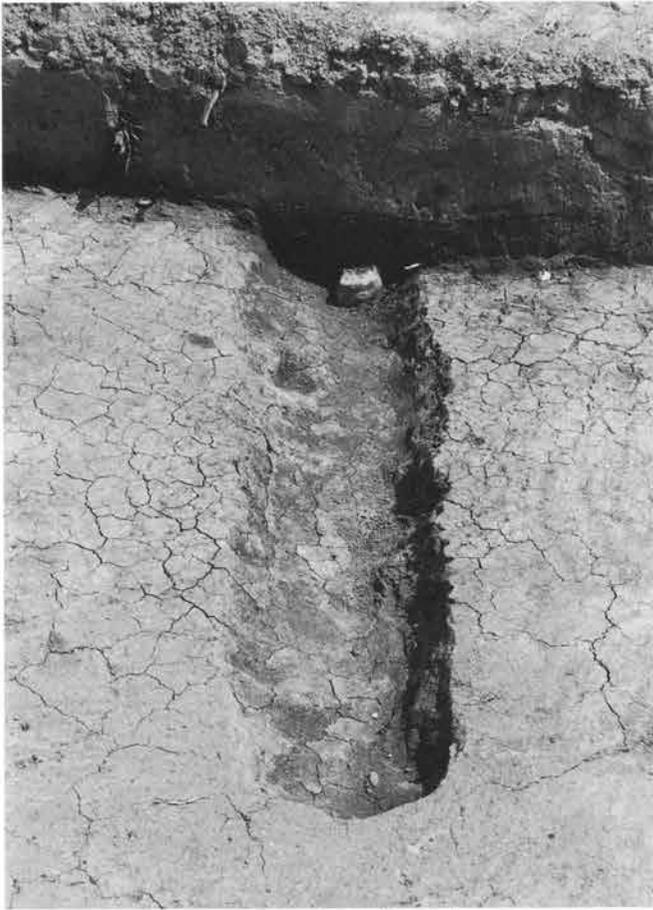
B61号溝 全景 (南から) 125~126ページ



B62号溝 全景 (西から) 126~127ページ



B63号溝 全景 (西から) 126~127ページ



B64号溝 全景 (北から) 165~166ページ



B68号溝 全景 (南から) 100~101ページ



B70号溝 全景 (北から) 165~166ページ



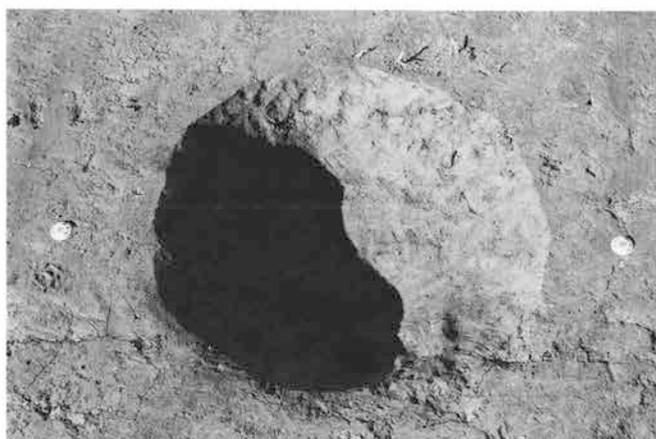
B69号溝 全景 (東から) 165~166ページ



B73号溝 全景 (北から) 127~128ページ



A 5号土坑 全景 (南から) 128ページ



A 12号土坑 全景 (南から) 128ページ



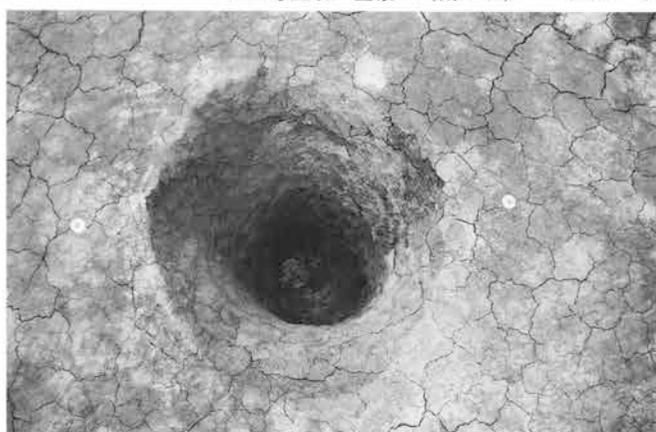
A 13号土坑 木片出土状況 (南から) 129ページ



A 14号土坑 全景 (南から) 129ページ



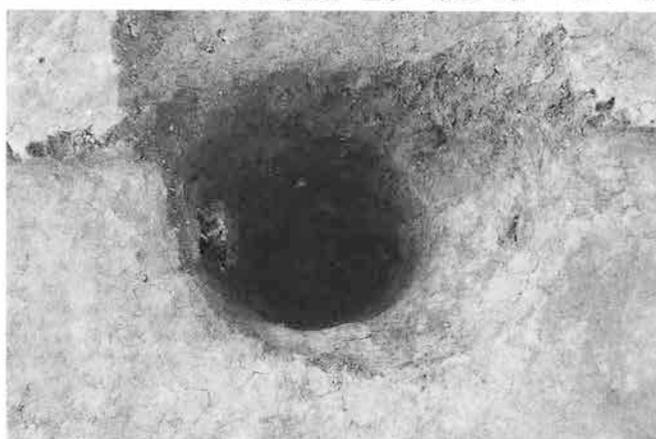
B 2号土坑 全景 (南から) 34ページ



B 6号土坑 全景 (南から) 34ページ



B 8号土坑 遺物出土状況 (南西から) 34~36ページ



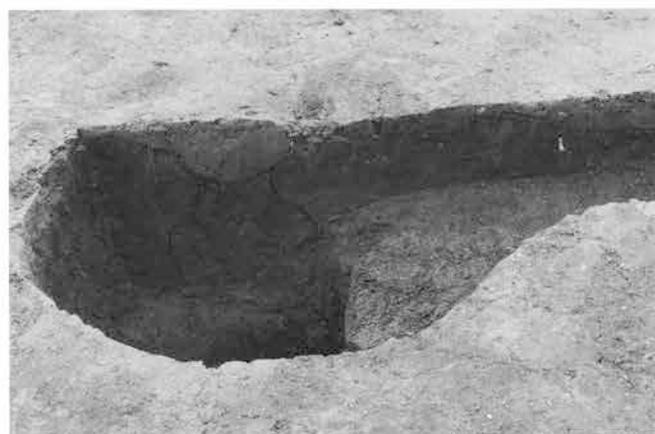
B 9号土坑 全景 (南から) 36ページ



B11号土坑 遺物出土状況 (南西から) 36~39ページ



B12号土坑 全景 (東から) 129ページ



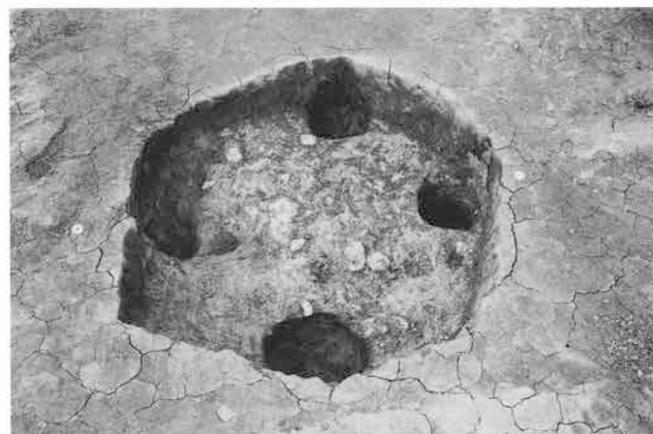
B13号土坑 セクション (東から) 39ページ



B16号土坑 全景 (北西から) 40ページ



B18号土坑 全景 (西から) 40ページ



B19号土坑 全景 (南から) 129~130ページ



B20号土坑 礫出土状況 (北から) 130~131ページ



B22号土坑 礫出土状況 (北から) 40ページ



B24号土坑 全景 (南から) 131ページ



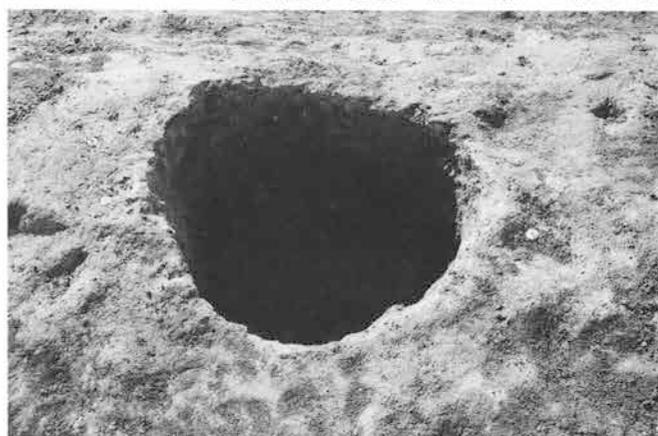
B35号土坑 全景 (南から) 132ページ



B29号土坑 全景 (北から) 132ページ



B37号土坑 全景 (南から) 133ページ



B39号土坑 全景 (北から) 133~134ページ



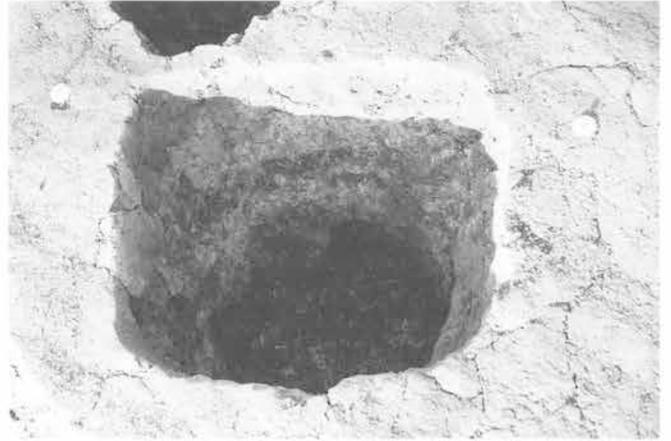
B41号土坑 全景 (北から) 134ページ



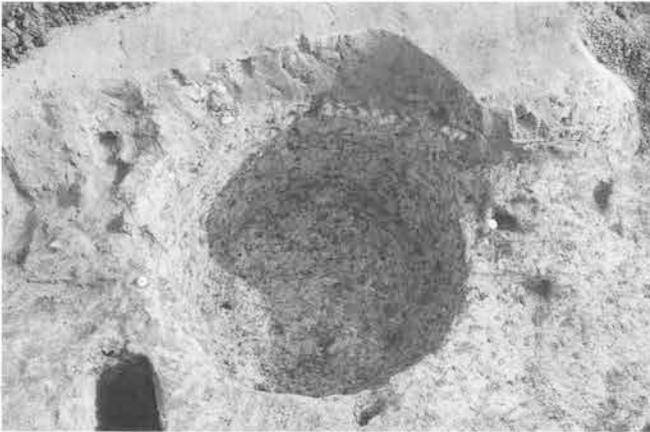
B42号土坑 全景 (西から) 134ページ



B46号土坑 全景 (東から) 135ページ



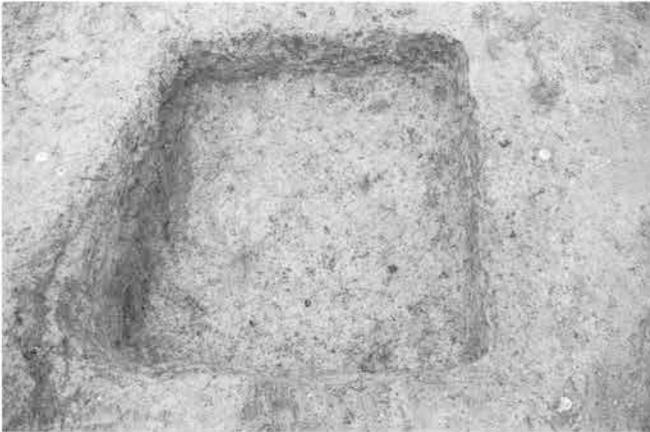
B48号土坑 全景 (南から) 135ページ



B50号土坑 全景 (西から) 135ページ



B51号土坑 全景 (東から) 135~136ページ



B52号土坑 全景 (南から) 136ページ



B53号土坑 全景 (南から) 136ページ



B54号土坑 セクション (南から) 136ページ



B55号土坑 全景 (南から) 41ページ



B60号土坑 全景 (北から) 41ページ



B76号土坑 全景 (南から) 137ページ



B86号土坑 遺物出土状況 (北から) 137~138ページ



B88号土坑 全景 (西から) 139ページ



B85号土坑 全景 (東から) 137ページ



B87号土坑 全景 (西から) 138~139ページ



A2号井戸 全景 (南から) 141ページ



A 1号井戸 全景 (南から) 140~141ページ



B 1号井戸 全景 (西から) 41~42ページ



B 2号井戸 全景 (西から) 141~142ページ



B 3号井戸 セクション (北から) 142~143ページ



B 4号井戸 全景 (北から) 143ページ



B 5号井戸 全景 (南から) 144ページ



B 6号井戸 全景 (南から) 144ページ



B 7号井戸 全景 (東から) 145ページ



B 6号井戸 馬歯出土状況 (南から) 144ページ



B11号井戸 全景 (南から) 145ページ



B 1号土坑墓 全景 (東から) 145~146ページ



畠状遺構 (西から) 168ページ



B 1号土坑墓 遺物出土状況 (東から) 146ページ



島状遺構 (東から) 168ページ



As-B下水田 全景 (西上空から) 42~46ページ



A 1 住居-1



A 1 住居-2



A 1 住居-3



A 1 住居-4



A 1 住居-5



A 1 住居-6



A 1 住居-7



A 1 住居-8



A 1 住居-9  
18~19ページ



B 1 住居-1



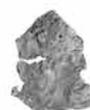
B 1 住居-2



B 1 住居-3



B 1 住居-4



B 1 住居-5  
20ページ



B 7 溝-1  
21~23ページ



B 9 溝-1  
22~23ページ



A10-B11 溝-1



A10-B11 溝-2



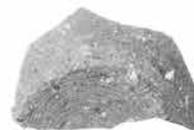
A10-B11 溝-3



A10-B11 溝-4



A10-B11 溝-5



A10-B11 溝-6



A10-B11 溝-7



A10-B11 溝-8



A10-B11 溝-9



A10-B11 溝-13



A10-B11 溝-10



A10-B11 溝-11



A10-B11 溝-12



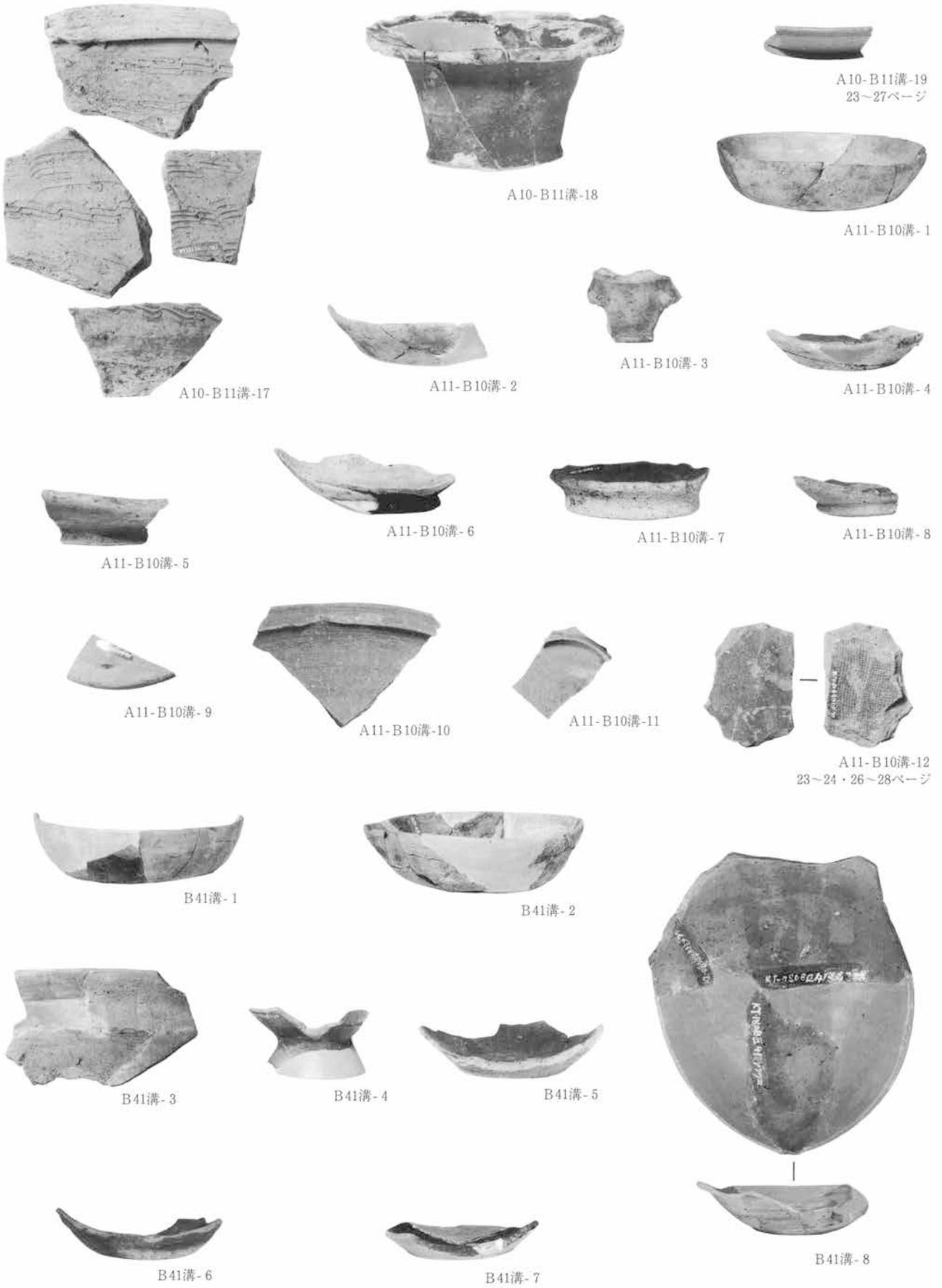
A10-B11 溝-15



A10-B11 溝-16



A10-B11 溝-14



A10-B11、A11-B10、B41号溝出土遺物



B41溝-9



B41溝-9(内)



B41溝-9(外)



B41溝-10



B41溝-11



B41溝-12



B41溝-13



B41溝-14



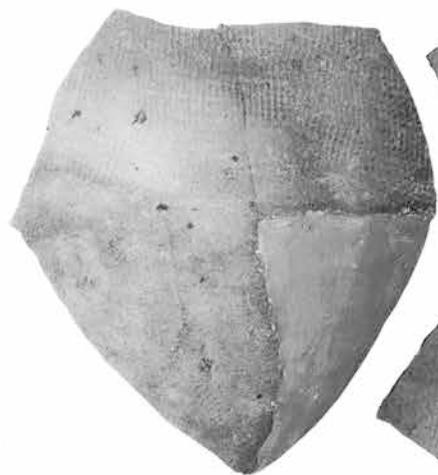
B41溝-15



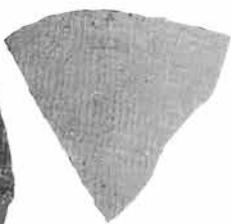
B41溝-16



B41溝-17



B41溝-18



B41溝-19



B41溝-20



B41溝-21



B41溝-22



B41溝-23



B41溝-24



B41溝-25



B41溝-27



B41溝-26



B41溝-28



B41溝-29  
28~33ページ



B 6 土坑-1  
34ページ



B 8 土坑-1



B 8 土坑-2



B 8 土坑-3



B 8 土坑-4



B 8 土坑-5



B 8 土坑-6



B 8 土坑-7  
34~36ページ



B 9 土坑-1  
36ページ



B11土坑-1



B11土坑-2



B11土坑-3



B11土坑-4



B11土坑-5



B11土坑-6



B11土坑-7



B11土坑-8



B11土坑-9



B11土坑-10



B11土坑-11



B11土坑-12



B11土坑-13



B11土坑-14



B11土坑-15



B11土坑-16



B11土坑-17



B11土坑-18  
36~39ページ



B1井戸-1



B1井戸-2



B1井戸-3  
41~42ページ



14掘立-1  
53~55ページ



1掘立-1  
49~50ページ



15掘立-1  
55~56ページ



17掘立-1  
57~58ページ



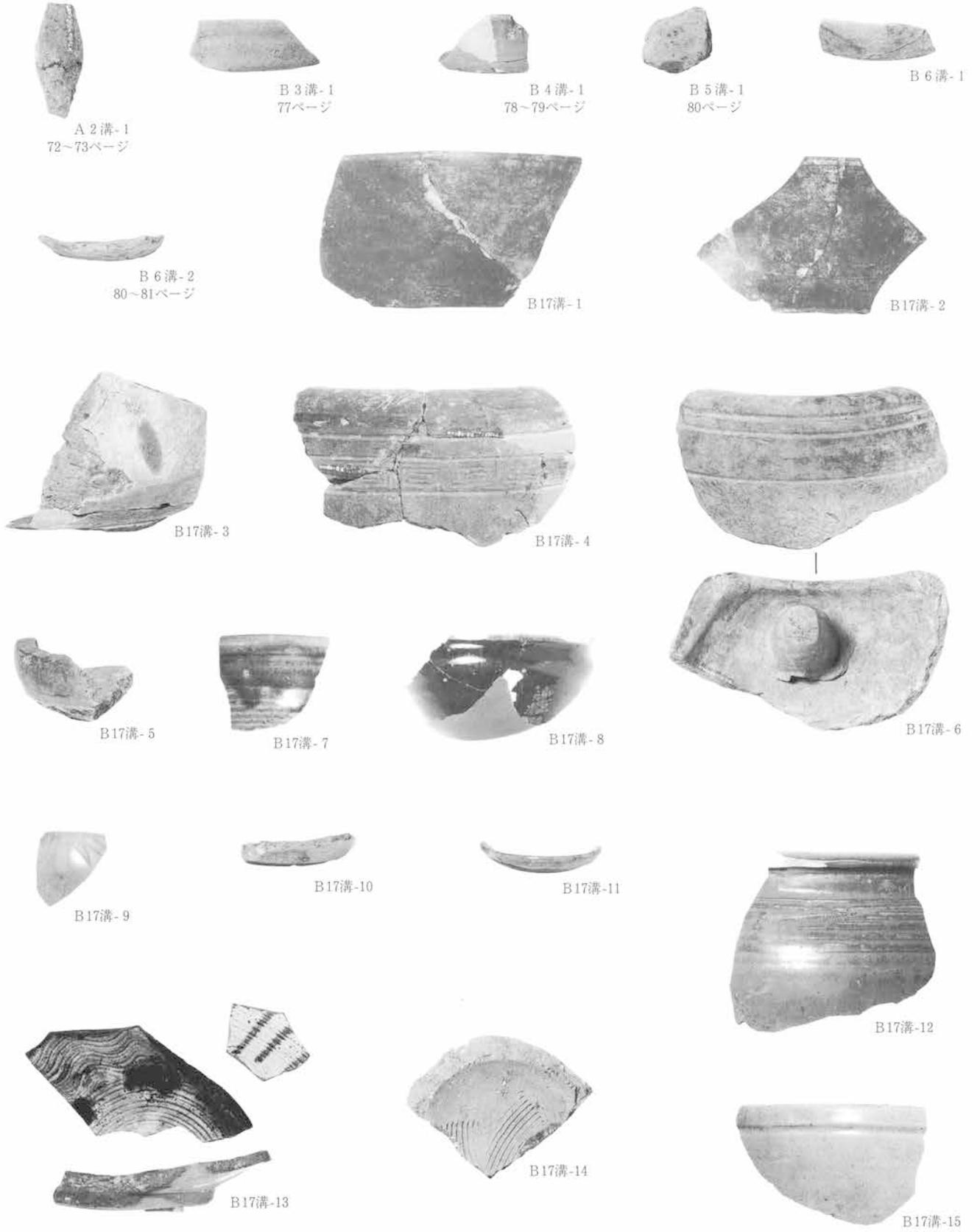
12柵列-1



12柵列-2  
63~64ページ



14柵列-1  
65ページ



A 2、B 3、B 4、B 5、B 6、B 17号溝出土遺物



B17溝-16



B17溝-17



B17溝-18



B17溝-19



B17溝-20



B17溝-21



B17溝-22  
81~86ページ



B21溝-1



B21溝-2



B21溝-3



B21溝-4



B21溝-5



B21溝-6



B21溝-7



B21溝-8



B21溝-9



B21溝-10



B21溝-11



B21溝-12



B21溝-13



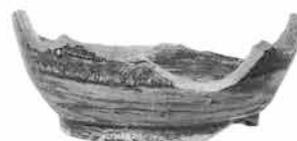
B21溝-14



B21溝-15



B21溝-16



B21溝-19



B21溝-17



B21溝-18



B21溝-20



B21溝-21



B21溝-22



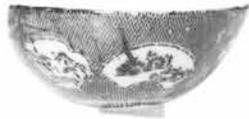
B21溝-23



B21溝-24



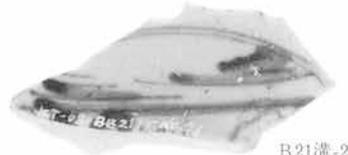
B21溝-25



B21溝-26



B21溝-27



B21溝-28



B21溝-29



B21溝-30



B21溝-31



B21溝-32



B21溝-33



B21溝-34



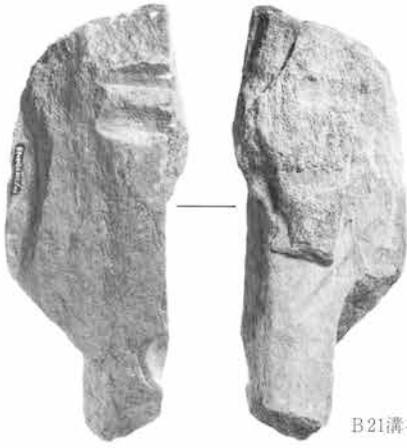
B21溝-35



B21溝-36



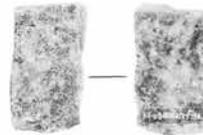
B21溝-37



B21溝-38



B21溝-39



B21溝-40



B21溝-41



B21溝-42

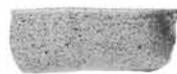


B21溝-43

86・88～95ページ



B22溝-1



B22溝-2



B22溝-3



B22溝-4



B22溝-5



B22溝-6  
95~96ページ



B25溝-1



B25溝-2



B25溝-3  
98~99ページ



B26溝-1



B26溝-2



B26溝-3  
100~102ページ



B27-B45-B72溝-1



B27-B45-B72溝-2



B27-B45-B72溝-3



B27-B45-B72溝-4



B27-B45-B72溝-5



B27-B45-B72溝-6



B27-B45-B72溝-7



B27-B45-B72溝-8



B27-B45-B72溝-9



B27-B45-B72溝-10



B27-B45-B72溝-11



B27-B45-B72溝-12



B27-B45-B72溝-13



B27-B45-B72溝-14



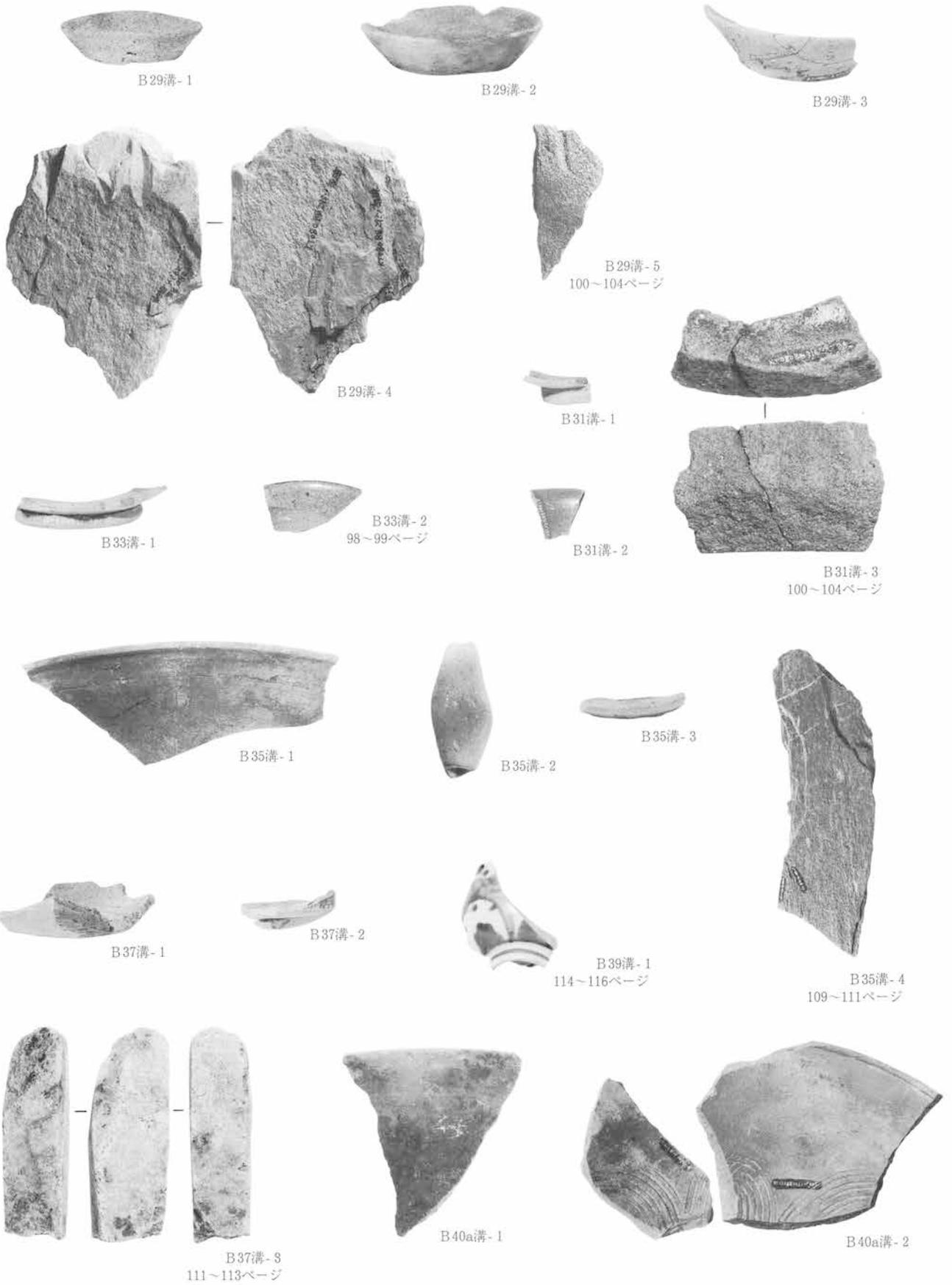
B27-B45-B72溝-15



B27-B45-B72溝-16



B27-B45-B72溝-17  
104~107ページ



B29、B31、B33、B35、B37、B39、B40a号溝出土遺物



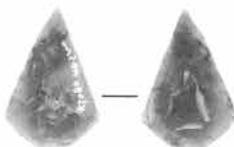
B40a溝-3



B40a溝-4



B40a溝-5



B40a溝-6  
117~120ページ



B42-B50溝-1



B42-B50溝-2  
114~116ページ



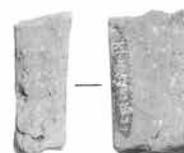
B43溝-1  
114~116ページ



B48溝-1



B48溝-2



B48溝-3  
114~117ページ



B49溝-1  
117~120ページ



B53溝-1  
121~122ページ



B54溝-1



B54溝-2



B54溝-3



B54溝-4



B54溝-5



B54溝-7



B54溝-8  
122~124ページ



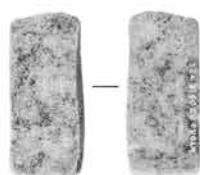
B54溝-6



B19土坑-1  
129~130ページ



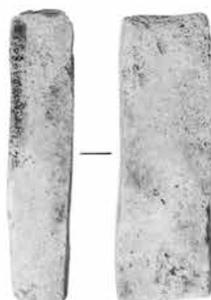
B63溝-1



B63溝-2  
126~127ページ



B20土坑-1



B20土坑-4



B20土坑-5  
130~131ページ



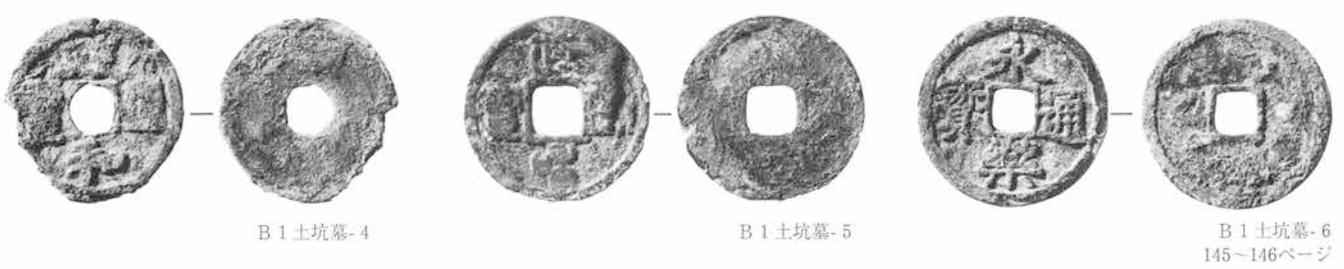
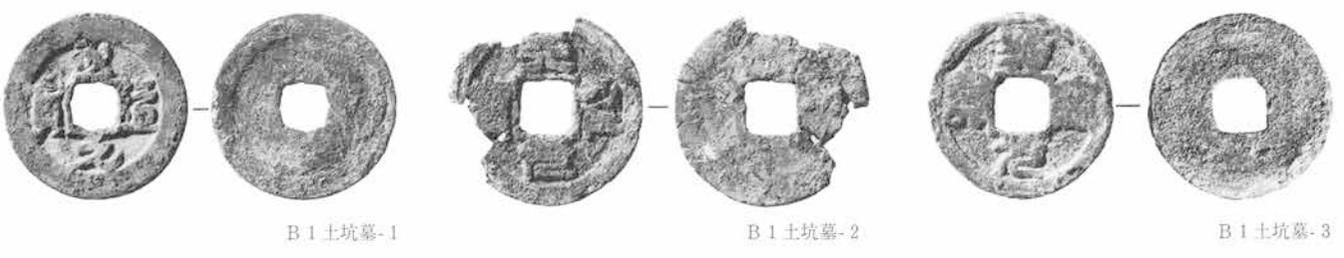
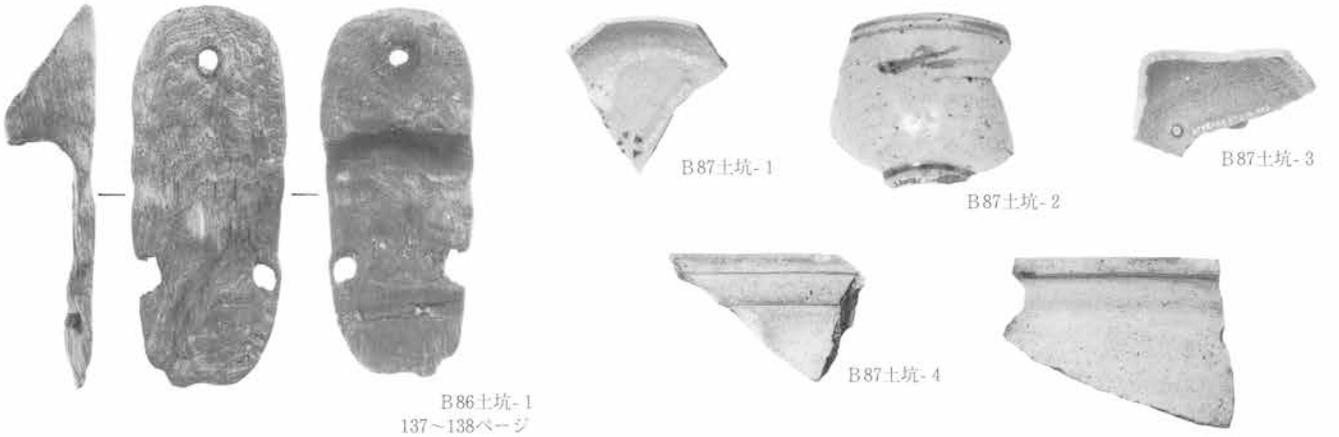
B20土坑-2



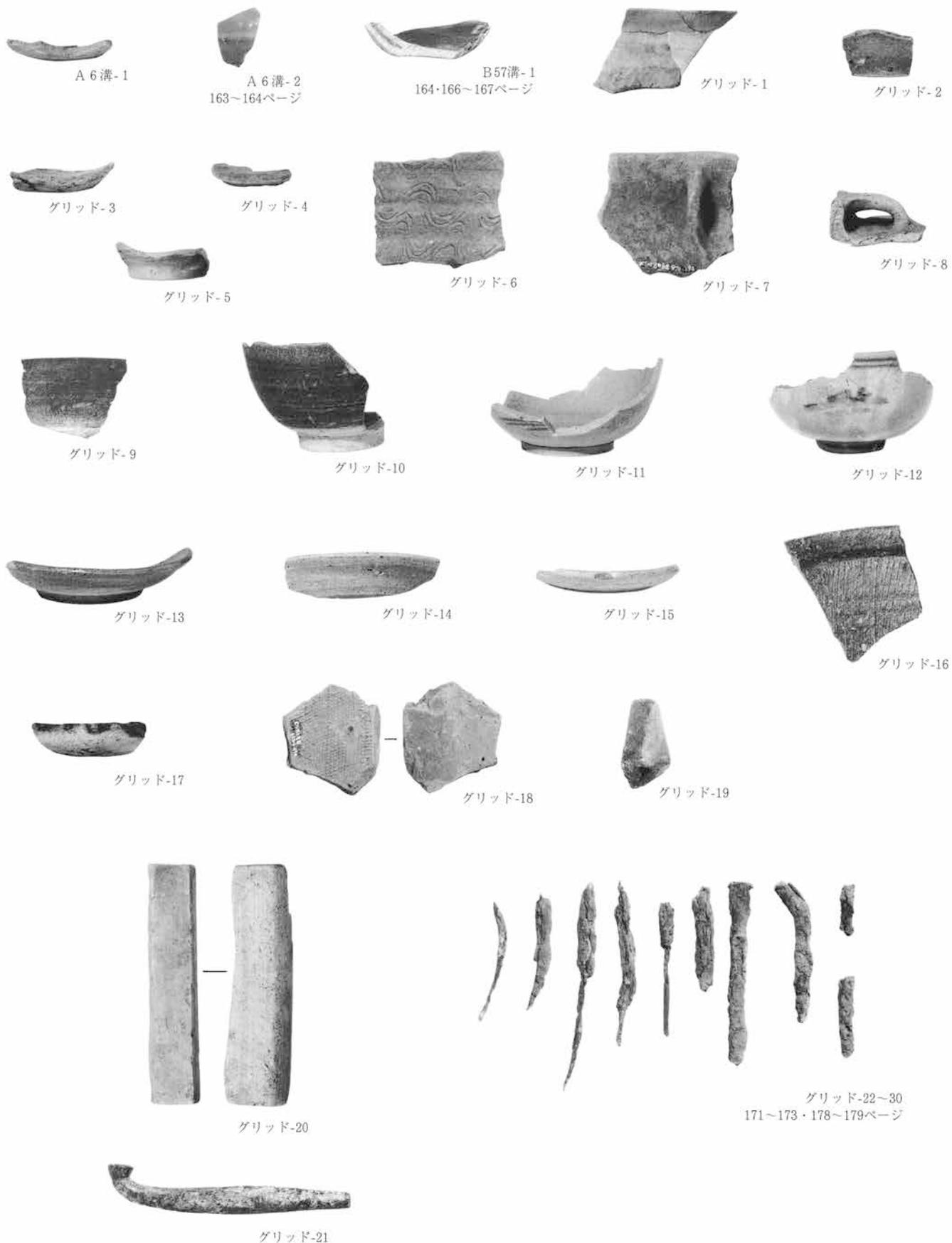
B20土坑-3



B39土坑-1  
133~134ページ



B86、B87号土坑、A1、B2、B3、B6井戸、B1号土坑墓、551、714号ピット出土遺物



A 6、B57号溝、グリッド出土遺物



遺構外-1



遺構外-2



遺構外-3



遺構外-4



遺構外-5



遺構外-6



遺構外-7



遺構外-8



遺構外-9



遺構外-10



遺構外-11



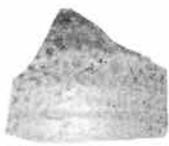
遺構外-12



遺構外-13



遺構外-14



遺構外-15



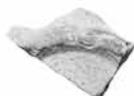
遺構外-16



遺構外-17



遺構外-18



遺構外-19



遺構外-20



遺構外-21



遺構外-22



遺構外-23



遺構外-24



遺構外-25



遺構外-26



遺構外-27



遺構外-28



遺構外-29



遺構外-30



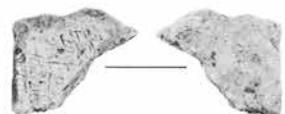
遺構外-31



遺構外-32



遺構外-33



遺構外-34



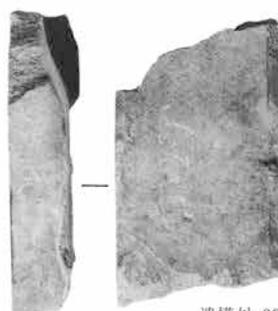
遺構外-35



遺構外-36



遺構外-37



遺構外-38



遺構外-39



遺構外-40



遺構外-41



遺構外-42



遺構外-43



遺構外-44



遺構外-45



遺構外-46

171~172・174~177・179~181ページ

## 報 告 書 抄 録

フリガナ	つるこうじえのきばしいせき
書名	鶴光路榎橋遺跡
副書名	北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第13集
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第294集
編著者名	長沼 孝則
編集機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
編集機関所在地	〒377-8555 群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784-2 TEL 0279 (52) 2511
発行年月日	2002年3月26日

フリガナ 所収遺物名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
つるこうじえのきばし 鶴光路榎橋	ぐんまけんまえはしし 群馬県前橋市 つるこうじまち 鶴光路町	10201		36° 19' 50"	139° 06' 15"	19971001～ 19971130 19980901～ 19990731	8,500	北関東自動車 道建設工事に 伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鶴光路榎橋	集落跡 水田跡	近世以降	掘立柱建物、溝、土坑、 畠状遺構	陶磁器	中世から近世、近代に 及ぶ環濠遺構群
		中近世	掘立柱建物、柵列、溝、 土坑、井戸跡、土坑墓	陶磁器・板碑・銭貨・ 人骨・獣骨	
		平安末期	水田	なし	
		平安以前	竪穴住居、掘立柱建物、 溝、土坑、井戸跡	土師器・須恵器・灰 釉陶器・獣骨	



財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書294集

## 鶴光路榎橋遺跡

北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域  
埋蔵文化財発掘調査報告書第13集

平成14年（2002年）3月25日 印 刷  
平成14年（2002年）3月26日 発 行

編集／発行 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
〒377-8555 勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2  
電話 0279（52）2511（代表）

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／松本印刷工業株式会社